

守口市

子どもの生活に関する実態調査

令和6年3月

守口市

調査研究業務 受注者

公立大学法人大阪 大阪公立大学



# 目次

はじめに .....	2
I 調査概要 .....	3
1. 調査の目的 .....	3
2. 調査方法 .....	3
3. 調査内容 .....	3
4. 調査対象者 .....	3
5. 調査実施日 .....	3
6. 調査配布・回収率(数) .....	3
7. 調査実施主体 .....	5
8. 研究者一覧 .....	5
9. 大阪府内全自治体のデータ統合時の扱い .....	5
II 調査結果 .....	7
1. 単純集計結果〔小学生・中学生〕 .....	7
2. 単純集計結果〔保護者〕 .....	79
3. クロス集計および分析結果 .....	163
3-1. 基本情報 .....	163
(1) 経済状況 .....	163
(2) 家庭状況（制度等） .....	181
3-2. 雇用 .....	225
3-3. 健康 .....	233
3-4. 家庭生活、学習 .....	276
3-5. 対人関係 .....	335
III 総合考察 .....	402
1) 大阪府共同調査の意義 .....	402
2) 単純集計 .....	402
3) クロス集計 .....	405
まとめ .....	410
IV 資料編 .....	419

## はじめに

2014年1月「子どもの貧困対策の推進に関する法律」が施行されたことをスタートに、2014年8月「子供の貧困対策に関する大綱」が策定された。これら政府の動きを受けて、大阪市や大阪府内自治体含む大阪府は約10万件にも及ぶ子どもの生活に関する実態調査に共同で取り組んだ。府内すべてを網羅したこと、同じ調査で実施したことの意味は、大きい。なぜなら、各自治体がばらばらに実施し結果を見せても共通の指標にならず、この数値がどうなのか、意味があるのか、よくわからない実態も少なくない。世間でもかなり話題になり、マスコミに多数取り上げられた。この頃には、子どもの貧困が広く知られ社会問題化されつつあったが、この大規模な調査の動きは拍車をかけたのみならず、データ数の多さから、全て実証され、以下に示す政策にも少なからず影響をもたらした。

2019年6月「子どもの貧困対策の推進に関する法律」が5年ぶりに見直され、「子どもの貧困対策の推進に関する法律の一部を改正する法律」が施行された。それを受けて、同年11月「子供の貧困対策に関する大綱～日本の将来を担う子供たちを誰一人取り残すことがない社会に向けて～」が再策定された。大綱では、「支援が届いていない、又は届きにくい子ども・家庭に配慮して対策を推進する」、「困窮層が多様であること」、「社会的孤立に陥ることのないように配慮する」など新たな視点が基本方針として追加され、ヤングケアラーと思われる子どもや、外国籍や障がいを持つ子どもたちなど、具体的な困窮層の子どもや家庭が示された。同時に、2023年4月にこども家庭庁が発足され、貧困をはじめとする子どもを取り巻く社会問題にシームレスに向き合い、途切れない政策・支援を打ち立てていくことが期待されている。

こうして子どもの貧困に関する社会的認知や政策が知られるようになったが、子どもの実態はどう変わったのであろうか。政策の効果は表れたのであろうか。そんな思いをもって、大阪府では再度府内自治体とともに子どもの生活に関する実態調査が共同実施されることになった。全国的にここまで一体的に実施する都道府県は存在せず、大阪府が、大阪府内の大半を占める大阪市も含めて牽引した役割は大きい。

子どもの貧困については、前回と同様に、その国の貧困線未満の所得で暮らす相対的貧困の17歳以下の子どもの存在および生活状況を指す相対的貧困率でとらえる。OECDや厚生労働省調査の貧困率には等価可処分所得の中央値の50%が使用されているが、絶対的なものではなく、EU、ユニセフは公式の貧困基準のひとつに中央値の60%を使用（ただし、常に60%基準採用ではない）している。前回同様、60%のラインも含め検討している。子どもの相対的貧困率については、発表主体、統計利用データ年次によって変動する。内容的には、タウンゼンドの定義を元にChild Poverty Action Group (CPAG) が示している、①所得や資産など経済的資本 (capital) の欠如、②健康や教育など人的資本 (human capital) の欠如、③つながりやネットワークなど社会関係資本 (social capital) の欠如、の3つの資本の欠如を基本的な枠組みとしてとらえる。

# I 調査概要

## 1. 調査の目的

守口市では、子どもたちが積極的に自分の生き方を選択し、自立できるよう様々な施策を実施している中、今後、効果的な子どもの貧困対策を検証するために調査を実施し、得られた結果を分析することによって、支援を必要とする子どもや家庭に対する方策を検証することを目的としている。

## 2. 調査方法

住民基本台帳より全数抽出した調査対象の世帯に、調査票を郵送し、回収を得たもの。

## 3. 調査内容

巻末の調査票参照

## 4. 調査対象者

小学校5年生・その保護者（1,046世帯） 中学校2年生・その保護者（973世帯）

## 5. 調査実施日

守口市：令和5年8月24日～令和5年9月20日

大阪府内全自治体：令和5年6月27日～令和5年9月30日

## 6. 調査配布・回収率(数)

表1. 調査票の回収状況

		回収率(%)	回収数	配布数
守口市	小学5年生	28.6	299	1,046
	小学5年生の保護者	27.6	289	1,046
	中学2年生	27.7	270	973
	中学2年生の保護者	26.7	260	973
	小学5年生・中学2年生合計	28.2	569	2,019
	小学5年生保護者・中学2年生保護者合計	27.2	549	2,019
	計	27.7	1,118	4,038
大阪府全自治体	小学5年生	56.2	23,289	41,458
	小学5年生の保護者	55.0	22,819	41,458
	中学2年生	51.4	19,990	38,911
	中学2年生の保護者	49.8	19,390	38,911
	小学5年生・中学2年生合計	54.0	43,370	80,369
	小学5年生保護者・中学2年生保護者合計	53.9	43,358	80,369
	計	54.0	86,728	160,738

※大阪府内全自治体の小学5年生・中学2年生合計、小学5年生保護者・中学2年生保護者合計の数値については、学年不明分を含んだものとなっている（子ども：91件、保護者：1,149件）

※大阪府内全自治体の小学5年生、小学5年生保護者、中学2年生、中学2年生保護者、小学5年生・中学2年生合計、小学5年生保護者・中学2年生保護者合計の数値については、一部自治体の他学年分を含んだものとなっている。

※「計」は、「小学5年生・中学2年生合計」と「小学5年生保護者・中学2年生保護者合計」の合計となっている。

大阪府内全自治体回収状況配布・回収方法別

		回収率(%)	回収数	配布数
学校配布・学校回収	小学5年生	61.6	15,927	25,852
	小学5年生の保護者	62.6	16,178	25,852
	中学2年生	58.3	13,712	23,539
	中学2年生の保護者	58.2	13,707	23,539
	小学5年生・中学2年生合計	60.1	29,674	49,391
	小学5年生保護者・中学2年生保護者合計	60.7	29,977	49,391
	計	60.4	59,651	98,782
学校配布・郵送回収	小学5年生	22.6	1,401	6,191
	小学5年生の保護者	22.2	1,376	6,191
	中学2年生	15.3	936	6,099
	中学2年生の保護者	15.5	943	6,099
	小学5年生・中学2年生合計	19.2	2,362	12,290
	小学5年生保護者・中学2年生保護者合計	19.2	2,361	12,290
	計	19.2	4,723	24,580
郵送配布・郵送回収	小学5年生	21.3	2,003	9,415
	小学5年生の保護者	21.0	1,978	9,415
	中学2年生	17.8	1,646	9,273
	中学2年生の保護者	17.8	1,653	9,273
	小学5年生・中学2年生合計	19.7	3,676	18,688
	小学5年生保護者・中学2年生保護者合計	19.7	3,675	18,688
	計	19.7	7,351	37,376
学校配布・WEB回答	小学5年生	23.0	3,007	13,068
	小学5年生の保護者	17.0	2,228	13,068
	中学2年生	21.3	2,714	12,718
	中学2年生の保護者	16.0	2,037	12,718
	小学5年生・中学2年生合計	22.2	5,723	25,786
	小学5年生保護者・中学2年生保護者合計	19.2	4,949	25,786
	計	20.7	10,672	51,572
郵送配布・WEB回答	小学5年生	10.1	951	9,415
	小学5年生の保護者	11.2	1,059	9,415
	中学2年生	10.6	982	9,273
	中学2年生の保護者	11.3	1,050	9,273
	小学5年生・中学2年生合計	10.4	1,935	18,688
	小学5年生保護者・中学2年生保護者合計	12.8	2,396	18,688
	計	11.6	4,331	37,376

※各配布・回収方法の小学5年生・中学2年生合計、小学5年生保護者・中学2年生保護者合計の数値については、学年不明分を含んだものとなっている（子ども：91件、保護者：1,149件）

※大阪府内全自治体の小学5年生、小学5年生保護者、中学2年生、中学2年生保護者、小学5年生・中学2年生合計、小学5年生保護者・中学2年生保護者合計の数値については、一部自治体の他学年分を含んだものとなっている。

※「計」は、「小学5年生・中学2年生合計」と「小学5年生保護者・中学2年生保護者合計」の合計となっている。

なお、未就学児童の保護者を対象とした調査も大阪府内の3自治体において実施した。さらに1自治体では、小5・中2以外の学年の児童とその保護者を対象とした調査も実施した。これらの合計配布数は、19,513件、回収数は、14,626件、回収率75.0%であった。

## 7. 調査実施主体

守口市

調査研究業務受託者

公立大学法人大阪 大阪公立大学大学院 現代システム科学研究科

## 8. 研究者一覧

担当者 公立大学法人大阪 大阪公立大学大学院 現代システム科学研究科

教授 山野 則子（業務責任者）

特任講師 橋本 麿和

シニア研究員 永田 麻衣 佐伯 厘咲 李 孟

協力者 公立大学法人大阪 大阪公立大学大学院 現代システム科学研究科

准教授 嵯峨 嘉子

研究補助者 公立大学法人大阪 大阪公立大学大学院 経済学研究科

准教授 牛 冰

武庫川女子大学 社会情報学部 社会情報学科 助教 駒田 安紀

大阪商業大学 公共学部 公共学科 助教 林 萍萍

奈良佐保短期大学 地域こども学科 講師 河村 信子

公立大学法人大阪 大阪公立大学大学院 現代システム科学研究科

研究員 黄 健育 渡邊 陽亮

大阪公立大学大学院 現代システム科学研究科 専攻社会福祉学分野 林 慎吾

松浦 孝範 久地井 寿哉 渡邊 祐作

## 9. 大阪府内全自治体のデータ統合時の扱い

本報告書においては、守口市と大阪府内全自治体をそれぞれ掲載している。守口市のデータについては既に「I 調査概要 2～8」で述べた方法で収集したものである。大阪府内全自治体については、大阪府25市町村のデータに共同実施18市町のデータを統合したものである。これら全自治体においては、小学生・中学生27問、保護者26問をそれぞれ共通設問として調査項目を設計し、全体を統合して扱うあるいは比較することが可能なものとした。なお、一部の市においては、これらの共通設問とは別途把握したい内容がある場合に限り、追加で独自設問を設けている。

調査の結果、府と他共同実施18市町との間で回収率や回収数に差が生じた。府では、予めサンプリングした対象8000件への配布を行いその約30%の回収となったのに対し、他共同実施市ではほとんどの市が全数配布の結果、高いところでは70%を超える回収率となっている。このため、自治体間で回収率あるいはサンプルサイズの補正を行うか否かについて検討し、補正は行わないとの結論に達した。

1点目の理由としては、今回の調査では調査票配布の方法に郵送配布と学校配布の2種類があり、いずれを用いるかは自治体の状況に基づいて決定された。配布方法が異なることで回収率に差が生じることは避けられないものであった。

2点目の理由としては、このような状況に対して、例えば回収率の高かった自治体について

データの再サンプリングなどの方法を用いて削減を行うことも意見が出された。しかし、その場合、どのような基準で選択するのかが恣意的になってしまうこと、削減後の結果を提示した場合、施策を提言するための貴重な調査結果であるにもかかわらずその一部が掬い取られないことになり、全数調査をした市においては意義が失われてしまう。

このような理由から、大阪府内全自治体のデータは回収したデータをすべて統合したものとなっている。

本報告書では、「守口市」、「大阪府内全自治体」両者のグラフを掲載しているため、このように書き分けて論じていく。

なお、報告書においてはパーセンテージを用いて記述し、議論を進める。この中で、パーセンテージで示される数値同士の加・減・除を行う（合計する・差を把握する・何倍かに着目する）ことがあるが、実際に示された数値で算出しても結果が異なることがある。これは、示されている数値は小数第二位以下を四捨五入しているものであり、算出には四捨五入前の厳密な数値を用いていることによるものである。

## II 調査結果

### 1. 単純集計結果〔小学生・中学生〕

守口市

#### 回答者の属性

##### 問27 性別

全体は、「男子」が48.9%、「女子」が45.3%となっている。  
 小学生は、「男子」が46.8%、「女子」が47.5%となっている。  
 中学生は、「男子」が51.1%、「女子」が43.3%となっている。



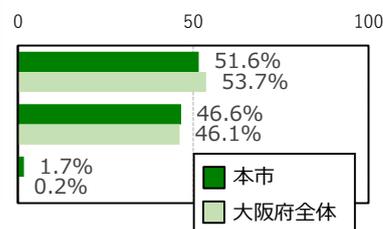
回答者の属性

問1 学年

回答者の学年は、「小学生」が299名・51.6%、「中学生」が270名・46.6%となっている。

【全体】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
小学生	299名	51.6%	23,289名	53.7%
中学生	270名	46.6%	19,990名	46.1%
無回答	10名	1.7%	91名	0.2%



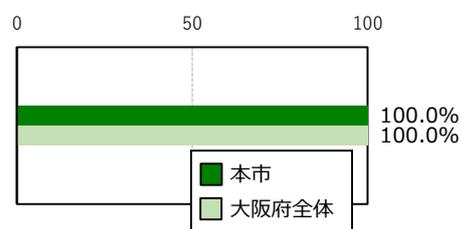
【小学生】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
小学生	299名	100.0%	23,289名	100.0%
中学生	-	-	-	-
無回答	-	-	-	-



【中学生】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
小学生	-	-	-	-
中学生	270名	100.0%	19,990名	100.0%
無回答	-	-	-	-



ふだんの生活のことについて

問2 起床時間の規則性

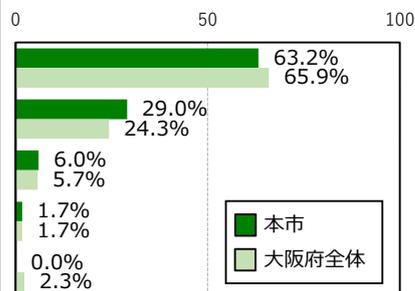
全体は、「起きている」が63.2%で最も多く、次いで「どちらかといえば、起きている」が29.0%、「あまり、起きていない」が6.0%、「起きていない」が1.7%となっている。

小学生は、「起きている」が63.5%で最も多く、次いで「どちらかといえば、起きている」が29.8%、「あまり、起きていない」が4.7%、「起きていない」が2.0%となっている。

中学生は、「起きている」が63.3%で最も多く、次いで「どちらかといえば、起きている」が27.8%、「あまり、起きていない」が7.4%、「起きていない」が1.5%となっている。

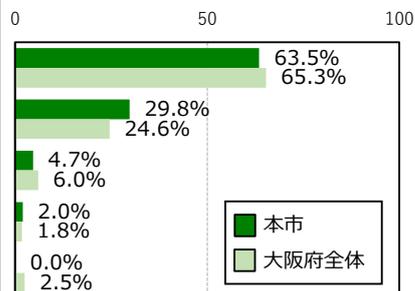
【全体】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
起きている	366名	63.2%	28,594名	65.9%
どちらかといえば、起きている	168名	29.0%	10,539名	24.3%
あまり、起きていない	35名	6.0%	2,478名	5.7%
起きていない	10名	1.7%	741名	1.7%
無回答	-	-	1,018名	2.3%



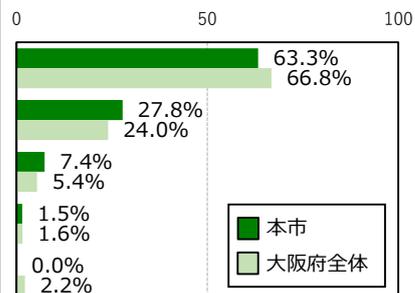
【小学生】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
起きている	190名	63.5%	15,198名	65.3%
どちらかといえば、起きている	89名	29.8%	5,722名	24.6%
あまり、起きていない	14名	4.7%	1,386名	6.0%
起きていない	6名	2.0%	410名	1.8%
無回答	-	-	573名	2.5%



【中学生】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
起きている	171名	63.3%	13,344名	66.8%
どちらかといえば、起きている	75名	27.8%	4,791名	24.0%
あまり、起きていない	20名	7.4%	1,088名	5.4%
起きていない	4名	1.5%	328名	1.6%
無回答	-	-	439名	2.2%



ふだんの生活のことについて

問3 就寝時間

全体は、「午後10時台」が32.0%で最も多く、次いで「午後11時台」が23.5%、「午後9時台」が19.0%、「午前0時台」が11.7%となっている。

小学生は、「午後10時台」が40.1%で最も多く、次いで「午後9時台」が33.1%、「午後11時台」が12.4%、「きまっていない」が7.4%となっている。

中学生は、「午後11時台」が36.3%で最も多く、次いで「午後10時台」が22.6%、「午前0時台」が20.7%、「きまっていない」が9.6%となっている。

【全体】



【小学生】



【中学生】



ふだんの生活のことについて

問4(1) 朝食の頻度

全体は、「毎日またはほとんど毎日」が86.0%で最も多く、次いで「週に4～5回」が5.0%、「週に2～3回」、「食べない」がそれぞれ3.6%となっている。

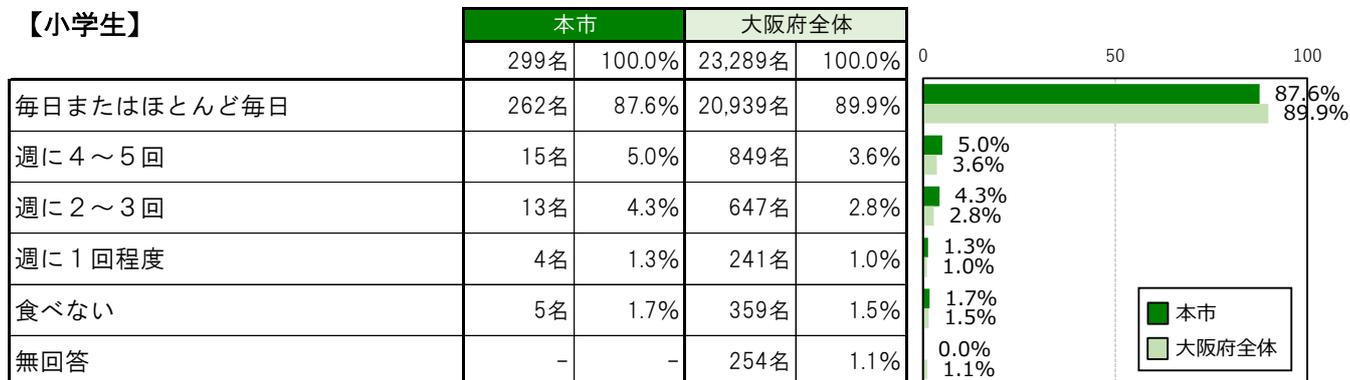
小学生は、「毎日またはほとんど毎日」が87.6%で最も多く、次いで「週に4～5回」が5.0%、「週に2～3回」が4.3%、「食べない」が1.7%となっている。

中学生は、「毎日またはほとんど毎日」が83.7%で最も多く、次いで「食べない」が5.9%、「週に4～5回」が5.2%、「週に2～3回」が3.0%となっている。

【全体】



【小学生】



【中学生】



ふだんの生活のことについて

問4(2) 朝食を食べない理由

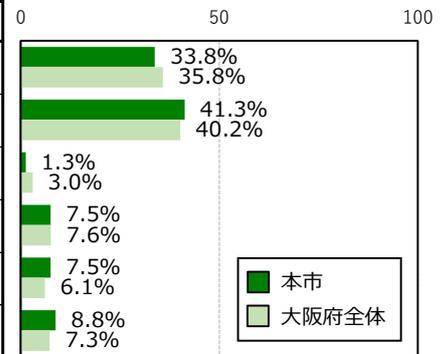
全体は、「おなかがすいていない」が41.3%で最も多く、次いで「時間がない」が33.8%、「食べる習慣がない」が7.5%、「用意されていない」が1.3%となっている。

小学生は、「おなかがすいていない」が35.1%で最も多く、次いで「時間がない」が32.4%、「食べる習慣がない」が5.4%、「用意されていない」が2.7%となっている。

中学生は、「おなかがすいていない」が46.5%で最も多く、次いで「時間がない」が34.9%、「食べる習慣がない」が9.3%となっている。

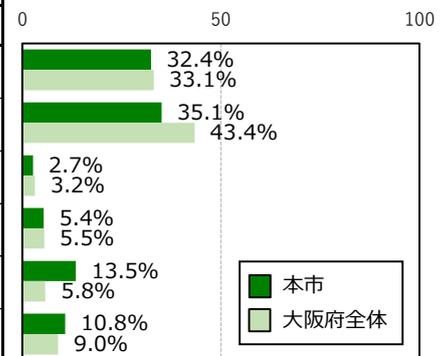
【全体】

	本市		大阪府全体	
	名	割合	名	割合
時間がない	27名	33.8%	1,954名	35.8%
おなかがすいていない	33名	41.3%	2,194名	40.2%
用意されていない	1名	1.3%	162名	3.0%
食べる習慣がない	6名	7.5%	414名	7.6%
わからない	6名	7.5%	334名	6.1%
無回答	7名	8.8%	397名	7.3%



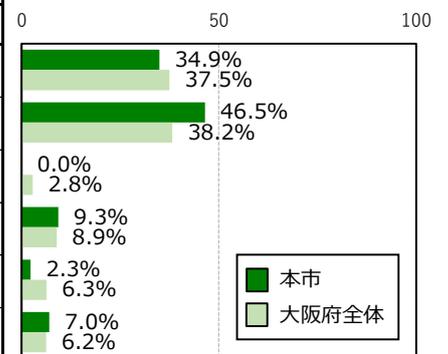
【小学生】

	本市		大阪府全体	
	名	割合	名	割合
時間がない	12名	32.4%	694名	33.1%
おなかがすいていない	13名	35.1%	909名	43.4%
用意されていない	1名	2.7%	68名	3.2%
食べる習慣がない	2名	5.4%	116名	5.5%
わからない	5名	13.5%	121名	5.8%
無回答	4名	10.8%	188名	9.0%



【中学生】

	本市		大阪府全体	
	名	割合	名	割合
時間がない	15名	34.9%	1,257名	37.5%
おなかがすいていない	20名	46.5%	1,280名	38.2%
用意されていない	-	-	94名	2.8%
食べる習慣がない	4名	9.3%	298名	8.9%
わからない	1名	2.3%	212名	6.3%
無回答	3名	7.0%	207名	6.2%



ふだんの生活のことについて

問5（1）夕食の頻度

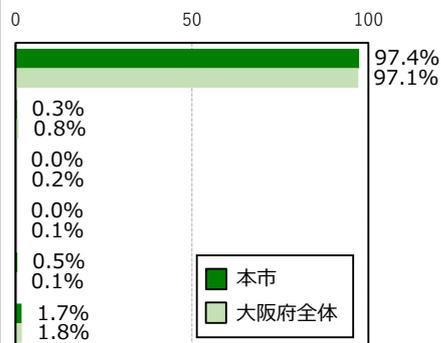
全体は、「毎日またはほとんど毎日」が97.4%で最も多く、次いで「食べない」が0.5%、「週に4～5回」が0.3%となっている。

小学生は、「毎日またはほとんど毎日」が97.3%で最も多く、次いで「食べない」が0.7%となっている。

中学生は、「毎日またはほとんど毎日」が98.1%で最も多く、次いで「週に4～5回」が0.7%、「食べない」が0.4%となっている。

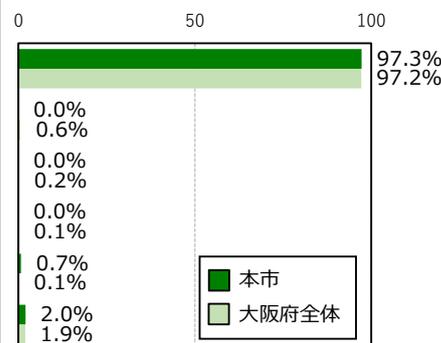
【全体】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
毎日またはほとんど毎日	564名	97.4%	42,110名	97.1%
週に4～5回	2名	0.3%	327名	0.8%
週に2～3回	-	-	100名	0.2%
週に1回程度	-	-	31名	0.1%
食べない	3名	0.5%	32名	0.1%
無回答	10名	1.7%	770名	1.8%



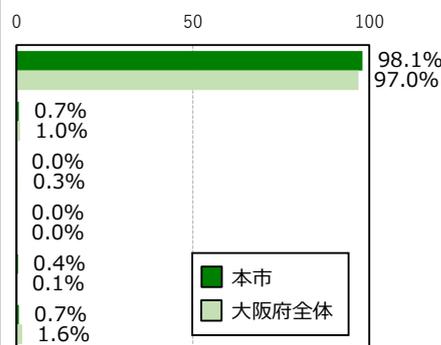
【小学生】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
毎日またはほとんど毎日	291名	97.3%	22,637名	97.2%
週に4～5回	-	-	132名	0.6%
週に2～3回	-	-	39名	0.2%
週に1回程度	-	-	23名	0.1%
食べない	2名	0.7%	16名	0.1%
無回答	6名	2.0%	442名	1.9%



【中学生】

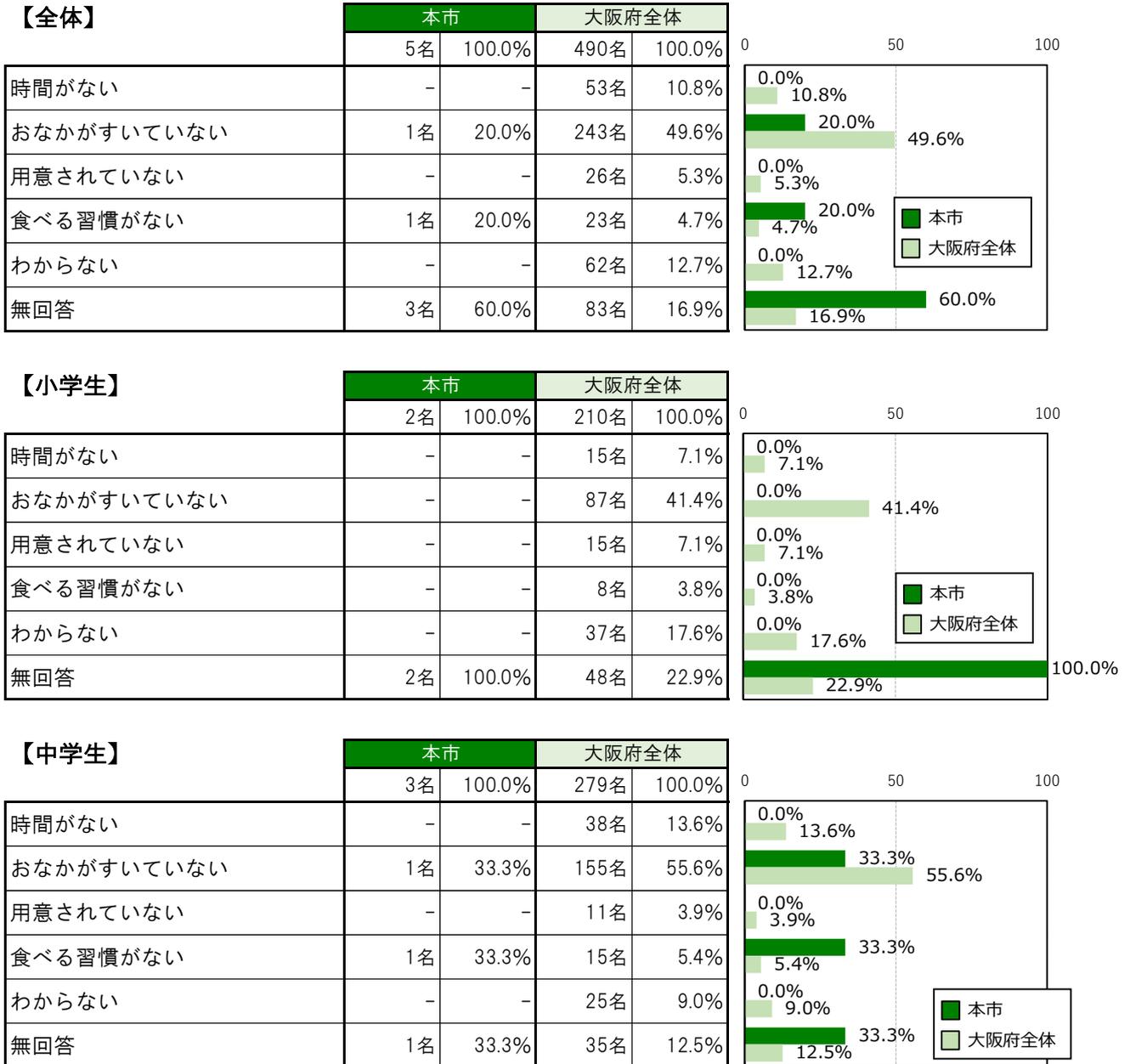
	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
毎日またはほとんど毎日	265名	98.1%	19,393名	97.0%
週に4～5回	2名	0.7%	195名	1.0%
週に2～3回	-	-	60名	0.3%
週に1回程度	-	-	8名	0.0%
食べない	1名	0.4%	16名	0.1%
無回答	2名	0.7%	318名	1.6%



ふだんの生活のことについて

問5(2) 夕食を食べない理由

全体は、「おなかがすいていない」、「食べる習慣がない」がそれぞれ20.0%（1名）となっている。  
 中学生は、「おなかがすいていない」、「食べる習慣がない」がそれぞれ33.3%（1名）となっている。



ふだんの生活のことについて

問6(1) 休日の昼食の頻度

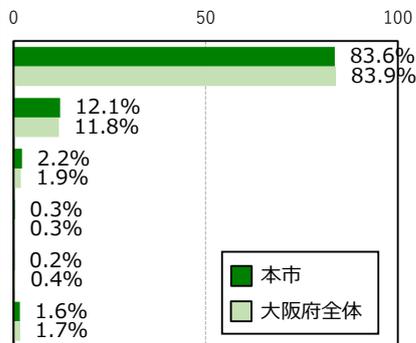
全体は、「必ず食べる」が83.6%で最も多く、次いで「食べることが多い」が12.1%、「食べないことが多い」が2.2%となっている。

小学生は、「必ず食べる」が84.6%で最も多く、次いで「食べることが多い」が11.7%、「食べないことが多い」が1.7%となっている。

中学生は、「必ず食べる」が83.0%で最も多く、次いで「食べることが多い」が12.6%、「食べないことが多い」が3.0%となっている。

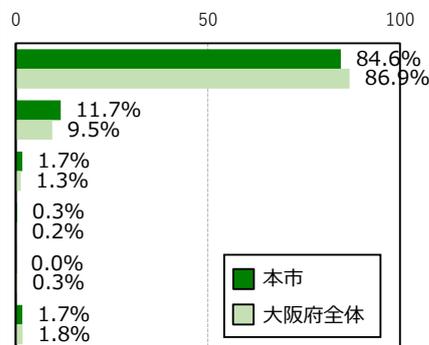
【全体】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
必ず食べる	484名	83.6%	36,388名	83.9%
食べるが多い	70名	12.1%	5,118名	11.8%
食べないことが多い	13名	2.2%	830名	1.9%
食べない	2名	0.3%	117名	0.3%
わからない	1名	0.2%	180名	0.4%
無回答	9名	1.6%	737名	1.7%



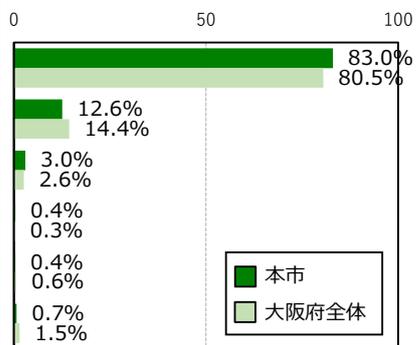
【小学生】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
必ず食べる	253名	84.6%	20,227名	86.9%
食べるが多い	35名	11.7%	2,221名	9.5%
食べないことが多い	5名	1.7%	306名	1.3%
食べない	1名	0.3%	51名	0.2%
わからない	-	-	62名	0.3%
無回答	5名	1.7%	422名	1.8%



【中学生】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
必ず食べる	224名	83.0%	16,090名	80.5%
食べるが多い	34名	12.6%	2,886名	14.4%
食べないことが多い	8名	3.0%	524名	2.6%
食べない	1名	0.4%	66名	0.3%
わからない	1名	0.4%	117名	0.6%
無回答	2名	0.7%	307名	1.5%



ふだんの生活のことについて

問6(2) 休日に昼食を食べない理由

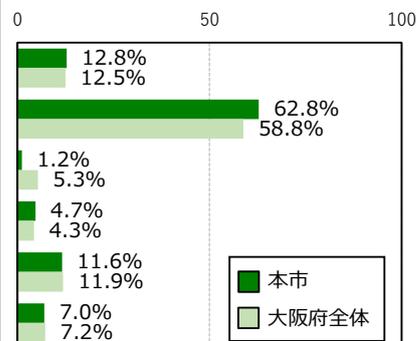
全体は、「おなかがすいていない」が62.8%で最も多く、次いで「時間がない」が12.8%、「食べる習慣がない」が4.7%、「用意されていない」が1.2%となっている。

小学生は、「おなかがすいていない」が70.7%で最も多く、次いで「時間がない」、「食べる習慣がない」がそれぞれ4.9%となっている。

中学生は、「おなかがすいていない」が56.8%で最も多く、次いで「時間がない」が20.5%、「食べる習慣がない」が4.5%、「用意されていない」が2.3%となっている。

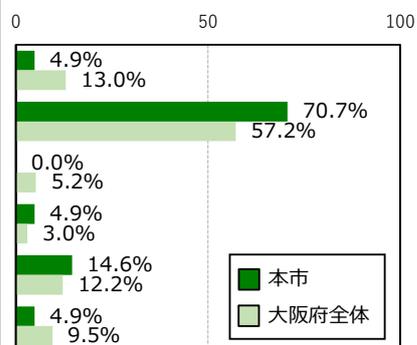
【全体】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
時間がない	11名	12.8%	783名	12.5%
おなかがすいていない	54名	62.8%	3,674名	58.8%
用意されていない	1名	1.2%	328名	5.3%
食べる習慣がない	4名	4.7%	266名	4.3%
わからない	10名	11.6%	744名	11.9%
無回答	6名	7.0%	450名	7.2%



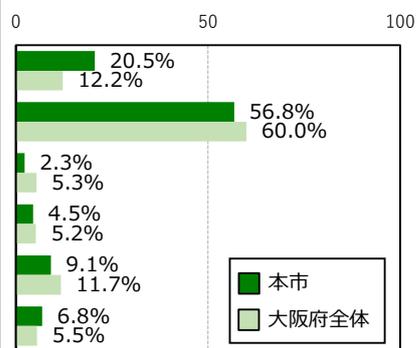
【小学生】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
時間がない	2名	4.9%	343名	13.0%
おなかがすいていない	29名	70.7%	1,510名	57.2%
用意されていない	-	-	136名	5.2%
食べる習慣がない	2名	4.9%	78名	3.0%
わからない	6名	14.6%	321名	12.2%
無回答	2名	4.9%	252名	9.5%



【中学生】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
時間がない	9名	20.5%	438名	12.2%
おなかがすいていない	25名	56.8%	2,156名	60.0%
用意されていない	1名	2.3%	192名	5.3%
食べる習慣がない	2名	4.5%	188名	5.2%
わからない	4名	9.1%	422名	11.7%
無回答	3名	6.8%	197名	5.5%



ふだんの生活のことについて

問7 学校への遅刻

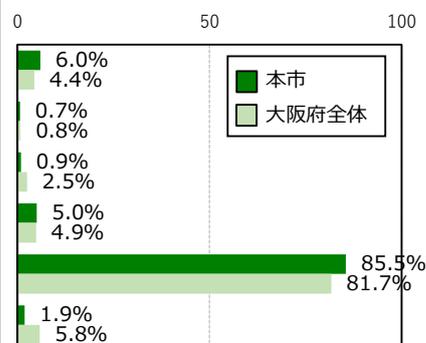
全体は、「遅刻はしない」が85.5%で最も多く、次いで「毎日またはほとんど毎日」が6.0%、「週に1回程度」が5.0%、「週に2～3回」が0.9%となっている。

小学生は、「遅刻はしない」が88.0%で最も多く、次いで「毎日またはほとんど毎日」が5.7%、「週に1回程度」が4.3%、「週に4～5回」が0.3%となっている。

中学生は、「遅刻はしない」が83.0%で最も多く、次いで「毎日またはほとんど毎日」が6.7%、「週に1回程度」が5.9%、「週に2～3回」が1.9%となっている。

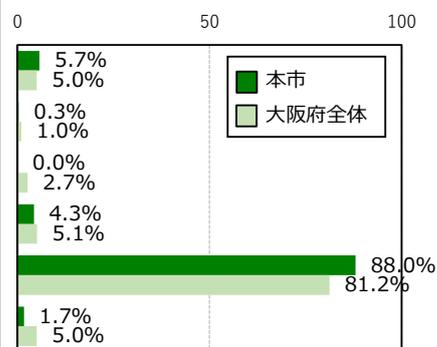
【全体】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
毎日またはほとんど毎日	35名	6.0%	1,906名	4.4%
週に4～5回	4名	0.7%	333名	0.8%
週に2～3回	5名	0.9%	1,063名	2.5%
週に1回程度	29名	5.0%	2,132名	4.9%
遅刻はしない	495名	85.5%	35,435名	81.7%
無回答	11名	1.9%	2,501名	5.8%



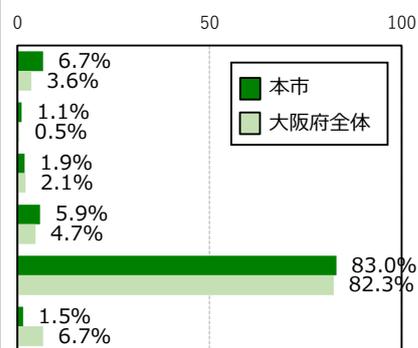
【小学生】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
毎日またはほとんど毎日	17名	5.7%	1,168名	5.0%
週に4～5回	1名	0.3%	223名	1.0%
週に2～3回	-	-	639名	2.7%
週に1回程度	13名	4.3%	1,194名	5.1%
遅刻はしない	263名	88.0%	18,907名	81.2%
無回答	5名	1.7%	1,158名	5.0%



【中学生】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
毎日またはほとんど毎日	18名	6.7%	729名	3.6%
週に4～5回	3名	1.1%	109名	0.5%
週に2～3回	5名	1.9%	423名	2.1%
週に1回程度	16名	5.9%	935名	4.7%
遅刻はしない	224名	83.0%	16,459名	82.3%
無回答	4名	1.5%	1,335名	6.7%



ふだんの生活のことについて

問8 保護者との関係性 ①おうちの大人の人と一緒に朝食を食べているか

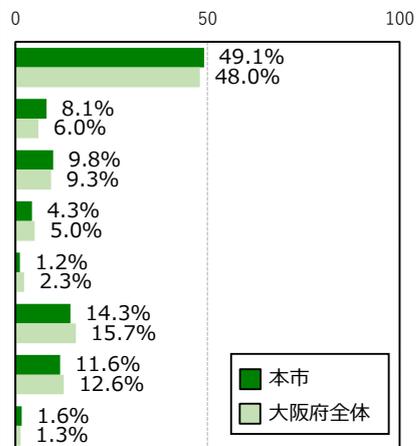
全体は、「ほとんど毎日」が49.1%で最も多く、次いで「ほとんどない」が14.3%、「まったくない」が11.6%、「週に2～3回」が9.8%となっている。

小学生は、「ほとんど毎日」が60.2%で最も多く、次いで「週に2～3回」が11.0%、「ほとんどない」が10.7%、「まったくない」が8.0%となっている。

中学生は、「ほとんど毎日」が37.4%で最も多く、次いで「ほとんどない」が18.1%、「まったくない」が15.6%、「週に4～5回」が11.5%となっている。

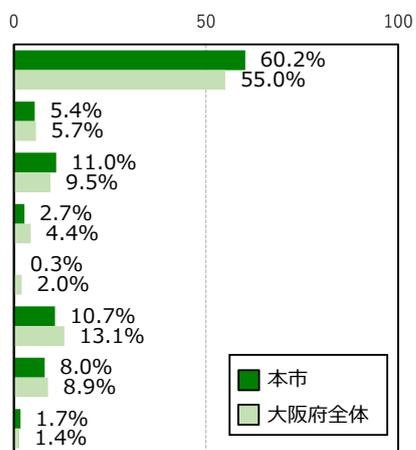
【全体】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
ほとんど毎日	284名	49.1%	20,810名	48.0%
週に4～5回	47名	8.1%	2,583名	6.0%
週に2～3回	57名	9.8%	4,012名	9.3%
週に1回程度	25名	4.3%	2,155名	5.0%
月に1～2回	7名	1.2%	995名	2.3%
ほとんどない	83名	14.3%	6,794名	15.7%
まったくない	67名	11.6%	5,475名	12.6%
無回答	9名	1.6%	546名	1.3%



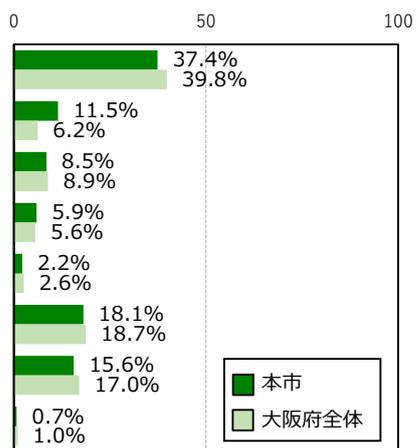
【小学生】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
ほとんど毎日	180名	60.2%	12,809名	55.0%
週に4～5回	16名	5.4%	1,328名	5.7%
週に2～3回	33名	11.0%	2,222名	9.5%
週に1回程度	8名	2.7%	1,023名	4.4%
月に1～2回	1名	0.3%	469名	2.0%
ほとんどない	32名	10.7%	3,042名	13.1%
まったくない	24名	8.0%	2,065名	8.9%
無回答	5名	1.7%	331名	1.4%



【中学生】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
ほとんど毎日	101名	37.4%	7,962名	39.8%
週に4～5回	31名	11.5%	1,248名	6.2%
週に2～3回	23名	8.5%	1,780名	8.9%
週に1回程度	16名	5.9%	1,128名	5.6%
月に1～2回	6名	2.2%	526名	2.6%
ほとんどない	49名	18.1%	3,737名	18.7%
まったくない	42名	15.6%	3,400名	17.0%
無回答	2名	0.7%	209名	1.0%



ふだんの生活のことについて

問8 保護者との関係性 ②おうちの大人の人と一緒に夕食を食べているか

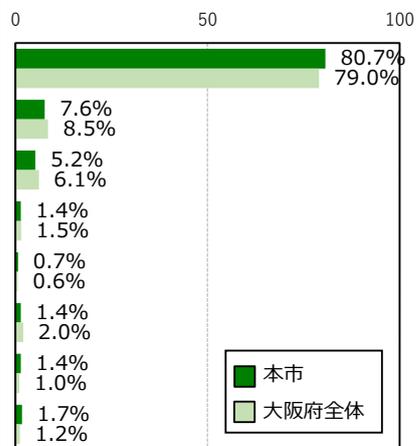
全体は、「ほとんど毎日」が80.7%で最も多く、次いで「週に4～5回」が7.6%、「週に2～3回」が5.2%、「週に1回程度」、「ほとんどない」、「まったくない」がそれぞれ1.4%となっている。

小学生は、「ほとんど毎日」が86.0%で最も多く、次いで「週に4～5回」が5.7%、「週に2～3回」が3.3%、「ほとんどない」が1.3%となっている。

中学生は、「ほとんど毎日」が75.6%で最も多く、次いで「週に4～5回」が9.6%、「週に2～3回」が7.0%、「週に1回程度」が2.2%となっている。

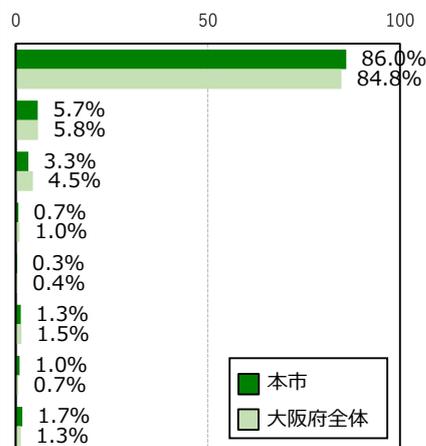
【全体】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
ほとんど毎日	467名	80.7%	34,246名	79.0%
週に4～5回	44名	7.6%	3,679名	8.5%
週に2～3回	30名	5.2%	2,667名	6.1%
週に1回程度	8名	1.4%	656名	1.5%
月に1～2回	4名	0.7%	262名	0.6%
ほとんどない	8名	1.4%	889名	2.0%
まったくない	8名	1.4%	455名	1.0%
無回答	10名	1.7%	516名	1.2%



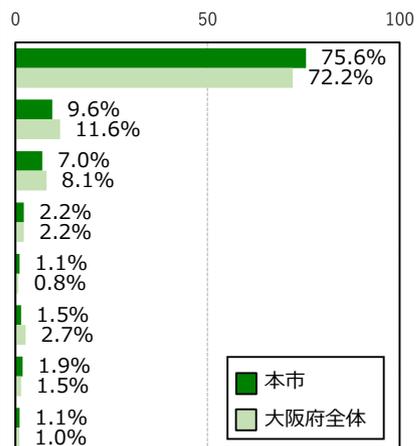
【小学生】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
ほとんど毎日	257名	86.0%	19,748名	84.8%
週に4～5回	17名	5.7%	1,360名	5.8%
週に2～3回	10名	3.3%	1,048名	4.5%
週に1回程度	2名	0.7%	222名	1.0%
月に1～2回	1名	0.3%	100名	0.4%
ほとんどない	4名	1.3%	349名	1.5%
まったくない	3名	1.0%	154名	0.7%
無回答	5名	1.7%	308名	1.3%



【中学生】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
ほとんど毎日	204名	75.6%	14,429名	72.2%
週に4～5回	26名	9.6%	2,310名	11.6%
週に2～3回	19名	7.0%	1,616名	8.1%
週に1回程度	6名	2.2%	431名	2.2%
月に1～2回	3名	1.1%	162名	0.8%
ほとんどない	4名	1.5%	539名	2.7%
まったくない	5名	1.9%	301名	1.5%
無回答	3名	1.1%	202名	1.0%



ふだんの生活のことについて

問8 保護者との関係性 ③おうちの大人の人に朝、起こしてもらうか

全体は、「ほとんど毎日」が45.6%で最も多く、次いで「ほとんどない」が14.7%、「週に4～5回」が11.4%、「週に2～3回」が10.0%となっている。

小学生は、「ほとんど毎日」が47.5%で最も多く、次いで「ほとんどない」が14.7%、「週に2～3回」が11.0%、「週に4～5回」が10.7%となっている。

中学生は、「ほとんど毎日」が43.7%で最も多く、次いで「ほとんどない」が14.8%、「週に4～5回」が12.2%、「まったくない」が11.1%となっている。



ふだんの生活のことについて

問8 保護者との関係性 ④おうちの手伝いをしているか

全体は、「ほとんど毎日」が21.6%で最も多く、次いで「週に2～3回」が21.4%、「ほとんどない」が15.2%、「週に1回程度」が10.7%となっている。

小学生は、「週に2～3回」が25.8%で最も多く、次いで「ほとんど毎日」が19.4%、「ほとんどない」が13.4%、「週に4～5回」が11.4%となっている。

中学生は、「ほとんど毎日」が24.1%で最も多く、次いで「ほとんどない」が17.4%、「週に2～3回」が17.0%、「月に1～2回」が11.1%となっている。

【全体】



【小学生】



【中学生】



ふだんの生活のことについて

問8 保護者との関係性 ⑤おうちの大人の人に宿題（勉強）をみてもらうか

全体は、「ほとんどない」が26.9%で最も多く、次いで「まったくない」が23.0%、「ほとんど毎日」が12.8%、「週に1回程度」が10.2%となっている。

小学生は、「ほとんどない」が21.7%で最も多く、次いで「ほとんど毎日」が19.1%、「週に2～3回」が14.0%、「週に1回程度」が12.7%となっている。

中学生は、「まったくない」が34.1%で最も多く、次いで「ほとんどない」が33.7%、「月に1～2回」が11.1%、「週に1回程度」が7.8%となっている。

【全体】



【小学生】



【中学生】



ふだんの生活のことについて

問8 保護者との関係性 ⑥おうちの大人の人と学校でのできごとについて話すか

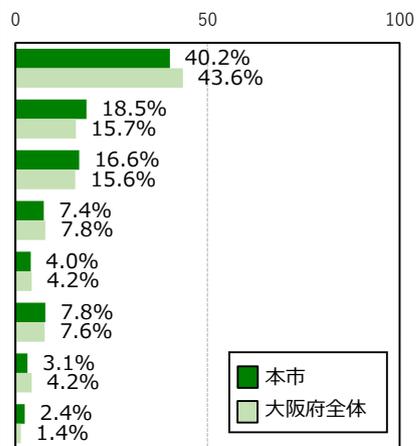
全体は、「ほとんど毎日」が40.2%で最も多く、次いで「週に4～5回」が18.5%、「週に2～3回」が16.6%、「ほとんどない」が7.8%となっている。

小学生は、「ほとんど毎日」が49.5%で最も多く、次いで「週に4～5回」が18.1%、「週に2～3回」が14.4%、「週に1回程度」、「ほとんどない」がそれぞれ5.4%となっている。

中学生は、「ほとんど毎日」が30.4%で最も多く、次いで「週に2～3回」が19.3%、「週に4～5回」が18.9%、「ほとんどない」が10.4%となっている。

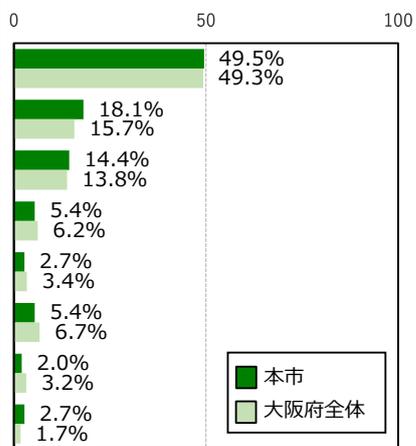
【全体】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
ほとんど毎日	233名	40.2%	18,891名	43.6%
週に4～5回	107名	18.5%	6,809名	15.7%
週に2～3回	96名	16.6%	6,773名	15.6%
週に1回程度	43名	7.4%	3,386名	7.8%
月に1～2回	23名	4.0%	1,801名	4.2%
ほとんどない	45名	7.8%	3,283名	7.6%
まったくない	18名	3.1%	1,802名	4.2%
無回答	14名	2.4%	625名	1.4%



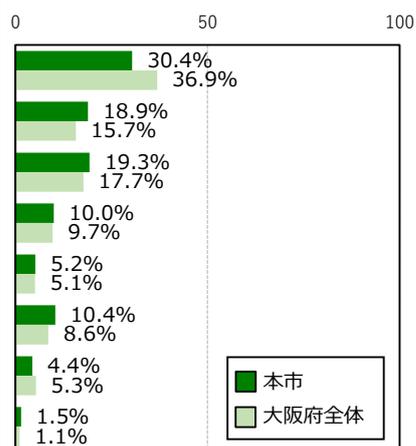
【小学生】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
ほとんど毎日	148名	49.5%	11,483名	49.3%
週に4～5回	54名	18.1%	3,660名	15.7%
週に2～3回	43名	14.4%	3,225名	13.8%
週に1回程度	16名	5.4%	1,447名	6.2%
月に1～2回	8名	2.7%	783名	3.4%
ほとんどない	16名	5.4%	1,558名	6.7%
まったくない	6名	2.0%	739名	3.2%
無回答	8名	2.7%	394名	1.7%



【中学生】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
ほとんど毎日	82名	30.4%	7,374名	36.9%
週に4～5回	51名	18.9%	3,138名	15.7%
週に2～3回	52名	19.3%	3,533名	17.7%
週に1回程度	27名	10.0%	1,933名	9.7%
月に1～2回	14名	5.2%	1,015名	5.1%
ほとんどない	28名	10.4%	1,716名	8.6%
まったくない	12名	4.4%	1,056名	5.3%
無回答	4名	1.5%	225名	1.1%



ふだんの生活のことについて

問8 保護者との関係性 ⑦おうちの大人の人と遊んだり、体を動かしたりするか

全体は、「ほとんどない」が21.4%で最も多く、次いで「月に1～2回」が16.2%、「週に1回程度」が15.4%、「ほとんど毎日」が15.0%となっている。

小学生は、「ほとんど毎日」が19.7%で最も多く、次いで「週に2～3回」が19.4%、「週に1回程度」が18.1%、「ほとんどない」が13.0%となっている。

中学生は、「ほとんどない」が31.1%で最も多く、次いで「月に1～2回」が19.6%、「まったくない」が15.2%、「週に1回程度」が12.6%となっている。



ふだんの生活のことについて

問8 保護者との関係性 ⑧おうちの大人の人とニュースなど社会のできごとについて話すか

全体は、「週に2～3回」が20.6%で最も多く、次いで「ほとんど毎日」が19.9%、「ほとんどない」が17.3%、「週に1回程度」が13.8%となっている。

小学生は、「ほとんど毎日」が22.1%で最も多く、次いで「週に2～3回」が21.1%、「ほとんどない」が16.1%、「週に1回程度」が13.4%となっている。

中学生は、「週に2～3回」が19.3%で最も多く、次いで「ほとんどない」が18.1%、「ほとんど毎日」が17.8%、「週に1回程度」が14.8%となっている。

【全体】



【小学生】



【中学生】



ふだんの生活のことについて

問8 保護者との関係性 ⑨おうちの大人のひとと文化活動（図書館や美術館、博物館、音楽鑑賞に行くなど）をするか

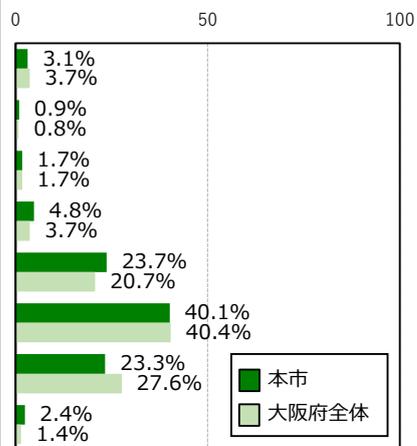
全体は、「ほとんどない」が40.1%で最も多く、次いで「月に1～2回」が23.7%、「まったくない」が23.3%、「週に1回程度」が4.8%、「ほとんど毎日」が3.1%となっている。

小学生は、「ほとんどない」が37.1%で最も多く、次いで「月に1～2回」が27.8%、「まったくない」が18.1%、「週に1回程度」が7.0%、「ほとんど毎日」が3.3%となっている。

中学生は、「ほとんどない」が44.4%で最も多く、次いで「まったくない」が28.9%、「月に1～2回」が18.9%、「ほとんど毎日」が3.0%、「週に1回程度」が2.2%となっている。

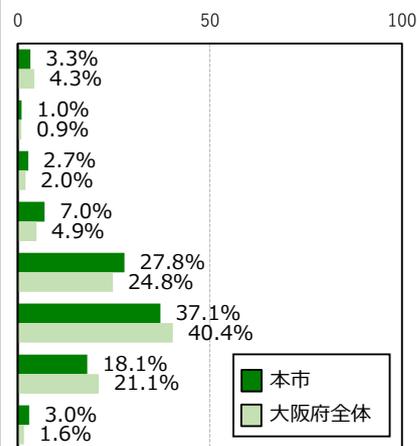
【全体】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
ほとんど毎日	18名	3.1%	1,596名	3.7%
週に4～5回	5名	0.9%	344名	0.8%
週に2～3回	10名	1.7%	730名	1.7%
週に1回程度	28名	4.8%	1,609名	3.7%
月に1～2回	137名	23.7%	8,999名	20.7%
ほとんどない	232名	40.1%	17,538名	40.4%
まったくない	135名	23.3%	11,956名	27.6%
無回答	14名	2.4%	598名	1.4%



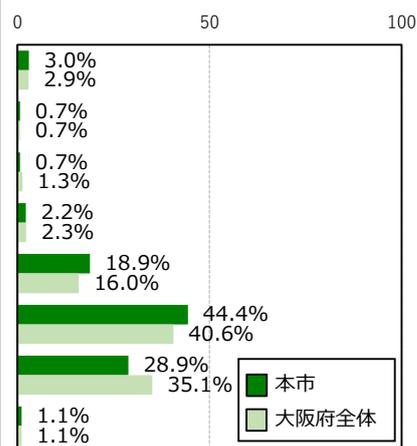
【小学生】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
ほとんど毎日	10名	3.3%	1,008名	4.3%
週に4～5回	3名	1.0%	204名	0.9%
週に2～3回	8名	2.7%	471名	2.0%
週に1回程度	21名	7.0%	1,140名	4.9%
月に1～2回	83名	27.8%	5,780名	24.8%
ほとんどない	111名	37.1%	9,401名	40.4%
まったくない	54名	18.1%	4,910名	21.1%
無回答	9名	3.0%	375名	1.6%



【中学生】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
ほとんど毎日	8名	3.0%	583名	2.9%
週に4～5回	2名	0.7%	140名	0.7%
週に2～3回	2名	0.7%	257名	1.3%
週に1回程度	6名	2.2%	466名	2.3%
月に1～2回	51名	18.9%	3,195名	16.0%
ほとんどない	120名	44.4%	8,112名	40.6%
まったくない	78名	28.9%	7,020名	35.1%
無回答	3名	1.1%	217名	1.1%



ふだんの生活のことについて

問8 保護者との関係性 ⑩おうちの大人の人と一緒に外出するか（散歩する・買い物に出かける・外食をするなど）

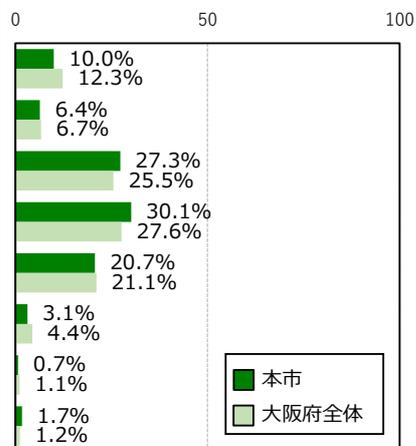
全体は、「週に1回程度」が30.1%で最も多く、次いで「週に2～3回」が27.3%、「月に1～2回」が20.7%、「ほとんど毎日」が10.0%となっている。

小学生は、「週に2～3回」が35.5%で最も多く、次いで「週に1回程度」が30.1%、「ほとんど毎日」が12.0%、「月に1～2回」が11.4%となっている。

中学生は、「月に1～2回」が31.5%で最も多く、次いで「週に1回程度」が30.4%、「週に2～3回」が17.4%、「ほとんど毎日」が8.1%となっている。

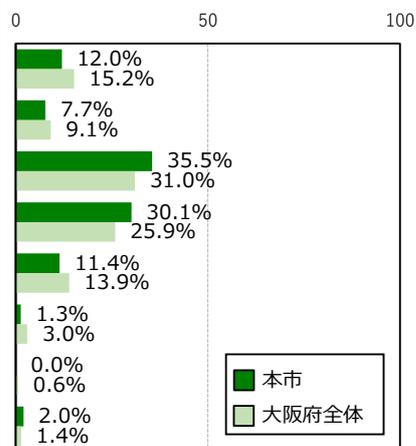
【全体】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
ほとんど毎日	58名	10.0%	5,338名	12.3%
週に4～5回	37名	6.4%	2,912名	6.7%
週に2～3回	158名	27.3%	11,055名	25.5%
週に1回程度	174名	30.1%	11,977名	27.6%
月に1～2回	120名	20.7%	9,161名	21.1%
ほとんどない	18名	3.1%	1,915名	4.4%
まったくない	4名	0.7%	483名	1.1%
無回答	10名	1.7%	529名	1.2%



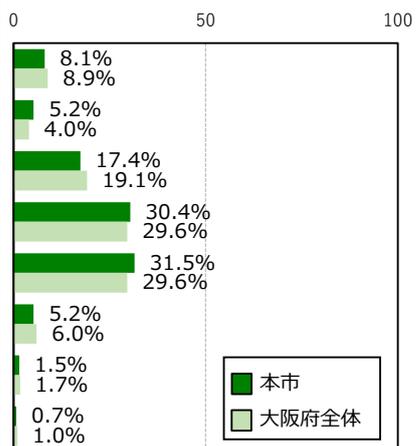
【小学生】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
ほとんど毎日	36名	12.0%	3,536名	15.2%
週に4～5回	23名	7.7%	2,109名	9.1%
週に2～3回	106名	35.5%	7,210名	31.0%
週に1回程度	90名	30.1%	6,032名	25.9%
月に1～2回	34名	11.4%	3,234名	13.9%
ほとんどない	4名	1.3%	705名	3.0%
まったくない	-	-	142名	0.6%
無回答	6名	2.0%	321名	1.4%



【中学生】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
ほとんど毎日	22名	8.1%	1,787名	8.9%
週に4～5回	14名	5.2%	798名	4.0%
週に2～3回	47名	17.4%	3,820名	19.1%
週に1回程度	82名	30.4%	5,925名	29.6%
月に1～2回	85名	31.5%	5,911名	29.6%
ほとんどない	14名	5.2%	1,207名	6.0%
まったくない	4名	1.5%	340名	1.7%
無回答	2名	0.7%	202名	1.0%



ふだんの生活のことについて

問9 毎日の生活で楽しいこと

全体は、「ともだちと一緒に過ごしているとき」が78.8%で最も多く、次いで「おうちの人と一緒に過ごしているとき」が60.3%、「学校生活やクラブ活動・部活動に参加しているとき」が52.2%、「ひとりで過ごしているとき」が50.1%となっている。

小学生は、「ともだちと一緒に過ごしているとき」が79.6%で最も多く、次いで「おうちの人と一緒に過ごしているとき」が69.6%、「学校生活やクラブ活動・部活動に参加しているとき」が50.2%、「ひとりで過ごしているとき」が42.5%となっている。

中学生は、「ともだちと一緒に過ごしているとき」が78.5%で最も多く、次いで「ひとりで過ごしているとき」が58.5%、「学校生活やクラブ活動・部活動に参加しているとき」が54.4%、「おうちの人と一緒に過ごしているとき」が50.7%となっている。

【全体】



【小学生】



【中学生】



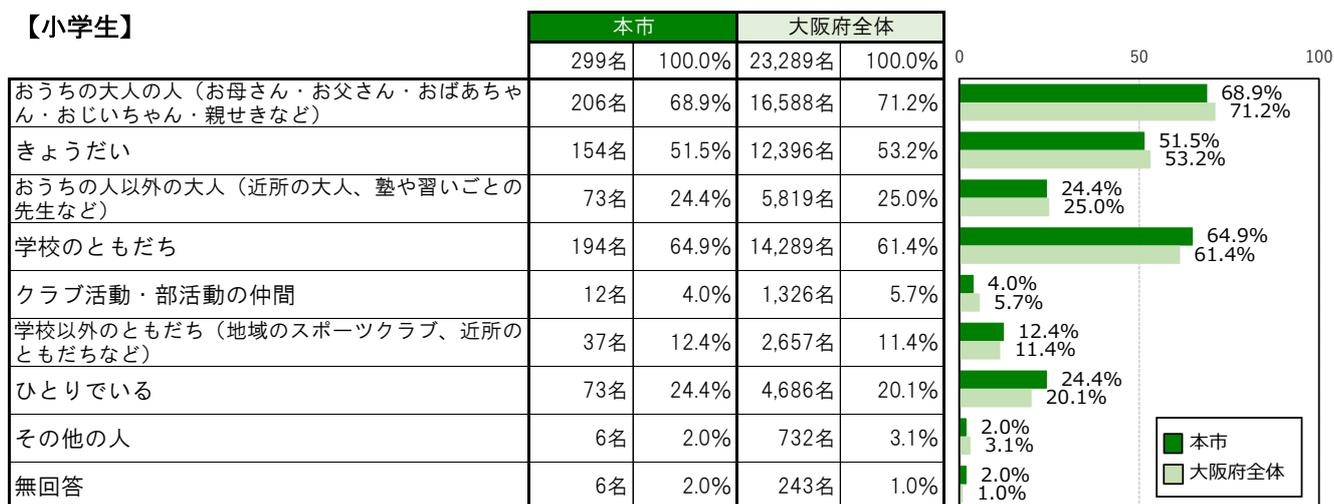
ふだんの生活のことについて

問10 放課後を一緒に過ごす人

全体は、「おうちの大人の人（お母さん・お父さん・おばあちゃん・おじいちゃん・親せきなど）」が66.5%で最も多く、次いで「学校のともだち」が54.1%、「きょうだい」が48.0%、「クラブ活動・部活動の仲間」が31.6%となっている。

小学生は、「おうちの大人の人（お母さん・お父さん・おばあちゃん・おじいちゃん・親せきなど）」が68.9%で最も多く、次いで「学校のともだち」が64.9%、「きょうだい」が51.5%、「おうちの人以外の大人（近所の大人、塾や習いごとの先生など）」、「ひとりである」がそれぞれ24.4%となっている。

中学生は、「おうちの大人の人（お母さん・お父さん・おばあちゃん・おじいちゃん・親せきなど）」が64.4%で最も多く、次いで「クラブ活動・部活動の仲間」が61.5%、「きょうだい」が44.4%、「学校のともだち」が42.6%となっている。



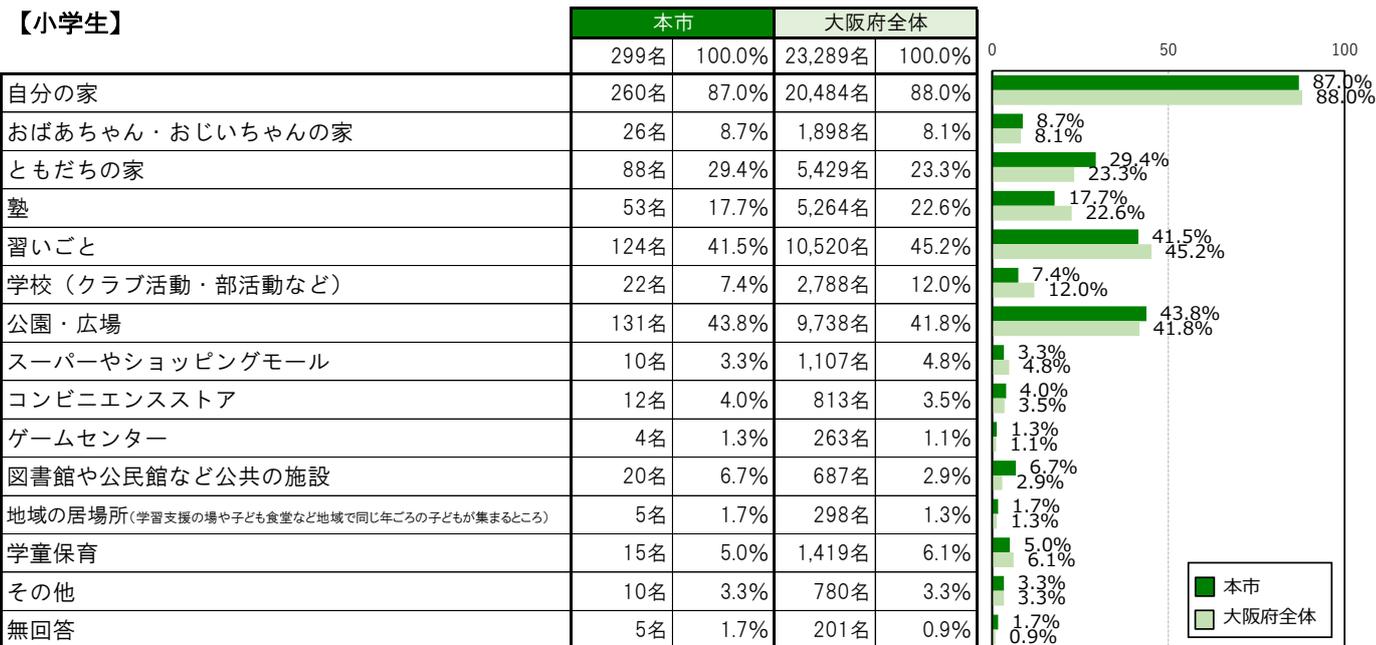
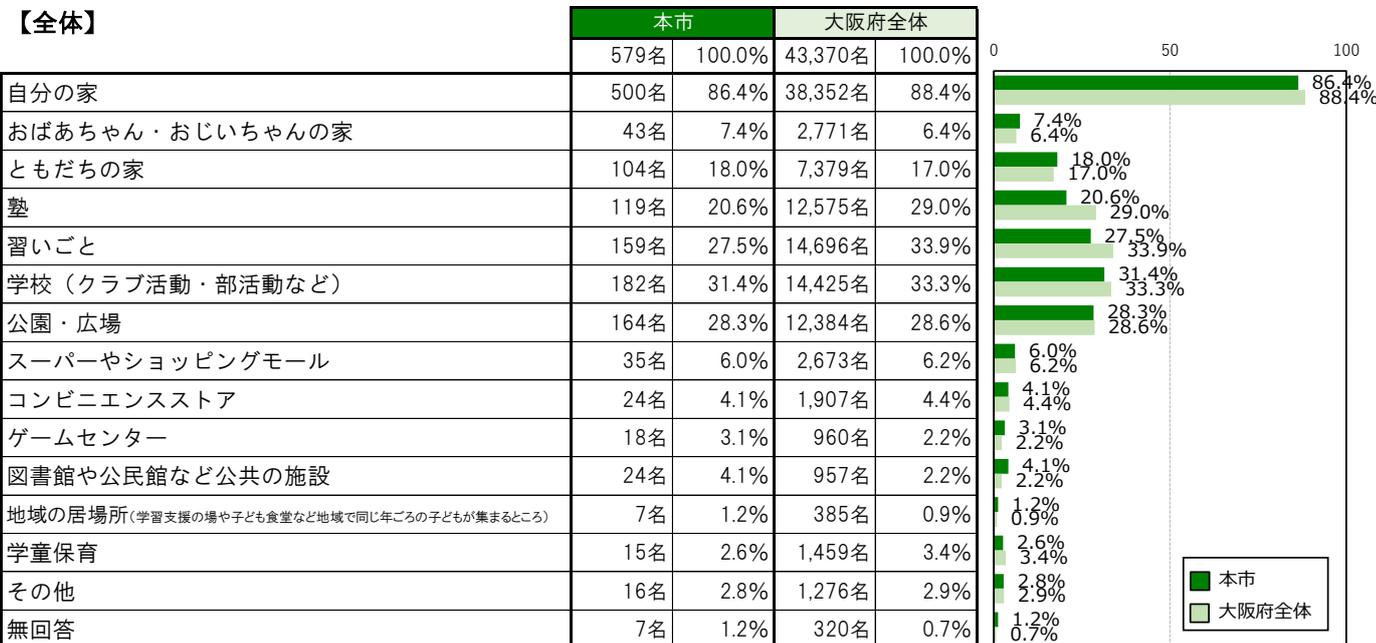
ふだんの生活のことについて

問11 放課後を過ごす場所

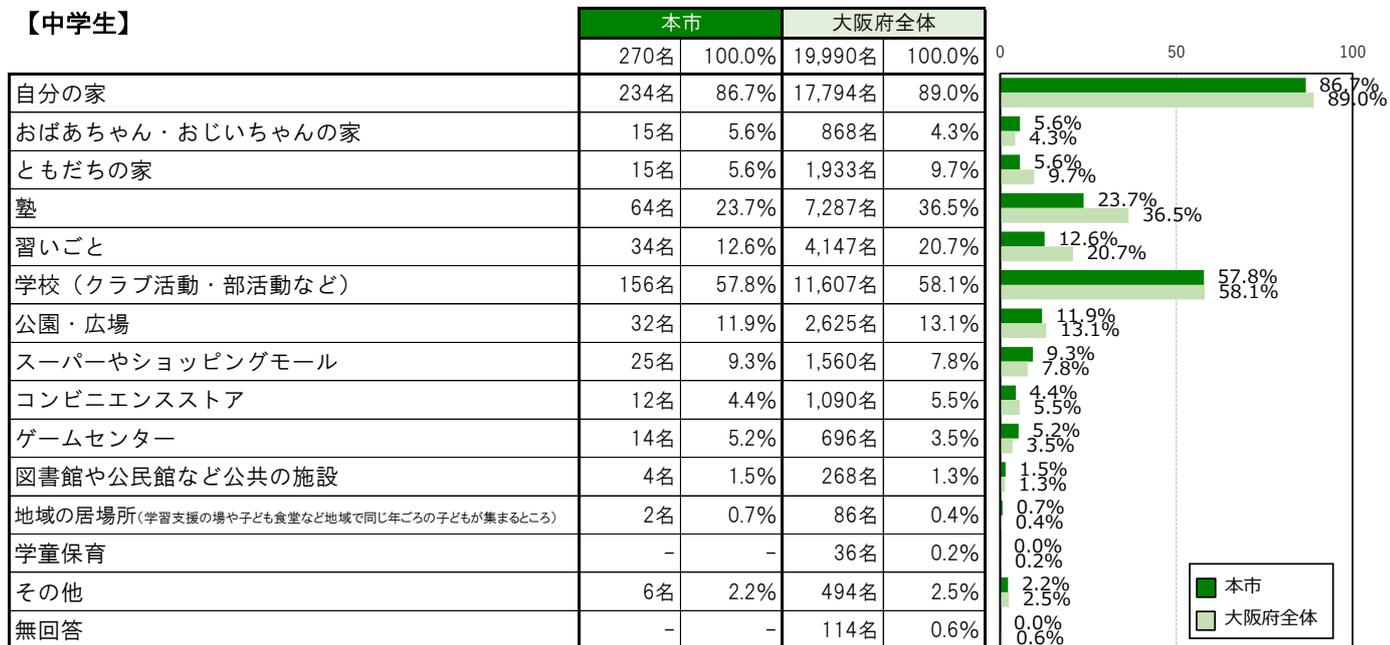
全体は、「自分の家」が86.4%で最も多く、次いで「学校（クラブ活動・部活動など）」が31.4%、「公園・広場」が28.3%、「習いごと」が27.5%となっている。

小学生は、「自分の家」が87.0%で最も多く、次いで「公園・広場」が43.8%、「習いごと」が41.5%、「ともだちの家」が29.4%となっている。

中学生は、「自分の家」が86.7%で最も多く、次いで「学校（クラブ活動・部活動など）」が57.8%、「塾」が23.7%、「習いごと」が12.6%となっている。



【中学生】



ふだんの生活のことについて

問12 授業以外の勉強状況

全体は、「自分で勉強する」が66.3%で最も多く、次いで「塾で勉強する」が34.9%、「おうちの人に教えてもらう」が30.9%、「ともだちと勉強する」が21.2%となっている。

小学生は、「自分で勉強する」が68.6%で最も多く、次いで「おうちの人に教えてもらう」が40.5%、「塾で勉強する」が29.8%、「ともだちと勉強する」が23.7%となっている。

中学生は、「自分で勉強する」が64.4%で最も多く、次いで「塾で勉強する」が40.7%、「おうちの人に教えてもらう」が20.7%、「ともだちと勉強する」が18.9%となっている。

【全体】



【小学生】



【中学生】



ふだんの生活のことについて

問13 授業時間以外の1日あたりの勉強時間 ①学校がある日(月～金曜日)

全体は、「30分以上、1時間より少ない」が24.2%で最も多く、次いで「1時間以上、2時間より少ない」が21.2%、「30分より少ない」が18.5%、「まったくしない」が13.0%となっている。

小学生は、「30分以上、1時間より少ない」が31.1%で最も多く、次いで「30分より少ない」、「1時間以上、2時間より少ない」がそれぞれ20.4%、「まったくしない」、「2時間以上、3時間より少ない」がそれぞれ8.7%となっている。

中学生は、「1時間以上、2時間より少ない」が22.6%で最も多く、次いで「まったくしない」が17.8%、「30分より少ない」が16.7%、「30分以上、1時間より少ない」が16.3%となっている。

【全体】



【小学生】



【中学生】



ふだんの生活のことについて

問13 授業時間以外の1日あたりの勉強時間 ②学校がない日（土・日曜日・祝日）

全体は、「まったくしない」が25.6%で最も多く、次いで「30分以上、1時間より少ない」が20.4%、「30分より少ない」が19.2%、「1時間以上、2時間より少ない」が15.5%となっている。

小学生は、「30分以上、1時間より少ない」が26.8%で最も多く、次いで「まったくしない」が22.4%、「30分より少ない」が21.7%、「1時間以上、2時間より少ない」が16.4%となっている。

中学生は、「まったくしない」が29.3%で最も多く、次いで「30分より少ない」、「1時間以上、2時間より少ない」がそれぞれ15.2%、「30分以上、1時間より少ない」が13.7%、「2時間以上、3時間より少ない」が11.5%となっている。

【全体】



【小学生】



【中学生】



ふだんの生活のことについて

問14（1）学校の勉強で気持ちに近いもの

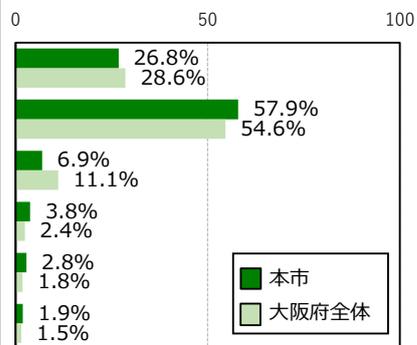
全体は、「だいたいわかる」が57.9%で最も多く、次いで「よくわかる」が26.8%、「あまりわからない」が6.9%、「ほとんどわからない」が3.8%となっている。

小学生は、「だいたいわかる」が58.5%で最も多く、次いで「よくわかる」が33.4%、「あまりわからない」が2.7%、「ほとんどわからない」が2.0%となっている。

中学生は、「だいたいわかる」が57.4%で最も多く、次いで「よくわかる」が20.0%、「あまりわからない」が11.5%、「ほとんどわからない」が5.9%となっている。

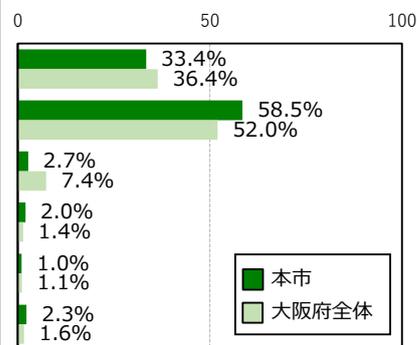
【全体】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
よくわかる	155名	26.8%	12,407名	28.6%
だいたいわかる	335名	57.9%	23,680名	54.6%
あまりわからない	40名	6.9%	4,834名	11.1%
ほとんどわからない	22名	3.8%	1,047名	2.4%
わからない	16名	2.8%	762名	1.8%
無回答	11名	1.9%	640名	1.5%



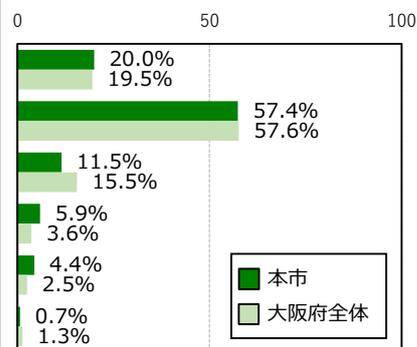
【小学生】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
よくわかる	100名	33.4%	8,481名	36.4%
だいたいわかる	175名	58.5%	12,116名	52.0%
あまりわからない	8名	2.7%	1,721名	7.4%
ほとんどわからない	6名	2.0%	331名	1.4%
わからない	3名	1.0%	258名	1.1%
無回答	7名	2.3%	382名	1.6%



【中学生】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
よくわかる	54名	20.0%	3,902名	19.5%
だいたいわかる	155名	57.4%	11,516名	57.6%
あまりわからない	31名	11.5%	3,103名	15.5%
ほとんどわからない	16名	5.9%	715名	3.6%
わからない	12名	4.4%	500名	2.5%
無回答	2名	0.7%	254名	1.3%



ふだんの生活のことについて

問14 (2) 授業がわからなくなった時期

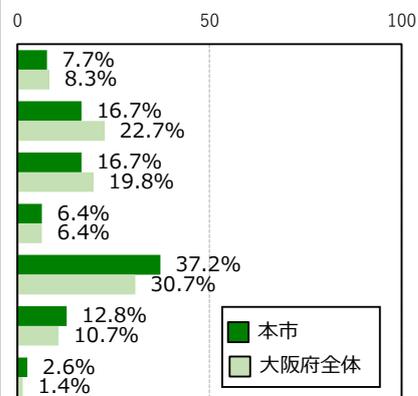
全体は、「中学1年生のころ」が37.2%で最も多く、次いで「小学3・4年生のころ」、「小学5年生になってから」がそれぞれ16.7%、「中学2年生になってから」が12.8%となっている。

小学生は、「小学3・4年生のころ」、「小学5年生になってから」がそれぞれ35.3%で最も多く、次いで「小学1・2年生のころ」が23.5%となっている。

中学生は、「中学1年生のころ」が47.5%で最も多く、次いで「中学2年生になってから」が15.3%、「小学3・4年生のころ」、「小学5年生になってから」がそれぞれ11.9%となっている。

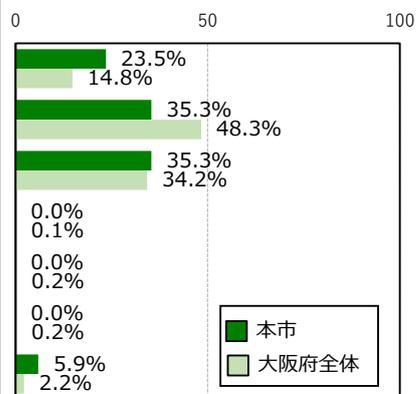
【全体】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
全体	78名	100.0%	6,577名	100.0%
小学1・2年生のころ	6名	7.7%	547名	8.3%
小学3・4年生のころ	13名	16.7%	1,494名	22.7%
小学5年生になってから	13名	16.7%	1,301名	19.8%
小学6年生のころ	5名	6.4%	420名	6.4%
中学1年生のころ	29名	37.2%	2,022名	30.7%
中学2年生になってから	10名	12.8%	701名	10.7%
無回答	2名	2.6%	92名	1.4%



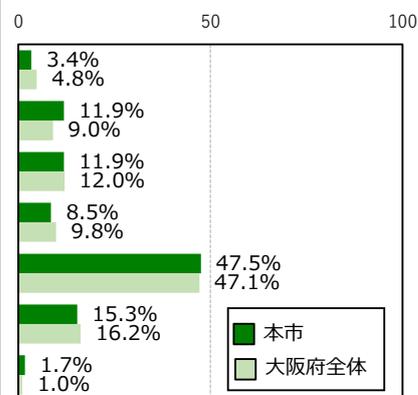
【小学生】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
全体	17名	100.0%	2,291名	100.0%
小学1・2年生のころ	4名	23.5%	339名	14.8%
小学3・4年生のころ	6名	35.3%	1,106名	48.3%
小学5年生になってから	6名	35.3%	784名	34.2%
小学6年生のころ	-	-	3名	0.1%
中学1年生のころ	-	-	5名	0.2%
中学2年生になってから	-	-	4名	0.2%
無回答	1名	5.9%	50名	2.2%



【中学生】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
全体	59名	100.0%	4,272名	100.0%
小学1・2年生のころ	2名	3.4%	206名	4.8%
小学3・4年生のころ	7名	11.9%	386名	9.0%
小学5年生になってから	7名	11.9%	513名	12.0%
小学6年生のころ	5名	8.5%	417名	9.8%
中学1年生のころ	28名	47.5%	2,014名	47.1%
中学2年生になってから	9名	15.3%	694名	16.2%
無回答	1名	1.7%	42名	1.0%



ふだんの生活のことについて

問15 授業以外の読書時間

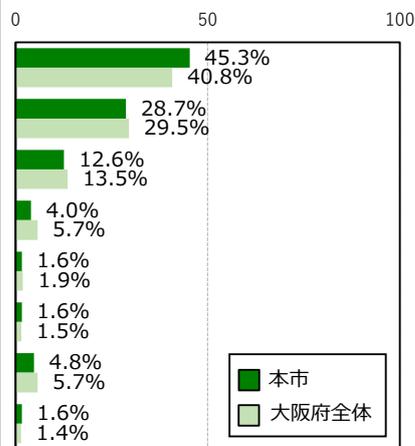
全体は、「まったくしない」が45.3%で最も多く、次いで「30分より少ない」が28.7%、「30分以上、1時間より少ない」が12.6%、「1時間以上、2時間より少ない」が4.0%となっている。

小学生は、「まったくしない」が42.1%で最も多く、次いで「30分より少ない」が30.1%、「30分以上、1時間より少ない」が12.0%、「1時間以上、2時間より少ない」が4.7%となっている。

中学生は、「まったくしない」が48.9%で最も多く、次いで「30分より少ない」が27.0%、「30分以上、1時間より少ない」が13.7%、「1時間以上、2時間より少ない」が3.0%となっている。

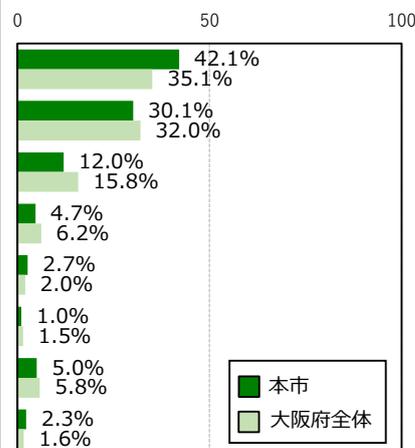
【全体】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
まったくしない	262名	45.3%	17,709名	40.8%
30分より少ない	166名	28.7%	12,811名	29.5%
30分以上、1時間より少ない	73名	12.6%	5,864名	13.5%
1時間以上、2時間より少ない	23名	4.0%	2,453名	5.7%
2時間以上、3時間より少ない	9名	1.6%	818名	1.9%
3時間以上	9名	1.6%	631名	1.5%
わからない	28名	4.8%	2,470名	5.7%
無回答	9名	1.6%	614名	1.4%



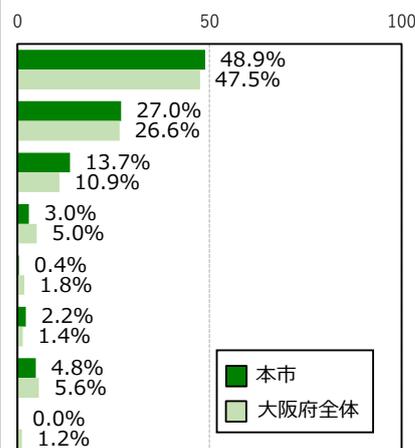
【小学生】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
まったくしない	126名	42.1%	8,177名	35.1%
30分より少ない	90名	30.1%	7,458名	32.0%
30分以上、1時間より少ない	36名	12.0%	3,685名	15.8%
1時間以上、2時間より少ない	14名	4.7%	1,440名	6.2%
2時間以上、3時間より少ない	8名	2.7%	463名	2.0%
3時間以上	3名	1.0%	354名	1.5%
わからない	15名	5.0%	1,346名	5.8%
無回答	7名	2.3%	366名	1.6%



【中学生】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
まったくしない	132名	48.9%	9,496名	47.5%
30分より少ない	73名	27.0%	5,324名	26.6%
30分以上、1時間より少ない	37名	13.7%	2,169名	10.9%
1時間以上、2時間より少ない	8名	3.0%	1,008名	5.0%
2時間以上、3時間より少ない	1名	0.4%	354名	1.8%
3時間以上	6名	2.2%	277名	1.4%
わからない	13名	4.8%	1,118名	5.6%
無回答	-	-	244名	1.2%



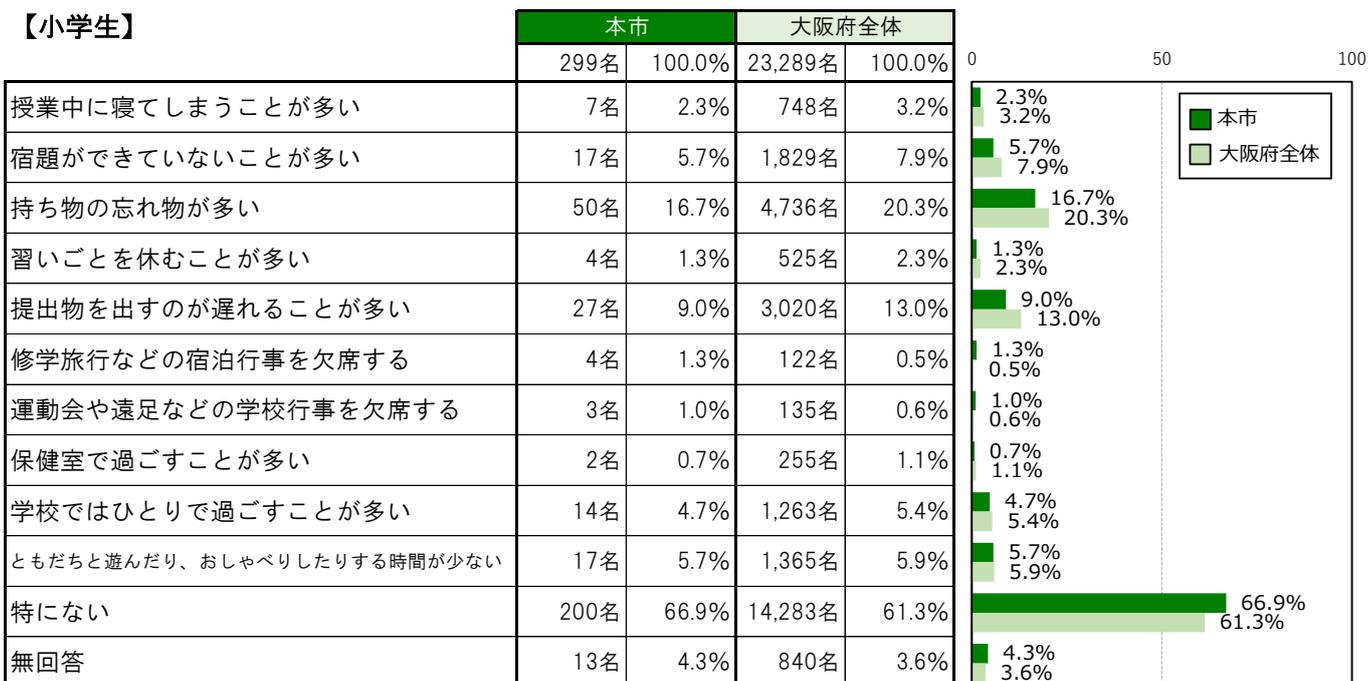
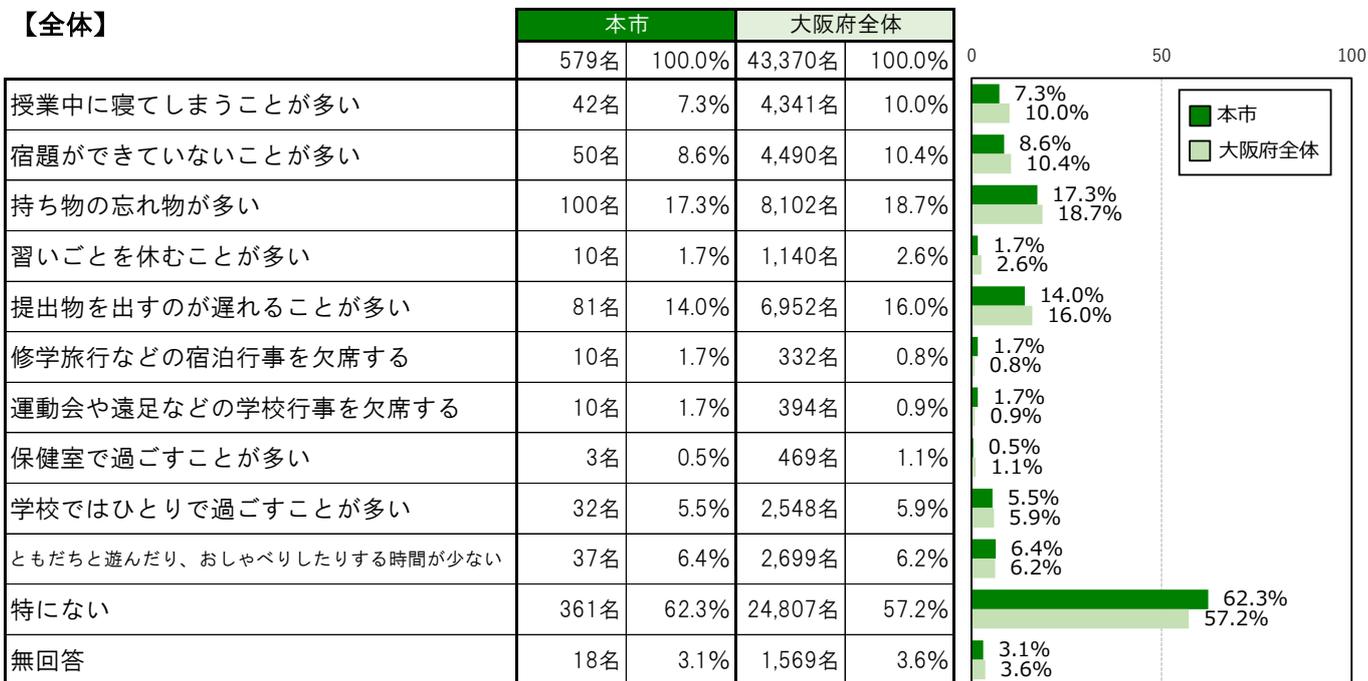
ふだんの生活のことについて

問16 学校や学校の行事等の状況

全体は、「持ち物の忘れ物が多い」が17.3%で最も多く、次いで「提出物を出すのが遅れることが多い」が14.0%、「宿題ができていないことが多い」が8.6%、「授業中に寝てしまうことが多い」が7.3%となっている。

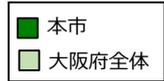
小学生は、「持ち物の忘れ物が多い」が16.7%で最も多く、次いで「提出物を出すのが遅れることが多い」が9.0%、「宿題ができていないことが多い」、「ともだちと遊んだり、おしゃべりしたりする時間が少ない」がそれぞれ5.7%、「学校ではひとりで過ごすことが多い」が4.7%となっている。

中学生は、「提出物を出すのが遅れることが多い」が19.3%で最も多く、次いで「持ち物の忘れ物が多い」が18.1%、「授業中に寝てしまうことが多い」が12.2%、「宿題ができていないことが多い」が11.5%となっている。



【中学生】

	本市		大阪府全体		0	50	100
	270名	100.0%	19,990名	100.0%			
授業中に寝てしまうことが多い	33名	12.2%	3,581名	17.9%	12.2%	17.9%	
宿題ができていないことが多い	31名	11.5%	2,650名	13.3%	11.5%	13.3%	
持ち物の忘れ物が多い	49名	18.1%	3,342名	16.7%	18.1%	16.7%	
習いごとを休むことが多い	6名	2.2%	612名	3.1%	2.2%	3.1%	
提出物を出すのが遅れることが多い	52名	19.3%	3,912名	19.6%	19.3%	19.6%	
修学旅行などの宿泊行事を欠席する	6名	2.2%	208名	1.0%	2.2%	1.0%	
運動会や遠足などの学校行事を欠席する	7名	2.6%	258名	1.3%	2.6%	1.3%	
保健室で過ごすことが多い	1名	0.4%	214名	1.1%	0.4%	1.1%	
学校ではひとりで過ごすことが多い	17名	6.3%	1,281名	6.4%	6.3%	6.4%	
ともだちと遊んだり、おしゃべりしたりする時間が少ない	19名	7.0%	1,331名	6.7%	7.0%	6.7%	
特にない	157名	58.1%	10,481名	52.4%	58.1%	52.4%	
無回答	4名	1.5%	721名	3.6%	1.5%	3.6%	



ふだんの生活のことについて

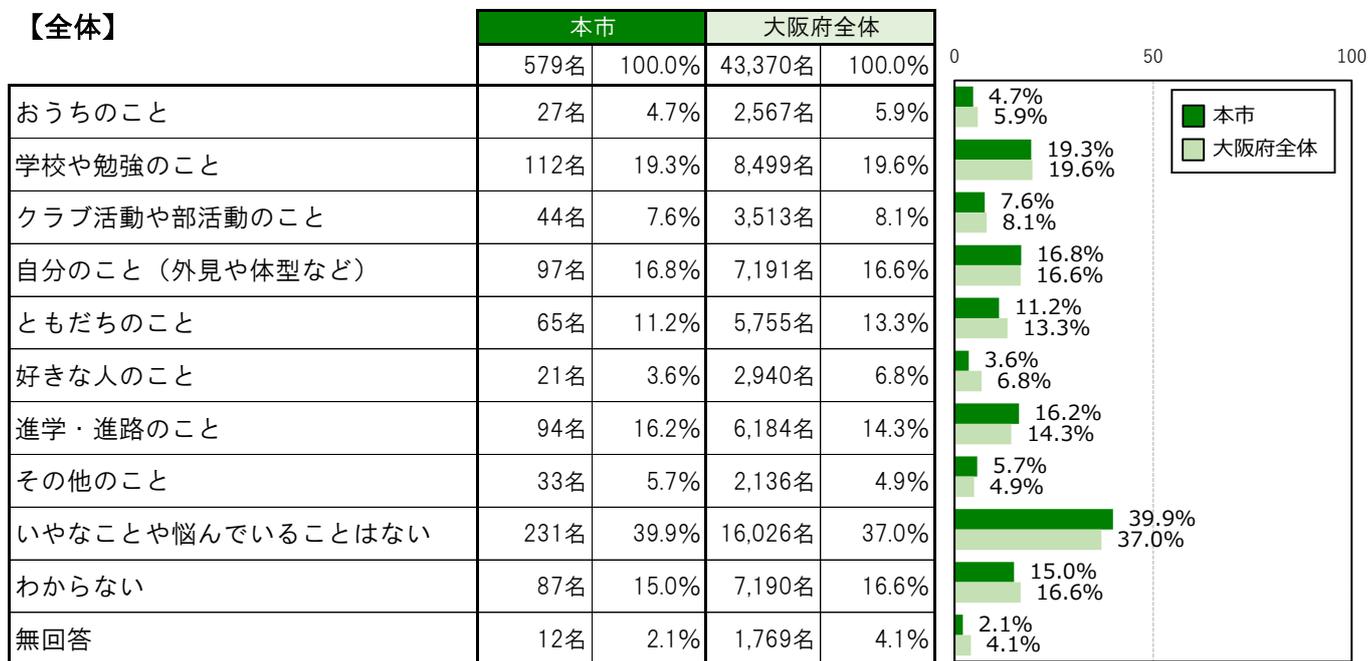
問17 嫌なことや悩んでいること

全体は、「いやなことや悩んでいることはない」が39.9%で最も多く、次いで「学校や勉強のこと」が19.3%、「自分のこと（外見や体型など）」が16.8%、「進学・進路のこと」が16.2%となっている。

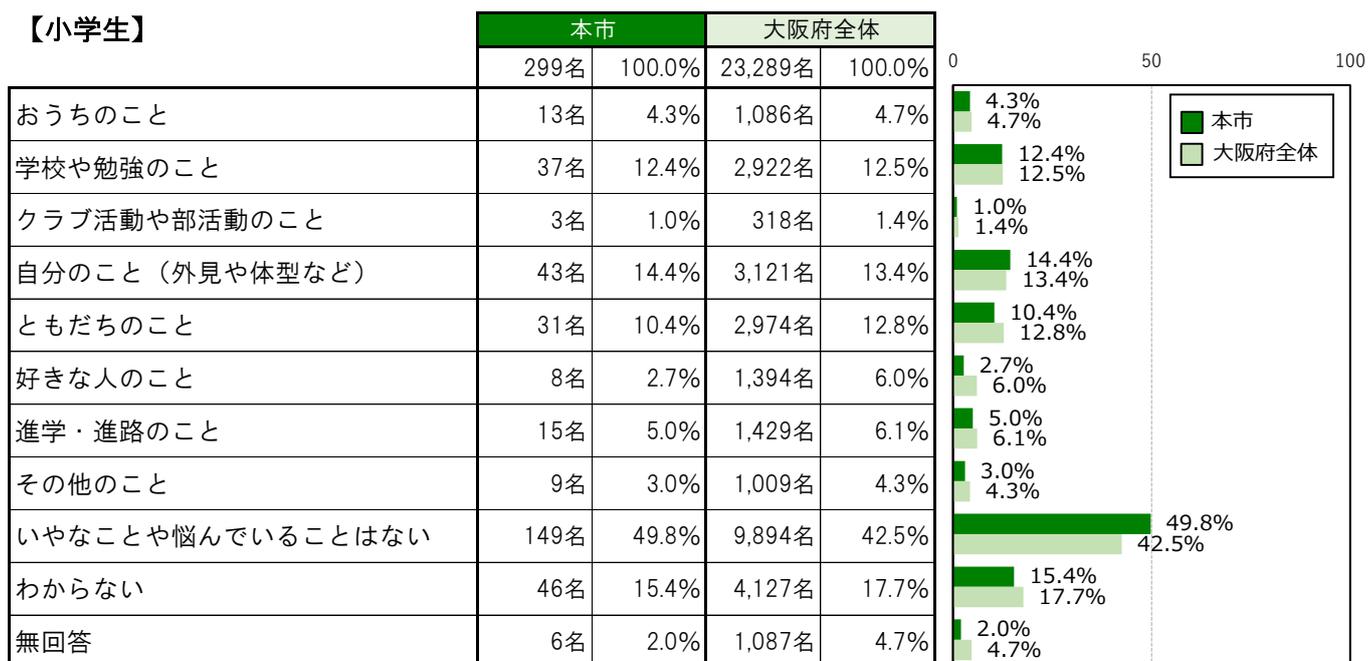
小学生は、「いやなことや悩んでいることはない」が49.8%で最も多く、次いで「自分のこと（外見や体型など）」が14.4%、「学校や勉強のこと」が12.4%、「ともだちのこと」が10.4%となっている。

中学生は、「いやなことや悩んでいることはない」が29.3%で最も多く、次いで「進学・進路のこと」が28.9%、「学校や勉強のこと」が27.4%、「自分のこと（外見や体型など）」が20.0%となっている。

【全体】

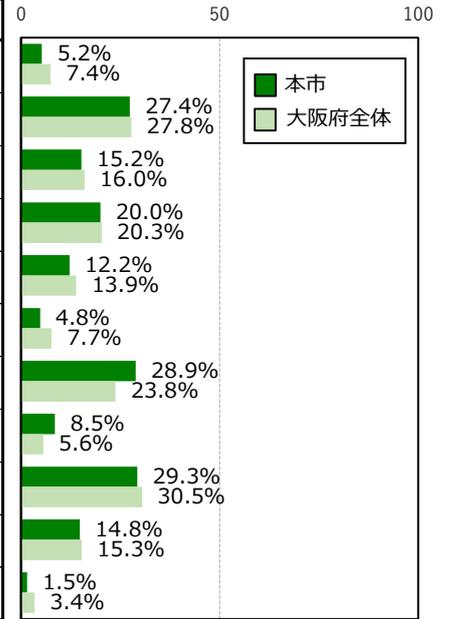


【小学生】



【中学生】

	本市		大阪府全体	
	270名	100.0%	19,990名	100.0%
おうちのこと	14名	5.2%	1,477名	7.4%
学校や勉強のこと	74名	27.4%	5,564名	27.8%
クラブ活動や部活動のこと	41名	15.2%	3,190名	16.0%
自分のこと（外見や体型など）	54名	20.0%	4,061名	20.3%
ともだちのこと	33名	12.2%	2,774名	13.9%
好きな人のこと	13名	4.8%	1,544名	7.7%
進学・進路のこと	78名	28.9%	4,748名	23.8%
その他のこと	23名	8.5%	1,120名	5.6%
いやなことや悩んでいることはない	79名	29.3%	6,096名	30.5%
わからない	40名	14.8%	3,051名	15.3%
無回答	4名	1.5%	671名	3.4%



ふだんの生活のことについて

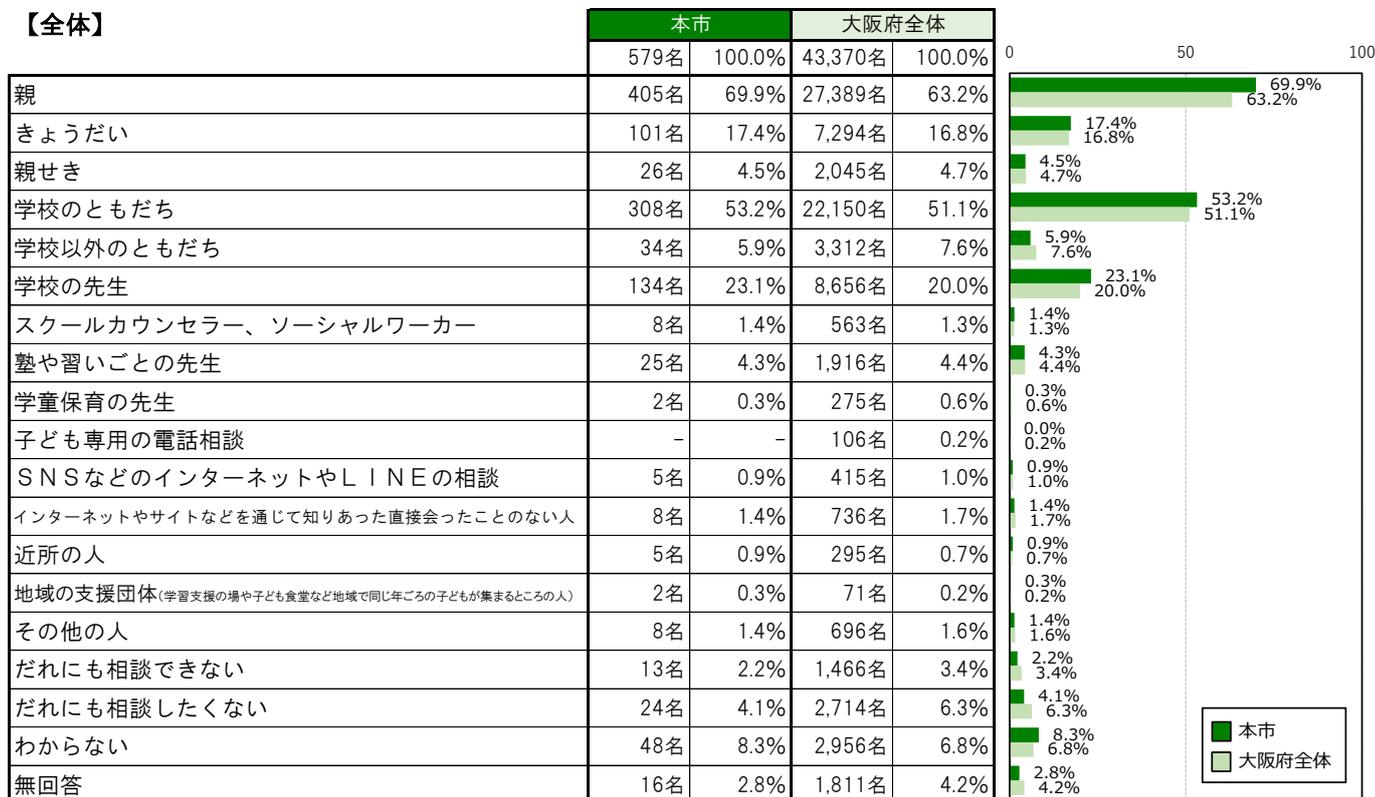
問18 嫌なことや悩んでいるときの相談相手

全体は、「親」が69.9%で最も多く、次いで「学校のともだち」が53.2%、「学校の先生」が23.1%、「きょうだい」が17.4%となっている。

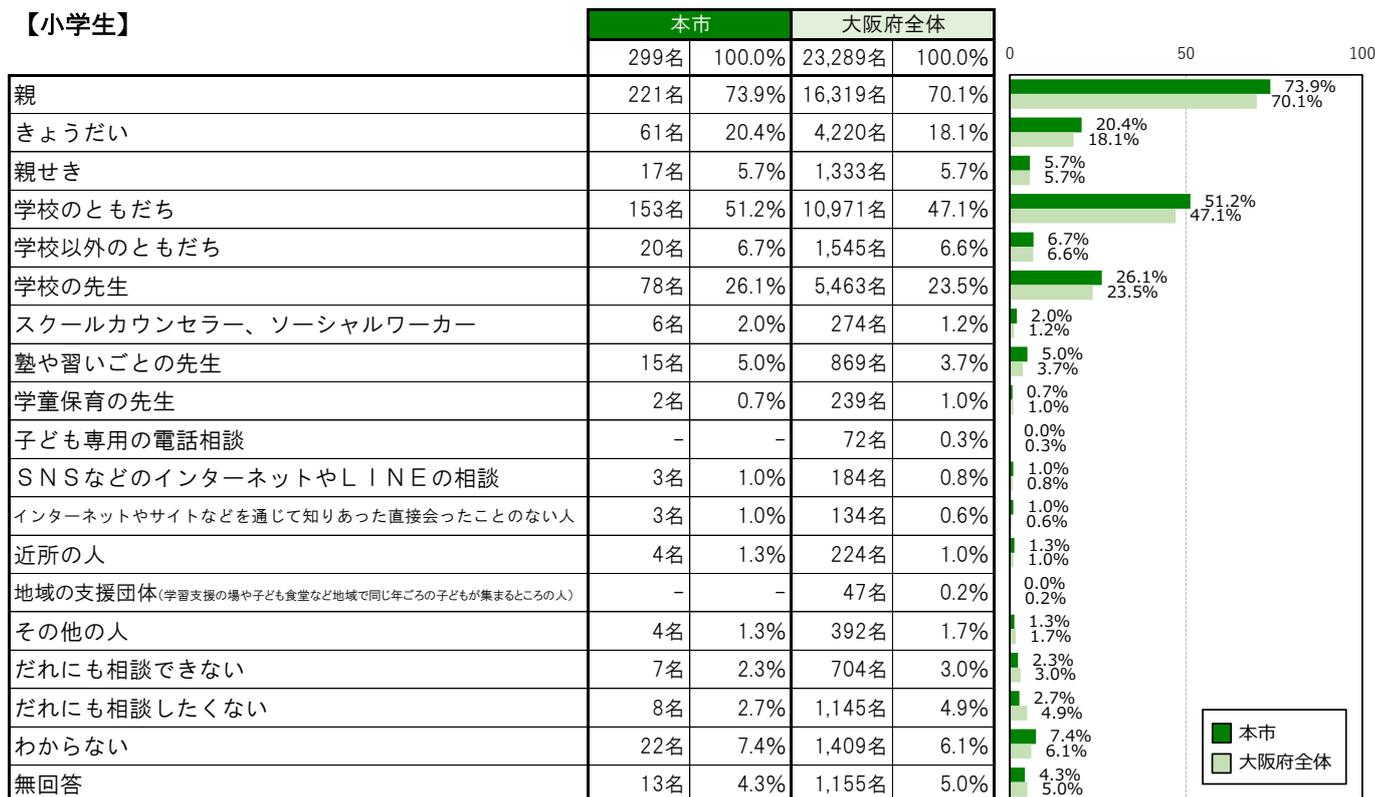
小学生は、「親」が73.9%で最も多く、次いで「学校のともだち」が51.2%、「学校の先生」が26.1%、「きょうだい」が20.4%となっている。

中学生は、「親」が65.9%で最も多く、次いで「学校のともだち」が55.9%、「学校の先生」が19.6%、「きょうだい」が14.4%となっている。

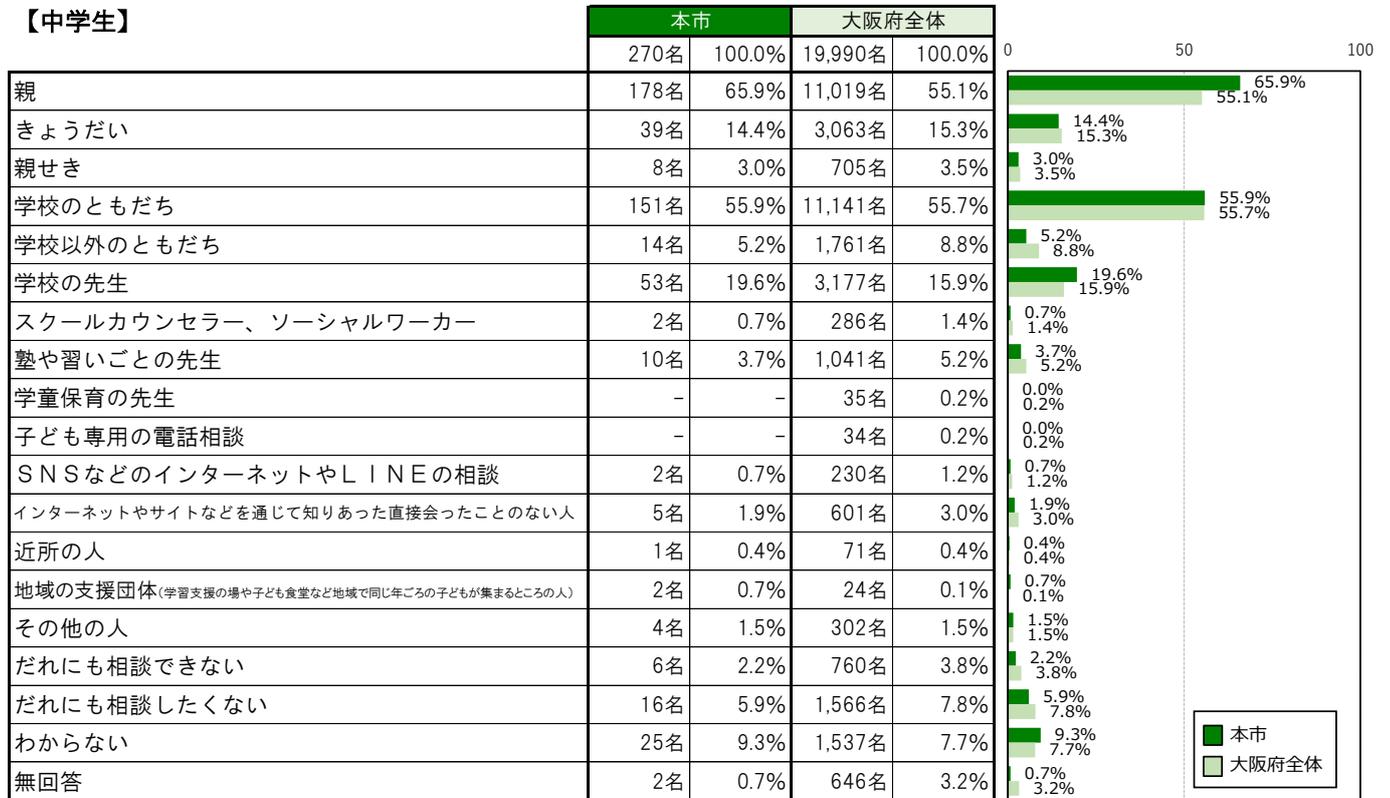
【全体】



【小学生】



【中学生】



ふだんの生活のことについて

問19 この一週間の気持ちの状況 ①楽しみにしていることがたくさんある

全体は、「ときどきそうだ」が48.0%で最も多く、次いで「いつもそうだ」が43.2%、「そんなことはない」が6.6%となっている。

小学生は、「いつもそうだ」が48.8%で最も多く、次いで「ときどきそうだ」が45.8%、「そんなことはない」が3.0%となっている。

中学生は、「ときどきそうだ」が49.6%で最も多く、次いで「いつもそうだ」が37.8%、「そんなことはない」が10.7%となっている。

【全体】



【小学生】



【中学生】



ふだんの生活のことについて

問19 この一週間の気持ちの状況 ②遊びにでかけるのが好きだ

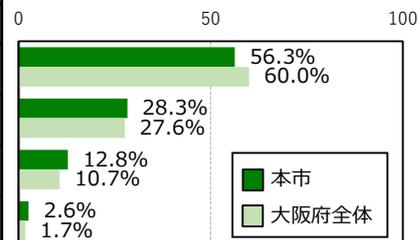
全体は、「いつもそうだ」が56.3%で最も多く、次いで「ときどきそうだ」が28.3%、「そんなことはない」が12.8%となっている。

小学生は、「いつもそうだ」が60.2%で最も多く、次いで「ときどきそうだ」が25.1%、「そんなことはない」が11.4%となっている。

中学生は、「いつもそうだ」が51.9%で最も多く、次いで「ときどきそうだ」が32.6%、「そんなことはない」が14.1%となっている。

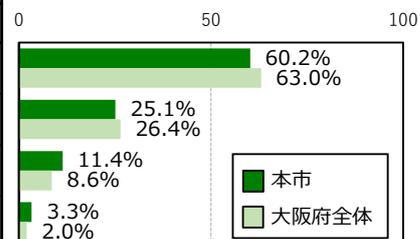
【全体】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いつもそうだ	326名	56.3%	26,039名	60.0%
ときどきそうだ	164名	28.3%	11,956名	27.6%
そんなことはない	74名	12.8%	4,638名	10.7%
無回答	15名	2.6%	737名	1.7%



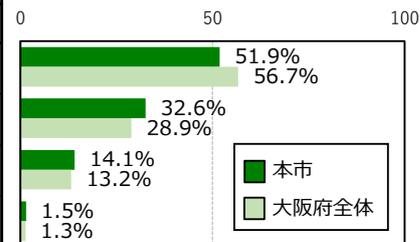
【小学生】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いつもそうだ	180名	60.2%	14,666名	63.0%
ときどきそうだ	75名	25.1%	6,154名	26.4%
そんなことはない	34名	11.4%	1,996名	8.6%
無回答	10名	3.3%	473名	2.0%



【中学生】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いつもそうだ	140名	51.9%	11,325名	56.7%
ときどきそうだ	88名	32.6%	5,773名	28.9%
そんなことはない	38名	14.1%	2,634名	13.2%
無回答	4名	1.5%	258名	1.3%



ふだんの生活のことについて

問19 この一週間の気持ちの状況 ③元気いっぱい

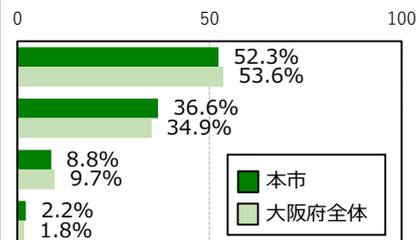
全体は、「いつもそうだ」が52.3%で最も多く、次いで「ときどきそうだ」が36.6%、「そんなことはない」が8.8%となっている。

小学生は、「いつもそうだ」が63.9%で最も多く、次いで「ときどきそうだ」が30.4%、「そんなことはない」が3.3%となっている。

中学生は、「ときどきそうだ」が43.0%で最も多く、次いで「いつもそうだ」が40.0%、「そんなことはない」が15.2%となっている。

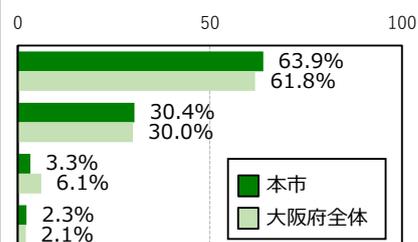
【全体】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いつもそうだ	303名	52.3%	23,234名	53.6%
ときどきそうだ	212名	36.6%	15,146名	34.9%
そんなことはない	51名	8.8%	4,217名	9.7%
無回答	13名	2.2%	773名	1.8%



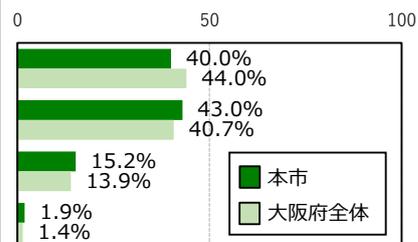
【小学生】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いつもそうだ	191名	63.9%	14,397名	61.8%
ときどきそうだ	91名	30.4%	6,978名	30.0%
そんなことはない	10名	3.3%	1,431名	6.1%
無回答	7名	2.3%	483名	2.1%



【中学生】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いつもそうだ	108名	40.0%	8,796名	44.0%
ときどきそうだ	116名	43.0%	8,128名	40.7%
そんなことはない	41名	15.2%	2,782名	13.9%
無回答	5名	1.9%	284名	1.4%



ふだんの生活のことについて

問19 この一週間の気持ちの状況 ④やろうと思ったことがうまくできる

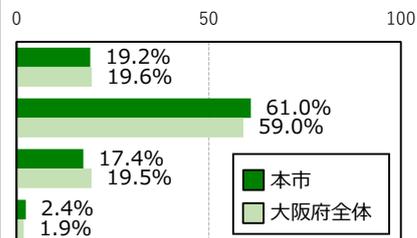
全体は、「ときどきそうだ」が61.0%で最も多く、次いで「いつもそうだ」が19.2%、「そんなことはない」が17.4%となっている。

小学生は、「ときどきそうだ」が60.2%で最も多く、次いで「いつもそうだ」が24.7%、「そんなことはない」が12.0%となっている。

中学生は、「ときどきそうだ」が61.1%で最も多く、次いで「そんなことはない」が23.7%、「いつもそうだ」が13.7%となっている。

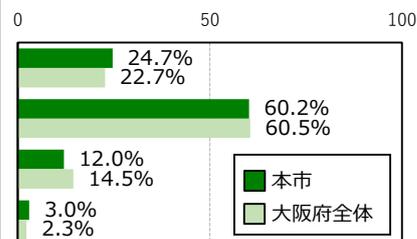
【全体】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いつもそうだ	111名	19.2%	8,503名	19.6%
ときどきそうだ	353名	61.0%	25,567名	59.0%
そんなことはない	101名	17.4%	8,460名	19.5%
無回答	14名	2.4%	840名	1.9%



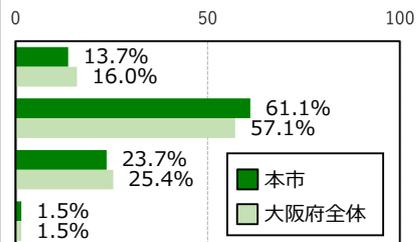
【小学生】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いつもそうだ	74名	24.7%	5,283名	22.7%
ときどきそうだ	180名	60.2%	14,099名	60.5%
そんなことはない	36名	12.0%	3,367名	14.5%
無回答	9名	3.0%	540名	2.3%



【中学生】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いつもそうだ	37名	13.7%	3,199名	16.0%
ときどきそうだ	165名	61.1%	11,416名	57.1%
そんなことはない	64名	23.7%	5,081名	25.4%
無回答	4名	1.5%	294名	1.5%



ふだんの生活のことについて

問19 この一週間の気持ちの状況 ⑤一人ぼっちのような気がする

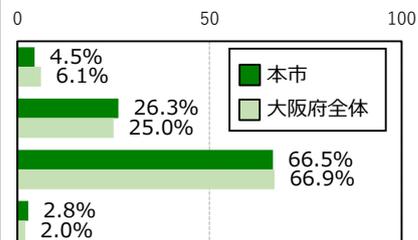
全体は、「そんなことはない」が66.5%で最も多く、次いで「ときどきそうだ」が26.3%、「いつもそうだ」が4.5%となっている。

小学生は、「そんなことはない」が71.9%で最も多く、次いで「ときどきそうだ」が21.7%、「いつもそうだ」が3.3%となっている。

中学生は、「そんなことはない」が61.1%で最も多く、次いで「ときどきそうだ」が31.1%、「いつもそうだ」が5.9%となっている。

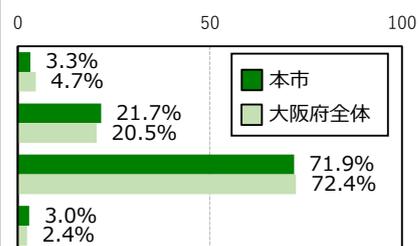
【全体】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いつもそうだ	26名	4.5%	2,628名	6.1%
ときどきそうだ	152名	26.3%	10,860名	25.0%
そんなことはない	385名	66.5%	29,021名	66.9%
無回答	16名	2.8%	861名	2.0%



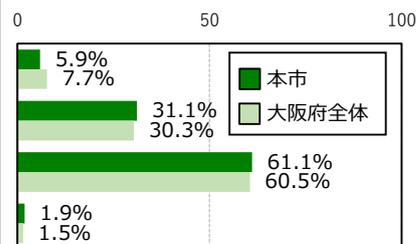
【小学生】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いつもそうだ	10名	3.3%	1,091名	4.7%
ときどきそうだ	65名	21.7%	4,776名	20.5%
そんなことはない	215名	71.9%	16,872名	72.4%
無回答	9名	3.0%	550名	2.4%



【中学生】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いつもそうだ	16名	5.9%	1,534名	7.7%
ときどきそうだ	84名	31.1%	6,057名	30.3%
そんなことはない	165名	61.1%	12,095名	60.5%
無回答	5名	1.9%	304名	1.5%



ふだんの生活のことについて

問19 この一週間の気持ちの状況 ⑥不安な気持ちになる

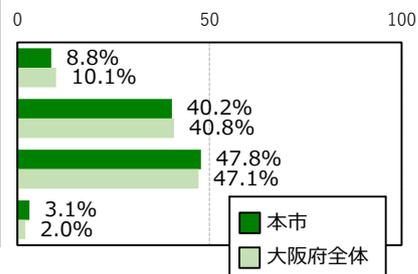
全体は、「そんなことはない」が47.8%で最も多く、次いで「ときどきそうだ」が40.2%、「いつもそうだ」が8.8%となっている。

小学生は、「そんなことはない」が53.8%で最も多く、次いで「ときどきそうだ」が36.8%、「いつもそうだ」が6.4%となっている。

中学生は、「ときどきそうだ」が44.1%で最も多く、次いで「そんなことはない」が41.5%、「いつもそうだ」が11.9%となっている。

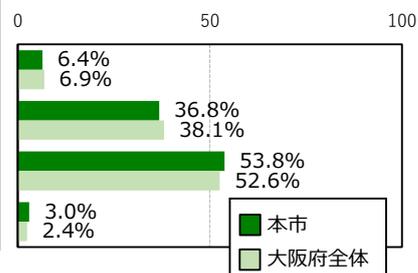
【全体】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いつもそうだ	51名	8.8%	4,369名	10.1%
ときどきそうだ	233名	40.2%	17,713名	40.8%
そんなことはない	277名	47.8%	20,421名	47.1%
無回答	18名	3.1%	867名	2.0%



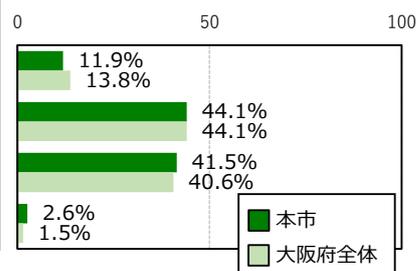
【小学生】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いつもそうだ	19名	6.4%	1,616名	6.9%
ときどきそうだ	110名	36.8%	8,865名	38.1%
そんなことはない	161名	53.8%	12,251名	52.6%
無回答	9名	3.0%	557名	2.4%



【中学生】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いつもそうだ	32名	11.9%	2,750名	13.8%
ときどきそうだ	119名	44.1%	8,814名	44.1%
そんなことはない	112名	41.5%	8,122名	40.6%
無回答	7名	2.6%	304名	1.5%



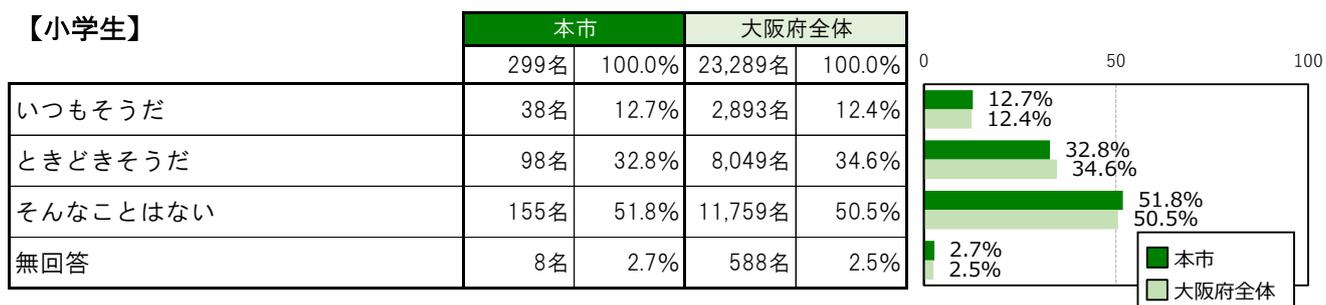
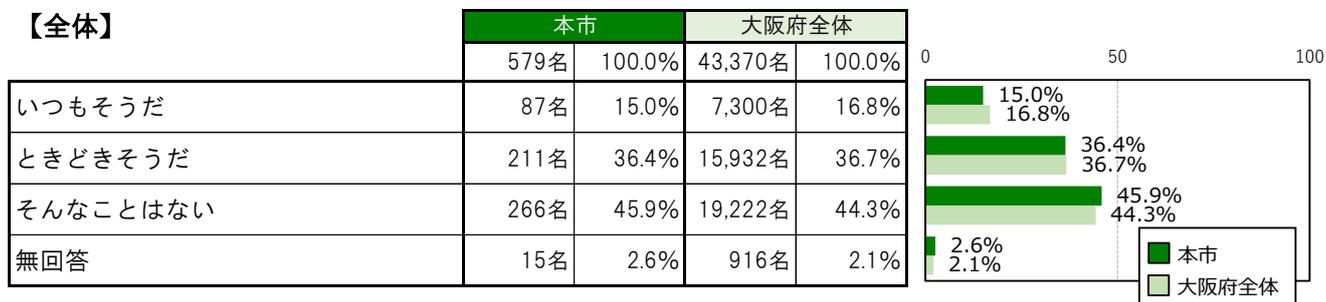
ふだんの生活のことについて

問19 この一週間の気持ちの状況 ⑦まわりが気になる

全体は、「そんなことはない」が45.9%で最も多く、次いで「ときどきそうだ」が36.4%、「いつもそうだ」が15.0%となっている。

小学生は、「そんなことはない」が51.8%で最も多く、次いで「ときどきそうだ」が32.8%、「いつもそうだ」が12.7%となっている。

中学生は、「ときどきそうだ」が40.4%で最も多く、次いで「そんなことはない」が40.0%、「いつもそうだ」が17.8%となっている。



ふだんの生活のことについて

問19 この一週間の気持ちの状況 ⑧やる気が起きない

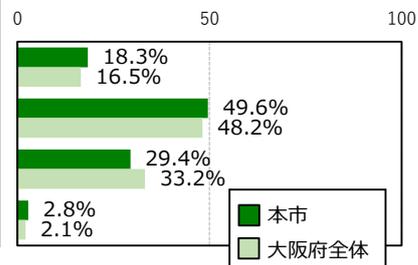
全体は、「ときどきそうだ」が49.6%で最も多く、次いで「そんなことはない」が29.4%、「いつもそうだ」が18.3%となっている。

小学生は、「ときどきそうだ」が50.2%で最も多く、次いで「そんなことはない」が35.1%、「いつもそうだ」が11.4%となっている。

中学生は、「ときどきそうだ」が48.5%で最も多く、次いで「いつもそうだ」が26.3%、「そんなことはない」が23.3%となっている。

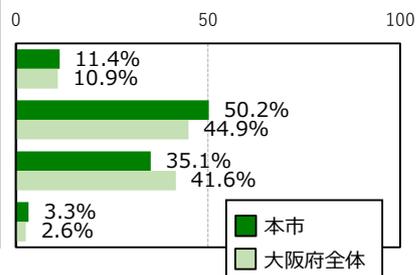
【全体】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いつもそうだ	106名	18.3%	7,152名	16.5%
ときどきそうだ	287名	49.6%	20,902名	48.2%
そんなことはない	170名	29.4%	14,387名	33.2%
無回答	16名	2.8%	929名	2.1%



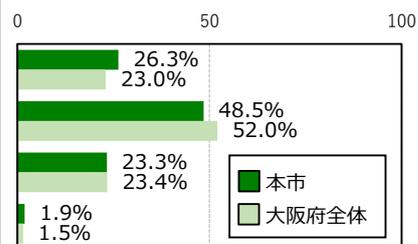
【小学生】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いつもそうだ	34名	11.4%	2,541名	10.9%
ときどきそうだ	150名	50.2%	10,454名	44.9%
そんなことはない	105名	35.1%	9,677名	41.6%
無回答	10名	3.3%	617名	2.6%



【中学生】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いつもそうだ	71名	26.3%	4,606名	23.0%
ときどきそうだ	131名	48.5%	10,396名	52.0%
そんなことはない	63名	23.3%	4,682名	23.4%
無回答	5名	1.9%	306名	1.5%



ふだんの生活のことについて

問19 この一週間の気持ちの状況 ⑨いろいろする

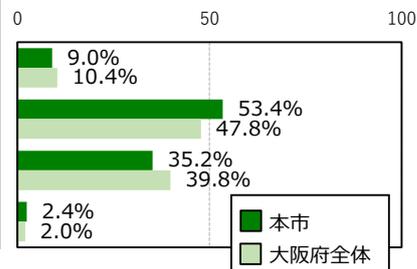
全体は、「ときどきそうだ」が53.4%で最も多く、次いで「そんなことはない」が35.2%、「いつもそうだ」が9.0%となっている。

小学生は、「ときどきそうだ」が50.5%で最も多く、次いで「そんなことはない」が36.1%、「いつもそうだ」が10.7%となっている。

中学生は、「ときどきそうだ」が56.7%で最も多く、次いで「そんなことはない」が34.8%、「いつもそうだ」が6.7%となっている。

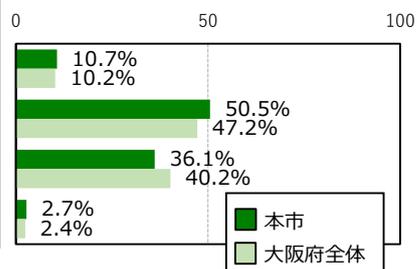
【全体】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いつもそうだ	52名	9.0%	4,525名	10.4%
ときどきそうだ	309名	53.4%	20,712名	47.8%
そんなことはない	204名	35.2%	17,270名	39.8%
無回答	14名	2.4%	863名	2.0%



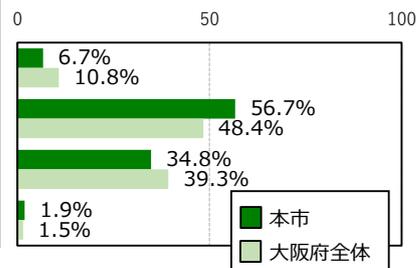
【小学生】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いつもそうだ	32名	10.7%	2,364名	10.2%
ときどきそうだ	151名	50.5%	10,997名	47.2%
そんなことはない	108名	36.1%	9,370名	40.2%
無回答	8名	2.7%	558名	2.4%



【中学生】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いつもそうだ	18名	6.7%	2,152名	10.8%
ときどきそうだ	153名	56.7%	9,674名	48.4%
そんなことはない	94名	34.8%	7,865名	39.3%
無回答	5名	1.9%	299名	1.5%



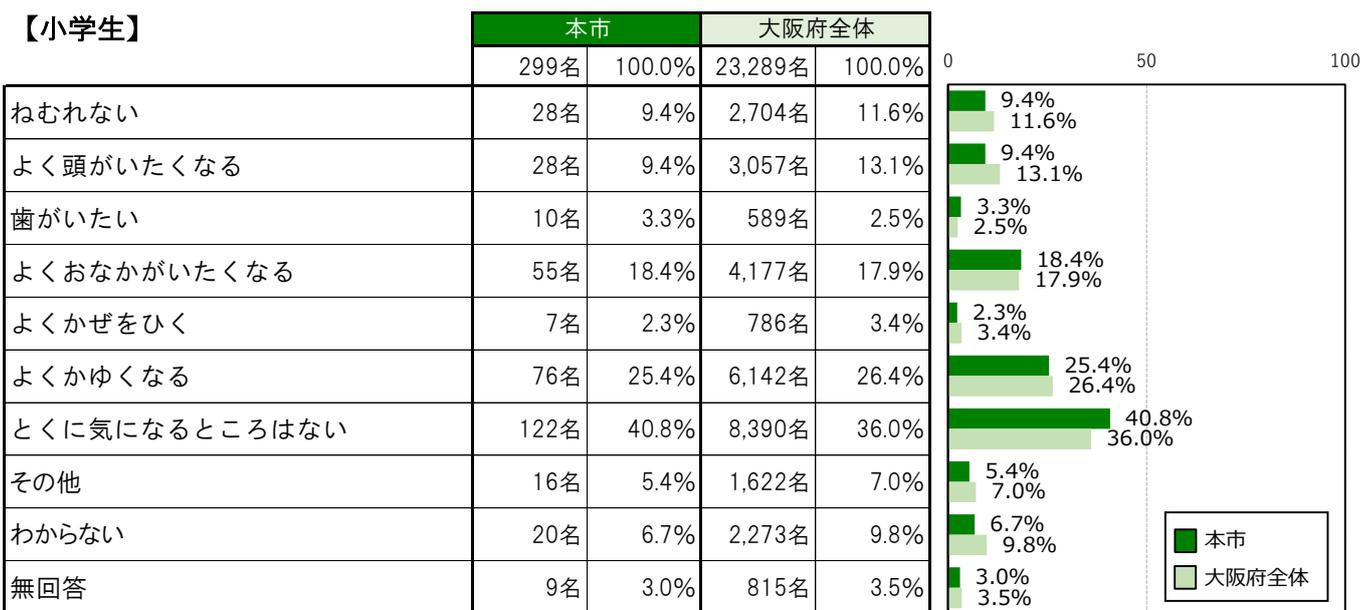
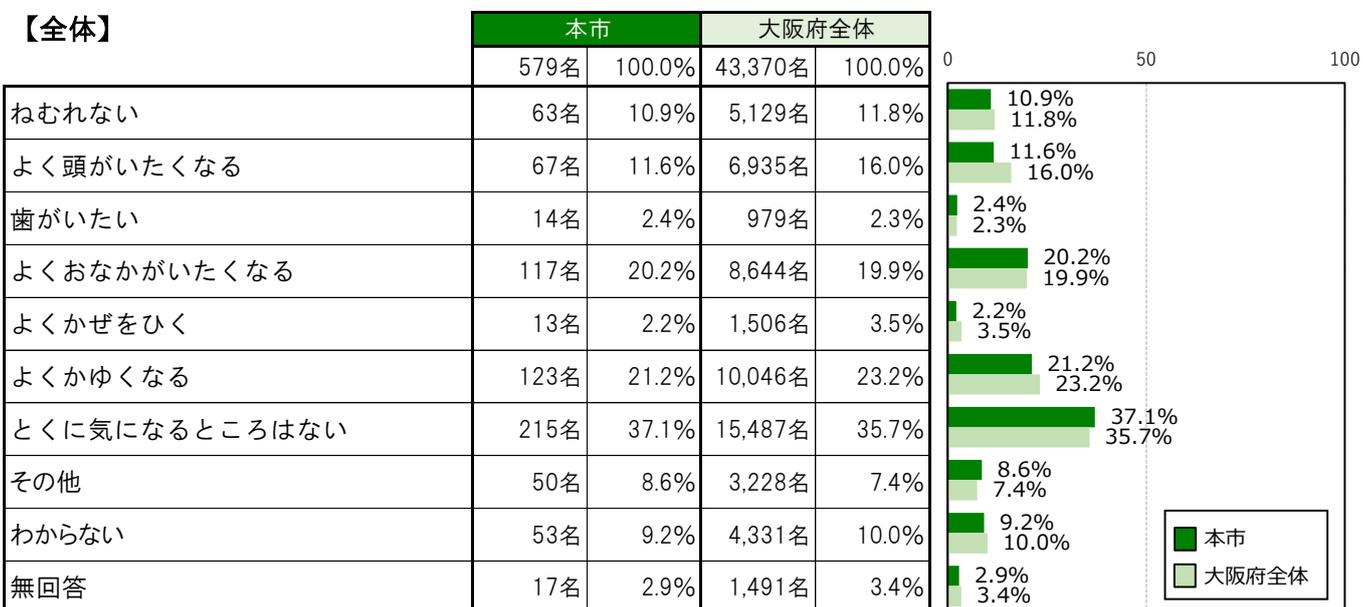
ふだんの生活のことについて

問20 自分の体の状態で気になること

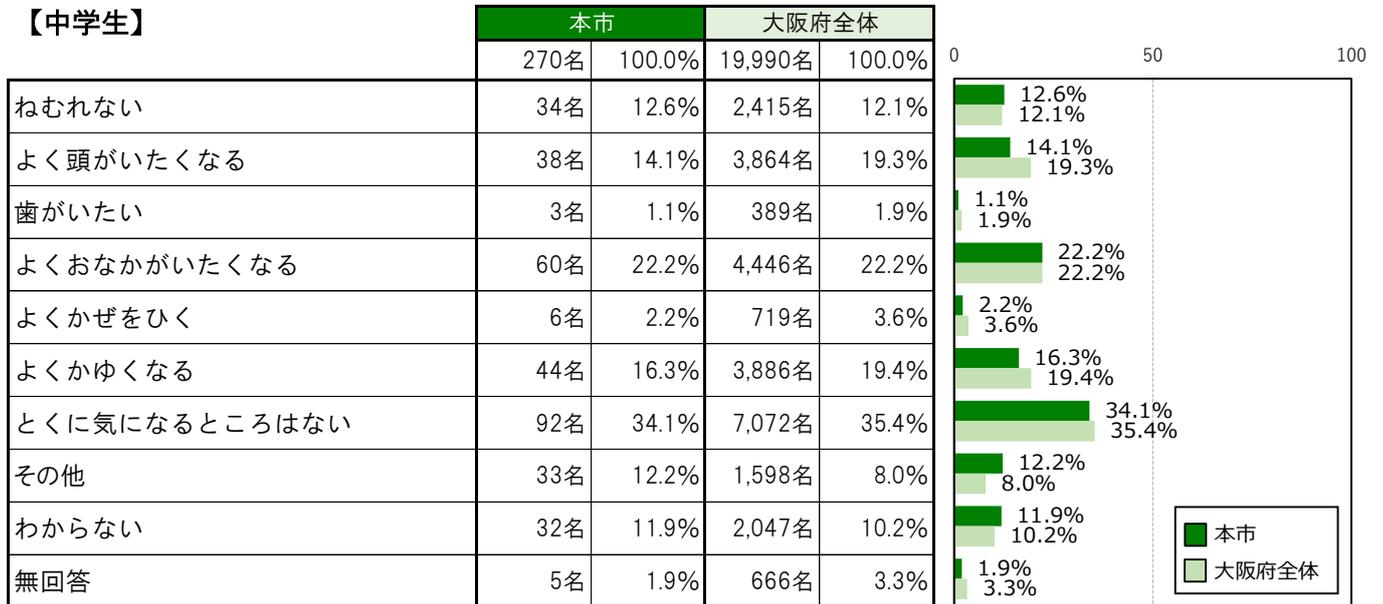
全体は、「とくに気になるところはない」が37.1%で最も多く、次いで「よくかゆくなる」が21.2%、「よくおなかがいたくなる」が20.2%、「よく頭がいたくなる」が11.6%となっている。

小学生は、「とくに気になるところはない」が40.8%で最も多く、次いで「よくかゆくなる」が25.4%、「よくおなかがいたくなる」が18.4%、「ねむれない」、「よく頭がいたくなる」がそれぞれ9.4%となっている。

中学生は、「とくに気になるところはない」が34.1%で最も多く、次いで「よくおなかがいたくなる」が22.2%、「よくかゆくなる」が16.3%、「よく頭がいたくなる」が14.1%となっている。



【中学生】



ふだんの生活のことについて

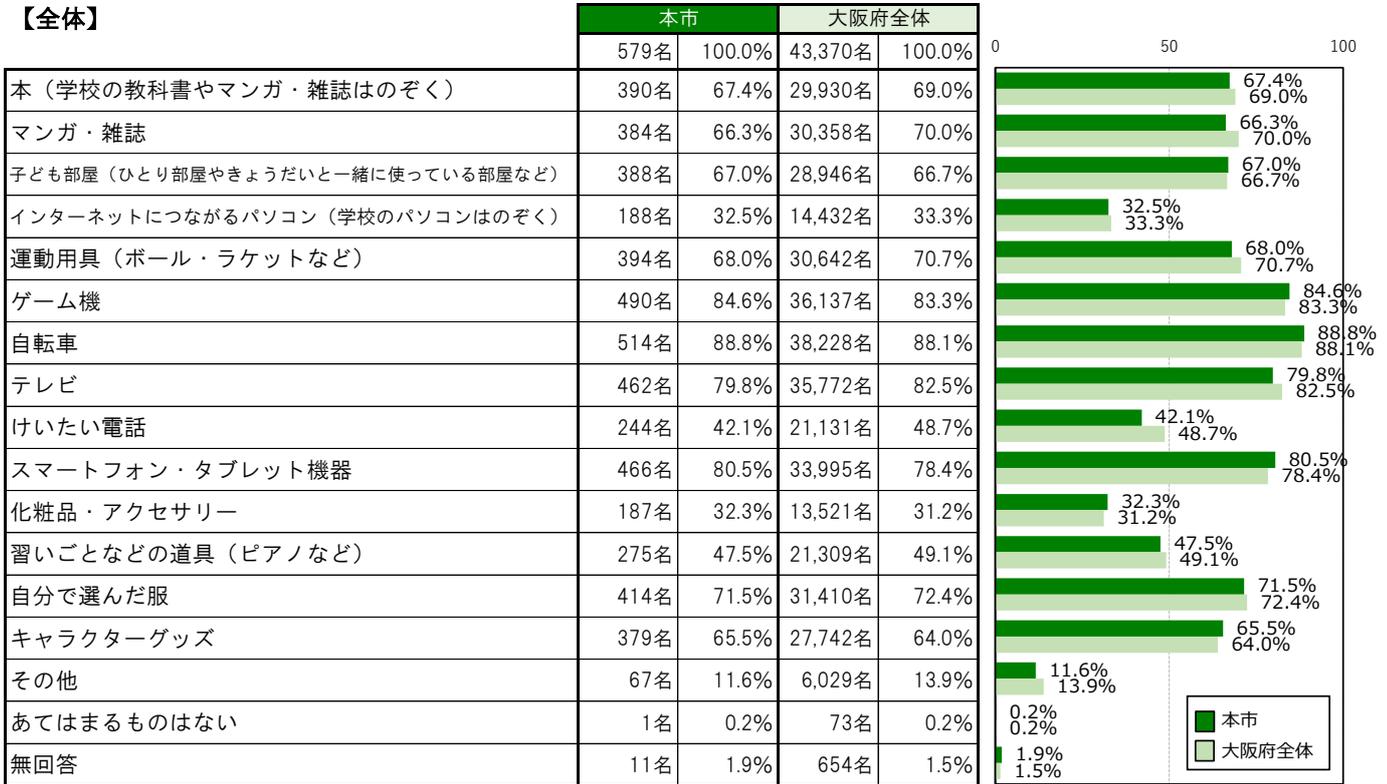
問21 持っているもの、使うことができるもの

全体は、「自転車」が88.8%で最も多く、次いで「ゲーム機」が84.6%、「スマートフォン・タブレット機器」が80.5%、「テレビ」が79.8%となっている。

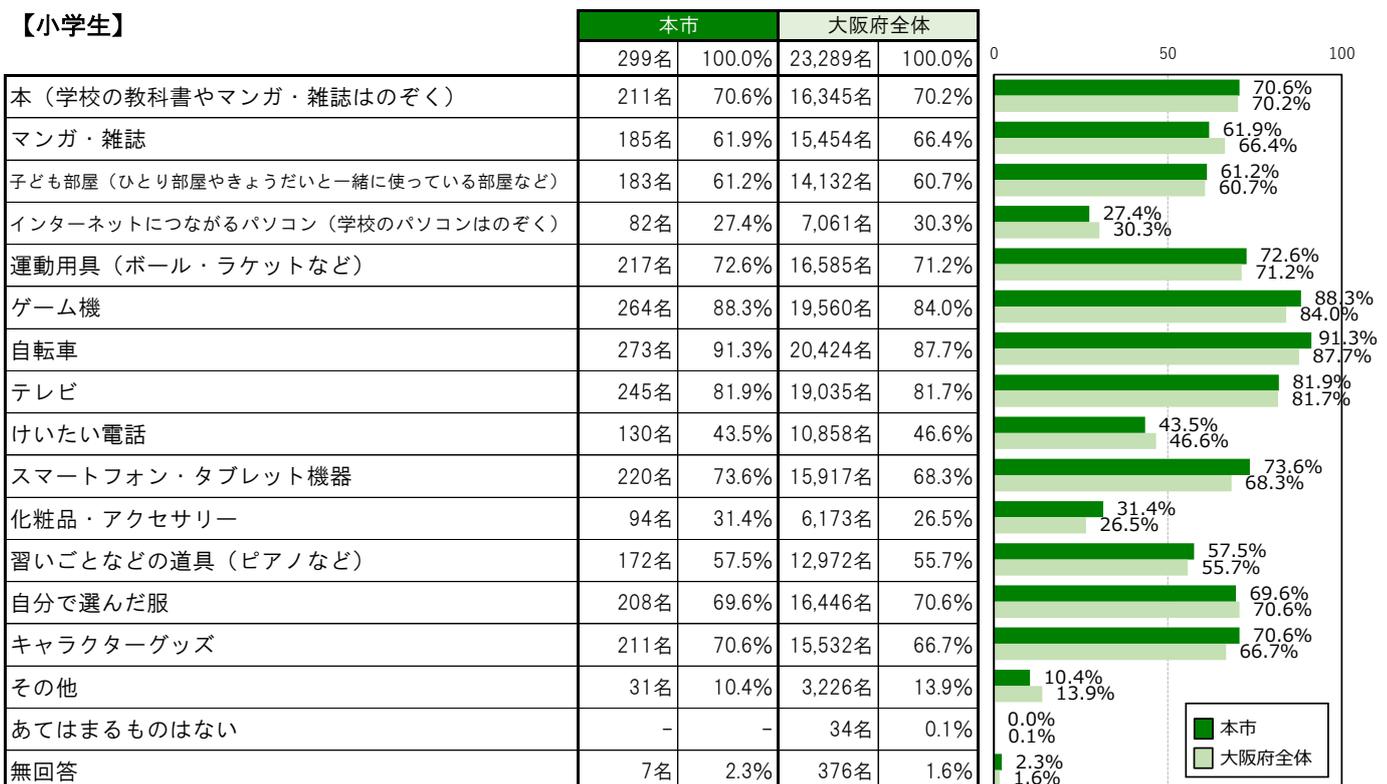
小学生は、「自転車」が91.3%で最も多く、次いで「ゲーム機」が88.3%、「テレビ」が81.9%、「スマートフォン・タブレット機器」が73.6%となっている。

中学生は、「スマートフォン・タブレット機器」が88.5%で最も多く、次いで「自転車」が85.9%、「ゲーム機」が81.1%、「テレビ」が77.4%となっている。

【全体】

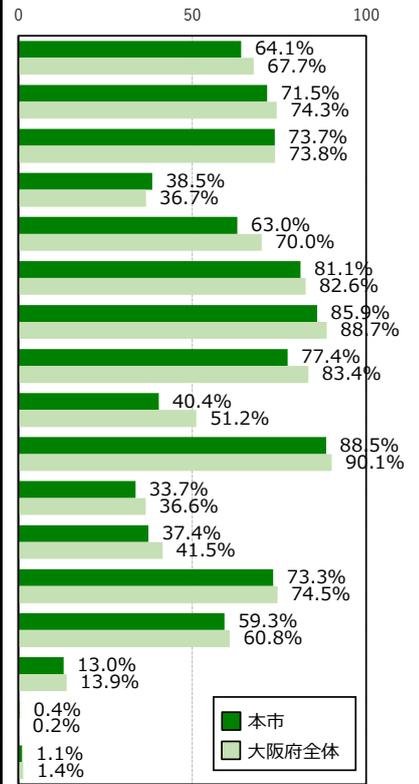


【小学生】



【中学生】

	本市		大阪府全体	
	270名	100.0%	19,990名	100.0%
本（学校の教科書やマンガ・雑誌はのぞく）	173名	64.1%	13,525名	67.7%
マンガ・雑誌	193名	71.5%	14,848名	74.3%
子ども部屋（ひとり部屋やきょうだいと一緒に使っている部屋など）	199名	73.7%	14,755名	73.8%
インターネットにつながるパソコン（学校のパソコンはのぞく）	104名	38.5%	7,334名	36.7%
運動用具（ボール・ラケットなど）	170名	63.0%	13,997名	70.0%
ゲーム機	219名	81.1%	16,510名	82.6%
自転車	232名	85.9%	17,735名	88.7%
テレビ	209名	77.4%	16,665名	83.4%
けいたい電話	109名	40.4%	10,236名	51.2%
スマートフォン・タブレット機器	239名	88.5%	18,012名	90.1%
化粧品・アクセサリー	91名	33.7%	7,324名	36.6%
習いごとなどの道具（ピアノなど）	101名	37.4%	8,294名	41.5%
自分で選んだ服	198名	73.3%	14,894名	74.5%
キャラクターグッズ	160名	59.3%	12,152名	60.8%
その他	35名	13.0%	2,787名	13.9%
あてはまるものはない	1名	0.4%	38名	0.2%
無回答	3名	1.1%	273名	1.4%



ふだん考えていることについて

問22 すぐに立ち直ることができる

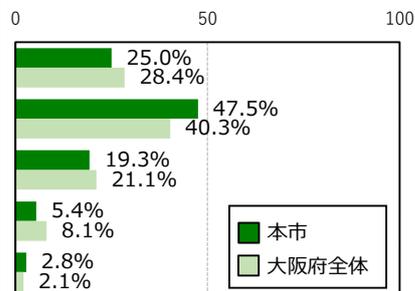
全体は、「どちらかというと思う」が47.5%で最も多く、次いで「そう思う」が25.0%、「どちらかというと思わない」が19.3%、「そう思わない」が5.4%となっている。

小学生は、「どちらかというと思う」が42.8%で最も多く、次いで「そう思う」が30.4%、「どちらかというと思わない」が19.7%、「そう思わない」が4.0%となっている。

中学生は、「どちらかというと思う」が52.2%で最も多く、次いで「そう思う」が19.6%、「どちらかというと思わない」が19.3%、「そう思わない」が7.0%となっている。

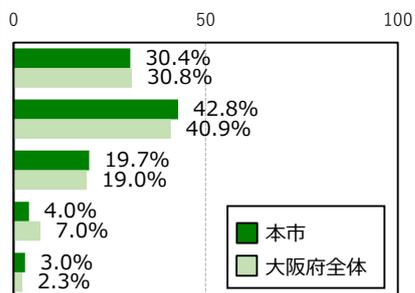
【全体】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
そう思う	145名	25.0%	12,318名	28.4%
どちらかというと思う	275名	47.5%	17,480名	40.3%
どちらかというと思わない	112名	19.3%	9,144名	21.1%
そう思わない	31名	5.4%	3,521名	8.1%
無回答	16名	2.8%	907名	2.1%



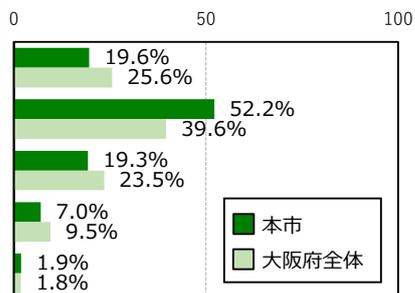
【小学生】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
そう思う	91名	30.4%	7,172名	30.8%
どちらかというと思う	128名	42.8%	9,521名	40.9%
どちらかというと思わない	59名	19.7%	4,431名	19.0%
そう思わない	12名	4.0%	1,625名	7.0%
無回答	9名	3.0%	540名	2.3%



【中学生】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
そう思う	53名	19.6%	5,119名	25.6%
どちらかというと思う	141名	52.2%	7,917名	39.6%
どちらかというと思わない	52名	19.3%	4,703名	23.5%
そう思わない	19名	7.0%	1,891名	9.5%
無回答	5名	1.9%	360名	1.8%



ふだん考えていることについて

問23 ふだん考えていること（1）自分に自信がある

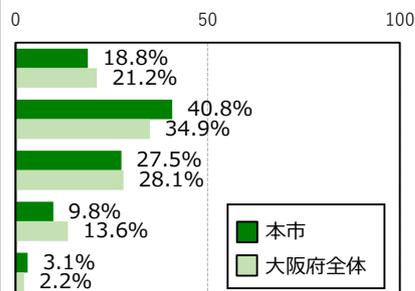
全体は、「どちらかというところある」が40.8%で最も多く、次いで「どちらかというところない」が27.5%、「ある」が18.8%、「ない」が9.8%となっている。

小学生は、「どちらかというところある」が40.8%で最も多く、次いで「ある」が25.4%、「どちらかというところない」が23.7%、「ない」が6.4%となっている。

中学生は、「どちらかというところある」が41.5%で最も多く、次いで「どちらかというところない」が31.1%、「ない」が14.1%、「ある」が11.1%となっている。

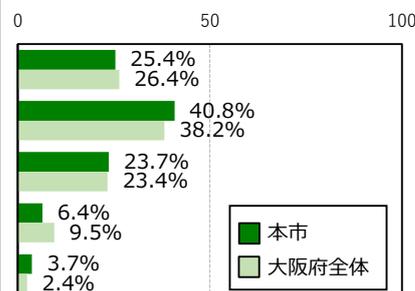
【全体】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
ある	109名	18.8%	9,192名	21.2%
どちらかというところある	236名	40.8%	15,132名	34.9%
どちらかというところない	159名	27.5%	12,192名	28.1%
ない	57名	9.8%	5,898名	13.6%
無回答	18名	3.1%	956名	2.2%



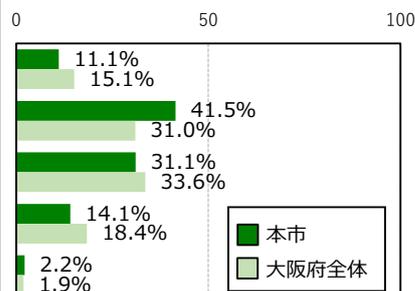
【小学生】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
ある	76名	25.4%	6,157名	26.4%
どちらかというところある	122名	40.8%	8,904名	38.2%
どちらかというところない	71名	23.7%	5,450名	23.4%
ない	19名	6.4%	2,211名	9.5%
無回答	11名	3.7%	567名	2.4%



【中学生】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
ある	30名	11.1%	3,011名	15.1%
どちらかというところある	112名	41.5%	6,202名	31.0%
どちらかというところない	84名	31.1%	6,716名	33.6%
ない	38名	14.1%	3,679名	18.4%
無回答	6名	2.2%	382名	1.9%



ふだん考えていることについて

問23 ふだん考えていること（2）自分の考えをはっきり相手に伝えることができる

全体は、「どちらかというところできる」が42.5%で最も多く、次いで「できる」が25.0%、「どちらかというところできない」が22.5%、「できない」が7.8%となっている。

小学生は、「どちらかというところできる」が42.1%で最も多く、次いで「できる」が28.4%、「どちらかというところできない」が20.4%、「できない」が6.4%となっている。

中学生は、「どちらかというところできる」が42.6%で最も多く、次いで「どちらかというところできない」が25.2%、「できる」が21.1%、「できない」が9.6%となっている。

【全体】



【小学生】



【中学生】



ふだん考えていることについて

問23 ふだん考えていること（3）自分の将来の夢や目標を持っている

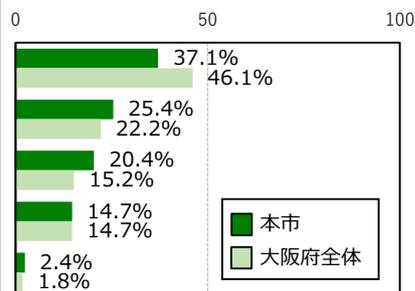
全体は、「持っている」が37.1%で最も多く、次いで「どちらかというを持っている」が25.4%、「どちらかというを持っていない」が20.4%、「持っていない」が14.7%となっている。

小学生は、「持っている」が51.8%で最も多く、次いで「どちらかというを持っている」が22.7%、「どちらかというを持っていない」が13.4%、「持っていない」が9.0%となっている。

中学生は、「どちらかというを持っていない」が28.1%で最も多く、次いで「どちらかというを持っている」が27.8%、「持っている」が22.2%、「持っていない」が20.4%となっている。

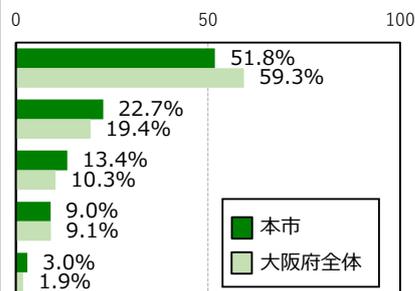
【全体】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
持っている	215名	37.1%	19,990名	46.1%
どちらかというを持っている	147名	25.4%	9,645名	22.2%
どちらかというを持っていない	118名	20.4%	6,609名	15.2%
持っていない	85名	14.7%	6,354名	14.7%
無回答	14名	2.4%	772名	1.8%



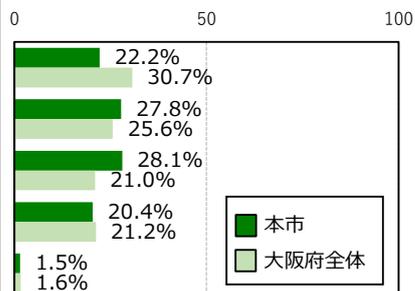
【小学生】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
持っている	155名	51.8%	13,811名	59.3%
どちらかというを持っている	68名	22.7%	4,518名	19.4%
どちらかというを持っていない	40名	13.4%	2,398名	10.3%
持っていない	27名	9.0%	2,108名	9.1%
無回答	9名	3.0%	454名	1.9%



【中学生】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
持っている	60名	22.2%	6,139名	30.7%
どちらかというを持っている	75名	27.8%	5,108名	25.6%
どちらかというを持っていない	76名	28.1%	4,195名	21.0%
持っていない	55名	20.4%	4,235名	21.2%
無回答	4名	1.5%	313名	1.6%



ふだん考えていることについて

問24 希望する進学先

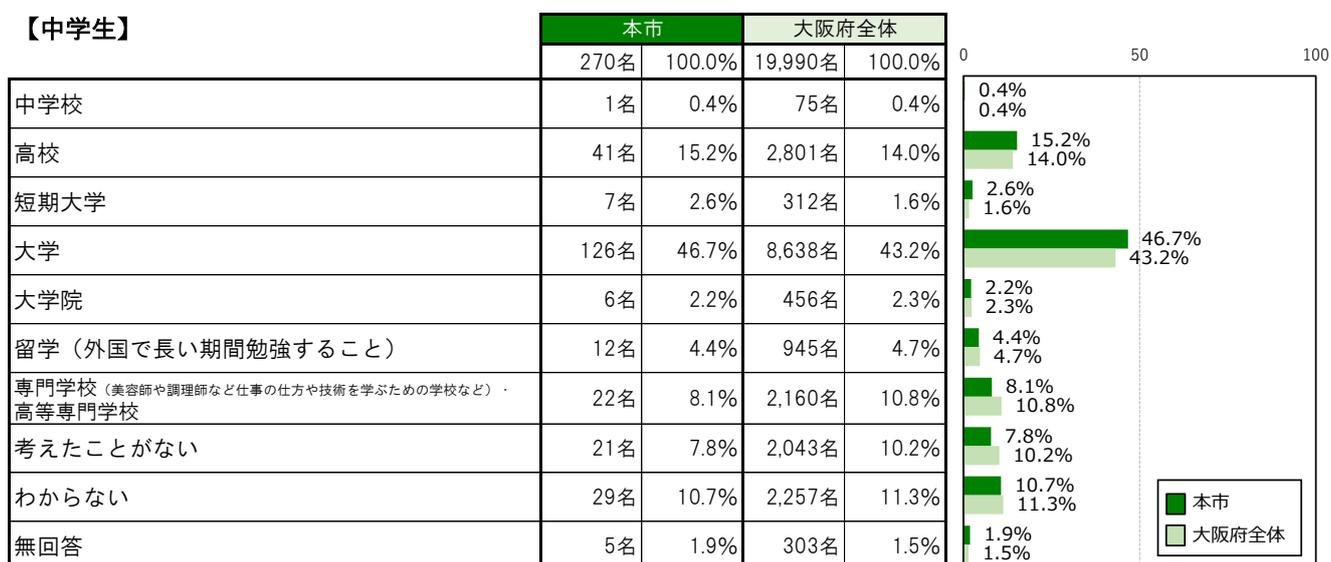
全体は、「大学」が40.2%で最も多く、次いで「高校」が14.7%、「考えたことがない」が13.1%、「専門学校（美容師や調理師など仕事の仕方や技術を学ぶための学校など）・高等専門学校」が11.1%となっている。

小学生は、「大学」が34.4%で最も多く、次いで「考えたことがない」が18.4%、「高校」が14.0%、「専門学校（美容師や調理師など仕事の仕方や技術を学ぶための学校など）・高等専門学校」が13.7%となっている。

中学生は、「大学」が46.7%で最も多く、次いで「高校」が15.2%、「専門学校（美容師や調理師など仕事の仕方や技術を学ぶための学校など）・高等専門学校」が8.1%、「考えたことがない」が7.8%となっている。



【中学生】



あなたのことについて

問25 (1) 子どもの居場所の利用状況 ①平日の夜や休日を過ごすことができる場所 (学童保育など)

全体は、「利用したことはない (今後も利用したいか分からない) 」が36.6%で最も多く、次いで「利用したことがある」が29.7%、「利用したことはない (今後も利用したいと思わない) 」が25.9%となっている。

小学生は、「利用したことはない (今後も利用したいか分からない) 」が36.8%で最も多く、次いで「利用したことがある」が32.8%、「利用したことはない (今後も利用したいと思わない) 」が20.4%となっている。

中学生は、「利用したことはない (今後も利用したいか分からない) 」が37.4%で最も多く、次いで「利用したことはない (今後も利用したいと思わない) 」が32.2%、「利用したことがある」が25.6%となっている。

【全体】



【小学生】



【中学生】



あなたのことについて

問25 (1) 子どもの居場所の利用状況

②昼食や夕食、お弁当を無料か安い料金で食べることができる場所（子ども食堂など）

全体は、「利用したことはない（今後も利用したいか分からない）」が44.0%で最も多く、次いで「利用したことはない（あれば利用したいと思う）」が19.3%、「利用したことがある」が14.0%となっている。

小学生は、「利用したことはない（今後も利用したいか分からない）」が47.2%で最も多く、次いで「利用したことはない（あれば利用したいと思う）」が18.1%、「利用したことはない（今後も利用したいと思わない）」が17.4%、「利用したことがある」が15.7%となっている。

中学生は、「利用したことはない（今後も利用したいか分からない）」が41.1%で最も多く、次いで「利用したことはない（あれば利用したいと思う）」が19.6%、「利用したことはない（今後も利用したいと思わない）」が25.9%、「利用したことがある」が12.2%となっている。

【全体】



【小学生】



【中学生】



あなたのことについて

問25（1）子どもの居場所の利用状況

③勉強を無料か安い料金でみてる場所（一般的な学習塾とはちがう学習支援など）

全体は、「利用したことはない（今後も利用したいか分からない）」が42.3%で最も多く、次いで「利用したことはない（今後も利用したいと思わない）」が22.8%、「利用したことはない（あれば利用したいと思う）」が16.9%、「利用したことがある」が16.4%となっている。

小学生は、「利用したことはない（今後も利用したいか分からない）」が41.8%で最も多く、次いで「利用したことはない（今後も利用したいと思わない）」が19.4%、「利用したことはない（あれば利用したいと思う）」が19.1%、「利用したことがある」が18.1%となっている。

中学生は、「利用したことはない（今後も利用したいか分からない）」が43.0%で最も多く、次いで「利用したことはない（今後も利用したいと思わない）」が27.4%、「利用したことはない（あれば利用したいと思う）」が14.4%、「利用したことがある」が14.1%となっている。



あなたのことについて

問25 (1) 子どもの居場所の利用状況 ④何でも相談できる場所（電話やネットの相談をふくむ。）

全体は、「利用したことはない（今後も利用したいか分からない）」が54.6%で最も多く、次いで「利用したことはない（今後も利用したいと思わない）」が25.6%、「利用したことはない（あれば利用したいと思う）」が15.5%、「利用したことがある」が2.6%となっている。

小学生は、「利用したことはない（今後も利用したいか分からない）」が55.5%で最も多く、次いで「利用したことはない（今後も利用したいと思わない）」が22.4%、「利用したことはない（あれば利用したいと思う）」が18.1%、「利用したことがある」が2.3%となっている。

中学生は、「利用したことはない（今後も利用したいか分からない）」が54.1%で最も多く、次いで「利用したことはない（今後も利用したいと思わない）」が28.9%、「利用したことはない（あれば利用したいと思う）」が12.6%、「利用したことがある」が3.0%となっている。



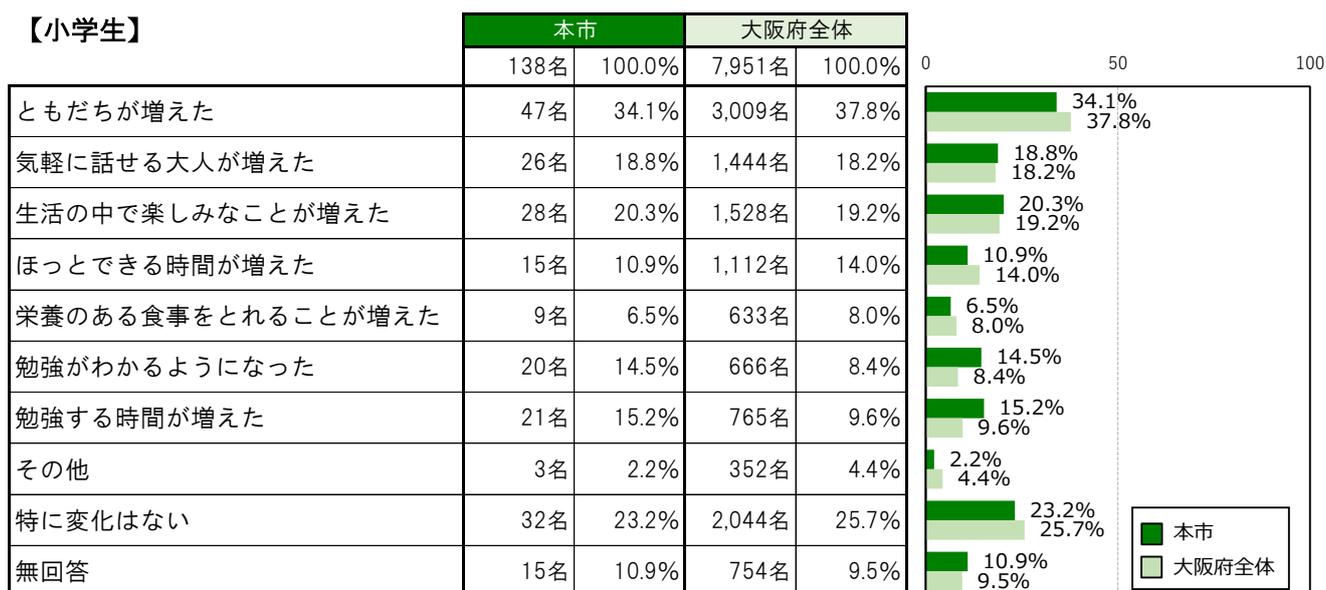
あなたのことについて

問25（2）子どもの居場所を利用したときの変化

全体は、「ともだちが増えた」が34.4%で最も多く、次いで「気軽に話せる大人が増えた」、「生活の中で楽しみなことが増えた」がそれぞれ16.2%、「勉強する時間が増えた」が15.8%、「勉強がわかるようになった」が11.1%となっている。

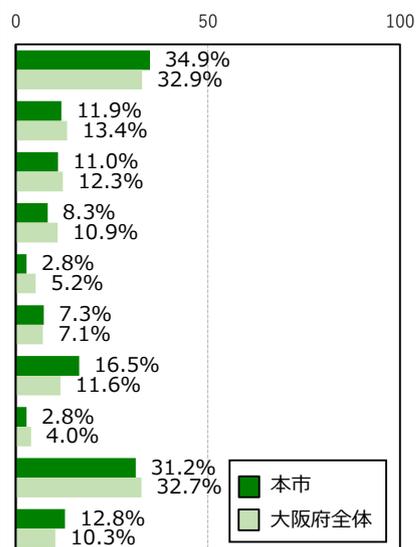
小学生は、「ともだちが増えた」が34.1%で最も多く、次いで「生活の中で楽しみなことが増えた」が20.3%、「気軽に話せる大人が増えた」が18.8%、「勉強する時間が増えた」が15.2%となっている。

中学生は、「ともだちが増えた」が34.9%で最も多く、次いで「勉強する時間が増えた」が16.5%、「気軽に話せる大人が増えた」が11.9%、「生活の中で楽しみなことが増えた」が11.0%となっている。



【中学生】

	本市		大阪府全体	
	109名	100.0%	5,099名	100.0%
ともだちが増えた	38名	34.9%	1,680名	32.9%
気軽に話せる大人が増えた	13名	11.9%	683名	13.4%
生活の中で楽しみなことが増えた	12名	11.0%	626名	12.3%
ほっとできる時間が増えた	9名	8.3%	557名	10.9%
栄養のある食事をとれることが増えた	3名	2.8%	267名	5.2%
勉強がわかるようになった	8名	7.3%	363名	7.1%
勉強する時間が増えた	18名	16.5%	590名	11.6%
その他	3名	2.8%	205名	4.0%
特に変化はない	34名	31.2%	1,666名	32.7%
無回答	14名	12.8%	524名	10.3%



あなたのことについて

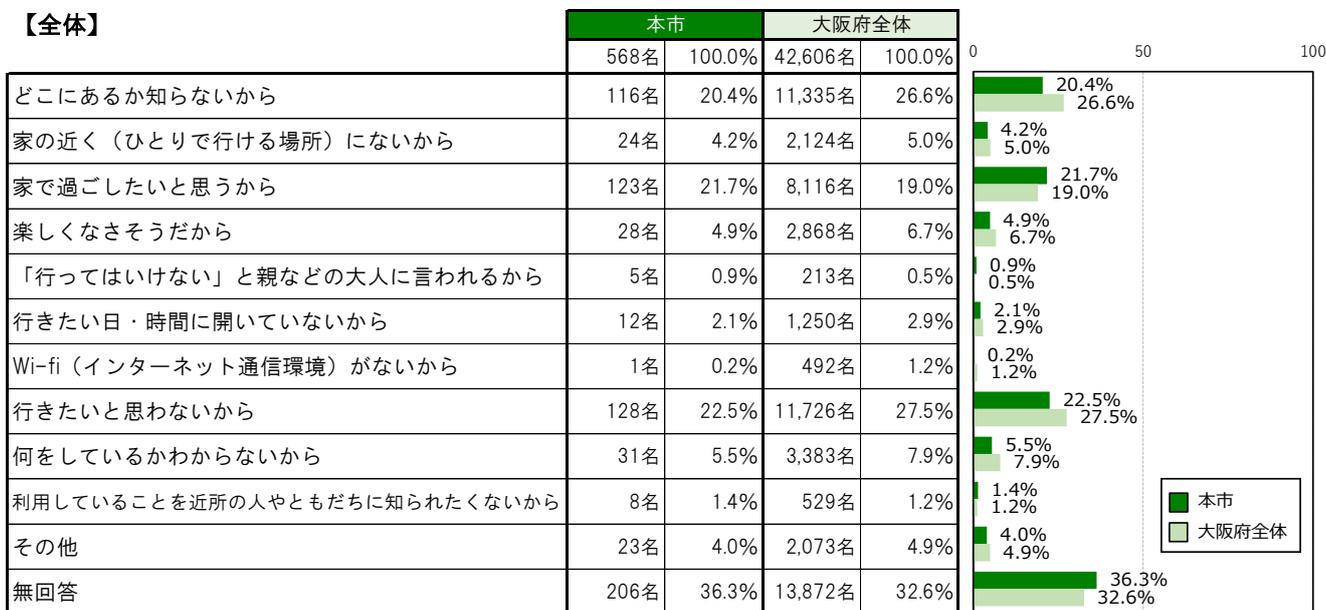
問25（3）子どもの居場所を利用したことがない理由

全体は、「行きたいと思わないから」が22.5%で最も多く、次いで「家で過ごしたいと思うから」が21.7%、「どこにあるか知らないから」が20.4%、「何をしているかわからないから」が5.5%となっている。

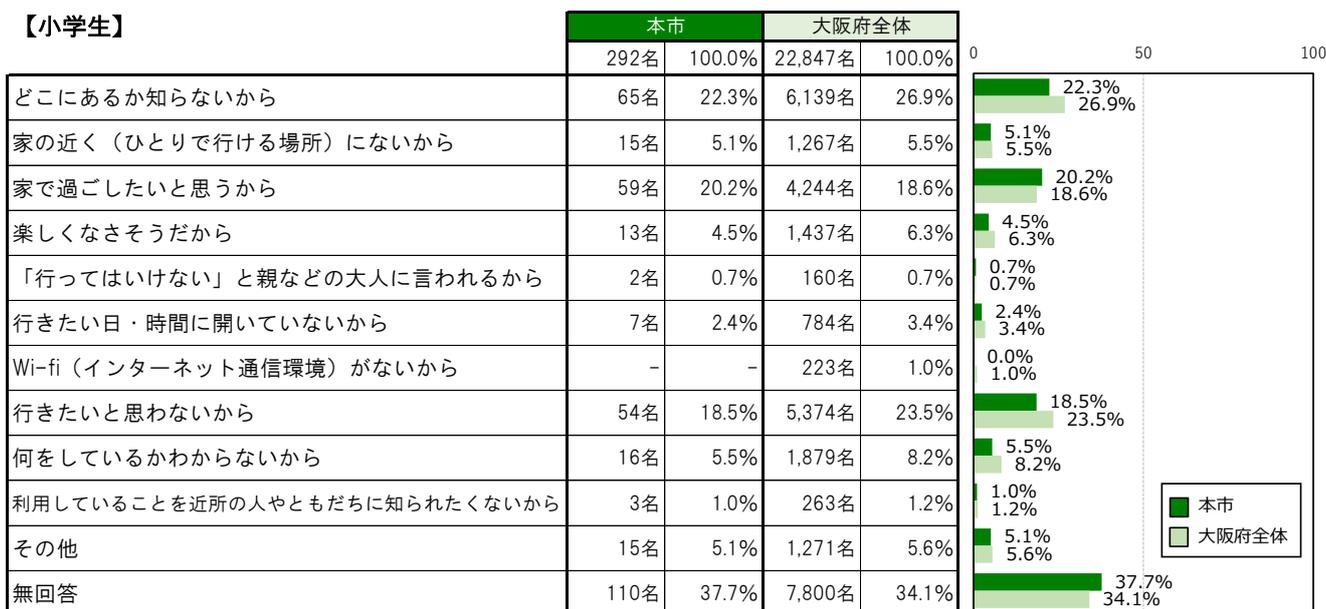
小学生は、「どこにあるか知らないから」が22.3%で最も多く、次いで「家で過ごしたいと思うから」が20.2%、「行きたいと思わないから」が18.5%、「何をしているかわからないから」が5.5%となっている。

中学生は、「行きたいと思わないから」が26.2%で最も多く、次いで「家で過ごしたいと思うから」が23.2%、「どこにあるか知らないから」が18.0%、「楽しくなさそうだから」が5.6%となっている。

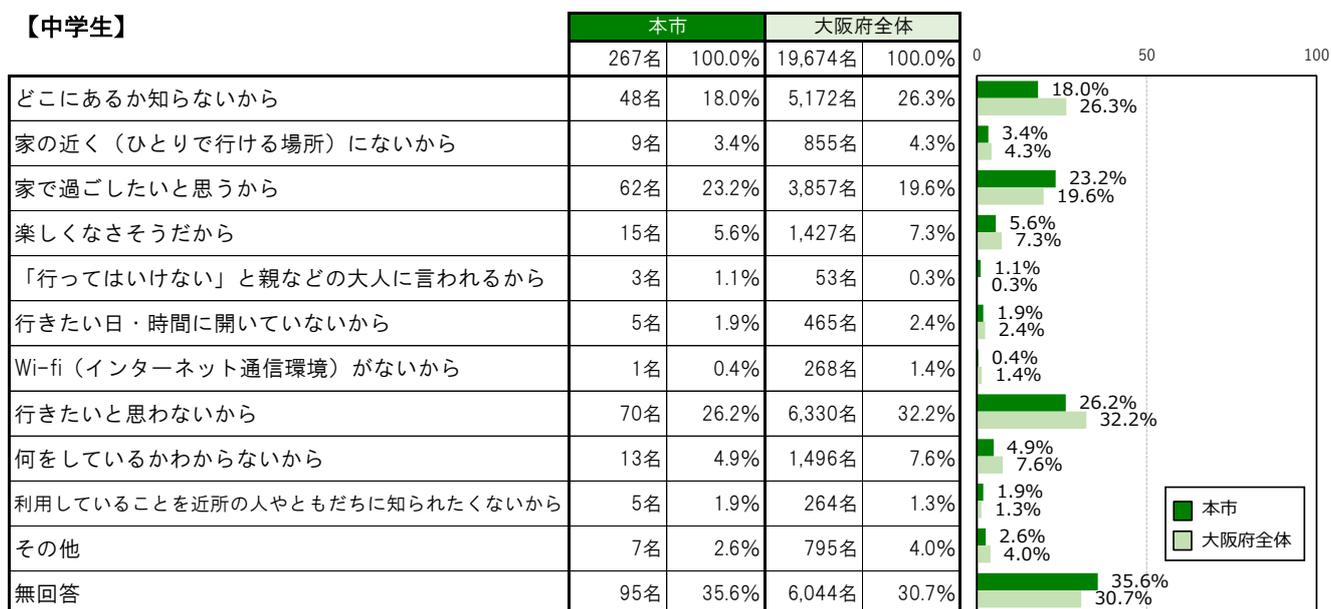
【全体】



【小学生】



【中学生】

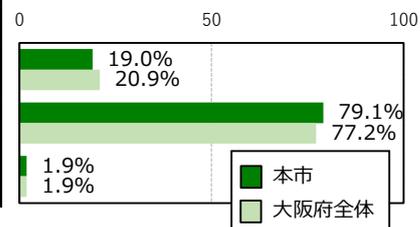


あなたのことについて

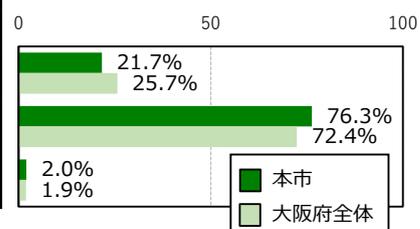
問26（1）自分が世話をしている人の有無

全体は、「いる」が19.0%、「いない」が79.1%となっている。  
 小学生は、「いる」が21.7%、「いない」が76.3%となっている。  
 中学生は、「いる」が15.6%、「いない」が83.0%となっている。

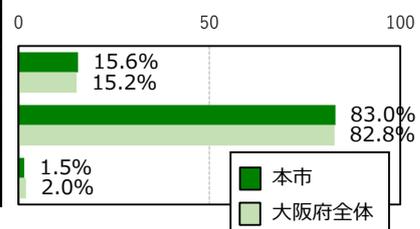
	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
【全体】	579名	100.0%	43,370名	100.0%
いる	110名	19.0%	9,054名	20.9%
いない	458名	79.1%	33,476名	77.2%
無回答	11名	1.9%	840名	1.9%



	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
【小学生】	299名	100.0%	23,289名	100.0%
いる	65名	21.7%	5,988名	25.7%
いない	228名	76.3%	16,856名	72.4%
無回答	6名	2.0%	445名	1.9%



	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
【中学生】	270名	100.0%	19,990名	100.0%
いる	42名	15.6%	3,045名	15.2%
いない	224名	83.0%	16,553名	82.8%
無回答	4名	1.5%	392名	2.0%



あなたのことについて

問26(2) 世話をしている相手

全体は、「きょうだい」が76.4%で最も多く、次いで「お母さん」が30.9%、「お父さん」が17.3%、「おばあちゃん」が10.0%となっている。

小学生は、「きょうだい」が76.9%で最も多く、次いで「お母さん」が33.8%、「お父さん」が20.0%、「おばあちゃん」が13.8%となっている。

中学生は、「きょうだい」が76.2%で最も多く、次いで「お母さん」が26.2%、「お父さん」が14.3%、「おじいちゃん」が9.5%となっている。

【全体】



【小学生】



【中学生】



あなたのことについて

問26(3) 世話をしている内容

全体は、「きょうだいのめんどうを見ることや保育所のおむかえなど」が72.7%で最も多く、次いで「料理や買い物、食器洗いなど」が33.6%、「そうじやゴミ捨てなど」が28.2%、「洗濯など」が23.6%となっている。

小学生は、「きょうだいのめんどうを見ることや保育所のおむかえなど」が76.9%で最も多く、次いで「料理や買い物、食器洗いなど」、「そうじやゴミ捨てなど」がそれぞれ32.3%、「洗濯など」が26.2%となっている。

中学生は、「きょうだいのめんどうを見ることや保育所のおむかえなど」が66.7%で最も多く、次いで「料理や買い物、食器洗いなど」が33.3%、「病院へ一緒に行くことやお風呂・トイレのお世話、見守りをする、話し相手になる、通訳をする、お金の管理、薬の管理など」が23.8%、「そうじやゴミ捨てなど」が21.4%となっている。

【全体】



【小学生】



【中学生】



あなたのことについて

問26(5) 世話をする頻度

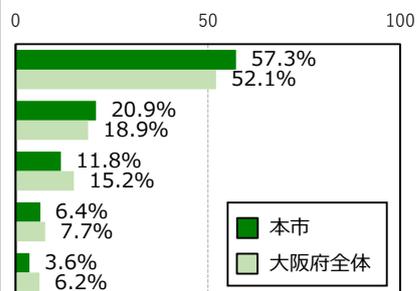
全体は、「ほぼ毎日」が57.3%で最も多く、次いで「週に3日～5日」が20.9%、「週に1日または2日」が11.8%、「1か月に数日」が6.4%となっている。

小学生は、「ほぼ毎日」が60.0%で最も多く、次いで「週に3日～5日」が23.1%、「週に1日または2日」が10.8%、「1か月に数日」が6.2%となっている。

中学生は、「ほぼ毎日」が54.8%で最も多く、次いで「週に3日～5日」が19.0%、「週に1日または2日」が9.5%、「1か月に数日」が7.1%となっている。

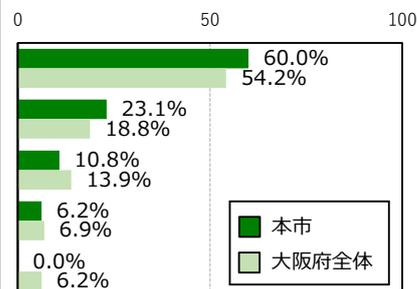
【全体】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
ほぼ毎日	63名	57.3%	4,716名	52.1%
週に3日～5日	23名	20.9%	1,708名	18.9%
週に1日または2日	13名	11.8%	1,375名	15.2%
1か月に数日	7名	6.4%	694名	7.7%
無回答	4名	3.6%	561名	6.2%



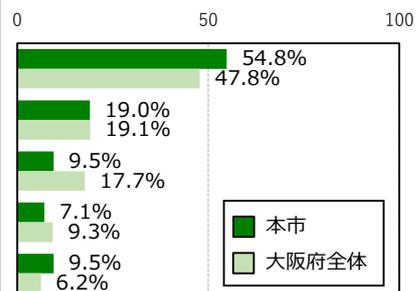
【小学生】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
ほぼ毎日	39名	60.0%	3,246名	54.2%
週に3日～5日	15名	23.1%	1,125名	18.8%
週に1日または2日	7名	10.8%	832名	13.9%
1か月に数日	4名	6.2%	412名	6.9%
無回答	-	-	373名	6.2%



【中学生】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
ほぼ毎日	23名	54.8%	1,455名	47.8%
週に3日～5日	8名	19.0%	582名	19.1%
週に1日または2日	4名	9.5%	538名	17.7%
1か月に数日	3名	7.1%	282名	9.3%
無回答	4名	9.5%	188名	6.2%



あなたのことについて

問26（6）学校がある日に世話をする1日の時間

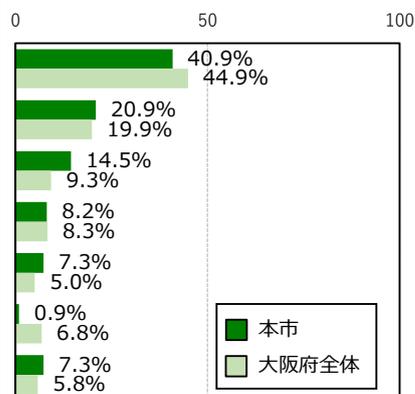
全体は、「1時間より少ない」が40.9%で最も多く、次いで「1時間以上、2時間より少ない」が20.9%、「2時間以上、3時間より少ない」が14.5%、「3時間以上、5時間より少ない」が8.2%となっている。

小学生は、「1時間より少ない」が41.5%で最も多く、次いで「1時間以上、2時間より少ない」が18.5%、「2時間以上、3時間より少ない」が15.4%、「3時間以上、5時間より少ない」、「5時間以上、7時間より少ない」がそれぞれ9.2%となっている。

中学生は、「1時間より少ない」が35.7%で最も多く、次いで「1時間以上、2時間より少ない」が26.2%、「2時間以上、3時間より少ない」が14.3%、「3時間以上、5時間より少ない」が7.1%となっている。

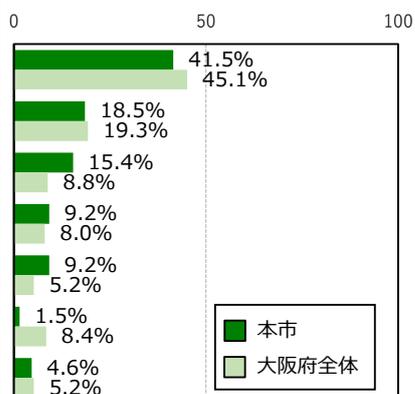
【全体】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
1時間より少ない	45名	40.9%	4,062名	44.9%
1時間以上、2時間より少ない	23名	20.9%	1,805名	19.9%
2時間以上、3時間より少ない	16名	14.5%	843名	9.3%
3時間以上、5時間より少ない	9名	8.2%	751名	8.3%
5時間以上、7時間より少ない	8名	7.3%	450名	5.0%
7時間より多い	1名	0.9%	617名	6.8%
無回答	8名	7.3%	526名	5.8%



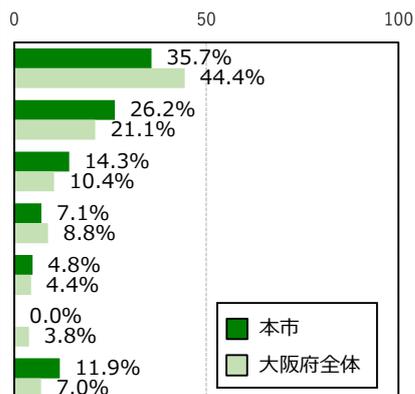
【小学生】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
1時間より少ない	27名	41.5%	2,700名	45.1%
1時間以上、2時間より少ない	12名	18.5%	1,156名	19.3%
2時間以上、3時間より少ない	10名	15.4%	525名	8.8%
3時間以上、5時間より少ない	6名	9.2%	482名	8.0%
5時間以上、7時間より少ない	6名	9.2%	314名	5.2%
7時間より多い	1名	1.5%	500名	8.4%
無回答	3名	4.6%	311名	5.2%



【中学生】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
1時間より少ない	15名	35.7%	1,353名	44.4%
1時間以上、2時間より少ない	11名	26.2%	644名	21.1%
2時間以上、3時間より少ない	6名	14.3%	316名	10.4%
3時間以上、5時間より少ない	3名	7.1%	267名	8.8%
5時間以上、7時間より少ない	2名	4.8%	135名	4.4%
7時間より多い	-	-	116名	3.8%
無回答	5名	11.9%	214名	7.0%



あなたのことについて

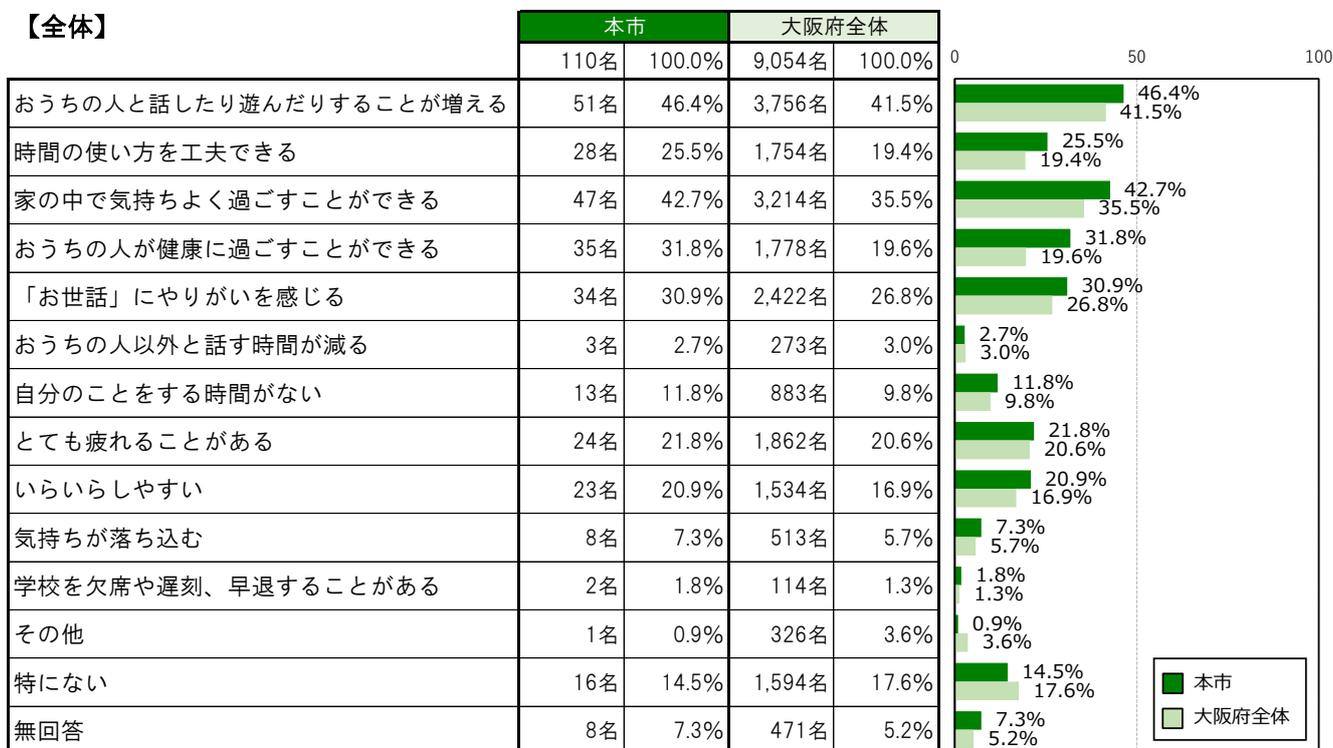
問26 (7) 世話をしていることの影響

全体は、「おうちの人と話したり遊んだりすることが増える」が46.4%で最も多く、次いで「家の中で気持ちよく過ごすことができる」が42.7%、「おうちの人健康に過ごすことができる」が31.8%、「お世話」にやりがいを感じる」が30.9%となっている。

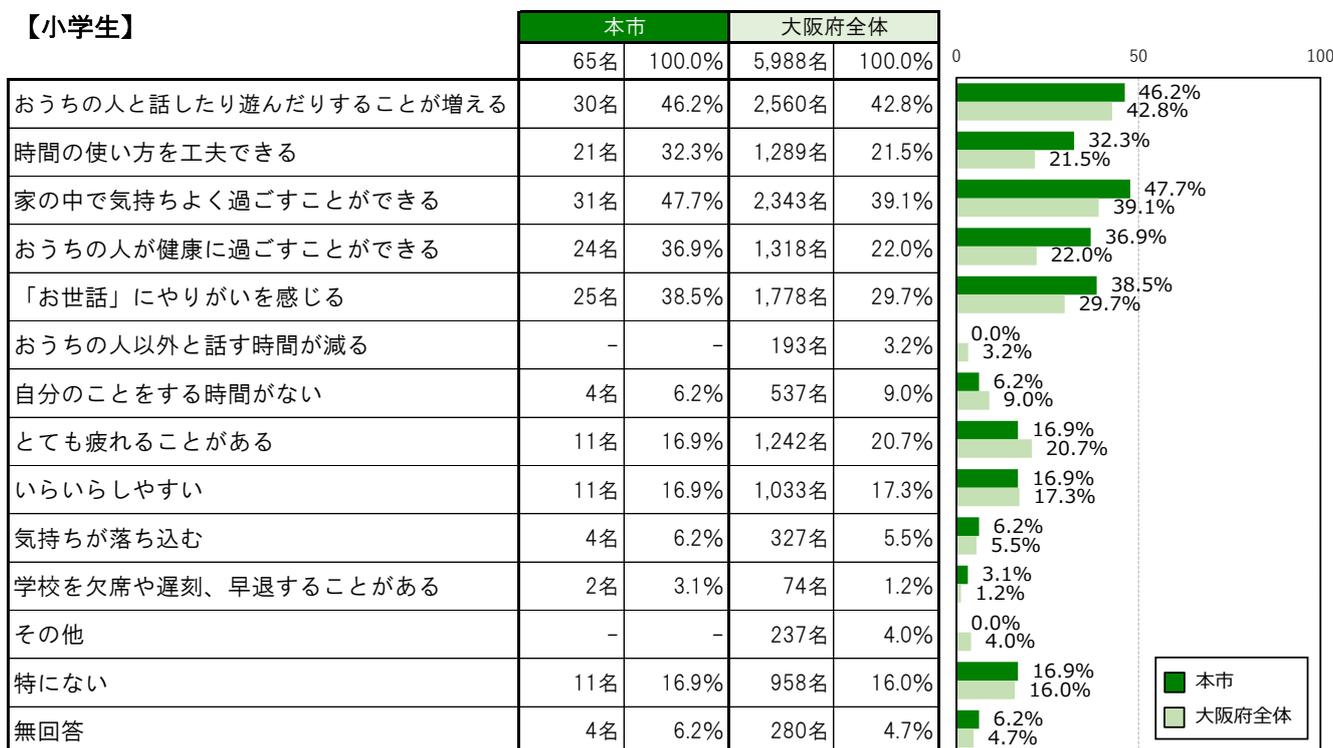
小学生は、「家の中で気持ちよく過ごすことができる」が47.7%で最も多く、次いで「おうちの人と話したり遊んだりすることが増える」が46.2%、「お世話」にやりがいを感じる」が38.5%、「おうちの人健康に過ごすことができる」が36.9%となっている。

中学生は、「おうちの人と話したり遊んだりすることが増える」が47.6%で最も多く、次いで「家の中で気持ちよく過ごすことができる」が35.7%、「とても疲れることがある」が28.6%、「おうちの人健康に過ごすことができる」が26.2%となっている。

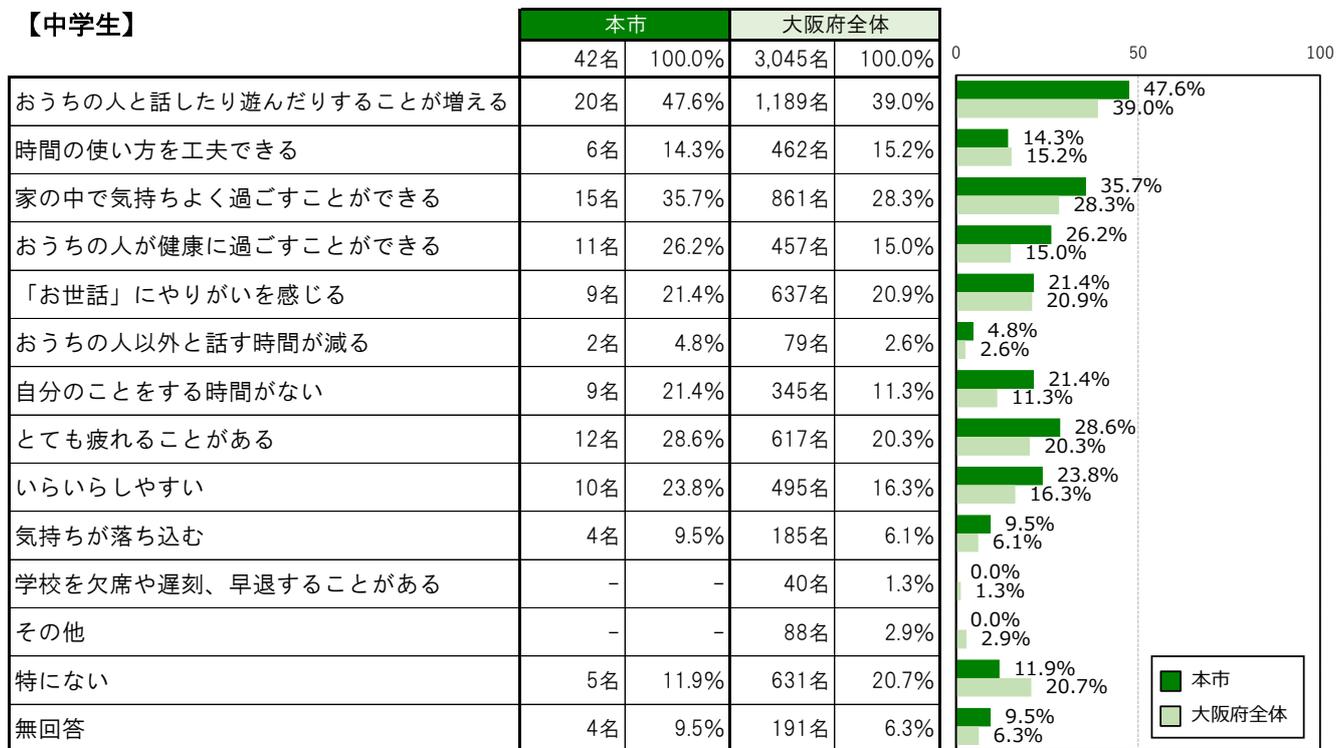
【全体】



【小学生】



【中学生】



## 2. 単純集計結果〔保護者〕

守口市

### 子どもとの関係について

#### 問1 子どもとの続柄

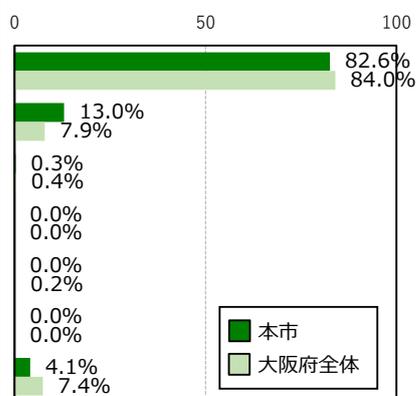
保護者全体は、「お母さん」が82.6%で最も多く、次いで「お父さん」が13.0%、「おじいさん・おばあさん」が0.3%となっている。

小学生の保護者は、「お母さん」が83.7%で最も多く、次いで「お父さん」が11.4%、「おじいさん・おばあさん」が0.3%となっている。

中学生の保護者は、「お母さん」が81.2%で最も多く、次いで「お父さん」が15.0%、「おじいさん・おばあさん」が0.4%となっている。

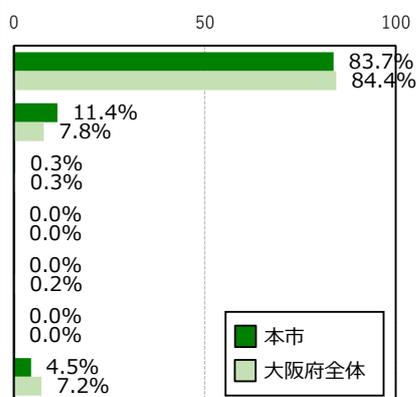
#### 【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	名	割合	名	割合
お母さん	507名	82.6%	36,436名	84.0%
お父さん	80名	13.0%	3,426名	7.9%
おじいさん・おばあさん	2名	0.3%	154名	0.4%
おじ、おばなど親戚	-	-	15名	0.0%
施設職員・ファミリーホーム・里親	-	-	91名	0.2%
その他の人	-	-	14名	0.0%
無回答	25名	4.1%	3,222名	7.4%



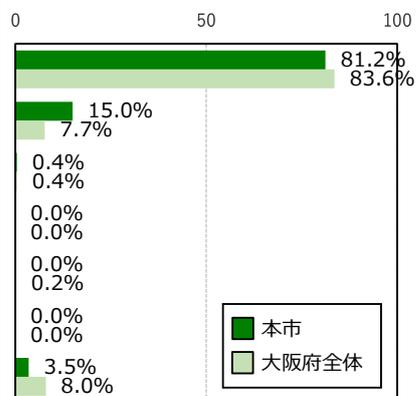
#### 【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	名	割合	名	割合
お母さん	242名	83.7%	19,261名	84.4%
お父さん	33名	11.4%	1,776名	7.8%
おじいさん・おばあさん	1名	0.3%	75名	0.3%
おじ、おばなど親戚	-	-	7名	0.0%
施設職員・ファミリーホーム・里親	-	-	47名	0.2%
その他の人	-	-	3名	0.0%
無回答	13名	4.5%	1,650名	7.2%



#### 【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	名	割合	名	割合
お母さん	211名	81.2%	16,208名	83.6%
お父さん	39名	15.0%	1,488名	7.7%
おじいさん・おばあさん	1名	0.4%	77名	0.4%
おじ、おばなど親戚	-	-	7名	0.0%
施設職員・ファミリーホーム・里親	-	-	44名	0.2%
その他の人	-	-	8名	0.0%
無回答	9名	3.5%	1,558名	8.0%



世帯の状況について

問2 世帯構成 ①おばあさん

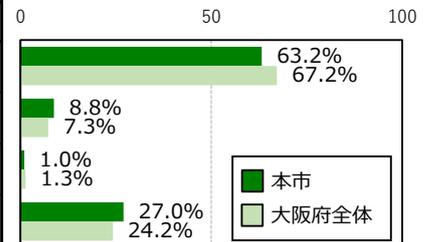
保護者全体は、「いない」が63.2%で最も多く、次いで「1人」が8.8%、「2人」が1.0%となっている。

小学生の保護者は、「いない」が61.6%で最も多く、次いで「1人」が9.3%、「2人」が1.0%となっている。

中学生の保護者は、「いない」が64.2%で最も多く、次いで「1人」が8.5%、「2人」が1.2%となっている。

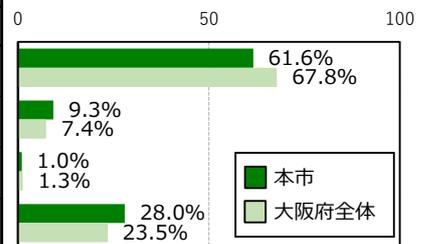
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いない	388名	63.2%	29,081名	67.2%
1人	54名	8.8%	3,181名	7.3%
2人	6名	1.0%	555名	1.3%
無回答	166名	27.0%	10,483名	24.2%



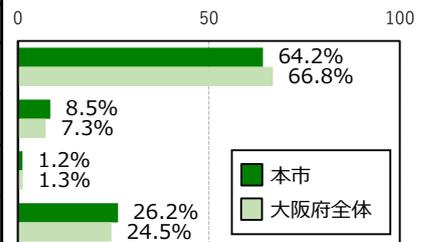
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いない	178名	61.6%	15,456名	67.8%
1人	27名	9.3%	1,681名	7.4%
2人	3名	1.0%	286名	1.3%
無回答	81名	28.0%	5,363名	23.5%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いない	167名	64.2%	12,942名	66.8%
1人	22名	8.5%	1,422名	7.3%
2人	3名	1.2%	257名	1.3%
無回答	68名	26.2%	4,744名	24.5%



世帯の状況について

問2 世帯構成 ②おじいさん

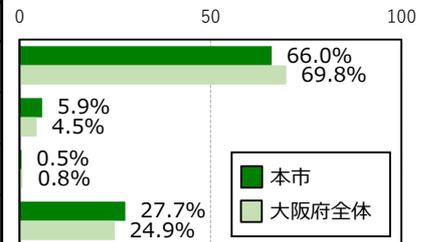
保護者全体は、「いない」が66.0%で最も多く、次いで「1人」が5.9%、「2人」が0.5%となっている。

小学生の保護者は、「いない」が64.0%で最も多く、次いで「1人」が6.9%、「2人」が0.7%となっている。

中学生の保護者は、「いない」が67.7%で最も多く、次いで「1人」が5.4%、「2人」が0.4%となっている。

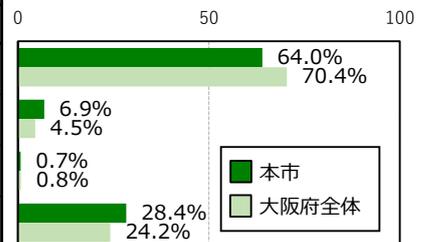
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いない	405名	66.0%	30,230名	69.8%
1人	36名	5.9%	1,932名	4.5%
2人	3名	0.5%	340名	0.8%
無回答	170名	27.7%	10,798名	24.9%



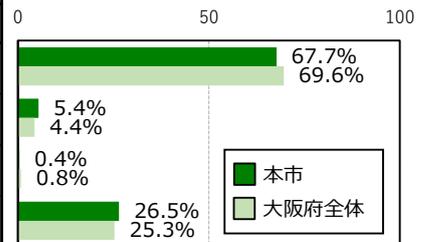
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いない	185名	64.0%	16,050名	70.4%
1人	20名	6.9%	1,031名	4.5%
2人	2名	0.7%	186名	0.8%
無回答	82名	28.4%	5,519名	24.2%



【中学生の保護者】

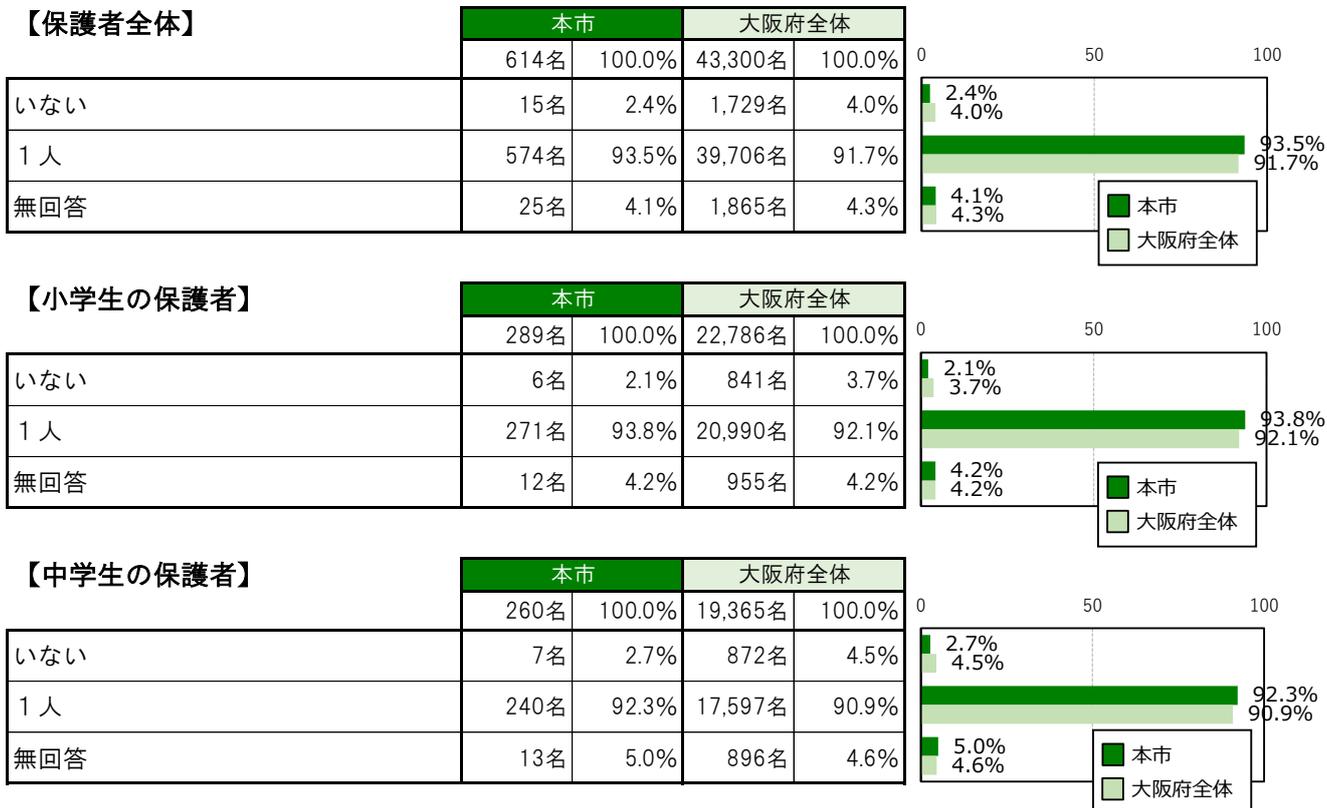
	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いない	176名	67.7%	13,474名	69.6%
1人	14名	5.4%	853名	4.4%
2人	1名	0.4%	148名	0.8%
無回答	69名	26.5%	4,890名	25.3%



世帯の状況について

問2 世帯構成 ③お母さん

保護者全体は、「いない」が2.4%、「1人」が93.5%となっている。  
 小学生の保護者は、「いない」が2.1%、「1人」が93.8%となっている。  
 中学生の保護者は、「いない」が2.7%、「1人」が92.3%となっている。



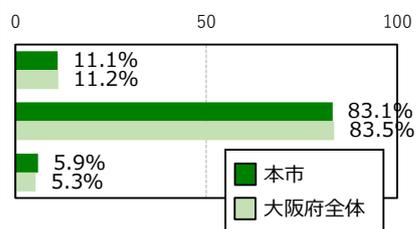
世帯の状況について

問2 世帯構成 ④お父さん

保護者全体は、「いない」が11.1%、「1人」が83.1%となっている。  
 小学生の保護者は、「いない」が11.1%、「1人」が83.0%となっている。  
 中学生の保護者は、「いない」が10.4%、「1人」が84.2%となっている。

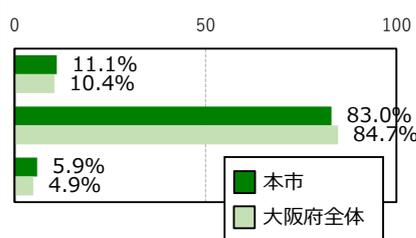
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いない	68名	11.1%	4,852名	11.2%
1人	510名	83.1%	36,166名	83.5%
無回答	36名	5.9%	2,282名	5.3%



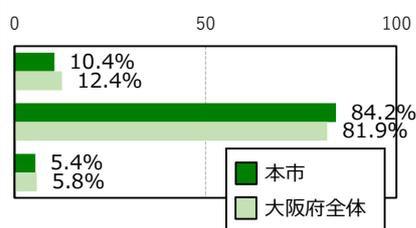
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いない	32名	11.1%	2,372名	10.4%
1人	240名	83.0%	19,301名	84.7%
無回答	17名	5.9%	1,113名	4.9%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いない	27名	10.4%	2,394名	12.4%
1人	219名	84.2%	15,852名	81.9%
無回答	14名	5.4%	1,119名	5.8%



世帯の状況について

問2 世帯構成 ⑤姉・兄

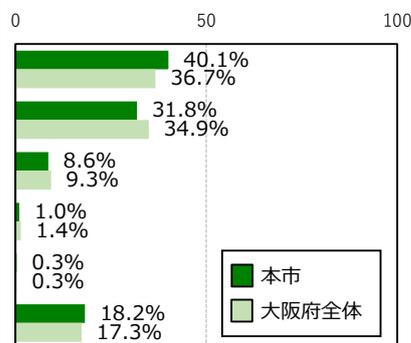
保護者全体は、「いない」が40.1%、「1人」が31.8%、「2人」が8.6%、「3人」が1.0%となっている。

小学生の保護者は、「いない」が37.4%、「1人」が32.5%、「2人」が8.3%、「3人」が1.4%となっている。

中学生の保護者は、「いない」が43.1%、「1人」が29.2%、「2人」が8.1%、「3人」が0.8%となっている。

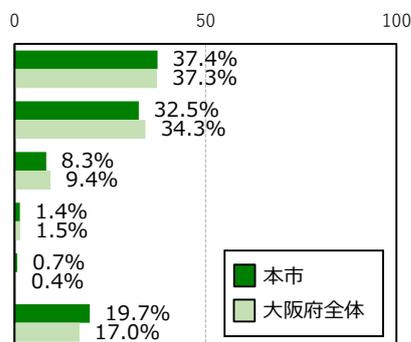
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いない	246名	40.1%	15,909名	36.7%
1人	195名	31.8%	15,123名	34.9%
2人	53名	8.6%	4,039名	9.3%
3人	6名	1.0%	601名	1.4%
4人以上	2名	0.3%	145名	0.3%
無回答	112名	18.2%	7,483名	17.3%



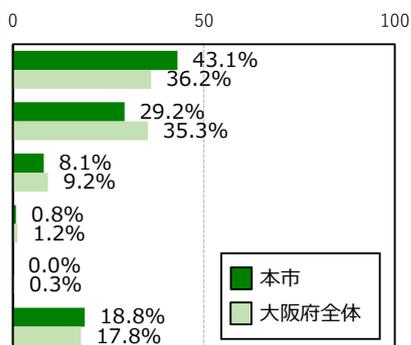
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いない	108名	37.4%	8,507名	37.3%
1人	94名	32.5%	7,823名	34.3%
2人	24名	8.3%	2,148名	9.4%
3人	4名	1.4%	350名	1.5%
4人以上	2名	0.7%	90名	0.4%
無回答	57名	19.7%	3,868名	17.0%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いない	112名	43.1%	7,016名	36.2%
1人	76名	29.2%	6,827名	35.3%
2人	21名	8.1%	1,782名	9.2%
3人	2名	0.8%	239名	1.2%
4人以上	-	-	50名	0.3%
無回答	49名	18.8%	3,451名	17.8%



世帯の状況について

問2 世帯構成 ⑥妹・弟

保護者全体は、「いない」が34.9%で最も多く、次いで「1人」が32.9%、「2人」が10.6%、「3人」が1.8%となっている。

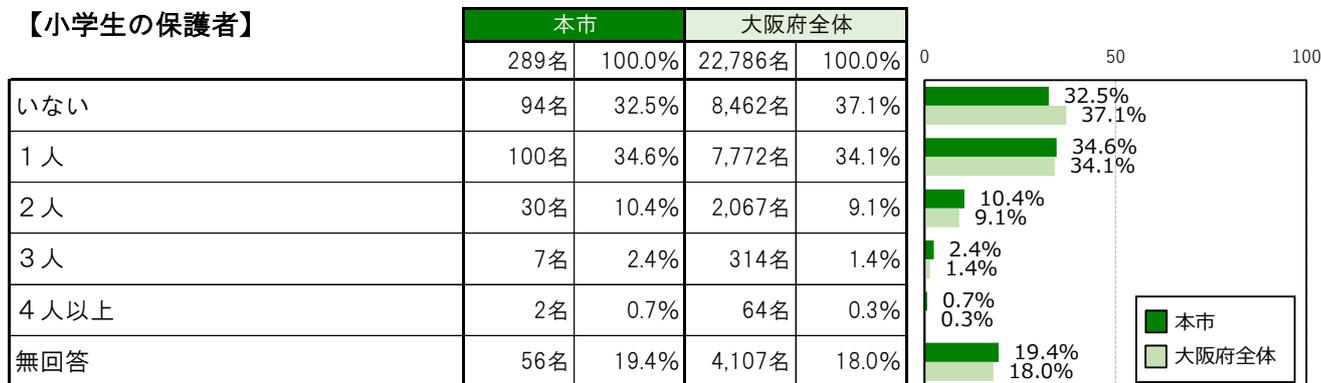
小学生の保護者は、「1人」が34.6%で最も多く、次いで「いない」が32.5%、「2人」が10.4%、「3人」が2.4%となっている。

中学生の保護者は、「いない」が38.8%で最も多く、次いで「1人」が30.4%、「2人」が11.2%、「3人」が0.8%となっている。

【保護者全体】



【小学生の保護者】



【中学生の保護者】



世帯の状況について

問2 世帯構成 ⑦その他

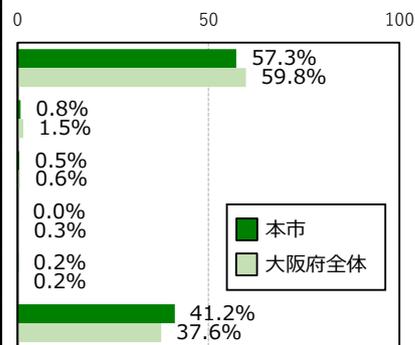
保護者全体は、「いない」が57.3%で最も多く、次いで「1人」が0.8%、「2人」が0.5%、「4人以上」が0.2%となっている。

小学生の保護者は、「いない」が56.7%で最も多く、次いで「2人」が1.0%、「1人」が0.7%となっている。

中学生の保護者は、「いない」が59.6%で最も多く、次いで「1人」が1.2%となっている。

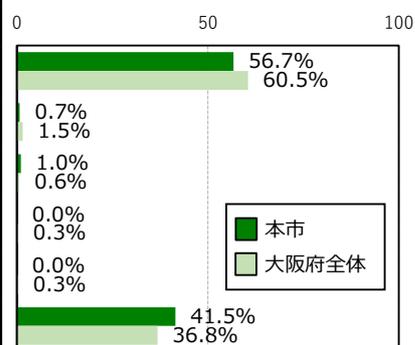
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いない	352名	57.3%	25,890名	59.8%
1人	5名	0.8%	628名	1.5%
2人	3名	0.5%	261名	0.6%
3人	-	-	133名	0.3%
4人以上	1名	0.2%	98名	0.2%
無回答	253名	41.2%	16,290名	37.6%



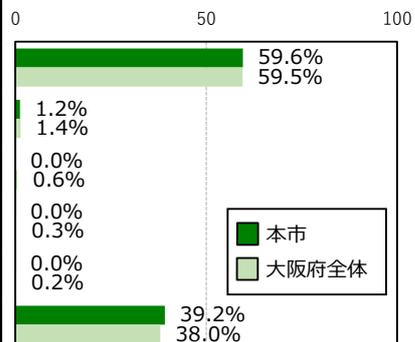
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いない	164名	56.7%	13,780名	60.5%
1人	2名	0.7%	347名	1.5%
2人	3名	1.0%	139名	0.6%
3人	-	-	73名	0.3%
4人以上	-	-	59名	0.3%
無回答	120名	41.5%	8,388名	36.8%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いない	155名	59.6%	11,529名	59.5%
1人	3名	1.2%	275名	1.4%
2人	-	-	119名	0.6%
3人	-	-	55名	0.3%
4人以上	-	-	36名	0.2%
無回答	102名	39.2%	7,351名	38.0%



世帯の状況について

問2 世帯構成 <世帯員の続柄>

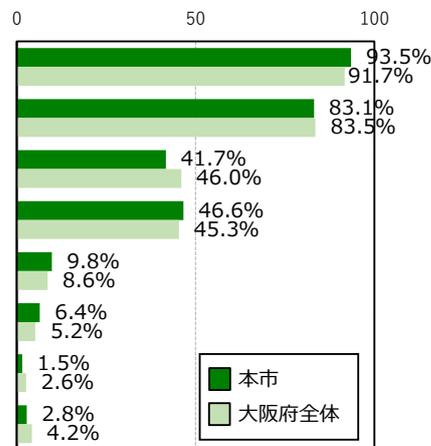
保護者全体は、「お母さん」が93.5%で最も多く、次いで「お父さん」が83.1%、「妹・弟」が46.6%、「姉・兄」が41.7%となっている。

小学生の保護者は、「お母さん」が93.8%で最も多く、次いで「お父さん」が83.0%、「妹・弟」が48.1%、「姉・兄」が42.9%となっている。

中学生の保護者は、「お母さん」が92.3%で最も多く、次いで「お父さん」が84.2%、「妹・弟」が42.7%、「姉・兄」が38.1%となっている。

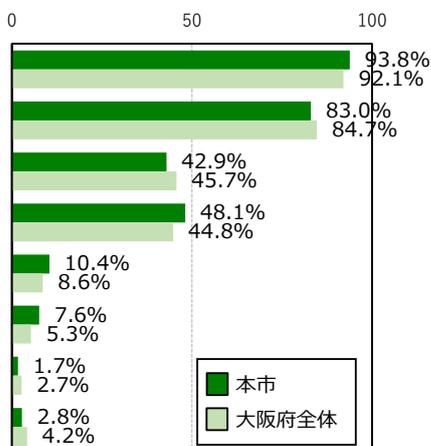
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
お母さん	574名	93.5%	39,706名	91.7%
お父さん	510名	83.1%	36,166名	83.5%
姉・兄	256名	41.7%	19,908名	46.0%
妹・弟	286名	46.6%	19,604名	45.3%
おばあさん	60名	9.8%	3,736名	8.6%
おじいさん	39名	6.4%	2,272名	5.2%
その他	9名	1.5%	1,120名	2.6%
無回答	17名	2.8%	1,839名	4.2%



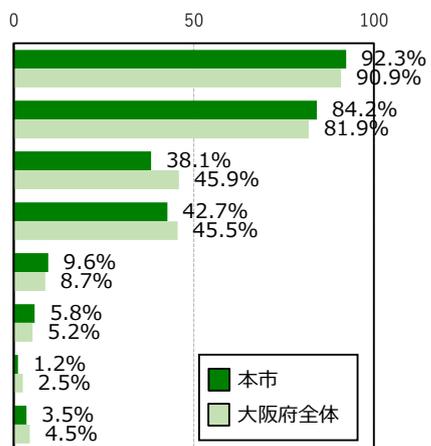
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
お母さん	271名	93.8%	20,990名	92.1%
お父さん	240名	83.0%	19,301名	84.7%
姉・兄	124名	42.9%	10,411名	45.7%
妹・弟	139名	48.1%	10,217名	44.8%
おばあさん	30名	10.4%	1,967名	8.6%
おじいさん	22名	7.6%	1,217名	5.3%
その他	5名	1.7%	618名	2.7%
無回答	8名	2.8%	953名	4.2%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
お母さん	240名	92.3%	17,597名	90.9%
お父さん	219名	84.2%	15,852名	81.9%
姉・兄	99名	38.1%	8,898名	45.9%
妹・弟	111名	42.7%	8,818名	45.5%
おばあさん	25名	9.6%	1,679名	8.7%
おじいさん	15名	5.8%	1,001名	5.2%
その他	3名	1.2%	485名	2.5%
無回答	9名	3.5%	876名	4.5%



世帯の状況について

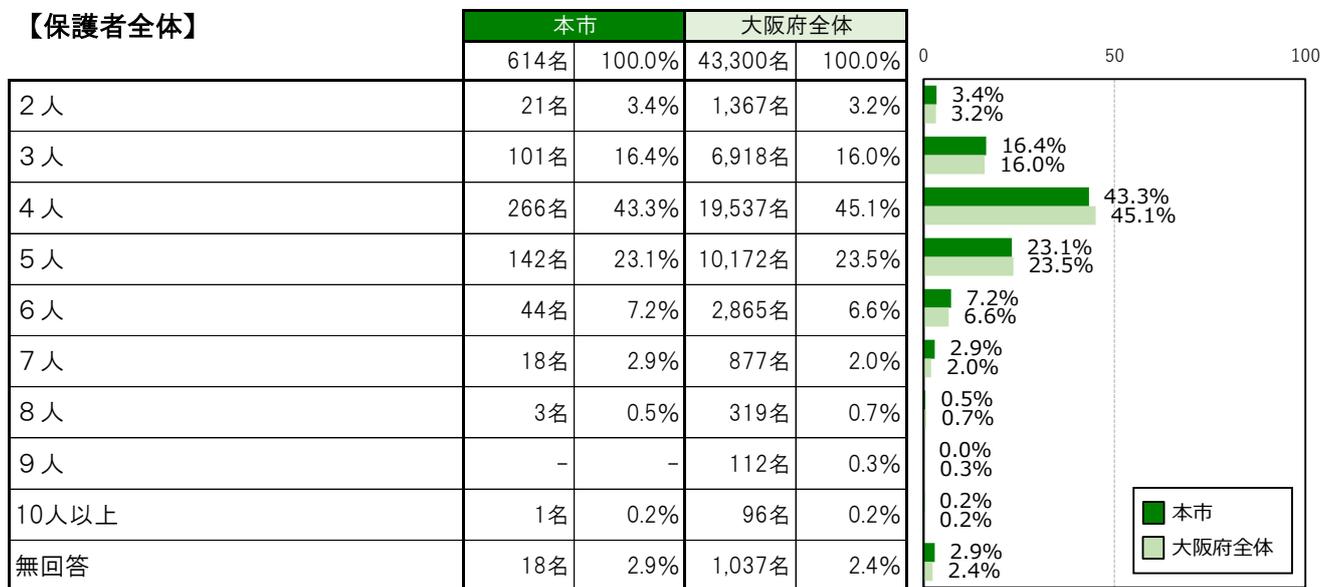
問2 世帯構成 ⑧世帯人数

保護者全体は、「4人」が43.3%で最も多く、次いで「5人」が23.1%、「3人」が16.4%、「6人」が7.2%となっている。

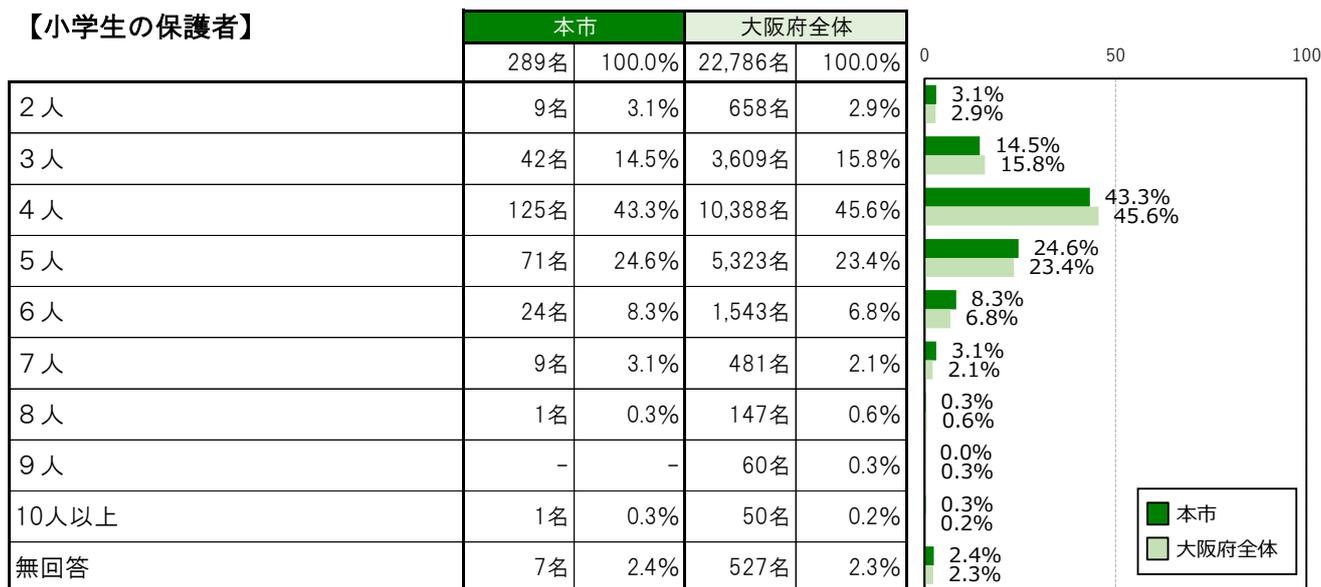
小学生の保護者は、「4人」が43.3%で最も多く、次いで「5人」が24.6%、「3人」が14.5%、「6人」が8.3%となっている。

中学生の保護者は、「4人」が43.5%で最も多く、次いで「5人」が21.9%、「3人」が18.1%、「6人」が5.4%となっている。

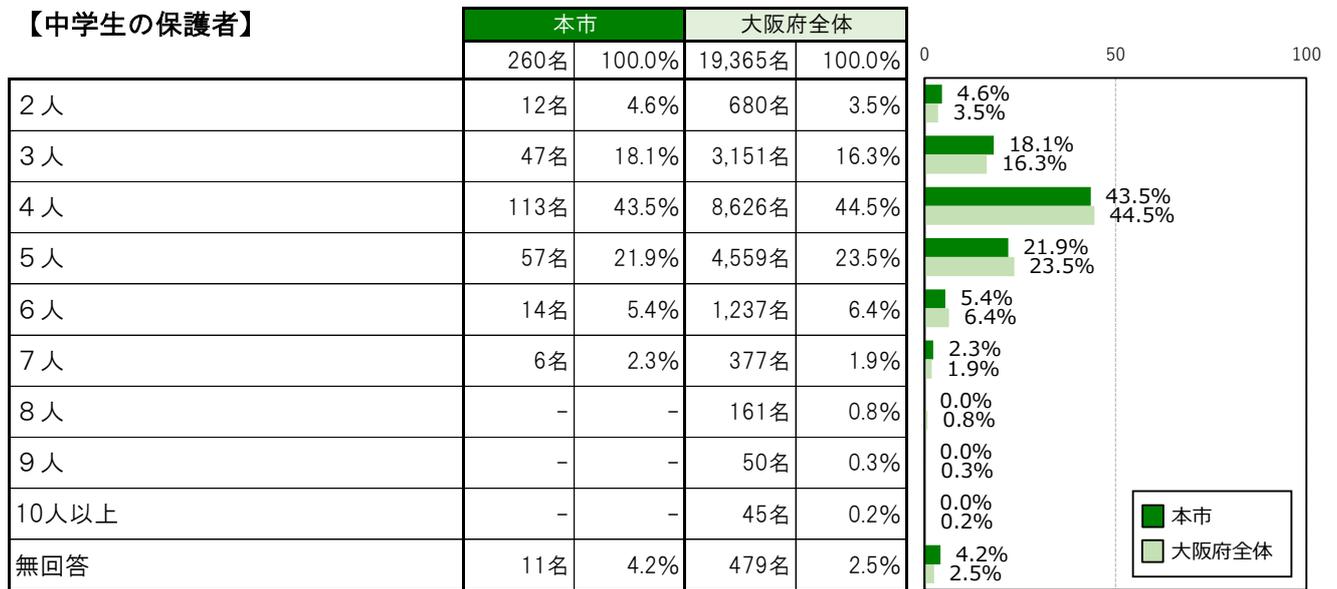
【保護者全体】



【小学生の保護者】



【中学生の保護者】



世帯の状況について

問3 親の婚姻状況

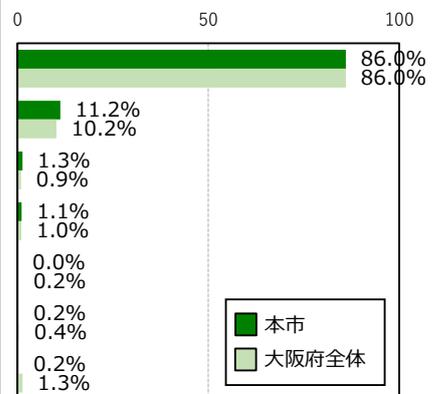
保護者全体は、「結婚している（再婚や事実婚を含む。）」が86.0%で最も多く、次いで「離婚」が11.2%、「死別」が1.3%、「未婚」が1.1%となっている。

小学生の保護者は、「結婚している（再婚や事実婚を含む。）」が86.9%で最も多く、次いで「離婚」が10.0%、「死別」が1.7%、「未婚」が1.0%となっている。

中学生の保護者は、「結婚している（再婚や事実婚を含む。）」が85.8%で最も多く、次いで「離婚」が11.2%、「未婚」が1.5%、「死別」が1.2%となっている。

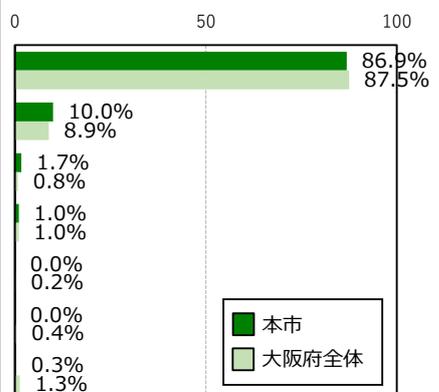
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
結婚している（再婚や事実婚を含む。）	528名	86.0%	37,253名	86.0%
離婚	69名	11.2%	4,407名	10.2%
死別	8名	1.3%	400名	0.9%
未婚	7名	1.1%	412名	1.0%
わからない	-	-	77名	0.2%
いない	1名	0.2%	177名	0.4%
無回答	1名	0.2%	574名	1.3%



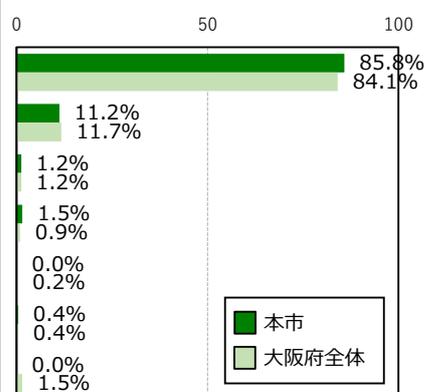
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
結婚している（再婚や事実婚を含む。）	251名	86.9%	19,949名	87.5%
離婚	29名	10.0%	2,030名	8.9%
死別	5名	1.7%	172名	0.8%
未婚	3名	1.0%	224名	1.0%
わからない	-	-	39名	0.2%
いない	-	-	84名	0.4%
無回答	1名	0.3%	288名	1.3%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
結婚している（再婚や事実婚を含む。）	223名	85.8%	16,290名	84.1%
離婚	29名	11.2%	2,273名	11.7%
死別	3名	1.2%	223名	1.2%
未婚	4名	1.5%	181名	0.9%
わからない	-	-	34名	0.2%
いない	1名	0.4%	82名	0.4%
無回答	-	-	282名	1.5%



世帯の状況について

問4 離婚相手との養育費の取り決めや受け取り

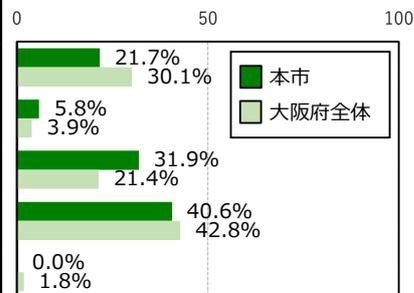
保護者全体は、「取り決めをしておらず、受け取っていない」が40.6%で最も多く、次いで「取り決めをしているが、受け取っていない」が31.9%、「取り決めをしており、受け取っている」が21.7%となっている。

小学生の保護者は、「取り決めをしておらず、受け取っていない」が44.8%で最も多く、次いで「取り決めをしており、受け取っている」が24.1%、「取り決めをしているが、受け取っていない」が20.7%となっている。

中学生の保護者は、「取り決めをしておらず、受け取っていない」が37.9%で最も多く、次いで「取り決めをしているが、受け取っていない」が34.5%、「取り決めをしており、受け取っている」が24.1%となっている。

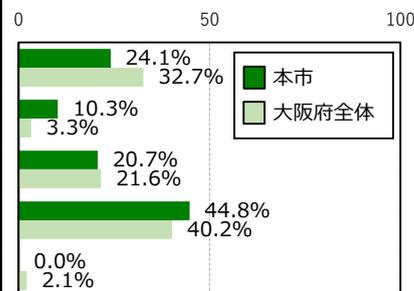
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	名	割合	名	割合
取り決めをしており、受け取っている	15名	21.7%	1,325名	30.1%
特に取り決めはしていないが、受け取っている	4名	5.8%	174名	3.9%
取り決めをしているが、受け取っていない	22名	31.9%	941名	21.4%
取り決めをしておらず、受け取っていない	28名	40.6%	1,888名	42.8%
無回答	-	-	79名	1.8%



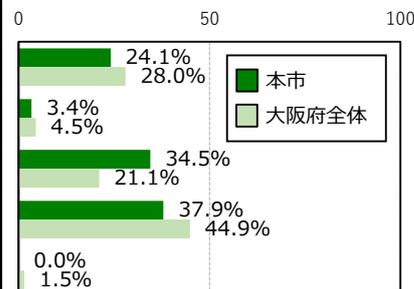
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	名	割合	名	割合
取り決めをしており、受け取っている	7名	24.1%	664名	32.7%
特に取り決めはしていないが、受け取っている	3名	10.3%	68名	3.3%
取り決めをしているが、受け取っていない	6名	20.7%	438名	21.6%
取り決めをしておらず、受け取っていない	13名	44.8%	817名	40.2%
無回答	-	-	43名	2.1%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	名	割合	名	割合
取り決めをしており、受け取っている	7名	24.1%	636名	28.0%
特に取り決めはしていないが、受け取っている	1名	3.4%	103名	4.5%
取り決めをしているが、受け取っていない	10名	34.5%	479名	21.1%
取り決めをしておらず、受け取っていない	11名	37.9%	1,020名	44.9%
無回答	-	-	35名	1.5%



世帯の状況について

問5 住居形態

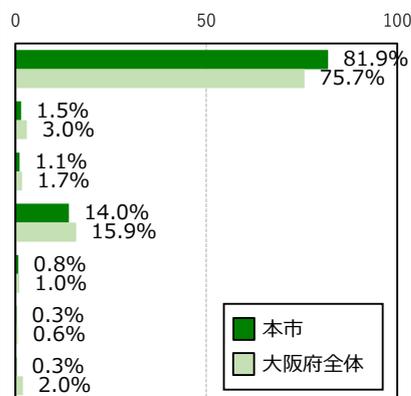
保護者全体は、「持ち家（親・きょうだいの名義を含む）」が81.9%で最も多く、次いで「民間の賃貸住宅」が14.0%、「府営・市営の住宅」が1.5%、「UR賃貸住宅・公社賃貸住宅」が1.1%となっている。

小学生の保護者は、「持ち家（親・きょうだいの名義を含む）」が82.0%で最も多く、次いで「民間の賃貸住宅」が14.2%、「UR賃貸住宅・公社賃貸住宅」、「官舎・社宅」がそれぞれ1.4%となっている。

中学生の保護者は、「持ち家（親・きょうだいの名義を含む）」が81.5%で最も多く、次いで「民間の賃貸住宅」が14.2%、「府営・市営の住宅」が2.3%となっている。

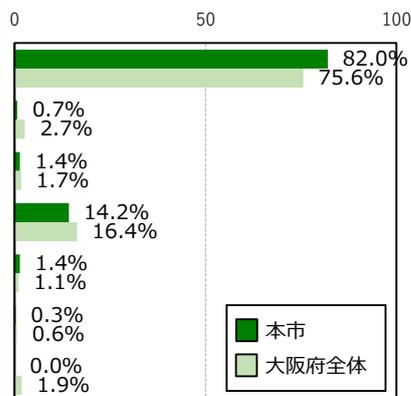
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
持ち家（親・きょうだいの名義を含む）	503名	81.9%	32,784名	75.7%
府営・市営の住宅	9名	1.5%	1,316名	3.0%
UR賃貸住宅・公社賃貸住宅	7名	1.1%	752名	1.7%
民間の賃貸住宅	86名	14.0%	6,890名	15.9%
官舎・社宅	5名	0.8%	438名	1.0%
その他	2名	0.3%	257名	0.6%
無回答	2名	0.3%	863名	2.0%



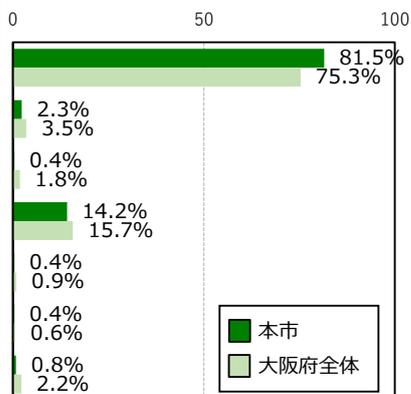
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
持ち家（親・きょうだいの名義を含む）	237名	82.0%	17,221名	75.6%
府営・市営の住宅	2名	0.7%	620名	2.7%
UR賃貸住宅・公社賃貸住宅	4名	1.4%	386名	1.7%
民間の賃貸住宅	41名	14.2%	3,738名	16.4%
官舎・社宅	4名	1.4%	255名	1.1%
その他	1名	0.3%	129名	0.6%
無回答	-	-	437名	1.9%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
持ち家（親・きょうだいの名義を含む）	212名	81.5%	14,585名	75.3%
府営・市営の住宅	6名	2.3%	676名	3.5%
UR賃貸住宅・公社賃貸住宅	1名	0.4%	356名	1.8%
民間の賃貸住宅	37名	14.2%	3,036名	15.7%
官舎・社宅	1名	0.4%	171名	0.9%
その他	1名	0.4%	121名	0.6%
無回答	2名	0.8%	420名	2.2%



世帯の状況について

問6(1) 家計の状況

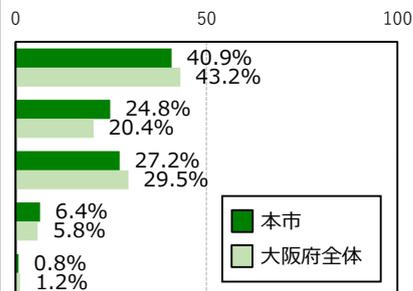
保護者全体は、「貯蓄ができている」が40.9%で最も多く、次いで「赤字でもなく黒字でもない」が27.2%、「赤字である」が24.8%となっている。

小学生の保護者は、「貯蓄ができている」が44.3%で最も多く、次いで「赤字でもなく黒字でもない」が24.9%、「赤字である」が23.5%となっている。

中学生の保護者は、「貯蓄ができている」が39.2%で最も多く、次いで「赤字でもなく黒字でもない」が28.5%、「赤字である」が24.6%となっている。

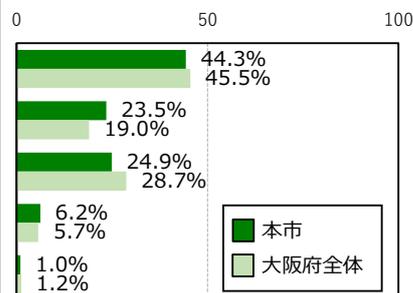
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	名	割合	名	割合
貯蓄ができている	251名	40.9%	18,686名	43.2%
赤字である	152名	24.8%	8,818名	20.4%
赤字でもなく黒字でもない	167名	27.2%	12,767名	29.5%
わからない	39名	6.4%	2,523名	5.8%
無回答	5名	0.8%	506名	1.2%



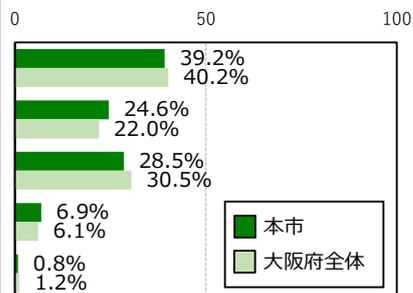
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	名	割合	名	割合
貯蓄ができている	128名	44.3%	10,376名	45.5%
赤字である	68名	23.5%	4,319名	19.0%
赤字でもなく黒字でもない	72名	24.9%	6,535名	28.7%
わからない	18名	6.2%	1,292名	5.7%
無回答	3名	1.0%	264名	1.2%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	名	割合	名	割合
貯蓄ができている	102名	39.2%	7,790名	40.2%
赤字である	64名	24.6%	4,255名	22.0%
赤字でもなく黒字でもない	74名	28.5%	5,912名	30.5%
わからない	18名	6.9%	1,173名	6.1%
無回答	2名	0.8%	235名	1.2%



世帯の状況について

問6(2) 子どもの将来のための貯蓄状況

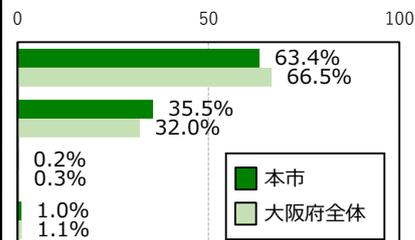
保護者全体は、「貯蓄をしている」が63.4%で最も多く、次いで「貯蓄をしたいが、できていない」が35.5%、「貯蓄をするつもりはない」が0.2%となっている。

小学生の保護者は、「貯蓄をしている」が62.6%で最も多く、次いで「貯蓄をしたいが、できていない」が36.0%、「貯蓄をするつもりはない」が0.3%となっている。

中学生の保護者は、「貯蓄をしている」が64.2%で最も多く、次いで「貯蓄をしたいが、できていない」が35.0%となっている。

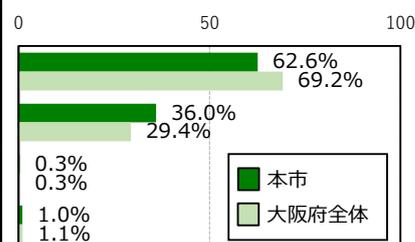
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
貯蓄をしている	389名	63.4%	28,802名	66.5%
貯蓄をしたいが、できていない	218名	35.5%	13,877名	32.0%
貯蓄をするつもりはない	1名	0.2%	138名	0.3%
無回答	6名	1.0%	483名	1.1%



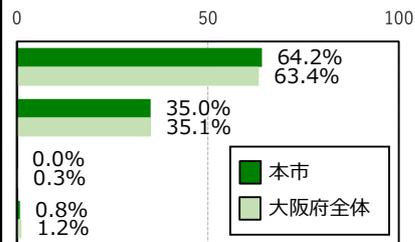
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
貯蓄をしている	181名	62.6%	15,765名	69.2%
貯蓄をしたいが、できていない	104名	36.0%	6,698名	29.4%
貯蓄をするつもりはない	1名	0.3%	74名	0.3%
無回答	3名	1.0%	249名	1.1%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
貯蓄をしている	167名	64.2%	12,277名	63.4%
貯蓄をしたいが、できていない	91名	35.0%	6,798名	35.1%
貯蓄をするつもりはない	-	-	63名	0.3%
無回答	2名	0.8%	227名	1.2%



世帯の状況について

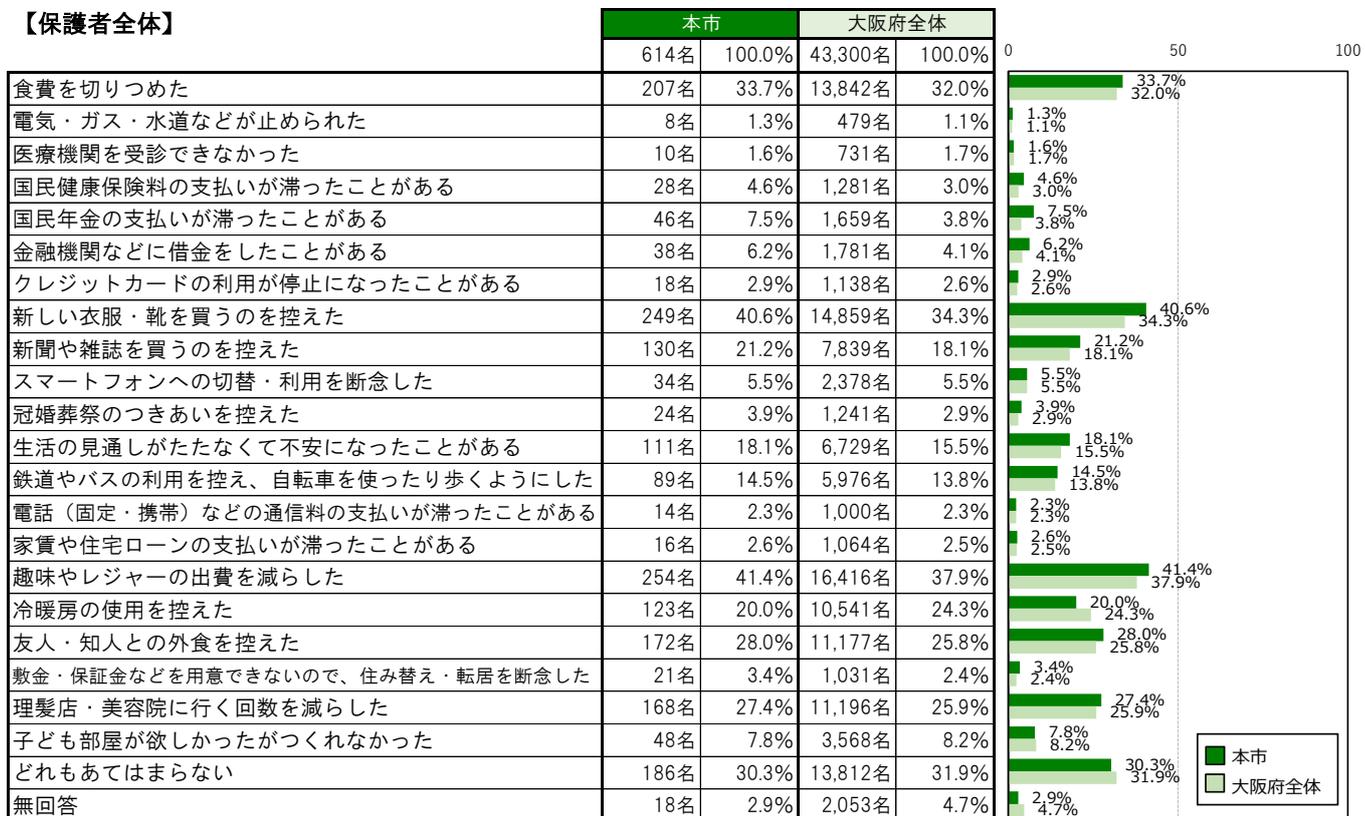
問7 経済的な理由による経験

保護者全体は、「趣味やレジャーの出費を減らした」が41.4%で最も多く、次いで「新しい衣服・靴を買うのを控えた」が40.6%、「食費を切りつめた」が33.7%、「どれもあてはまらない」が30.3%となっている。

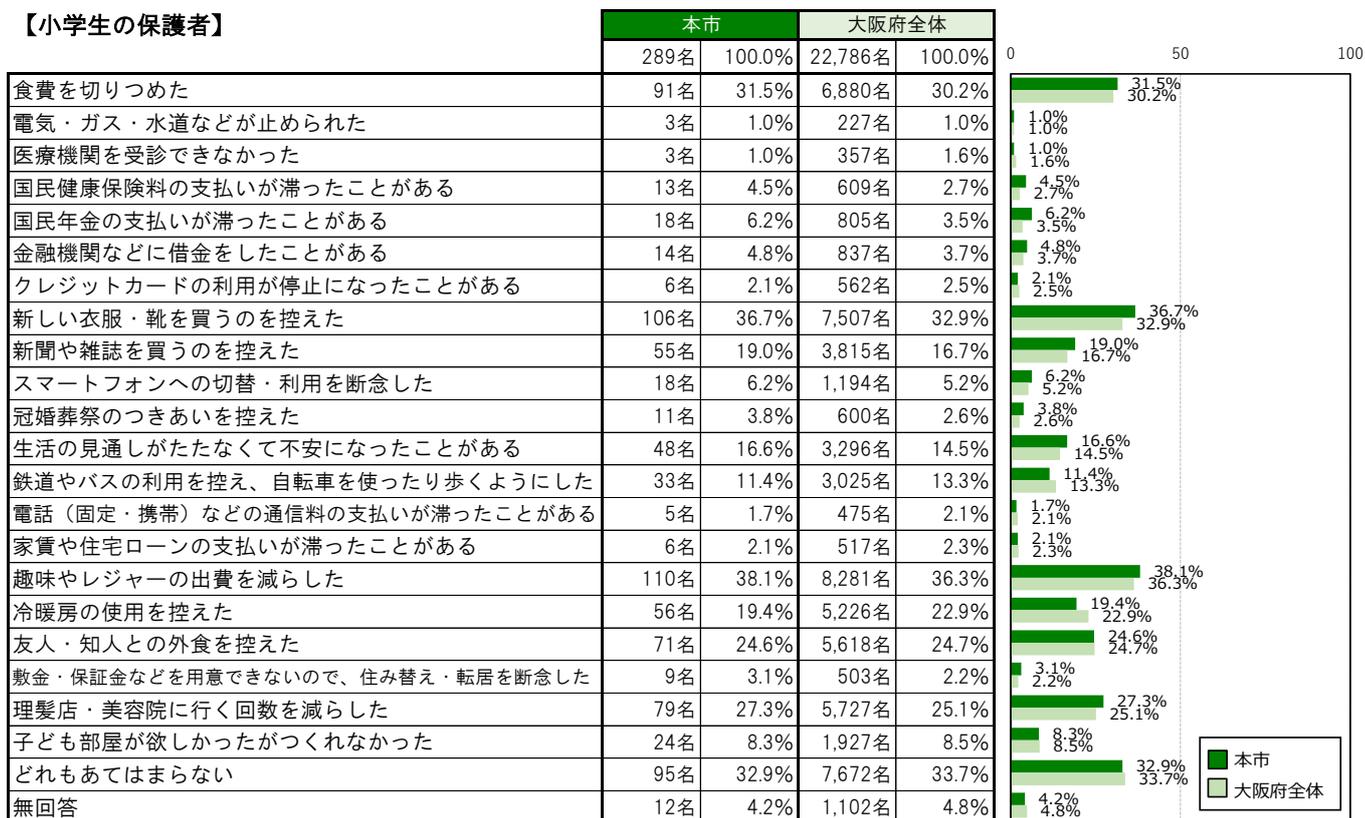
小学生の保護者は、「趣味やレジャーの出費を減らした」が38.1%で最も多く、次いで「新しい衣服・靴を買うのを控えた」が36.7%、「どれもあてはまらない」が32.9%、「食費を切りつめた」が31.5%となっている。

中学生の保護者は、「新しい衣服・靴を買うのを控えた」が44.2%で最も多く、次いで「趣味やレジャーの出費を減らした」が43.5%、「食費を切りつめた」が35.4%、「友人・知人との外食を控えた」、「理髪店・美容院に行く回数を減らした」、「どれもあてはまらない」がそれぞれ28.8%となっている。

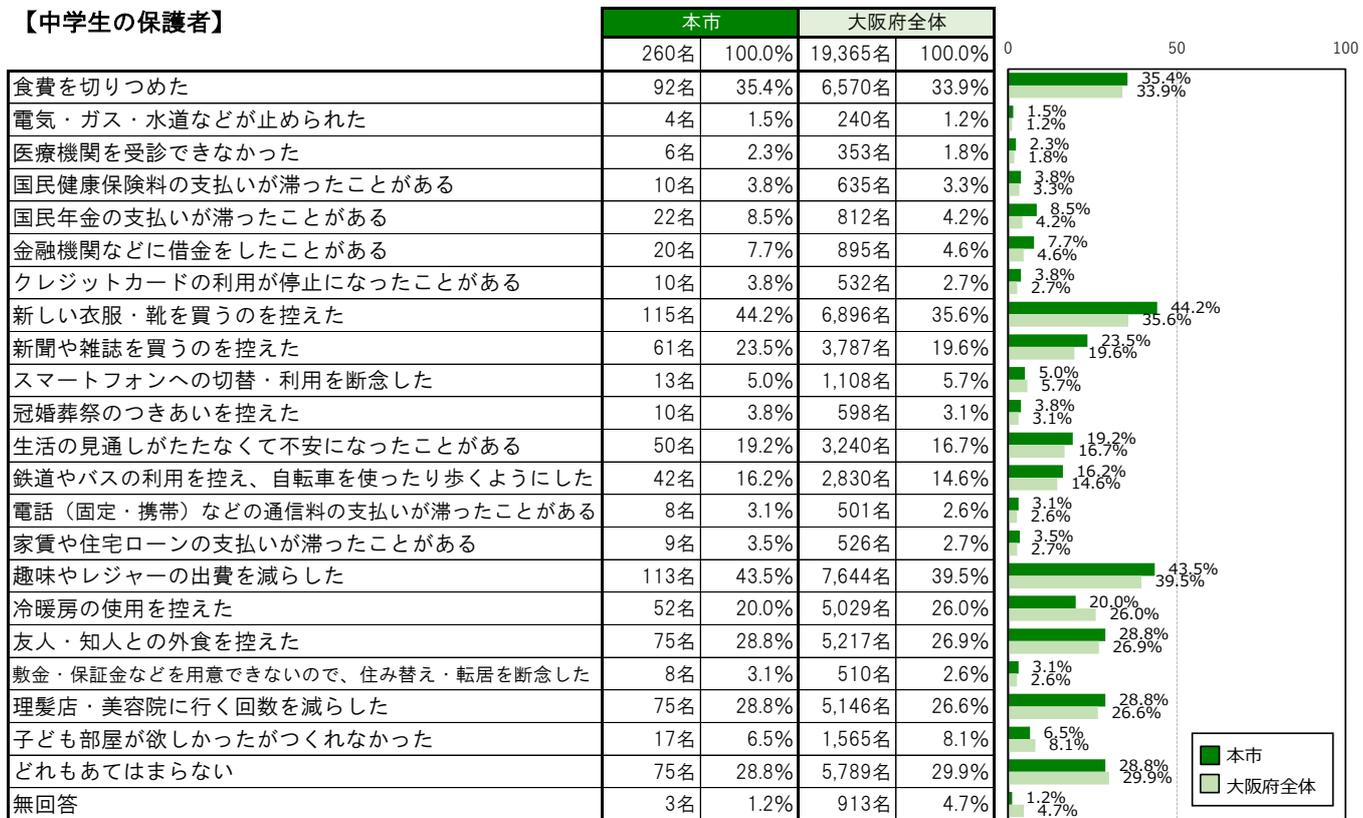
【保護者全体】



【小学生の保護者】



【中学生の保護者】



世帯の状況について

問7 経済的な理由による経験（はく奪指標）

保護者全体は、「1～6個に該当」が51.6%で最も多く、次いで「該当なし」が30.3%、「7個以上に該当」が15.1%となっている。

小学生の保護者は、「1～6個に該当」が49.8%で最も多く、次いで「該当なし」が32.9%、「7個以上に該当」が13.1%となっている。

中学生の保護者は、「1～6個に該当」が53.5%で最も多く、次いで「該当なし」が28.8%、「7個以上に該当」が16.5%となっている。

【保護者全体】



【小学生の保護者】



【中学生の保護者】



世帯の状況について

問8 お母さんの最終学歴

保護者全体は、「高専、短大、専門学校等卒業」が40.2%で最も多く、次いで「高等学校卒業」が27.7%、「大学卒業」が22.5%、「高等学校中途退学」が3.4%となっている。

小学生の保護者は、「高専、短大、専門学校等卒業」が38.8%で最も多く、次いで「大学卒業」が26.6%、「高等学校卒業」が25.3%、「高等学校中途退学」が2.8%となっている。

中学生の保護者は、「高専、短大、専門学校等卒業」が40.4%で最も多く、次いで「高等学校卒業」が31.9%、「大学卒業」が19.2%、「高等学校中途退学」が2.7%となっている。

【保護者全体】



【小学生の保護者】



【中学生の保護者】



世帯の状況について

問8 お父さんの最終学歴

保護者全体は、「大学卒業」が33.1%で最も多く、次いで「高等学校卒業」が24.8%、「高専、短大、専門学校等卒業」が15.6%、「大学院修了」が5.7%となっている。

小学生の保護者は、「大学卒業」が34.6%で最も多く、次いで「高等学校卒業」が21.1%、「高専、短大、専門学校等卒業」が18.3%、「高等学校中途退学」、「大学院修了」がそれぞれ5.5%となっている。

中学生の保護者は、「大学卒業」が31.5%で最も多く、次いで「高等学校卒業」が29.2%、「高専、短大、専門学校等卒業」が12.7%、「大学院修了」が5.8%となっている。

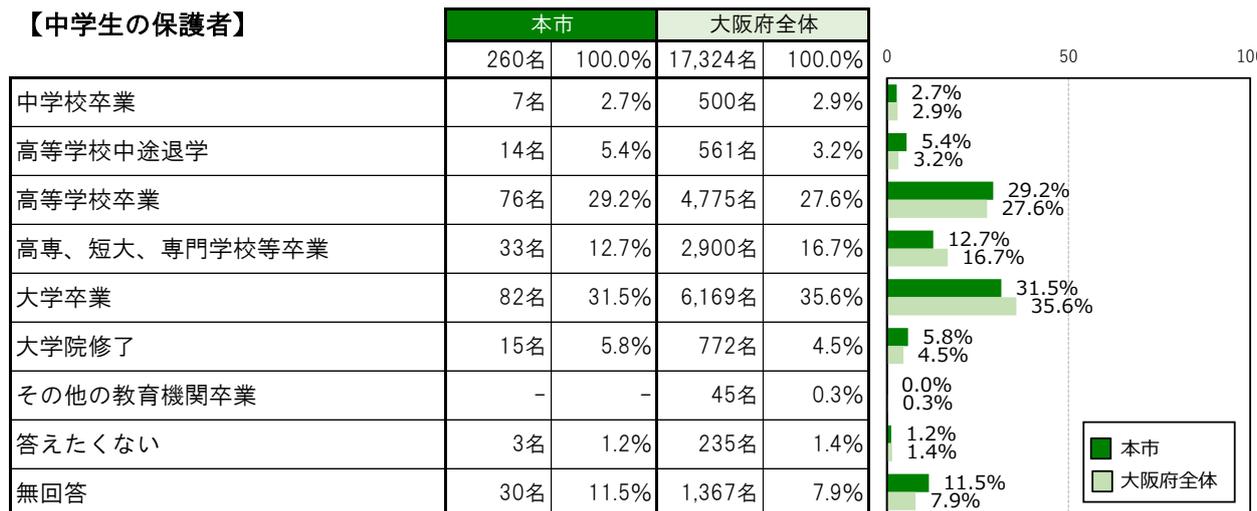
【保護者全体】



【小学生の保護者】



【中学生の保護者】



世帯の状況について

問9 お母さんの有無

保護者全体は、「いる」が93.5%、「いない」が6.0%となっている。  
 小学生の保護者は、「いる」が94.1%、「いない」が5.2%となっている。  
 中学生の保護者は、「いる」が92.3%、「いない」が7.3%となっている。

【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いる	574名	93.5%	40,053名	92.5%
いない	37名	6.0%	2,634名	6.1%
無回答	3名	0.5%	613名	1.4%



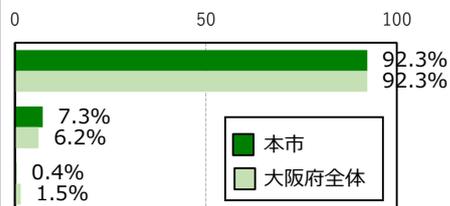
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いる	272名	94.1%	21,115名	92.7%
いない	15名	5.2%	1,368名	6.0%
無回答	2名	0.7%	303名	1.3%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いる	240名	92.3%	17,877名	92.3%
いない	19名	7.3%	1,192名	6.2%
無回答	1名	0.4%	296名	1.5%



世帯の状況について

問9 お母さんの就業状況

保護者全体は、「勤め（パートまたはアルバイト、非正規職員で1か所に勤務）」が47.7%で最も多く、次いで「勤め（常勤・正規職員）」が24.9%、「仕事を探していない」が8.7%、「自営業・家業」が8.2%となっている。

小学生の保護者は、「勤め（パートまたはアルバイト、非正規職員で1か所に勤務）」が46.3%で最も多く、次いで「勤め（常勤・正規職員）」が25.4%、「自営業・家業」が9.9%、「仕事を探していない」が7.7%となっている。

中学生の保護者は、「勤め（パートまたはアルバイト、非正規職員で1か所に勤務）」が49.2%で最も多く、次いで「勤め（常勤・正規職員）」が23.3%、「仕事を探していない」が9.6%、「勤め（パートまたはアルバイト、非正規職員で2か所以上に勤務）」が7.1%となっている。

【保護者全体】



【小学生の保護者】



【中学生の保護者】



世帯の状況について

問9 お母さんが仕事を探していない理由

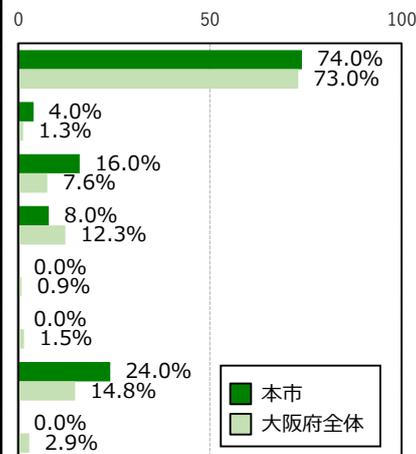
保護者全体は、「家事や育児に専念したいため」が74.0%で最も多く、次いで「おうちの人の介護や介助のため」が16.0%、「病気療養のため」が8.0%、「学生のため」が4.0%となっている。

小学生の保護者は、「家事や育児に専念したいため」が76.2%（16名）で最も多く、次いで「おうちの人の介護や介助のため」、「病気療養のため」がそれぞれ9.5%（2名）、「学生のため」が4.8%（1名）となっている。

中学生の保護者は、「家事や育児に専念したいため」が73.9%（17名）で最も多く、次いで「おうちの人の介護や介助のため」が26.1%（6名）、「病気療養のため」が8.7%（2名）となっている。

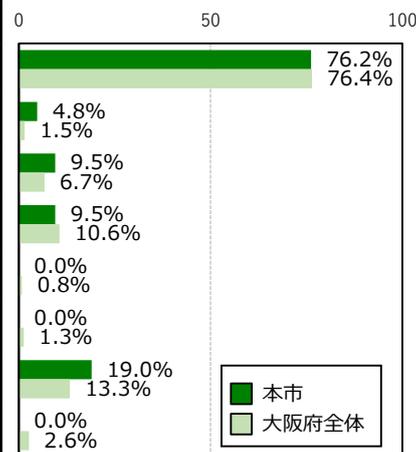
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	50名	100.0%	4,027名	100.0%
家事や育児に専念したいため	37名	74.0%	2,939名	73.0%
学生のため	2名	4.0%	51名	1.3%
おうちの人の介護や介助のため	8名	16.0%	307名	7.6%
病気療養のため	4名	8.0%	496名	12.3%
年金収入があるため	-	-	35名	0.9%
家賃収入、株式運用などの収入があるため	-	-	62名	1.5%
その他	12名	24.0%	595名	14.8%
無回答	-	-	115名	2.9%



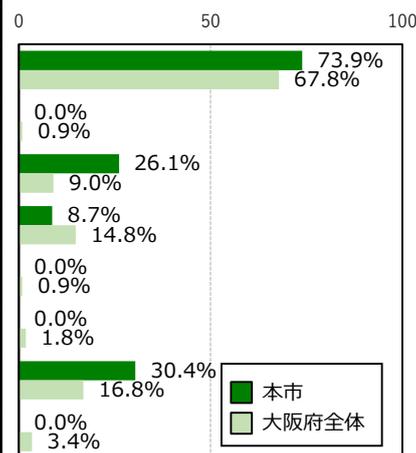
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	21名	100.0%	2,381名	100.0%
家事や育児に専念したいため	16名	76.2%	1,820名	76.4%
学生のため	1名	4.8%	36名	1.5%
おうちの人の介護や介助のため	2名	9.5%	160名	6.7%
病気療養のため	2名	9.5%	252名	10.6%
年金収入があるため	-	-	20名	0.8%
家賃収入、株式運用などの収入があるため	-	-	32名	1.3%
その他	4名	19.0%	317名	13.3%
無回答	-	-	61名	2.6%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	23名	100.0%	1,570名	100.0%
家事や育児に専念したいため	17名	73.9%	1,064名	67.8%
学生のため	-	-	14名	0.9%
おうちの人の介護や介助のため	6名	26.1%	141名	9.0%
病気療養のため	2名	8.7%	232名	14.8%
年金収入があるため	-	-	14名	0.9%
家賃収入、株式運用などの収入があるため	-	-	29名	1.8%
その他	7名	30.4%	263名	16.8%
無回答	-	-	54名	3.4%



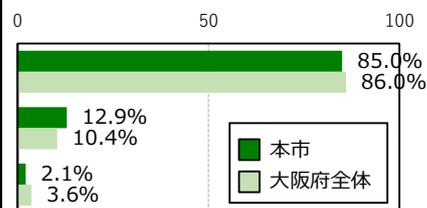
世帯の状況について

問9 お父さんの有無

保護者全体は、「いる」が85.0%、「いない」が12.9%となっている。  
 小学生の保護者は、「いる」が85.8%、「いない」が11.4%となっている。  
 中学生の保護者は、「いる」が84.6%、「いない」が13.5%となっている。

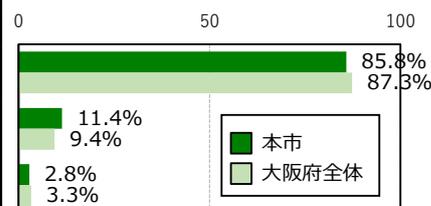
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いる	522名	85.0%	37,256名	86.0%
いない	79名	12.9%	4,504名	10.4%
無回答	13名	2.1%	1,540名	3.6%



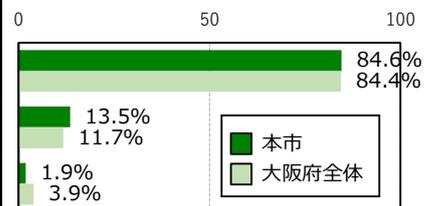
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いる	248名	85.8%	19,882名	87.3%
いない	33名	11.4%	2,149名	9.4%
無回答	8名	2.8%	755名	3.3%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いる	220名	84.6%	16,352名	84.4%
いない	35名	13.5%	2,261名	11.7%
無回答	5名	1.9%	752名	3.9%



世帯の状況について

問9 お父さんの就業状況

保護者全体は、「勤め（常勤・正規職員）」が79.7%で最も多く、次いで「自営業・家業」が16.9%、「勤め（パートまたはアルバイト、非正規職員で1か所に勤務）」が2.5%となっている。

小学生の保護者は、「勤め（常勤・正規職員）」が81.5%で最も多く、次いで「自営業・家業」が15.3%、「勤め（パートまたはアルバイト、非正規職員で1か所に勤務）」が2.0%となっている。

中学生の保護者は、「勤め（常勤・正規職員）」が76.8%で最も多く、次いで「自営業・家業」が19.1%、「勤め（パートまたはアルバイト、非正規職員で1か所に勤務）」が3.2%となっている。

【保護者全体】



【小学生の保護者】



【中学生の保護者】



世帯の状況について

問9 お父さんが仕事を探していない理由

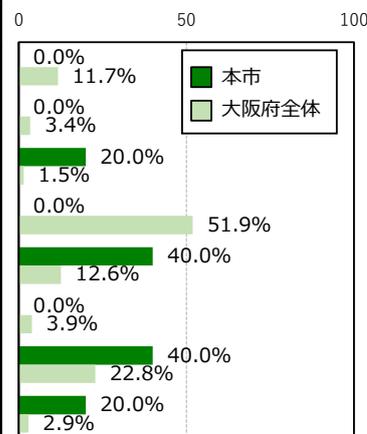
保護者全体は、「年金収入があるため」が40.0%（2名）となっている。

小学生の保護者は、「年金収入があるため」が33.3%（1名）となっている。

中学生の保護者は、「おうちの人の介護や介助のため」、「年金収入があるため」がそれぞれ50.0%（1名）となっている。

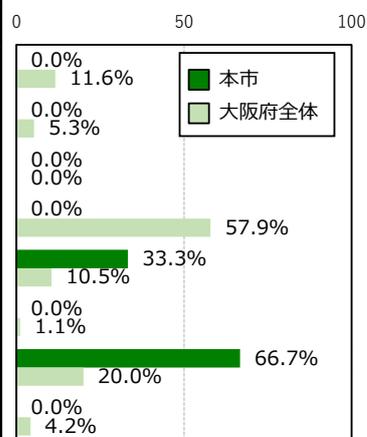
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	5名	100.0%	206名	100.0%
家事や育児に専念したいため	-	-	24名	11.7%
学生のため	-	-	7名	3.4%
おうちの人の介護や介助のため	1名	20.0%	3名	1.5%
病気療養のため	-	-	107名	51.9%
年金収入があるため	2名	40.0%	26名	12.6%
家賃収入、株式運用などの収入があるため	-	-	8名	3.9%
その他	2名	40.0%	47名	22.8%
無回答	1名	20.0%	6名	2.9%



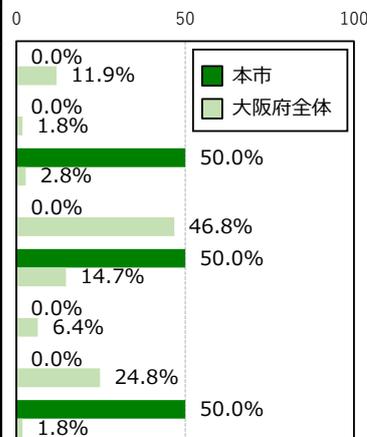
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	3名	100.0%	95名	100.0%
家事や育児に専念したいため	-	-	11名	11.6%
学生のため	-	-	5名	5.3%
おうちの人の介護や介助のため	-	-	-	-
病気療養のため	-	-	55名	57.9%
年金収入があるため	1名	33.3%	10名	10.5%
家賃収入、株式運用などの収入があるため	-	-	1名	1.1%
その他	2名	66.7%	19名	20.0%
無回答	-	-	4名	4.2%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	2名	100.0%	109名	100.0%
家事や育児に専念したいため	-	-	13名	11.9%
学生のため	-	-	2名	1.8%
おうちの人の介護や介助のため	1名	50.0%	3名	2.8%
病気療養のため	-	-	51名	46.8%
年金収入があるため	1名	50.0%	16名	14.7%
家賃収入、株式運用などの収入があるため	-	-	7名	6.4%
その他	-	-	27名	24.8%
無回答	1名	50.0%	2名	1.8%



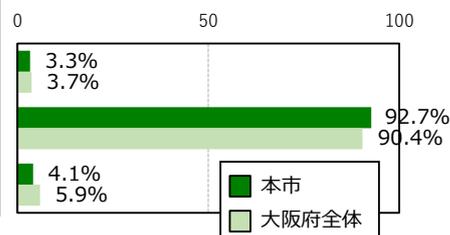
世帯の状況について

問9 親以外に主として家計を支えている人の有無

保護者全体は、「いる」が3.3%、「いない」が92.7%となっている。  
 小学生の保護者は、「いる」が3.8%、「いない」が92.0%となっている。  
 中学生の保護者は、「いる」が3.1%、「いない」が93.1%となっている。

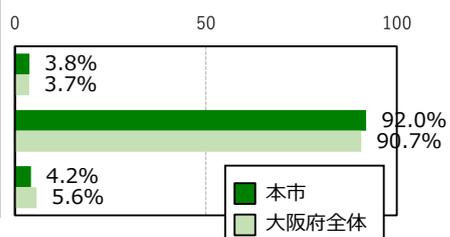
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いる	20名	3.3%	1,611名	3.7%
いない	569名	92.7%	39,140名	90.4%
無回答	25名	4.1%	2,549名	5.9%



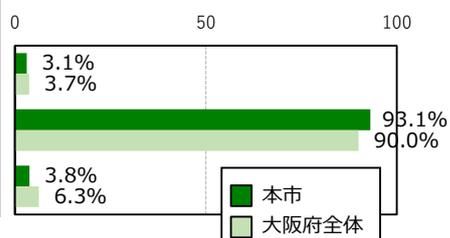
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いる	11名	3.8%	854名	3.7%
いない	266名	92.0%	20,666名	90.7%
無回答	12名	4.2%	1,266名	5.6%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いる	8名	3.1%	718名	3.7%
いない	242名	93.1%	17,432名	90.0%
無回答	10名	3.8%	1,215名	6.3%



## 世帯の状況について

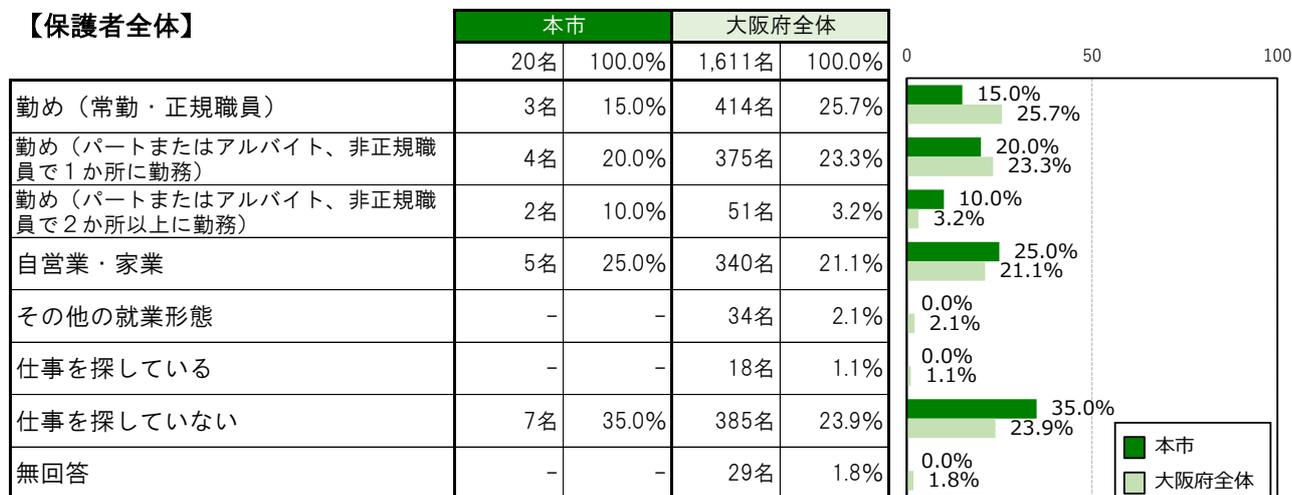
### 問9 親以外に主として家計を支えている人の就業状況

保護者全体は、「仕事を探していない」が35.0%で最も多く、次いで「自営業・家業」が25.0%、「勤め（パートまたはアルバイト、非正規職員で1か所に勤務）」が20.0%、「勤め（常勤・正規職員）」が15.0%となっている。

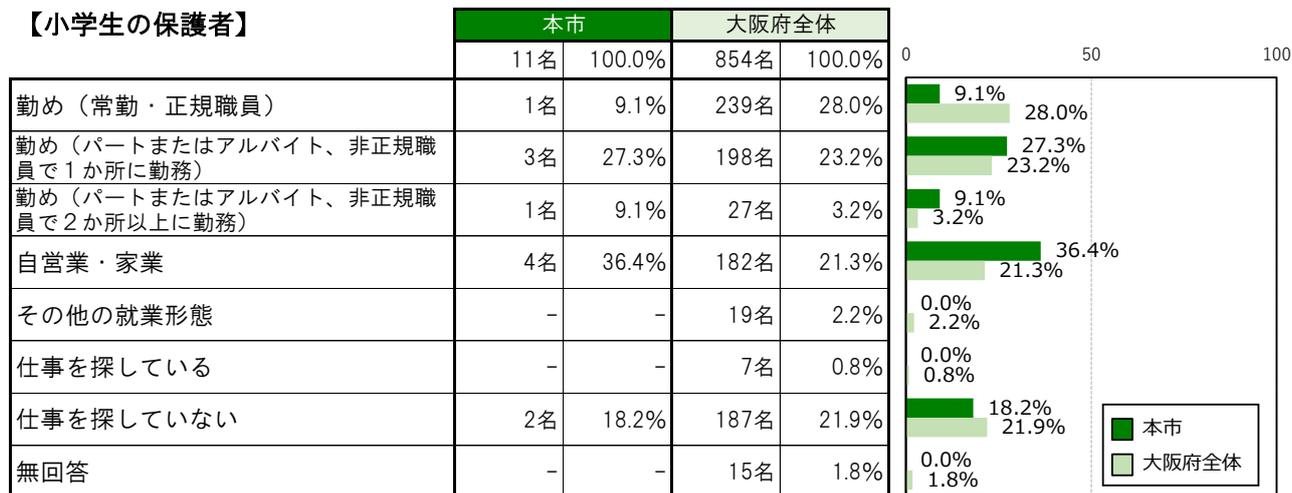
小学生の保護者は、「自営業・家業」が36.4%で最も多く、次いで「勤め（パートまたはアルバイト、非正規職員で1か所に勤務）」が27.3%、「仕事を探していない」が18.2%、「勤め（常勤・正規職員）」、「勤め（パートまたはアルバイト、非正規職員で2か所以上に勤務）」がそれぞれ9.1%となっている。

中学生の保護者は、「仕事を探していない」が62.5%で最も多く、次いで「勤め（常勤・正規職員）」が25.0%、「自営業・家業」が12.5%となっている。

#### 【保護者全体】



#### 【小学生の保護者】



#### 【中学生の保護者】



世帯の状況について

問9 親以外に主として家計を支えている人が仕事を探していない理由

保護者全体は、「年金収入があるため」が42.9%（3名）で最も多く、次いで「家賃収入、株式運用などの収入があるため」が14.3%（1名）となっている。

小学生の保護者は、「年金収入があるため」、「家賃収入、株式運用などの収入があるため」がそれぞれ50.0%（1名）となっている。

中学生の保護者は、「年金収入があるため」が40.0%（2名）となっている。



世帯の状況について

問10 保護者が家にいる時間帯

保護者全体は、「お子さんの学校からの帰宅時には家にいる」が47.6%で最も多く、次いで「お子さんの夕食時には家にいる」が43.2%、「お子さんの寝る時には家にいる」が5.2%、「帰宅時間が決まっていない」が2.6%となっている。

小学生の保護者は、「お子さんの学校からの帰宅時には家にいる」が48.1%で最も多く、次いで「お子さんの夕食時には家にいる」が45.3%、「お子さんの寝る時には家にいる」が4.2%、「帰宅時間が決まっていない」が1.0%となっている。

中学生の保護者は、「お子さんの学校からの帰宅時には家にいる」が47.7%で最も多く、次いで「お子さんの夕食時には家にいる」が41.2%、「お子さんの寝る時には家にいる」が5.0%、「帰宅時間が決まっていない」が4.2%となっている。

【保護者全体】



【小学生の保護者】



【中学生の保護者】



世帯の状況について

問11 日本語以外の言語の使用状況

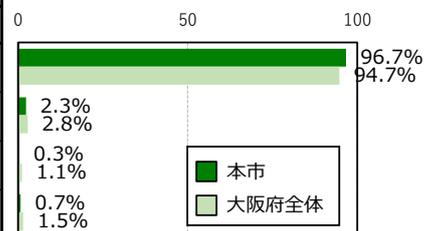
保護者全体は、「日本語のみを使用している」が96.7%で最も多く、次いで「日本語以外の言語も使用しているが、日本語の方が多し」が2.3%、「日本語以外の言語を使うことが多い」が0.3%となっている。

小学生の保護者は、「日本語のみを使用している」が95.8%で最も多く、次いで「日本語以外の言語も使用しているが、日本語の方が多し」が3.1%、「日本語以外の言語を使うことが多い」が0.3%となっている。

中学生の保護者は、「日本語のみを使用している」が98.1%で最も多く、次いで「日本語以外の言語も使用しているが、日本語の方が多し」が0.8%、「日本語以外の言語を使うことが多い」が0.4%となっている。

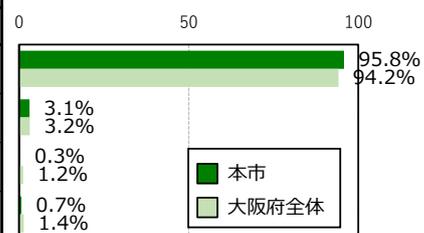
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	名	%	名	%
日本語のみを使用している	614名	100.0%	43,300名	100.0%
日本語以外の言語も使用しているが、日本語の方が多し	594名	96.7%	40,991名	94.7%
日本語以外の言語を使うことが多い	14名	2.3%	1,201名	2.8%
無回答	2名	0.3%	476名	1.1%
無回答	4名	0.7%	632名	1.5%



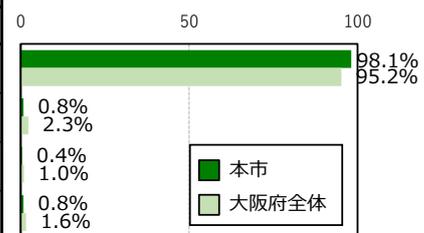
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	名	%	名	%
日本語のみを使用している	289名	100.0%	22,786名	100.0%
日本語以外の言語も使用しているが、日本語の方が多し	277名	95.8%	21,457名	94.2%
日本語以外の言語を使うことが多い	9名	3.1%	729名	3.2%
無回答	1名	0.3%	280名	1.2%
無回答	2名	0.7%	320名	1.4%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	名	%	名	%
日本語のみを使用している	260名	100.0%	19,365名	100.0%
日本語以外の言語も使用しているが、日本語の方が多し	255名	98.1%	18,426名	95.2%
日本語以外の言語を使うことが多い	2名	0.8%	446名	2.3%
無回答	1名	0.4%	188名	1.0%
無回答	2名	0.8%	305名	1.6%



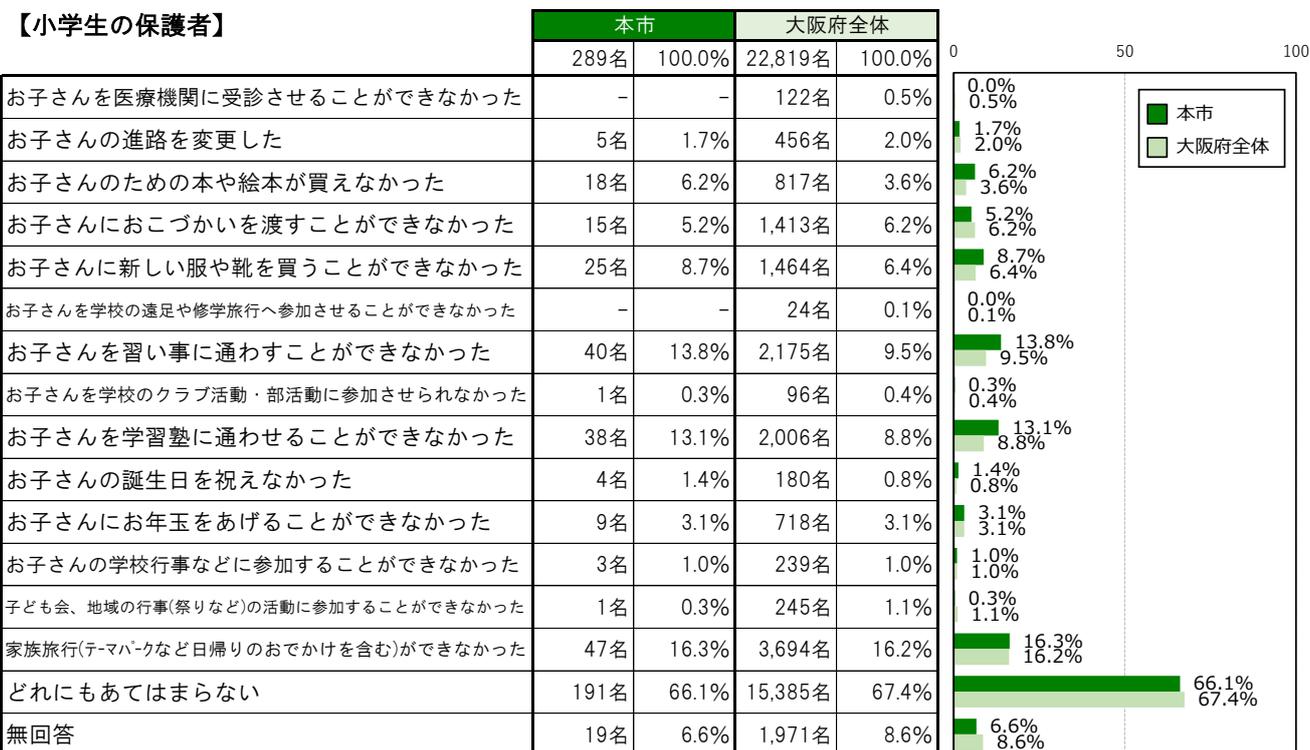
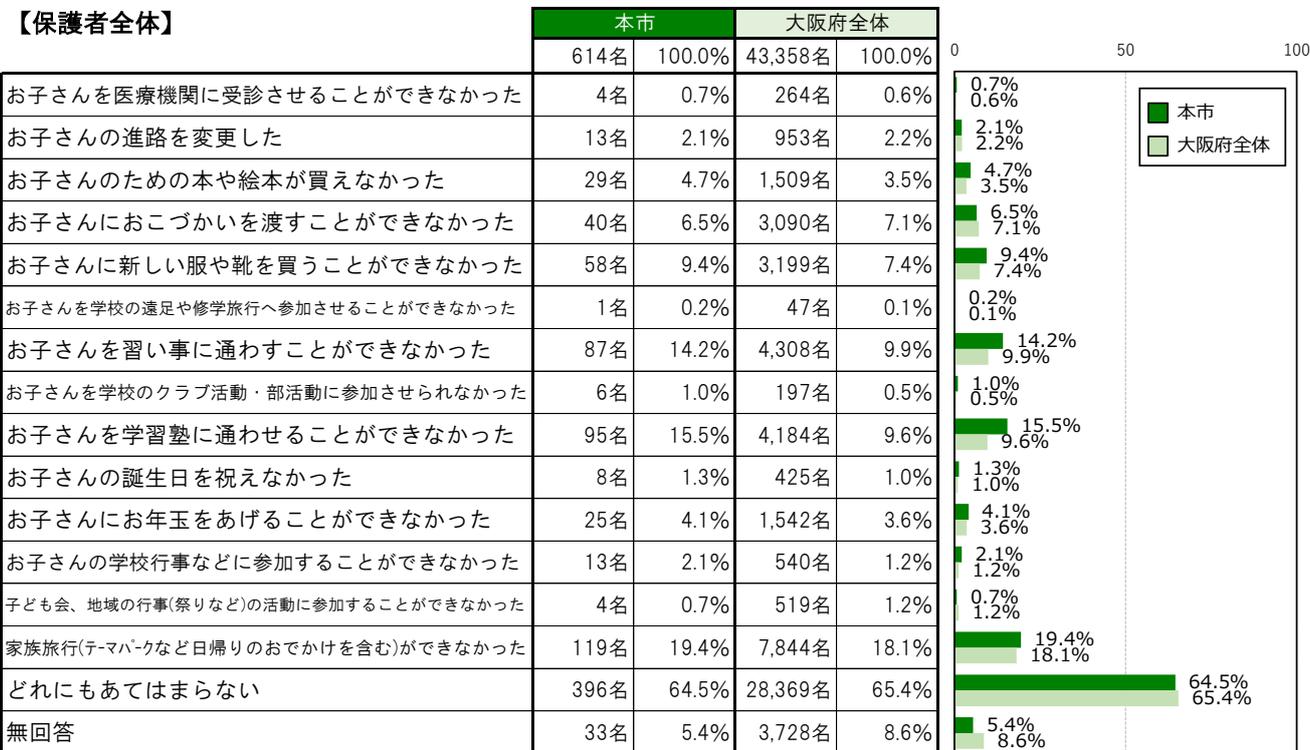
子どもに関することについて

問12 経済的な理由による子どもに関する経験

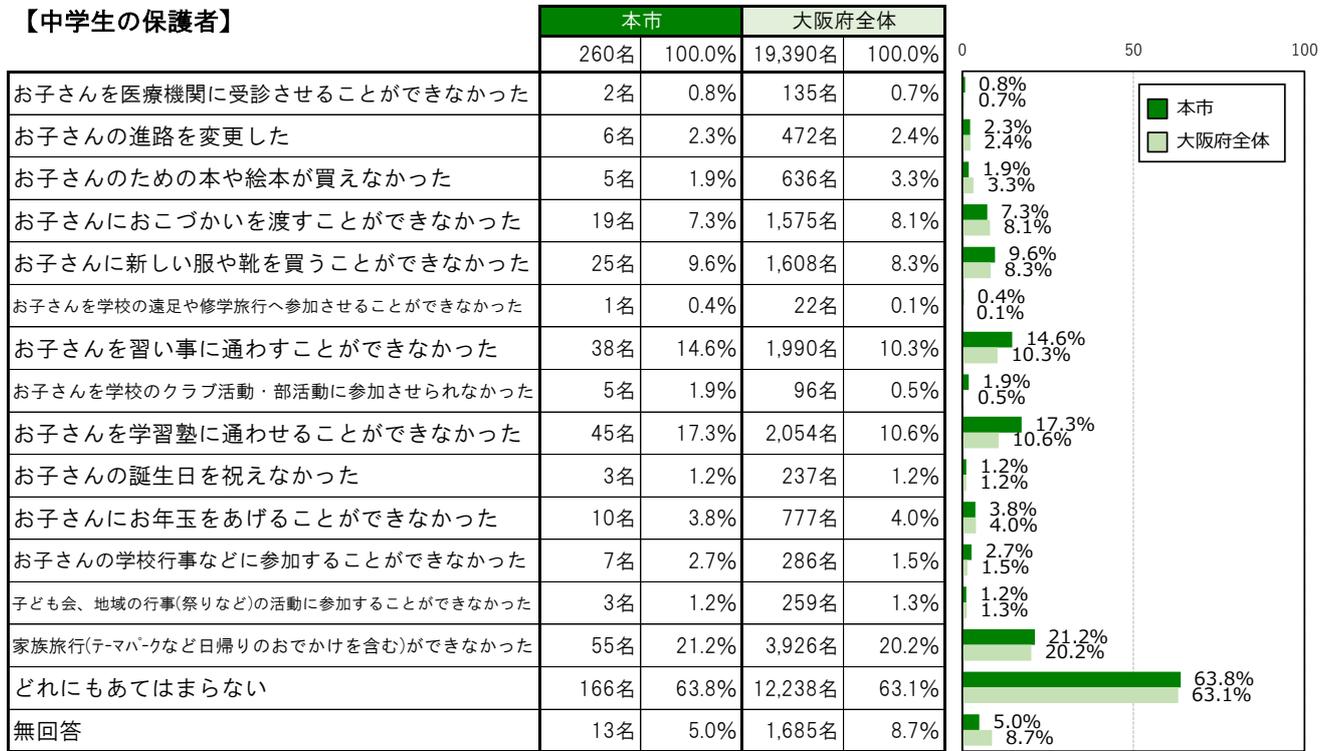
保護者全体は、「どれにもあてはまらない」が64.5%で最も多く、次いで「家族旅行(テーマパークなど日帰りのおでかけを含む)ができなかった」が19.4%、「お子さんを学習塾に通わせることができなかった」が15.5%、「お子さんを習い事に通わせることができなかった」が14.2%となっている。

小学生の保護者は、「どれにもあてはまらない」が66.1%で最も多く、次いで「家族旅行(テーマパークなど日帰りのおでかけを含む)ができなかった」が16.3%、「お子さんを習い事に通わせることができなかった」が13.8%、「お子さんを学習塾に通わせることができなかった」が13.1%となっている。

中学生の保護者は、「どれにもあてはまらない」が63.8%で最も多く、次いで「家族旅行(テーマパークなど日帰りのおでかけを含む)ができなかった」が21.2%、「お子さんを学習塾に通わせることができなかった」が17.3%、「お子さんを習い事に通わせることができなかった」が14.6%となっている。



【中学生の保護者】



子どもに関することについて

問13(1) 子どもへの信頼度

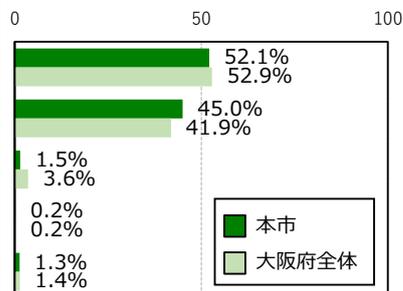
保護者全体は、「とても信頼している」が52.1%で最も多く、次いで「信頼している」が45.0%、「あまり信頼していない」が1.5%となっている。

小学生の保護者は、「とても信頼している」が56.4%で最も多く、次いで「信頼している」が41.5%、「あまり信頼していない」が0.7%となっている。

中学生の保護者は、「信頼している」が49.2%で最も多く、次いで「とても信頼している」が46.9%、「あまり信頼していない」が2.7%となっている。

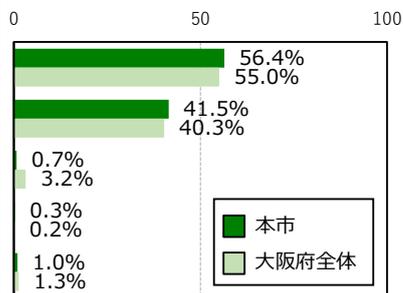
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
とても信頼している	320名	52.1%	22,948名	52.9%
信頼している	276名	45.0%	18,151名	41.9%
あまり信頼していない	9名	1.5%	1,566名	3.6%
信頼していない	1名	0.2%	101名	0.2%
無回答	8名	1.3%	592名	1.4%



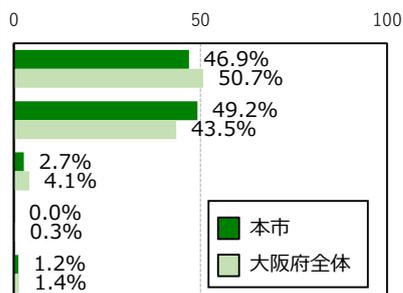
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
とても信頼している	163名	56.4%	12,553名	55.0%
信頼している	120名	41.5%	9,191名	40.3%
あまり信頼していない	2名	0.7%	720名	3.2%
信頼していない	1名	0.3%	48名	0.2%
無回答	3名	1.0%	307名	1.3%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
とても信頼している	122名	46.9%	9,835名	50.7%
信頼している	128名	49.2%	8,429名	43.5%
あまり信頼していない	7名	2.7%	796名	4.1%
信頼していない	-	-	50名	0.3%
無回答	3名	1.2%	280名	1.4%



子どもに関することについて

問13(2) 子どもとの会話頻度

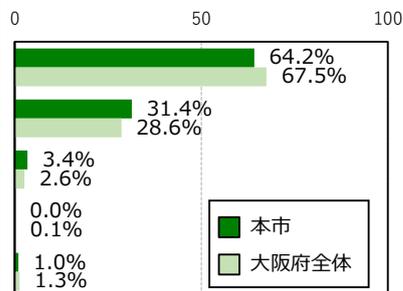
保護者全体は、「よくする」が64.2%で最も多く、次いで「する」が31.4%、「あまりしない」が3.4%となっている。

小学生の保護者は、「よくする」が67.8%で最も多く、次いで「する」が29.8%、「あまりしない」が1.4%となっている。

中学生の保護者は、「よくする」が61.2%で最も多く、次いで「する」が32.3%、「あまりしない」が5.4%となっている。

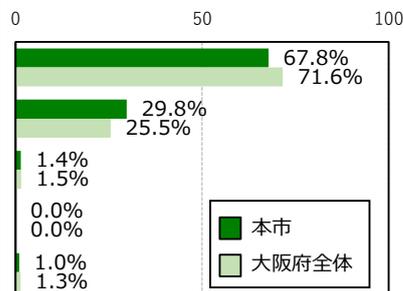
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
よくする	394名	64.2%	29,262名	67.5%
する	193名	31.4%	12,391名	28.6%
あまりしない	21名	3.4%	1,110名	2.6%
しない	-	-	30名	0.1%
無回答	6名	1.0%	565名	1.3%



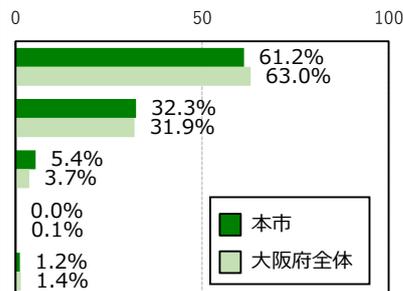
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
よくする	196名	67.8%	16,345名	71.6%
する	86名	29.8%	5,827名	25.5%
あまりしない	4名	1.4%	337名	1.5%
しない	-	-	10名	0.0%
無回答	3名	1.0%	300名	1.3%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
よくする	159名	61.2%	12,214名	63.0%
する	84名	32.3%	6,176名	31.9%
あまりしない	14名	5.4%	719名	3.7%
しない	-	-	19名	0.1%
無回答	3名	1.2%	262名	1.4%



## 子どもに関することについて

### 問13（3）平日での子どもとの関わり時間

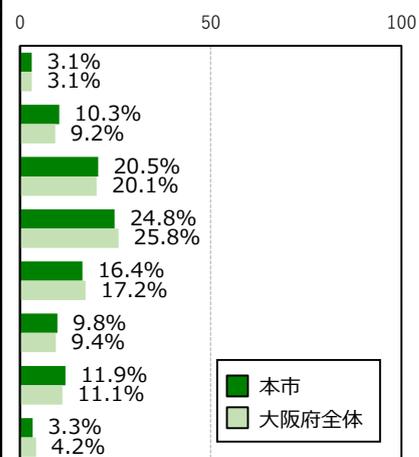
保護者全体は、「1時間～2時間未満」が24.8%で最も多く、次いで「30分～1時間未満」が20.5%、「2時間～3時間未満」が16.4%、「4時間以上」が11.9%となっている。

小学生の保護者は、「1時間～2時間未満」が26.6%で最も多く、次いで「2時間～3時間未満」が17.6%、「4時間以上」が17.3%、「30分～1時間未満」が15.9%となっている。

中学生の保護者は、「30分～1時間未満」が25.0%で最も多く、次いで「1時間～2時間未満」が23.5%、「2時間～3時間未満」が14.6%、「15分～30分未満」が10.8%となっている。

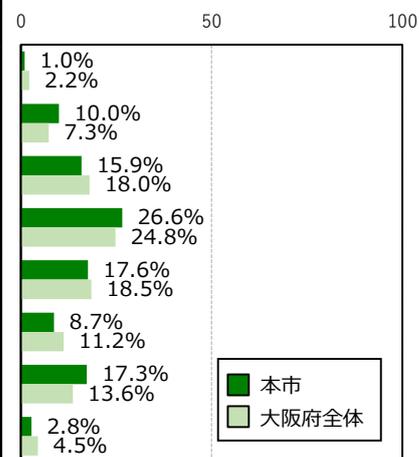
#### 【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
0～15分未満	19名	3.1%	1,323名	3.1%
15分～30分未満	63名	10.3%	3,978名	9.2%
30分～1時間未満	126名	20.5%	8,701名	20.1%
1時間～2時間未満	152名	24.8%	11,171名	25.8%
2時間～3時間未満	101名	16.4%	7,479名	17.2%
3時間～4時間未満	60名	9.8%	4,091名	9.4%
4時間以上	73名	11.9%	4,813名	11.1%
無回答	20名	3.3%	1,802名	4.2%



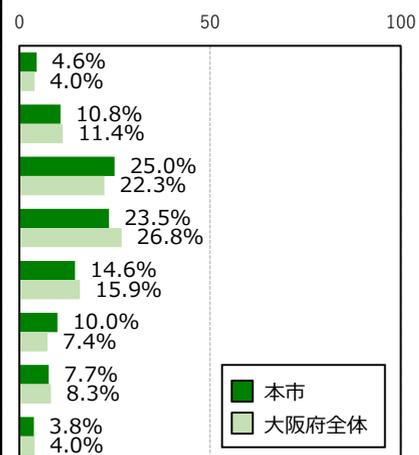
#### 【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
0～15分未満	3名	1.0%	494名	2.2%
15分～30分未満	29名	10.0%	1,662名	7.3%
30分～1時間未満	46名	15.9%	4,099名	18.0%
1時間～2時間未満	77名	26.6%	5,657名	24.8%
2時間～3時間未満	51名	17.6%	4,224名	18.5%
3時間～4時間未満	25名	8.7%	2,561名	11.2%
4時間以上	50名	17.3%	3,100名	13.6%
無回答	8名	2.8%	1,022名	4.5%



#### 【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
0～15分未満	12名	4.6%	771名	4.0%
15分～30分未満	28名	10.8%	2,205名	11.4%
30分～1時間未満	65名	25.0%	4,316名	22.3%
1時間～2時間未満	61名	23.5%	5,203名	26.8%
2時間～3時間未満	38名	14.6%	3,075名	15.9%
3時間～4時間未満	26名	10.0%	1,435名	7.4%
4時間以上	20名	7.7%	1,617名	8.3%
無回答	10名	3.8%	768名	4.0%



子どもに関することについて

問13（3）休日での子どもとの関わり時間

保護者全体は、「2時間～4時間未満」が21.0%で最も多く、次いで「2時間未満」が18.2%、「4時間～6時間未満」が15.8%、「10時間以上」が13.4%となっている。

小学生の保護者は、「4時間～6時間未満」が20.1%で最も多く、次いで「10時間以上」が18.7%、「2時間～4時間未満」が17.6%、「6時間～8時間未満」が13.1%となっている。

中学生の保護者は、「2時間未満」が25.4%で最も多く、次いで「2時間～4時間未満」が22.7%、「4時間～6時間未満」、「6時間～8時間未満」がそれぞれ10.8%、「10時間以上」が8.8%となっている。

【保護者全体】



【小学生の保護者】



【中学生の保護者】



子どもに関することについて

問13(4) 子どもの将来への期待度

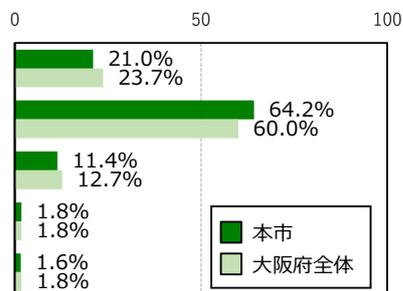
保護者全体は、「期待している」が64.2%で最も多く、次いで「とても期待している」が21.0%、「あまり期待していない」が11.4%、「期待していない」が1.8%となっている。

小学生の保護者は、「期待している」が65.7%で最も多く、次いで「とても期待している」が22.5%、「あまり期待していない」が8.7%、「期待していない」が1.4%となっている。

中学生の保護者は、「期待している」が62.7%で最も多く、次いで「とても期待している」が19.6%、「あまり期待していない」が14.2%、「期待していない」が1.9%となっている。

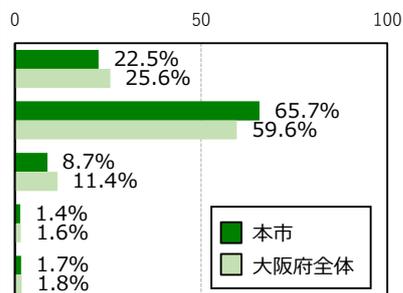
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
とても期待している	129名	21.0%	10,264名	23.7%
期待している	394名	64.2%	26,035名	60.0%
あまり期待していない	70名	11.4%	5,485名	12.7%
期待していない	11名	1.8%	779名	1.8%
無回答	10名	1.6%	795名	1.8%



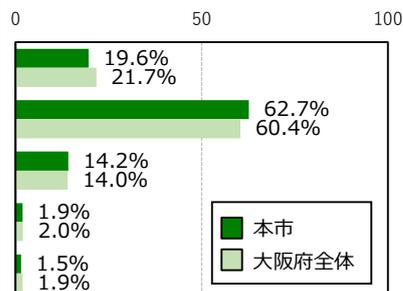
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
とても期待している	65名	22.5%	5,831名	25.6%
期待している	190名	65.7%	13,610名	59.6%
あまり期待していない	25名	8.7%	2,603名	11.4%
期待していない	4名	1.4%	363名	1.6%
無回答	5名	1.7%	412名	1.8%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
とても期待している	51名	19.6%	4,207名	21.7%
期待している	163名	62.7%	11,704名	60.4%
あまり期待していない	37名	14.2%	2,717名	14.0%
期待していない	5名	1.9%	388名	2.0%
無回答	4名	1.5%	374名	1.9%



子どもに関することについて

問13（5）子どもの授業参観や運動会などの学校行事への参加状況

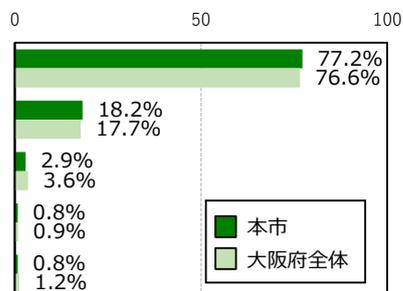
保護者全体は、「よく参加している」が77.2%で最も多く、次いで「ときどき参加している」が18.2%、「あまり参加していない」が2.9%となっている。

小学生の保護者は、「よく参加している」が87.2%で最も多く、次いで「ときどき参加している」が10.7%、「あまり参加していない」が0.7%となっている。

中学生の保護者は、「よく参加している」が67.3%で最も多く、次いで「ときどき参加している」が25.0%、「あまり参加していない」が5.4%となっている。

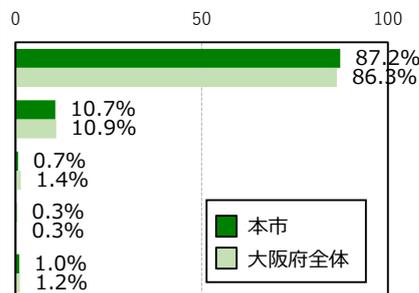
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	名	割合	名	割合
よく参加している	474名	77.2%	33,215名	76.6%
ときどき参加している	112名	18.2%	7,691名	17.7%
あまり参加していない	18名	2.9%	1,550名	3.6%
まったく参加していない	5名	0.8%	376名	0.9%
無回答	5名	0.8%	526名	1.2%



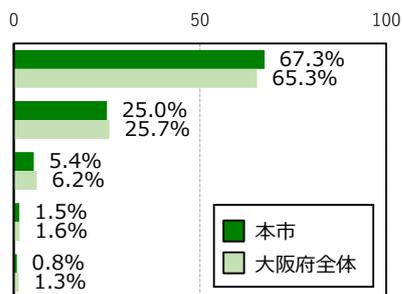
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	名	割合	名	割合
よく参加している	252名	87.2%	19,697名	86.3%
ときどき参加している	31名	10.7%	2,477名	10.9%
あまり参加していない	2名	0.7%	309名	1.4%
まったく参加していない	1名	0.3%	58名	0.3%
無回答	3名	1.0%	278名	1.2%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	名	割合	名	割合
よく参加している	175名	67.3%	12,665名	65.3%
ときどき参加している	65名	25.0%	4,975名	25.7%
あまり参加していない	14名	5.4%	1,202名	6.2%
まったく参加していない	4名	1.5%	304名	1.6%
無回答	2名	0.8%	244名	1.3%



子どもに関することについて

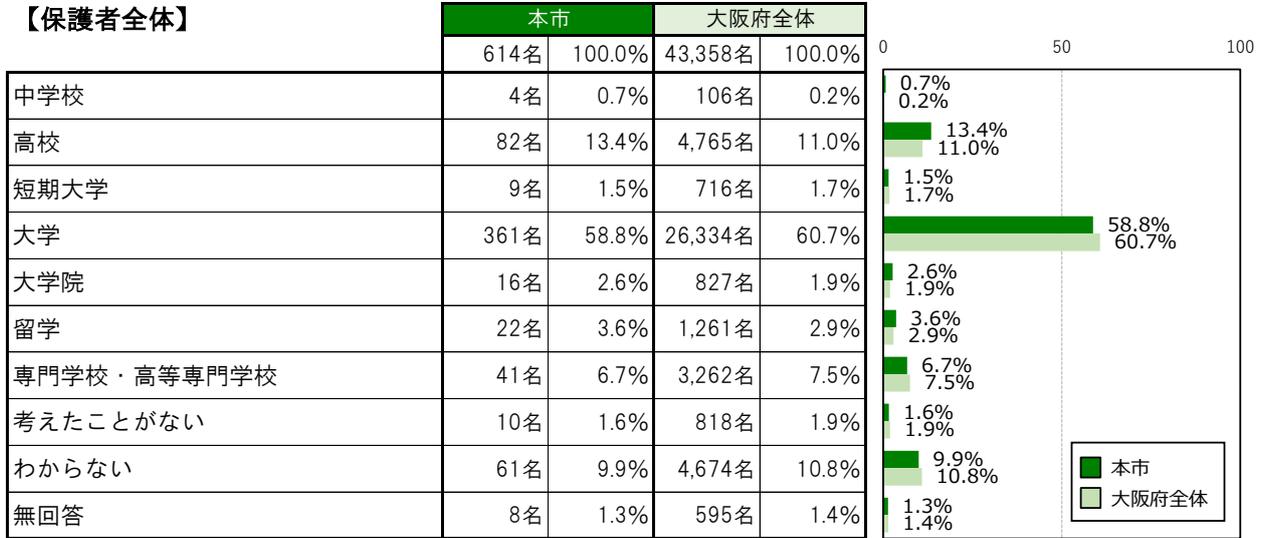
問14 子どもに希望する進学

保護者全体は、「大学」が58.8%で最も多く、次いで「高校」が13.4%、「専門学校・高等専門学校」が6.7%、「留学」が3.6%となっている。

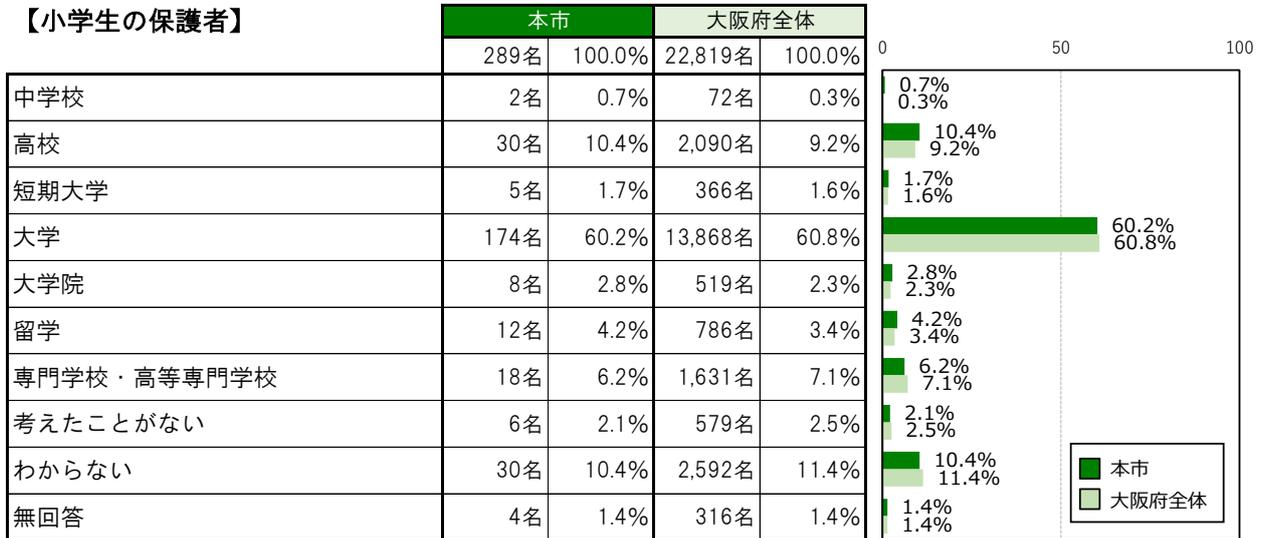
小学生の保護者は、「大学」が60.2%で最も多く、次いで「高校」が10.4%、「専門学校・高等専門学校」が6.2%、「留学」が4.2%となっている。

中学生の保護者は、「大学」が58.1%で最も多く、次いで「高校」が17.7%、「専門学校・高等専門学校」が7.7%、「留学」が3.1%となっている。

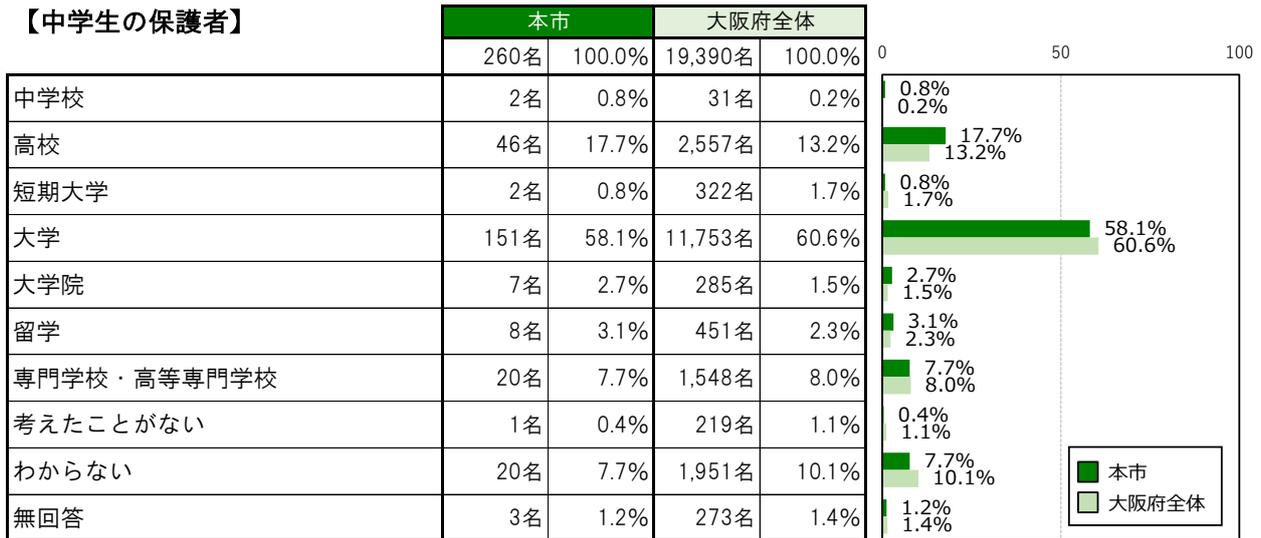
【保護者全体】



【小学生の保護者】



【中学生の保護者】



子どもに関することについて

問15 子どもの通学状況

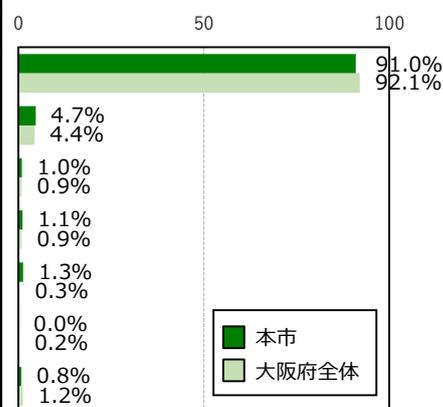
保護者全体は、「ほぼ毎日通っている」が91.0%で最も多く、次いで「欠席は年間30日未満である」が4.7%、「欠席が1年以上続いている」が1.3%、「欠席が年間60日以上、1年未満である」が1.1%となっている。

小学生の保護者は、「ほぼ毎日通っている」が94.5%で最も多く、次いで「欠席は年間30日未満である」が3.5%となっている。

中学生の保護者は、「ほぼ毎日通っている」が87.3%で最も多く、次いで「欠席は年間30日未満である」が5.8%、「欠席が1年以上続いている」が2.7%、「欠席が年間30日以上、60日未満である」が1.9%となっている。

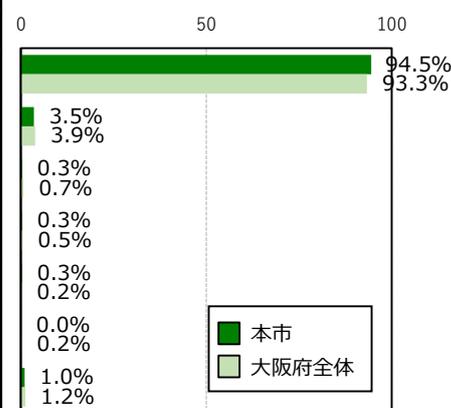
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
ほぼ毎日通っている	559名	91.0%	39,916名	92.1%
欠席は年間30日未満である	29名	4.7%	1,900名	4.4%
欠席が年間30日以上、60日未満である	6名	1.0%	406名	0.9%
欠席が年間60日以上、1年未満である	7名	1.1%	379名	0.9%
欠席が1年以上続いている	8名	1.3%	127名	0.3%
わからない	-	-	108名	0.2%
無回答	5名	0.8%	522名	1.2%



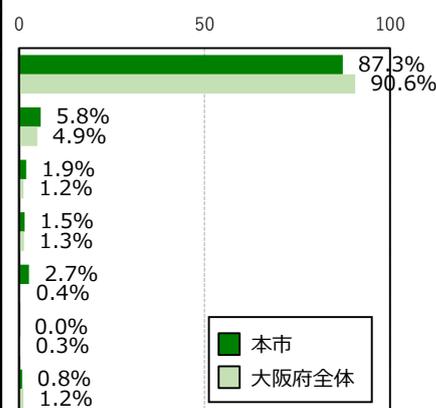
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
ほぼ毎日通っている	273名	94.5%	21,301名	93.3%
欠席は年間30日未満である	10名	3.5%	895名	3.9%
欠席が年間30日以上、60日未満である	1名	0.3%	158名	0.7%
欠席が年間60日以上、1年未満である	1名	0.3%	107名	0.5%
欠席が1年以上続いている	1名	0.3%	36名	0.2%
わからない	-	-	44名	0.2%
無回答	3名	1.0%	278名	1.2%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
ほぼ毎日通っている	227名	87.3%	17,568名	90.6%
欠席は年間30日未満である	15名	5.8%	945名	4.9%
欠席が年間30日以上、60日未満である	5名	1.9%	232名	1.2%
欠席が年間60日以上、1年未満である	4名	1.5%	257名	1.3%
欠席が1年以上続いている	7名	2.7%	86名	0.4%
わからない	-	-	62名	0.3%
無回答	2名	0.8%	240名	1.2%



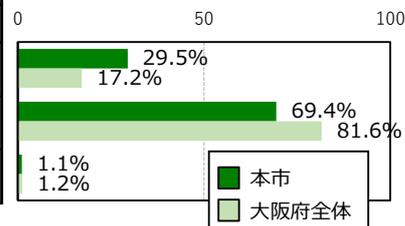
子どもに関することについて

問16(1) 子どもの居場所の利用経験

保護者全体は、「利用したことがある」が29.5%、「利用したことがない」が69.4%となっている。  
 小学生の保護者は、「利用したことがある」が33.9%、「利用したことがない」が64.7%となっている。  
 中学生の保護者は、「利用したことがある」が26.5%、「利用したことがない」が72.7%となっている。

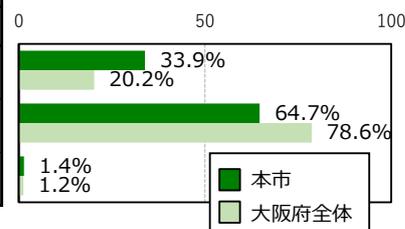
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
利用したことがある	181名	29.5%	7,459名	17.2%
利用したことがない	426名	69.4%	35,367名	81.6%
無回答	7名	1.1%	532名	1.2%



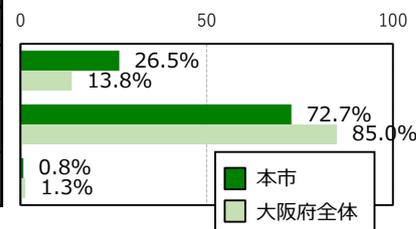
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
利用したことがある	98名	33.9%	4,599名	20.2%
利用したことがない	187名	64.7%	17,945名	78.6%
無回答	4名	1.4%	275名	1.2%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
利用したことがある	69名	26.5%	2,667名	13.8%
利用したことがない	189名	72.7%	16,472名	85.0%
無回答	2名	0.8%	251名	1.3%



子どもに関することについて

問16(2) 子どもの居場所を利用することで良いと思うこと

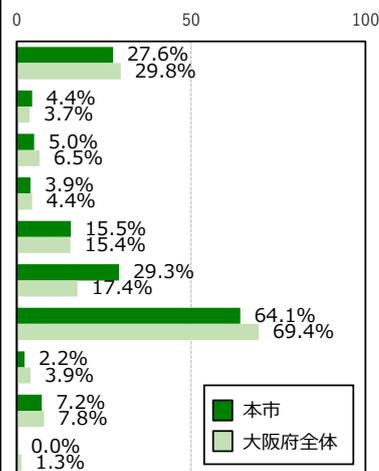
保護者全体は、「お子さんが楽しんでいるから」が64.1%で最も多く、次いで「宿題など勉強を見てくれるから」が29.3%、「地域の人とつながれるから」が27.6%、「低額（または無料）でご飯が食べられるから」が15.5%となっている。

小学生の保護者は、「お子さんが楽しんでいるから」が69.4%で最も多く、次いで「宿題など勉強を見てくれるから」が31.6%、「地域の人とつながれるから」が30.6%、「低額（または無料）でご飯が食べられるから」が16.3%となっている。

中学生の保護者は、「お子さんが楽しんでいるから」が56.5%で最も多く、次いで「宿題など勉強を見てくれるから」が27.5%、「地域の人とつながれるから」が21.7%、「低額（または無料）でご飯が食べられるから」が13.0%となっている。

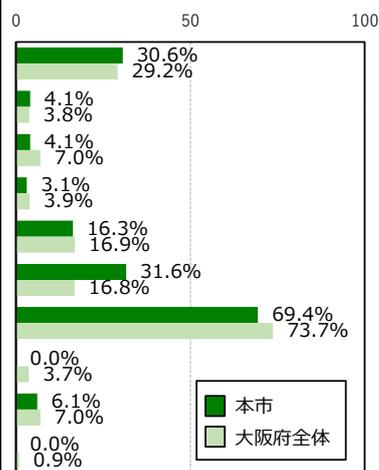
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	181名	100.0%	7,459名	100.0%
地域の人とつながれるから	50名	27.6%	2,226名	29.8%
お子さんが一人でご飯を食べなくてすむから	8名	4.4%	275名	3.7%
栄養バランスがとれた食事がとれるから	9名	5.0%	484名	6.5%
運営者が相談に乗ってくれるから	7名	3.9%	329名	4.4%
低額（または無料）でご飯が食べられるから	28名	15.5%	1,152名	15.4%
宿題など勉強を見てくれるから	53名	29.3%	1,301名	17.4%
お子さんが楽しんでいるから	116名	64.1%	5,178名	69.4%
特になし	4名	2.2%	291名	3.9%
その他	13名	7.2%	579名	7.8%
無回答	-	-	95名	1.3%



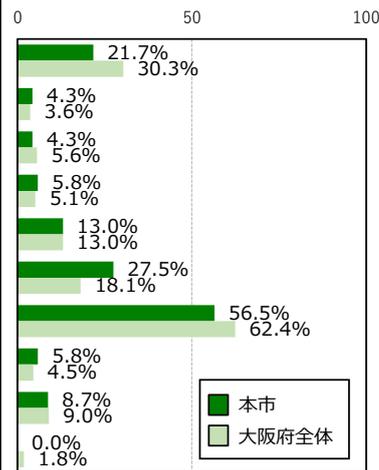
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	98名	100.0%	4,599名	100.0%
地域の人とつながれるから	30名	30.6%	1,344名	29.2%
お子さんが一人でご飯を食べなくてすむから	4名	4.1%	173名	3.8%
栄養バランスがとれた食事がとれるから	4名	4.1%	322名	7.0%
運営者が相談に乗ってくれるから	3名	3.1%	180名	3.9%
低額（または無料）でご飯が食べられるから	16名	16.3%	778名	16.9%
宿題など勉強を見てくれるから	31名	31.6%	773名	16.8%
お子さんが楽しんでいるから	68名	69.4%	3,388名	73.7%
特になし	-	-	168名	3.7%
その他	6名	6.1%	324名	7.0%
無回答	-	-	43名	0.9%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	69名	100.0%	2,667名	100.0%
地域の人とつながれるから	15名	21.7%	808名	30.3%
お子さんが一人でご飯を食べなくてすむから	3名	4.3%	97名	3.6%
栄養バランスがとれた食事がとれるから	3名	4.3%	150名	5.6%
運営者が相談に乗ってくれるから	4名	5.8%	136名	5.1%
低額（または無料）でご飯が食べられるから	9名	13.0%	348名	13.0%
宿題など勉強を見てくれるから	19名	27.5%	482名	18.1%
お子さんが楽しんでいるから	39名	56.5%	1,664名	62.4%
特になし	4名	5.8%	120名	4.5%
その他	6名	8.7%	241名	9.0%
無回答	-	-	47名	1.8%



子どもに関することについて

問16(3) 子どもの居場所を利用しない理由

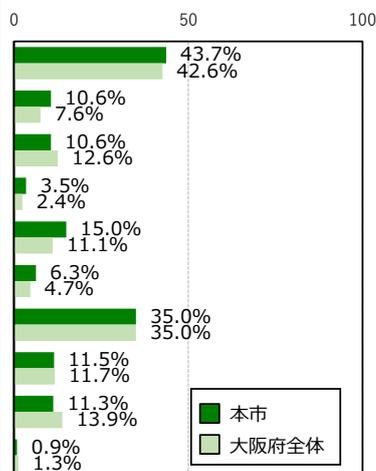
保護者全体は、「どこにあるか知らないから」が43.7%で最も多く、次いで「利用したいと思わないから」が35.0%、「お子さんが「行きたくない」と言っているから」が15.0%、「何をしているかわからないから」が11.5%となっている。

小学生の保護者は、「どこにあるか知らないから」が41.7%で最も多く、次いで「利用したいと思わないから」が35.8%、「お子さんが「行きたくない」と言っているから」が13.4%、「家の近く（小学校区内）にないから」が12.3%となっている。

中学生の保護者は、「どこにあるか知らないから」が42.3%で最も多く、次いで「利用したいと思わないから」が34.9%、「お子さんが「行きたくない」と言っているから」が16.4%、「何をしているかわからないから」が13.2%となっている。

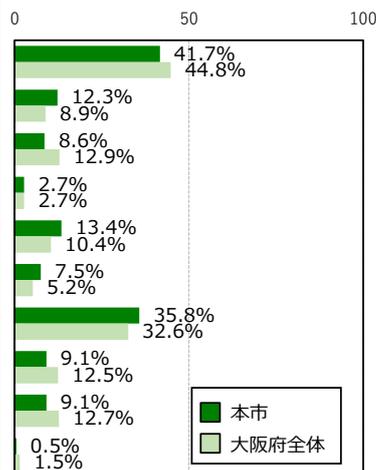
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
どこにあるか知らないから	186名	43.7%	15,060名	42.6%
家の近く（小学校区内）にないから	45名	10.6%	2,697名	7.6%
家で過ごしてほしいと思うから	45名	10.6%	4,452名	12.6%
居場所のイメージがよくないから	15名	3.5%	862名	2.4%
お子さんが「行きたくない」と言っているから	64名	15.0%	3,936名	11.1%
行きたい日・時間に開いていないから	27名	6.3%	1,647名	4.7%
利用したいと思わないから	149名	35.0%	12,386名	35.0%
何をしているかわからないから	49名	11.5%	4,149名	11.7%
その他	48名	11.3%	4,908名	13.9%
無回答	4名	0.9%	473名	1.3%



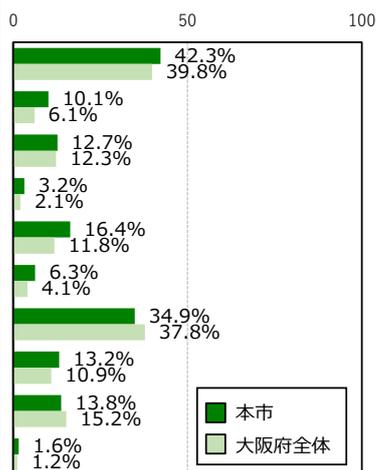
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
どこにあるか知らないから	78名	41.7%	8,048名	44.8%
家の近く（小学校区内）にないから	23名	12.3%	1,594名	8.9%
家で過ごしてほしいと思うから	16名	8.6%	2,318名	12.9%
居場所のイメージがよくないから	5名	2.7%	476名	2.7%
お子さんが「行きたくない」と言っているから	25名	13.4%	1,873名	10.4%
行きたい日・時間に開いていないから	14名	7.5%	936名	5.2%
利用したいと思わないから	67名	35.8%	5,849名	32.6%
何をしているかわからないから	17名	9.1%	2,243名	12.5%
その他	17名	9.1%	2,278名	12.7%
無回答	1名	0.5%	261名	1.5%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
どこにあるか知らないから	80名	42.3%	6,563名	39.8%
家の近く（小学校区内）にないから	19名	10.1%	1,006名	6.1%
家で過ごしてほしいと思うから	24名	12.7%	2,030名	12.3%
居場所のイメージがよくないから	6名	3.2%	347名	2.1%
お子さんが「行きたくない」と言っているから	31名	16.4%	1,950名	11.8%
行きたい日・時間に開いていないから	12名	6.3%	673名	4.1%
利用したいと思わないから	66名	34.9%	6,227名	37.8%
何をしているかわからないから	25名	13.2%	1,797名	10.9%
その他	26名	13.8%	2,509名	15.2%
無回答	3名	1.6%	195名	1.2%



## 保護者のことについて

### 問17 初めて親となった年齢

保護者全体は、「27～30歳」が29.3%で最も多く、次いで「31～34歳」が22.8%、「35～39歳」が17.4%、「24～26歳」が15.1%となっている。

小学生の保護者は、「27～30歳」が28.4%で最も多く、次いで「31～34歳」が24.2%、「24～26歳」が17.3%、「35～39歳」が16.3%となっている。

中学生の保護者は、「27～30歳」が26.2%で最も多く、次いで「31～34歳」が22.3%、「35～39歳」が20.4%、「24～26歳」が15.4%となっている。

#### 【保護者全体】



#### 【小学生の保護者】



#### 【中学生の保護者】



保護者のことについて

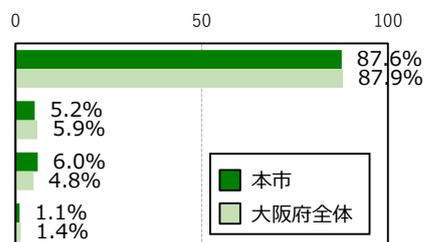
問18 支えてくれたり、手伝ってくれる人の有無

①心配ごとや悩みごとを親身になって聞いてくれる人

保護者全体は、「いる」が87.6%、「いない」が5.2%となっている。  
 小学生の保護者は、「いる」が91.0%、「いない」が3.5%となっている。  
 中学生の保護者は、「いる」が83.5%、「いない」が7.3%となっている。

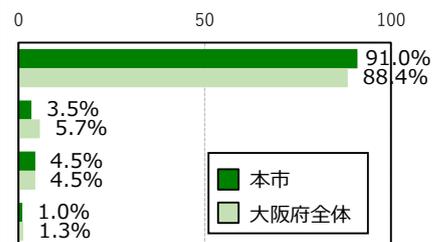
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	名	割合	名	割合
いる	538名	87.6%	38,049名	87.9%
いない	32名	5.2%	2,548名	5.9%
わからない	37名	6.0%	2,099名	4.8%
無回答	7名	1.1%	604名	1.4%



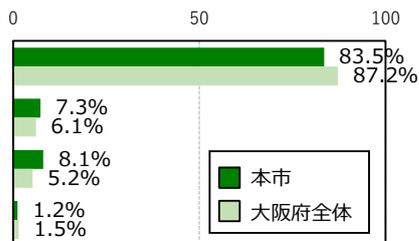
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	名	割合	名	割合
いる	263名	91.0%	20,150名	88.4%
いない	10名	3.5%	1,304名	5.7%
わからない	13名	4.5%	1,026名	4.5%
無回答	3名	1.0%	306名	1.3%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	名	割合	名	割合
いる	217名	83.5%	16,885名	87.2%
いない	19名	7.3%	1,173名	6.1%
わからない	21名	8.1%	1,016名	5.2%
無回答	3名	1.2%	291名	1.5%



保護者のことについて

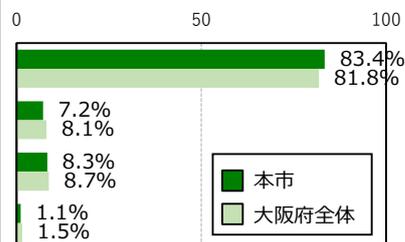
問18 支えてくれたり、手伝ってくれる人の有無

②気持ちを察して思いやってくれる人

保護者全体は、「いる」が83.4%、「いない」が7.2%となっている。  
 小学生の保護者は、「いる」が88.2%、「いない」が5.2%となっている。  
 中学生の保護者は、「いる」が78.1%、「いない」が10.0%となっている。

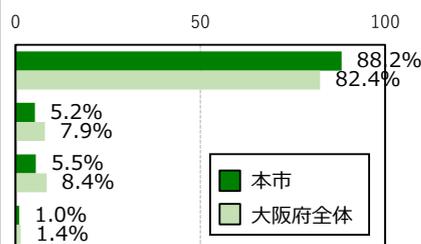
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いる	512名	83.4%	35,406名	81.8%
いない	44名	7.2%	3,491名	8.1%
わからない	51名	8.3%	3,748名	8.7%
無回答	7名	1.1%	655名	1.5%



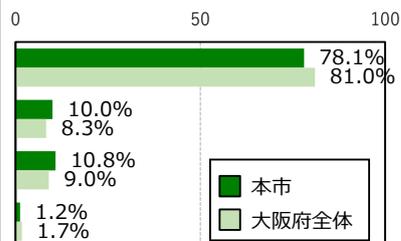
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いる	255名	88.2%	18,767名	82.4%
いない	15名	5.2%	1,791名	7.9%
わからない	16名	5.5%	1,904名	8.4%
無回答	3名	1.0%	324名	1.4%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いる	203名	78.1%	15,691名	81.0%
いない	26名	10.0%	1,610名	8.3%
わからない	28名	10.8%	1,741名	9.0%
無回答	3名	1.2%	323名	1.7%



保護者のことについて

問18 支えてくれたり、手伝ってくれる人の有無

③趣味や興味のあることを一緒に話して、気分転換させてくれる人

保護者全体は、「いる」が80.3%、「いない」が10.7%となっている。  
 小学生の保護者は、「いる」が83.0%、「いない」が10.0%となっている。  
 中学生の保護者は、「いる」が76.2%、「いない」が11.9%となっている。



保護者のことについて

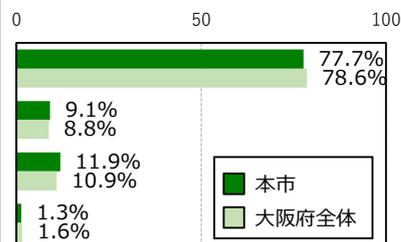
問18 支えてくれたり、手伝ってくれる人の有無

④子どもとの関わりについて、適切な助言をしてくれる人

保護者全体は、「いる」が77.7%、「いない」が9.1%となっている。  
 小学生の保護者は、「いる」が80.3%、「いない」が8.7%となっている。  
 中学生の保護者は、「いる」が75.0%、「いない」が10.4%となっている。

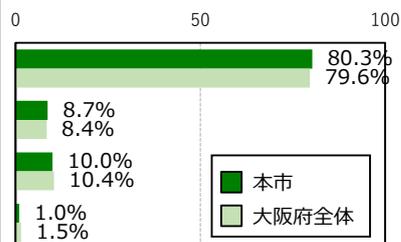
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いる	477名	77.7%	34,034名	78.6%
いない	56名	9.1%	3,824名	8.8%
わからない	73名	11.9%	4,731名	10.9%
無回答	8名	1.3%	711名	1.6%



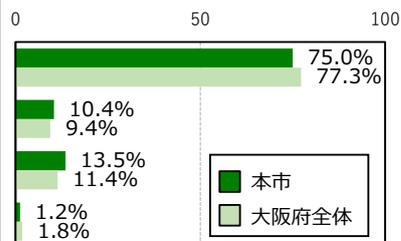
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いる	232名	80.3%	18,149名	79.6%
いない	25名	8.7%	1,912名	8.4%
わからない	29名	10.0%	2,381名	10.4%
無回答	3名	1.0%	344名	1.5%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いる	195名	75.0%	14,966名	77.3%
いない	27名	10.4%	1,826名	9.4%
わからない	35名	13.5%	2,217名	11.4%
無回答	3名	1.2%	356名	1.8%



保護者のことについて

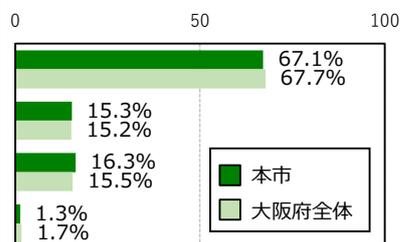
問18 支えてくれたり、手伝ってくれる人の有無

⑤子どもの学びや遊びをゆたかにする情報を教えてくれる人（運動や文化活動）

保護者全体は、「いる」が67.1%、「いない」が15.3%となっている。  
 小学生の保護者は、「いる」が73.4%、「いない」が13.8%となっている。  
 中学生の保護者は、「いる」が61.9%、「いない」が17.3%となっている。

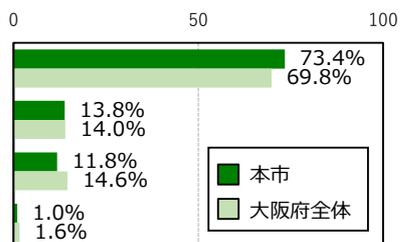
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いる	412名	67.1%	29,297名	67.7%
いない	94名	15.3%	6,570名	15.2%
わからない	100名	16.3%	6,713名	15.5%
無回答	8名	1.3%	720名	1.7%



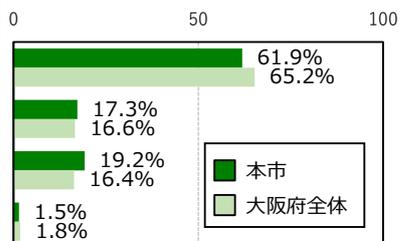
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いる	212名	73.4%	15,896名	69.8%
いない	40名	13.8%	3,195名	14.0%
わからない	34名	11.8%	3,334名	14.6%
無回答	3名	1.0%	361名	1.6%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いる	161名	61.9%	12,629名	65.2%
いない	45名	17.3%	3,218名	16.6%
わからない	50名	19.2%	3,167名	16.4%
無回答	4名	1.5%	351名	1.8%



保護者のことについて

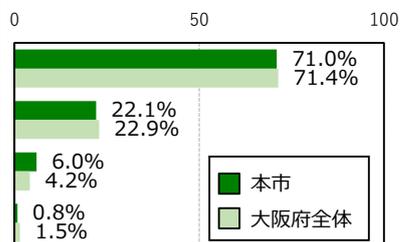
問18 支えてくれたり、手伝ってくれる人の有無

⑥子どもの体調が悪いとき、医療機関に連れて行ってくれる人

保護者全体は、「いる」が71.0%、「いない」が22.1%となっている。  
 小学生の保護者は、「いる」が74.7%、「いない」が19.4%となっている。  
 中学生の保護者は、「いる」が67.7%、「いない」が25.4%となっている。

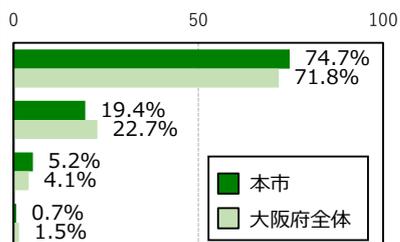
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いる	436名	71.0%	30,902名	71.4%
いない	136名	22.1%	9,922名	22.9%
わからない	37名	6.0%	1,822名	4.2%
無回答	5名	0.8%	654名	1.5%



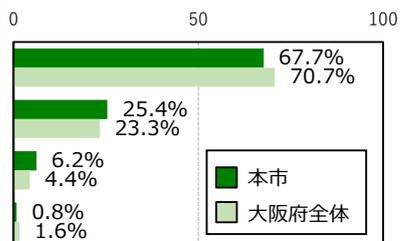
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いる	216名	74.7%	16,360名	71.8%
いない	56名	19.4%	5,164名	22.7%
わからない	15名	5.2%	930名	4.1%
無回答	2名	0.7%	332名	1.5%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いる	176名	67.7%	13,687名	70.7%
いない	66名	25.4%	4,519名	23.3%
わからない	16名	6.2%	850名	4.4%
無回答	2名	0.8%	309名	1.6%



保護者のことについて

問18 支えてくれたり、手伝ってくれる人の有無

⑦留守を頼める人

保護者全体は、「いる」が68.7%、「いない」が25.4%となっている。  
 小学生の保護者は、「いる」が74.4%、「いない」が20.1%となっている。  
 中学生の保護者は、「いる」が63.1%、「いない」が31.5%となっている。



保護者のことについて

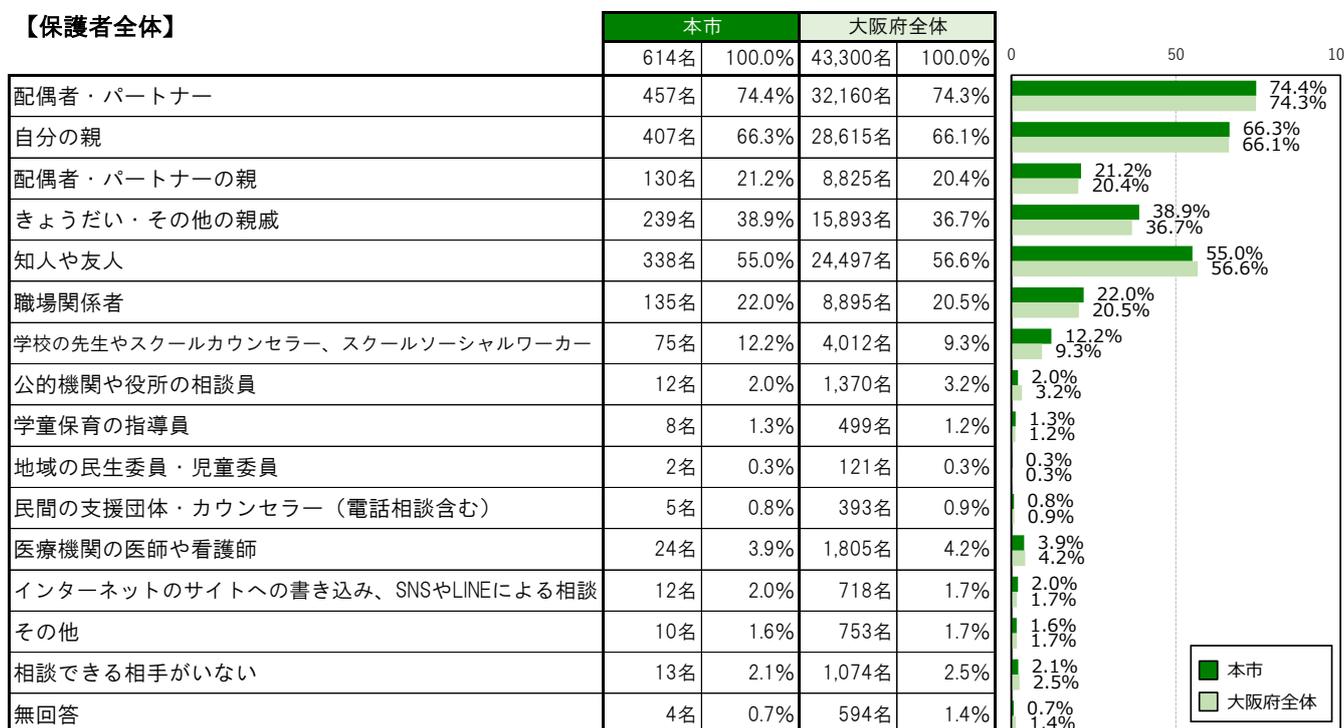
問19 本当に困ったときや悩みがあるときの相談相手・相談先

保護者全体は、「配偶者・パートナー」が74.4%で最も多く、次いで「自分の親」が66.3%、「知人や友人」が55.0%、「きょうだい・その他の親戚」が38.9%となっている。

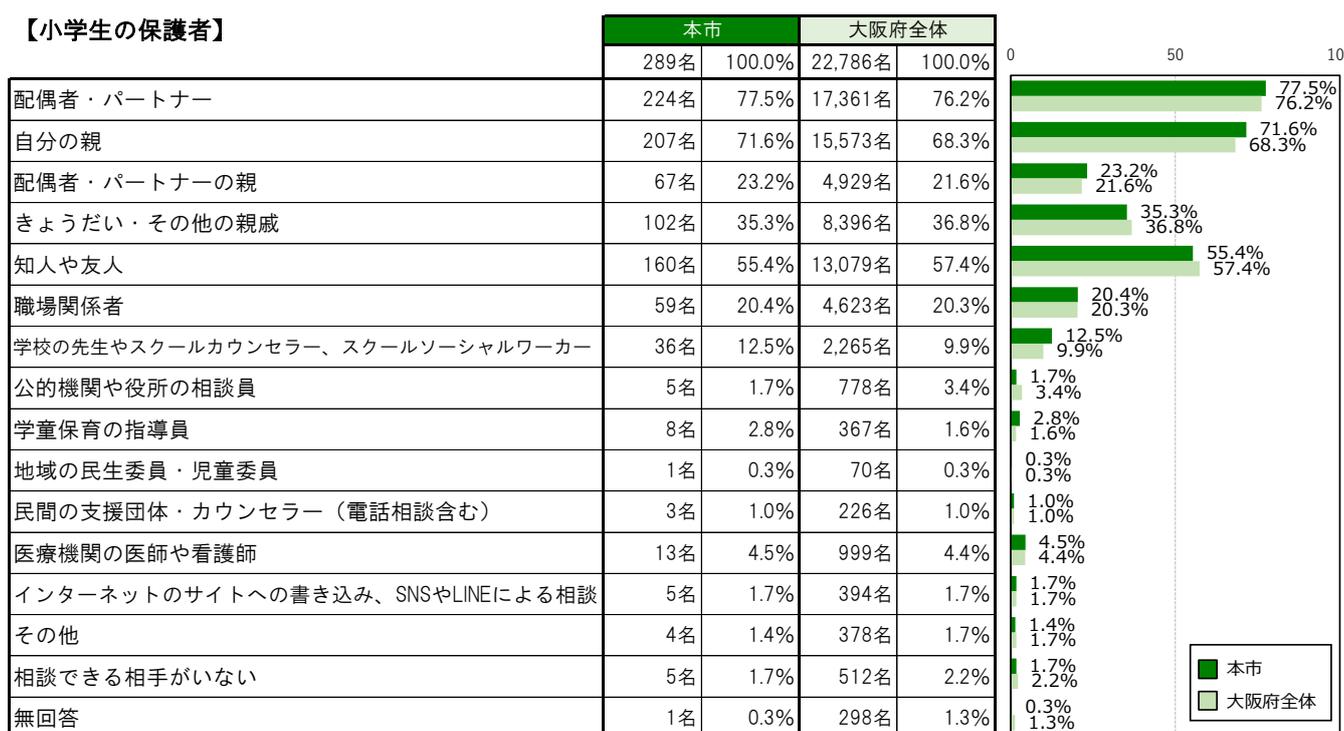
小学生の保護者は、「配偶者・パートナー」が77.5%で最も多く、次いで「自分の親」が71.6%、「知人や友人」が55.4%、「きょうだい・その他の親戚」が35.3%となっている。

中学生の保護者は、「配偶者・パートナー」が71.9%で最も多く、次いで「自分の親」が59.6%、「知人や友人」が55.4%、「きょうだい・その他の親戚」が41.5%となっている。

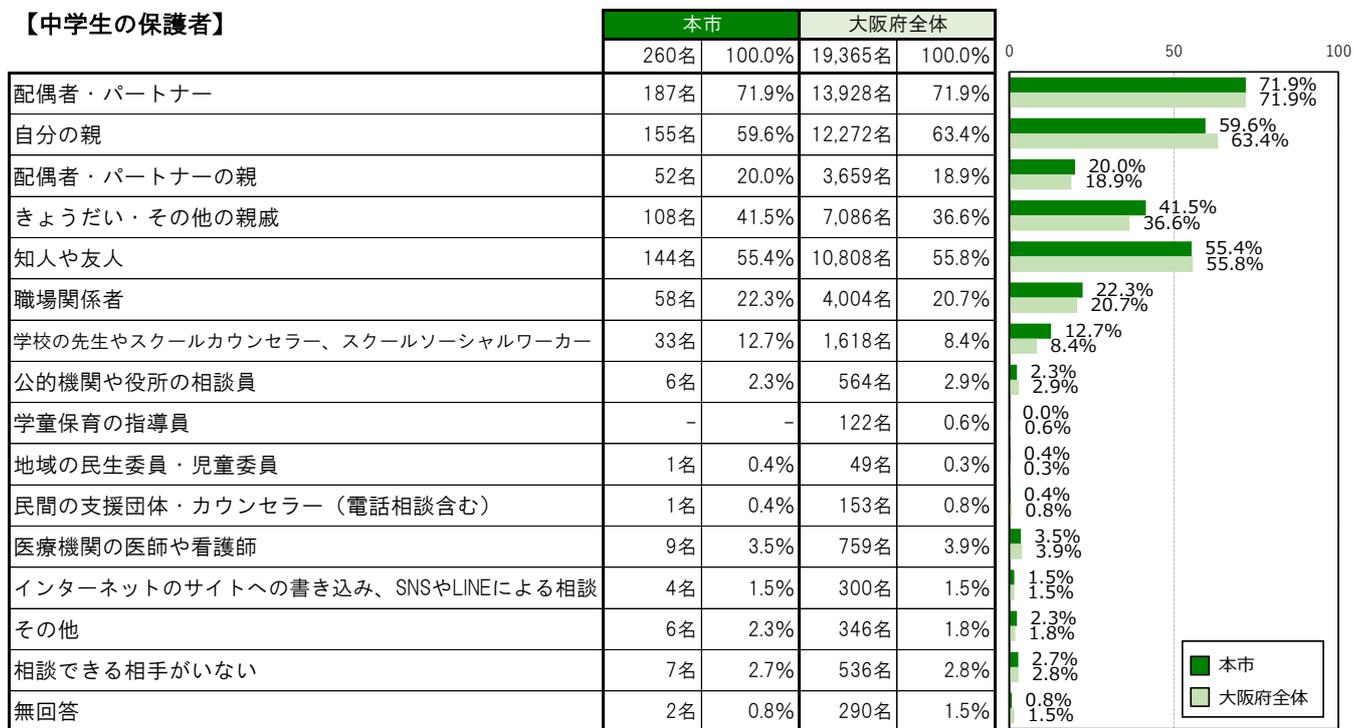
【保護者全体】



【小学生の保護者】



【中学生の保護者】



保護者のことについて

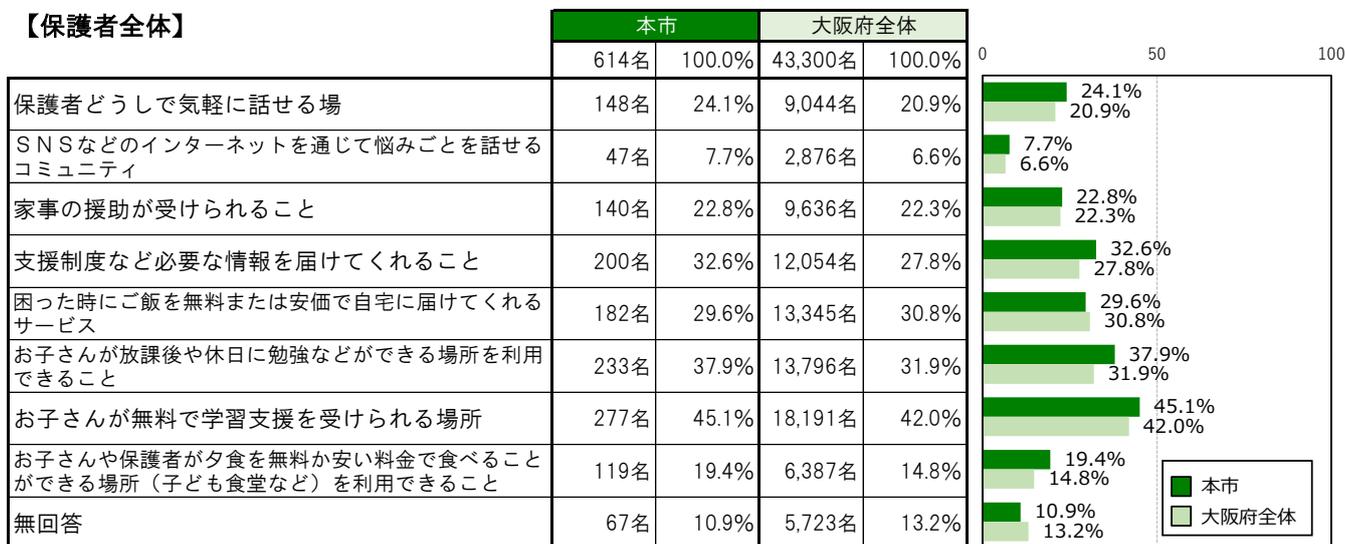
問20 身近にあると思うこと

保護者全体は、「お子さんが無料で学習支援を受けられる場所」が45.1%で最も多く、次いで「お子さんが放課後や休日に勉強などができる場所を利用できること」が37.9%、「支援制度など必要な情報を届けてくれること」が32.6%、「困った時にご飯を無料または安価で自宅に届けてくれるサービス」が29.6%となっている。

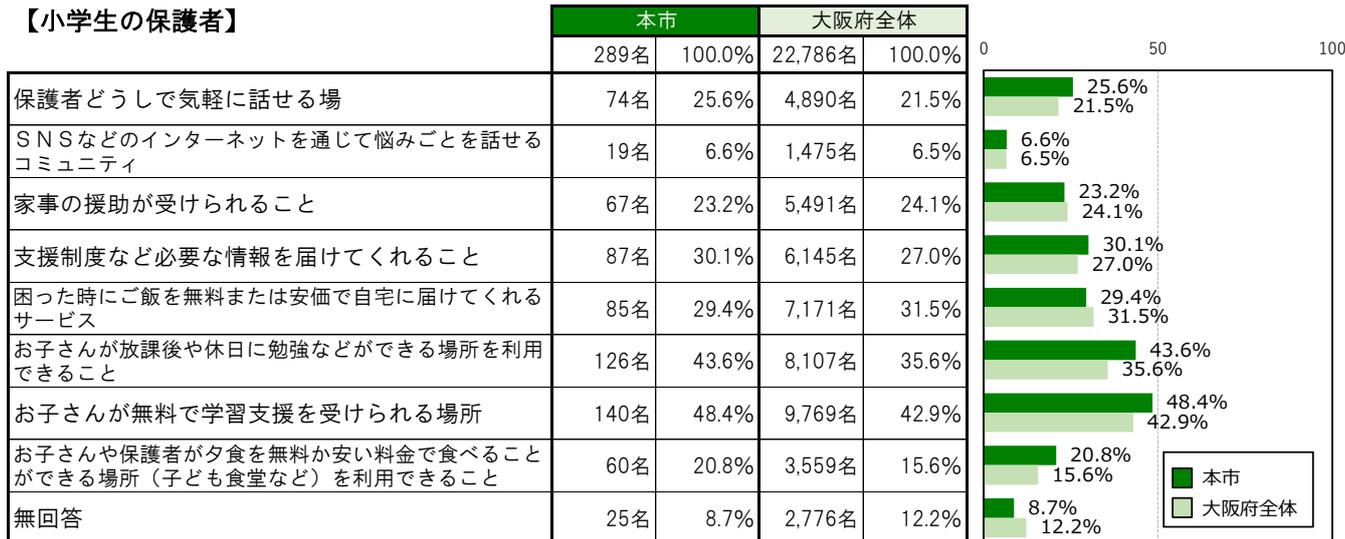
小学生の保護者は、「お子さんが無料で学習支援を受けられる場所」が48.4%で最も多く、次いで「お子さんが放課後や休日に勉強などができる場所を利用できること」が30.1%、「困った時にご飯を無料または安価で自宅に届けてくれるサービス」が29.4%となっている。

中学生の保護者は、「お子さんが無料で学習支援を受けられる場所」が40.0%で最も多く、次いで「支援制度など必要な情報を届けてくれること」が33.5%、「お子さんが放課後や休日に勉強などができる場所を利用できること」が31.2%、「困った時にご飯を無料または安価で自宅に届けてくれるサービス」が30.0%となっている。

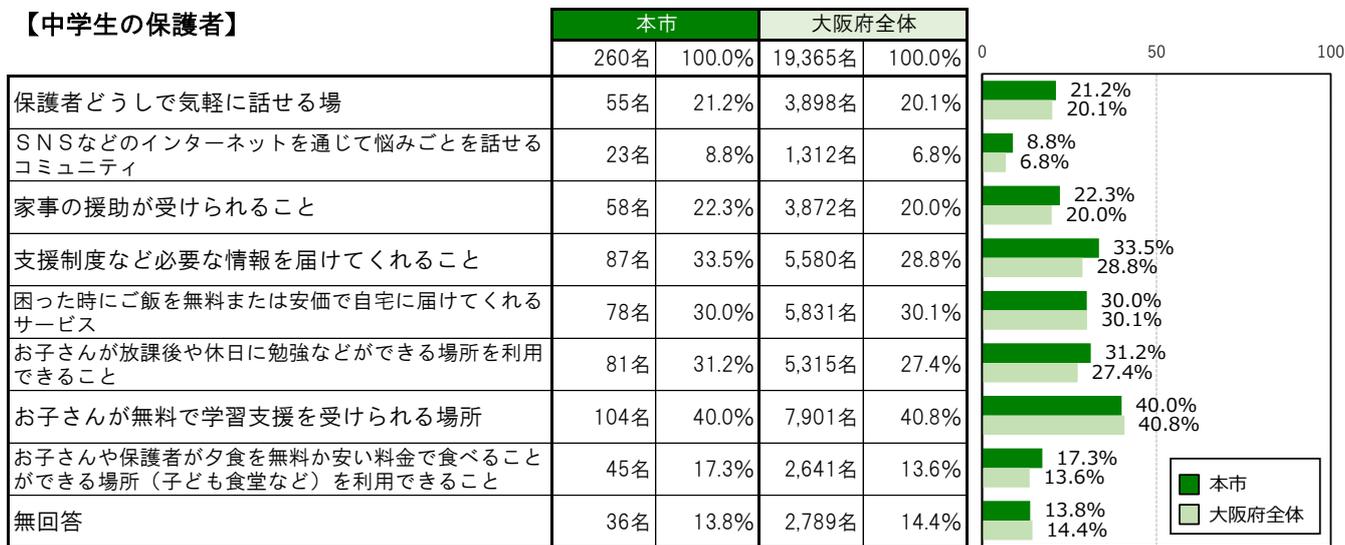
【保護者全体】



【小学生の保護者】



【中学生の保護者】



保護者のことについて

問21（1）生活を楽しんでいるか

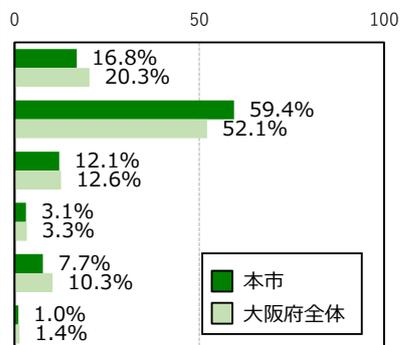
保護者全体は、「楽しんでいる」が59.4%で最も多く、次いで「とても楽しんでいる」が16.8%、「あまり楽しんでいない」が12.1%、「楽しんでいない」が3.1%となっている。

小学生の保護者は、「楽しんでいる」が57.8%で最も多く、次いで「とても楽しんでいる」が21.5%、「あまり楽しんでいない」が10.4%、「楽しんでいない」が3.5%となっている。

中学生の保護者は、「楽しんでいる」が59.2%で最も多く、次いで「あまり楽しんでいない」が13.5%、「とても楽しんでいる」が12.3%、「楽しんでいない」が3.5%となっている。

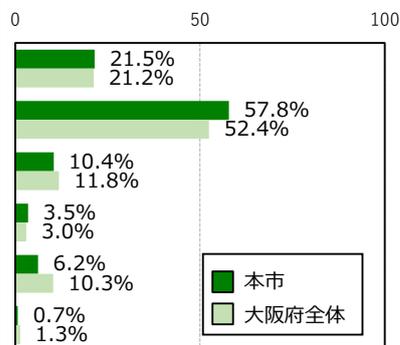
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
とても楽しんでいる	103名	16.8%	8,791名	20.3%
楽しんでいる	365名	59.4%	22,555名	52.1%
あまり楽しんでいない	74名	12.1%	5,466名	12.6%
楽しんでいない	19名	3.1%	1,411名	3.3%
わからない	47名	7.7%	4,473名	10.3%
無回答	6名	1.0%	604名	1.4%



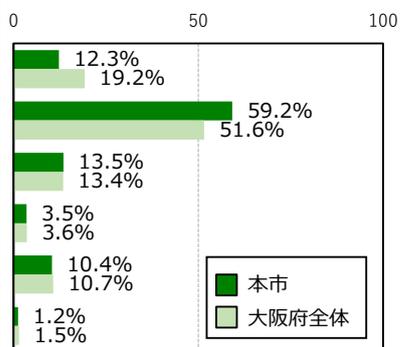
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
とても楽しんでいる	62名	21.5%	4,835名	21.2%
楽しんでいる	167名	57.8%	11,934名	52.4%
あまり楽しんでいない	30名	10.4%	2,699名	11.8%
楽しんでいない	10名	3.5%	680名	3.0%
わからない	18名	6.2%	2,340名	10.3%
無回答	2名	0.7%	298名	1.3%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
とても楽しんでいる	32名	12.3%	3,719名	19.2%
楽しんでいる	154名	59.2%	9,994名	51.6%
あまり楽しんでいない	35名	13.5%	2,592名	13.4%
楽しんでいない	9名	3.5%	690名	3.6%
わからない	27名	10.4%	2,070名	10.7%
無回答	3名	1.2%	300名	1.5%



保護者のことについて

問21（2）将来に対して希望を持っているか

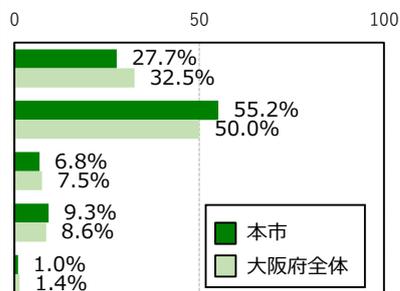
保護者全体は、「希望が持てる」ときもあれば、持てないときもある」が55.2%で最も多く、次いで「希望が持てる」が27.7%、「希望が持てない」が6.8%となっている。

小学生の保護者は、「希望が持てる」ときもあれば、持てないときもある」が49.8%で最も多く、次いで「希望が持てる」が33.9%、「希望が持てない」が6.2%となっている。

中学生の保護者は、「希望が持てる」ときもあれば、持てないときもある」が59.2%で最も多く、次いで「希望が持てる」が21.9%、「希望が持てない」が6.9%となっている。

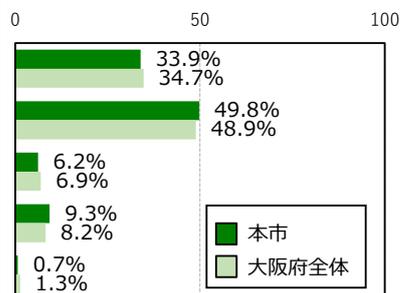
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	名	割合	名	割合
希望が持てる	170名	27.7%	14,080名	32.5%
希望が持てる」ときもあれば、持てないときもある	339名	55.2%	21,662名	50.0%
希望が持てない	42名	6.8%	3,239名	7.5%
わからない	57名	9.3%	3,718名	8.6%
無回答	6名	1.0%	601名	1.4%



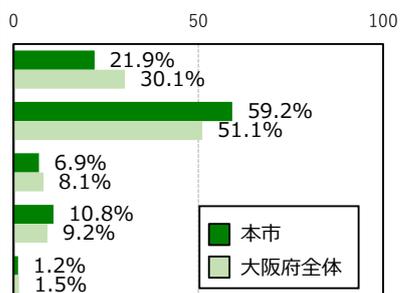
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	名	割合	名	割合
希望が持てる	98名	33.9%	7,896名	34.7%
希望が持てる」ときもあれば、持てないときもある	144名	49.8%	11,142名	48.9%
希望が持てない	18名	6.2%	1,575名	6.9%
わからない	27名	9.3%	1,874名	8.2%
無回答	2名	0.7%	299名	1.3%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	名	割合	名	割合
希望が持てる	57名	21.9%	5,831名	30.1%
希望が持てる」ときもあれば、持てないときもある	154名	59.2%	9,890名	51.1%
希望が持てない	18名	6.9%	1,574名	8.1%
わからない	28名	10.8%	1,774名	9.2%
無回答	3名	1.2%	296名	1.5%



保護者のことについて

問21 (3) ストレスを発散できるものがあるか

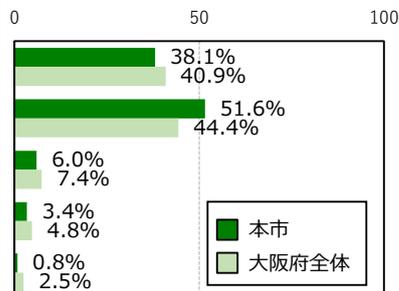
保護者全体は、「あるときもあれば、ないときもある」が51.6%で最も多く、次いで「ある」が38.1%、「ない」が6.0%となっている。

小学生の保護者は、「あるときもあれば、ないときもある」が51.2%で最も多く、次いで「ある」が38.8%、「ない」が5.9%となっている。

中学生の保護者は、「あるときもあれば、ないときもある」が51.5%で最も多く、次いで「ある」が38.1%、「ない」が6.5%となっている。

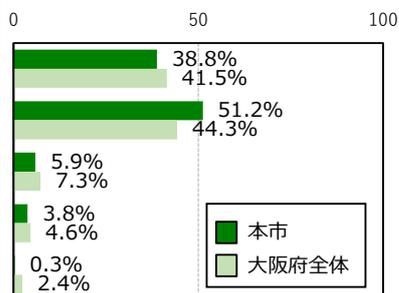
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
ある	234名	38.1%	17,707名	40.9%
あるときもあれば、ないときもある	317名	51.6%	19,240名	44.4%
ない	37名	6.0%	3,221名	7.4%
わからない	21名	3.4%	2,061名	4.8%
無回答	5名	0.8%	1,071名	2.5%



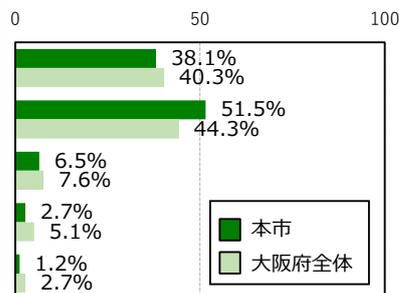
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
ある	112名	38.8%	9,455名	41.5%
あるときもあれば、ないときもある	148名	51.2%	10,090名	44.3%
ない	17名	5.9%	1,668名	7.3%
わからない	11名	3.8%	1,037名	4.6%
無回答	1名	0.3%	536名	2.4%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
ある	99名	38.1%	7,803名	40.3%
あるときもあれば、ないときもある	134名	51.5%	8,576名	44.3%
ない	17名	6.5%	1,467名	7.6%
わからない	7名	2.7%	990名	5.1%
無回答	3名	1.2%	529名	2.7%



保護者のことについて

問21(4) 自分が幸せだと思うか

保護者全体は、「幸せだと思う」が52.8%で最も多く、次いで「とても幸せだと思う」が31.3%、「あまり幸せだと思わない」が6.0%、「幸せだと思わない」が2.3%となっている。

小学生の保護者は、「幸せだと思う」が49.1%で最も多く、次いで「とても幸せだと思う」が37.7%、「あまり幸せだと思わない」が5.2%、「幸せだと思わない」が1.7%となっている。

中学生の保護者は、「幸せだと思う」が57.7%で最も多く、次いで「とても幸せだと思う」が23.1%、「あまり幸せだと思わない」が7.3%、「幸せだと思わない」が3.1%となっている。

【保護者全体】



【小学生の保護者】



【中学生の保護者】



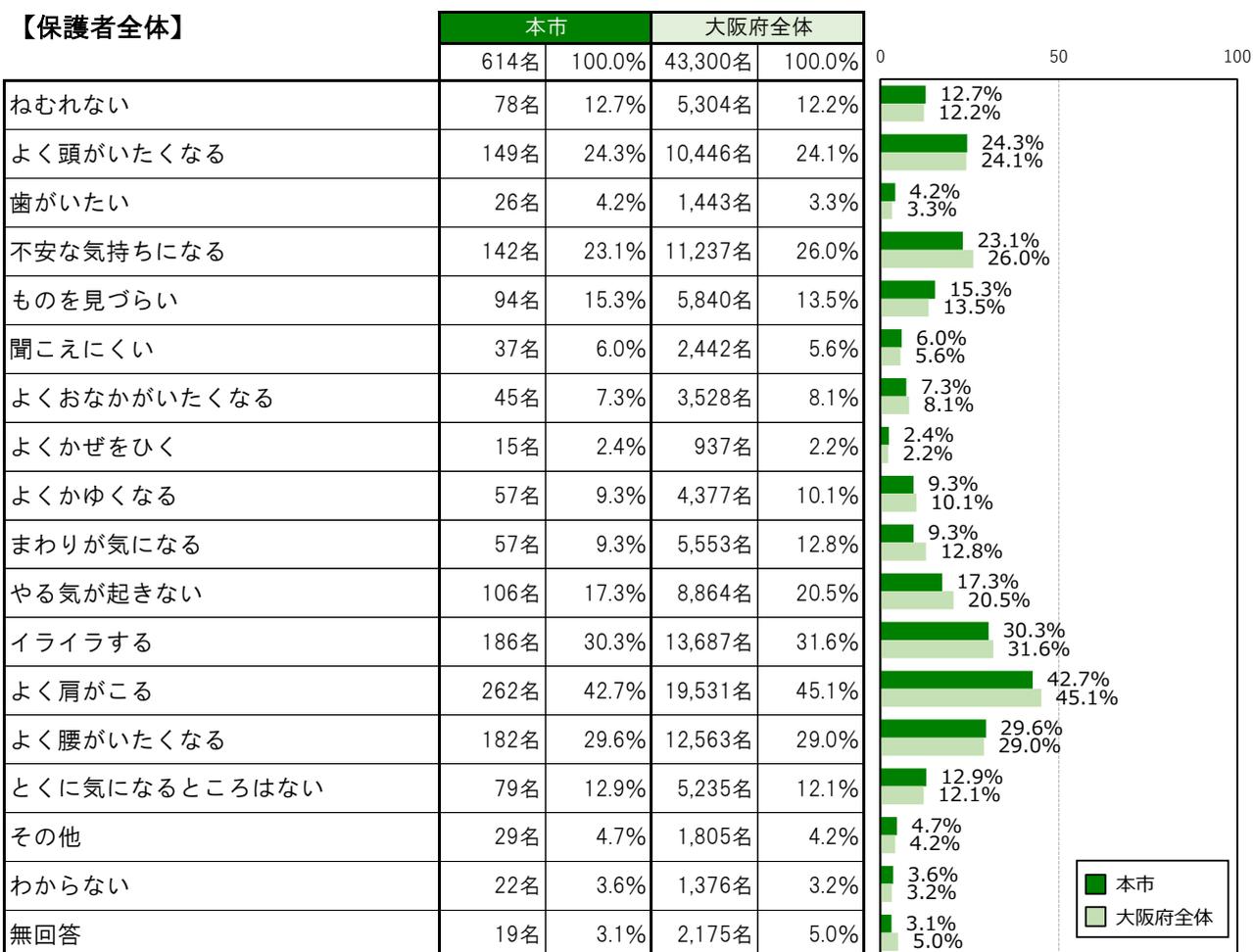
保護者のことについて

問22 自分の体や気持ちで気になること

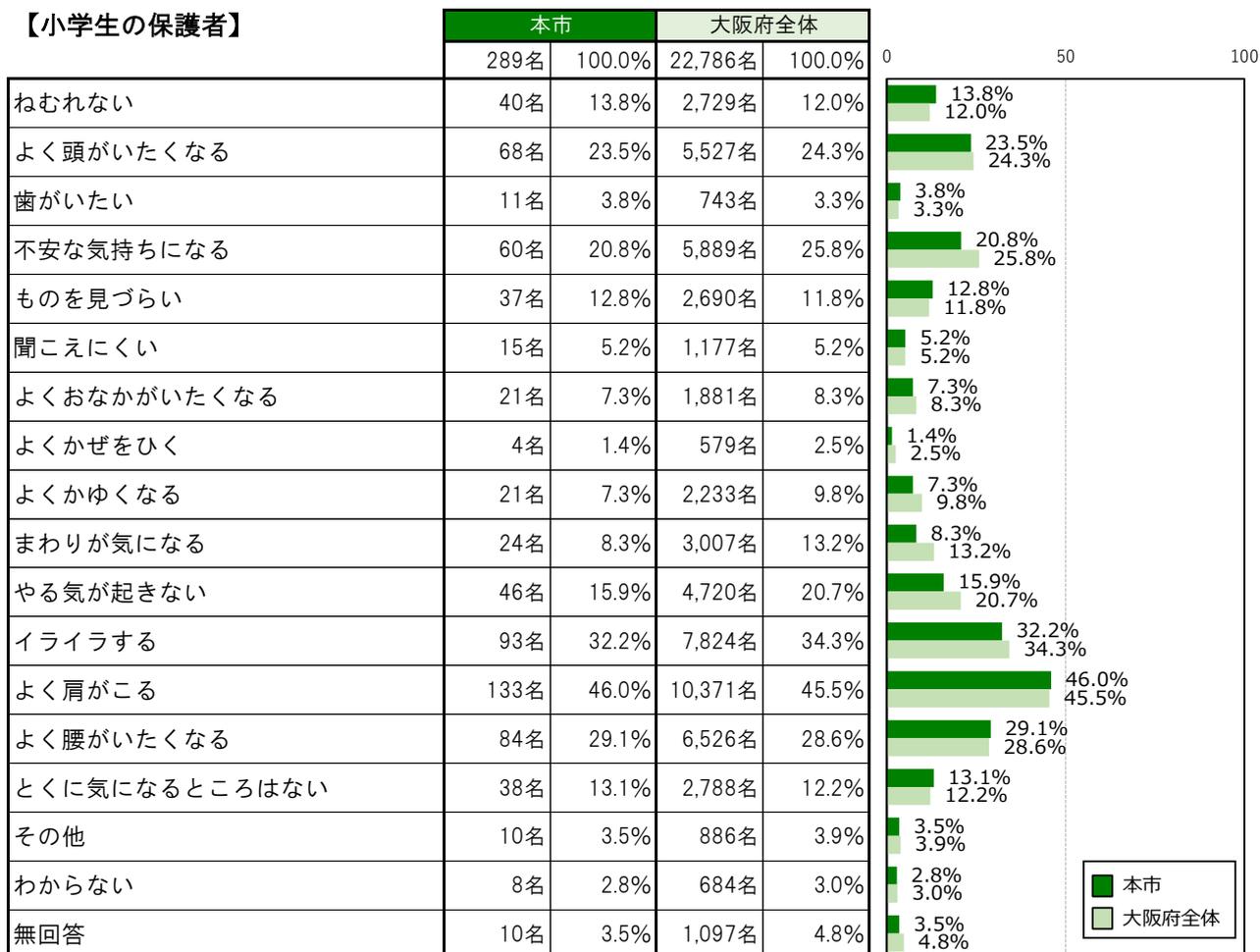
保護者全体は、「よく肩がこる」が42.7%で最も多く、次いで「イライラする」が30.3%、「よく腰がいたくなる」が29.6%、「よく頭がいたくなる」が24.3%となっている。

小学生の保護者は、「よく肩がこる」が46.0%で最も多く、次いで「イライラする」が32.2%、「よく腰がいたくなる」が29.1%、「よく頭がいたくなる」が23.5%となっている。

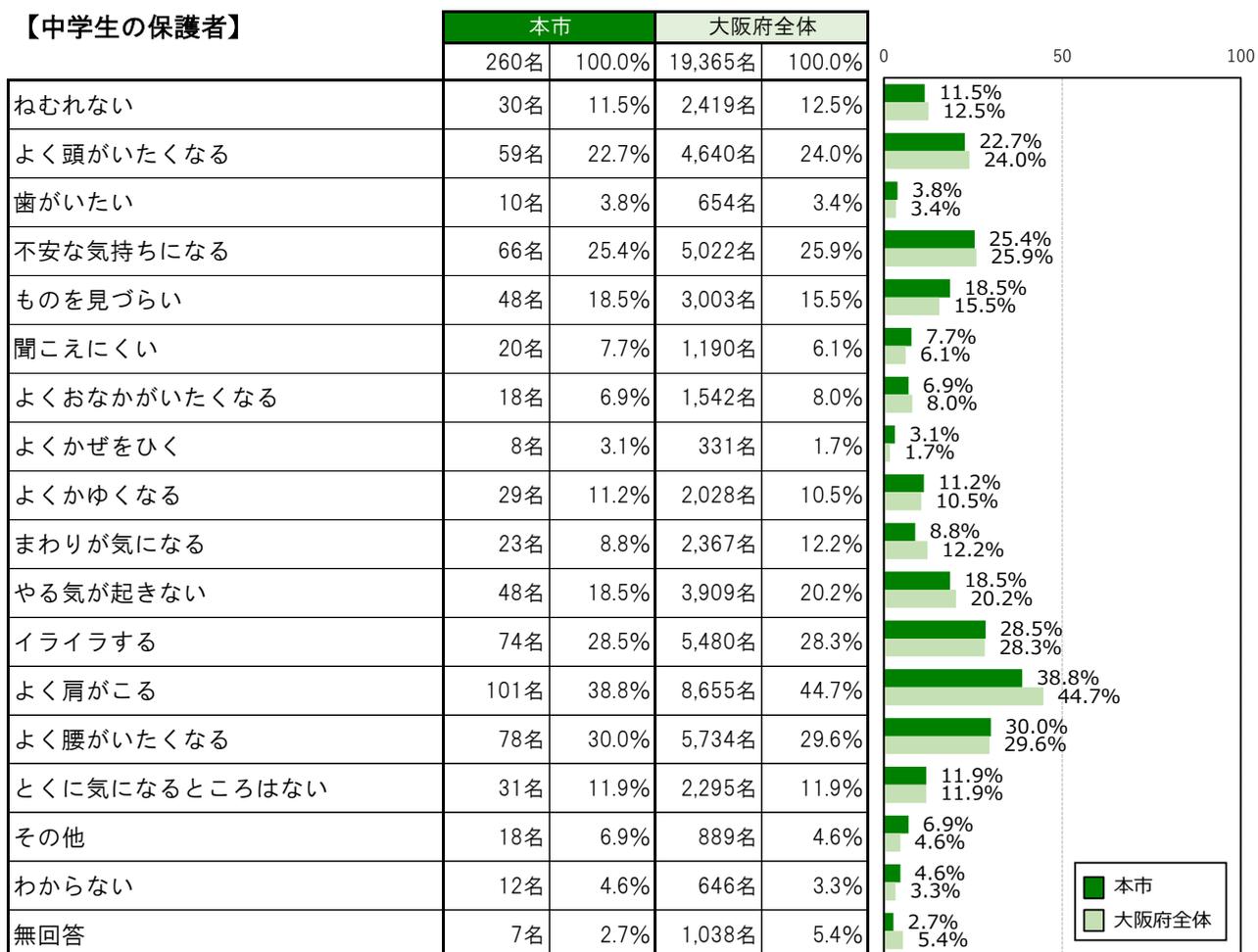
中学生の保護者は、「よく肩がこる」が38.8%で最も多く、次いで「よく腰がいたくなる」が30.0%、「イライラする」が28.5%、「不安な気持ちになる」が25.4%となっている。



【小学生の保護者】



【中学生の保護者】



保護者のことについて

問23 支援制度の利用状況 a 就学援助

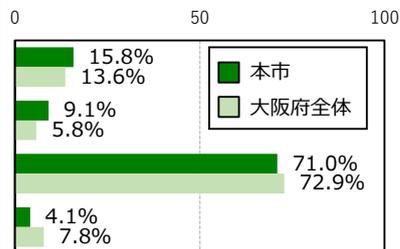
保護者全体は、「利用したことがない」が71.0%で最も多く、次いで「現在利用している」が15.8%、「現在利用していないが、以前利用したことがある」が9.1%となっている。

小学生の保護者は、「利用したことがない」が73.4%で最も多く、次いで「現在利用している」が14.9%、「現在利用していないが、以前利用したことがある」が7.3%となっている。

中学生の保護者は、「利用したことがない」が68.5%で最も多く、次いで「現在利用している」が16.2%、「現在利用していないが、以前利用したことがある」が11.2%となっている。

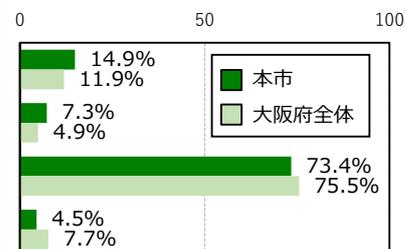
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	名	割合	名	割合
現在利用している	97名	15.8%	5,869名	13.6%
現在利用していないが、以前利用したことがある	56名	9.1%	2,503名	5.8%
利用したことがない	436名	71.0%	31,557名	72.9%
無回答	25名	4.1%	3,371名	7.8%



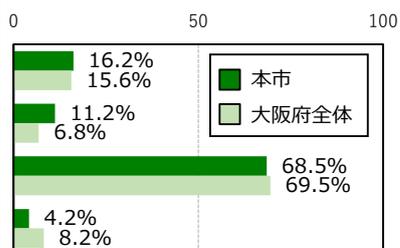
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	名	割合	名	割合
現在利用している	43名	14.9%	2,714名	11.9%
現在利用していないが、以前利用したことがある	21名	7.3%	1,110名	4.9%
利用したことがない	212名	73.4%	17,198名	75.5%
無回答	13名	4.5%	1,764名	7.7%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	名	割合	名	割合
現在利用している	42名	16.2%	3,020名	15.6%
現在利用していないが、以前利用したことがある	29名	11.2%	1,308名	6.8%
利用したことがない	178名	68.5%	13,453名	69.5%
無回答	11名	4.2%	1,584名	8.2%



保護者のことについて

問23 支援制度の利用状況 a 就学援助 <利用したことがない理由>

保護者全体は、「制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから」が88.1%で最も多く、次いで「それ以外の理由」が3.4%、「利用したいが、今までこの支援制度を知らなかったから」が1.1%となっている。

小学生の保護者は、「制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから」が86.8%で最も多く、次いで「それ以外の理由」が3.8%、「利用したいが、手続きがわからなかったり、利用しにくいから」が1.9%、「利用したいが、今までこの支援制度を知らなかったから」が1.4%となっている。

中学生の保護者は、「制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから」が88.8%で最も多く、次いで「それ以外の理由」が2.8%、「利用はできるが、特に利用したいと思わなかったから」、「利用したいが、今までこの支援制度を知らなかったから」がそれぞれ1.1%となっている。

【保護者全体】



【小学生の保護者】



【中学生の保護者】



保護者のことについて

問23 支援制度の利用状況 b 生活保護

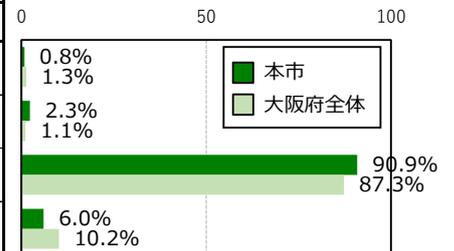
保護者全体は、「利用したことがない」が90.9%で最も多く、次いで「現在利用していないが、以前利用したことがある」が2.3%、「現在利用している」が0.8%となっている。

小学生の保護者は、「利用したことがない」が91.3%で最も多く、次いで「現在利用していないが、以前利用したことがある」が1.4%、「現在利用している」が0.3%となっている。

中学生の保護者は、「利用したことがない」が89.6%で最も多く、次いで「現在利用していないが、以前利用したことがある」が3.5%、「現在利用している」が1.2%となっている。

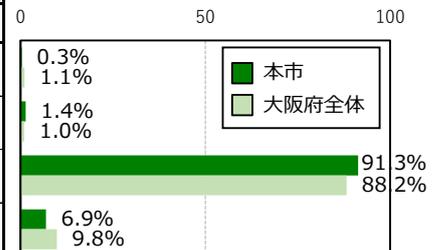
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	名	割合	名	割合
現在利用している	5名	0.8%	580名	1.3%
現在利用していないが、以前利用したことがある	14名	2.3%	497名	1.1%
利用したことがない	558名	90.9%	37,793名	87.3%
無回答	37名	6.0%	4,430名	10.2%



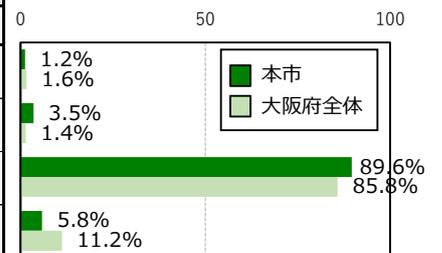
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	名	割合	名	割合
現在利用している	1名	0.3%	254名	1.1%
現在利用していないが、以前利用したことがある	4名	1.4%	218名	1.0%
利用したことがない	264名	91.3%	20,090名	88.2%
無回答	20名	6.9%	2,224名	9.8%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	名	割合	名	割合
現在利用している	3名	1.2%	316名	1.6%
現在利用していないが、以前利用したことがある	9名	3.5%	267名	1.4%
利用したことがない	233名	89.6%	16,608名	85.8%
無回答	15名	5.8%	2,174名	11.2%



保護者のことについて

問23 支援制度の利用状況 b 生活保護 <利用したことがない理由>

保護者全体は、「制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから」が88.4%で最も多く、次いで「それ以外の理由」が3.4%、「利用はできるが、特に利用したいと思わなかったから」が0.9%となっている。

小学生の保護者は、「制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから」が90.2%で最も多く、次いで「それ以外の理由」が2.3%、「利用はできるが、特に利用したいと思わなかったから」が0.8%となっている。

中学生の保護者は、「制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから」が85.4%で最も多く、次いで「それ以外の理由」が4.3%、「利用はできるが、特に利用したいと思わなかったから」が1.3%となっている。

【保護者全体】



【小学生の保護者】



【中学生の保護者】



保護者のことについて

問23 支援制度の利用状況 c 生活困窮者の自立支援相談窓口

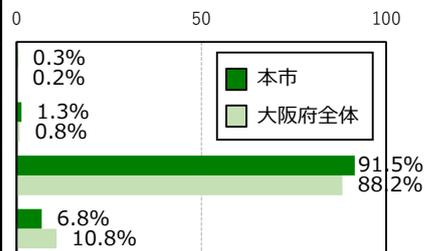
保護者全体は、「利用したことがない」が91.5%で最も多く、次いで「現在利用していないが、以前利用したことがある」が1.3%、「現在利用している」が0.3%となっている。

小学生の保護者は、「利用したことがない」が90.3%で最も多く、次いで「現在利用していないが、以前利用したことがある」が2.1%、「現在利用している」が0.3%となっている。

中学生の保護者は、「利用したことがない」が91.5%で最も多く、次いで「現在利用していないが、以前利用したことがある」が0.8%、「現在利用している」が0.4%となっている。

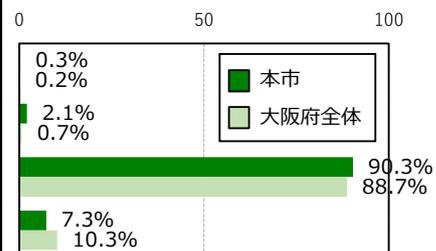
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
現在利用している	2名	0.3%	101名	0.2%
現在利用していないが、以前利用したことがある	8名	1.3%	338名	0.8%
利用したことがない	562名	91.5%	38,173名	88.2%
無回答	42名	6.8%	4,688名	10.8%



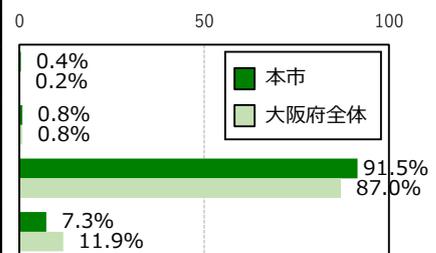
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
現在利用している	1名	0.3%	55名	0.2%
現在利用していないが、以前利用したことがある	6名	2.1%	163名	0.7%
利用したことがない	261名	90.3%	20,220名	88.7%
無回答	21名	7.3%	2,348名	10.3%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
現在利用している	1名	0.4%	44名	0.2%
現在利用していないが、以前利用したことがある	2名	0.8%	162名	0.8%
利用したことがない	238名	91.5%	16,851名	87.0%
無回答	19名	7.3%	2,308名	11.9%



保護者のことについて

問23 支援制度の利用状況 c 生活困窮者の自立支援相談窓口 <利用したことがない理由>

保護者全体は、「制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから」が84.5%で最も多く、次いで「それ以外の理由」が5.0%、「利用したいが、今までこの支援制度を知らなかったから」が1.8%、「利用はできるが、特に利用したいと思わなかったから」が1.1%となっている。

小学生の保護者は、「制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから」が87.0%で最も多く、次いで「それ以外の理由」が3.1%、「利用したいが、今までこの支援制度を知らなかったから」が1.9%、「利用したいが、手続きがわからなかったり、利用しにくいから」が0.8%となっている。

中学生の保護者は、「制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから」が81.9%で最も多く、次いで「それ以外の理由」が5.9%、「利用はできるが、特に利用したいと思わなかったから」が2.1%、「利用したいが、今までこの支援制度を知らなかったから」が1.7%となっている。

【保護者全体】



【小学生の保護者】



【中学生の保護者】



保護者のことについて

問23 支援制度の利用状況 d 児童扶養手当（ひとり親世帯のみ）

保護者全体は、「現在利用している」が58.7%で最も多く、次いで「利用したことがない」が32.6%、「現在利用していないが、以前利用したことがある」が7.6%となっている。

小学生の保護者は、「現在利用している」が58.5%で最も多く、次いで「利用したことがない」が39.0%となっている。

中学生の保護者は、「現在利用している」が56.8%で最も多く、次いで「利用したことがない」が32.4%、「現在利用していないが、以前利用したことがある」が10.8%となっている。



※ ひとり親世帯のみで集計。

保護者のことについて

問23 支援制度の利用状況 d 児童扶養手当 <利用したことがない理由> (ひとり親世帯のみ)

保護者全体は、「制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思っから」が76.7%で最も多く、次いで「それ以外の理由」が10.0%となっている。

小学生の保護者は、「制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思っから」が75.0%で最も多く、次いで「それ以外の理由」が6.3%となっている。

中学生の保護者は、「制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思っから」が75.0%で最も多く、次いで「それ以外の理由」が16.7%となっている。



※ ひとり親世帯のみで集計。

保護者のことについて

問23 支援制度の利用状況 e 母子家庭等就業・自立支援センター

保護者全体は、「利用したことがない」が91.4%で最も多く、次いで「現在利用していないが、以前利用したことがある」が1.0%、「現在利用している」が0.5%となっている。

小学生の保護者は、「利用したことがない」が91.0%で最も多く、次いで「現在利用している」、「現在利用していないが、以前利用したことがある」がそれぞれ0.7%となっている。

中学生の保護者は、「利用したことがない」が90.8%で最も多く、次いで「現在利用していないが、以前利用したことがある」が1.5%、「現在利用している」が0.4%となっている。

【保護者全体】



【小学生の保護者】



【中学生の保護者】



保護者のことについて

問23 支援制度の利用状況 e 母子家庭等就業・自立支援センター <利用したことがない理由>

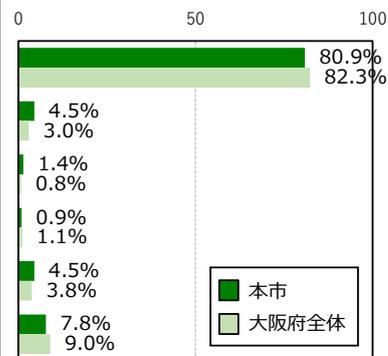
保護者全体は、「制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから」が80.9%で最も多く、次いで「利用はできるが、特に利用したいと思わなかったから」、「それ以外の理由」がそれぞれ4.5%、「利用したいが、今までこの支援制度を知らなかったから」が1.4%となっている。

小学生の保護者は、「制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから」が82.9%で最も多く、次いで「利用はできるが、特に利用したいと思わなかったから」が6.1%、「それ以外の理由」が2.7%となっている。

中学生の保護者は、「制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから」が78.4%で最も多く、次いで「それ以外の理由」が5.9%、「利用はできるが、特に利用したいと思わなかったから」が3.0%となっている。

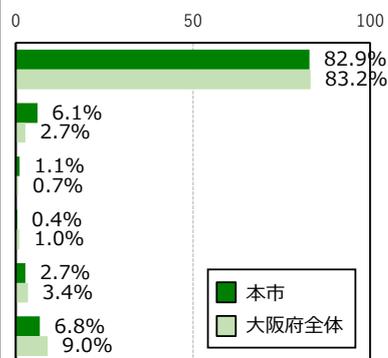
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから	454名	80.9%	31,197名	82.3%
利用はできるが、特に利用したいと思わなかったから	25名	4.5%	1,139名	3.0%
利用したいが、今までこの支援制度を知らなかったから	8名	1.4%	316名	0.8%
利用したいが、手続きがわからなかったり、利用しにくいから	5名	0.9%	401名	1.1%
それ以外の理由	25名	4.5%	1,448名	3.8%
無回答	44名	7.8%	3,403名	9.0%



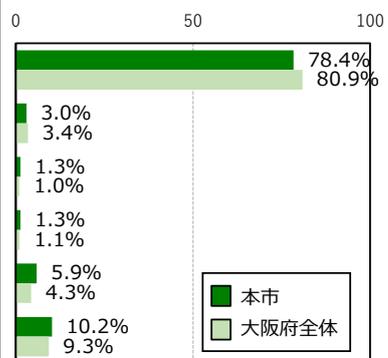
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから	218名	82.9%	16,718名	83.2%
利用はできるが、特に利用したいと思わなかったから	16名	6.1%	540名	2.7%
利用したいが、今までこの支援制度を知らなかったから	3名	1.1%	138名	0.7%
利用したいが、手続きがわからなかったり、利用しにくいから	1名	0.4%	203名	1.0%
それ以外の理由	7名	2.7%	686名	3.4%
無回答	18名	6.8%	1,818名	9.0%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから	185名	78.4%	13,516名	80.9%
利用はできるが、特に利用したいと思わなかったから	7名	3.0%	572名	3.4%
利用したいが、今までこの支援制度を知らなかったから	3名	1.3%	169名	1.0%
利用したいが、手続きがわからなかったり、利用しにくいから	3名	1.3%	188名	1.1%
それ以外の理由	14名	5.9%	714名	4.3%
無回答	24名	10.2%	1,554名	9.3%



保護者のことについて

問23 支援制度の利用状況 f 低所得の子育て世帯に対する子育て世帯生活支援特別給付金

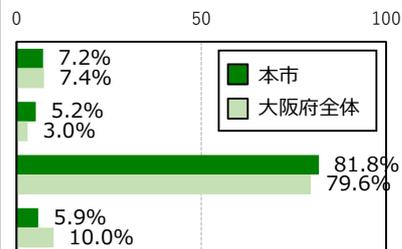
保護者全体は、「利用したことがない」が81.8%で最も多く、次いで「現在利用している」が7.2%、「現在利用していないが、以前利用したことがある」が5.2%となっている。

小学生の保護者は、「利用したことがない」が82.4%で最も多く、次いで「現在利用している」が6.6%、「現在利用していないが、以前利用したことがある」が4.8%となっている。

中学生の保護者は、「利用したことがない」が81.2%で最も多く、次いで「現在利用している」が7.7%、「現在利用していないが、以前利用したことがある」が5.4%となっている。

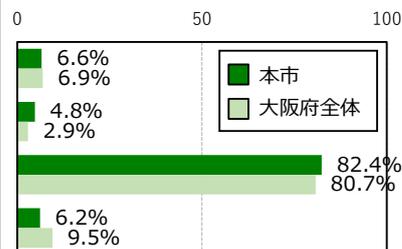
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	名	割合	名	割合
現在利用している	44名	7.2%	3,205名	7.4%
現在利用していないが、以前利用したことがある	32名	5.2%	1,293名	3.0%
利用したことがない	502名	81.8%	34,472名	79.6%
無回答	36名	5.9%	4,330名	10.0%



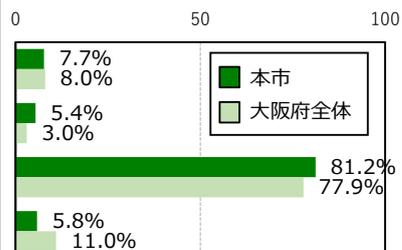
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	名	割合	名	割合
現在利用している	19名	6.6%	1,562名	6.9%
現在利用していないが、以前利用したことがある	14名	4.8%	672名	2.9%
利用したことがない	238名	82.4%	18,390名	80.7%
無回答	18名	6.2%	2,162名	9.5%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	名	割合	名	割合
現在利用している	20名	7.7%	1,557名	8.0%
現在利用していないが、以前利用したことがある	14名	5.4%	588名	3.0%
利用したことがない	211名	81.2%	15,094名	77.9%
無回答	15名	5.8%	2,126名	11.0%



保護者のことについて

問23 支援制度の利用状況 f 低所得の子育て世帯に対する子育て世帯生活支援特別給付金  
 <利用したことがない理由>

保護者全体は、「制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから」が88.2%で最も多く、次いで「それ以外の理由」が3.4%、「利用したいが、今までこの支援制度を知らなかったから」が1.8%となっている。

小学生の保護者は、「制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから」が90.3%で最も多く、次いで「それ以外の理由」が2.5%、「利用したいが、今までこの支援制度を知らなかったから」が2.1%となっている。

中学生の保護者は、「制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから」が84.8%で最も多く、次いで「それ以外の理由」が4.7%、「利用したいが、今までこの支援制度を知らなかったから」が1.4%となっている。

【保護者全体】



【小学生の保護者】



【中学生の保護者】



保護者のことについて

問23 支援制度の利用状況 g 新型コロナウイルス感染症に伴う生活福祉資金（貸付金）

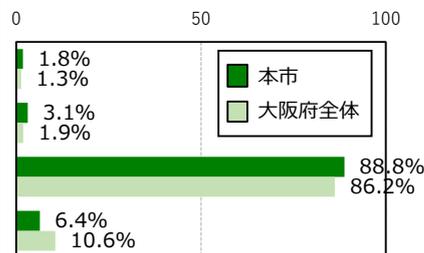
保護者全体は、「利用したことがない」が88.8%で最も多く、次いで「現在利用していないが、以前利用したことがある」が3.1%、「現在利用している」が1.8%となっている。

小学生の保護者は、「利用したことがない」が88.6%で最も多く、次いで「現在利用していないが、以前利用したことがある」が3.5%、「現在利用している」が1.4%となっている。

中学生の保護者は、「利用したことがない」が88.1%で最も多く、次いで「現在利用していないが、以前利用したことがある」が2.7%、「現在利用している」が2.3%となっている。

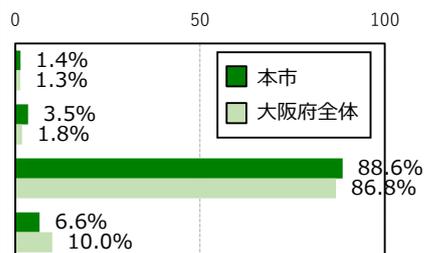
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
現在利用している	11名	1.8%	569名	1.3%
現在利用していないが、以前利用したことがある	19名	3.1%	814名	1.9%
利用したことがない	545名	88.8%	37,313名	86.2%
無回答	39名	6.4%	4,604名	10.6%



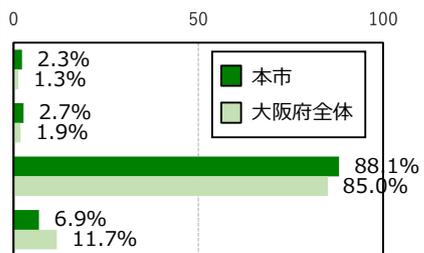
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
現在利用している	4名	1.4%	298名	1.3%
現在利用していないが、以前利用したことがある	10名	3.5%	419名	1.8%
利用したことがない	256名	88.6%	19,782名	86.8%
無回答	19名	6.6%	2,287名	10.0%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
現在利用している	6名	2.3%	258名	1.3%
現在利用していないが、以前利用したことがある	7名	2.7%	372名	1.9%
利用したことがない	229名	88.1%	16,467名	85.0%
無回答	18名	6.9%	2,268名	11.7%



保護者のことについて

問23 支援制度の利用状況 g 新型コロナウイルス感染症に伴う生活福祉資金（貸付金）  
 <利用したことがない理由>

保護者全体は、「制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから」が84.0%で最も多く、次いで「それ以外の理由」が4.4%、「利用はできるが、特に利用したいと思わなかったから」が1.8%、「利用したいが、手続きがわからなかったり、利用しにくいから」が1.7%となっている。

小学生の保護者は、「制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから」が87.1%で最も多く、次いで「それ以外の理由」が2.7%、「利用はできるが、特に利用したいと思わなかったから」、「利用したいが、今までこの支援制度を知らなかったから」がそれぞれ1.6%となっている。

中学生の保護者は、「制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから」が80.3%で最も多く、次いで「それ以外の理由」が5.7%、「利用したいが、手続きがわからなかったり、利用しにくいから」が2.6%、「利用はできるが、特に利用したいと思わなかったから」が2.2%となっている。

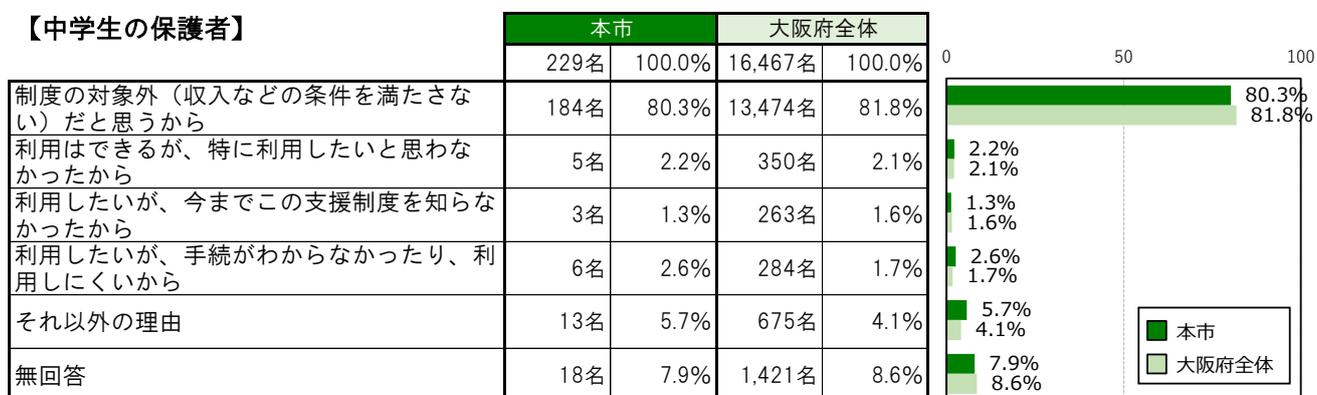
【保護者全体】



【小学生の保護者】



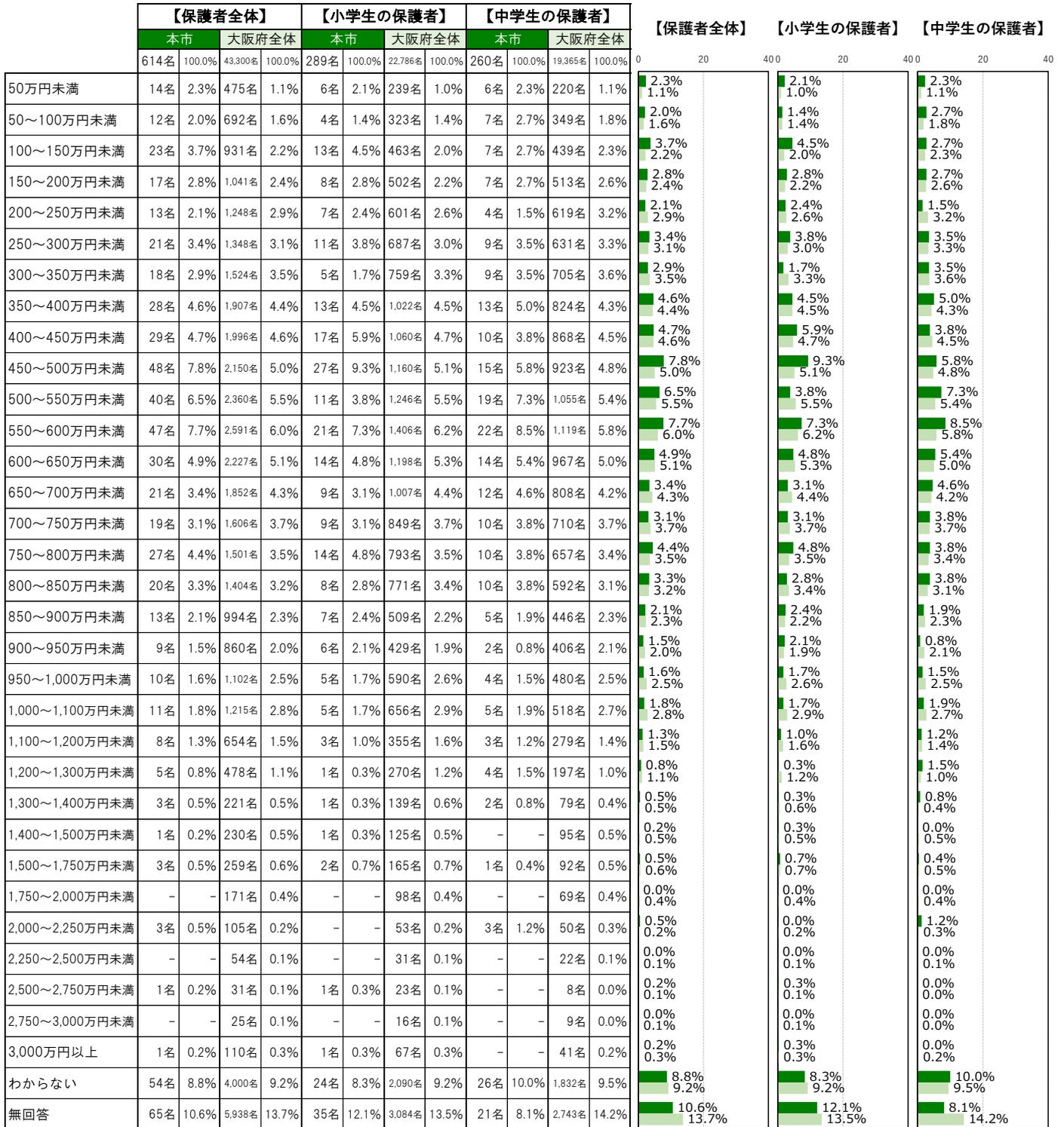
【中学生の保護者】



保護者のことについて

問24 世帯収入

保護者全体は、「450～500万円未満」が7.8%で最も多く、次いで「550～600万円未満」が7.7%、「500～550万円未満」が6.5%、「600～650万円未満」が4.9%となっている。  
 小学生の保護者は、「450～500万円未満」が9.3%で最も多く、次いで「550～600万円未満」が7.3%、「400～450万円未満」が5.9%、「600～650万円未満」、「750～800万円未満」がそれぞれ4.8%となっている。  
 中学生の保護者は、「550～600万円未満」が8.5%で最も多く、次いで「500～550万円未満」が7.3%、「450～500万円未満」が5.8%、「600～650万円未満」が5.4%となっている。



■ 本市  
 ■ 大阪府全体

**世帯収入額と世帯人数に基づく等価可処分所得**

今回の調査において世帯所得をたずねているが、この回答のみで世帯の困窮の状態を測ることはできない。実際の生活上の体験や困りごとを把握するため、多面的に貧困を測る指標として、「等価可処分所得」およびそれらを基に区分した「困窮度」を用いている。

国民生活基礎調査における相対的貧困率は、一定基準（貧困線）を下回る等価可処分所得しか得ていない者の割合をいう。貧困線とは、等価可処分所得（世帯の可処分所得（収入から税金・社会保険料等を除いたいわゆる手取り収入）を世帯人員の平方根で割って調整した所得）の中央値の半分の額をいう。算出方法は、OECD（経済協力開発機構）の作成基準に基づく。EU、ユニセフ（ただし、常に60%基準採用ではない）は60%を採用している。

世帯の可処分所得はその世帯の世帯人員数に影響されるので、世帯人員数で調整する必要がある。最も簡単なのは「世帯の可処分所得÷世帯人員数」とすることであるが、生活水準を考えた場合、世帯人員数が少ない方が生活コストが割高になることを考慮する必要があるため、このため、世帯人員数の違いを調整するにあたって「世帯人員数の平方根」を用いている。

出典：厚生労働省 <http://www.mhlw.go.jp/toukei/list/dl/20-21a-01.pdf>

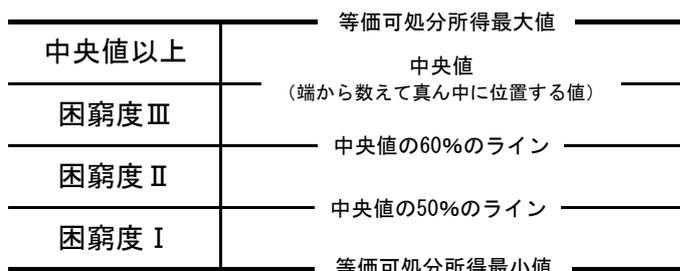


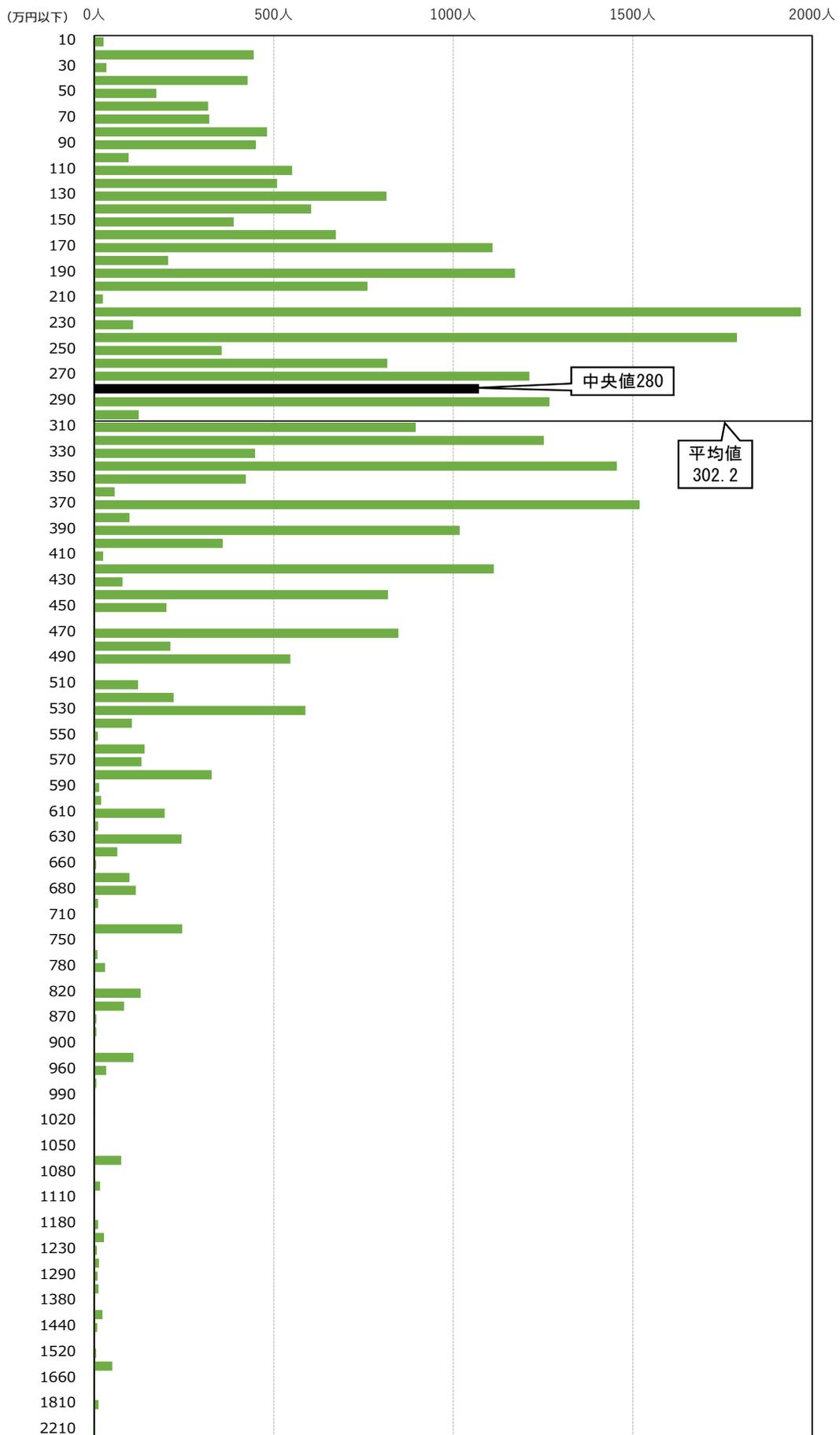
図 困窮度の分類と基準

中央値は263万円、国の定める基準で行くと相対的貧困率は17.4%であった。なお、大阪府内全自治体における相対的貧困率は15.9%であった。

**【保護者全体】**



保護者全体は、「中央値以上」が52.5%で最も多く、次いで「困窮度Ⅲ」が26.5%、「困窮度Ⅰ」が17.4%、「困窮度Ⅱ」が3.6%となっている。



※ 2016年度調査では、中央値255万円、平均値272.7万円であった。  
 注) 2023年度調査ではグラフ作成方法を改訂している。

図 大阪府内全自治体における等価可処分所得の分布

保護者のことについて

問25 同居家族が新型コロナウイルスに感染した延べ回数

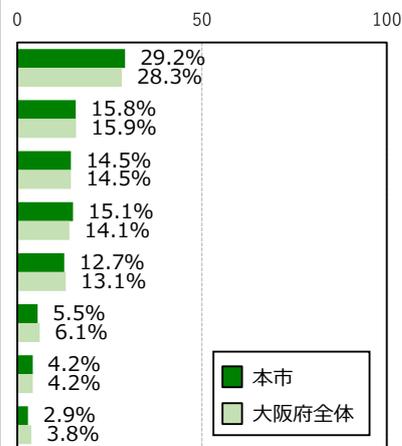
保護者全体は、「いない」が29.2%で最も多く、次いで「1回」が15.8%、「3回」が15.1%、「2回」が14.5%となっている。

小学生の保護者は、「いない」が33.9%で最も多く、次いで「4回」が14.5%、「3回」が14.2%、「1回」が12.8%となっている。

中学生の保護者は、「いない」が25.0%で最も多く、次いで「1回」が18.5%、「2回」が18.1%、「3回」が15.4%となっている。

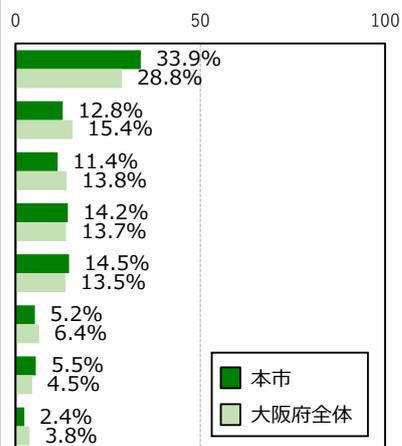
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いない	179名	29.2%	12,265名	28.3%
1回	97名	15.8%	6,894名	15.9%
2回	89名	14.5%	6,279名	14.5%
3回	93名	15.1%	6,098名	14.1%
4回	78名	12.7%	5,651名	13.1%
5回	34名	5.5%	2,637名	6.1%
6回以上	26名	4.2%	1,828名	4.2%
無回答	18名	2.9%	1,648名	3.8%



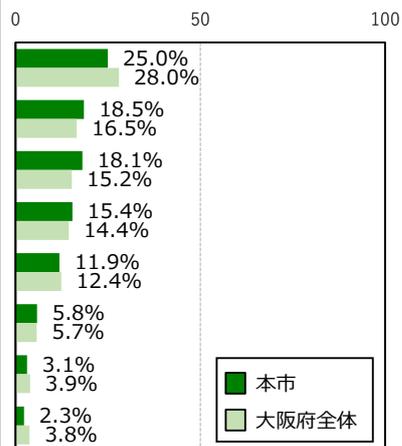
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いない	98名	33.9%	6,573名	28.8%
1回	37名	12.8%	3,508名	15.4%
2回	33名	11.4%	3,152名	13.8%
3回	41名	14.2%	3,119名	13.7%
4回	42名	14.5%	3,085名	13.5%
5回	15名	5.2%	1,457名	6.4%
6回以上	16名	5.5%	1,029名	4.5%
無回答	7名	2.4%	863名	3.8%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いない	65名	25.0%	5,415名	28.0%
1回	48名	18.5%	3,195名	16.5%
2回	47名	18.1%	2,948名	15.2%
3回	40名	15.4%	2,796名	14.4%
4回	31名	11.9%	2,410名	12.4%
5回	15名	5.8%	1,107名	5.7%
6回以上	8名	3.1%	758名	3.9%
無回答	6名	2.3%	736名	3.8%



保護者のことについて

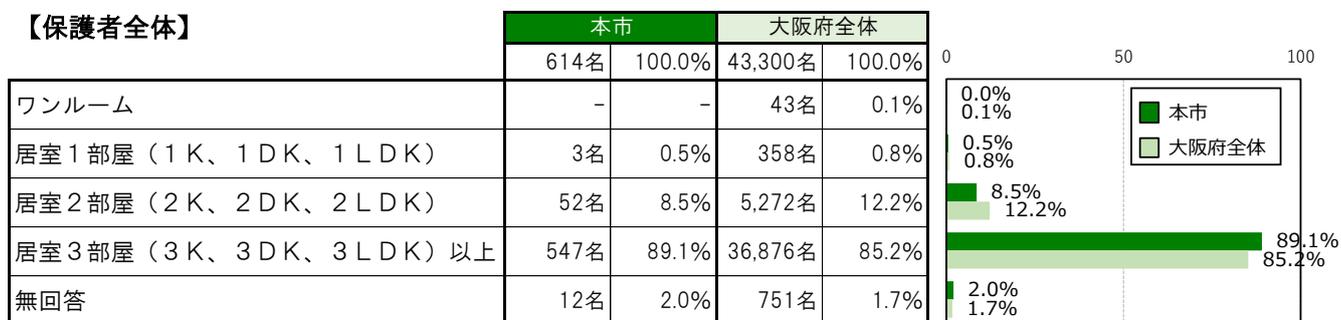
問26(1) 住居の間取り

保護者全体は、「居室3部屋（3K、3DK、3LDK）以上」が89.1%で最も多く、次いで「居室2部屋（2K、2DK、2LDK）」が8.5%、「居室1部屋（1K、1DK、1LDK）」が0.5%となっている。

小学生の保護者は、「居室3部屋（3K、3DK、3LDK）以上」が88.9%で最も多く、次いで「居室2部屋（2K、2DK、2LDK）」が9.3%、「居室1部屋（1K、1DK、1LDK）」が0.3%となっている。

中学生の保護者は、「居室3部屋（3K、3DK、3LDK）以上」が88.8%で最も多く、次いで「居室2部屋（2K、2DK、2LDK）」が8.5%、「居室1部屋（1K、1DK、1LDK）」が0.8%となっている。

【保護者全体】



【小学生の保護者】



【中学生の保護者】



保護者のことについて

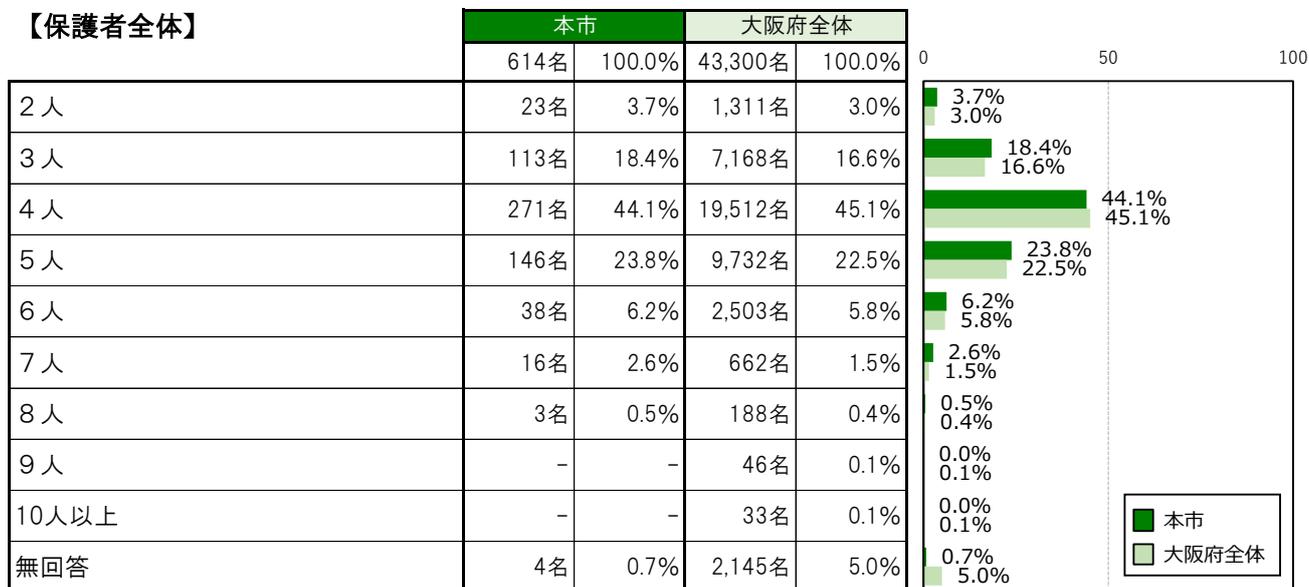
問26(2) 同居人数

保護者全体は、「4人」が44.1%で最も多く、次いで「5人」が23.8%、「3人」が18.4%、「6人」が6.2%となっている。

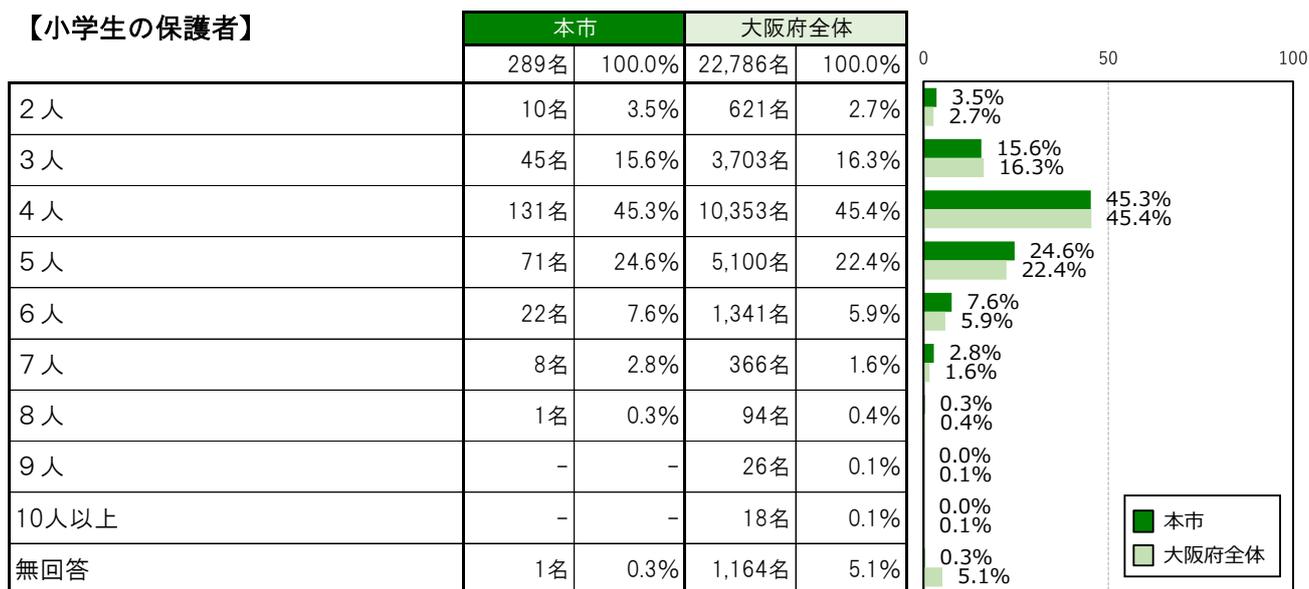
小学生の保護者は、「4人」が45.3%で最も多く、次いで「5人」が24.6%、「3人」が15.6%、「6人」が7.6%となっている。

中学生の保護者は、「4人」が43.5%で最も多く、次いで「5人」が23.1%、「3人」が21.5%、「2人以下」が5.0%となっている。

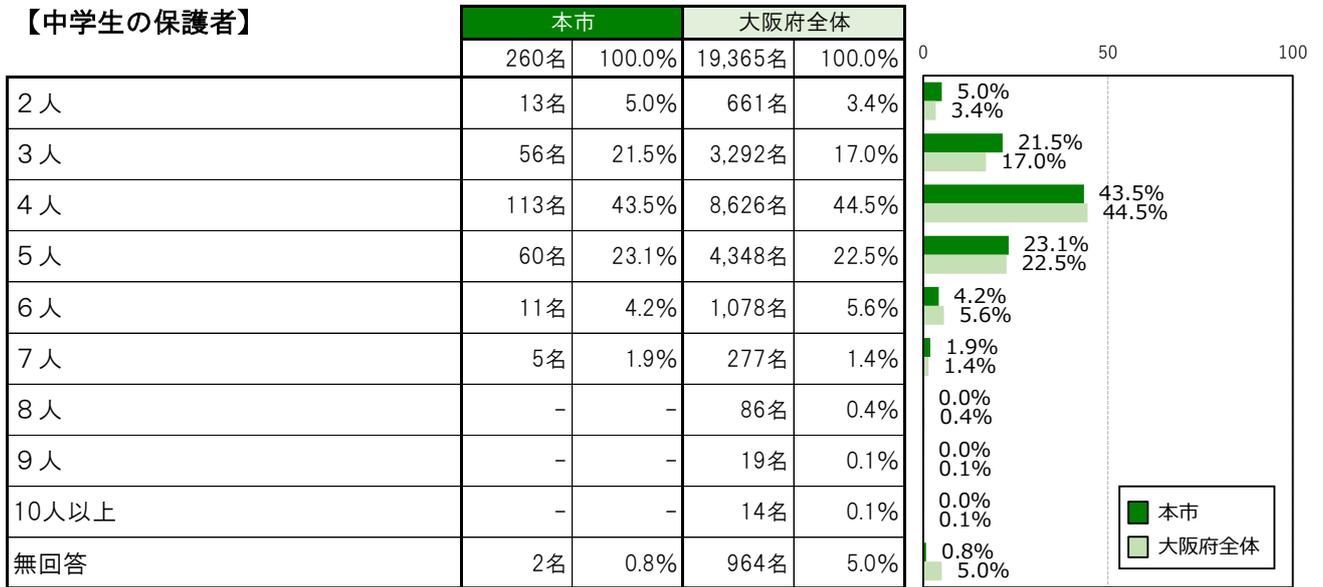
【保護者全体】



【小学生の保護者】



【中学生の保護者】



### 3. クロス集計および分析結果

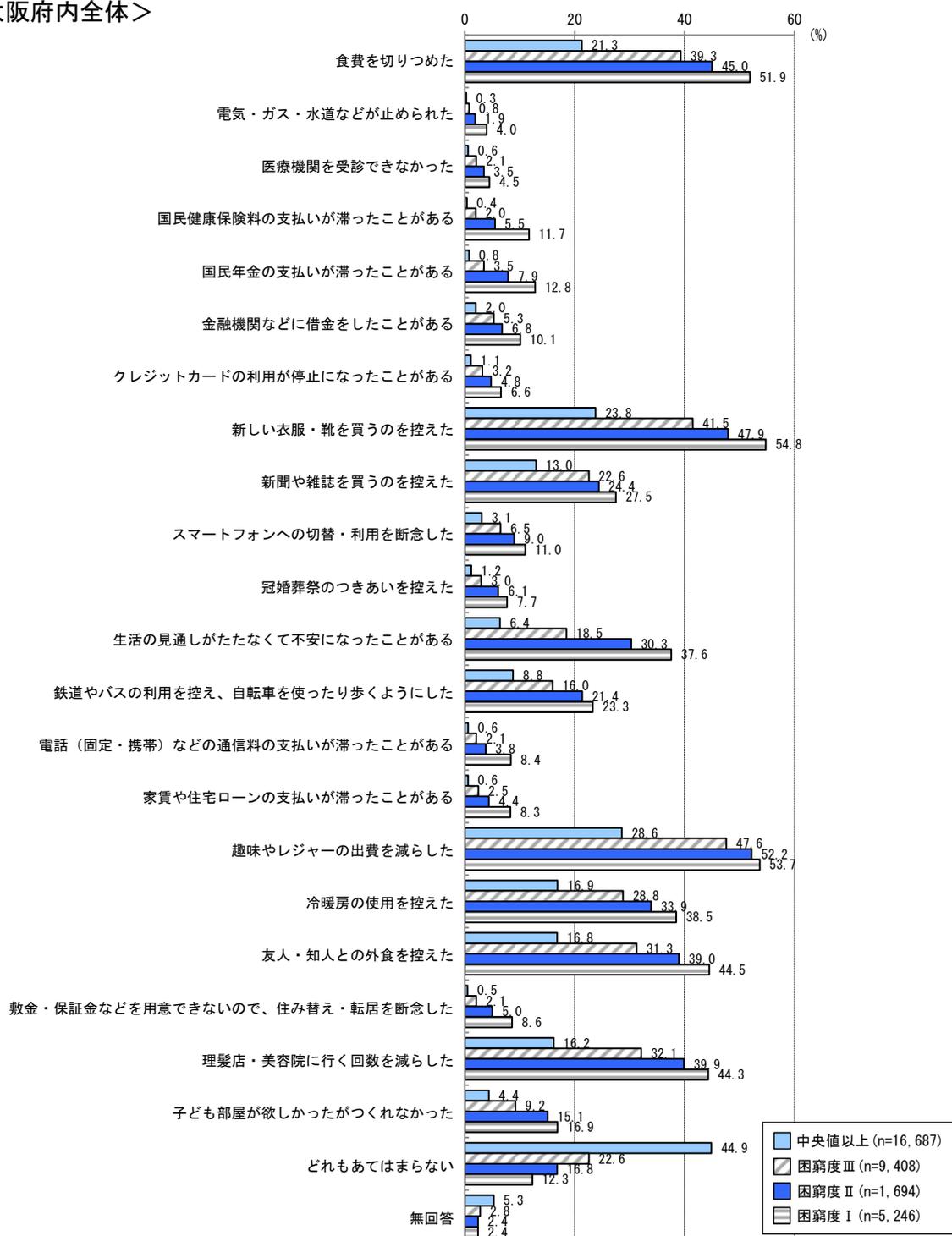
以下のグラフは、主に困窮度別に示している。大阪府内全自治体の傾向については記述していないが、多くにおいて、本自治体調査結果と同様の傾向が見られる。さらに顕著な傾向が見られるものもある。

#### 3-1. 基本情報

##### (1) 経済状況

困窮度別に見た、経済的な理由による経験（保護者票問7）

<大阪府内全体>



<守口市>

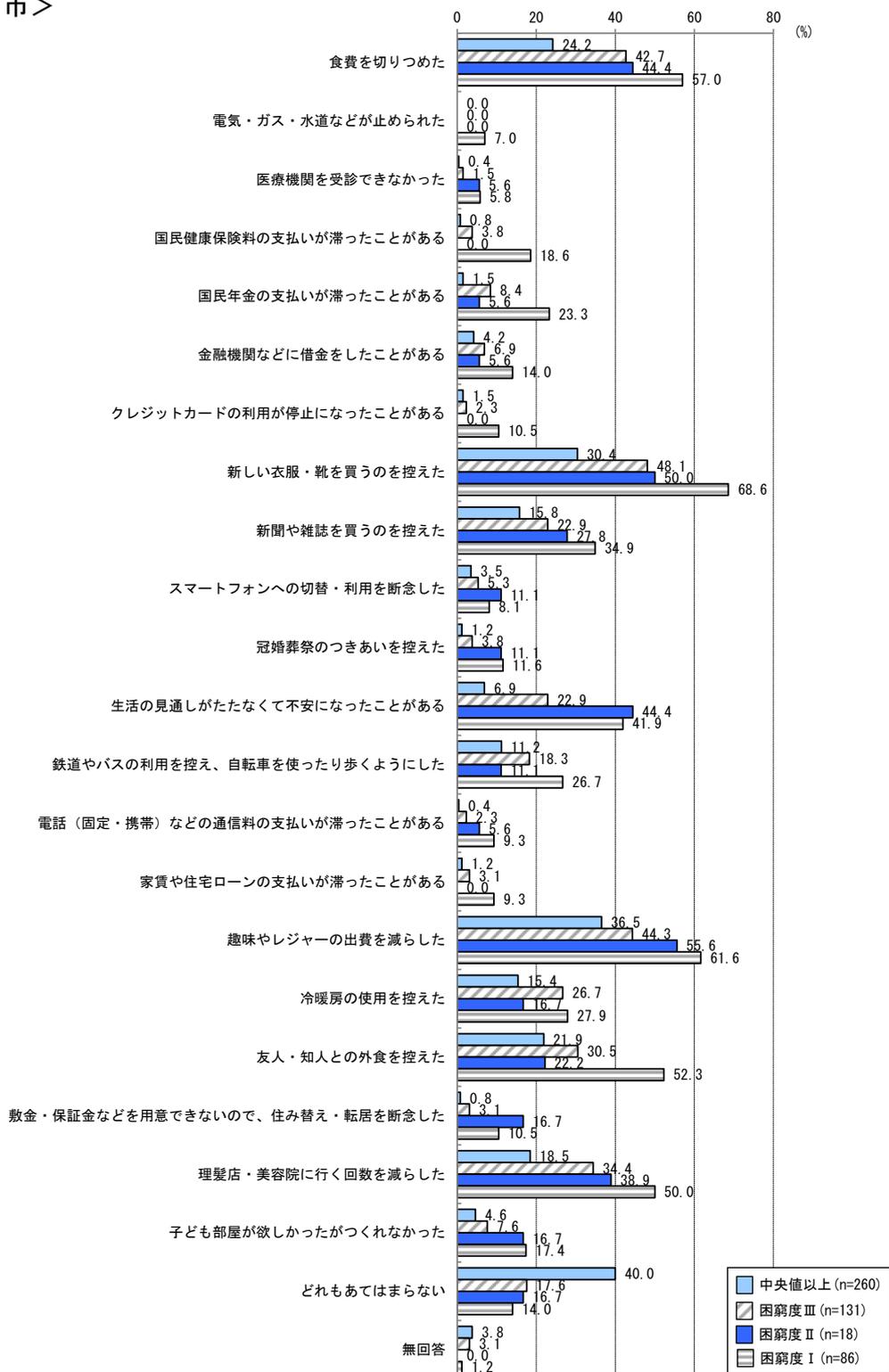
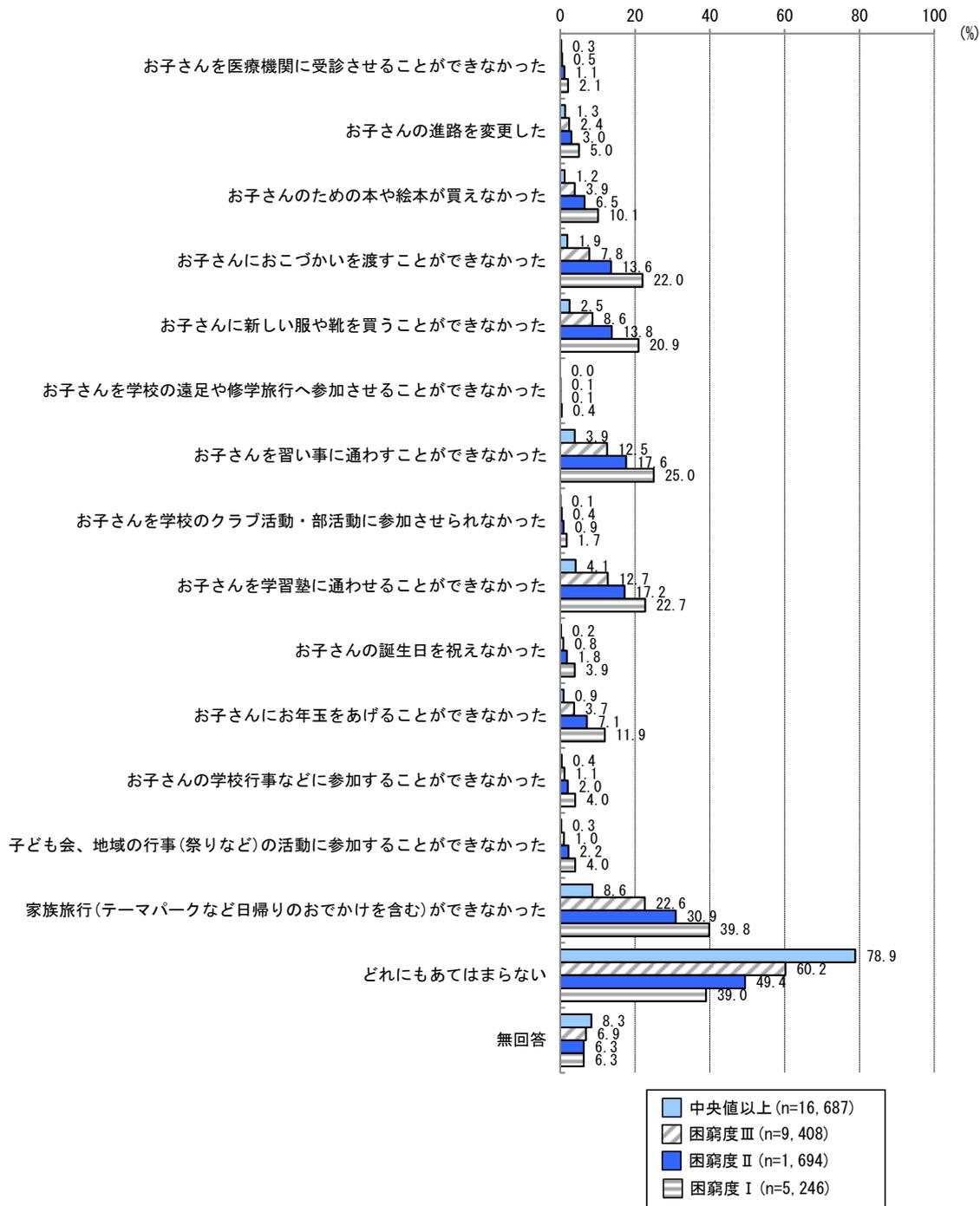


図 1. 困窮度別に見た、経済的な理由による経験

困窮度別に経済的な理由による経験を見ると、中央値以上群と困窮度Ⅰ群間で差が大きい項目に着目しながら、困窮度Ⅰ群を見ると、「国民健康保険料の支払いが滞ったことがある」が18.6%（中央値以上群に対して23.3倍）、「電話（固定・携帯）などの通信料の支払いが滞ったことがある」が9.3%（同じく23.3倍）、「国民年金の支払いが滞ったことがある」が23.3%（同じく15.5倍）となり、困窮度Ⅰ群において高い項目が複数みられた。また「どれもあてはまらない」は中央値以上群で40.0%に対して、困窮度Ⅰ群において14.0%だった。

困窮度別に見た、子どもへの経済的な理由による経験（保護者票問 12）

<大阪府内全体>



<守口市>

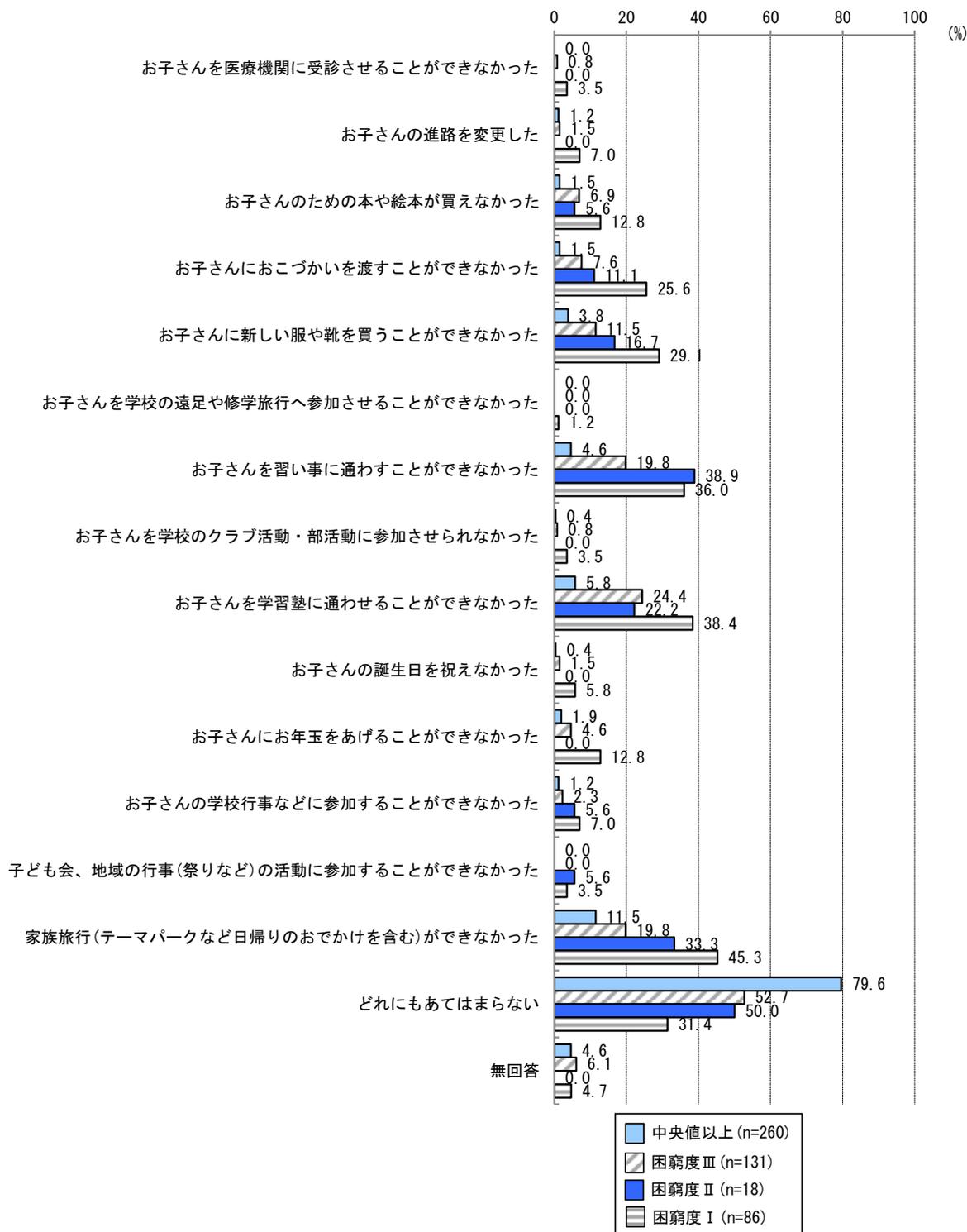


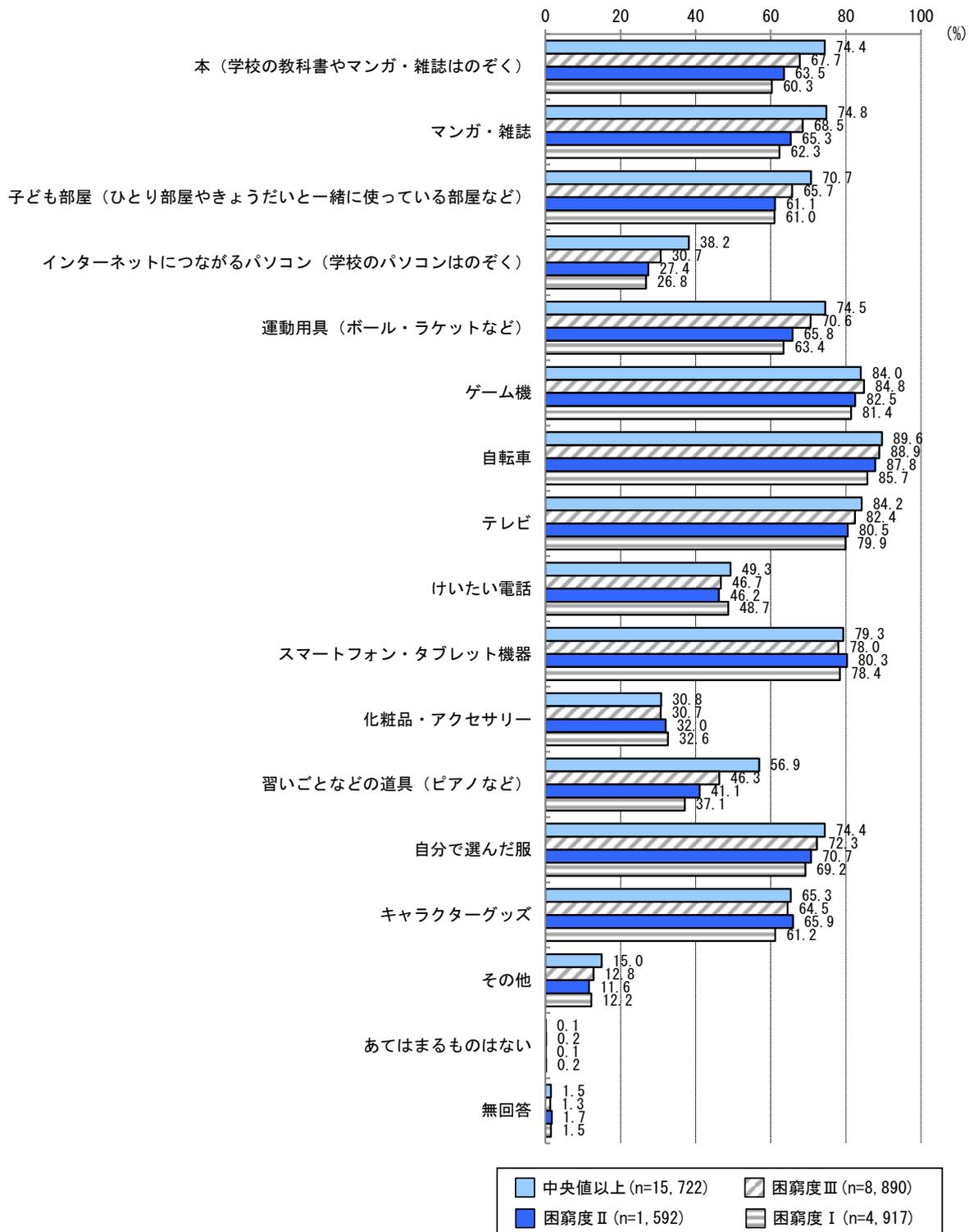
図 2. 困窮度別に見た、子どもへの経済的な理由による経験

困窮度別に子どもへの経済的な理由による経験を見ると、中央値以上群と困窮度Ⅰ群間で差が大きい項目に着目しながら、困窮度Ⅰ群を見ると、「お子さんにおこづかいを渡すことができなかった」が25.6%（中央値以上群に対して17.1倍）、「お子さんの誕生日を祝えなかった」が5.8%（同じく14.5倍）となっている。

また、「どれにもあてはまらない」は中央値以上群で79.6%に対して、困窮度Ⅰ群において31.4%だった。

困窮度別に見た、持っているもの、使うことができるもの（子ども票問 21）

<大阪府内全体>



<守口市>

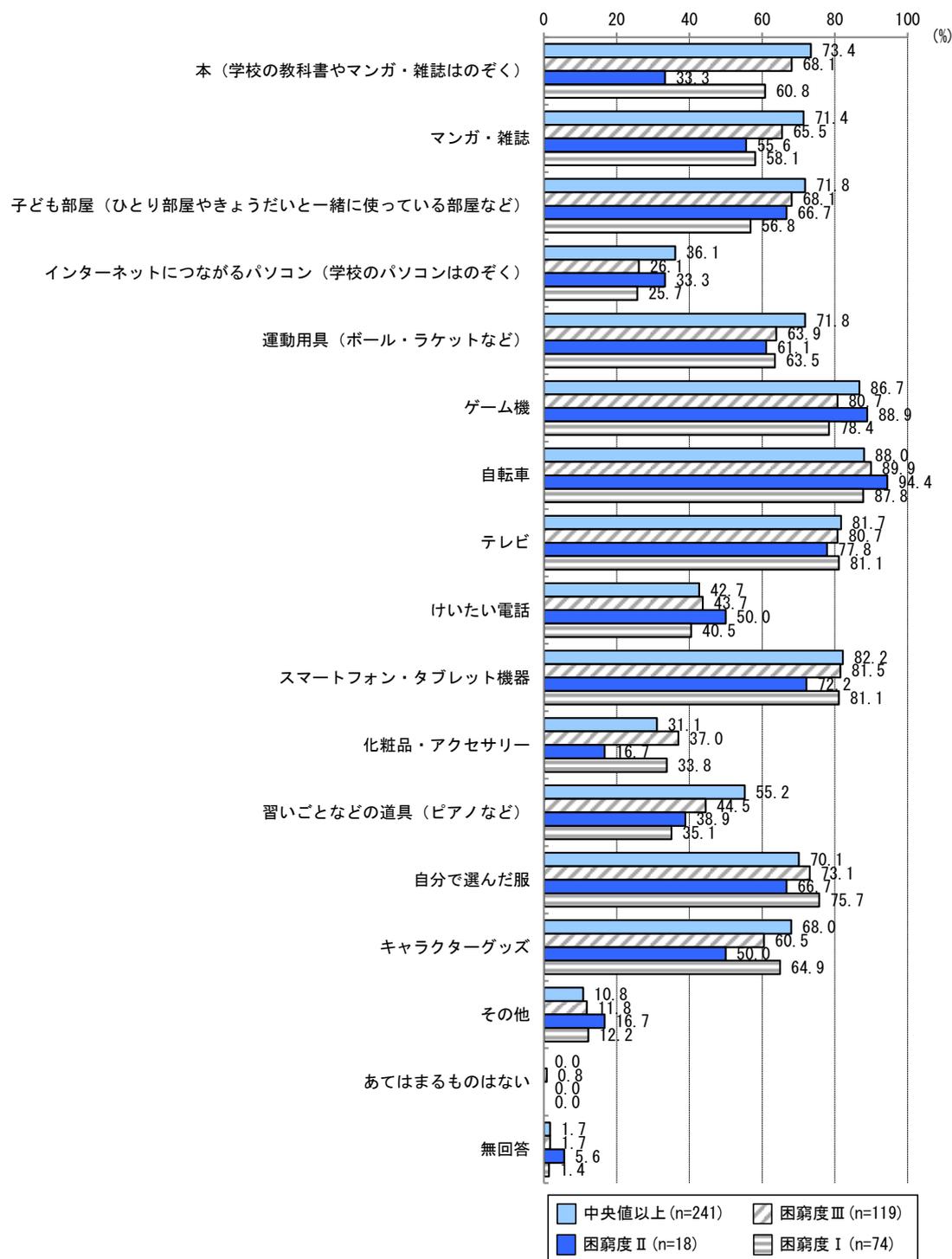
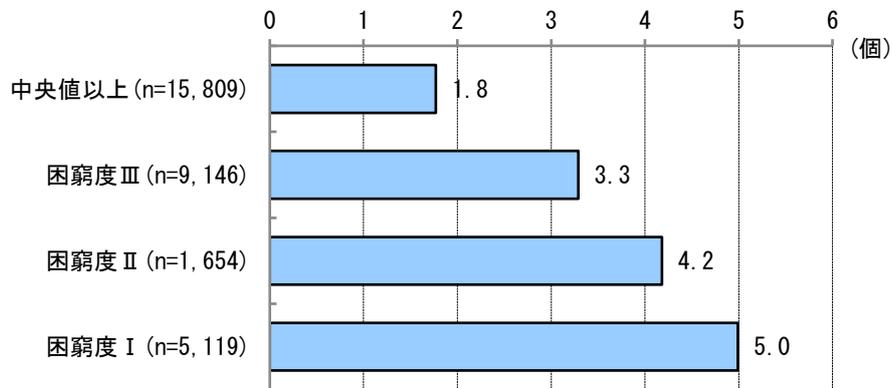


図 3. 困窮度別に見た、持っているもの、使うことができるもの

困窮度別に見た、持っているもの、使うことができるものを見ると、中央値以上群と困窮度 I 群間で差が大きい項目に着目しながら、中央値以上群を見ると、「習いごとなどの道具 (ピアノなど)」が55.2% (困窮度 I 群に対して1.6倍)、「インターネットにつながるパソコン (学校のパソコンはのぞく)」が36.1% (同じく1.4倍)、「子ども部屋 (ひとり部屋やきょうだいと一緒に使っている部屋など)」が71.8% (同じく1.3倍) となり、中央値以上群において高い項目、すなわち困窮度 I 群においては低い項目が複数みられた。

困窮度別に見た、経済的な理由による経験の該当数の平均（保護者票問7）

<大阪府内全体>



<守口市>

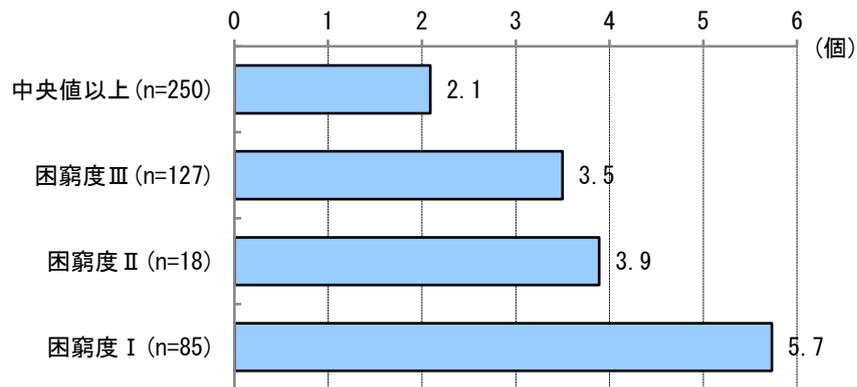


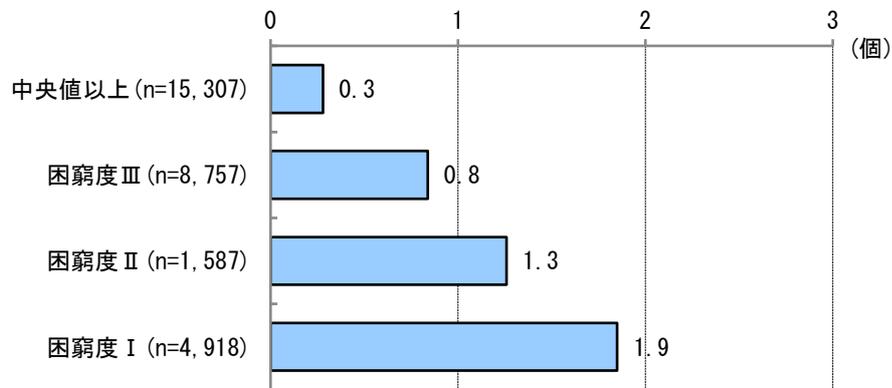
図 4. 困窮度別に見た、経済的な理由による経験の該当数の平均

経済的な理由による経験として示した21個の項目のうち、該当すると回答された数について、困窮度別に平均値を算出した。

その結果、困窮度が高くなるにつれ、経済的な理由による経験の該当数は多くなっていることがみられた。

困窮度別に見た、子どもへの経済的な理由による経験の該当数の平均（保護者票問 12）

<大阪府内全体>



<守口市>

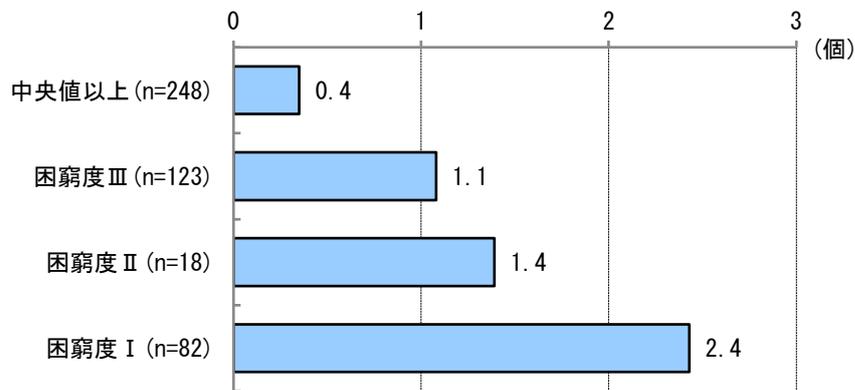


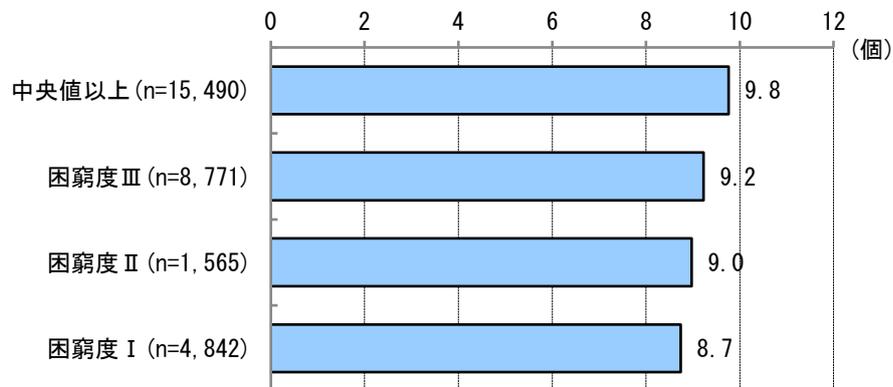
図 5. 困窮度別に見た、子どもへの経済的な理由による経験の該当数の平均

子どもに関して経済的な理由による経験として示した14個の項目のうち、該当すると回答された数について、困窮度別に平均値を算出した。

その結果、困窮度が高くなるにつれ、経済的な理由で子どもにできなかったことの該当数は多くなっていることがみられた。

困窮度別に見た、持っているもの、使うことができるものの該当数の平均（子ども票問 21）

<大阪府内全体>



<守口市>

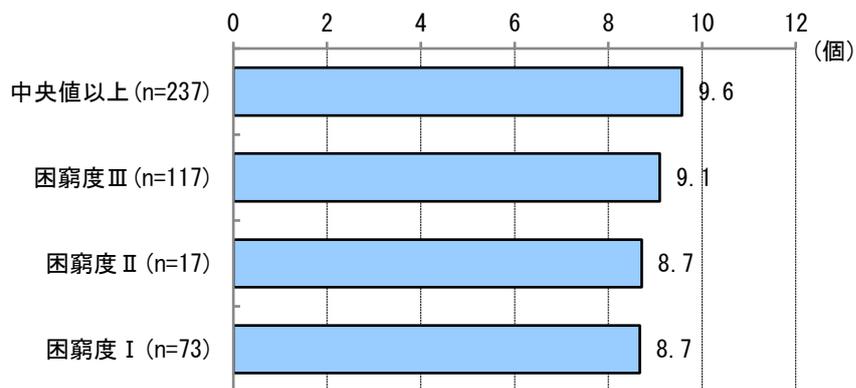


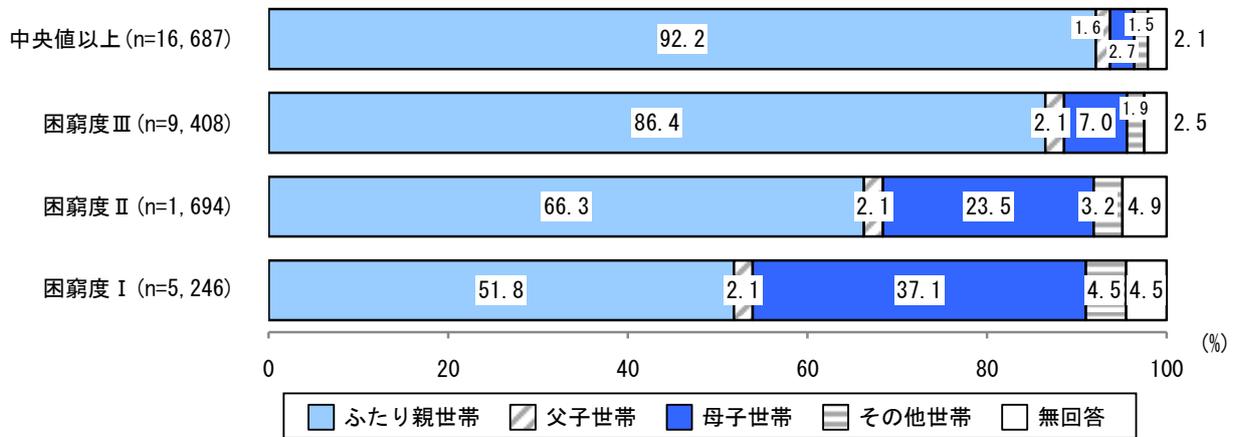
図 6. 困窮度別に見た、持っているもの、使うことができるものの該当数の平均

子どもの持っているもの、使うことができるものとして示した14個の項目のうち、該当すると回答された数について、困窮度別に平均値を算出した。

その結果、困窮度が高くなるにつれ、子どもの持ちもの、使えるものの該当数は少なくなっていることがみられた。

困窮度別に見た、世帯員の構成（保護者票問2より）

<大阪府内全体>



<守口市>

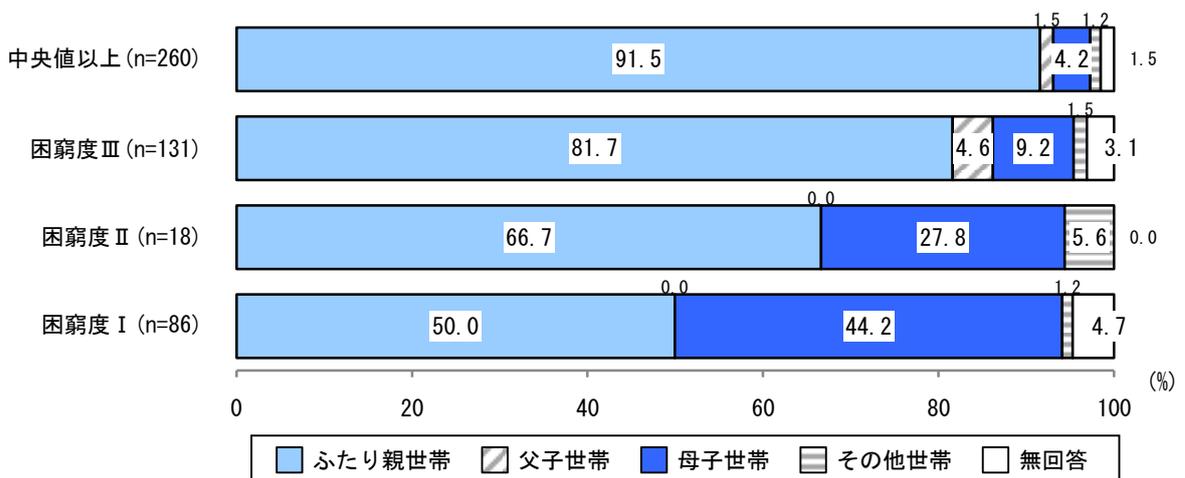
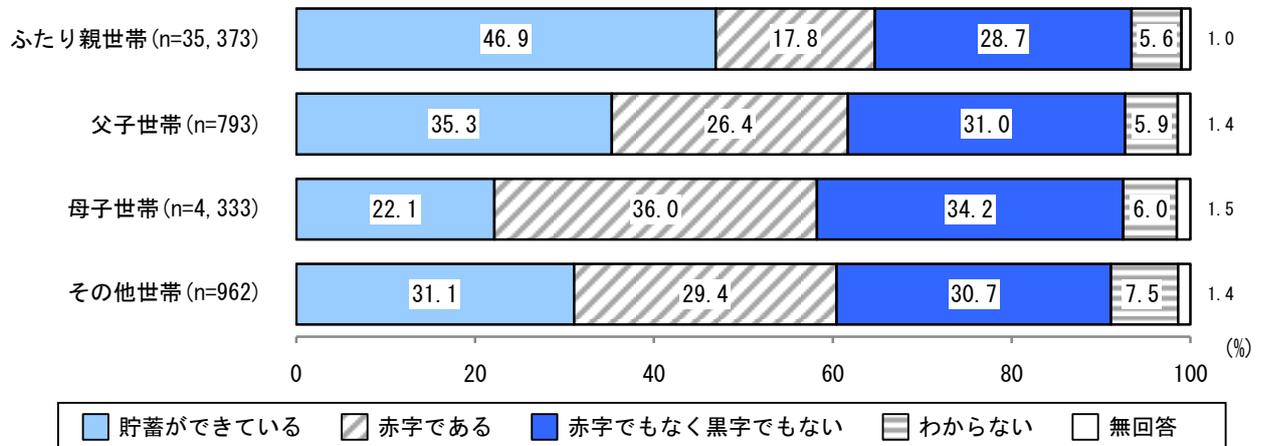


図 7. 困窮度別に見た、世帯員の構成

困窮度別に世帯員の構成を見ると、「ふたり親世帯」と回答したのは、中央値以上群が91.5%であるのに対して、困窮度Ⅰ群は50.0%だった。また、「母子世帯」と回答したのは、中央値以上群が4.2%であるのに対して、困窮度Ⅰ群は44.2%だった。

世帯構成別に見た、家計の状況（保護者票問6(1)）

<大阪府内全体>



<守口市>

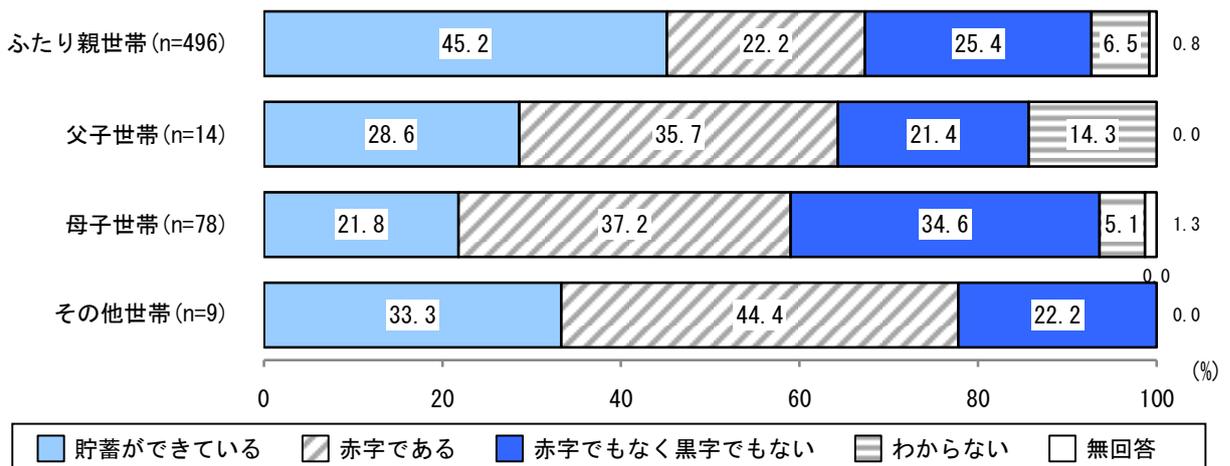
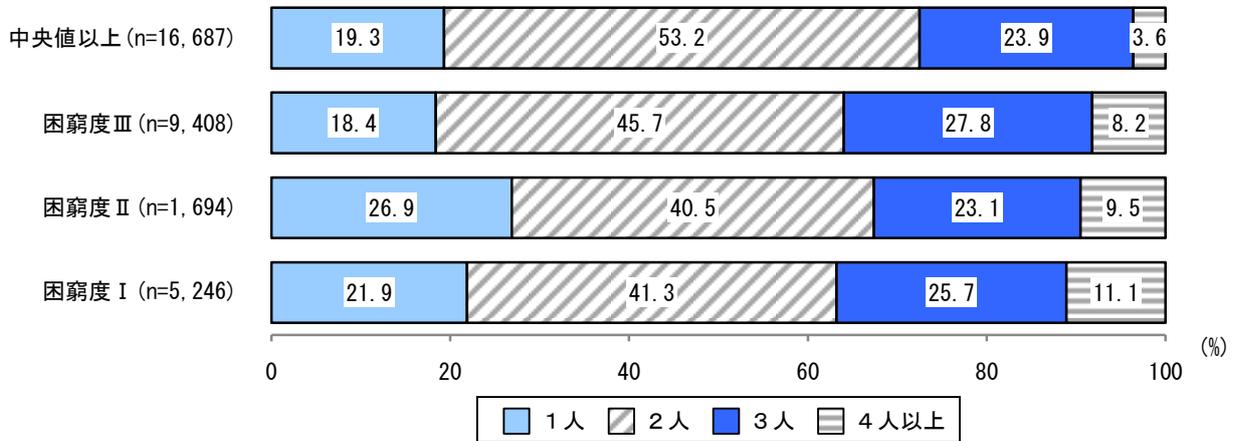


図 8. 世帯構成別に見た、家計の状況

世帯構成別に家計の状況を見ると、「貯蓄ができています」と回答した割合は、ふたり親世帯が45.2%なのに対して、母子世帯21.8%、父子世帯28.6%だった。また、「赤字である」と回答したのは、ふたり親世帯が22.2%なのに対して、母子世帯は37.2%だった。

困窮度別に見た、子どもの人数（保護者票問2より）

<大阪府内全体>



<守口市>

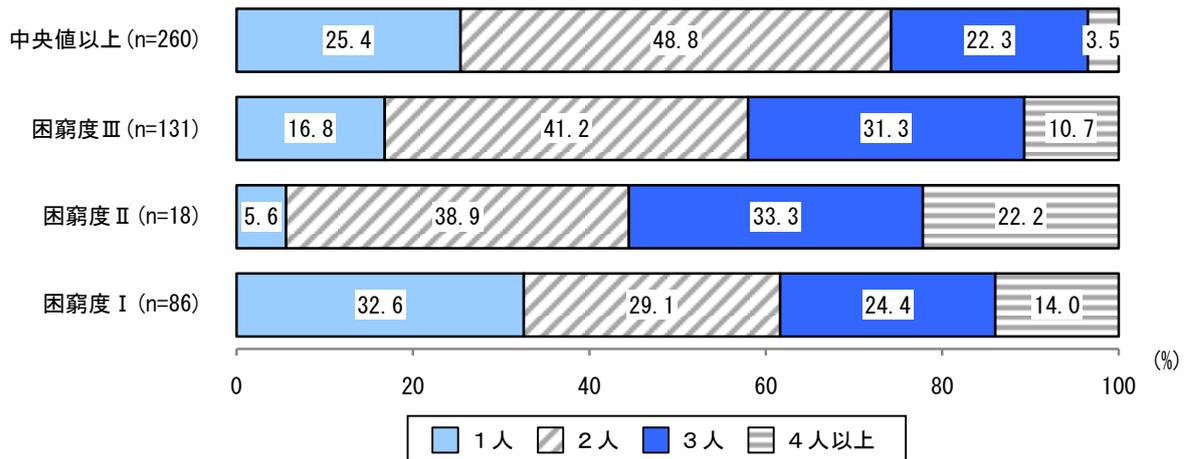
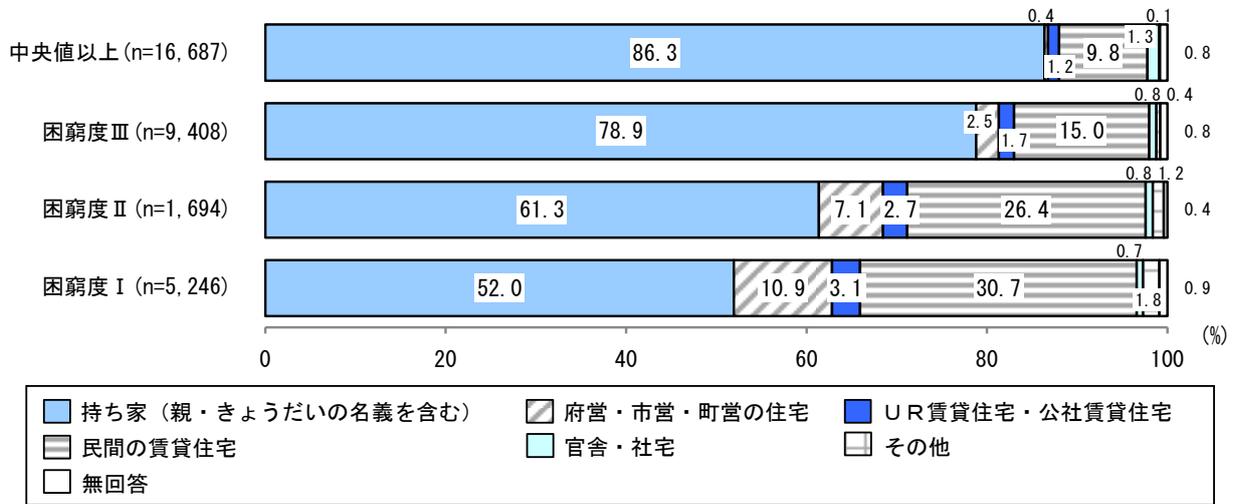


図 9. 困窮度別に見た、子どもの人数

困窮度別に子どもの人数を見ると、中央値以上群において3人以上が25.8%（3人22.3%、4人以上3.5%）であるのに対して、困窮度Ⅱ群では、3人以上が55.5%（3人33.3%、4人以上22.2%）と高くなっている。

困窮度別に見た、住居形態（保護者票問5）

<大阪府内全体>



<守口市>

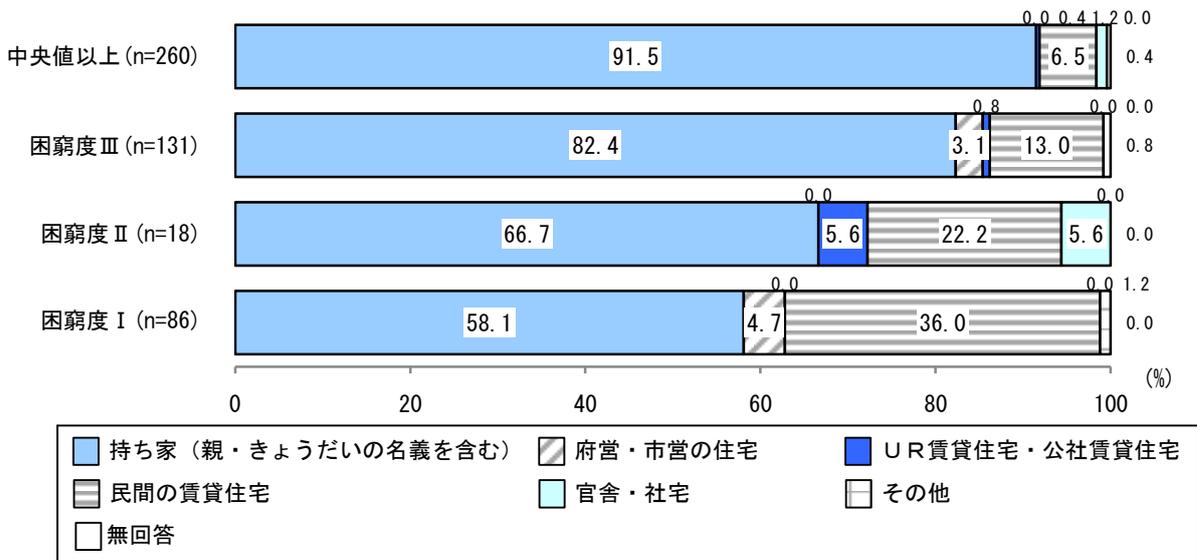
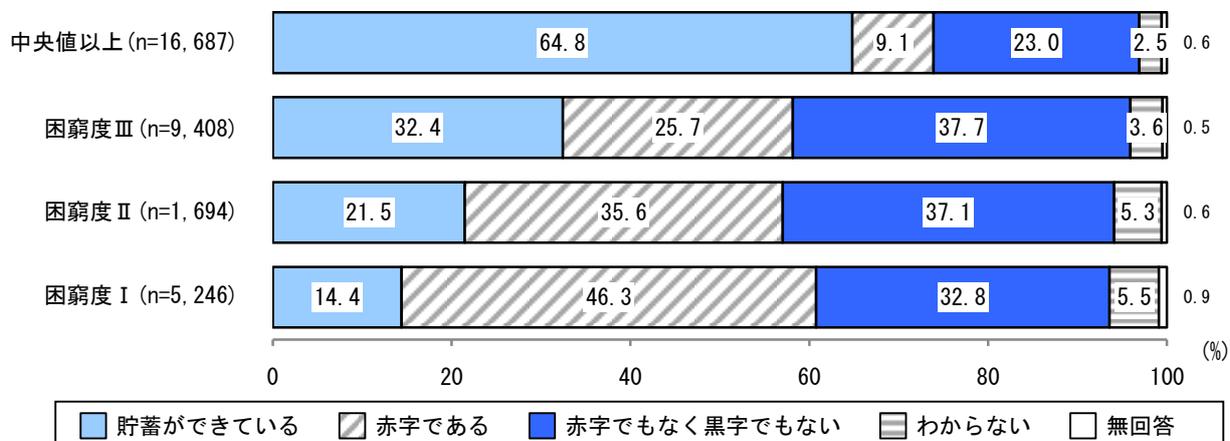


図 10. 困窮度別に見た、住居形態

困窮度別に住居形態を見ると、困窮度が高まるにつれ、持ち家の保有率は低くなっている。中央値以上群では、「持ち家」と回答した割合は91.5%であるのに対して、困窮度Ⅰ群では、58.1%にとどまっている。

困窮度別に見た、家計の状況（保護者票問 6(1)）

<大阪府内全体>



<守口市>

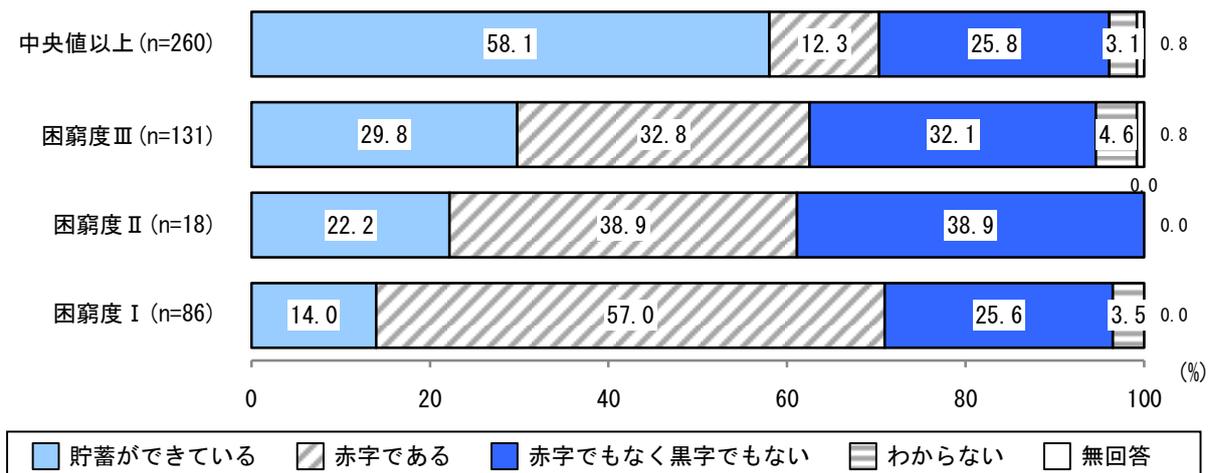
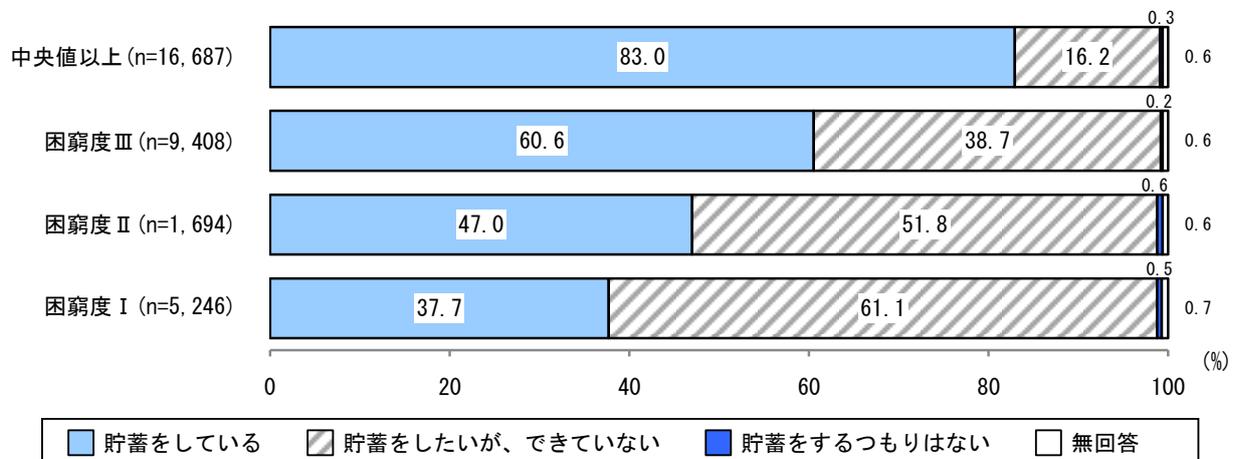


図 11. 困窮度別に見た、家計の状況

困窮度別に家計の状況を見ると、困窮度が高まるにつれて、「貯蓄ができています」と回答する割合が低くなり、逆に、「赤字である」という回答が高くなっている。中央値以上群では、「赤字である」と回答した世帯の割合は、12.3%であるのに対して、困窮度Ⅰ群では、57.0%となり、5割を超えている。

困窮度別に見た、子どもの将来のための貯蓄状況（保護者票問 6(2)）

<大阪府内全体>



<守口市>

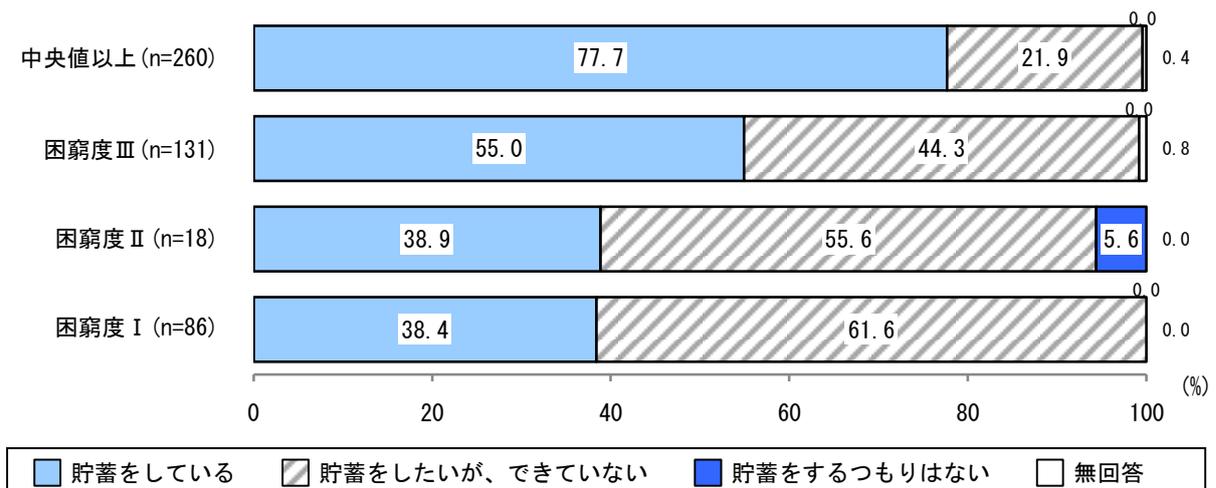
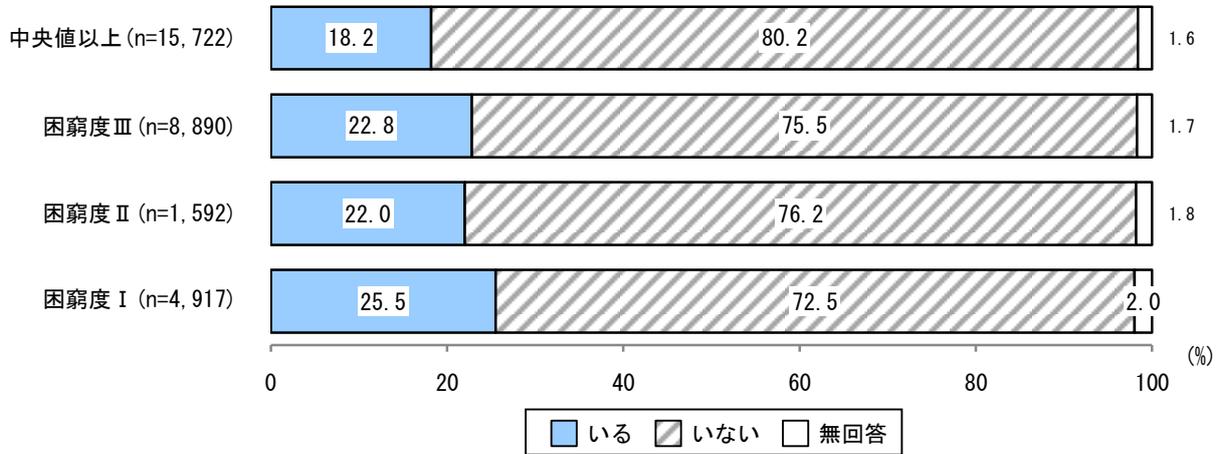


図 12. 困窮度別に見た、子どもの将来のための貯蓄状況

困窮度別に子どもの将来のための貯蓄状況を見ると、困窮度が高まるにつれ、「貯蓄をしたいが、できていない」という回答が高くなっている。中央値以上群では、「貯蓄をしている」と回答する割合が77.7%を占めたが、困窮度Ⅰ群では38.4%にとどまり、約6割が「貯蓄をしたいが、できていない」と回答している。

困窮度別に見た、自分が世話をしている人の有無（子ども票問 26(1)）

<大阪府内全体>



<守口市>

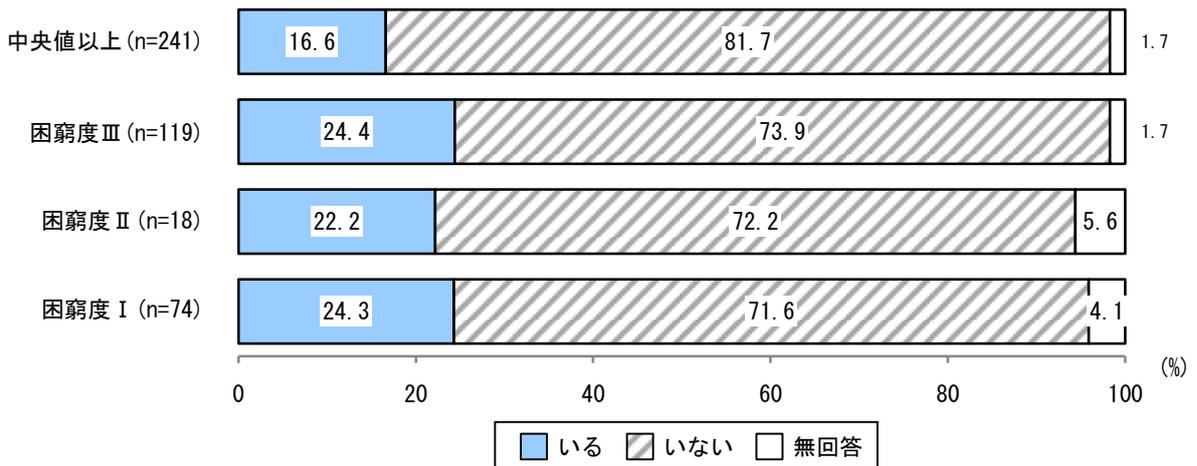


図 13. 困窮度別に見た、自分が世話をしている人の有無

困窮度別に自分が世話をしている人の有無を見ると、自分が世話をしている人が「いる」と回答した割合は困窮度Ⅲ群で24.4%と最も高くなっている。中央値以上群では、「いない」と回答する割合が81.7%を占め、最も高くなっている。

## <経済状況に関する考察>

経済的理由で生じた生活上の困難についての質問項目は、現在の日本社会において、「通常であれば可能な生活」を基準に設定している。「どれもあてはまらない」という回答は、その基準に達していることを示すものであるが、中央値以上群で40.0%に対して、困窮度Ⅰ群では14.0%にすぎない。一方、困窮度が深刻化するにしたがい経済的理由から生活面での困難は増す傾向にあり、困窮度Ⅰ群は中央値以上群と比べ、「電気・ガス・水道などが止められた」(7.0%対該当なし)、「家賃や住宅ローンの支払いが滞ったことがある」(9.3%対1.2%)、「電話(固定・携帯)など通信料の支払いが滞ったことがある」(9.3%対0.4%)と回答した割合が高くなっており、生活面で大きな格差が存在する。また、困窮度Ⅰ群は中央値以上群と比べ、「国民年金の支払いが滞ったことがある」(23.3%対1.5%)と回答した割合が高くなっており、子どもの親(保護者)の将来(老後)の生活困窮を示唆するデータであると言える。さらに、こういった経済状況は、親の心理的な面にも影響しており、困窮度Ⅰ群は中央値以上群と比べ、「生活の見通しがたたくて不安になったことがある」(41.9%対6.9%)と回答した割合が高くなっている。これらの結果から、経済的困難な家庭では、生活インフラへの支払いの滞りや年金支払いの義務が果たせなくなることに加え、将来への不安感が多いことが示唆される。

世帯の経済状況は、子どもの教育にも影響を及ぼしていることが確認できる。主な項目をあげると、困窮度Ⅰ群は中央値以上群と比べ、「お子さんの進路を変更した」(7.0%対1.2%)、「お子さんを習い事に通わすことができなかった」(36.0%対4.6%)、「お子さんを学習塾に通わせることができなかった」(38.4%対5.8%)と回答した割合が高くなっており、子どもに与える教育の格差が示されている。これらの結果から、経済状況によって、子どもの進路や学習環境、家族以外の社会的交流を行う機会が制限されることが示唆される。

同様に、学校以外での子どもの多様な「体験」の有無は、子どものヒューマンキャピタルの形成に影響を与えることが予想されるが、調査結果では、所得階群によって体験の機会に格差があることが示されている。具体的には、困窮度Ⅰ群は中央値以上群と比べ、「家族旅行(日帰りのおでかけを含む)ができなかった」(45.3%対11.5%)といった経験に大きな差がある。その一方、「どれもあてはまらない」が、中央値以上群では79.6%であり、困窮度Ⅰ群でも31.4%ある。所得階群によって体験の機会に差が見られるが、どの階群においても子どもに対して様々な体験や勉強の機会が提供できている世帯も多数いるという点がデータから読み取れる。

また、「子どもの将来のための貯蓄状況」という質問項目に対して、中央値以上群は困窮度Ⅰ群と比べ、「貯蓄をしている」と回答した割合が高くなっている(77.7%対38.4%)。また、困窮度Ⅰ群は中央値以上群と比べ、「貯蓄をしたいが、できていない」と回答した割合が高くなっており(61.6%対21.9%)、貯蓄の状況に大きな差があることが確認できる。これらの結果から、経済的困難な家庭では、貯蓄不足により、将来子どもに起こり得るリスク(病気や進路選択など)に備えることや、子どもに対しての投資が難しくなると予想される。

近年、子どもの貧困やヤングケアラーへの社会的関心が深まりつつあり、厚生労働省と文部科学省が連携して行った全国調査では、ヤングケアラーと思われる子どもは小学6年生で6.5%(令和3年度実施)、中学2年生で5.7%(令和2年度実施)と報告されている(『ヤングケアラーの支援に向けた福祉・介護・医療・教育の連携プロジェクトチーム報告(令和3年5月17日)』)。全国調査の結果より、回答した小学6年生の15人に1人程度、中学2年生の17人に1人程度が家族の世話をしていることが明らかになった。

全国の状況を踏まえて、守口市が令和5年に実施した、小学5年生、中学2年生を対象とする本調査では、「自分が世話をしている人の有無」という質問に対して「いる」と答えている割合は、

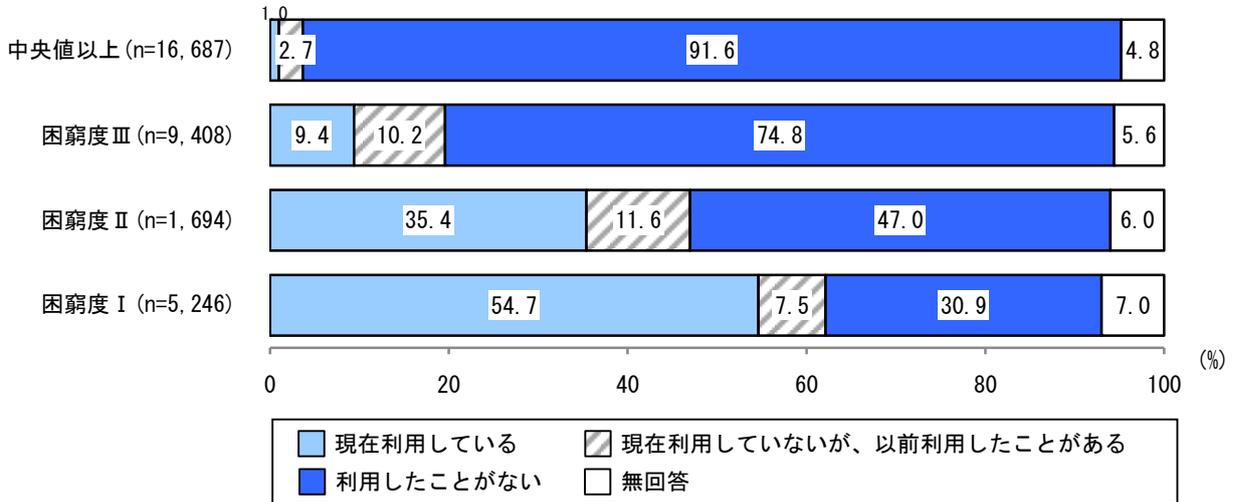
守口市全体においては19.2%である。また、困窮度Ⅰ群は中央値以上群と比べて「いる」と答えた割合が高くなっている(24.3%対16.6%)。これは、困窮度Ⅰ群では、回答した4人に1人程度が、中央値以上群では、6人に1人程度が世話をしている人が「いる」と回答していることになる。

これらの結果から、守口市ではヤングケアラーと思われる子どもの割合が高く、特に経済的困難な家庭ではその割合が高いことが読み取れる。

(2) 家庭状況 (制度等)

困窮度別に見た、就学援助の利用状況 (保護者票問 23-a)

<大阪府内全体>



<守口市>

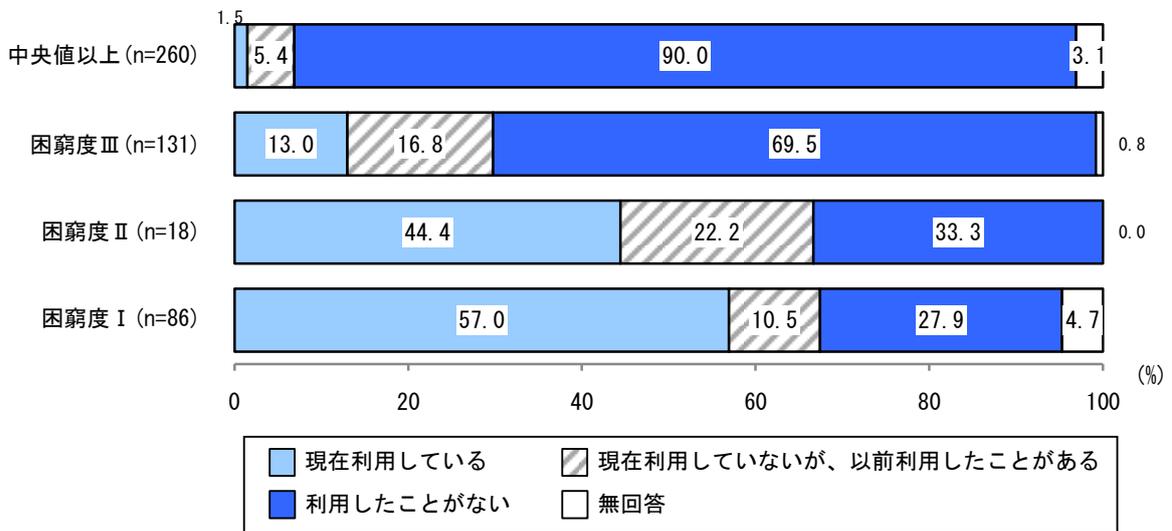
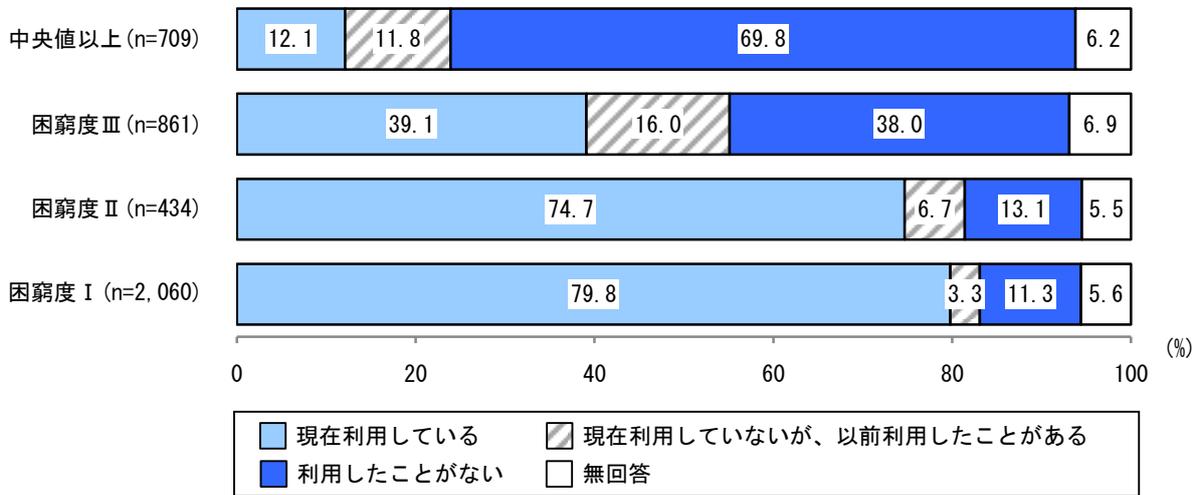


図 14. 困窮度別に見た、就学援助の利用状況

困窮度別に就学援助の利用状況を見ると、困窮度が高まるにつれ、「現在利用している」と回答した割合が高くなっている。

困窮度別に見た、児童扶養手当の利用状況（保護者票問 23-d）・ひとり親世帯のみ

<大阪府内全体>



<守口市>

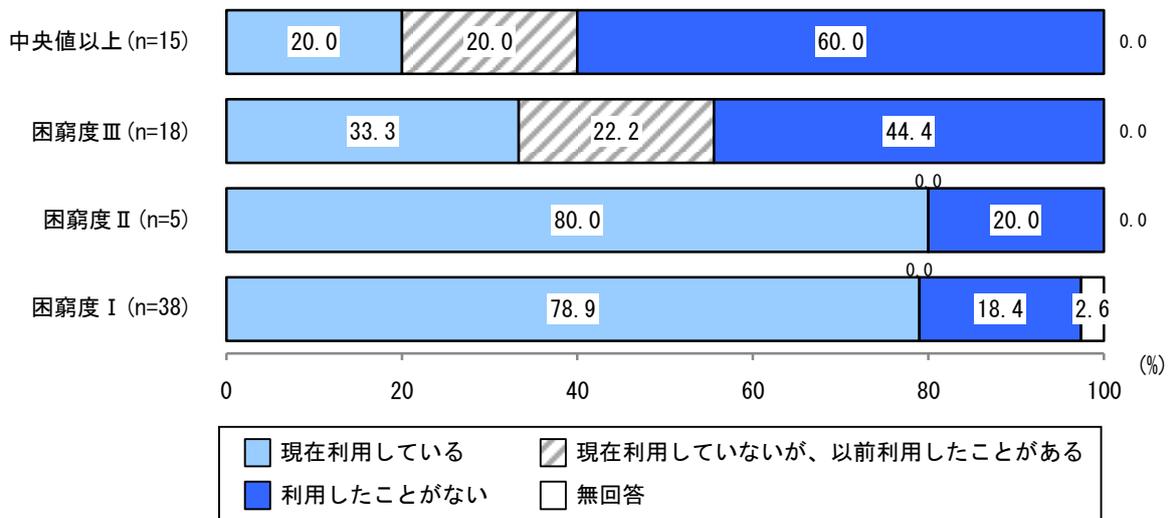
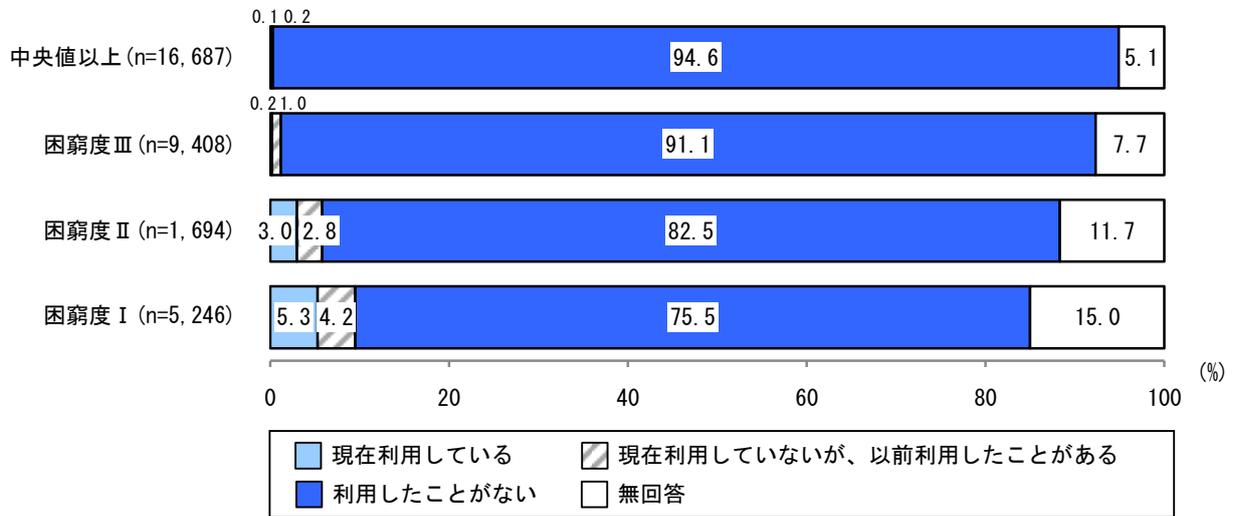


図 15. 困窮度別に見た、児童扶養手当の利用状況（ひとり親世帯のみ）

ひとり親世帯の困窮度別に児童扶養手当の利用状況を見ると、困窮度Ⅱ群で「現在利用している」と回答した割合が80.0%と最も高くなっている。

困窮度別に見た、生活保護の利用状況（保護者票問 23-b）

<大阪府内全体>



<守口市>

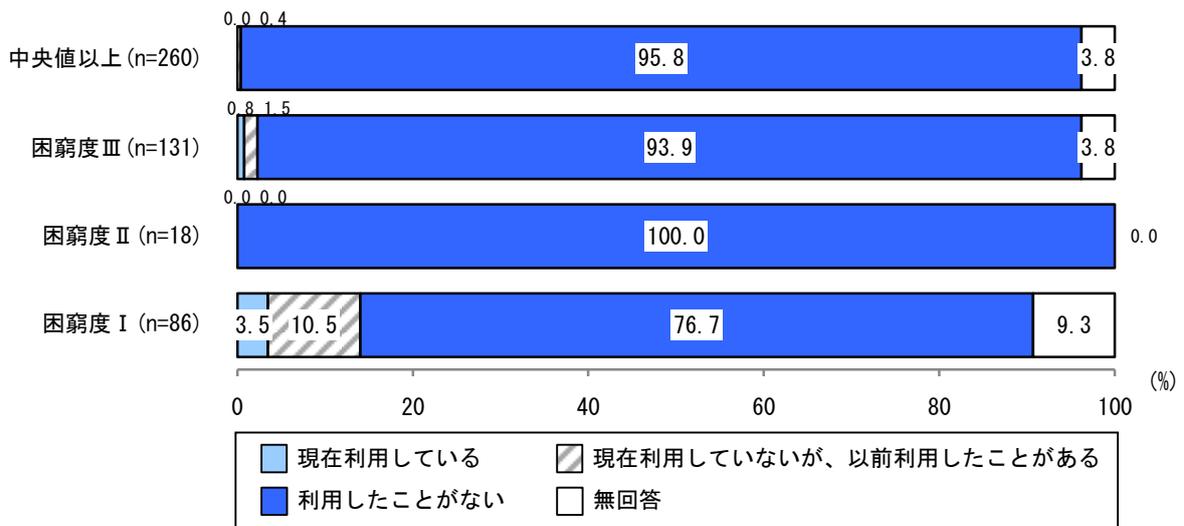
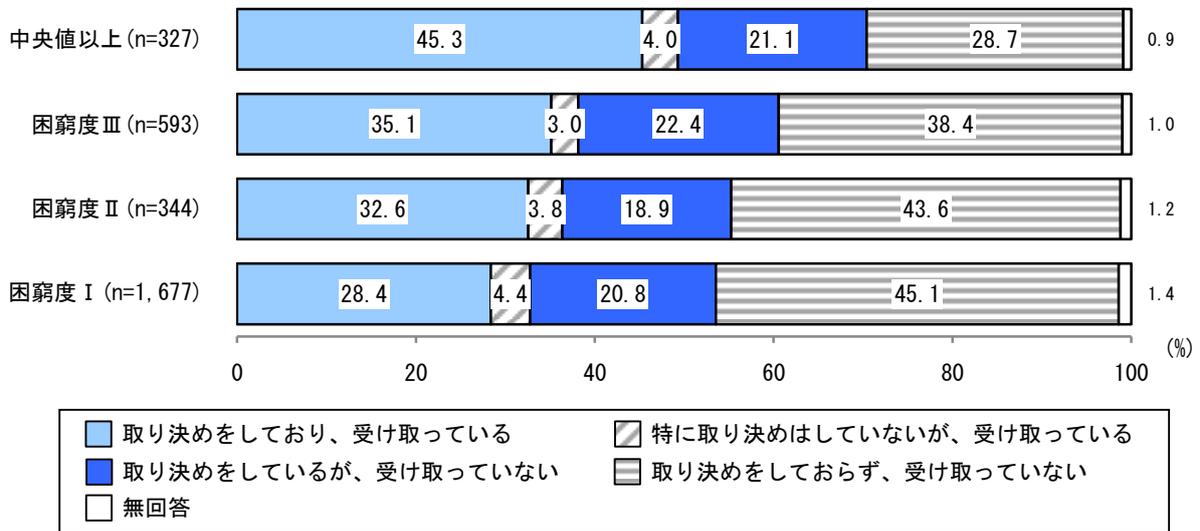


図 16. 困窮度別に見た、生活保護の利用状況

困窮度別に生活保護の利用状況を見ると、困窮度Ⅰ群においては「現在利用している」と回答した割合は3.5%となっている。

困窮度別に見た、離婚相手との養育費の取り決めや受け取り（保護者票問4）・ひとり親世帯のみ

<大阪府内全体>



<守口市>

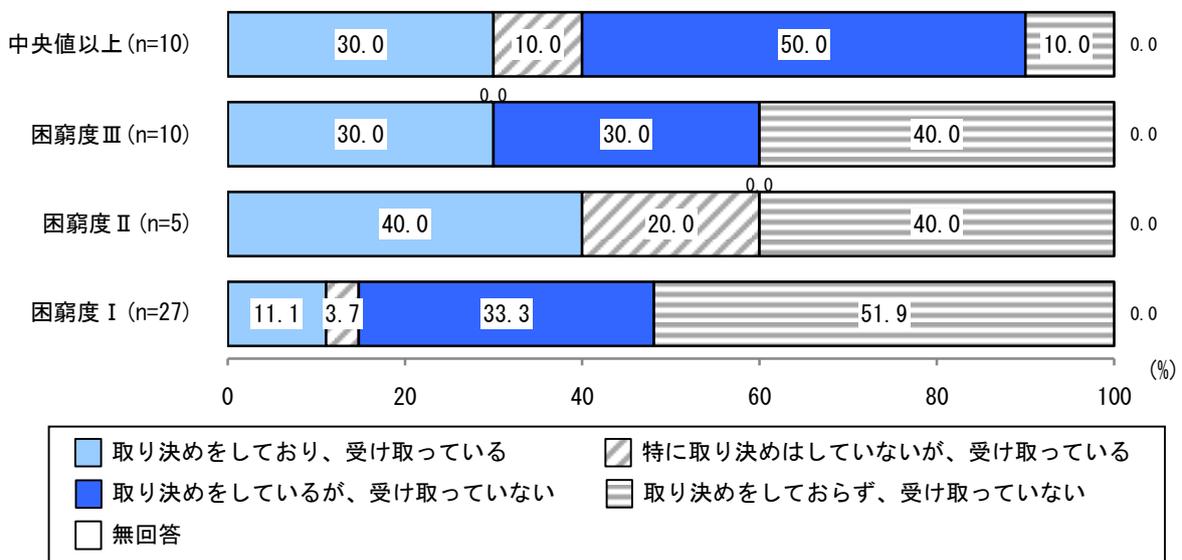
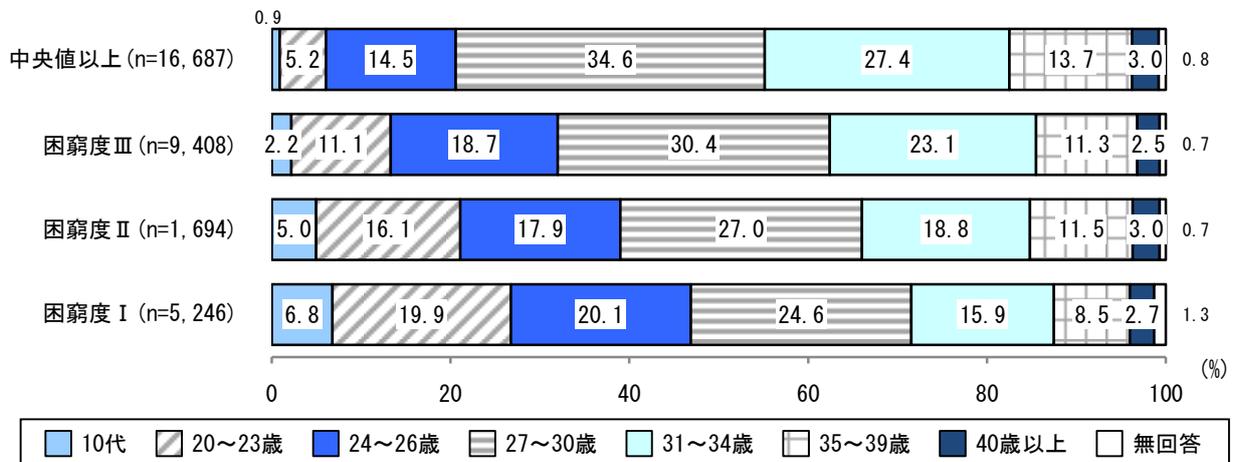


図 17. 困窮度別に見た、離婚相手との養育費の取り決めや受け取り（ひとり親世帯のみ）

ひとり親世帯の困窮度別に離婚相手との養育費の取り決めや受け取りを見ると、困窮度Ⅰ群においては「取り決めをしており、受け取っている」と回答した割合は11.1%であり、「取り決めをしているが、受け取っていない」と「取り決めをしておらず、受け取っていない」をあわせた養育費を受け取っていない人が85.2%となっている。

困窮度別に見た、初めて親となった年齢（保護者票問 17）

<大阪府内全体>



<守口市>

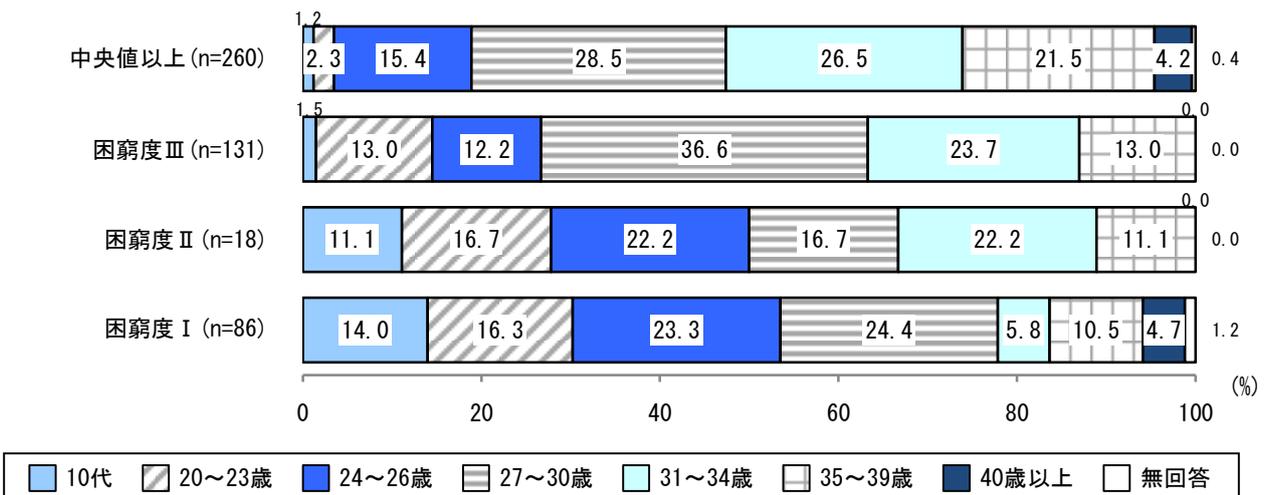
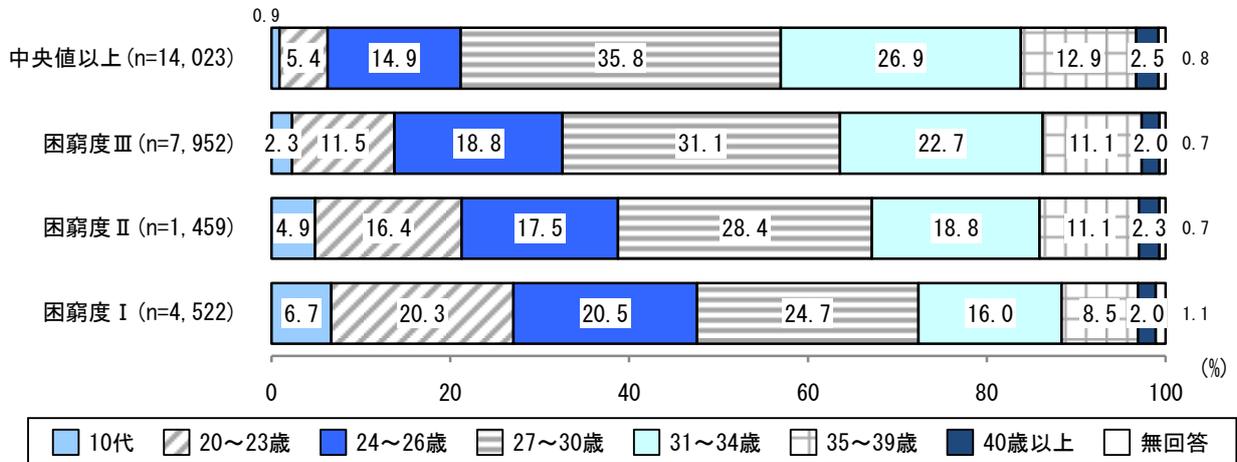


図 18. 困窮度別に見た、初めて親となった年齢

全ての回答者を対象として、困窮度別に初めて親となった年齢を見ると、「10代」は困窮度Ⅰ群が14.0%で最も高く、次いで困窮度Ⅱ群が11.1%となっている。

困窮度別に見た、初めて親となった年齢（保護者票問 17）・母親の回答者のみ

<大阪府内全体>



<守口市>

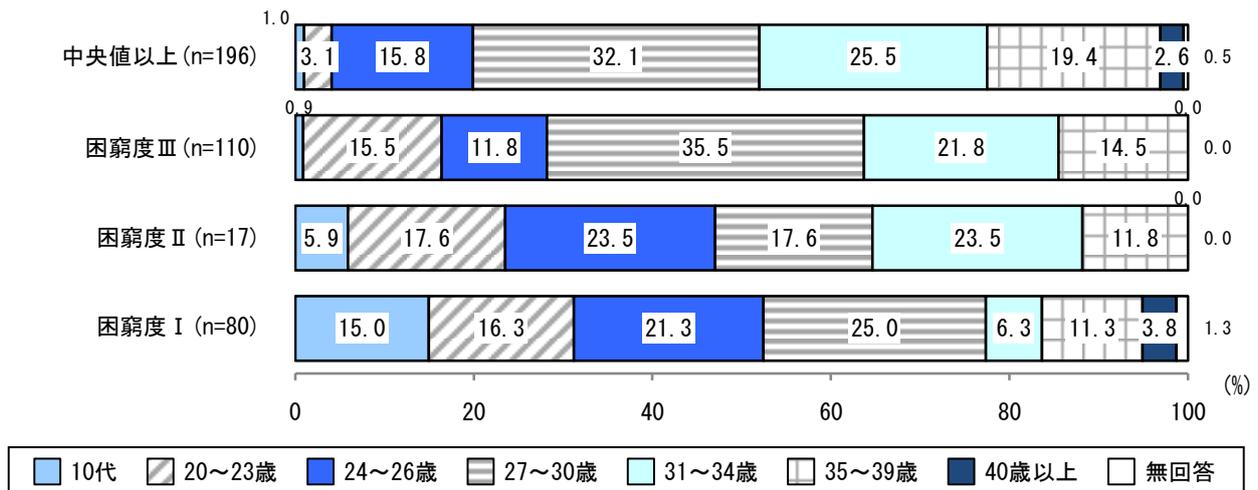
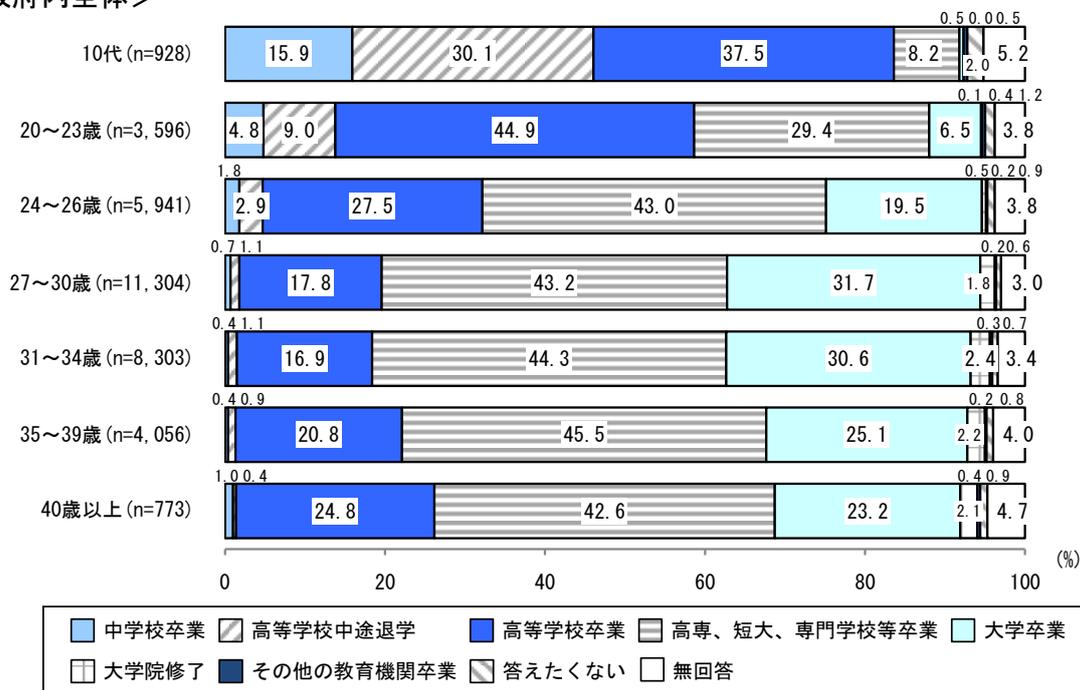


図 19. 困窮度別に見た、初めて親となった年齢（母親の回答者のみ）

母親回答者を対象として、困窮度別に初めて親となった年齢を見ると、困窮度が高まるにつれ、23歳までに初めて親となったと答えた割合が高くなっている。若くして母親となった人ほど、経済的な問題を抱えている可能性が考えられる。

初めて親となった年齢別に見た、お母さんの最終学歴（保護者票問 17×保護者票問 8）  
※母親の回答者のみ

<大阪府内全体>



<守口市>

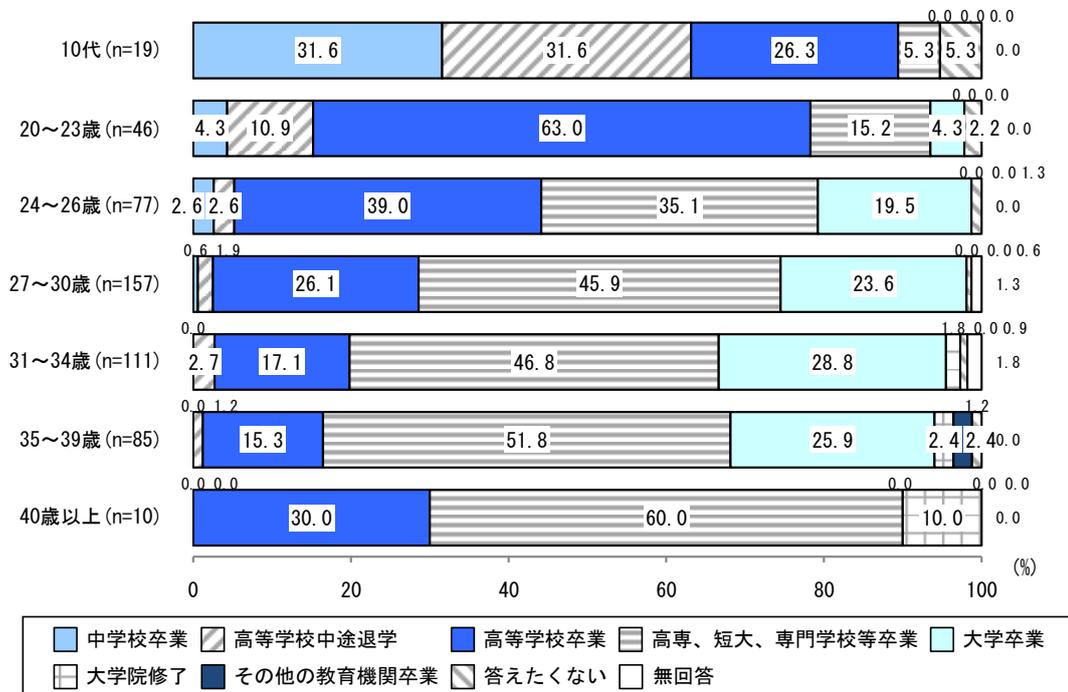
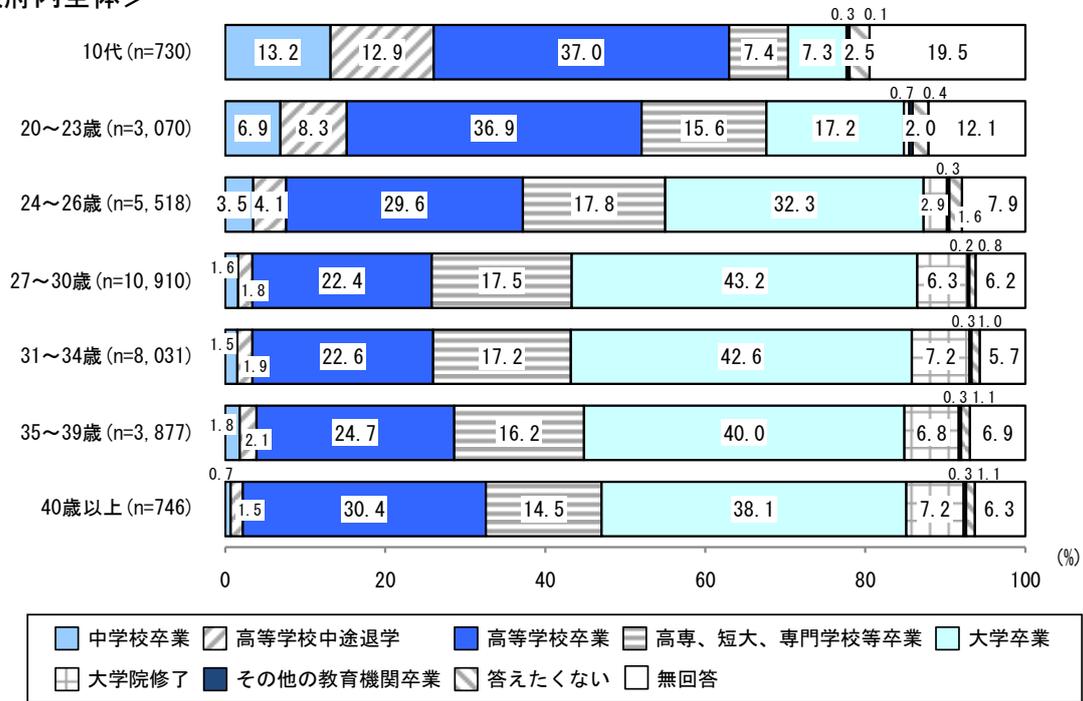


図 20. 初めて親となった年齢別に見た、お母さんの最終学歴（母親の回答者のみ）

母親回答者を対象として、初めて親となった年齢別に母親自身の最終学歴を見ると、10代において「中学校卒業」と「高等学校中途退学」と回答した割合がともに31.6%と高くなっている。

初めて親となった年齢別に見た、お父さんの最終学歴（保護者票問 17×保護者票問 8）  
※母親の回答者のみ

<大阪府内全体>



<守口市>

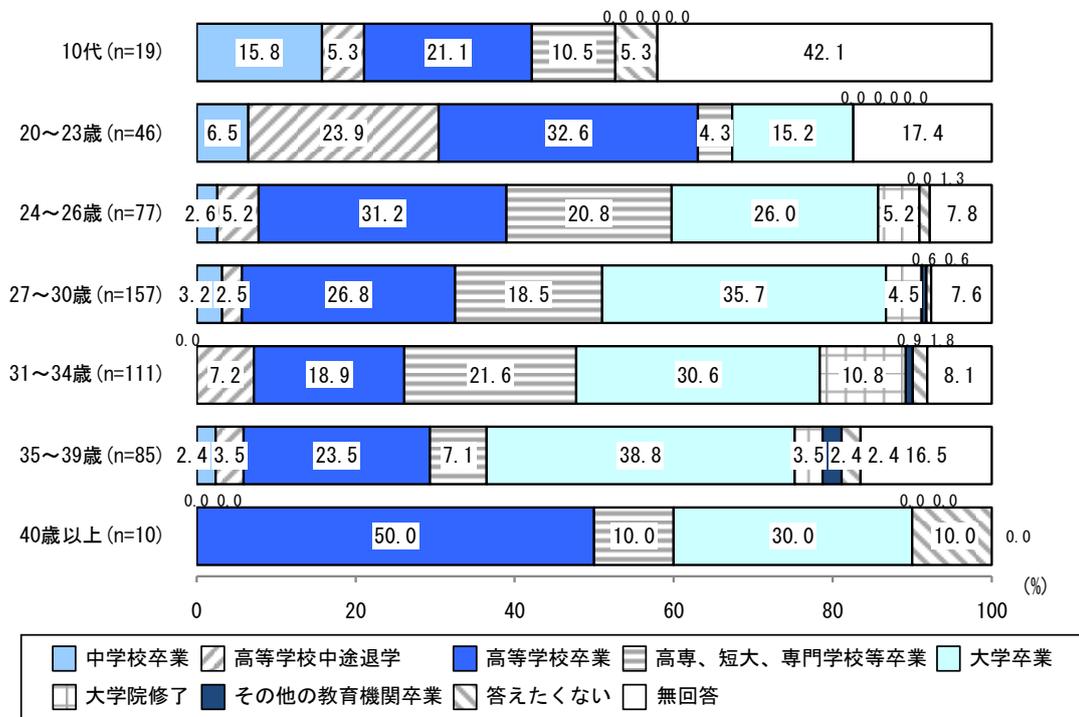
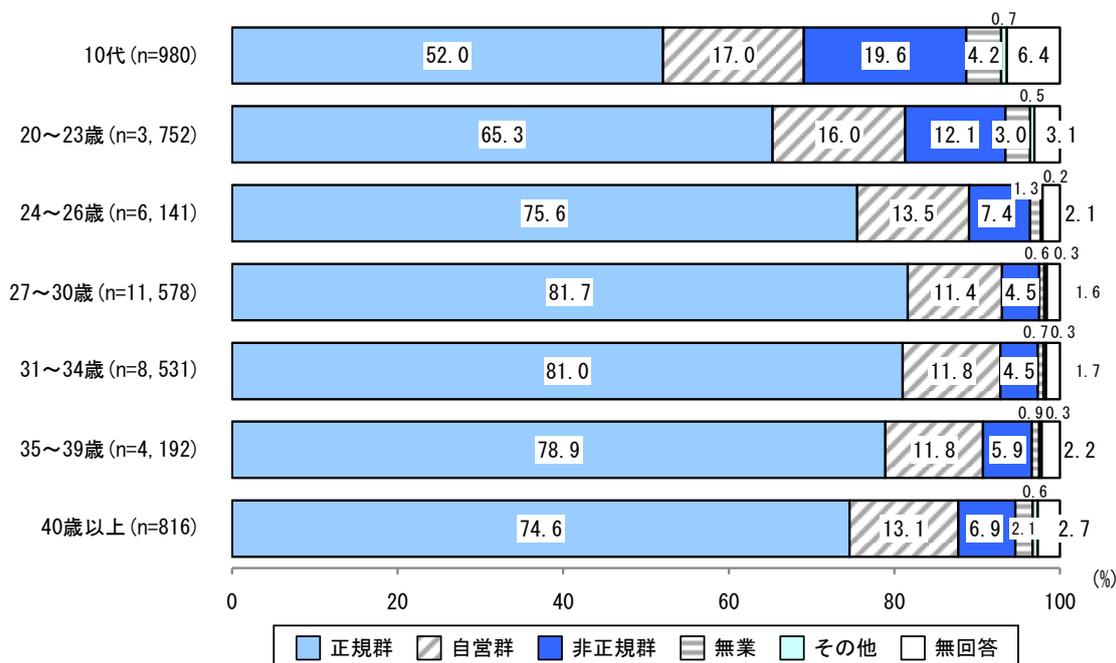


図 21. 初めて親となった年齢別に見た、お父さんの最終学歴（母親の回答者のみ）

母親回答者を対象として、初めて親となった年齢別に父親の最終学歴を見ると、10代において「中学校卒業」と回答した割合が15.8%と高くなっている。

初めて親となった年齢別に見た、就労状況（保護者票問 17×保護者票問 9）  
 ※母親の回答者のみ

<大阪府内全体>



<守口市>

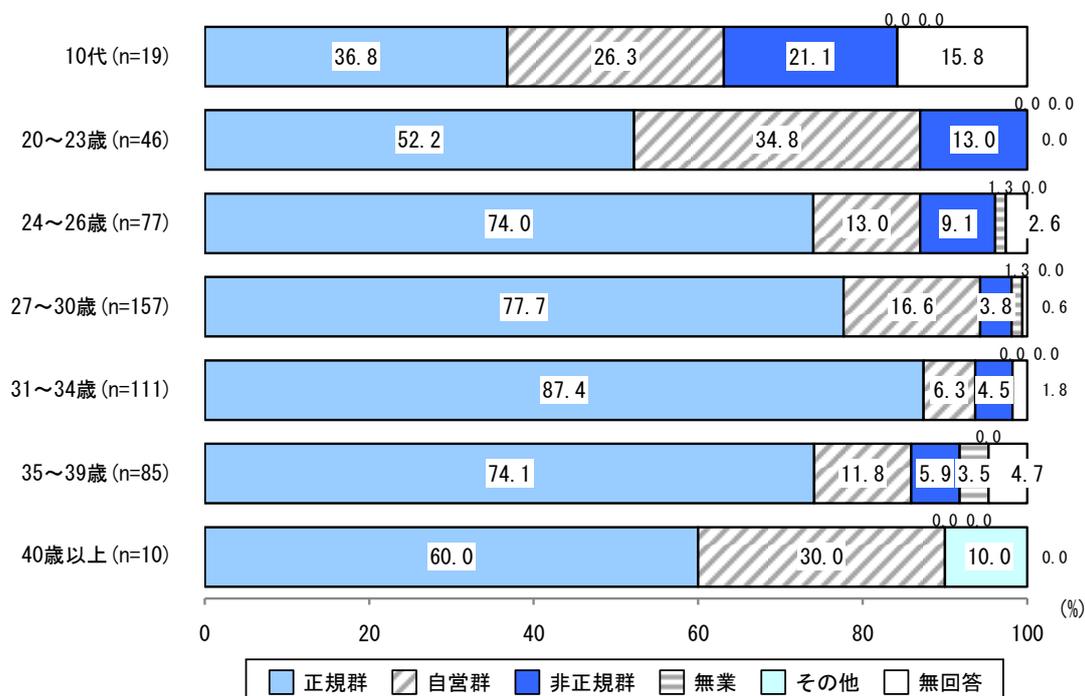
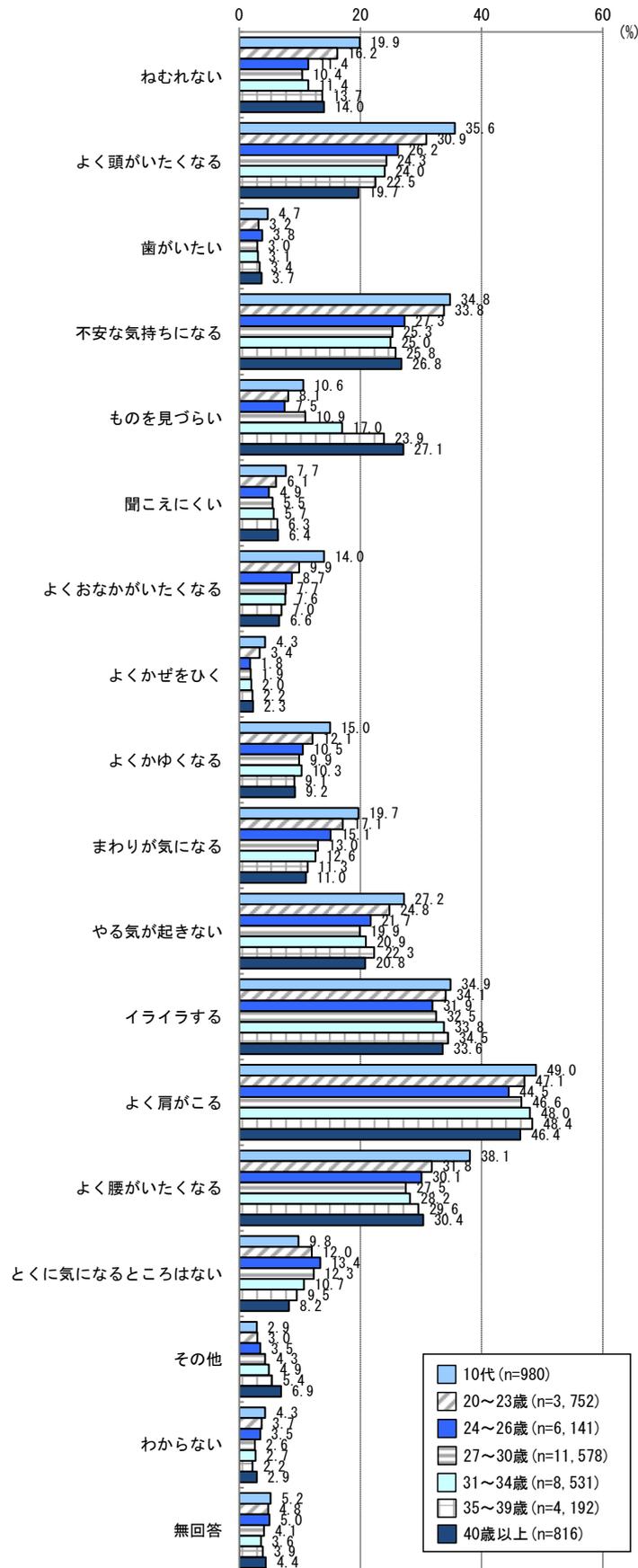


図 22. 初めて親となった年齢別に見た、就労状況（母親の回答者のみ）

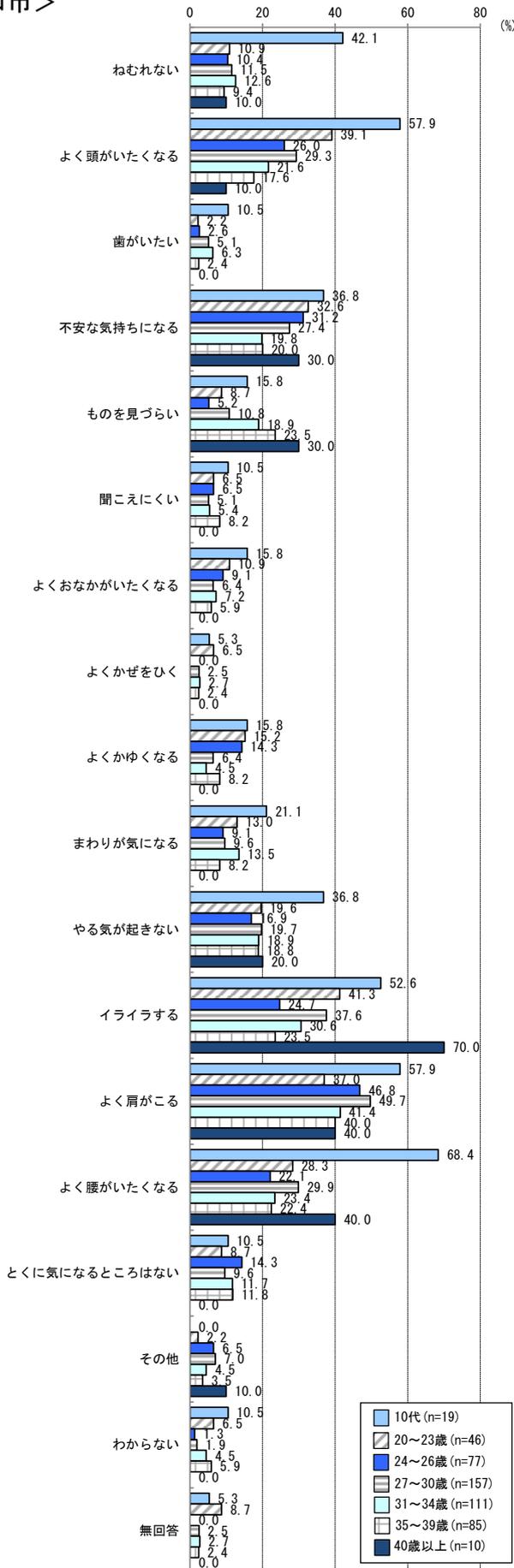
母親回答者を対象として、初めて親となった年齢別に就労状況を見ると、10代は他の年代と比較して「正規群」の割合が低く、「非正規群」の割合が高くなっている。

初めて親となった年齢別に見た、自分の体や気持ちで気になること  
 (保護者票問 17×保護者票問 22) ※母親の回答者のみ

<大阪府内全体>



<守口市>

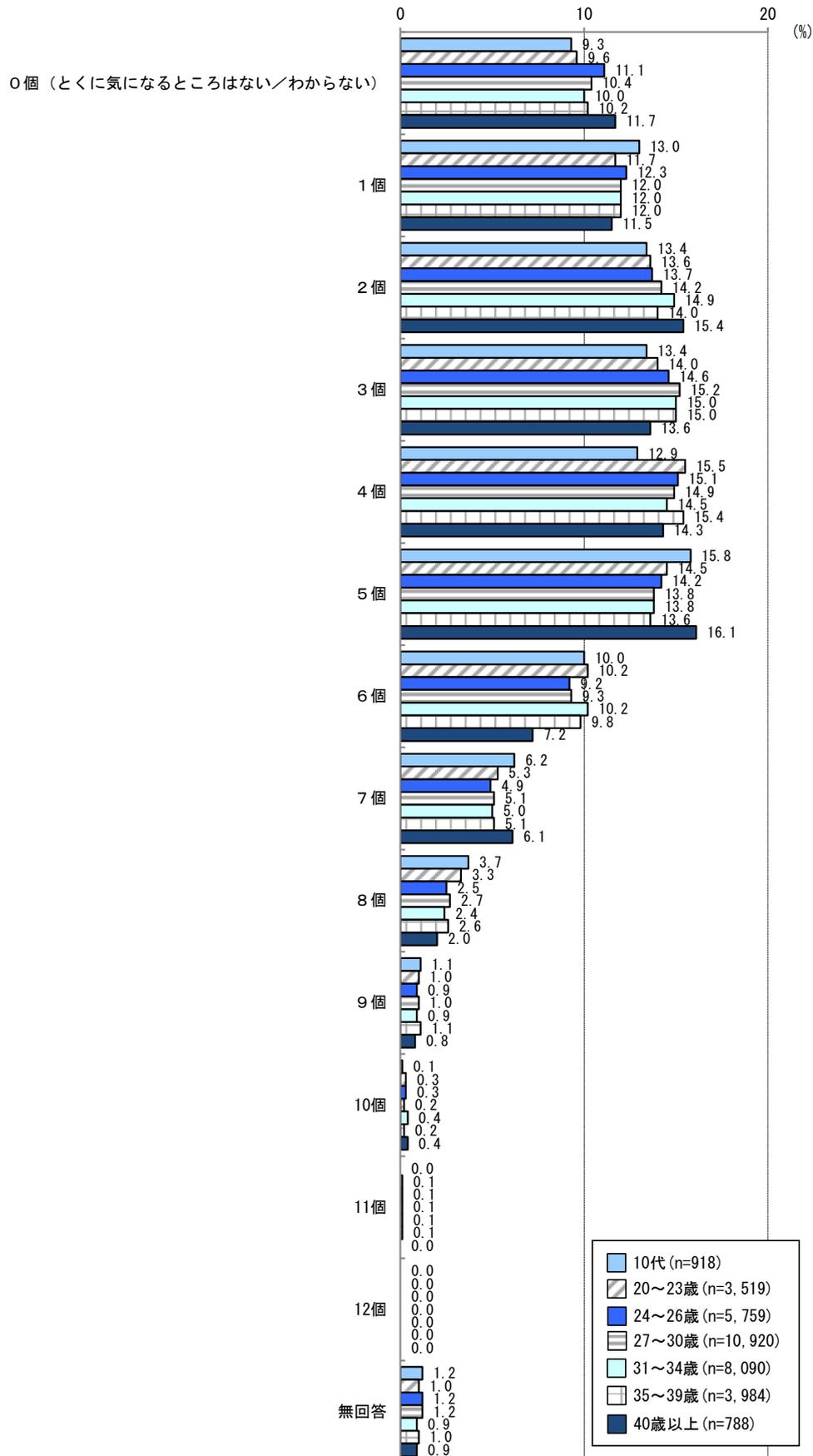


母親回答者を対象として、初めて親となった年齢別に自分の体や気持ちで気になることを見ると、10代は他の年代と比較して「ねむれない」や「よく頭がいたくなる」、「まわりが気になる」、「やる気が起きない」、「イライラする」、「よく肩がこる」、「よく腰がいたくなる」の割合が高くなっている。

図 23. 初めて親となった年齢別に見た、自分の体や気持ちで気になること（母親の回答者のみ）

初めて親となった年齢別に見た、自分の体や気持ちで気になることの該当個数（保護者票問17  
×子ども票問19・20） ※母親の回答者のみ

<大阪府内全体>



<守口市>

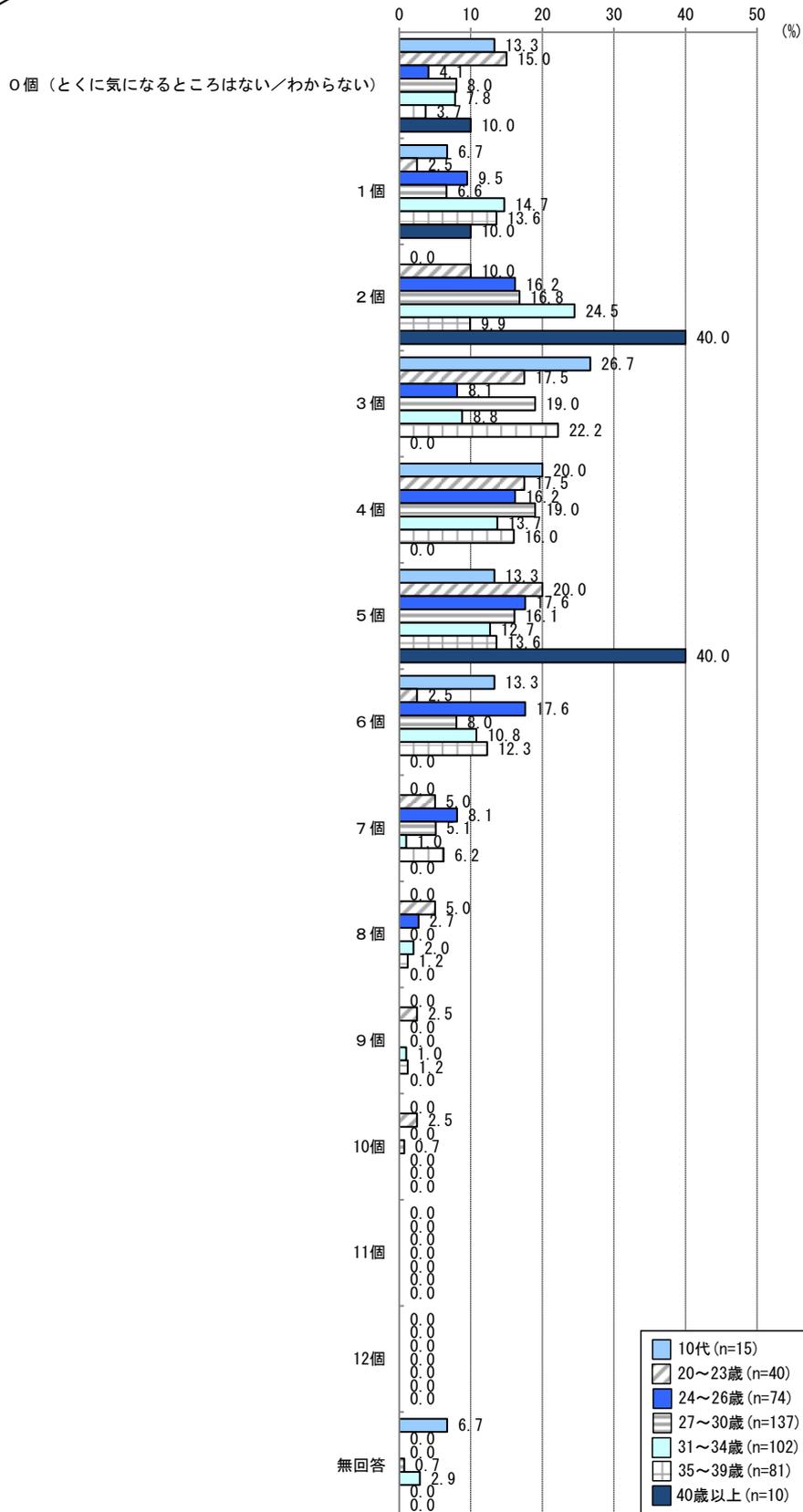
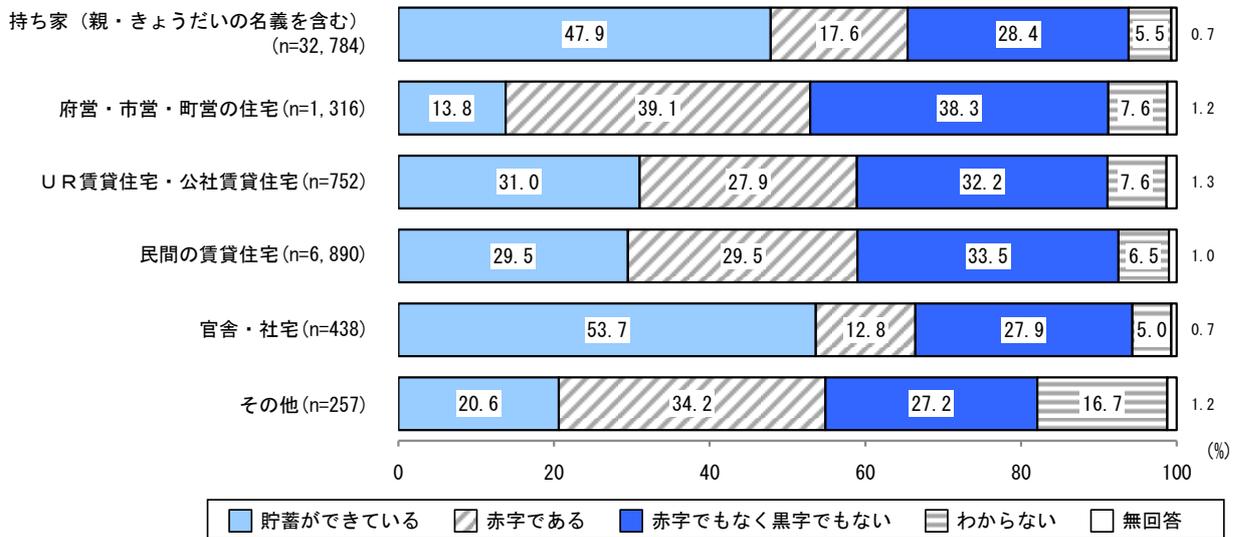


図 24. 初めて親となった年齢別に見た、自分の体や気持ちで気になることの該当個数（母親の回答者のみ）

母親回答者を対象として、初めて親となった年齢別に自分の体や気持ちで気になることの該当数を見ると、40歳以上は、他の年代と比較して「2個」と「5個」（それぞれ40.0%）の割合が最も高くなっている。

住居形態別に見た、家計の状況（保護者票問5×保護者票問6(1)）

<大阪府内全体>



<守口市>

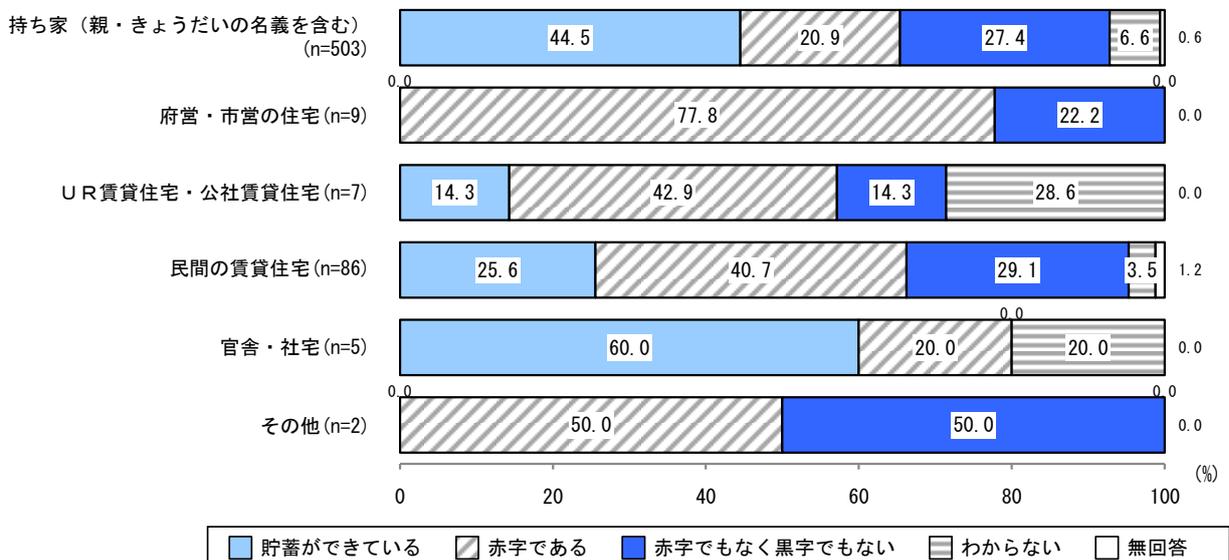
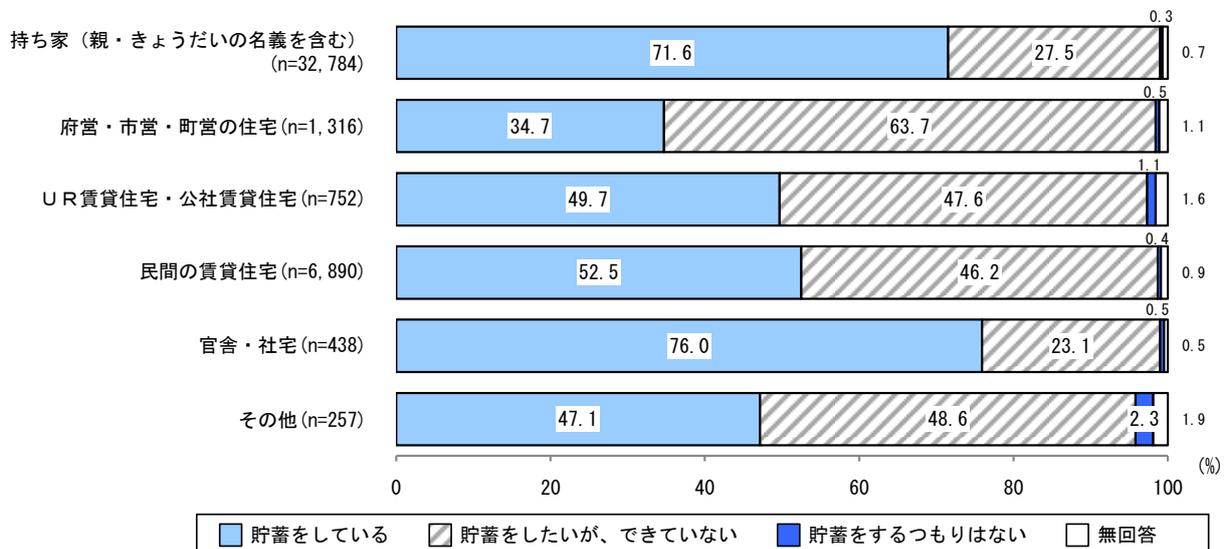


図 25. 住居形態別に見た、家計の状況

住居形態別に家計の状況を見ると、府営・市営の住宅（77.8%）、UR賃貸住宅・公社賃貸住宅（42.9%）、民間の賃貸住宅（40.7%）に住む人で、「赤字である」と回答した割合が高くなっている。また、持ち家に住む人で「赤字である」と回答した割合は20.9%となっている。

住居形態別に見た、子どもの将来のための貯蓄状況（保護者票問5×保護者票問6(2)）

<大阪府内全体>



<守口市>

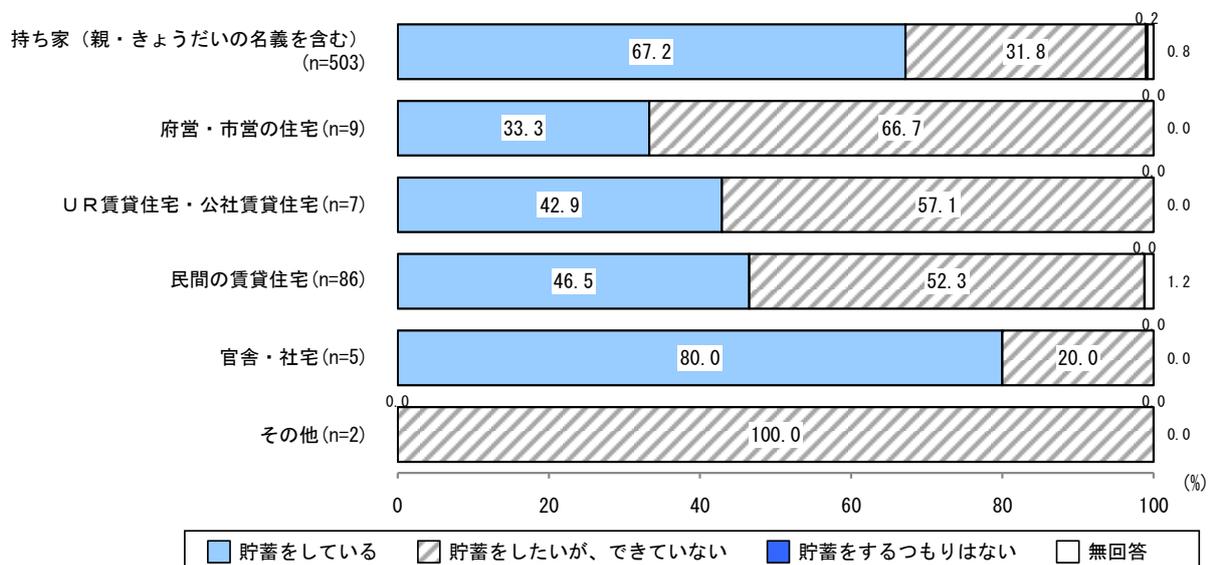
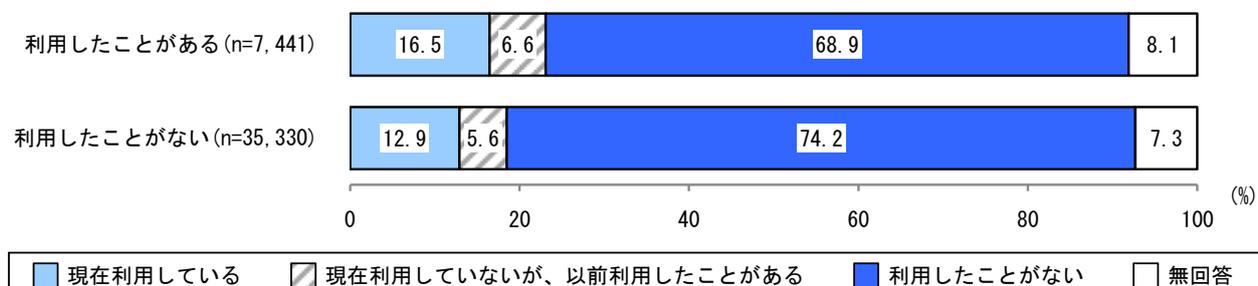


図 26. 住居形態別に見た、子どもの将来のための貯蓄状況

住居形態別に子どもの将来のための貯蓄状況を見ると、府営・市営の住宅（66.7%）に住む人で、「貯蓄をしたいが、できていない」と回答した割合が最も高くなっている。

子どもの居場所の利用経験別に見た、就学援助の利用状況  
 (保護者票問 16(1) × 保護者票問 23-a)

<大阪府内全体>



<守口市>

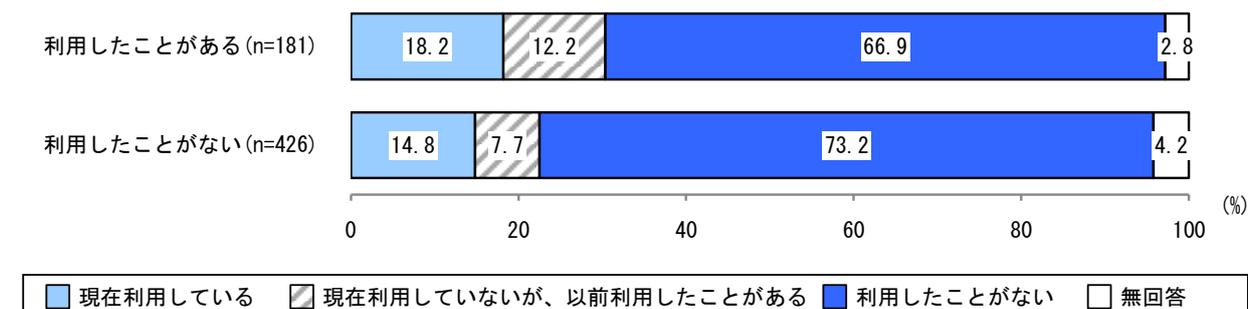
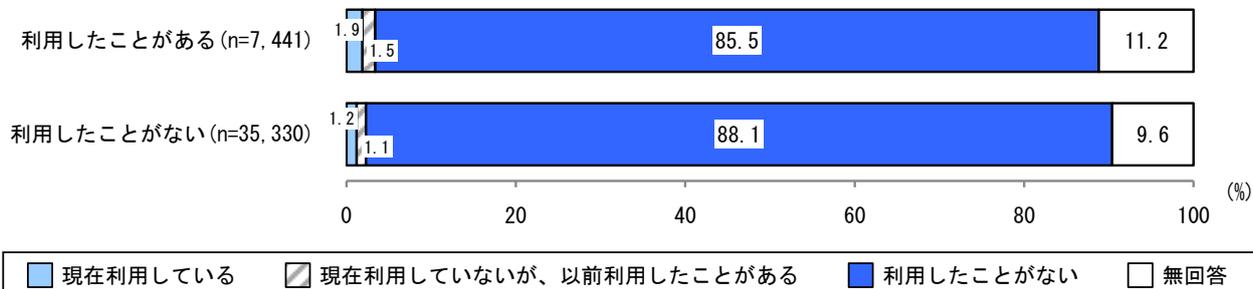


図 27. 子どもの居場所の利用経験別に見た、就学援助の利用状況

子どもの居場所の利用経験別に就学援助の利用状況を見ると、子どもの居場所を「利用したことがない」人より「利用したことがある」人のほうが就学援助を「現在利用している」と回答した割合がやや高くなっている。

子どもの居場所の利用経験別に見た、生活保護の利用状況  
 (保護者票問 16(1) × 保護者票問 23-b)

<大阪府内全体>



<守口市>

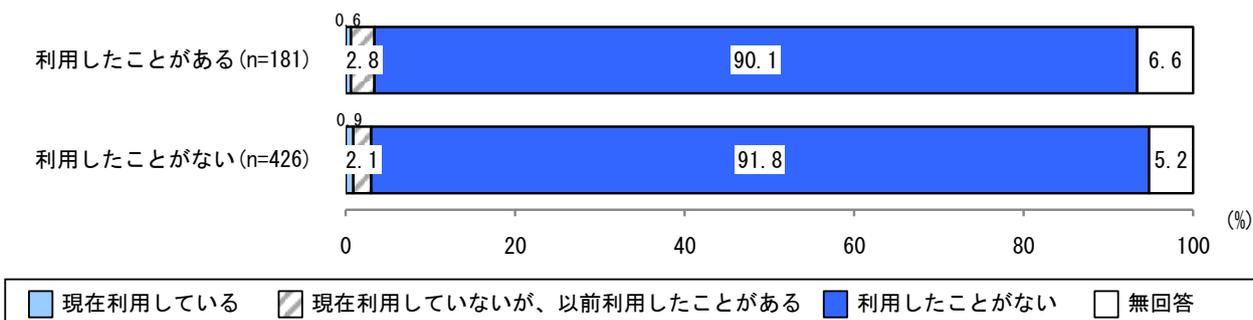
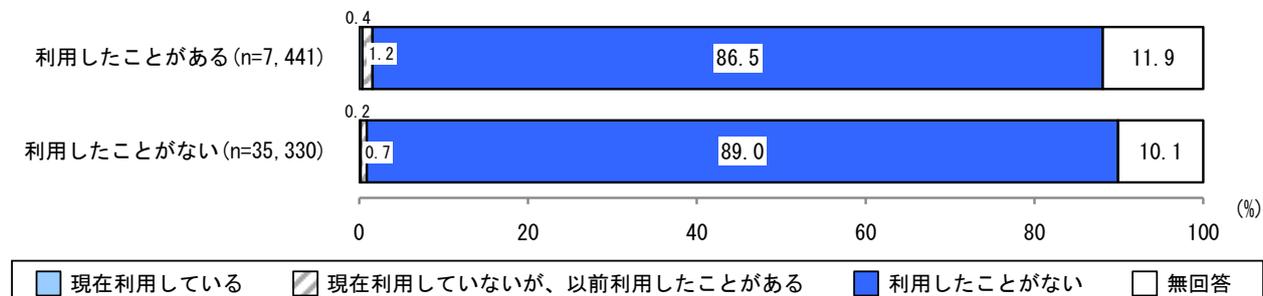


図 28. 子どもの居場所の利用経験別に見た、生活保護の利用状況

子どもの居場所の利用経験別に生活保護の利用状況を見ても、大きな差はみられない。

子どもの居場所の利用経験別に見た、生活困窮者の自立支援相談窓口の利用状況  
 (保護者票問 16(1) × 保護者票問 23-c)

<大阪府内全体>



<守口市>

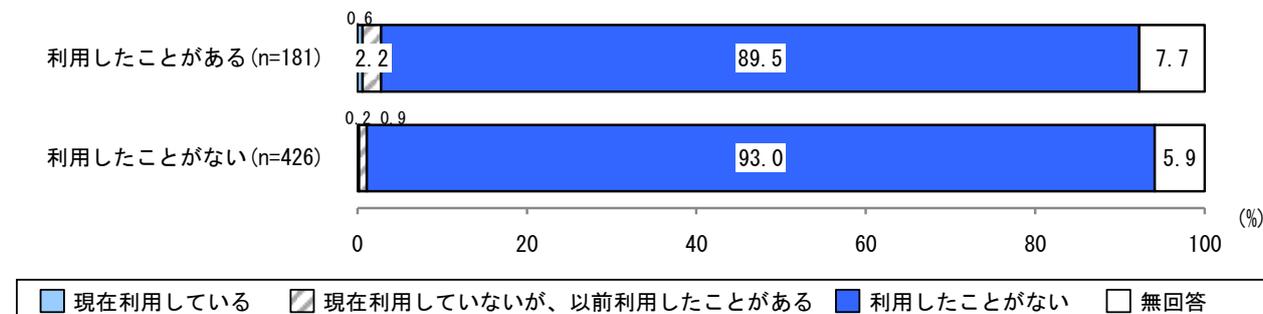
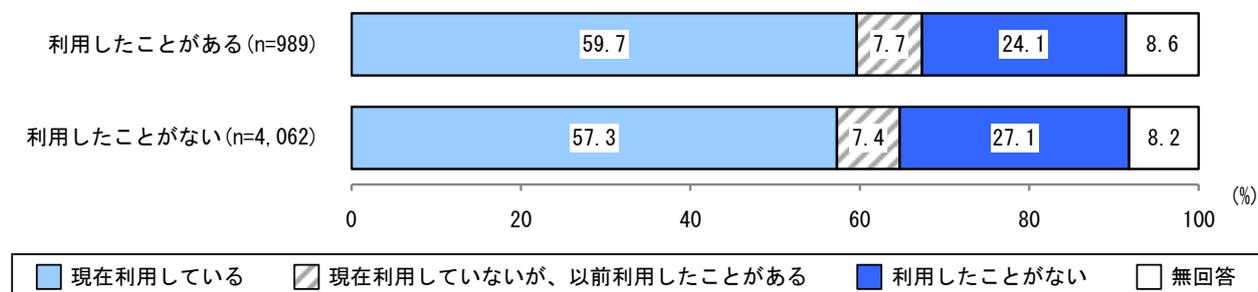


図 29. 子どもの居場所の利用経験別に見た、生活困窮者の自立支援相談窓口の利用状況

子どもの居場所の利用経験別に生活困窮者の自立支援相談窓口の利用状況を見ても、大きな差はみられない。

子どもの居場所の利用経験別に見た、児童扶養手当の利用状況（ひとり親世帯のみ）  
（保護者票問 16(1) × 保護者票問 23-d)

<大阪府内全体>



<守口市>

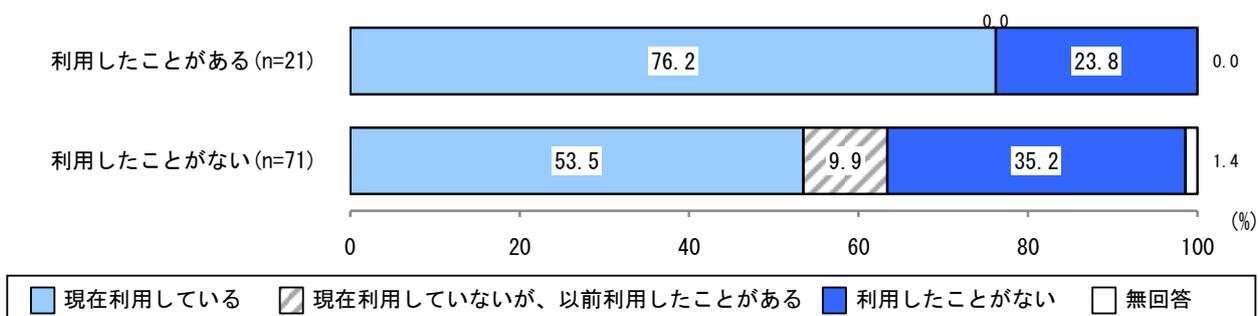
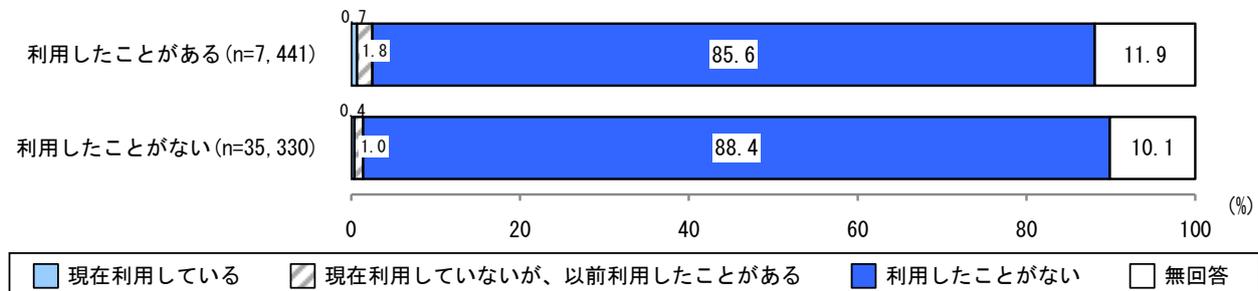


図 30. 子どもの居場所の利用経験別に見た、児童扶養手当の利用状況（ひとり親世帯のみ）

子どもの居場所の利用経験別に児童扶養手当の利用状況を見ると、子どもの居場所を「利用したことがない」人より「利用したことがある」人のほうが児童扶養手当を「現在利用している」と回答した割合が高くなっている。

子どもの居場所の利用経験別に見た、母子家庭等就業・自立支援センターの利用状況  
 (保護者票問 16(1) × 保護者票問 23-e)

<大阪府内全体>



<守口市>

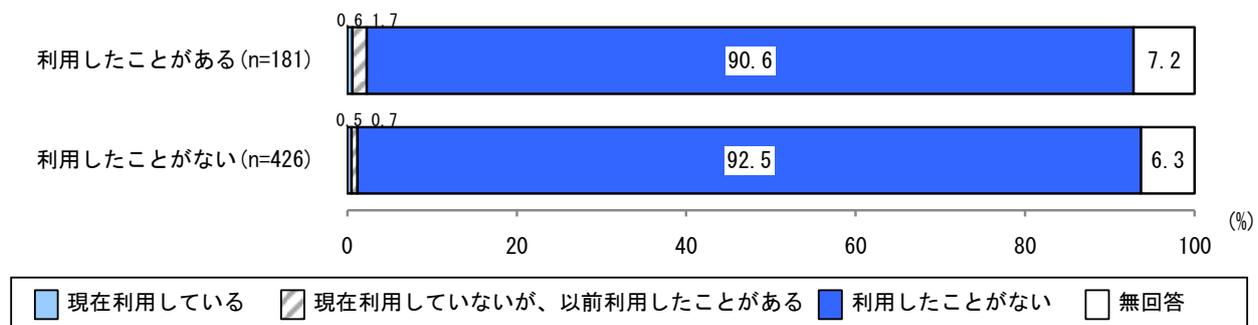
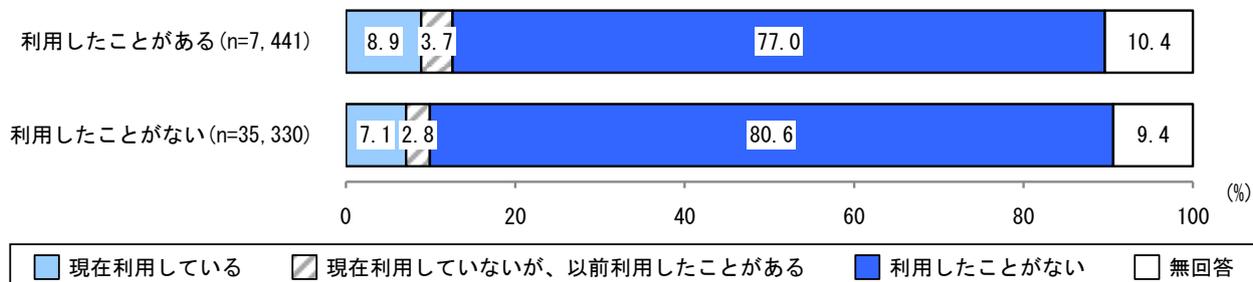


図 31. 子どもの居場所の利用経験別に見た、母子家庭等就業・自立支援センターの利用状況

子どもの居場所の利用経験別に母子家庭等就業・自立支援センターの利用状況を見ても、大きな差はみられない。

子どもの居場所の利用経験別に見た、低所得の子育て世帯に対する子育て世帯生活支援特別給付金の利用状況（保護者票問 16(1) × 保護者票問 23-f)

<大阪府内全体>



<守口市>

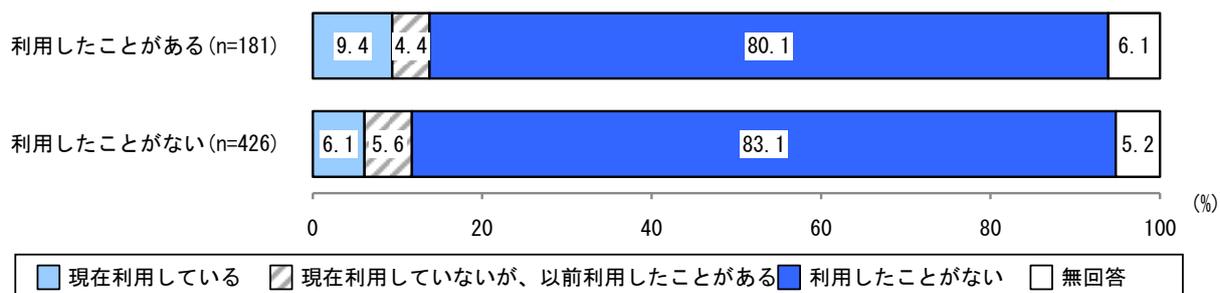
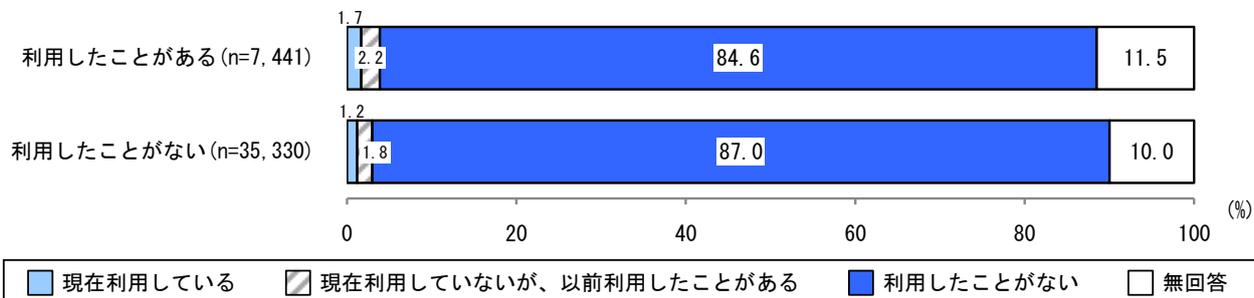


図 32. 子どもの居場所の利用経験別に見た、低所得の子育て世帯に対する子育て世帯生活支援特別給付金の利用状況

子どもの居場所の利用経験別に低所得の子育て世帯に対する子育て世帯生活支援特別給付金の利用状況を見ても、大きな差はみられない。

子どもの居場所の利用経験別に見た、新型コロナウイルス感染症に伴う生活福祉資金（貸付金）の利用状況（保護者票問 16(1) × 保護者票問 23-g)

<大阪府内全体>



<守口市>

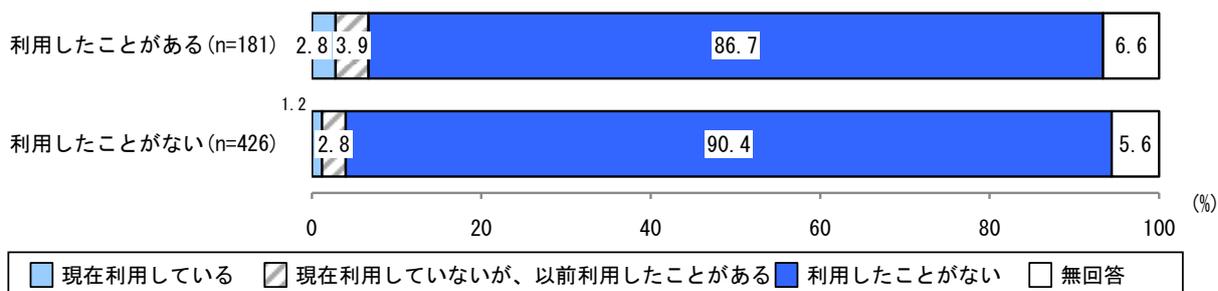
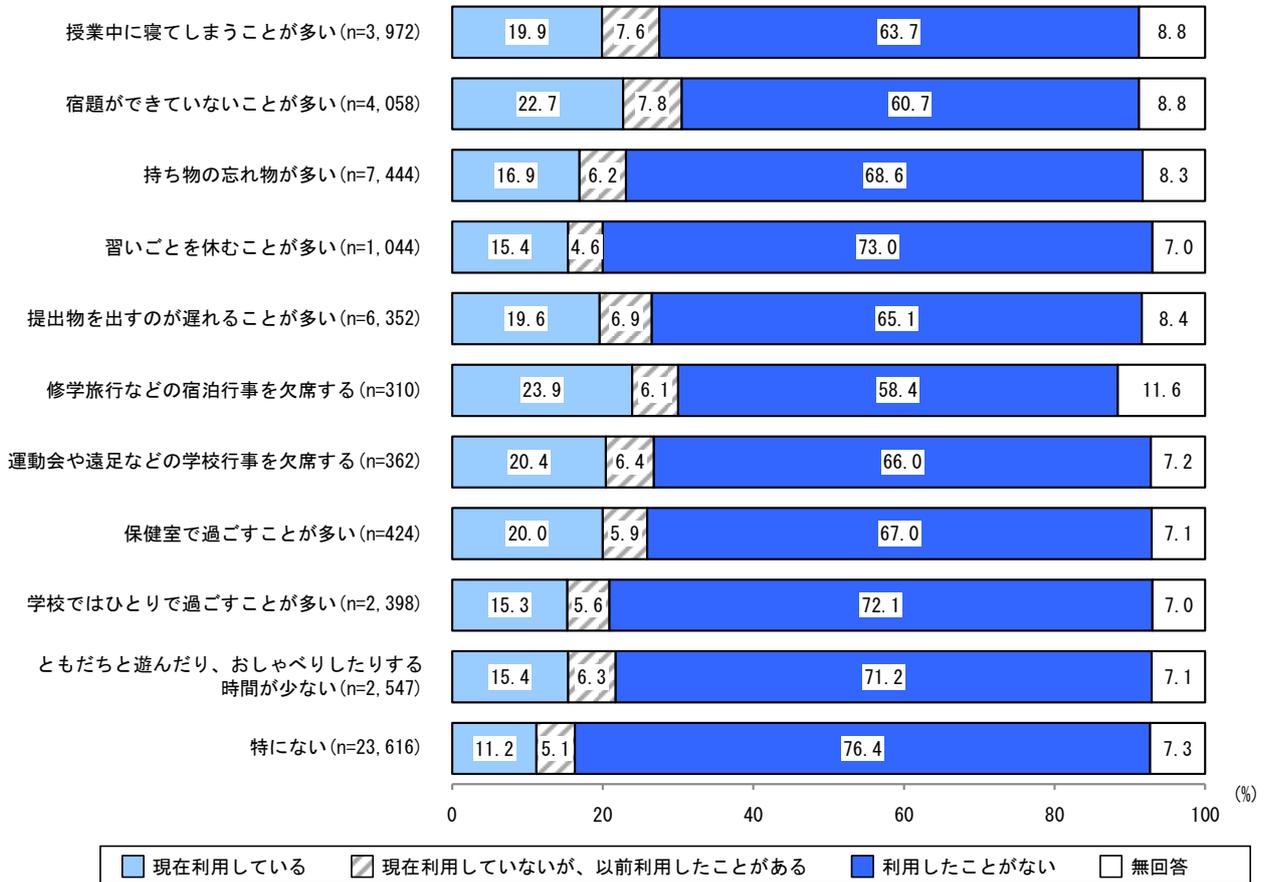


図 33. 子どもの居場所の利用経験別に見た、新型コロナウイルス感染症に伴う生活福祉資金（貸付金）の利用状況

子どもの居場所の利用経験別に新型コロナウイルス感染症に伴う生活福祉資金（貸付金）の利用状況を見ても、大きな差はみられない。

学校や学校の行事等の状況別に見た、就学援助の利用状況（子ども票問 16×保護者票問 23-a）

<大阪府内全体>



<守口市>

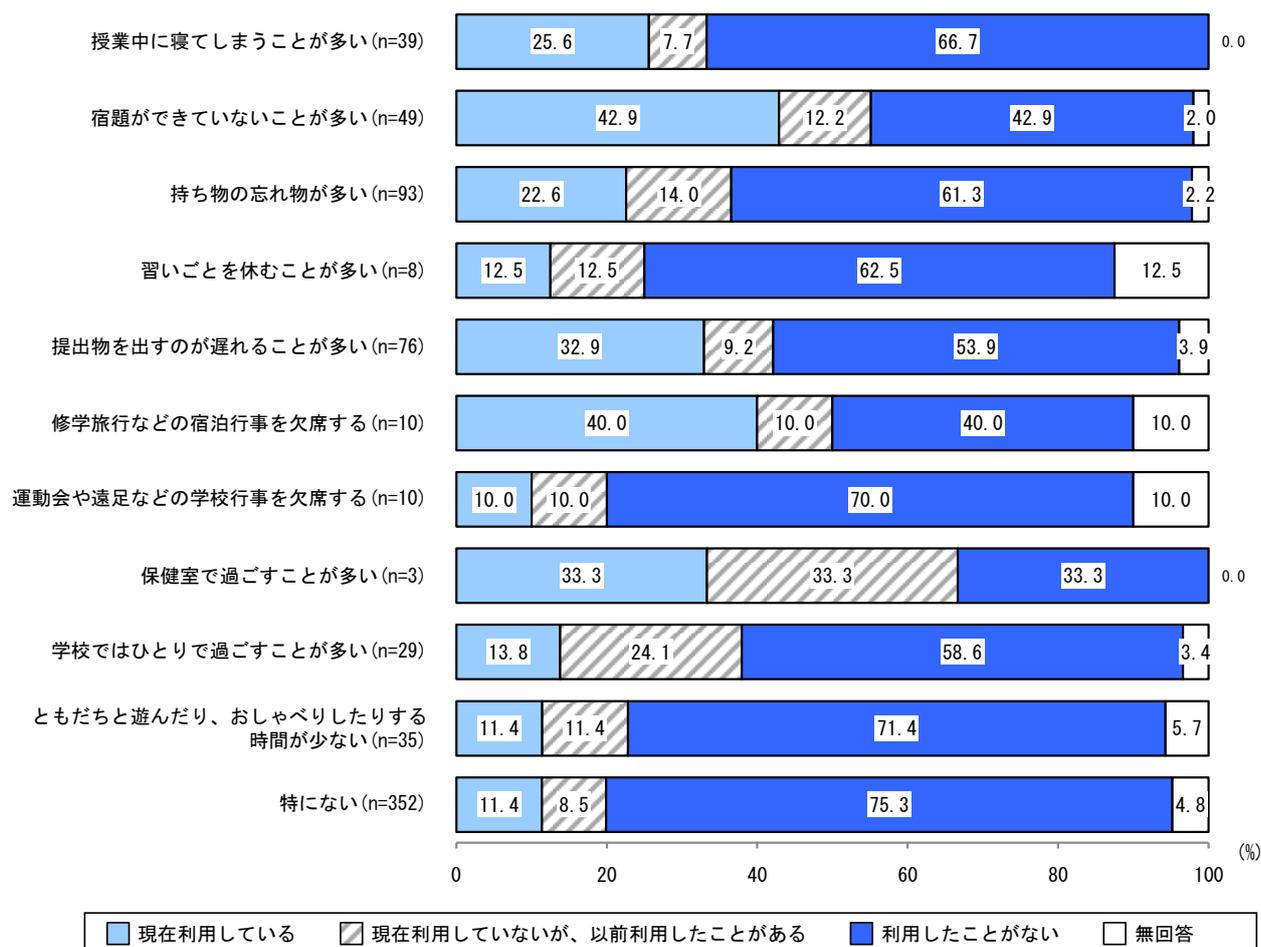
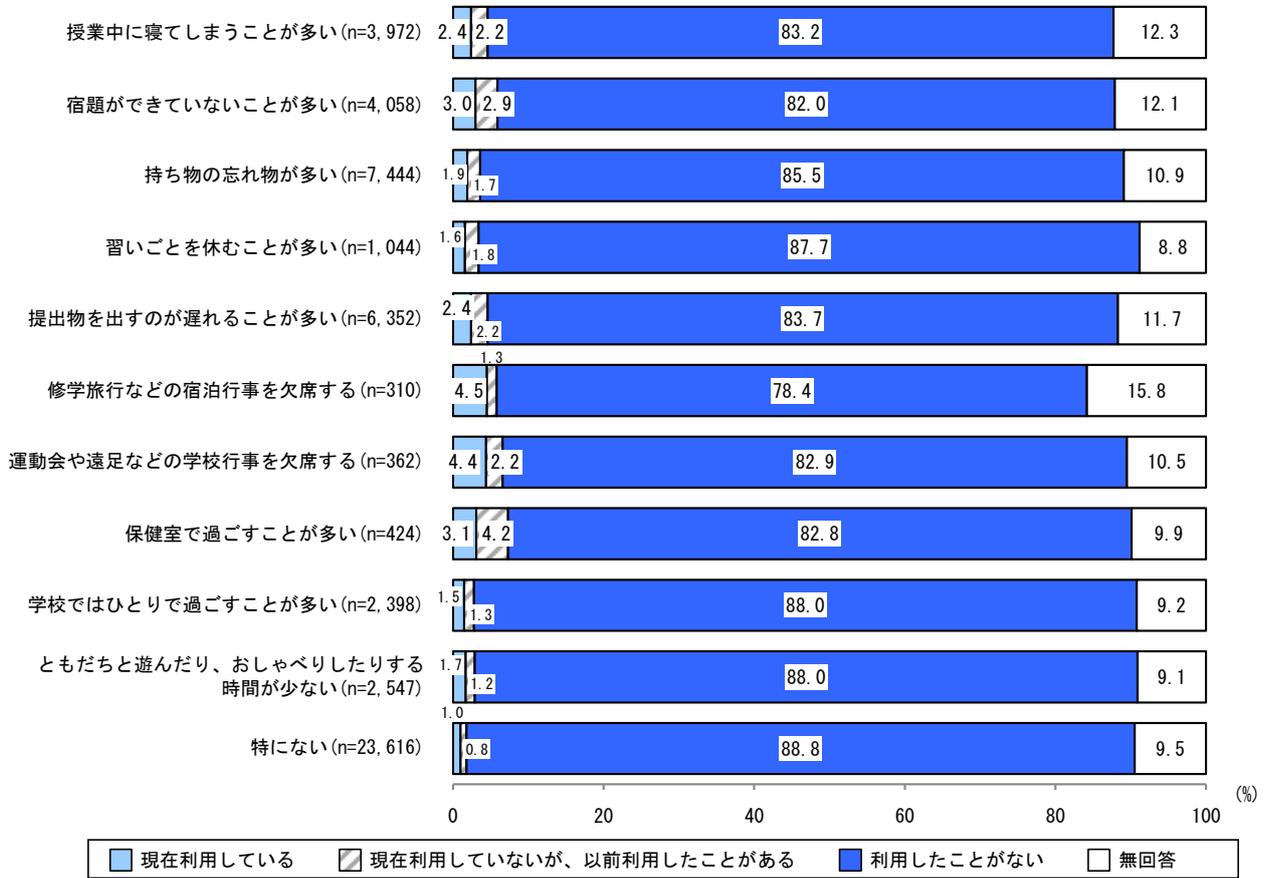


図 34. 学校や学校の行事等の状況別に見た、就学援助の利用状況

学校や学校の行事等の状況別に就学援助の利用状況を見ると、「現在利用している」と回答した人の割合は、「宿題ができていないことが多い」と回答した割合が42.9%で最も高くなっている。

学校や学校の行事等の状況別に見た、生活保護の利用状況（子ども票問 16×保護者票問 23-b）

<大阪府内全体>



<守口市>

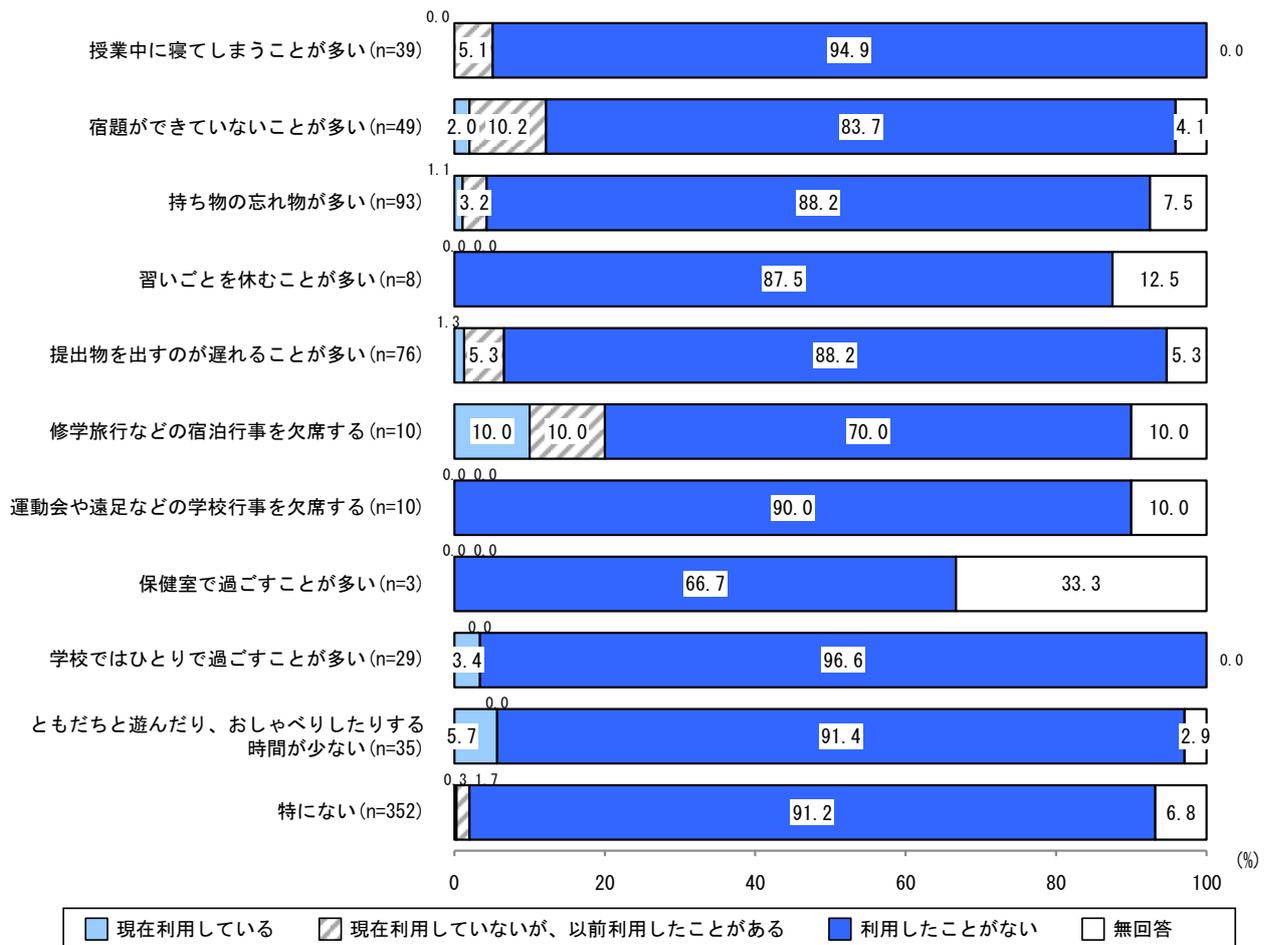
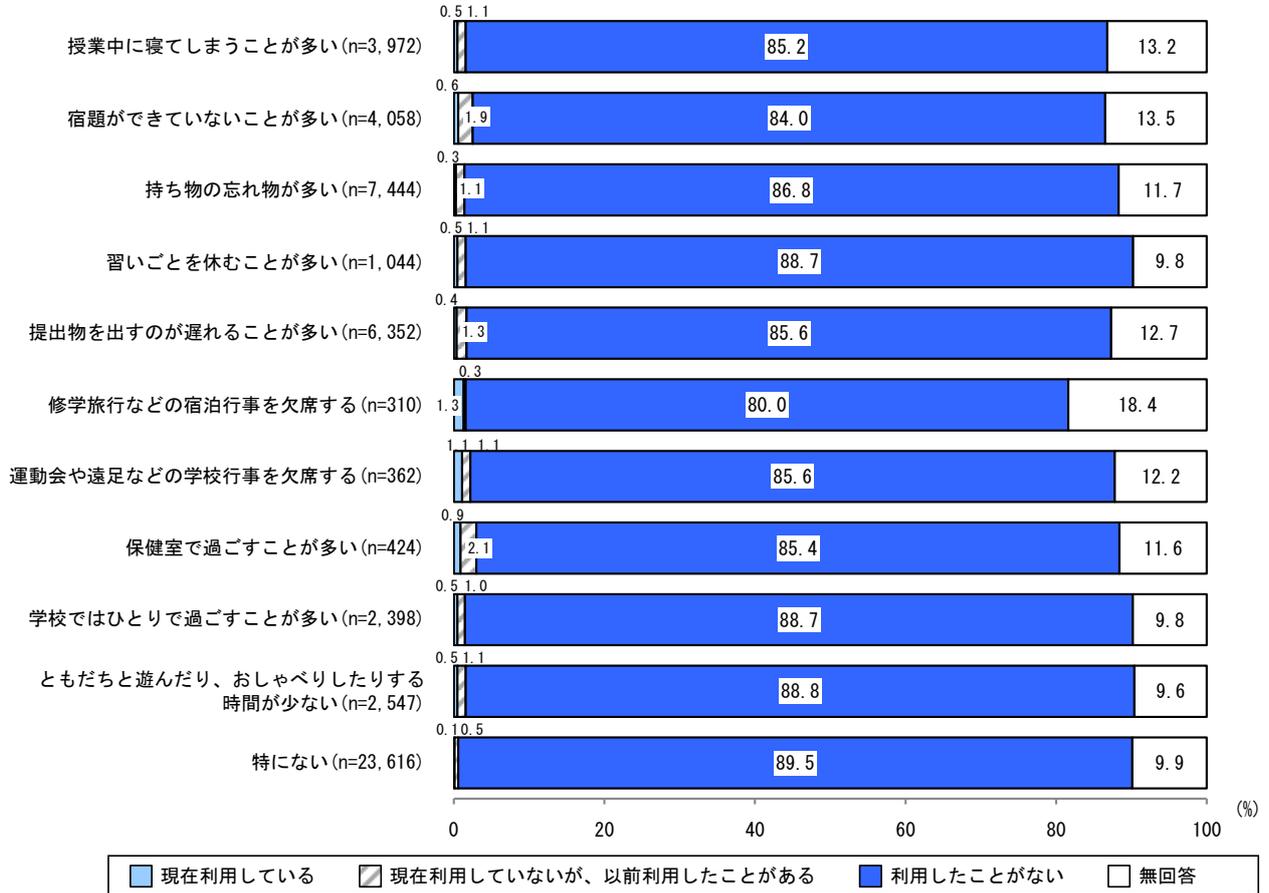


図 35. 学校や学校の行事等の状況別に見た、生活保護の利用状況

学校や学校の行事等の状況別に生活保護の利用状況を見ると、「現在利用している」と回答した人の割合は、「修学旅行などの宿泊行事を欠席する」と回答した割合が10.0%で最も高く、次いで「ともだちと遊んだり、おしゃべりしたりする時間が少ない」と回答した割合が5.7%となっている。

学校や学校の行事等の状況別に見た、生活困窮者の自立支援相談窓口の利用状況  
 (子ども票問 16×保護者票問 23-c)

<大阪府内全体>



<守口市>

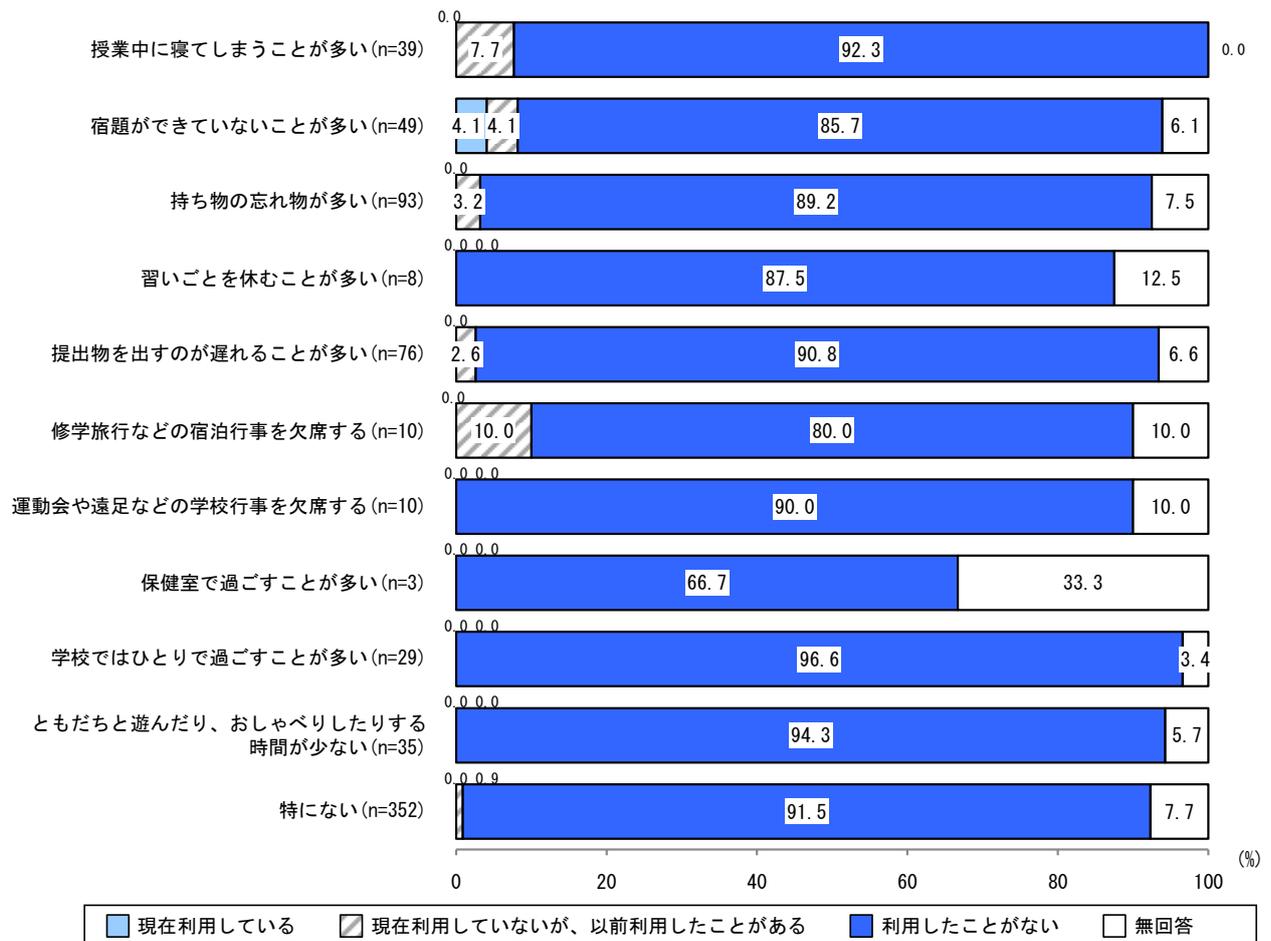
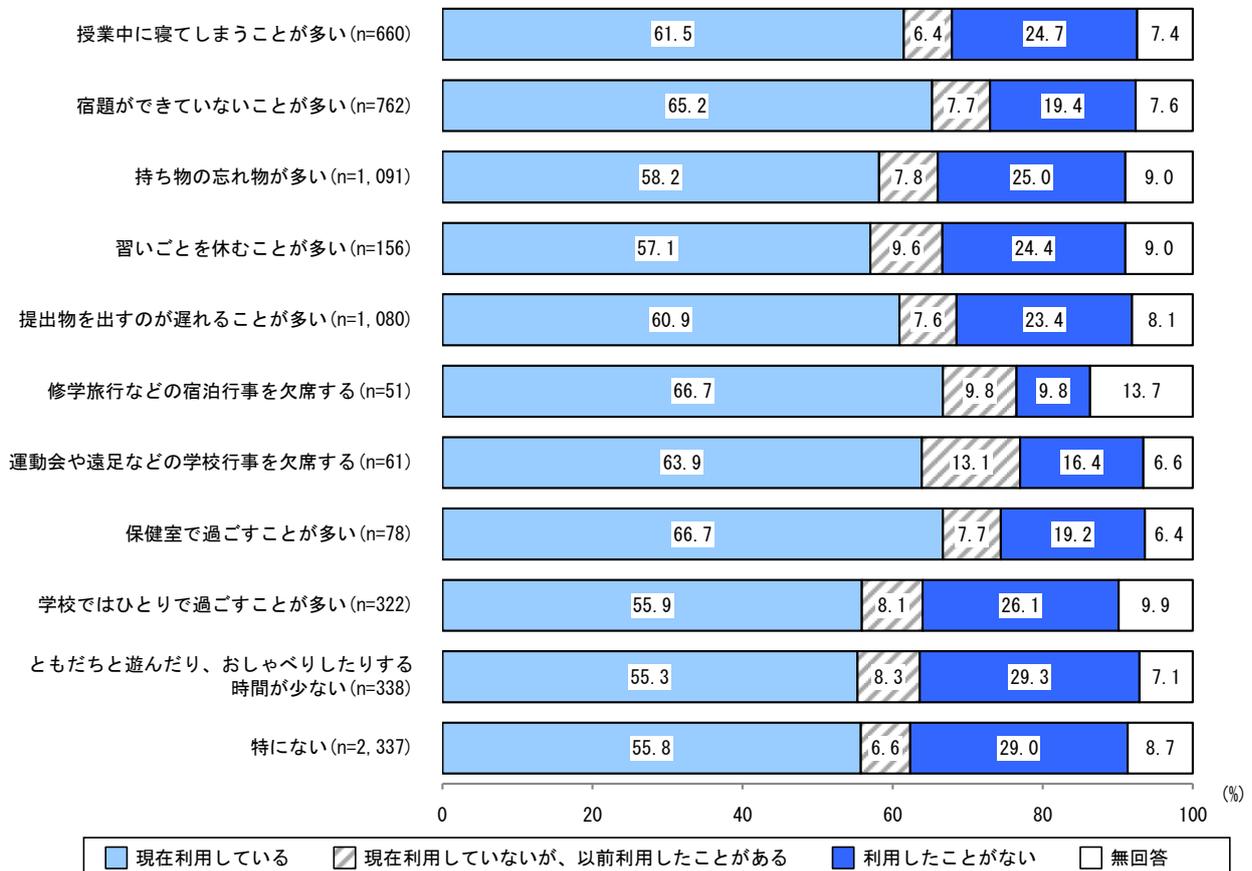


図 36. 学校や学校の行事等の状況別に見た、生活困窮者の自立支援相談窓口の利用状況

学校や学校の行事等の状況別に生活困窮者の自立支援相談窓口の利用状況を見ると、「現在利用している」と回答した人の割合は、「宿題ができていないことが多い」と回答した割合が4.1%で最も高くなっている。

学校や学校の行事等の状況別に見た、児童扶養手当の利用状況（ひとり親世帯のみ）  
 （子ども票問 16×保護者票問 23-d）

<大阪府内全体>



<守口市>

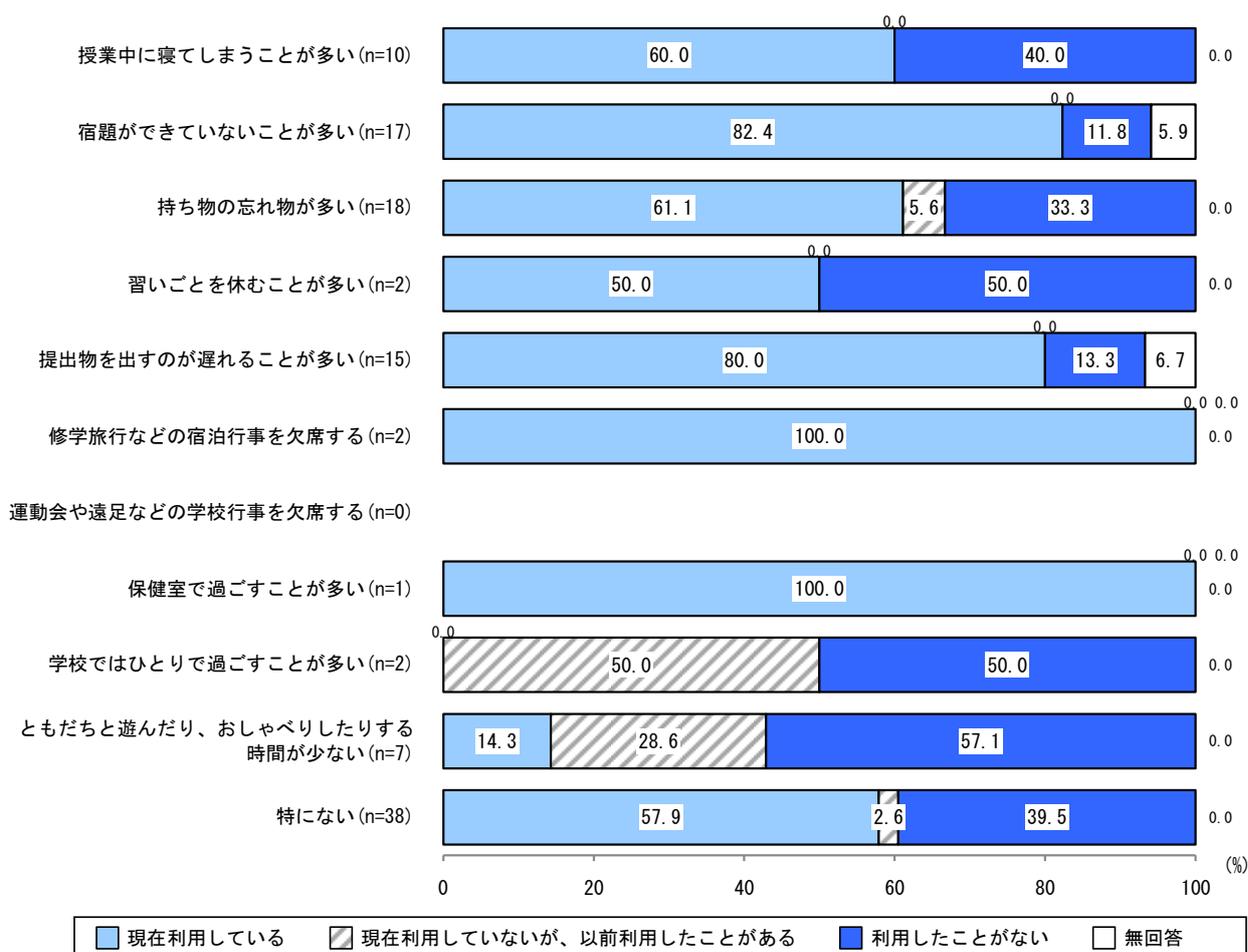
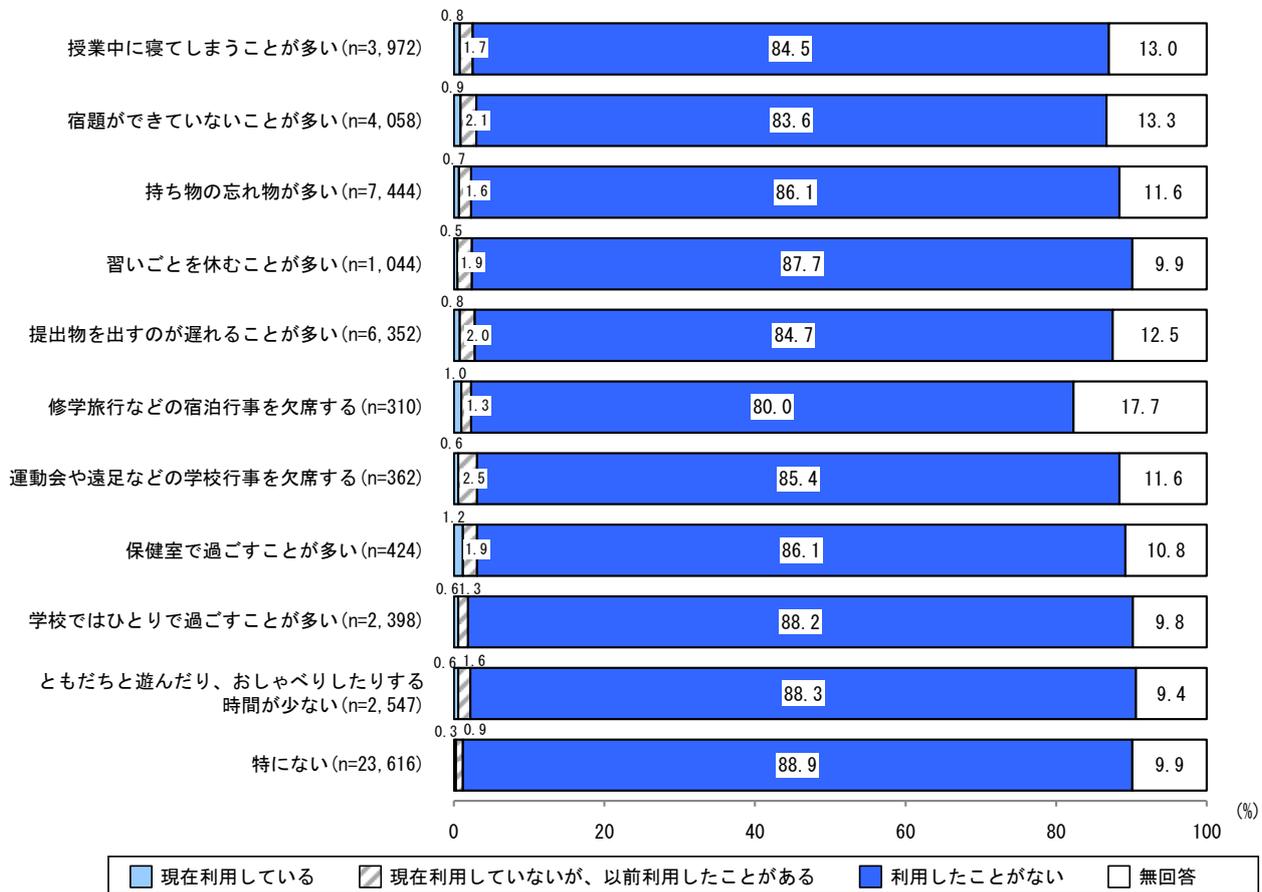


図 37. 学校や学校の行事等の状況別に見た、児童扶養手当の利用状況（ひとり親世帯のみ）

学校や学校の行事等の状況別に児童扶養手当の利用状況を見ると、母数が少ないため一概には言えないが、「現在利用している」と回答した人の割合は、「修学旅行などの宿泊行事を欠席する」、「保健室で過ごすことが多い」が100.0%で最も高くなっている。

学校や学校の行事等の状況別に見た、母子家庭等就業・自立支援センターの利用状況  
 (子ども票問 16×保護者票問 23-e)

<大阪府内全体>



<守口市>

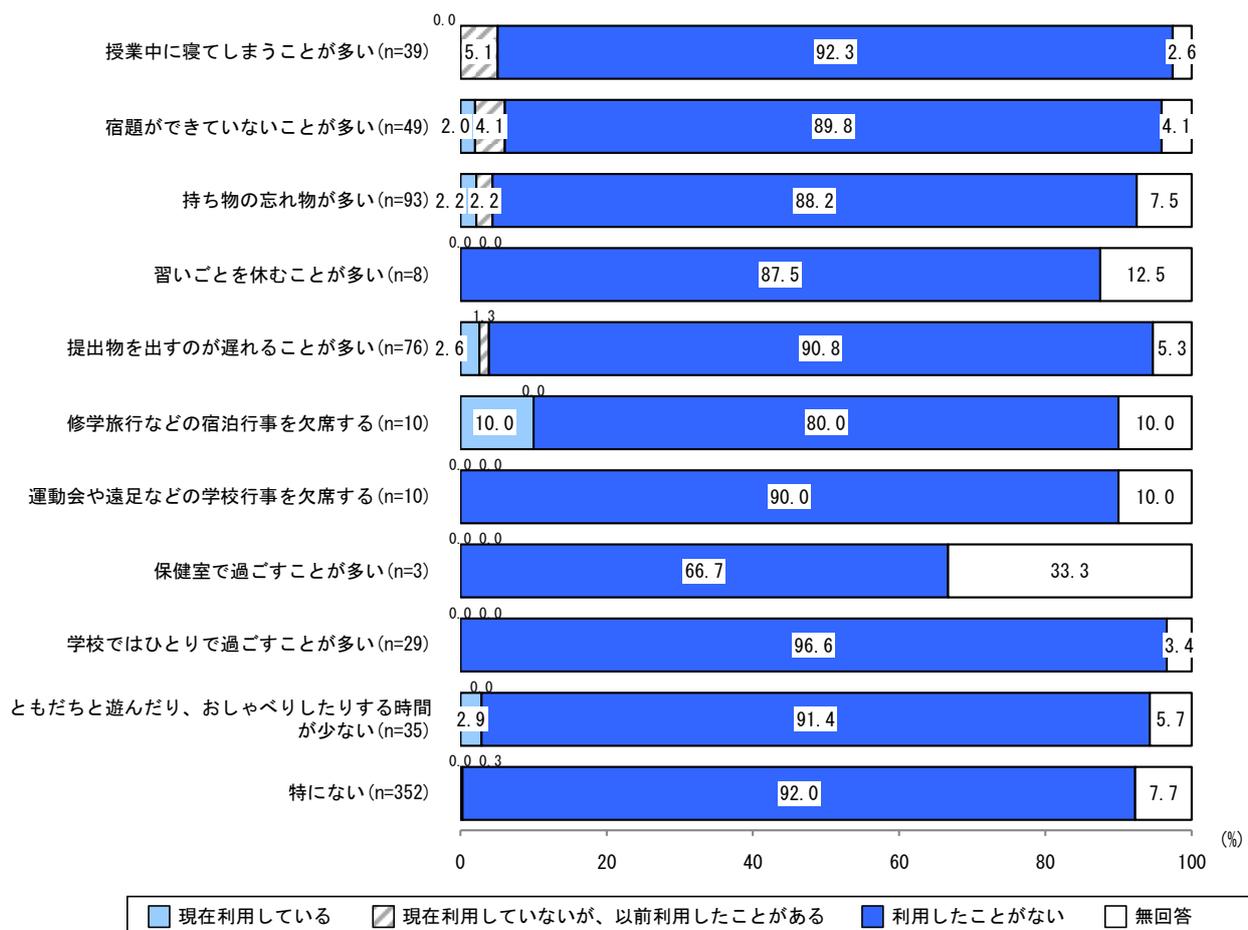
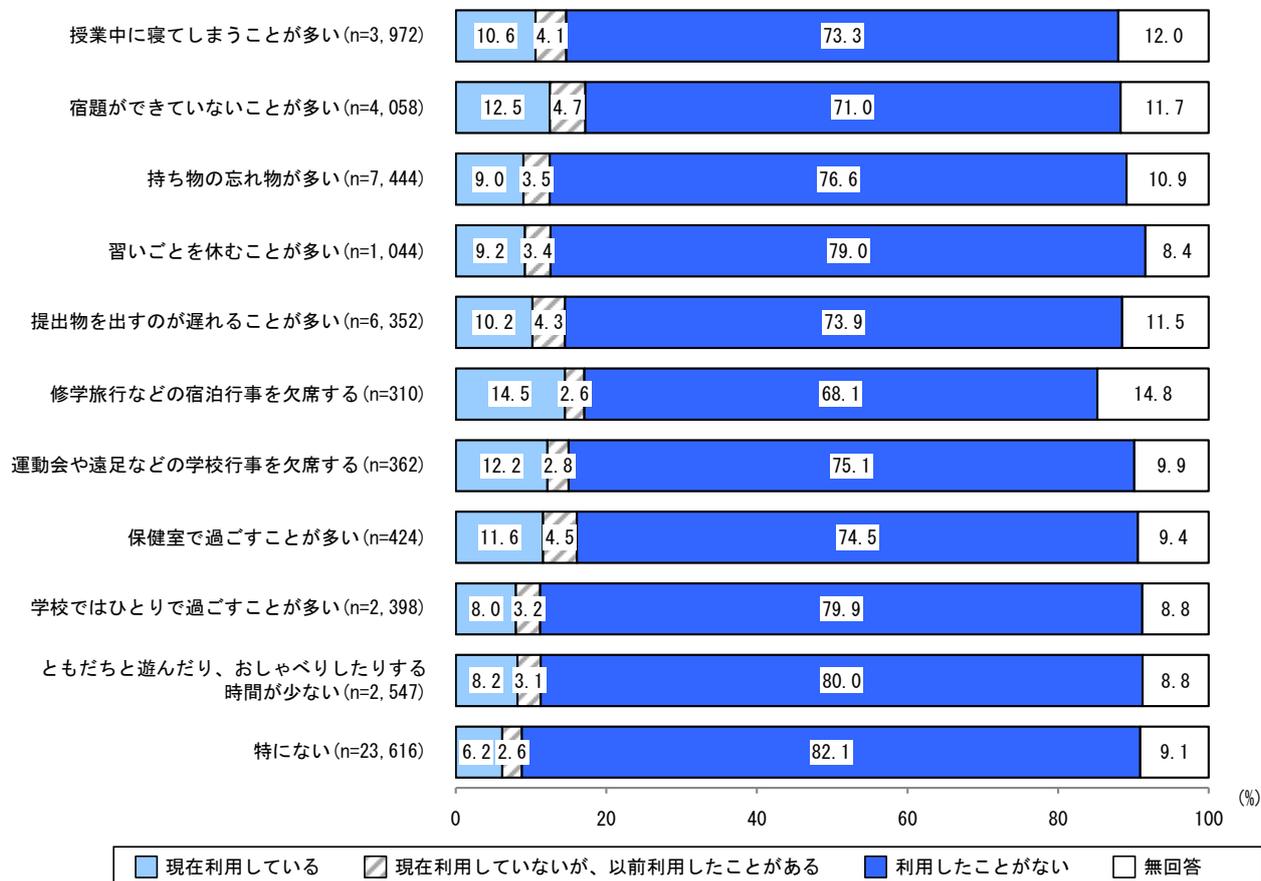


図 38. 学校や学校の行事等の状況別に見た、母子家庭等就業・自立支援センターの利用状況

学校や学校の行事等の状況別に母子家庭等就業・自立支援センターの利用状況を見ると、「現在利用している」と回答した人の割合は、「修学旅行などの宿泊行事を欠席する」と回答した割合が10.0%で最も高くなっている。

学校や学校の行事等の状況別に見た、低所得の子育て世帯に対する子育て世帯生活支援特別給付金の利用状況（子ども票問16×保護者票問23-f）

<大阪府内全体>



<守口市>

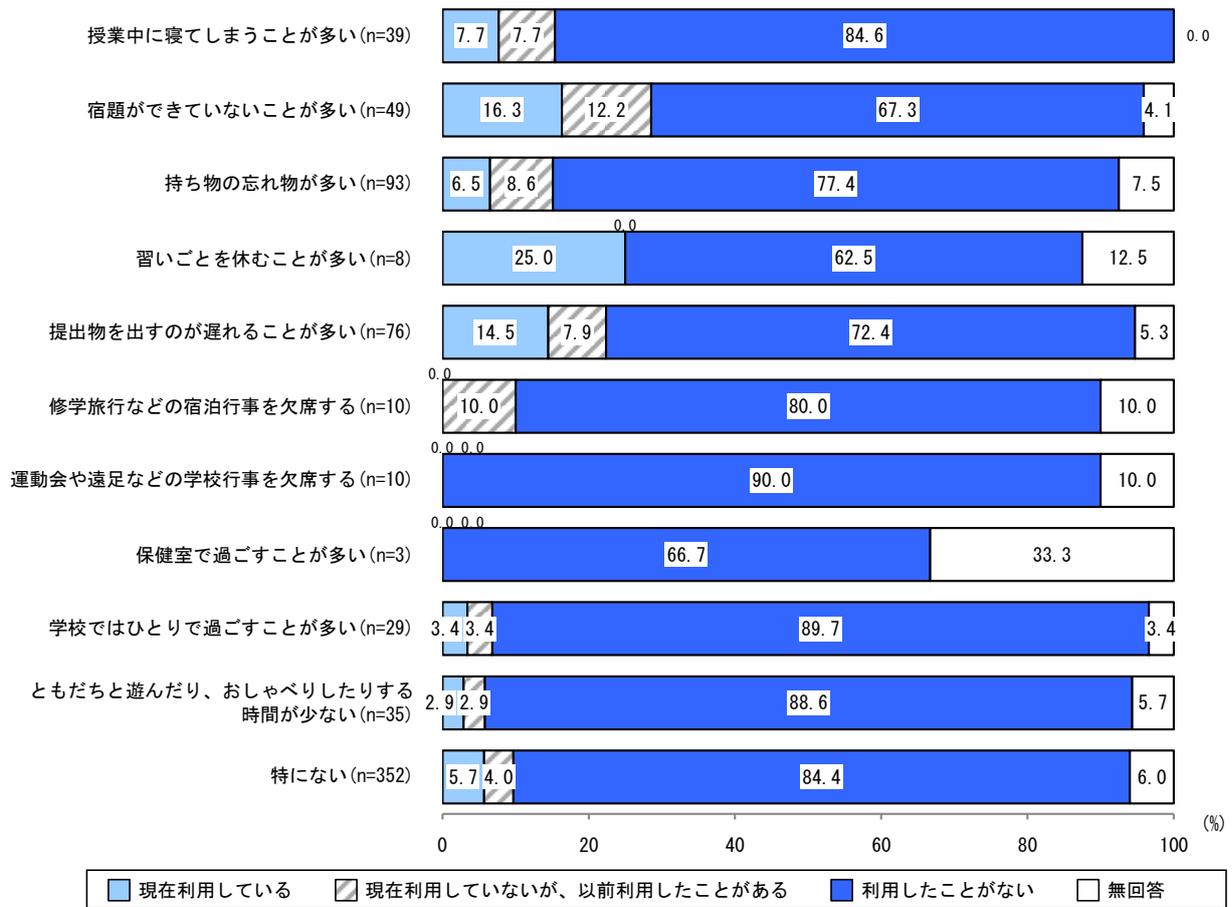
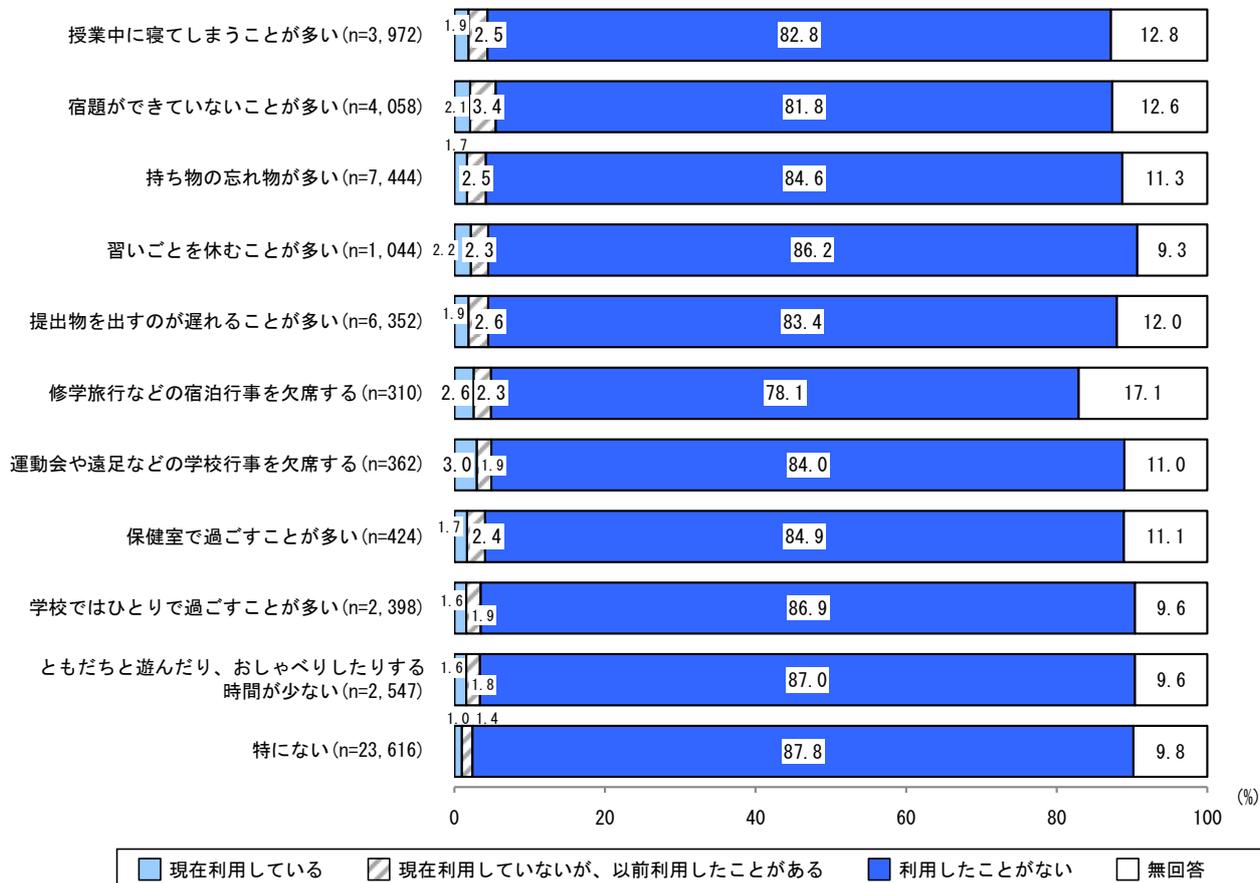


図 39. 学校や学校の行事等の状況別に見た、低所得の子育て世帯に対する子育て世帯生活支援特別給付金の利用状況

学校や学校の行事等の状況別に低所得の子育て世帯に対する子育て世帯生活支援特別給付金の利用状況を見ると、「現在利用している」と回答した人の割合は、「習いごとを休むことが多い」と回答した割合が25.0%で最も高くなっている。

学校や学校の行事等の状況別に見た、新型コロナウイルス感染症に伴う生活福祉資金（貸付金）の利用状況（子ども票問 16×保護者票問 23-g）

<大阪府内全体>



<守口市>

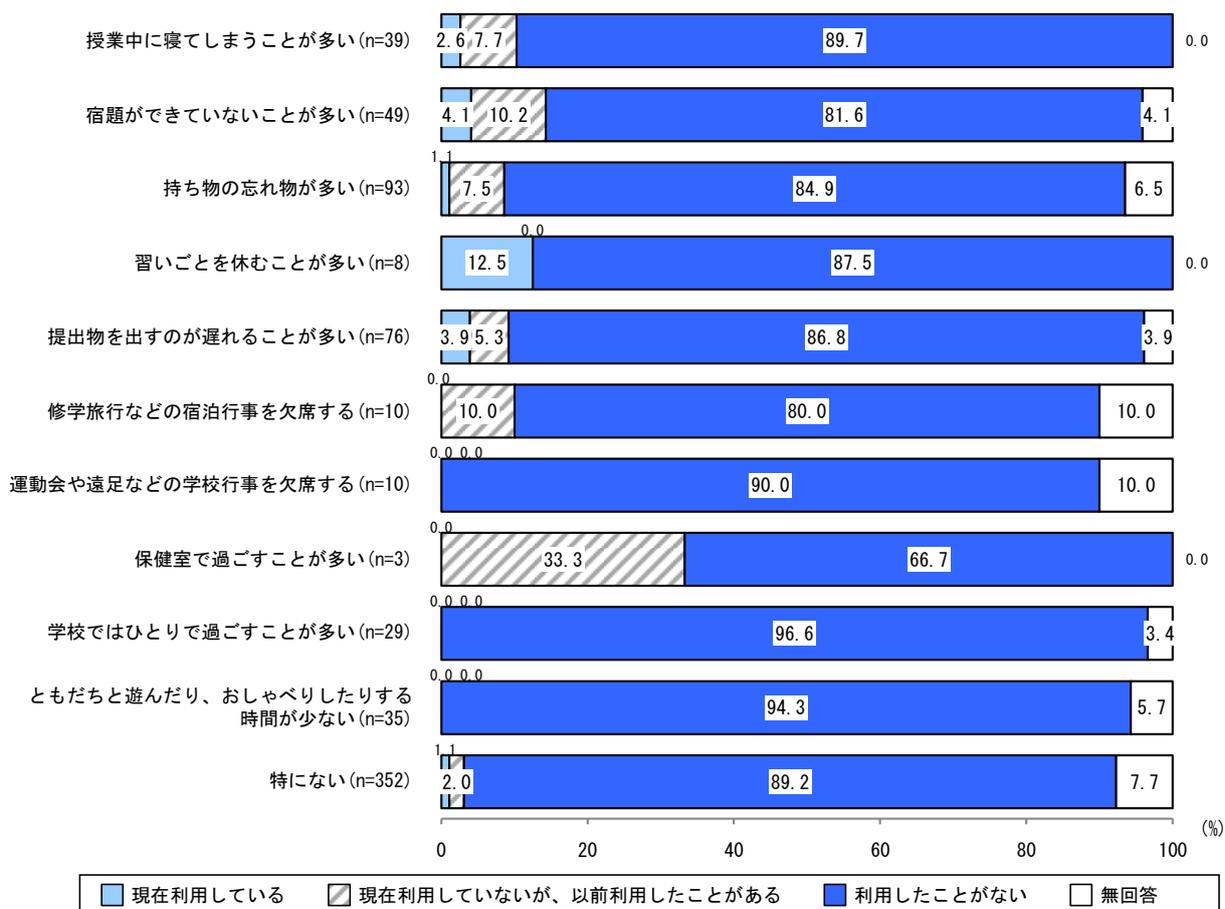
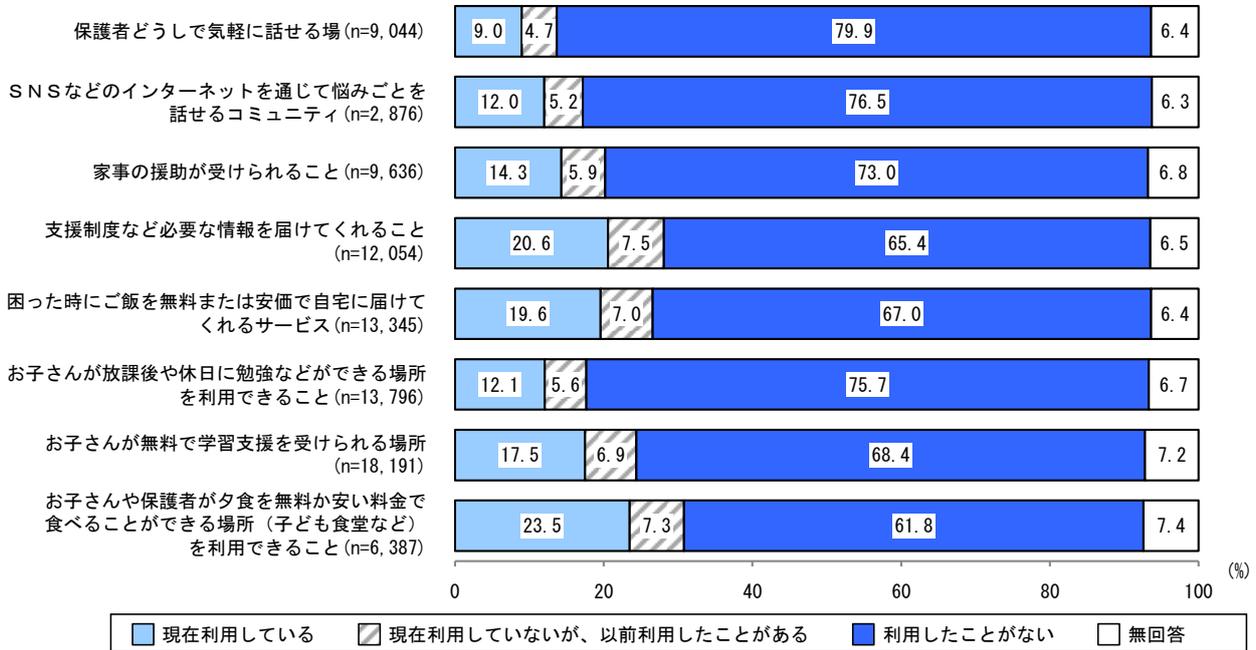


図 40. 学校や学校の行事等の状況別に見た、新型コロナウイルス感染症に伴う生活福祉資金（貸付金）の利用状況

学校や学校の行事等の状況別に新型コロナウイルス感染症に伴う生活福祉資金（貸付金）の利用状況を見ると、「現在利用している」と回答した人の割合は、「習いごとを休むことが多い」と回答した割合が12.5%で最も高くなっている。

身近にあるといいと思うこと別に見た、就学援助の利用状況  
 (保護者票問 20×保護者票問 23-a)

<大阪府内全体>



<守口市>

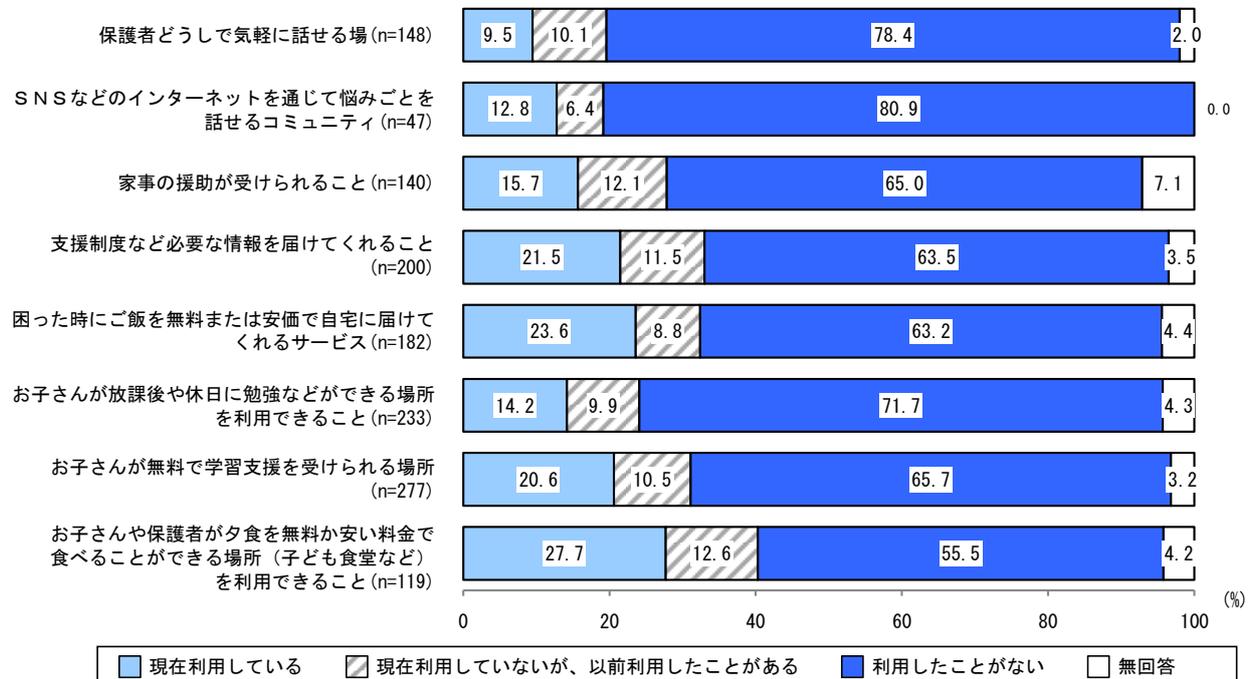
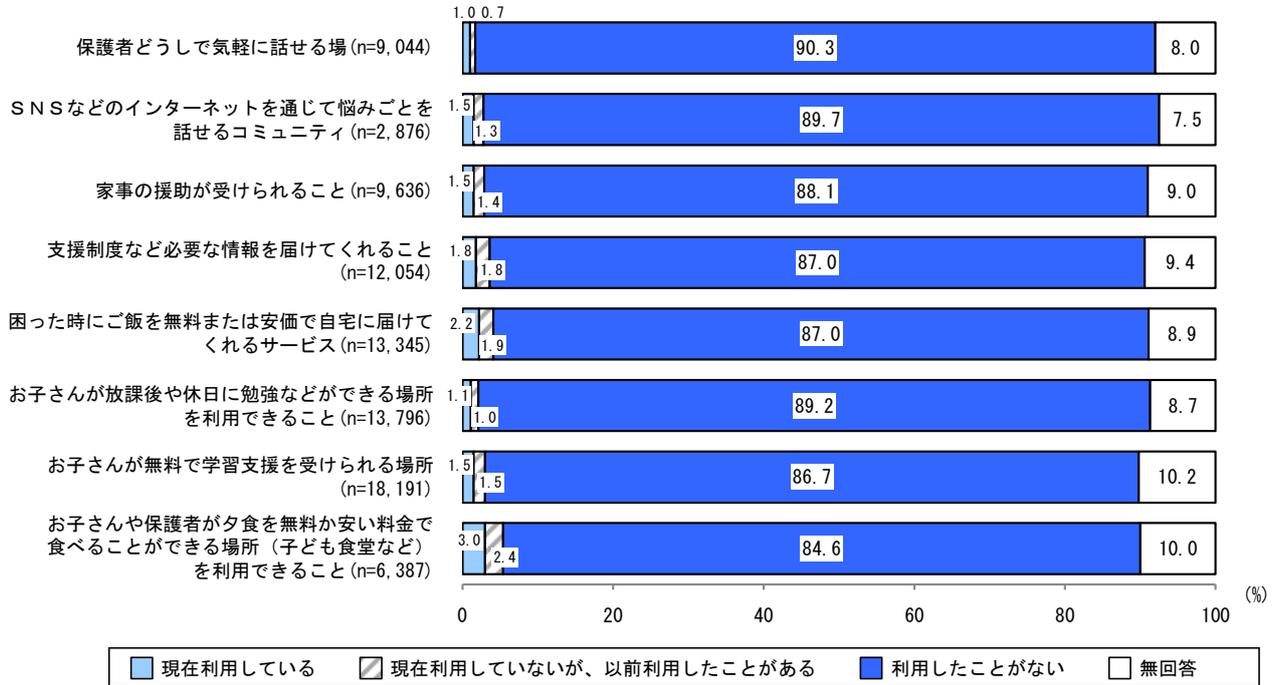


図 41. 身近にあるといいと思うこと別に見た、就学援助の利用状況

身近にあるといいと思うこと別に就学援助の利用状況を見ると、「現在利用している」と回答した人の割合は、「お子さんや保護者が夕食を無料か安い料金で食べることができる場所 (子ども食堂など) を利用できること」と回答した割合が27.7%で最も高くなっている。

身近にあるといいと思うこと別に見た、生活保護の利用状況  
 (保護者票問 20×保護者票問 23-b)

<大阪府内全体>



<守口市>

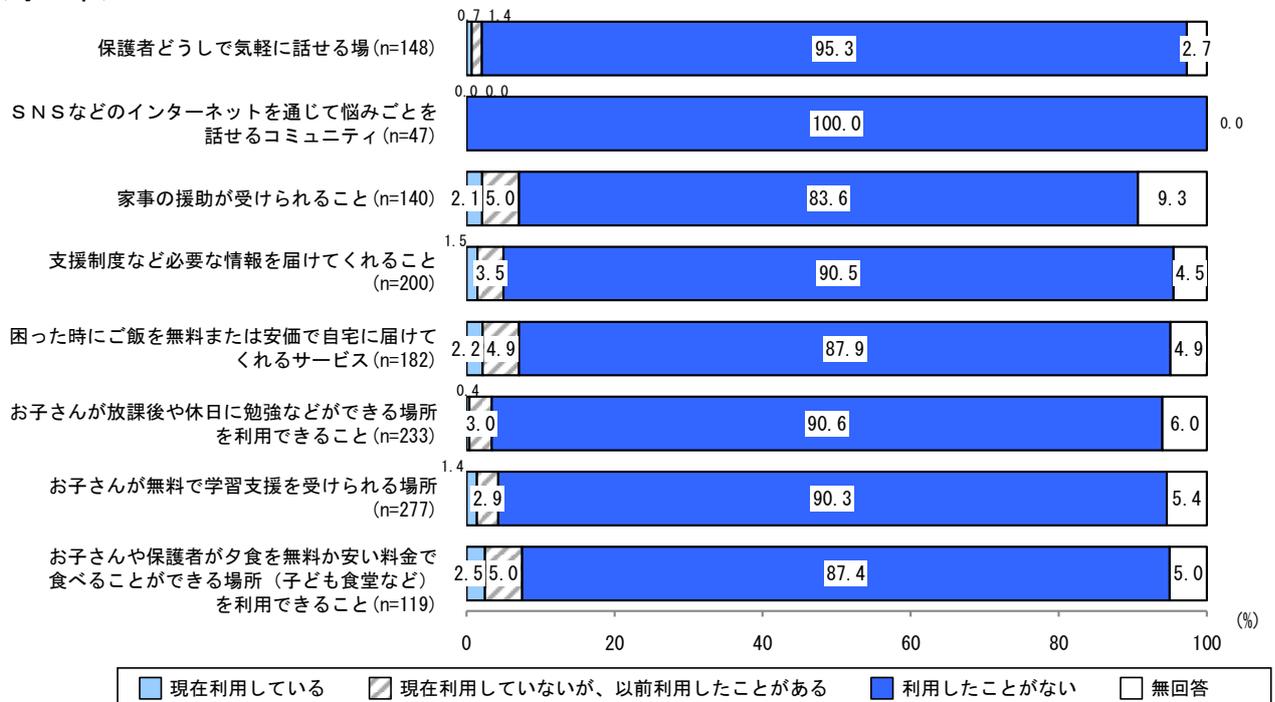
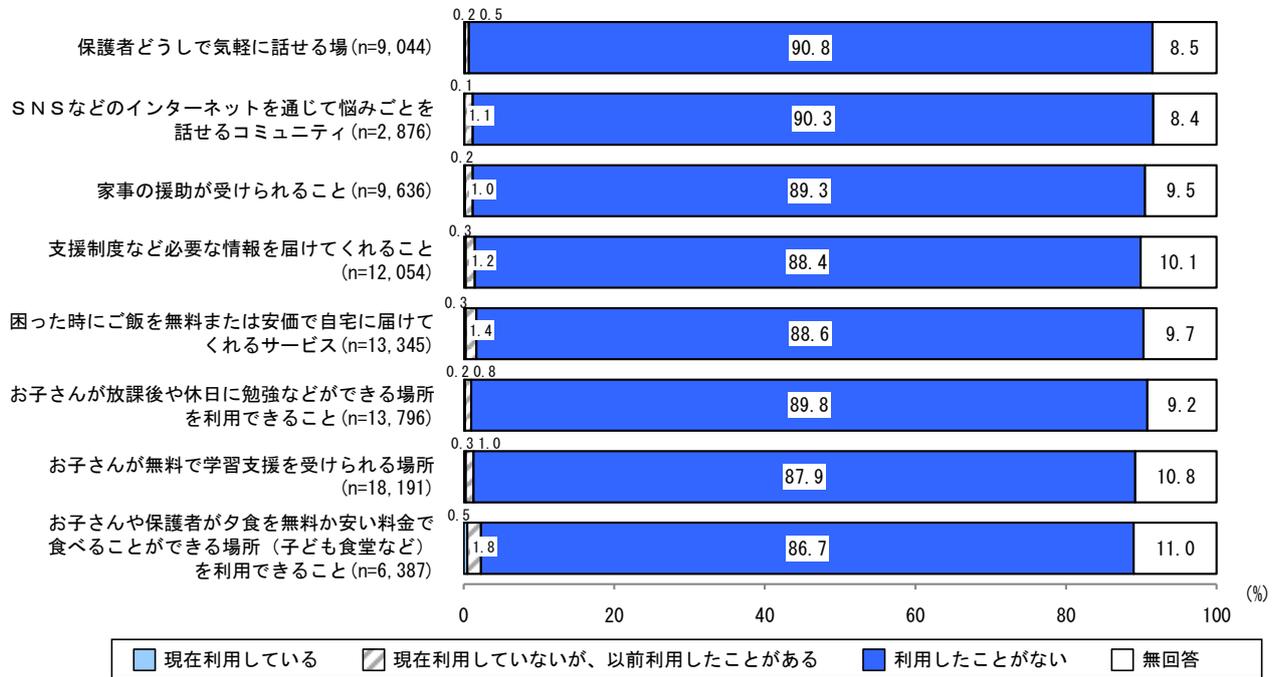


図 42. 身近にあるといいと思うこと別に見た、生活保護の利用状況

身近にあるといいと思うこと別に生活保護の利用状況を見ると、「現在利用している」と回答した人の割合は、「お子さんや保護者が夕食を無料か安い料金で食べることができる場所 (子ども食堂など) を利用できること」と回答した割合が2.5%で最も高くなっている。

身近にあるといいと思うこと別に見た、生活困窮者の自立支援相談窓口の利用状況  
 (保護者票問 20×保護者票問 23-c)

<大阪府内全体>



<守口市>

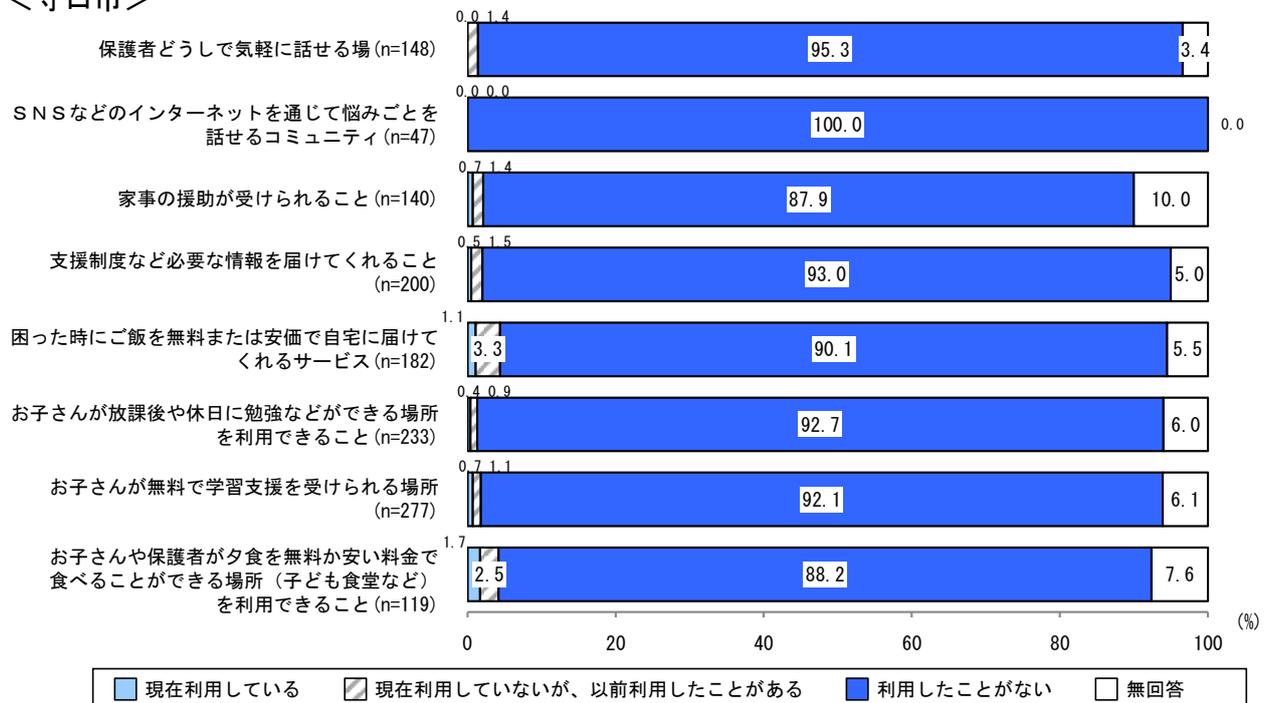
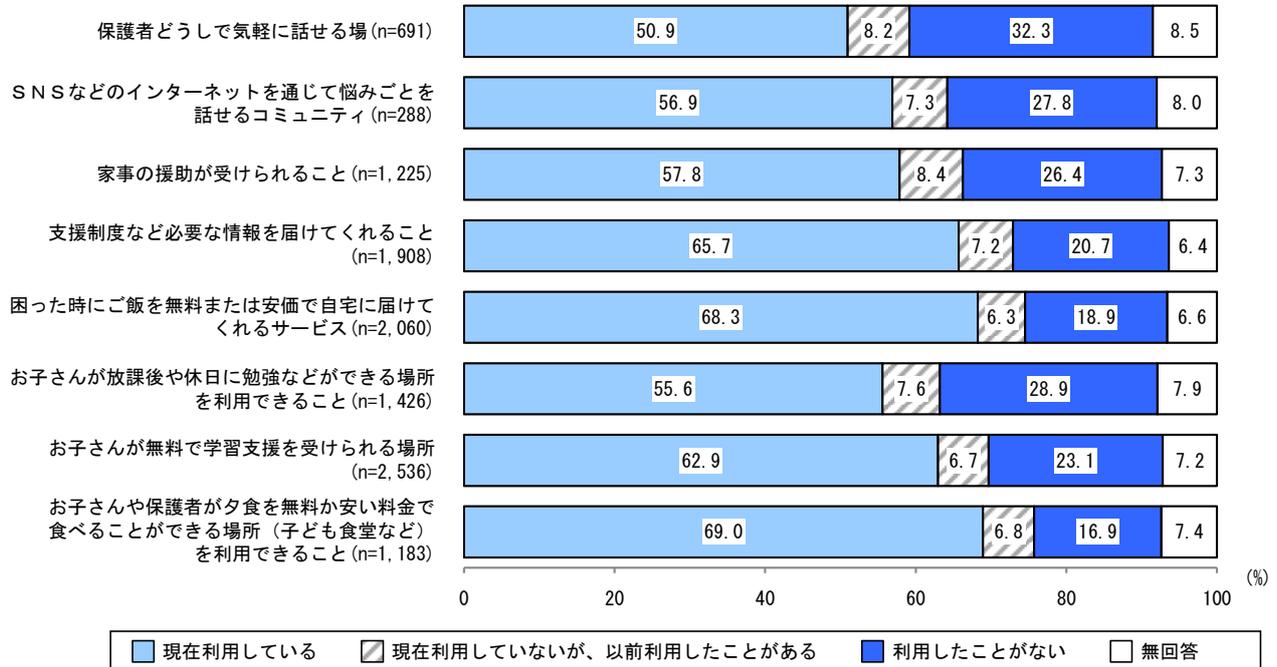


図 43. 身近にあるといいと思うこと別に見た、生活困窮者の自立支援相談窓口の利用状況

身近にあるといいと思うこと別に生活困窮者の自立支援相談窓口の利用状況を見ると、「現在利用している」と回答した人の割合は、「お子さんや保護者が夕食を無料か安い料金で食べることができる場所 (子ども食堂など) を利用できること」と回答した割合が1.7%で最も高くなっている。

身近にあるといいと思うこと別に見た、児童扶養手当の利用状況（ひとり親世帯のみ）  
（保護者票問 20×保護者票問 23-d）

<大阪府内全体>



<守口市>

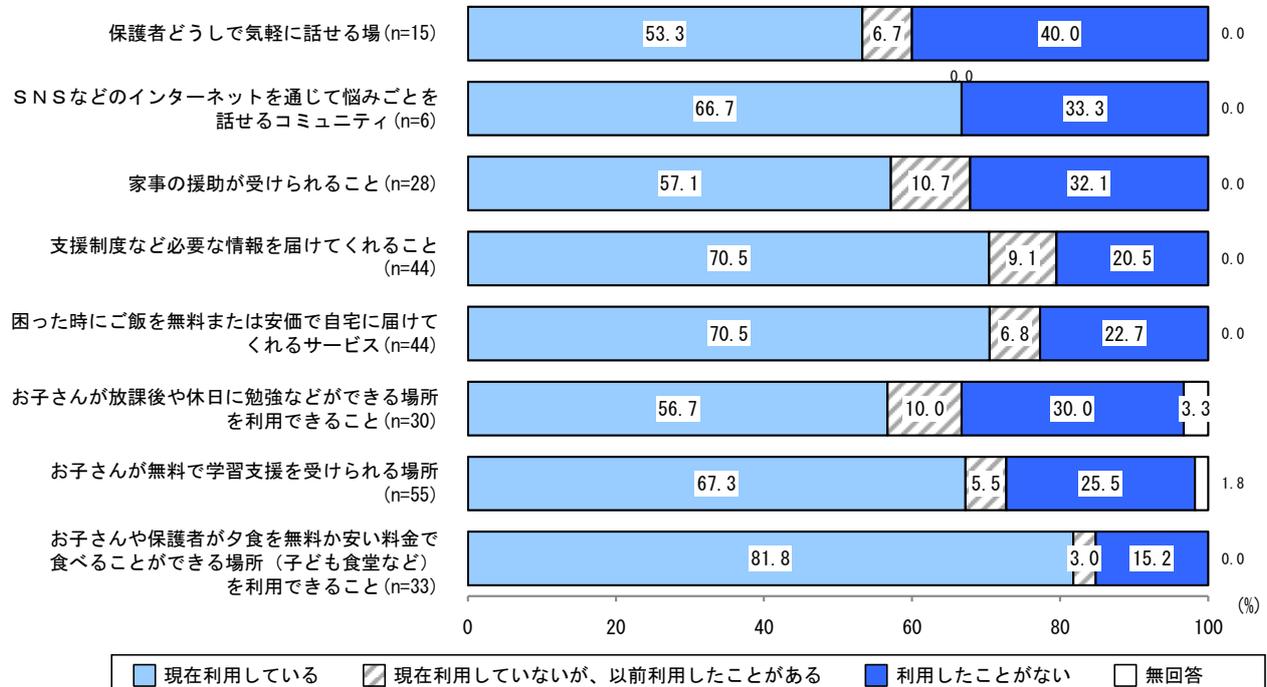
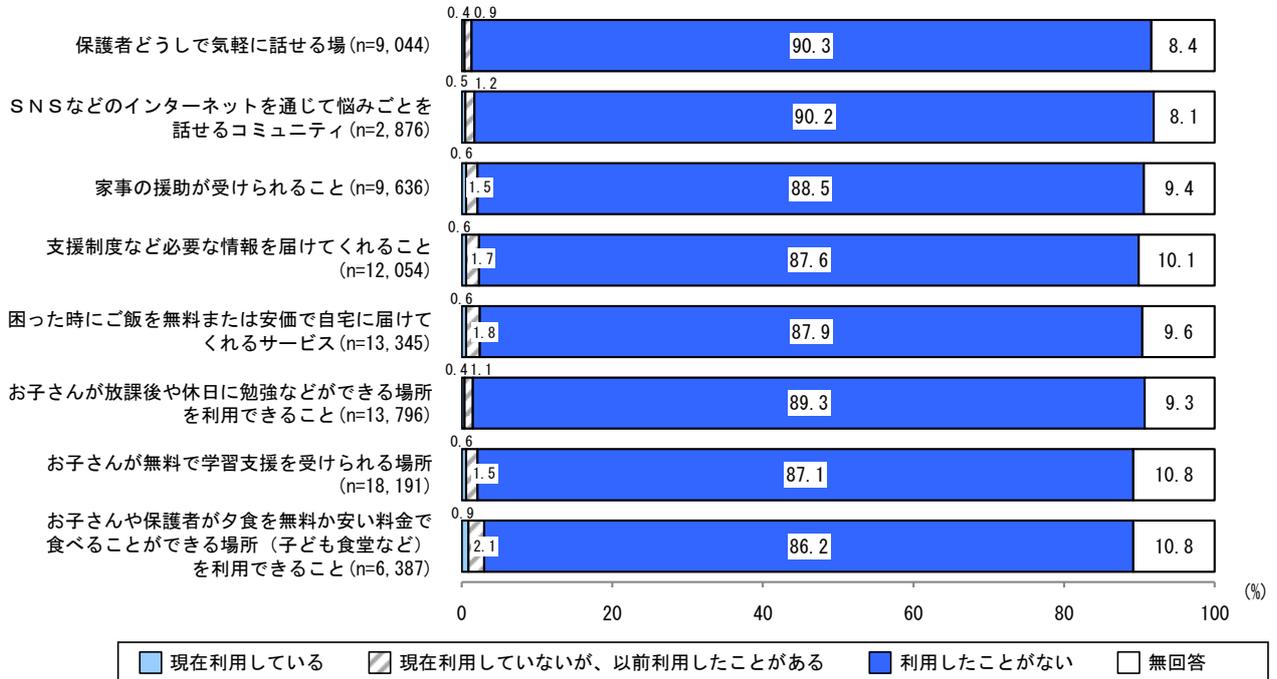


図 44. 身近にあるといいと思うこと別に見た、児童扶養手当の利用状況（ひとり親世帯のみ）

身近にあるといいと思うこと別に児童扶養手当の利用状況を見ると、「現在利用している」と回答した人の割合は、「お子さんや保護者が夕食を無料か安い料金で食べることができる場所（子ども食堂など）を利用できること」と回答した割合が81.8%で最も高くなっている。

身近にあるといいと思うこと別に見た、母子家庭等就業・自立支援センターの利用状況  
 (保護者票問 20×保護者票問 23-e)

<大阪府内全体>



<守口市>

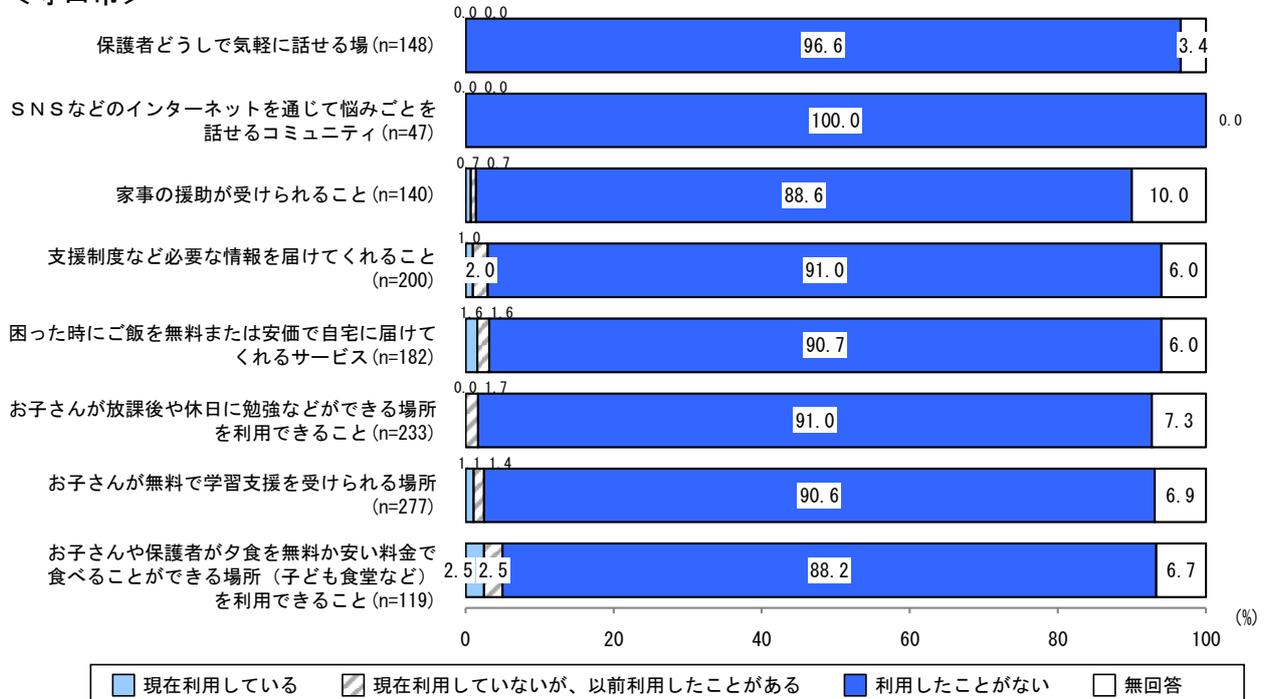
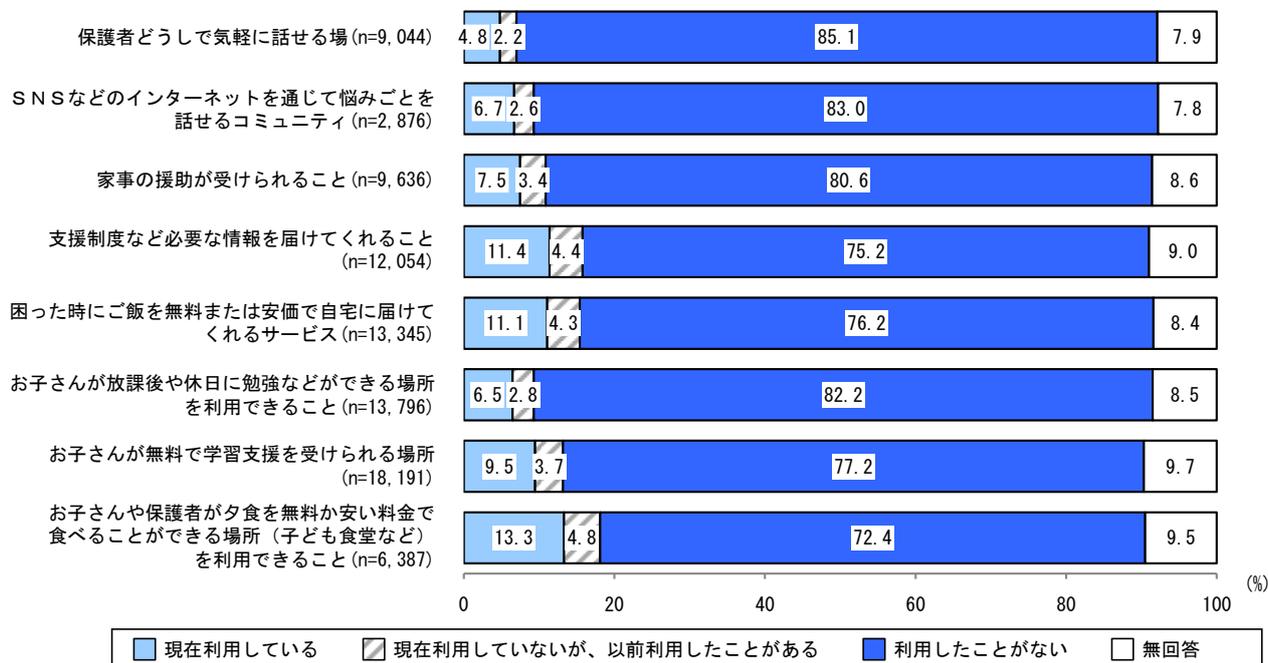


図 45. 身近にあるといいと思うこと別に見た、母子家庭等就業・自立支援センターの利用状況

身近にあるといいと思うこと別に母子家庭等就業・自立支援センターの利用状況を見ると、「現在利用している」と回答した人の割合は、「お子さんや保護者が夕食を無料か安い料金で食べることができる場所 (子ども食堂など) を利用できること」と回答した割合が2.5%で最も高くなっている。

身近にあるといいと思うこと別に見た、低所得の子育て世帯に対する子育て世帯生活支援特別給付金の利用状況（保護者票問 20×保護者票問 23-f）

<大阪府内全体>



<守口市>

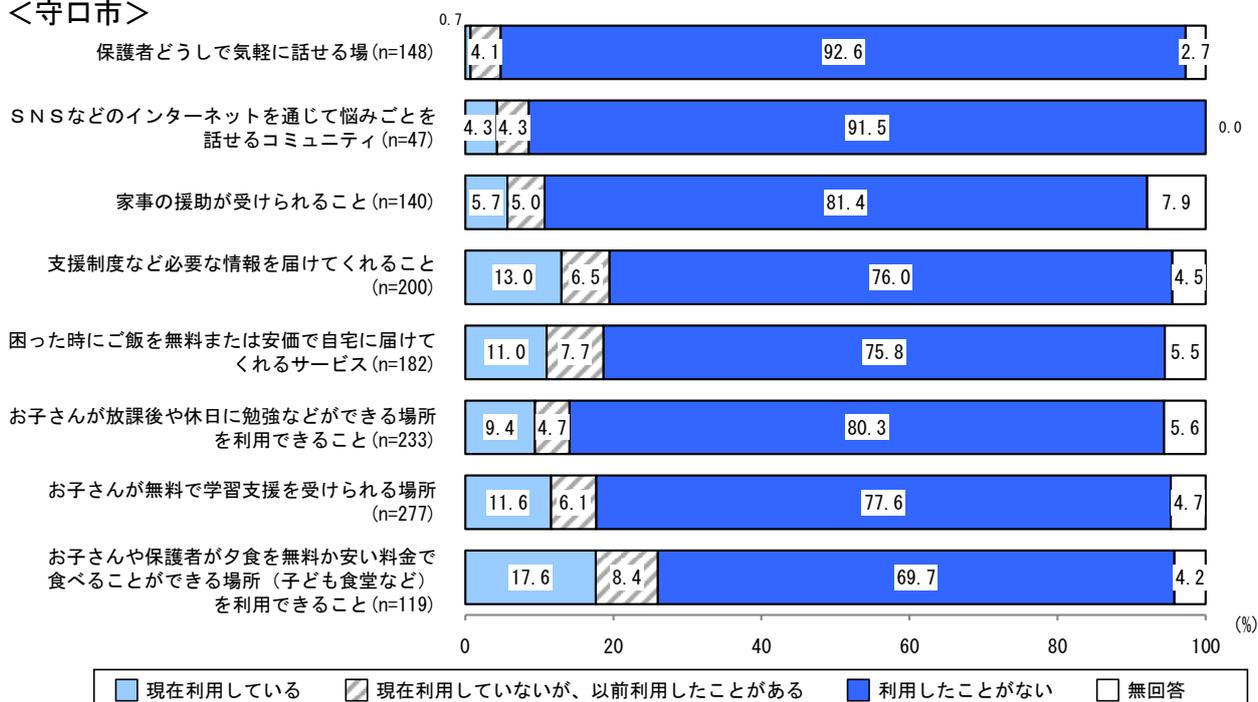
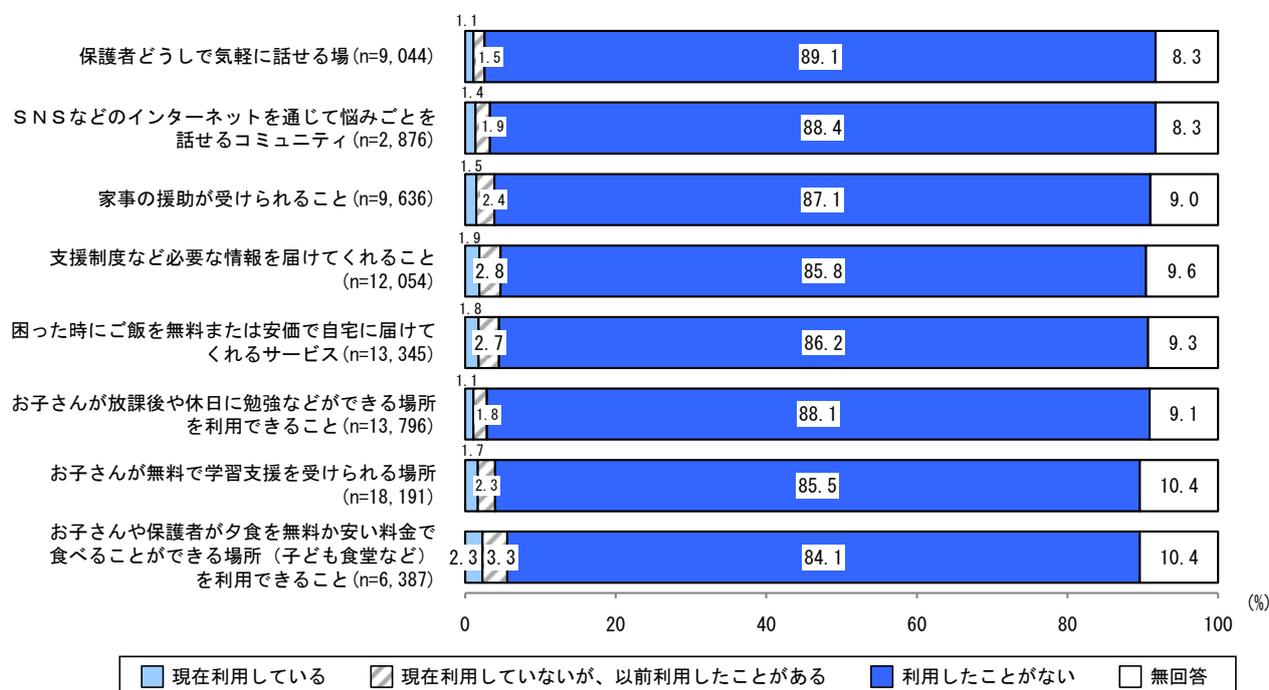


図 46. 身近にあるといいと思うこと別に見た、低所得の子育て世帯に対する子育て世帯生活支援特別給付金の利用状況

身近にあるといいと思うこと別に低所得の子育て世帯に対する子育て世帯生活支援特別給付金の利用状況を見ると、「現在利用している」と回答した人の割合は、「お子さんや保護者が夕食を無料か安い料金で食べることができる場所（子ども食堂など）を利用できること」と回答した割合が17.6%で最も高くなっている。

身近にあるといいと思うこと別に見た、新型コロナウイルス感染症に伴う生活福祉資金（貸付金）の利用状況（保護者票問 20×保護者票問 23-g）

<大阪府内全体>



<守口市>

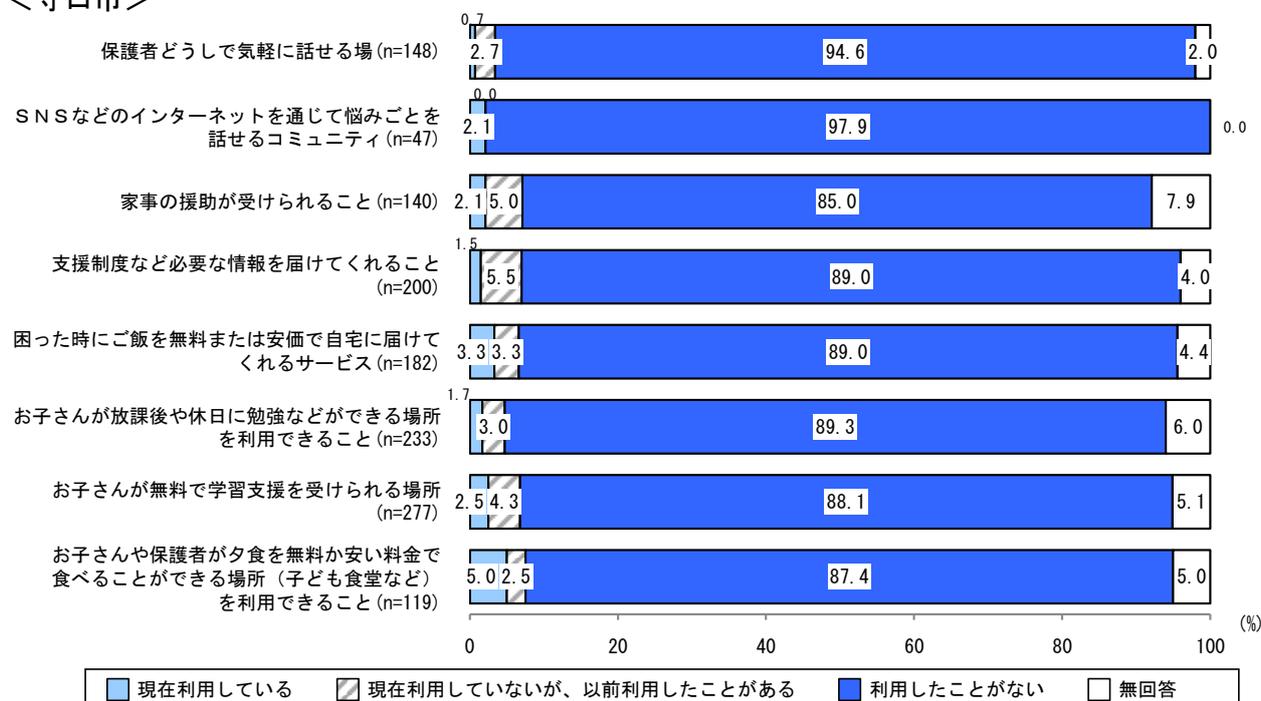


図 47. 身近にあるといいと思うこと別に見た、新型コロナウイルス感染症に伴う生活福祉資金（貸付金）の利用状況

身近にあるといいと思うこと別に新型コロナウイルス感染症に伴う生活福祉資金（貸付金）の利用状況を見ると、「現在利用している」と回答した人の割合は、「お子さんや保護者が夕食を無料か安い料金で食べることができる場所（子ども食堂など）を利用できること」と回答した割合が5.0%で最も高くなっている。

## <家庭状況（制度等）に関する考察>

就学援助の利用状況については、全体で、「現在利用している」が15.8%となっている。困窮度Ⅰ群では57.0%、困窮度Ⅱ群では、44.4%を占めている。次にひとり親世帯を対象とする児童扶養手当の利用状況は、全体で58.7%、困窮度Ⅰ群で78.9%、困窮度Ⅱ群で80.0%となっている。生活保護制度の利用状況は、全体で0.8%と低水準にとどまっている。困窮度Ⅰ群では、3.5%、困窮度Ⅲ群では0.8%となっている。今回調査の回答者から一定層の貧困層が漏れ落ちている可能性についても留意しておく必要がある。いずれにしても、社会保障制度の捕捉率を上げるために、給付を必要な世帯が利用しやすいような各制度の要件緩和、手続きの簡素化等の施策が求められている。

ひとり親世帯について、養育費の取り決めや受け取りをしている世帯は、全体で23.8%にとどまっている。「取り決めをしておらず、受け取っていない」と回答した割合は、困窮度Ⅰ群で51.9%、困窮度Ⅱ群で40.0%となっている。離別の場合、生活状況の激変のなか、ひとり親自身が養育費の取り決めを行うことは容易なことではないため、相談機関等の支援策の充実が求められる。

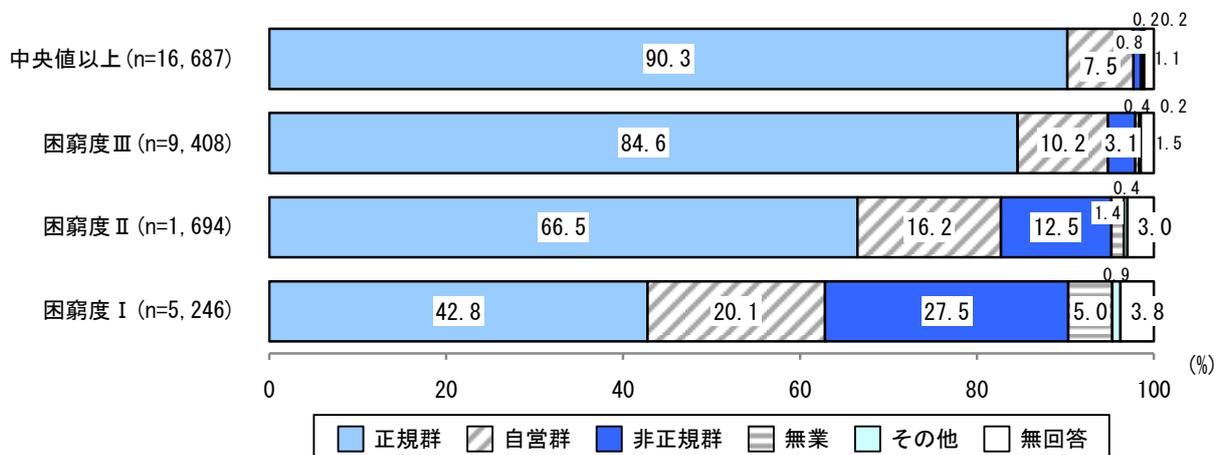
初めて親となった年齢と最終学歴について、特に母親に着目すると、「10代」で中学校卒業が31.6%、高等学校中途退学が31.6%と、他の年齢階層に比べて高くなっている。妊娠・出産しても学修を中断せず継続できるような学修面でのサポート体制、子育て支援が求められる。また学びを一時中断した者についても、あとからでも「学び直し」を可能にするような学修機会の提供等が求められる。

住宅形態別に家計の状況をみると、「府営・市営の住宅」において「赤字である」と回答した者の割合が77.8%と7割強を占める。同様に、府営・市営の住宅については、「子どもの将来のための貯蓄状況」についても「貯蓄をしたいが、できていない」が66.7%と経済的余裕のなさが示されている。家賃分の負担軽減に加えて、生活費部分の経済的支援の必要性が示されている。

### 3-2. 雇用

#### 困窮度別に見た、就労状況（保護者票問9より）

##### <大阪府内全体>



##### <守口市>

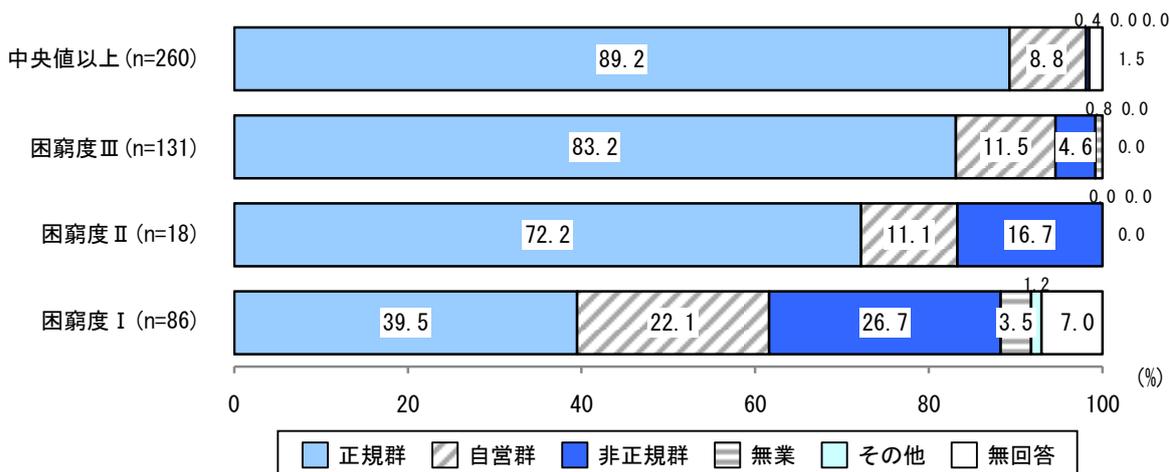


図 48. 困窮度別に見た、就労状況

困窮度別に就労状況を見ると、困窮度が高まるにつれ、「正規群」の割合が低くなり、「自営群」、「非正規群」の割合が高くなっている。困窮度Ⅰ群においては「正規群」を除いたすべての項目において、他の群より割合が高くなっている。

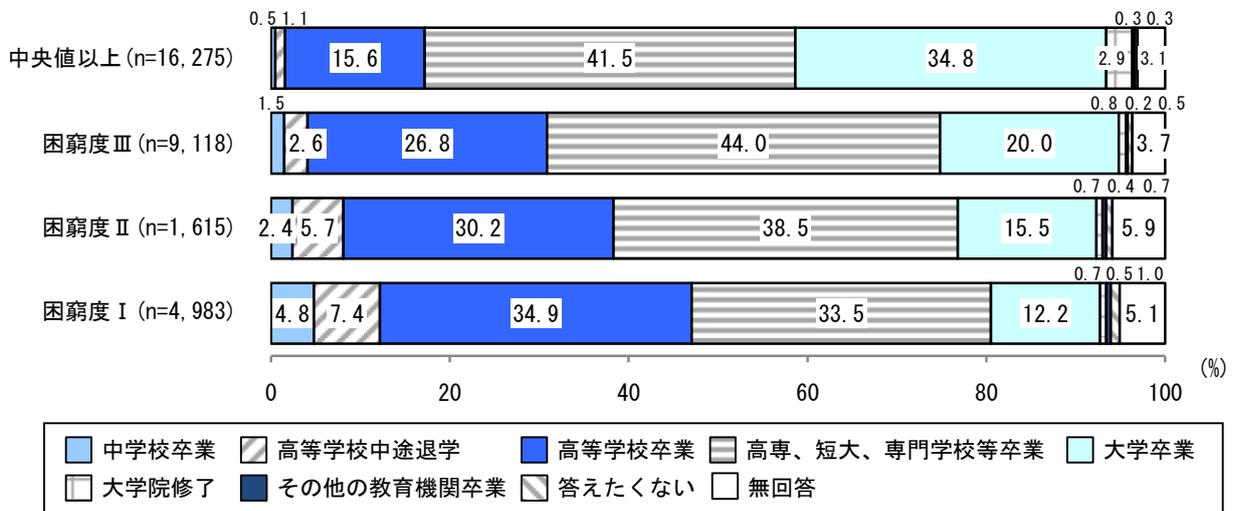
※分類方法は以下の通り。

父母あるいは主たる生計者に正規が含まれば「正規群」（問9選択肢1）、  
 上記以外で、父母あるいは主たる生計者に自営が含まれば「自営群」（問9選択肢4）、  
 上記以外で、父母あるいは主たる生計者に非正規が含まれば「非正規群」（問9選択肢2、3）、  
 上記以外で、誰も働いていなければ「無業」（問9選択肢6、7）。  
 上記以外が「その他」となる。

ここでの無業とは、「ふだん仕事をしていない者、すなわち、ふだん全く仕事をしていない者及び臨時的にしか仕事をしていない者」を指す（就業構造基本調査による）。クロス集計で「就労状況」を用いる時は、上記区分による。

困窮度別に見た、お母さんの最終学歴（保護者票問8）

<大阪府内全体>



<守口市>

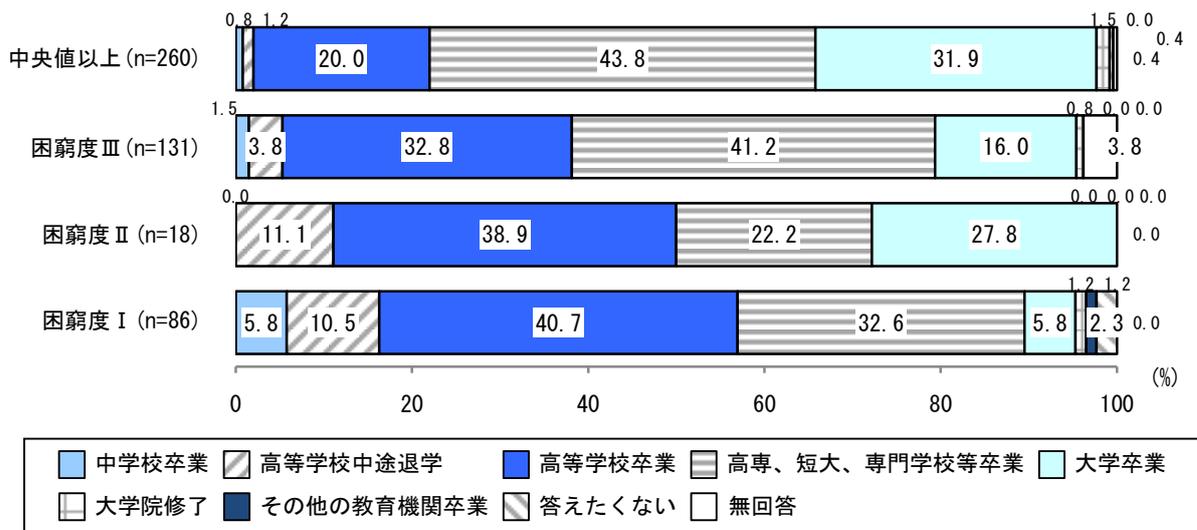
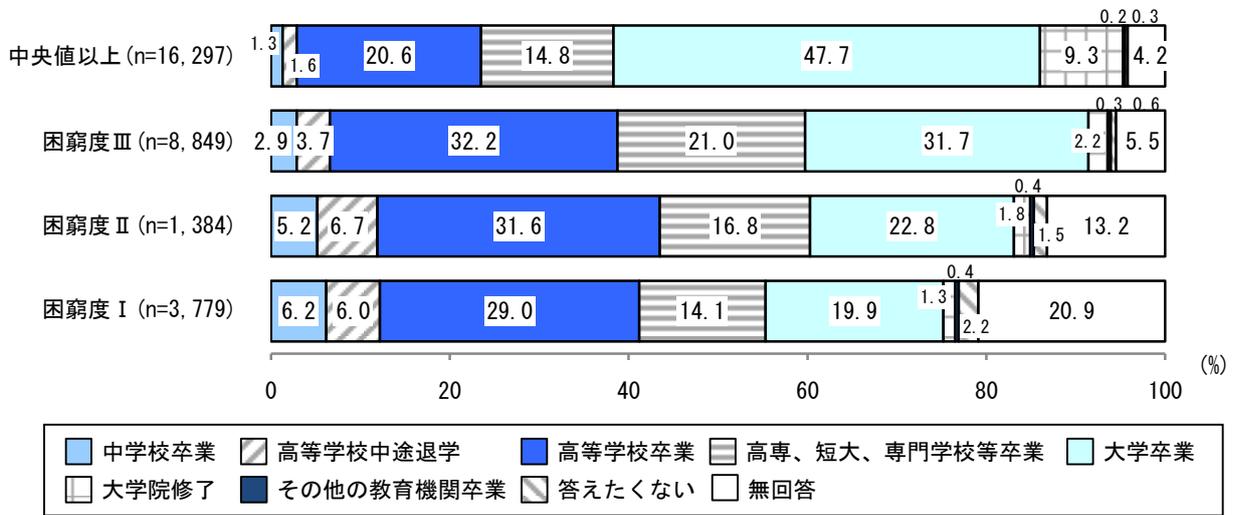


図 49. 困窮度別に見た、お母さんの最終学歴

困窮度別に母親の最終学歴を見ると、「高等学校中途退学」の割合が困窮度Ⅱ群で最も高くなっている。困窮度Ⅰ～Ⅲ群では中央値以上群に比べ、「大学卒業」の割合が低い。

困窮度別に見た、お父さんの最終学歴（保護者票問8）

<大阪府内全体>



<守口市>

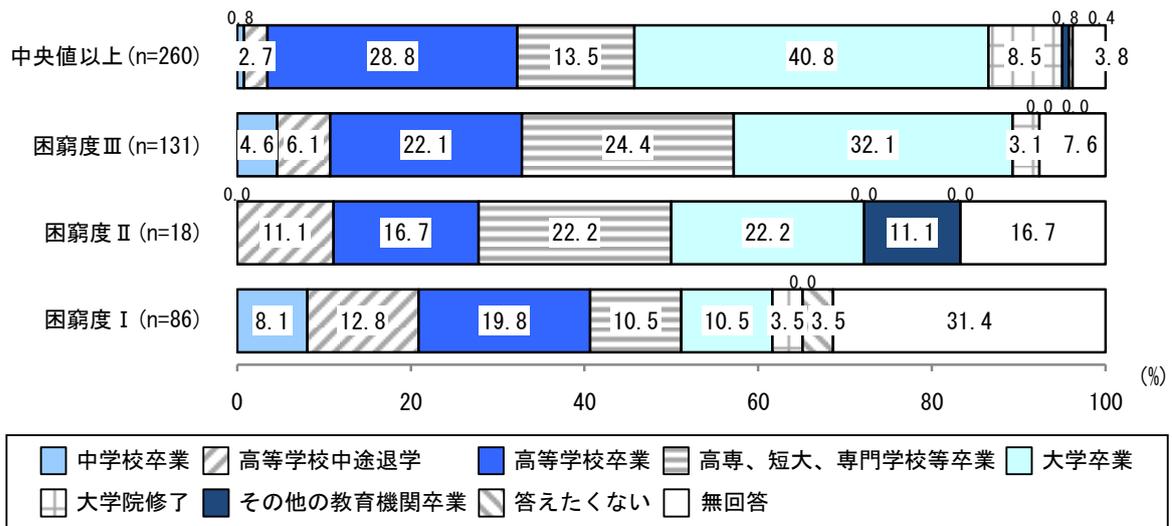
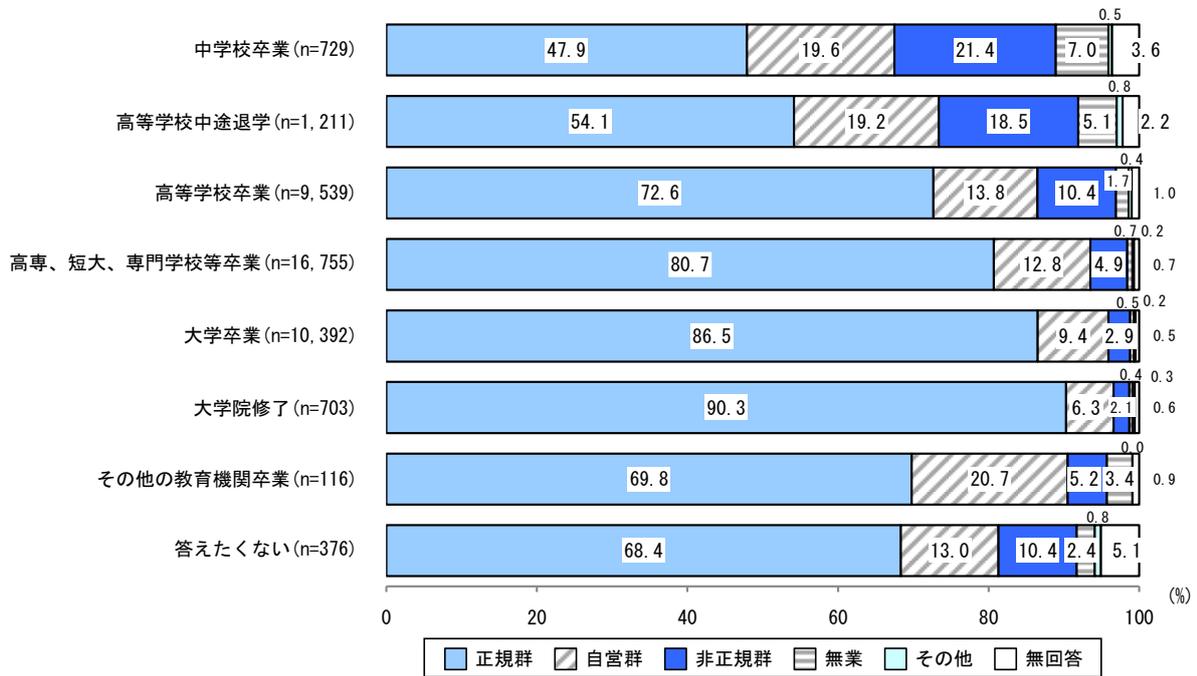


図 50. 困窮度別に見た、お父さんの最終学歴

困窮度別に父親の最終学歴を見ると、「中学校卒業」と「高等学校中途退学」の割合は困窮度Ⅰ群で最も高くなっている。困窮度Ⅰ群において、「中学校卒業」と「高等学校中途退学」の割合はそれぞれ8.1%、12.8%である。また、困窮度Ⅰ群では無回答（31.4%）の割合も高い。

お母さんの最終学歴別に見た、就労状況（保護者票問8×保護者票問9）

<大阪府内全体>



<守口市>

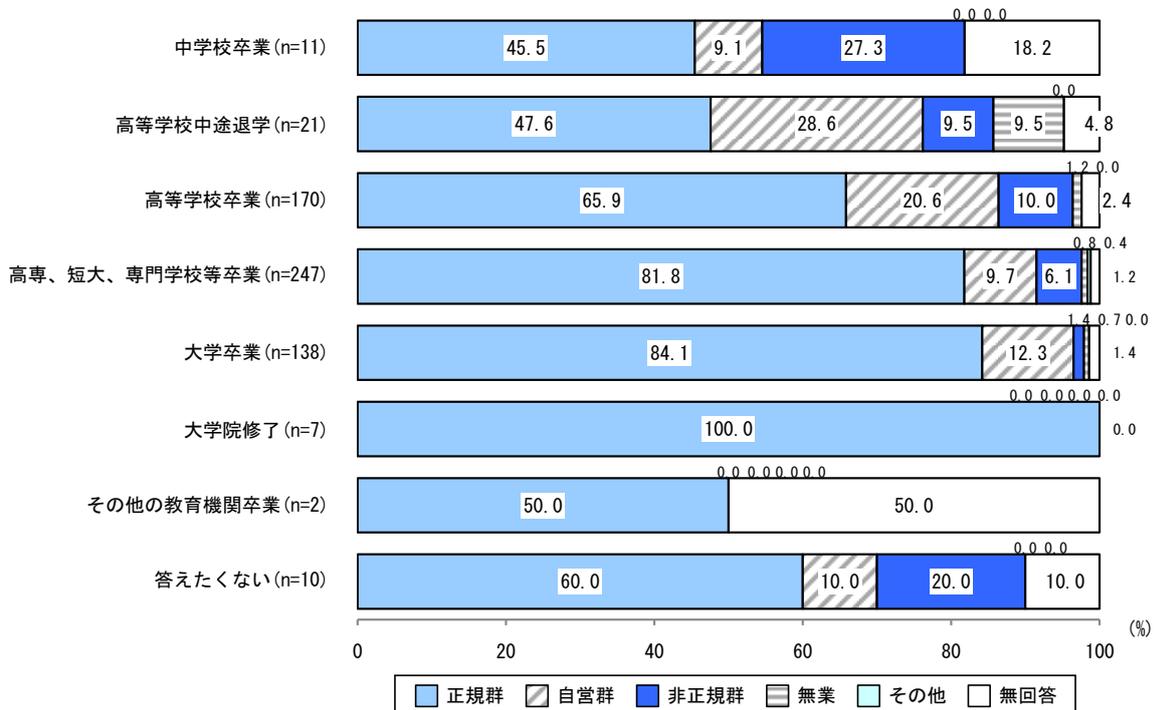
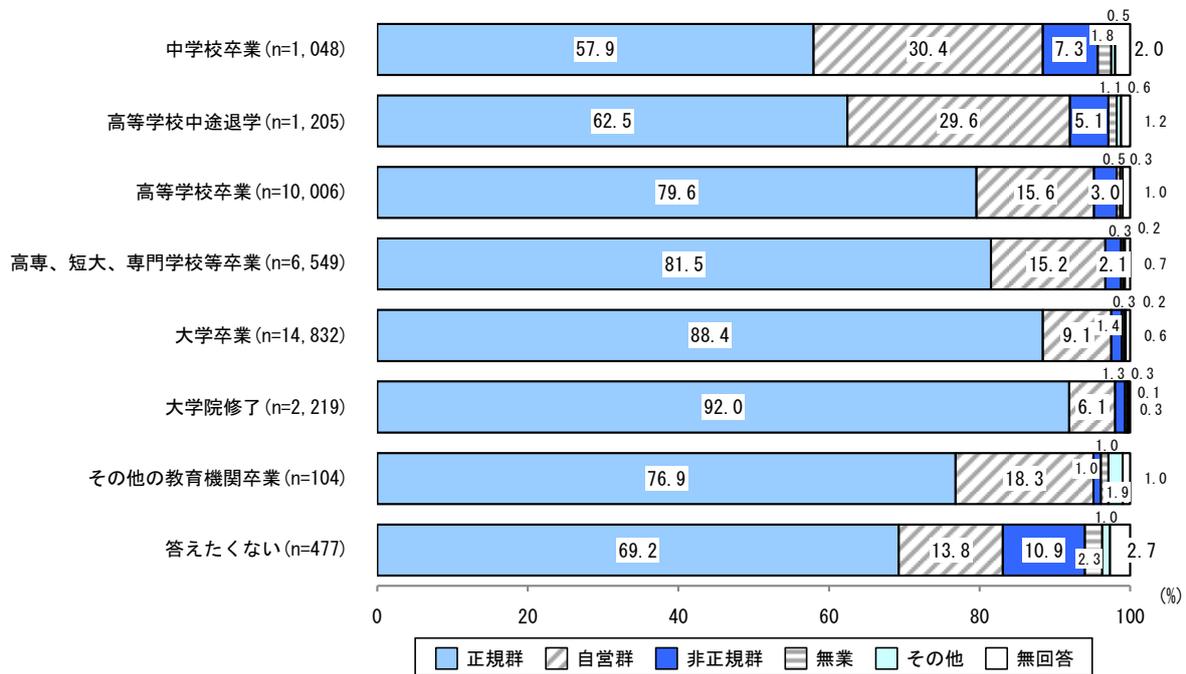


図 51. お母さんの最終学歴別に見た、就労状況

母親の最終学歴別に就労状況を見ると、「母親の最終学歴」が高くなるにつれて「正規群」の割合が高くなっている。

お父さんの最終学歴別に見た、就労状況（保護者票問 8 × 保護者票問 9）

<大阪府内全体>



<守口市>

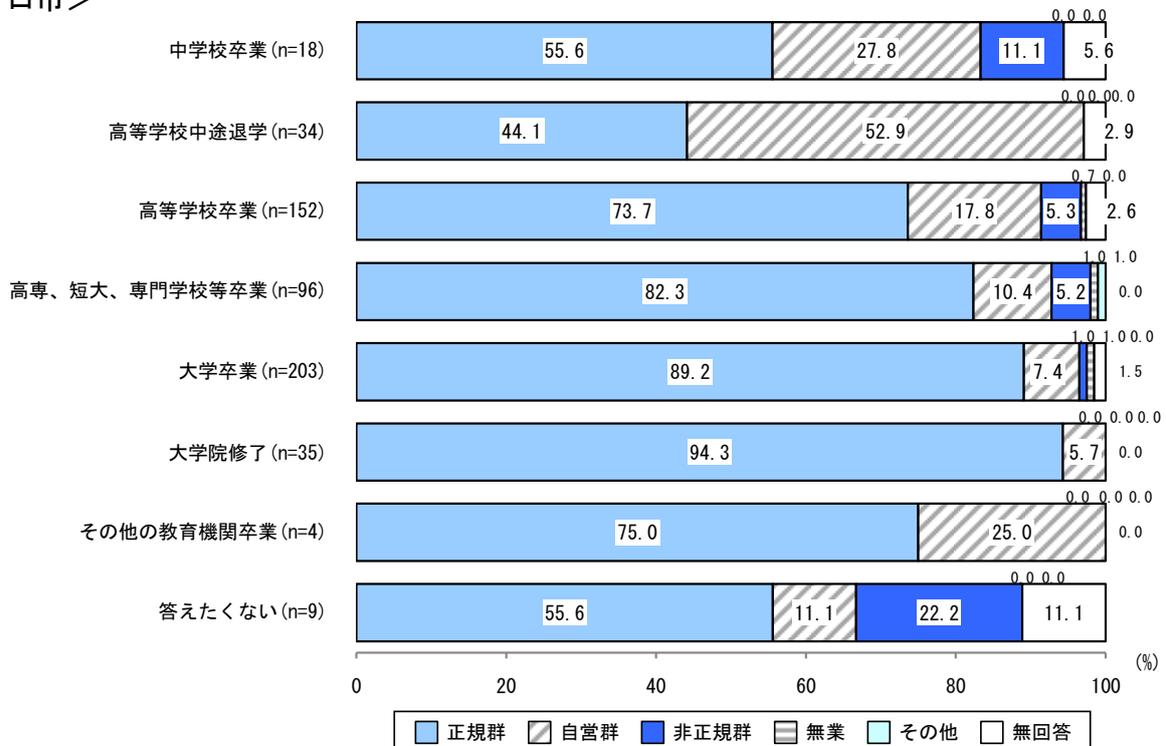
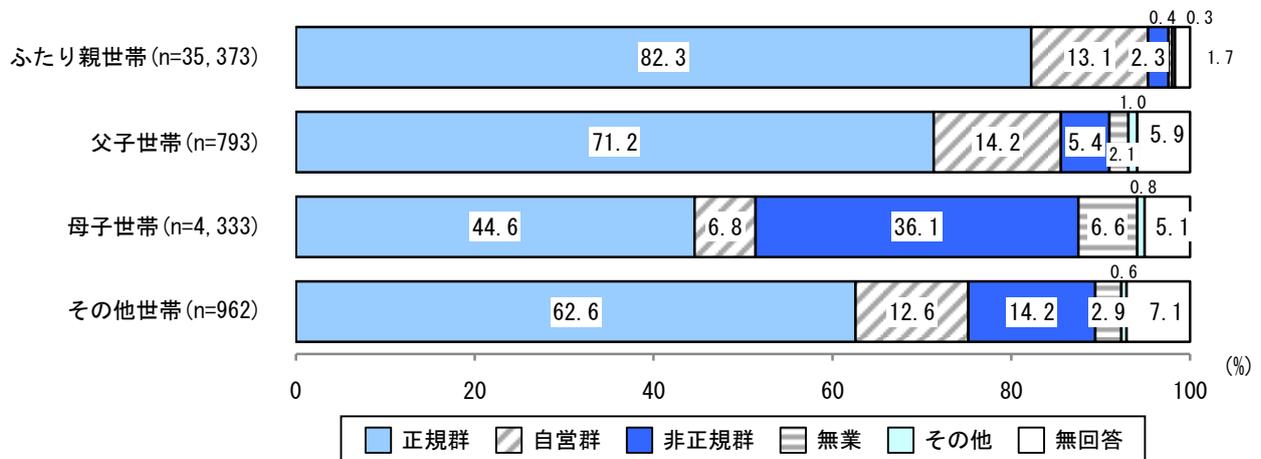


図 52. お父さんの最終学歴別に見た、就労状況

父親の最終学歴別に就労状況を見ると、概ね、父親の最終学歴が高くなるにつれて「正規群」の割合が高くなっている。

世帯構成別に見た、就労状況（保護者票問2×保護者票問9）

<大阪府内全体>



<守口市>

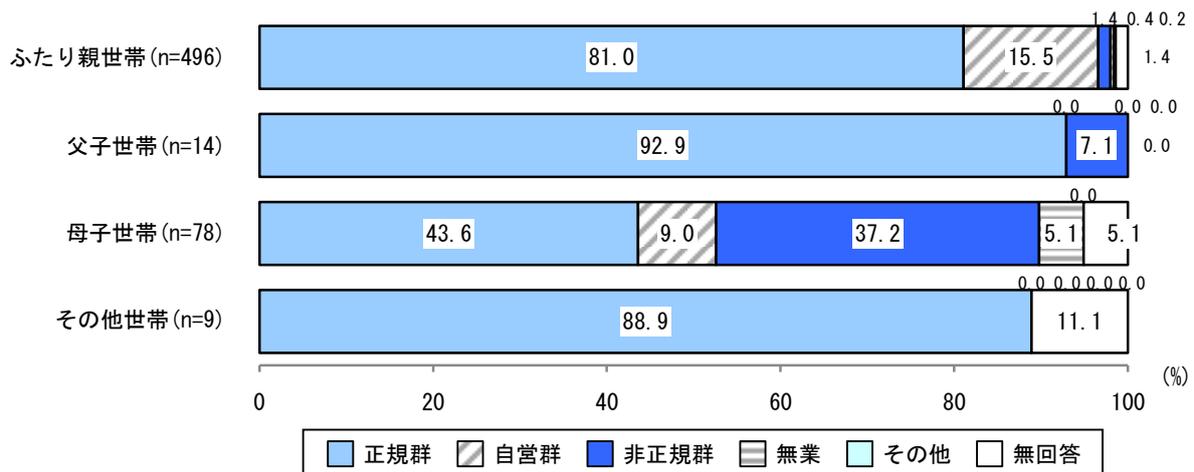
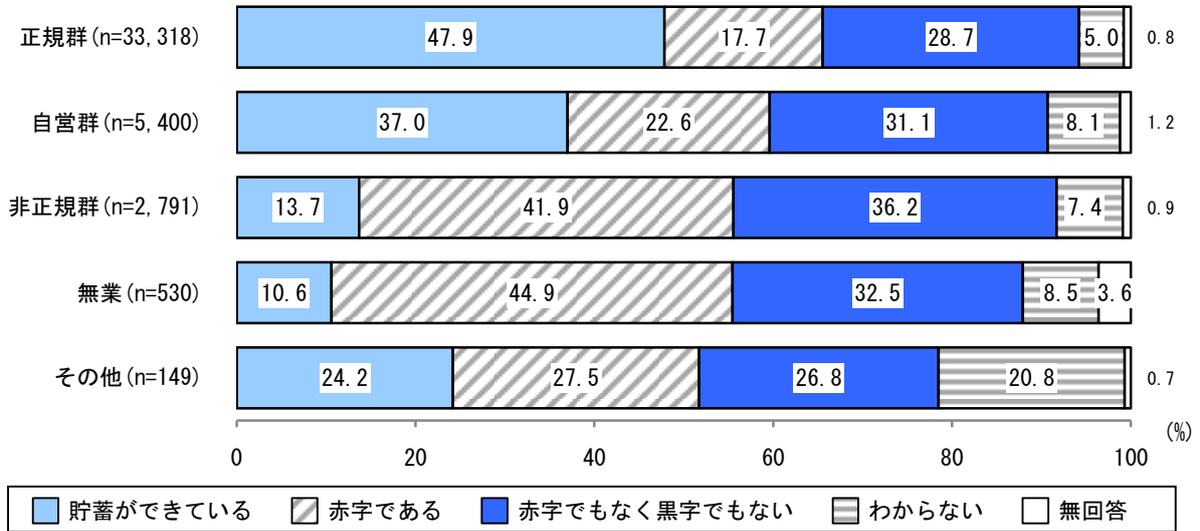


図 53. 世帯構成別に見た、就労状況

世帯構成別に就労状況を見ると、「ふたり親世帯」では「正規群」の割合が81.0%であるが、「母子世帯」では43.6%と低くなっている。「非正規群」は、「母子世帯」では37.2%となっている。

就労状況別に見た、家計の状況（保護者票問9×保護者票問6(1)）

<大阪府内全体>



<守口市>

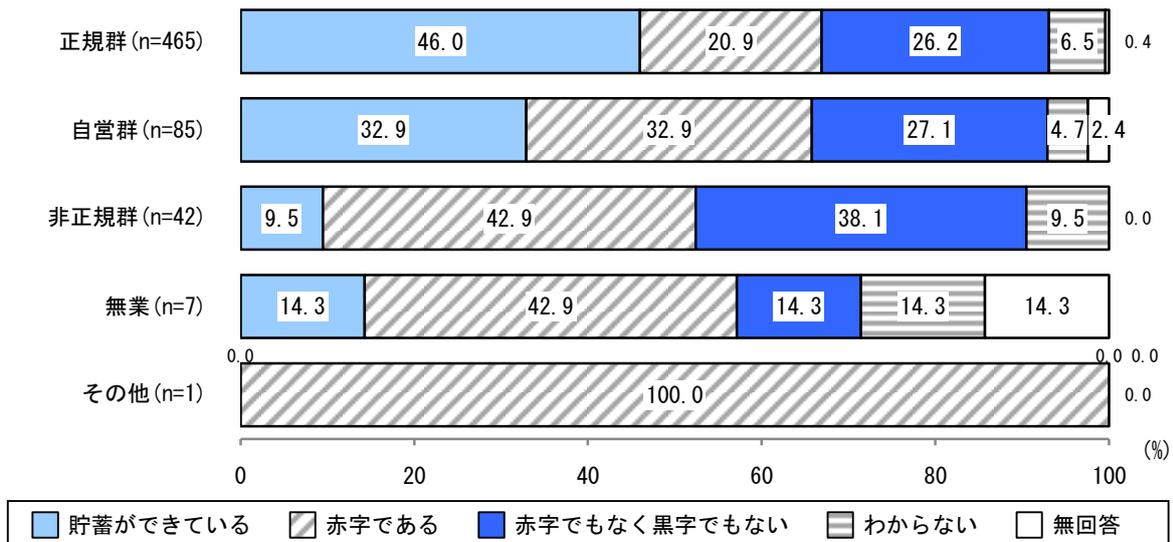


図 54. 就労状況別に見た、家計の状況

就労状況別に家計の状況を見ると、「正規群」では「貯蓄ができています」の割合が46.0%となっている。「非正規群」や「無業」では「赤字である」と回答した人の割合が42.9%にのぼっている。

## <雇用に関する考察>

はじめに、困窮度別の保護者の就労状況と最終学歴について、中央値以上群と困窮度Ⅰ群の間で差が大きい項目に着目して述べる。まず、親の就労状況を困窮度別に見ると、中央値以上群は困窮度Ⅰ群と比べ、「正規」群（89.2%対39.5%）が2倍以上高くなっている。一方で、困窮度Ⅰ群は中央値以上群と比べ、「非正規」群（26.7%対0.4%）が約26ポイント高くなっている。母親の最終学歴を困窮度別に見ると、困窮度Ⅰ群は中央値以上群と比べ、「高等学校卒業」群（40.7%対20.0%）は約2倍である。また、中央値以上群は困窮度Ⅰ群と比べ、「大学卒業」群（31.9%対5.8%）は約5倍である。一方で、父親の最終学歴においては、中央値以上群は困窮度Ⅰ群と比べ、「高等学校卒業」群（28.8%対19.8%）は約10ポイント高くなっている。また、中央値以上群は困窮度Ⅰ群と比べ、「大学卒業」群（40.8%対10.5%）は約4倍である。これらの結果から、経済的に困難な世帯の保護者の雇用形態が所得階層の分布に反映されていることが示された。また、困窮度が高い群では学歴が低い傾向が見られる。なお、考察にあたっては、父親の最終学歴を困窮度別に見た場合に、困窮度Ⅰ群において「無回答」の割合が高い（31.4%）点に留意する必要がある。

次に、保護者の最終学歴別に就労状況を確認する。母親の最終学歴別に見ると、「大学卒業」群は「高等学校卒業」群と比べ、「正規」群（84.1%対65.9%）が18ポイント高くなっている。また、父親の最終学歴別に見ると、「大学卒業」群は「高等学校卒業」群と比べ、「正規」群（89.2%対73.7%）が約16ポイント高くなっている。この結果から、学歴が高い群ほど正規雇用の割合が高いことを示唆している。

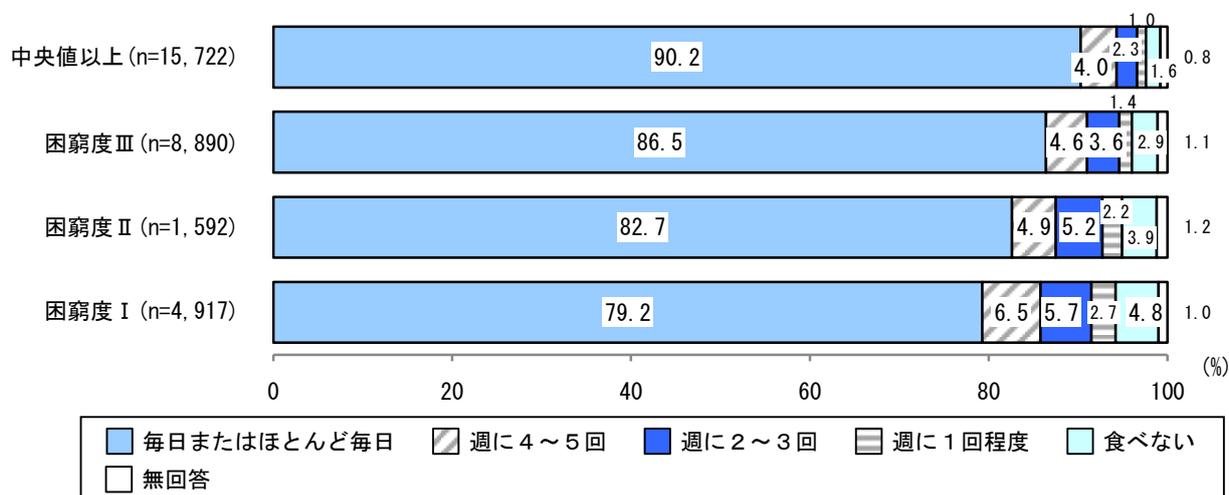
親の就労状況を世帯構成別に見ると、ふたり親世帯は母子世帯に比べ、「正規」群（81.0%対43.6%）が37ポイント以上高くなっている。また、父子世帯は母子世帯と比べ、「正規」群（92.9%対43.6%）が49ポイント以上高く、母子世帯の正規雇用の割合の低さが顕著である。さらに、母子世帯は「非正規」群（37.2%）の割合がその他の世帯に比べ非常に高くなっており、不安定な就労状況にあることを示唆している。

最後に、保護者の就労状況別に見る家計の状況に着目する。親の就労状況別に見ると、「正規」群は「非正規」群と比べ、「貯蓄が出来ている」（46.0%対9.5%）は約5倍であり、大きな開きが見られる。また、親の就労状況別で見ると、「非正規」群は「正規」群と比べ、家計状況が「赤字である」（42.9%対20.9%）は約2倍である。この結果から、保護者の就労状況が正規雇用であるほど、貯蓄ができるなど生活が安定している傾向が見られる。

### 3-3. 健康

#### 困窮度別に見た、朝食の頻度（子ども票問4(1)）

##### <大阪府内全体>



##### <守口市>

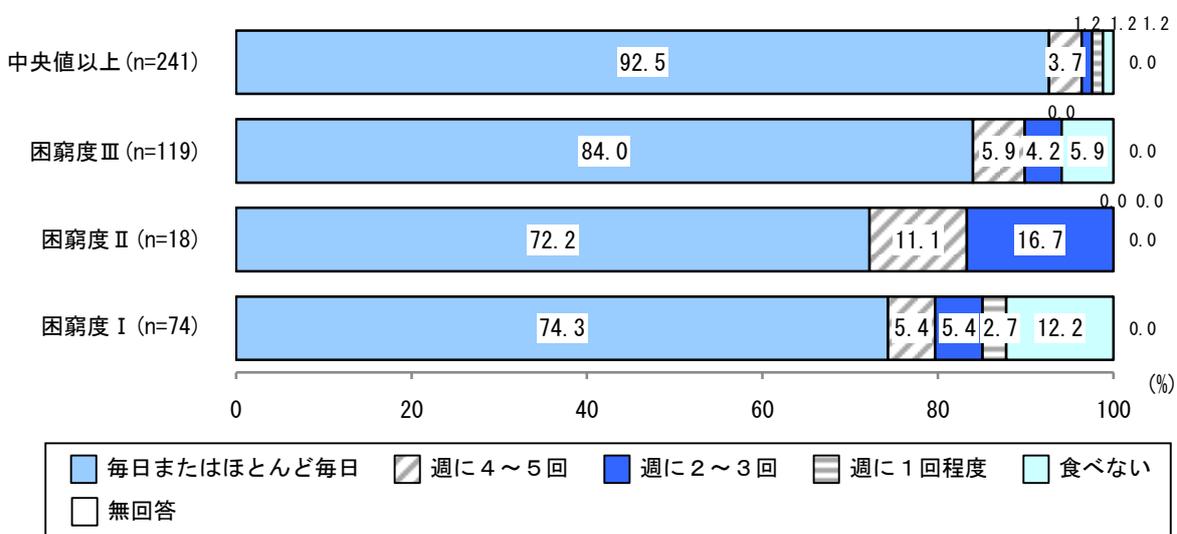
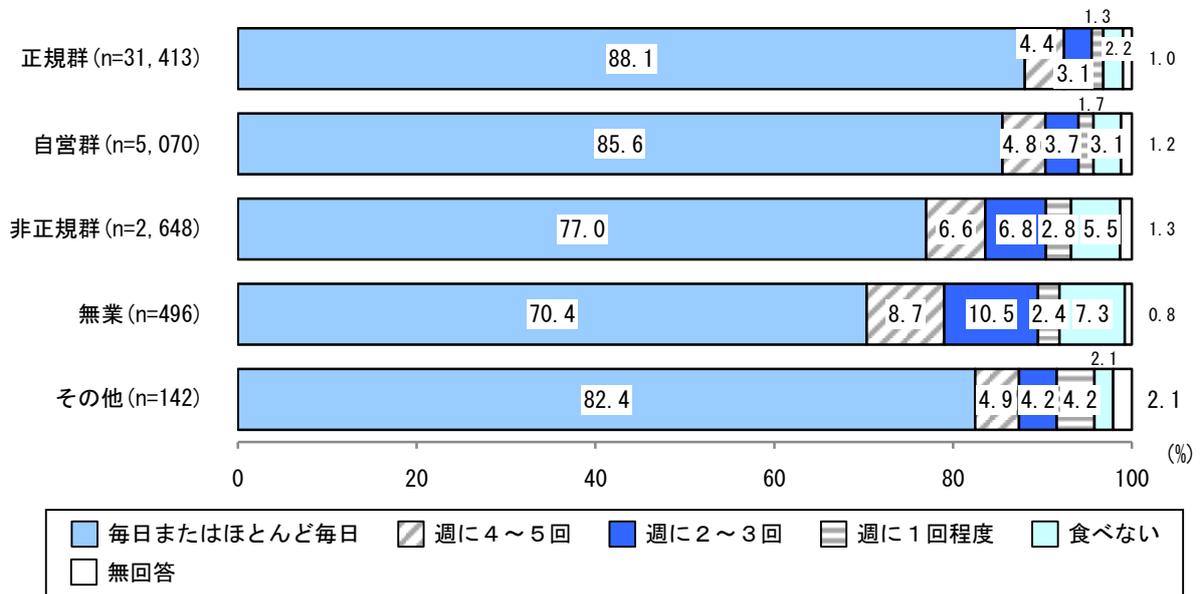


図 55. 困窮度別に見た、朝食の頻度

困窮度別に朝食の頻度を見ると、「毎日またはほとんど毎日」朝食をとっていると回答した人の割合は、困窮度Ⅱ群が72.2%で最も低くなっている。

就労状況別に見た、朝食の頻度（子ども票問4(1)）

<大阪府内全体>



<守口市>

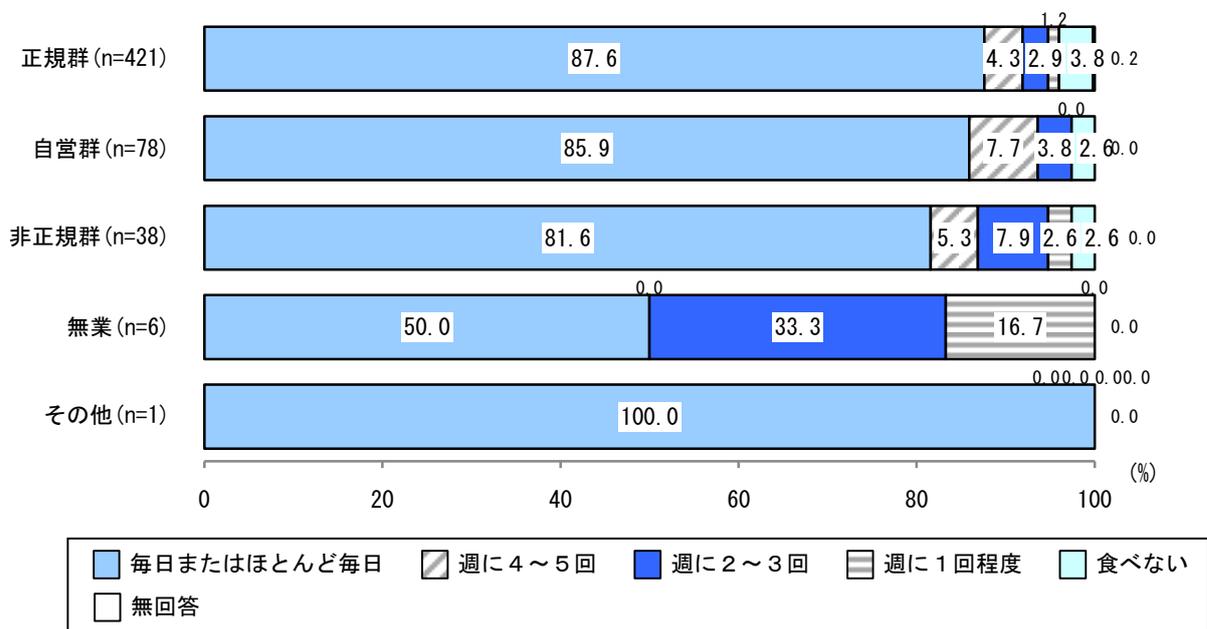
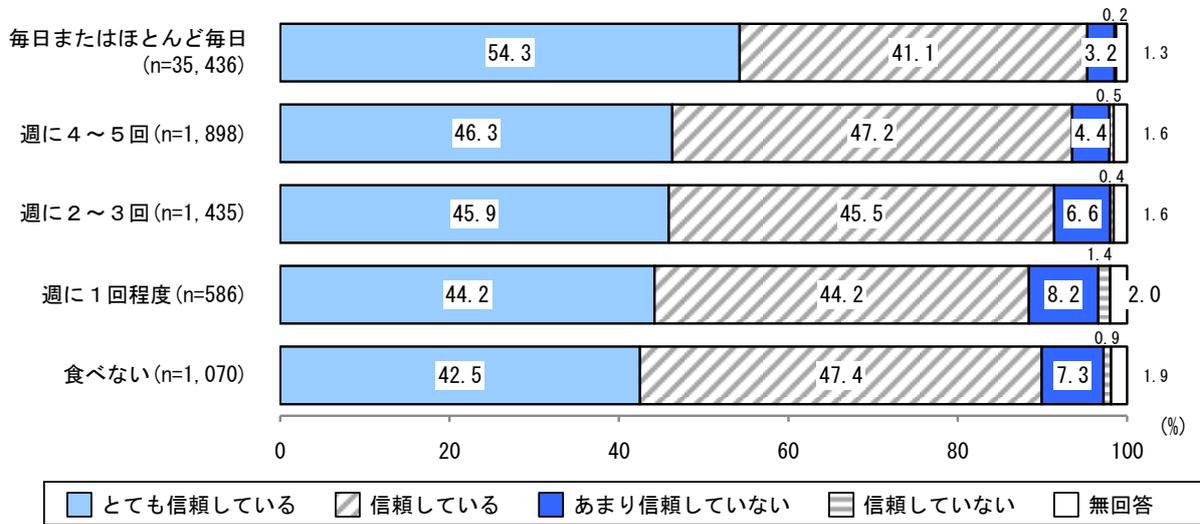


図 56. 就労状況別に見た、朝食の頻度

就労状況別に朝食の頻度を見ると、「毎日またはほとんど毎日」朝食をとる割合は、「正規群」(87.6%) が最も高く、次いで、「自営群」(85.9%)、「非正規群」(81.6%)、「無業」(50.0%) の順で朝食の頻度が低くなっている。

朝食の頻度別に見た、子どもへの信頼度（子ども票問4(1)×保護者票問13(1)）

<大阪府内全体>



<守口市>

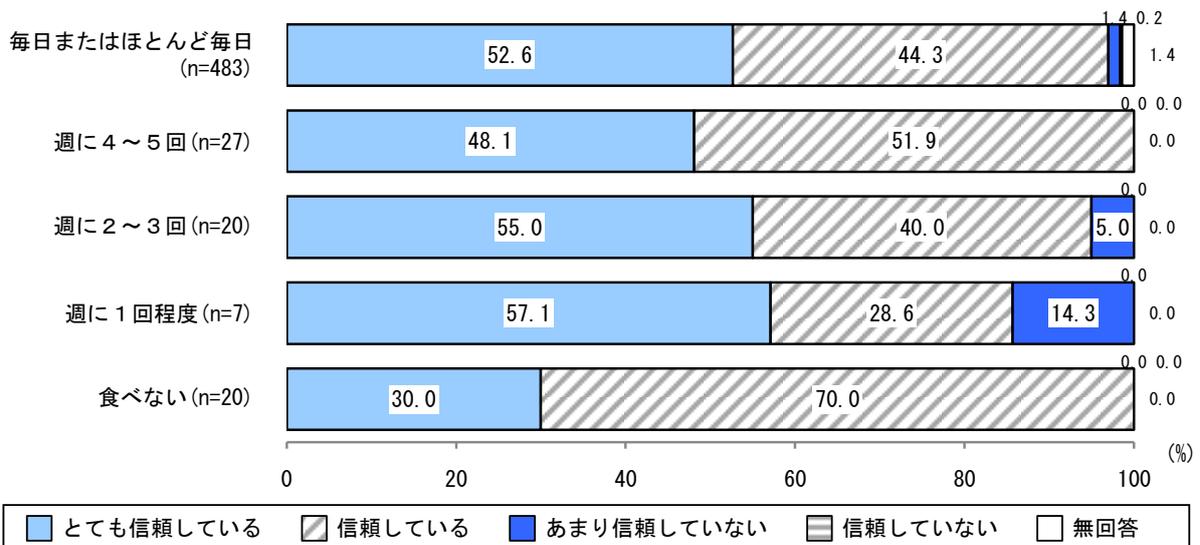
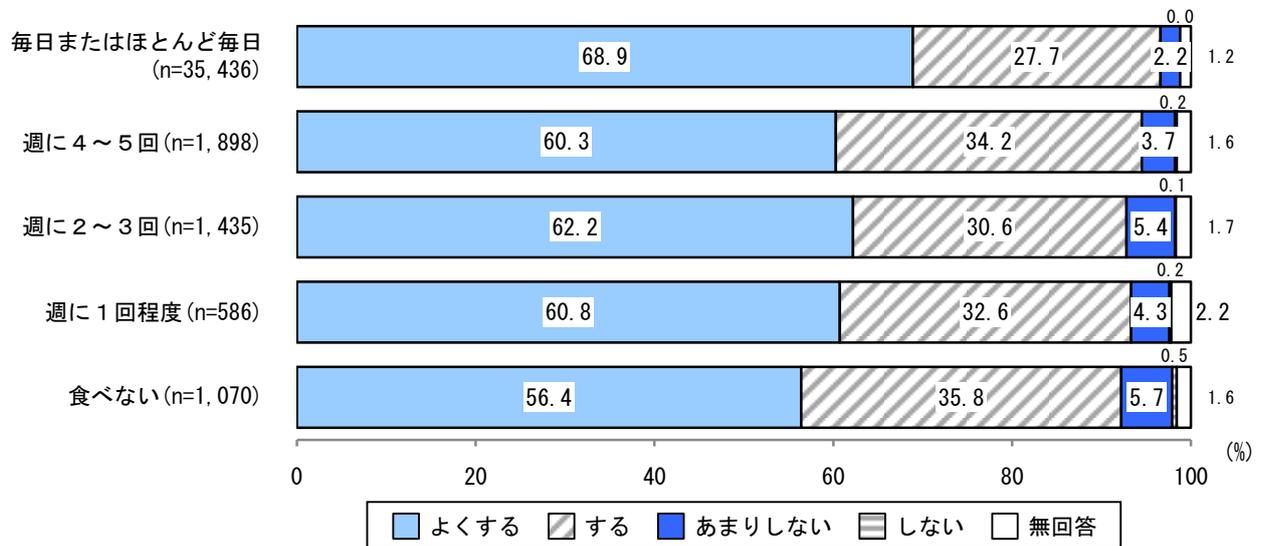


図 57. 朝食の頻度別に見た、子どもへの信頼度

朝食の頻度別に子どもへの信頼度を見ると、朝食を「食べない」と回答した人で子どもを「とても信頼している」割合が30.0%と最も低くなっている。

朝食の頻度別に見た、子どもとの会話頻度（子ども票問4(1)×保護者票問13(2)）

<大阪府内全体>



<守口市>

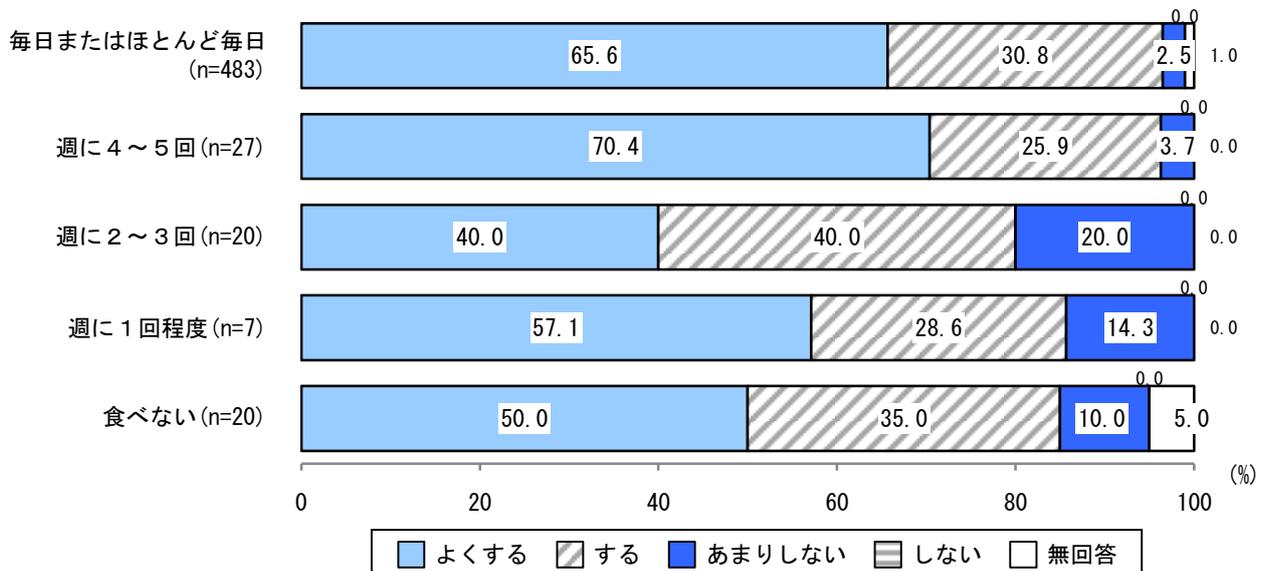
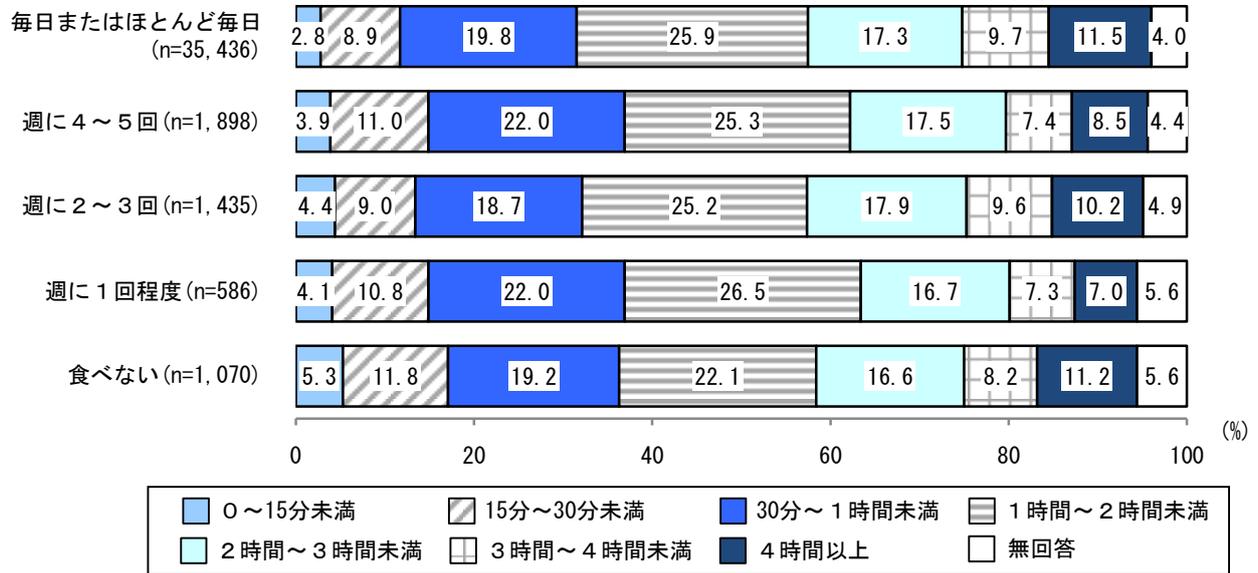


図 58. 朝食の頻度別に見た、子どもとの会話頻度

朝食の頻度別に子どもとの会話頻度を見ると、「週に4～5回」朝食をとっていると回答した人は、会話を「よくする」の回答が70.4%であるのに対し、「週に2～3回」朝食をとっていると回答した人は、会話を「よくする」と回答した人の割合が40.0%と低くなっている。

朝食の頻度別に見た、平日での子どもとの関わり時間（子ども票問4(1)×保護者票問13(3)）

<大阪府内全体>



<守口市>

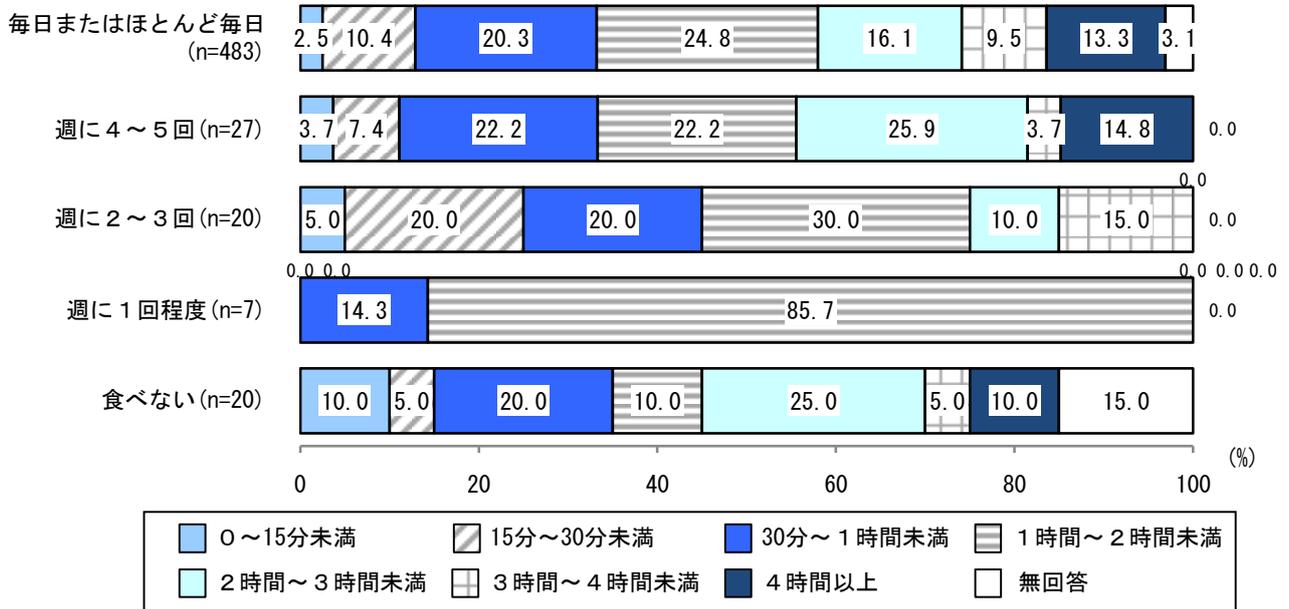
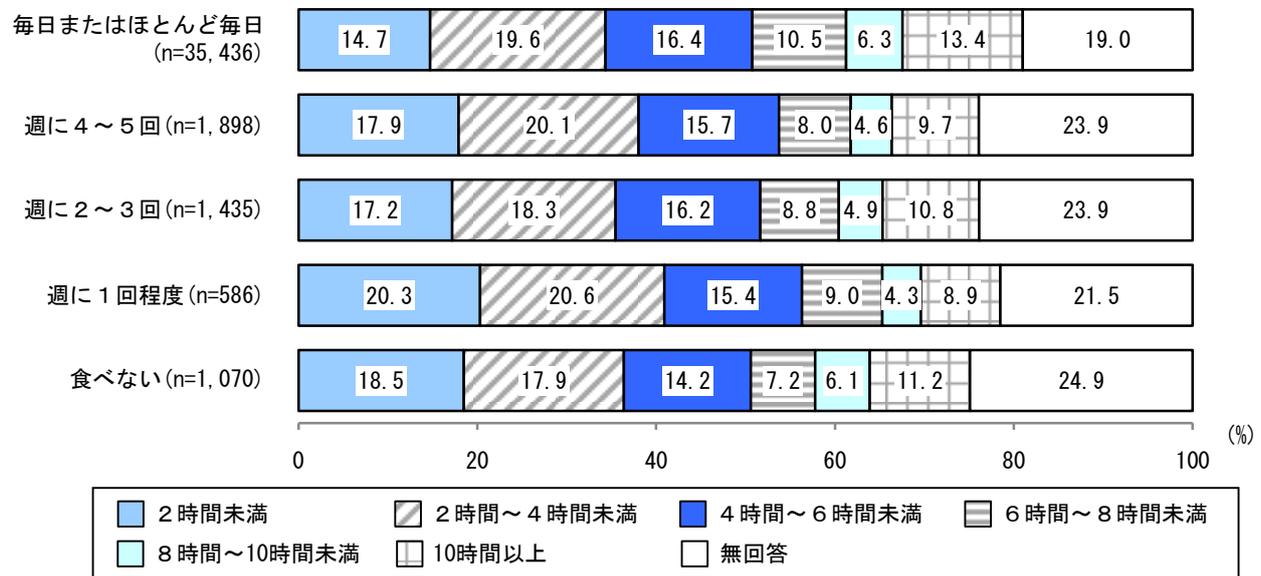


図 59. 朝食の頻度別に見た、平日での子どもとの関わり時間

朝食の頻度別に平日での子どもとの関わり時間を見ると、朝食を「食べない」人で「0~15分未満」が10.0%と最も高くなっている。

朝食の頻度別に見た、休日での子どもとの関わり時間（子ども票問4(1)×保護者票問13(3)）

<大阪府内全体>



<守口市>

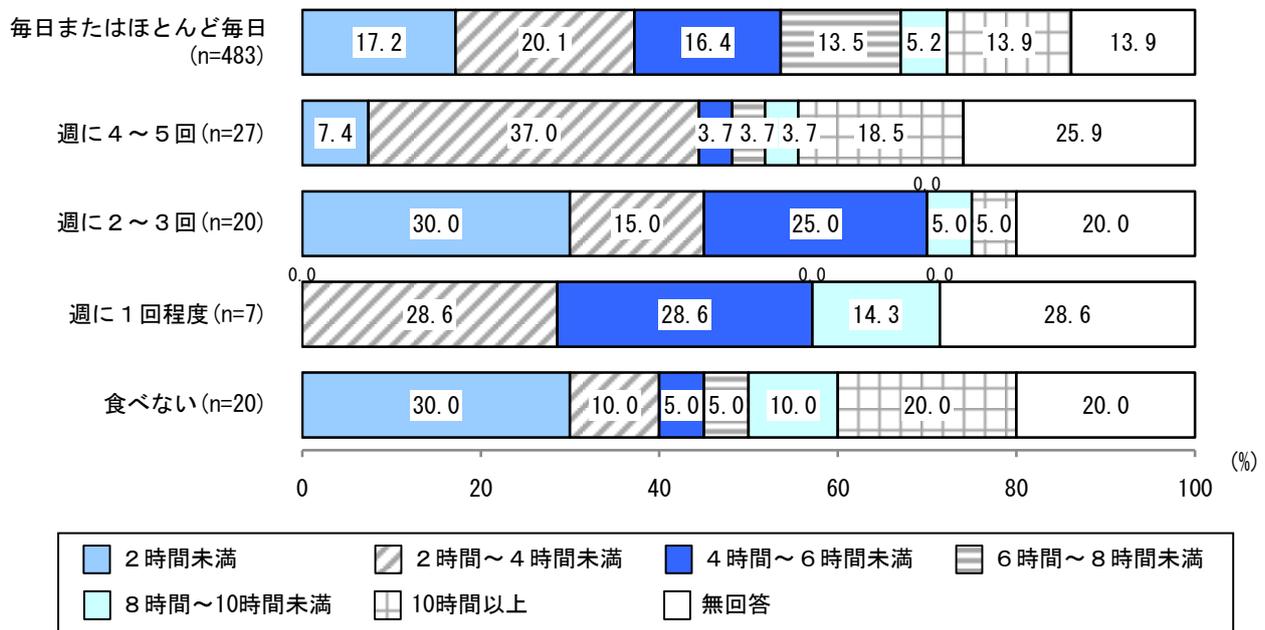
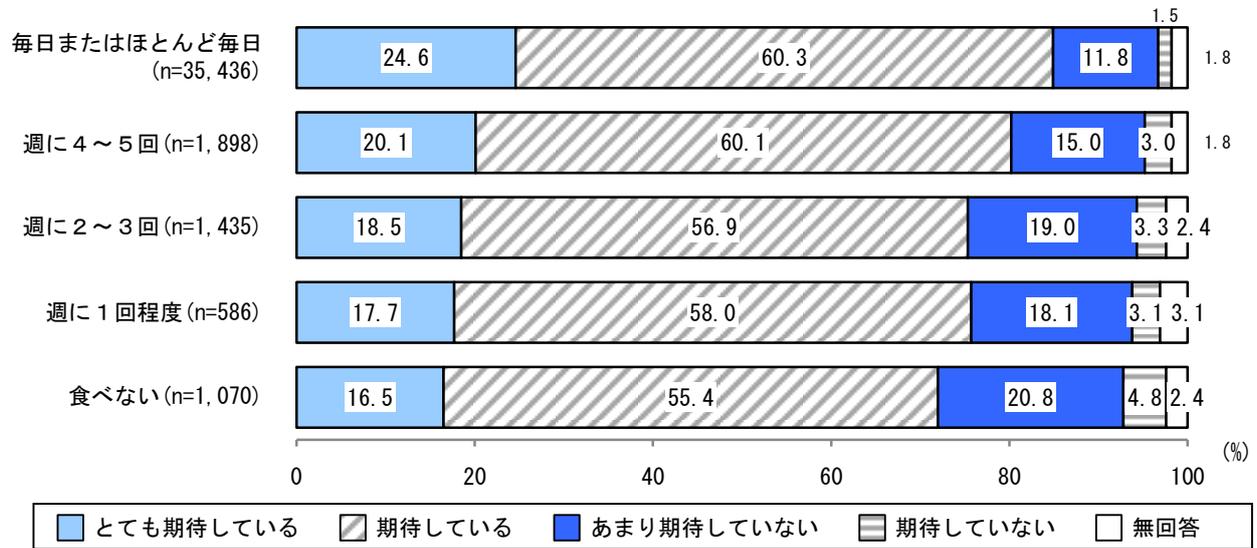


図 60. 朝食の頻度別に見た、休日での子どもとの関わり時間

朝食の頻度別に休日での子どもとの関わり時間を見ると、朝食を「週に2~3回」とっている人や朝食を「食べない」人で休日に子どもと一緒にいる時間が「2時間未満」の割合が30.0%と最も高くなっている。

朝食の頻度別に見た、子どもの将来への期待度（子ども票問4(1)×保護者票問13(4)）

<大阪府内全体>



<守口市>

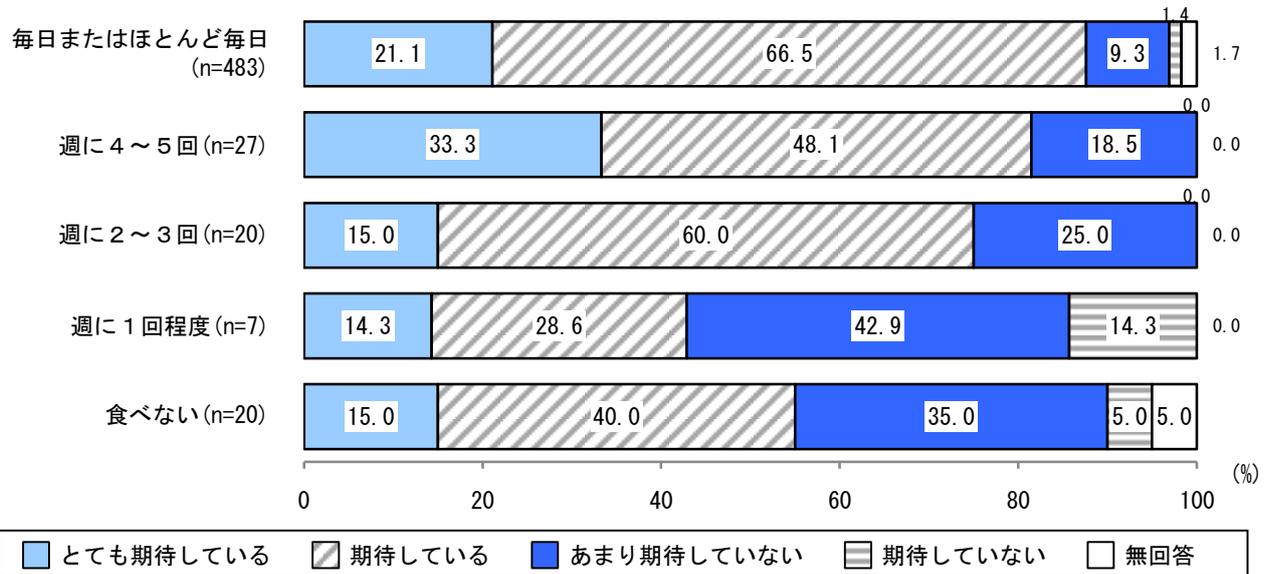


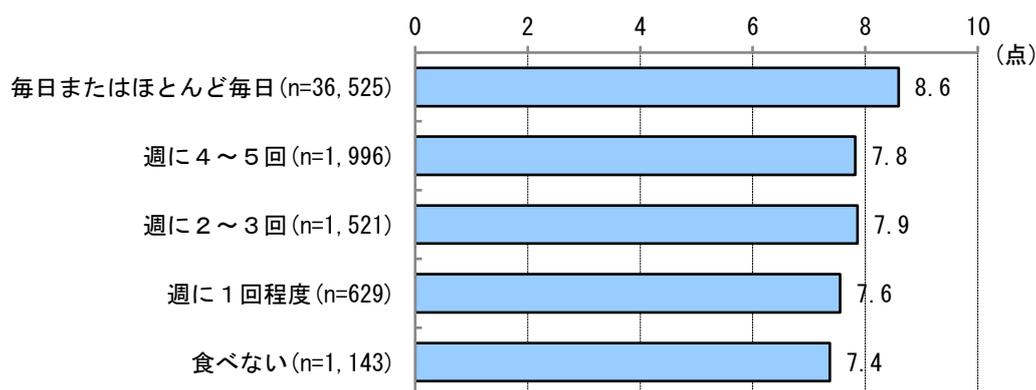
図 61. 朝食の頻度別に見た、子どもの将来への期待度

朝食の頻度別に子どもの将来への期待度を見ると、「毎日またはほとんど毎日」朝食をとっている人では、「とても期待している」「期待している」をあわせて、87.6%であるのに対して、「週に1回程度」の人では、「とても期待している」「期待している」と回答した人をあわせて42.9%と、「毎日またはほとんど毎日」朝食をとっている人のほうが子どもの将来に対する期待が高い結果となった。

朝食の頻度別に見た、子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）  
 （子ども票問4(1)×子ども票問23）

※「自分に自信がある」「自分の考えをはっきり相手に伝えることができる」「自分の将来の夢や目標を持っている」の3項目について、それぞれ4段階で評価させ、その値を合計した得点を、セルフ・エフィカシー得点とした。得点が高いほど、自己効力感（セルフ・エフィカシー）が高いことを表す。

<大阪府内全体>



<守口市>

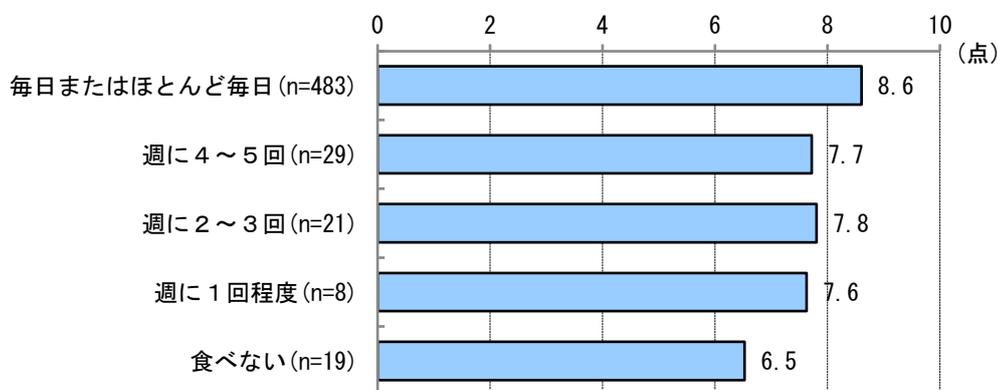
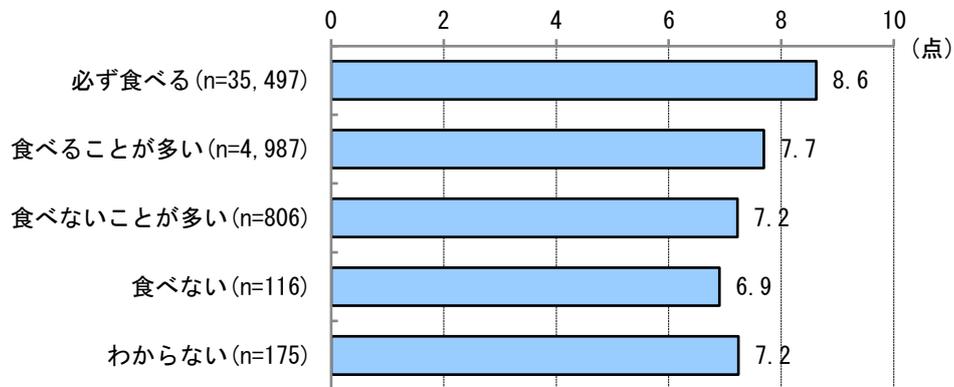


図 62. 朝食の頻度別に見た、子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）

朝食の頻度別に子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）の得点を見ると、「毎日またはほとんど毎日」朝食をとっていると回答した人では、8.6点であるのに対して、「食べない」では6.5点と、「毎日またはほとんど毎日」朝食をとっていると回答した人のほうが子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）が高い結果となった。

休日の昼食の頻度別に見た、子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）  
 （子ども票問6(1)×子ども票問23）

<大阪府内全体>



<守口市>

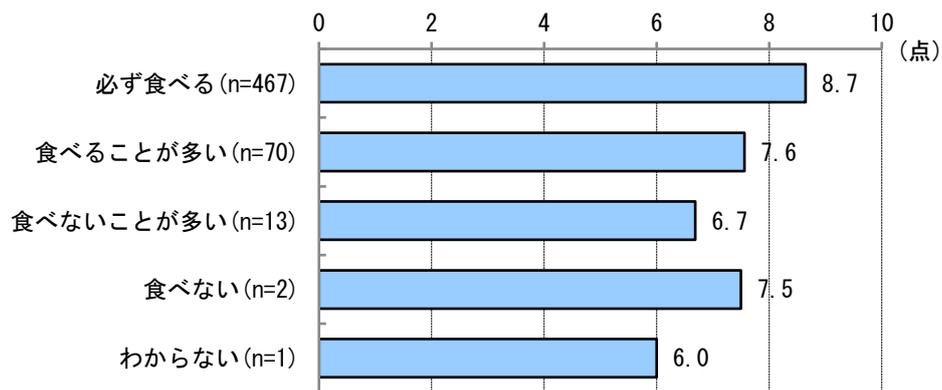
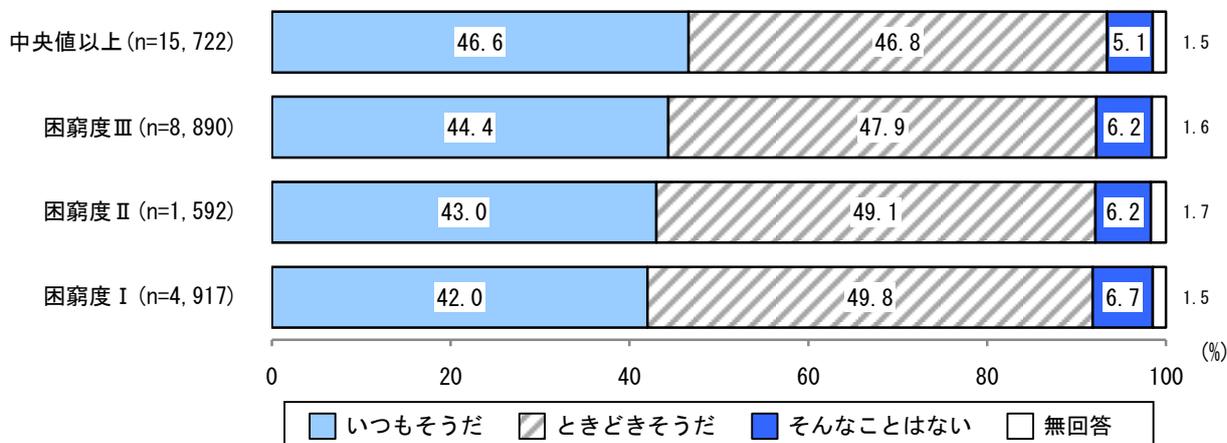


図 63. 休日の昼食の頻度別に見た、子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）

休日の昼食の頻度別に子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）の得点を見ると、「必ず食べる」と回答した人の得点が8.7点であるのに対して、「食べないことが多い」と回答した人は6.7点と、昼食を「必ず食べる」と回答した人のほうが、子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）が高い結果となった。

困窮度別に見た、この一週間の気持ちの状況 ①楽しみにしていることがたくさんある  
(子ども票問 19①)

<大阪府内全体>



<守口市>

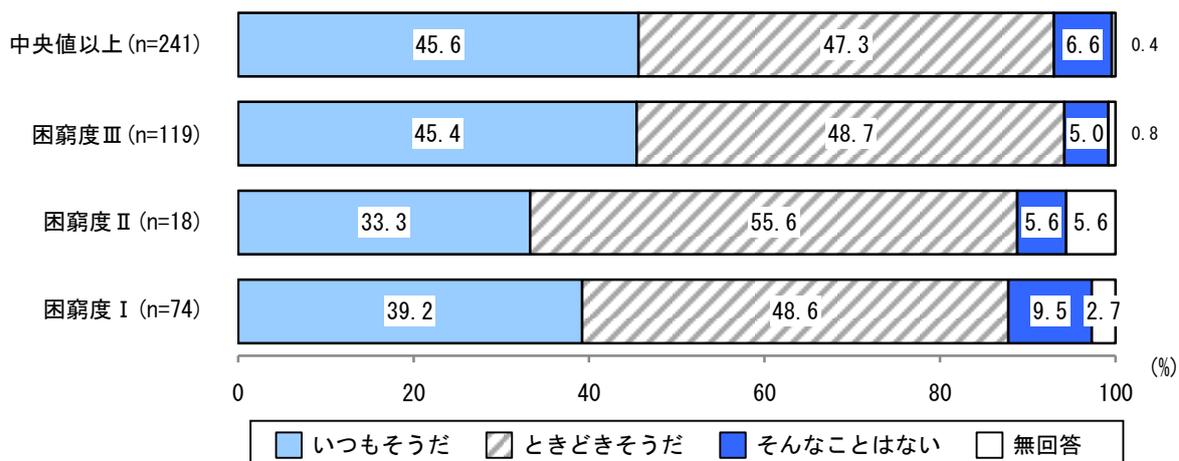
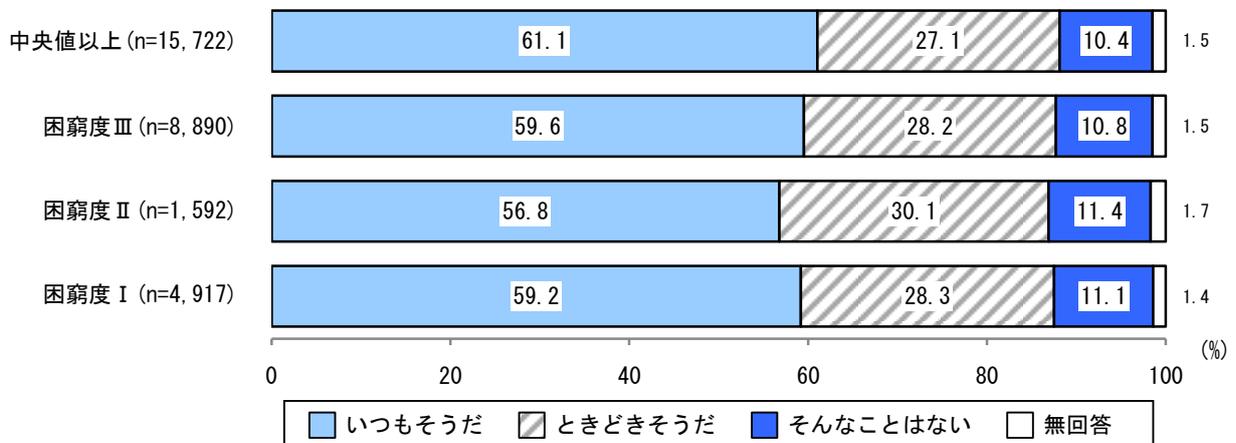


図 64. 困窮度別に見た、この一週間の気持ちの状況 ①楽しみにしていることがたくさんある

困窮度別にこの一週間の気持ちの状況で楽しみにしていることがたくさんあるを見ると、「いつもそうだ」と回答した人は、中央値以上群が45.6%で最も高く、次いで困窮度Ⅲ群が45.4%となっている。

困窮度別に見た、この一週間の気持ちの状況 ②遊びにでかけるのが好きだ(子ども票問 19②)

<大阪府内全体>



<守口市>

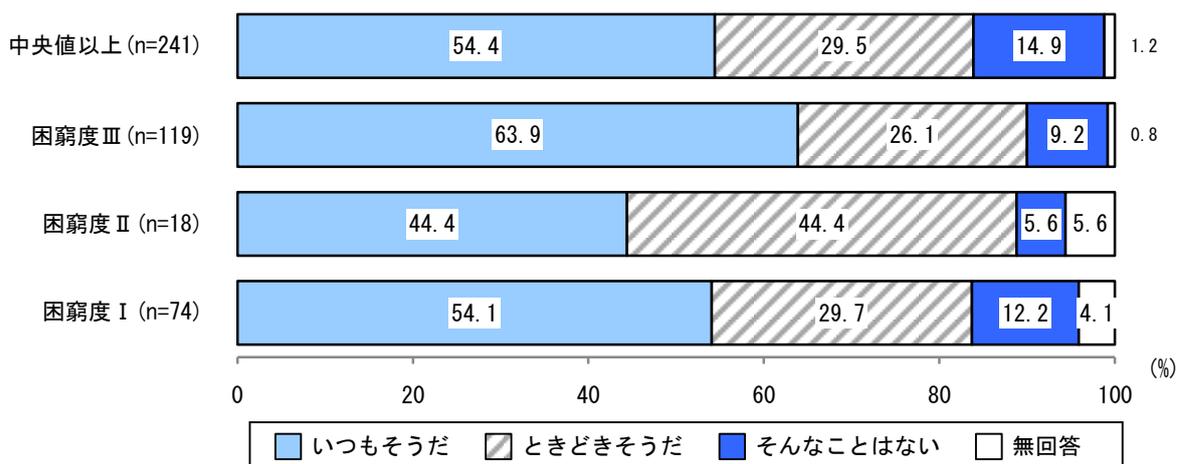
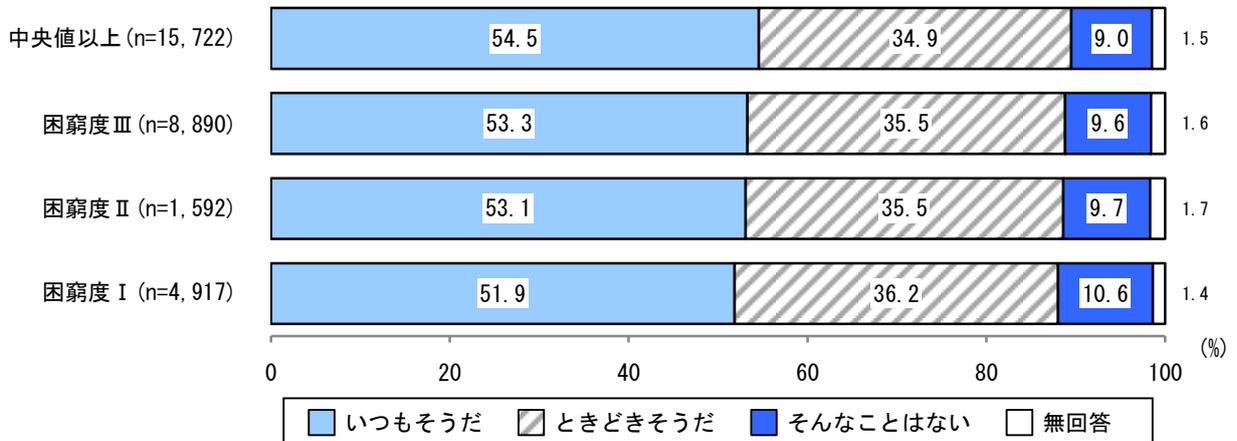


図 65. 困窮度別に見た、この一週間の気持ちの状況 ②遊びにでかけるのが好きだ

困窮度別にこの一週間の気持ちの状況で遊びにでかけるのが好きだを見ると、「いつもそうだ」と回答した人は困窮度Ⅱ群(44.4%)で最も低くなっている。

困窮度別に見た、この一週間の気持ちの状況 ③元気いっぱい (子ども票問 19③)

<大阪府内全体>



<守口市>

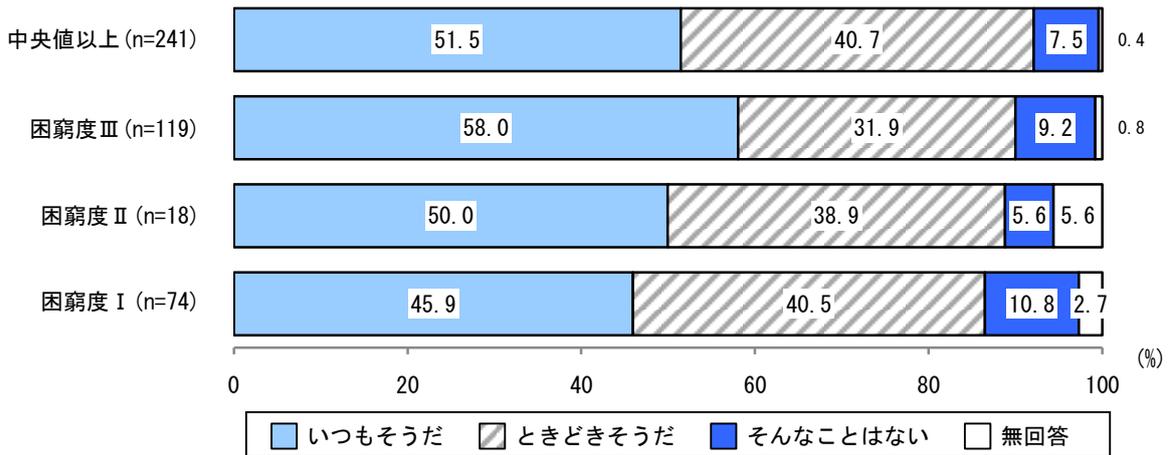
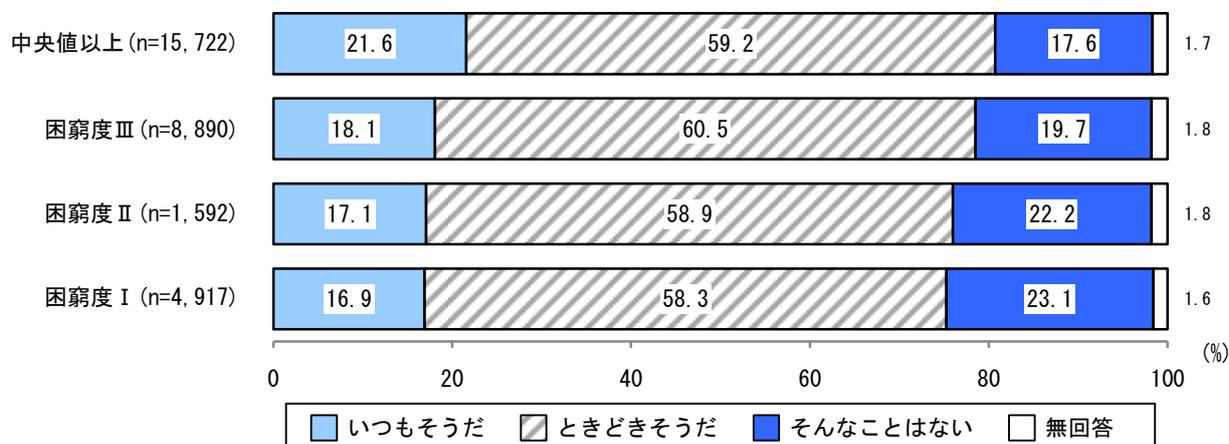


図 66. 困窮度別に見た、この一週間の気持ちの状況 ③元気いっぱい

困窮度別にこの一週間の気持ちの状況で元気いっぱいを見ると、「いつもそうだ」と回答した人は困窮度Ⅰ群 (45.9%) で最も低くなっている。

困窮度別に見た、この一週間の気持ちの状況 ④やろうと思ったことがうまくできる  
(子ども票問 19④)

<大阪府内全体>



<守口市>

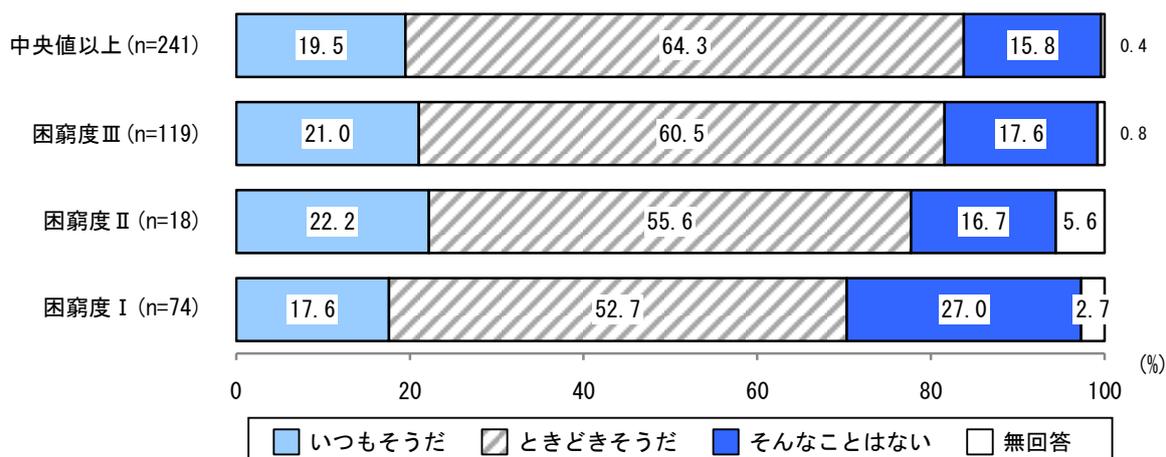
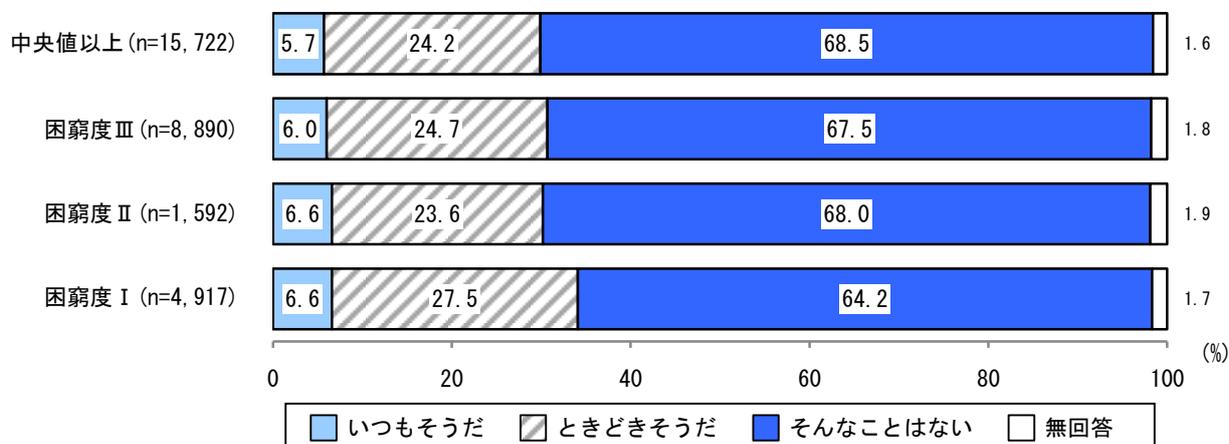


図 67. 困窮度別に見た、この一週間の気持ちの状況 ④やろうと思ったことがうまくできる

困窮度別にこの一週間の気持ちの状況でやろうと思ったことがうまくできるを見ると、「いつもそうだ」と回答した人は困窮度Ⅰ群 (17.6%) で最も低くなっている。

困窮度別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑤一人ぼっちのような気がする  
(子ども票問 19⑤)

<大阪府内全体>



<守口市>

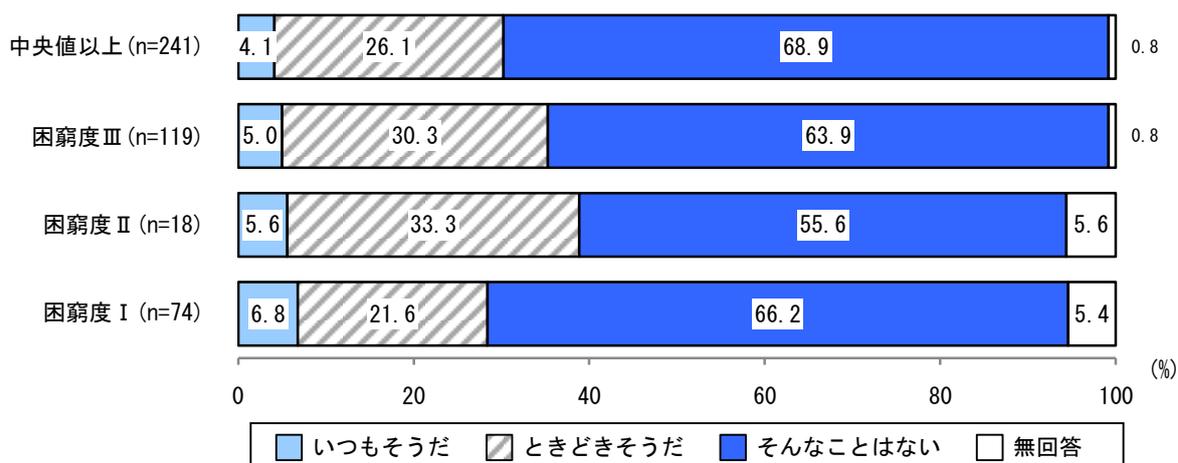
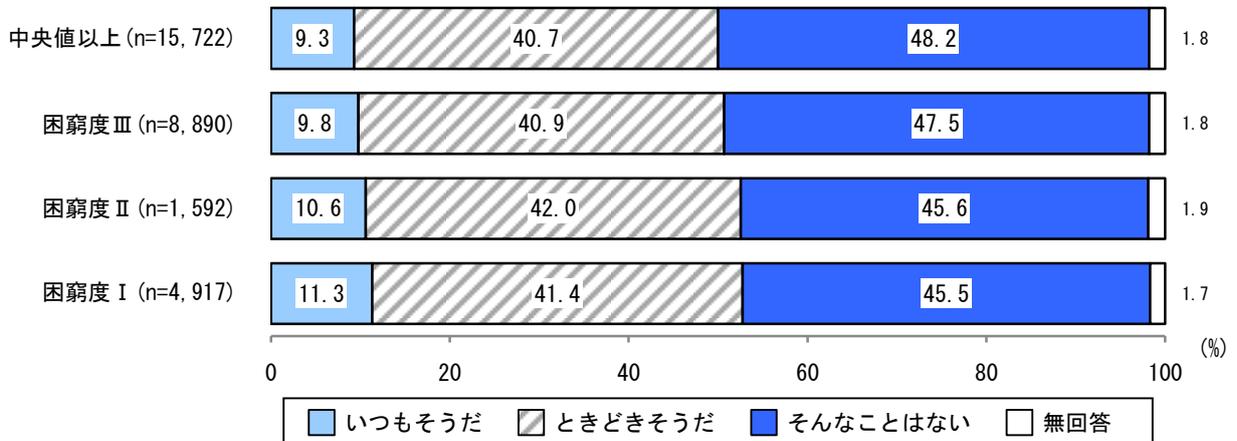


図 68. 困窮度別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑤一人ぼっちのような気がする

困窮度別にこの一週間の気持ちの状況で一人ぼっちのような気がするを見ると、「いつもそうだ」と回答した人は困窮度Ⅰ群(6.8%)で最も高くなっている。

困窮度別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑥不安な気持ちになる (子ども票問 19⑥)

<大阪府内全体>



<守口市>

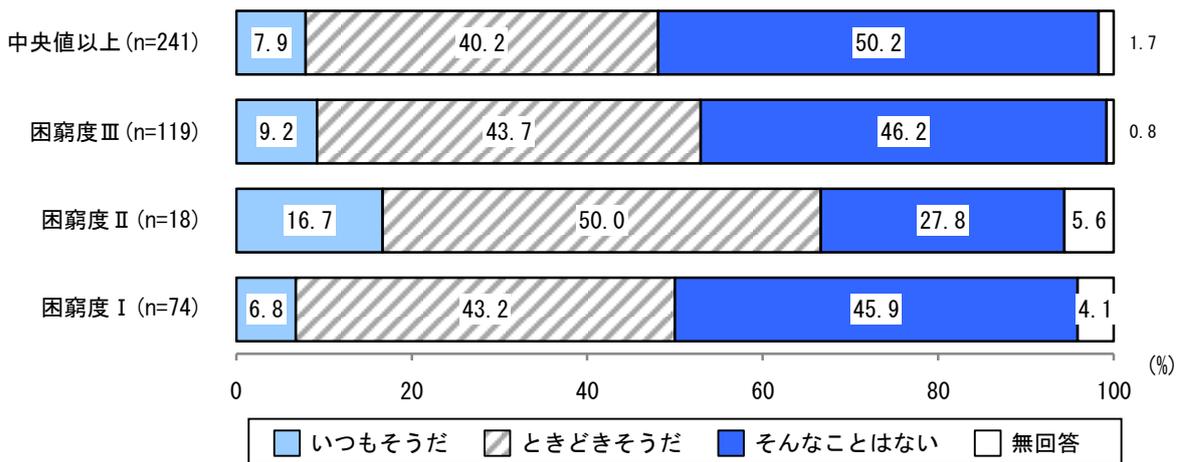
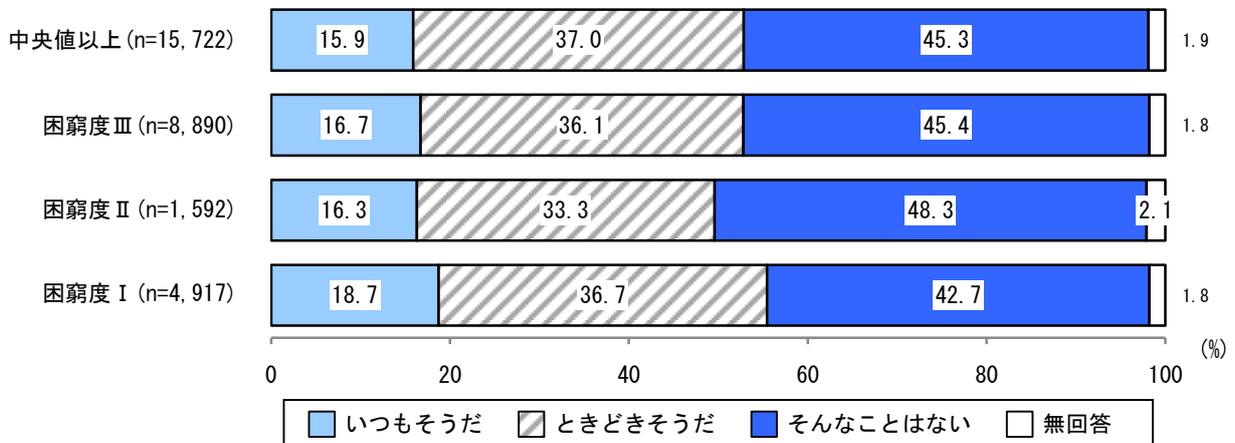


図 69. 困窮度別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑥不安な気持ちになる

困窮度別にこの一週間の気持ちの状況で不安な気持ちになるを見ると、「いつもそうだ」と回答した人は困窮度Ⅱ群 (16.7%) で最も高くなっている。

困窮度別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑦まわりが気になる (子ども票問 19⑦)

<大阪府内全体>



<守口市>

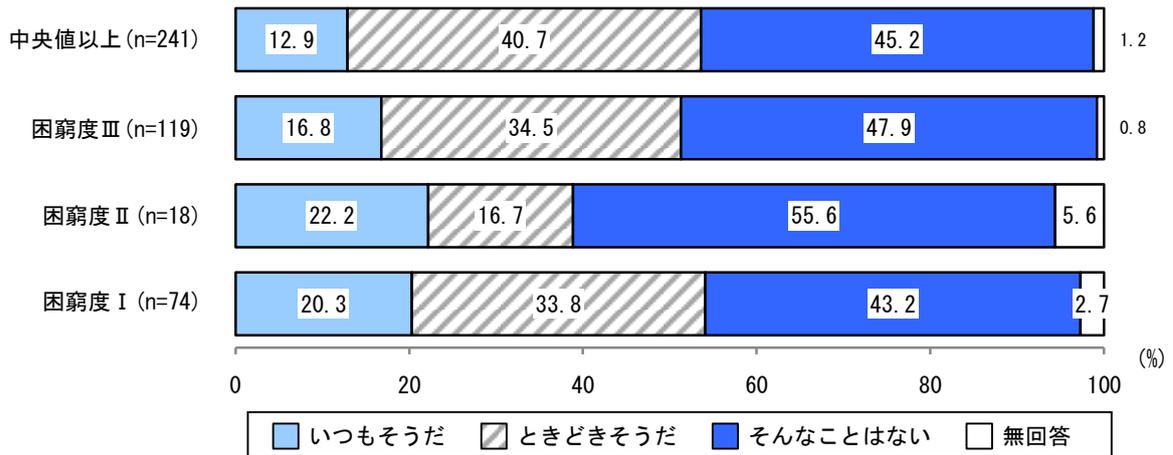
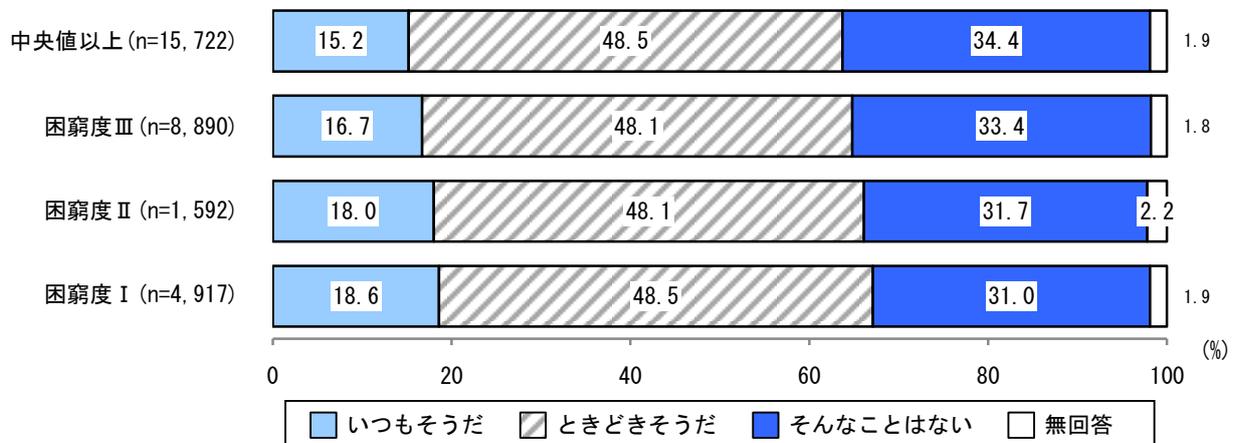


図 70. 困窮度別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑦まわりが気になる

困窮度別にこの一週間の気持ちの状況でまわりが気になるを見ると、「いつもそうだ」と回答した人は困窮度Ⅱ群 (22.2%) で最も高くなっている。

困窮度別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑧やる気が起きない (子ども票問 19⑧)

<大阪府内全体>



<守口市>

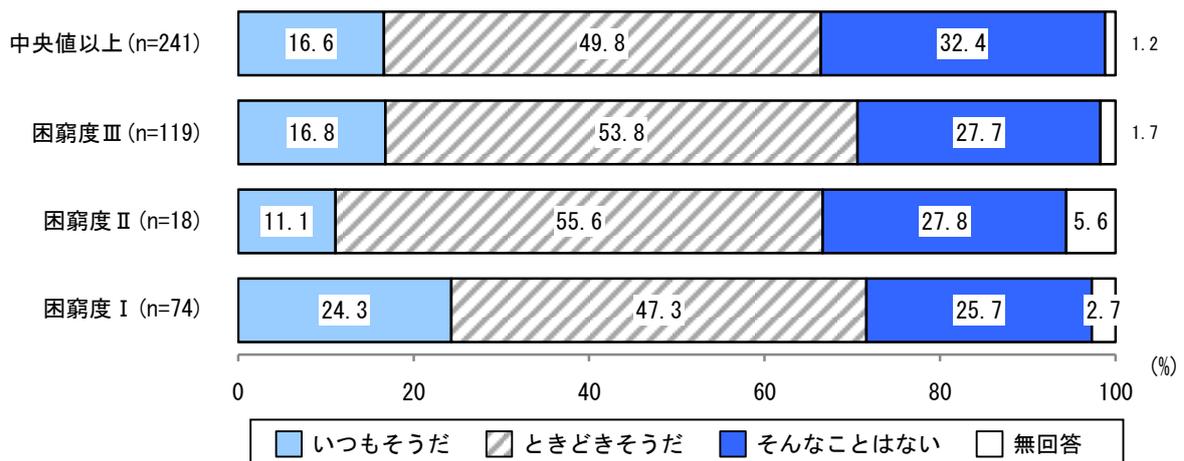
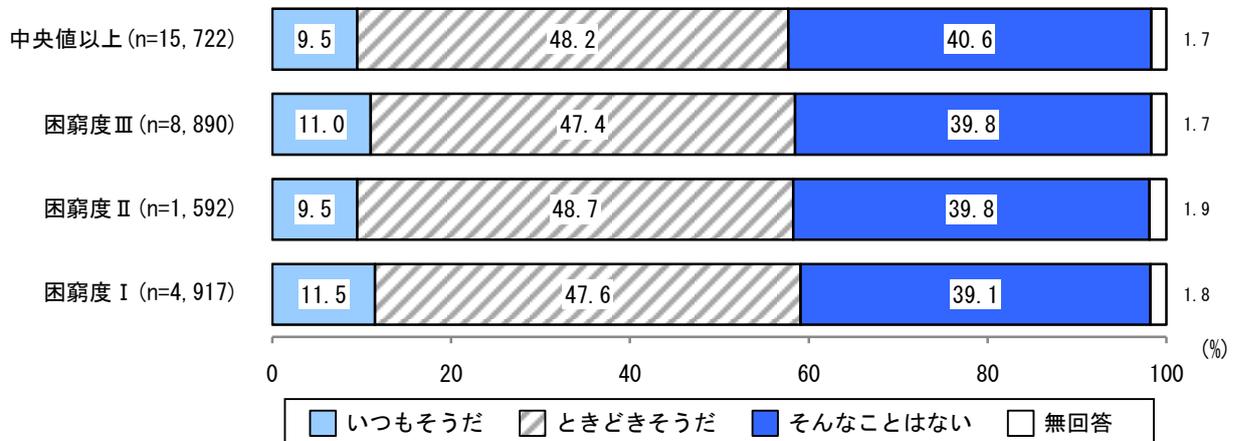


図 71. 困窮度別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑧やる気が起きない

困窮度別にこの一週間の気持ちの状況でやる気が起きないを見ると、「いつもそうだ」と回答した人は困窮度Ⅰ群 (24.3%) で最も高くなっている。

困窮度別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑨いらいらする (子ども票問 19⑨)

<大阪府内全体>



<守口市>

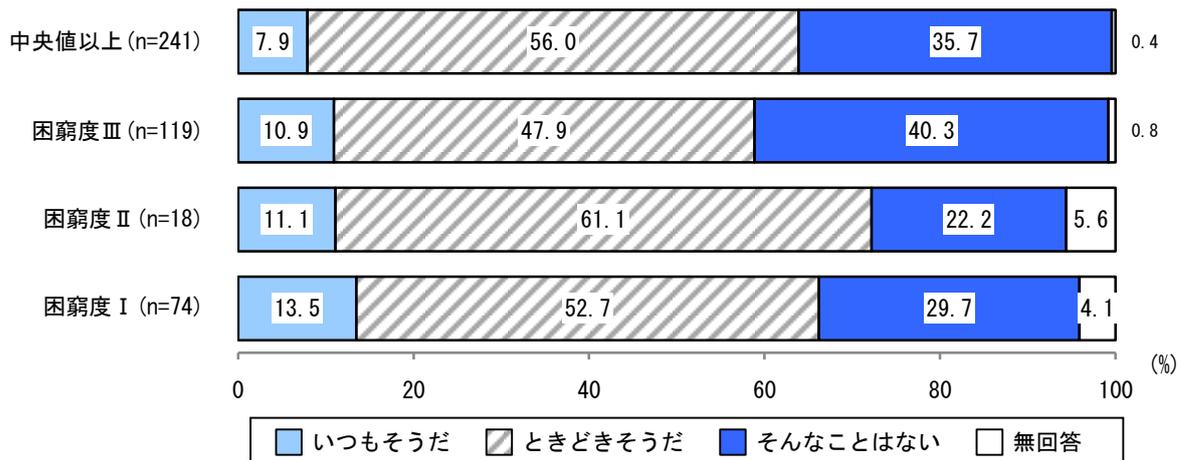
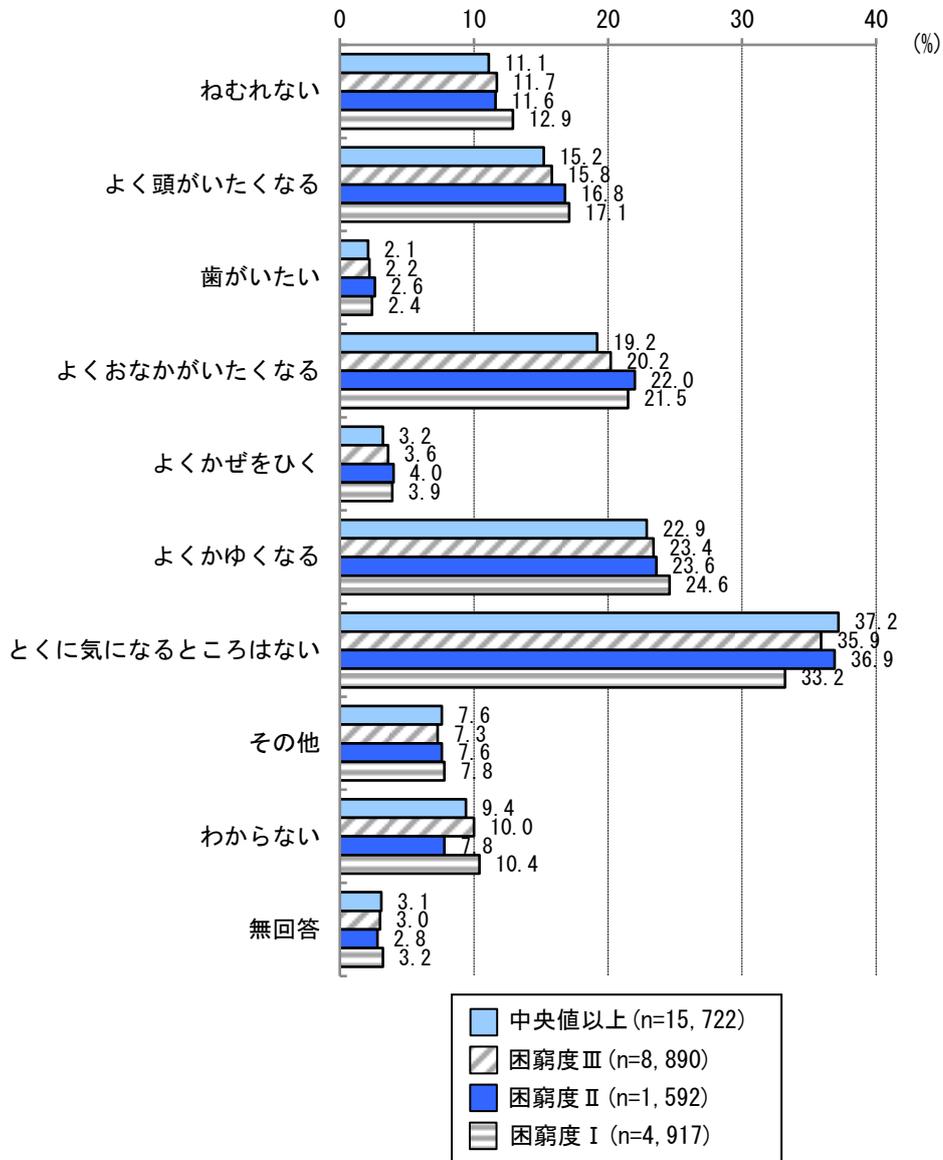


図 72. 困窮度別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑨いらいらする

困窮度別にこの一週間の気持ちの状況でいらいらするを見ると、困窮度が高まるにつれて、「いつもそうだ」と回答する割合が高くなり、困窮度Ⅰ群では13.5%となっている。

困窮度別に見た、自分の体の状態で気になること（子ども票問 20）

<大阪府内全体>



<守口市>

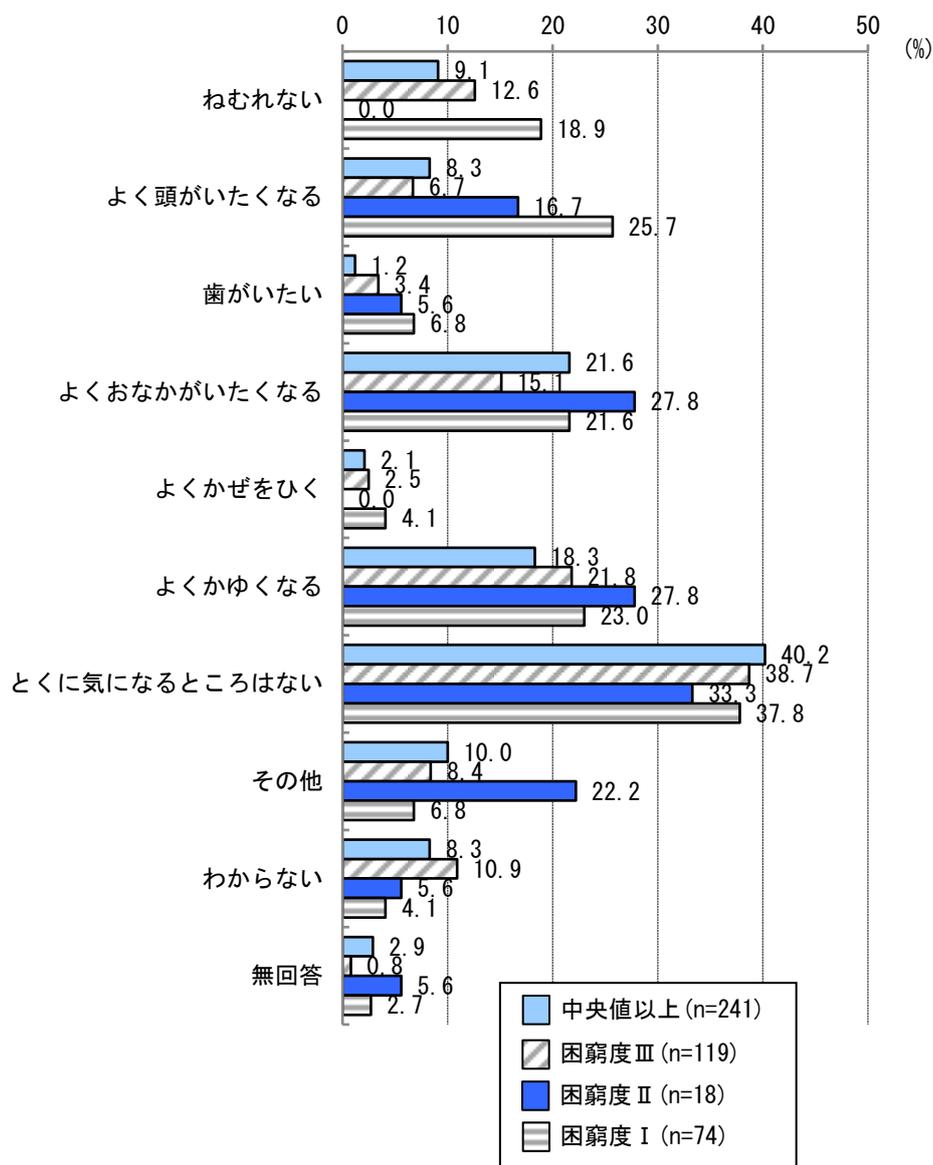
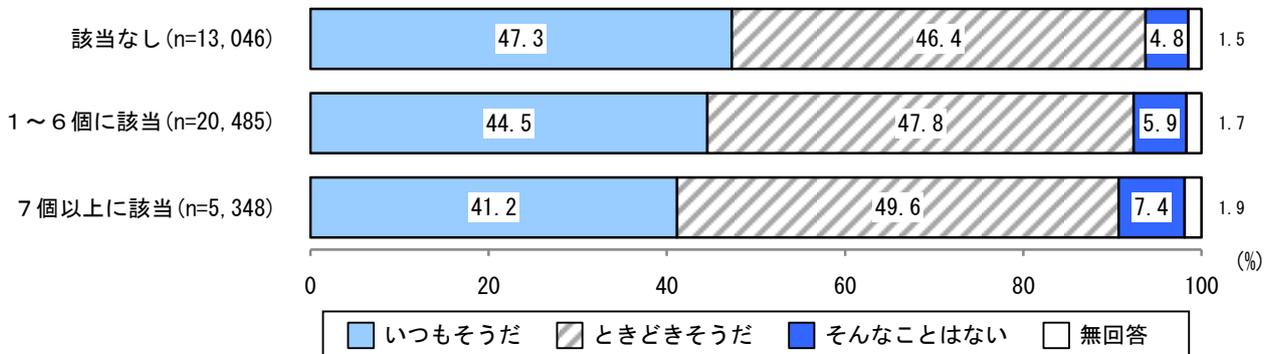


図 73. 困窮度別に見た、自分の体の状態で気になること

困窮度別に自分の体の状態で気になることを見ると、中央値以上群と困窮度Ⅰ群間で差が大きい項目に着目しながら、困窮度Ⅰ群の数値を挙げると、「歯がいたい」6.8%（中央値以上群に対して5.7倍）、「よく頭がいたくなる」25.7%（同じく3.1倍）となっている。

経済的な理由による経験の該当数別に見た、この一週間の気持ちの状況 ①楽しみにしていることがたくさんある（保護者票問7×子ども票問19①）

<大阪府内全体>



<守口市>

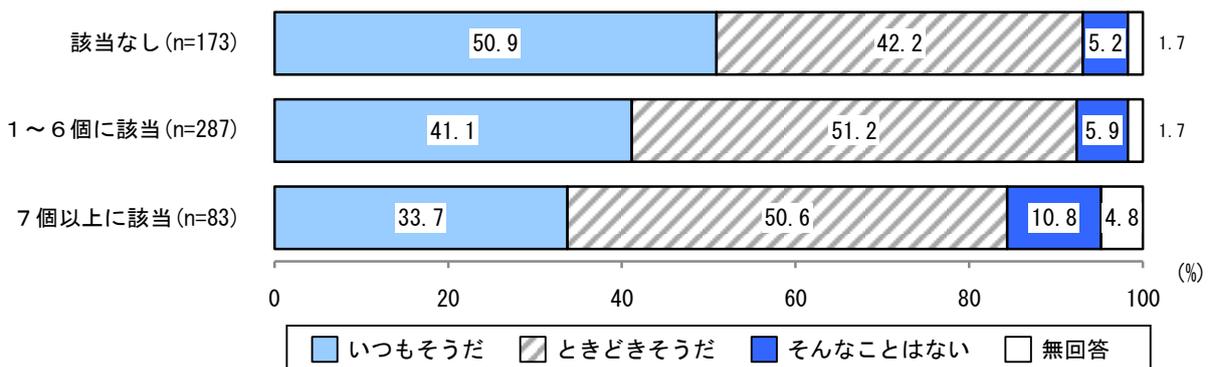
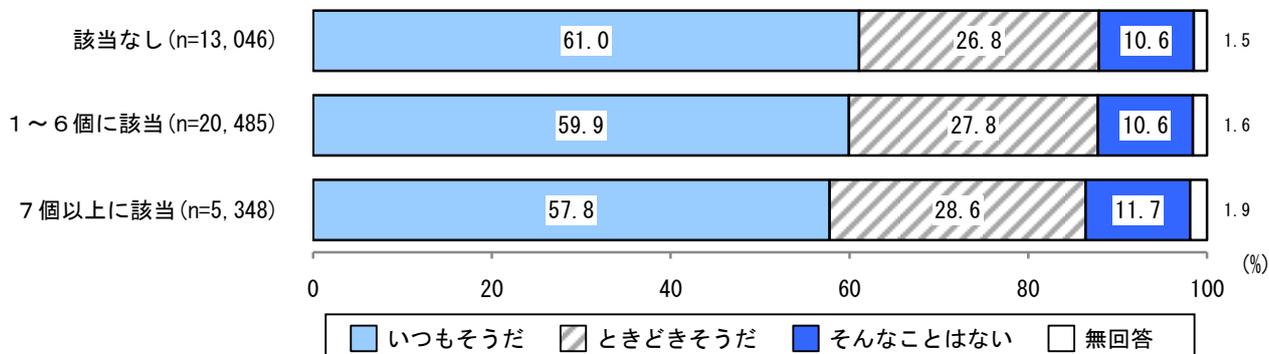


図 74. 経済的な理由による経験の該当数別に見た、この一週間の気持ちの状況  
①楽しみにしていることがたくさんある

経済的な理由による経験の該当数別にこの一週間の気持ちの状況で楽しみにしていることがたくさんあるを見ると、「いつもそうだ」と回答した人は該当数が多い人ほど割合が低く、「7個以上に該当」(33.7%)で最も低くなっている。

経済的な理由による経験の該当数別に見た、この一週間の気持ちの状況 ②遊びにでかけるのが好きだ（保護者票問7×子ども票問19②）

<大阪府内全体>



<守口市>

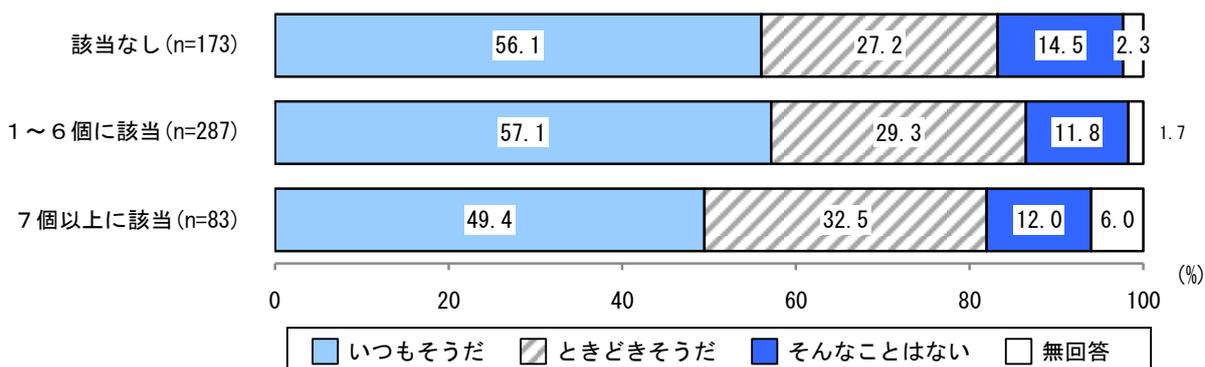
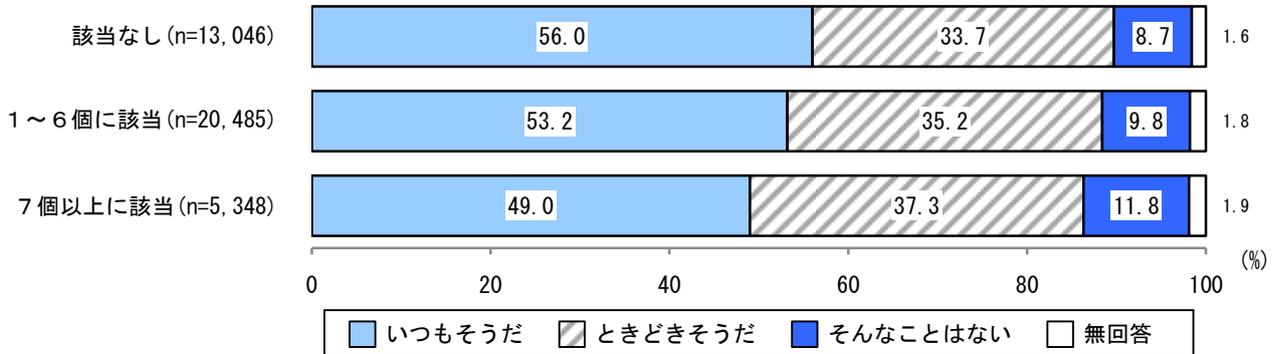


図 75. 経済的な理由による経験の該当数別に見た、この一週間の気持ちの状況  
②遊びにでかけるのが好きだ

経済的な理由による経験の該当数別にこの一週間の気持ちの状況で遊びにでかけるのが好きだを見ると、「いつもそうだ」と回答した割合は「7個以上に該当」で49.4%と最も低くなっている。

経済的な理由による経験の該当数別に見た、この一週間の気持ちの状況 ③元気いっぱい  
 (保護者票問7×子ども票問19③)

<大阪府内全体>



<守口市>

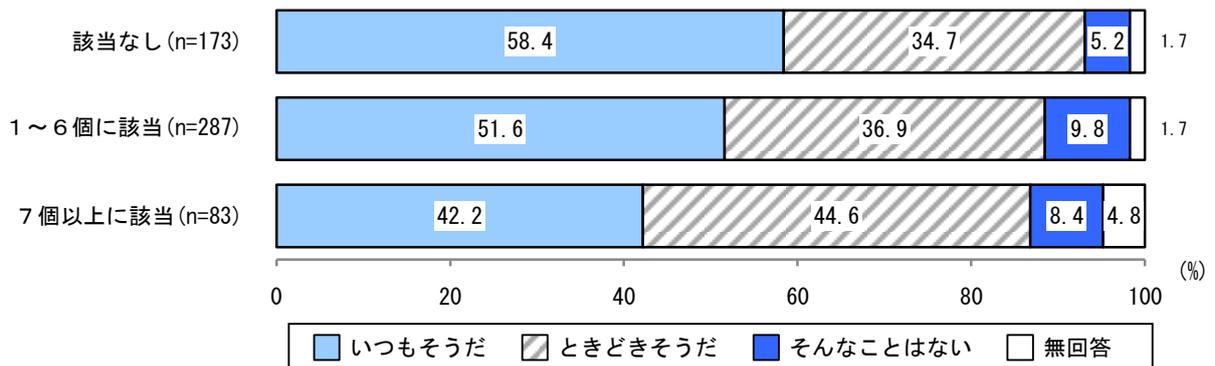
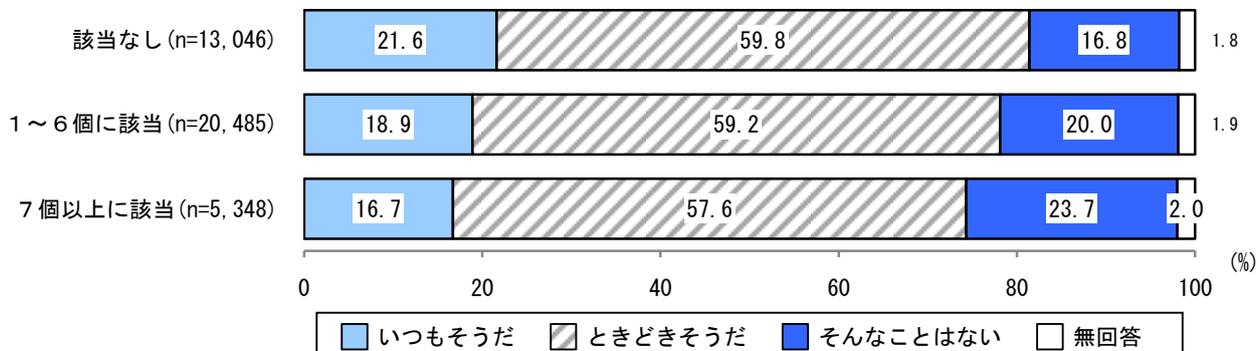


図 76. 経済的な理由による経験の該当数別に見た、この一週間の気持ちの状況 ③元気いっぱい

経済的な理由による経験の該当数別にこの一週間の気持ちの状況で元気いっぴいだを見ると、「いつもそうだ」と回答した人は該当数が多い人ほど割合が低く、「7個以上に該当」(42.2%)で最も低くなっている。

経済的な理由による経験の該当数別に見た、この一週間の気持ちの状況 ④やろうと思ったことがうまくできる（保護者票問7×子ども票問19④）

<大阪府内全体>



<守口市>

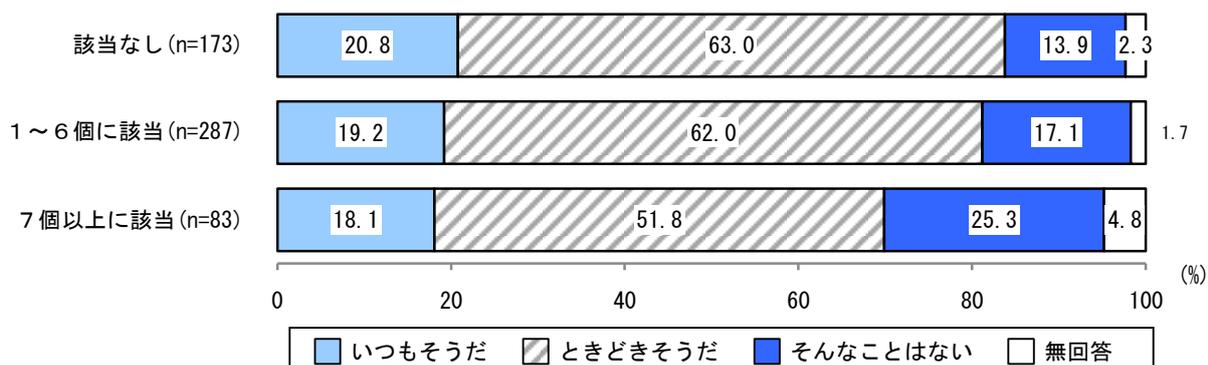
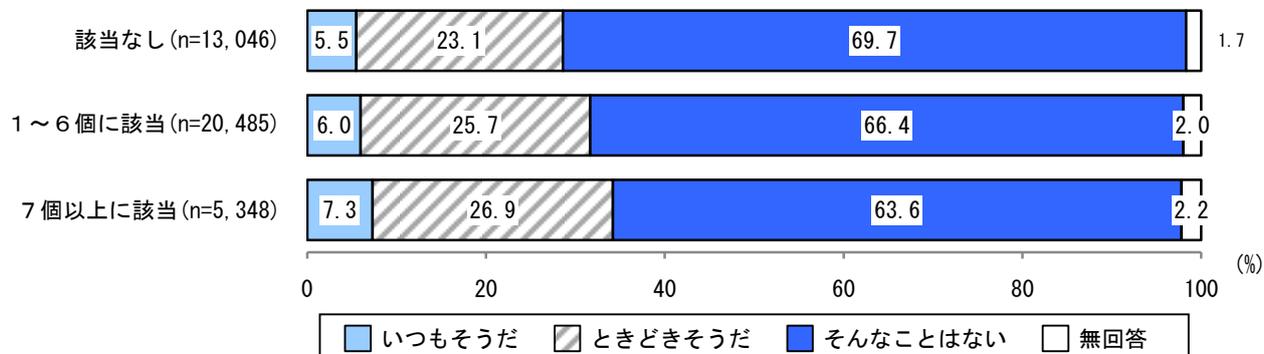


図 77. 経済的な理由による経験の該当数別に見た、この一週間の気持ちの状況  
④やろうと思ったことがうまくできる

経済的な理由による経験の該当数別にこの一週間の気持ちの状況でやろうと思ったことがうまくできるを見ると、「いつもそうだ」と回答した人は該当数が多い人ほど割合が低く、「7個以上に該当」(18.1%)で最も低くなっている。

経済的な理由による経験の該当数別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑤一人ぼっちのような気がする（保護者票問7×子ども票問19⑤）

<大阪府内全体>



<守口市>

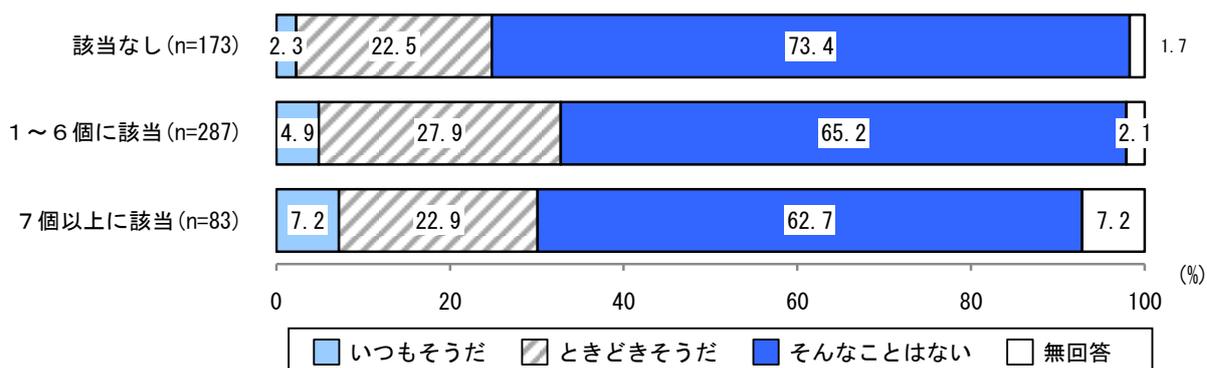


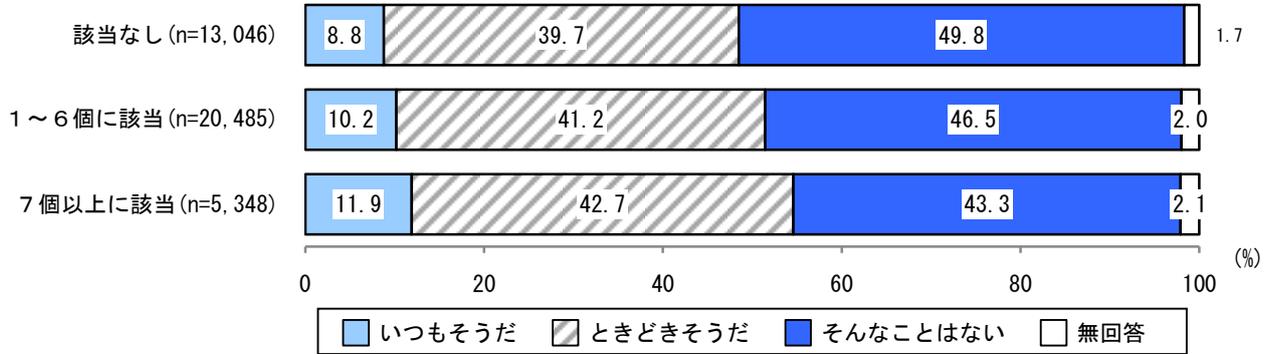
図 78. 経済的な理由による経験の該当数別に見た、この一週間の気持ちの状況  
⑤一人ぼっちのような気がする

経済的な理由による経験の該当数別にこの一週間の気持ちの状況で一人ぼっちのような気がするを見ると、「いつもそうだ」と回答した人は該当数が多い人ほど割合が高く、「7個以上に該当」(7.2%)で最も高くなっている。

経済的な理由による経験の該当数別に見た、この一週間の気持ちの状況

⑥不安な気持ちになる（保護者票問7×子ども票問19⑥）

<大阪府内全体>



<守口市>

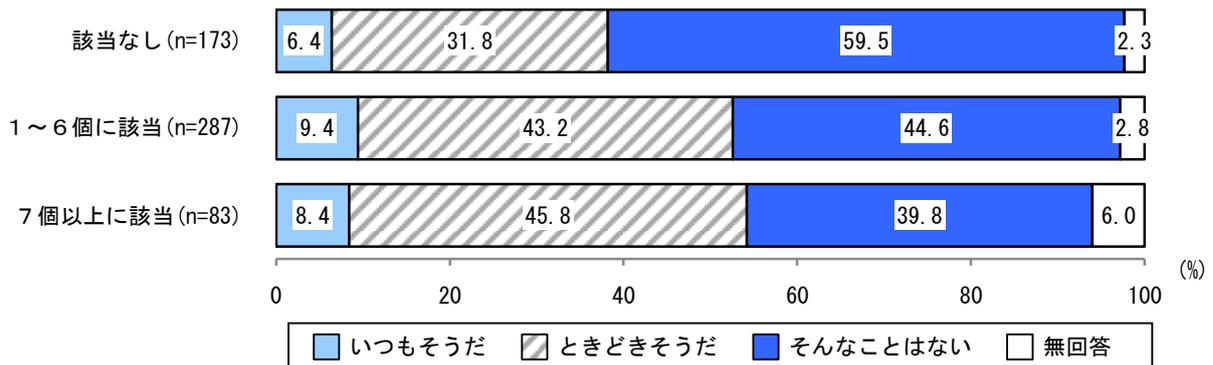
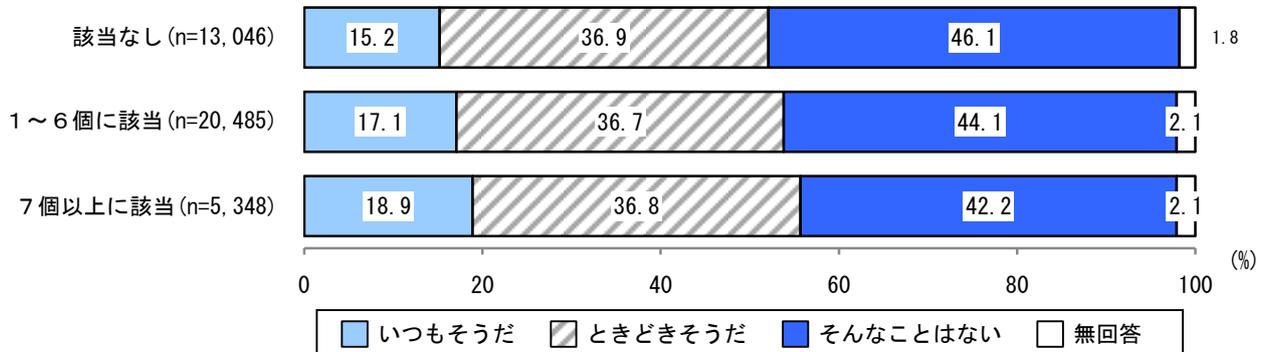


図 79. 経済的な理由による経験の該当数別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑥不安な気持ちになる

経済的な理由による経験の該当数別にこの一週間の気持ちの状況で不安な気持ちになると、「いつもそうだ」と回答した人は「1～6個に該当」(9.4%)で最も高くなっている。

経済的な理由による経験の該当数別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑦まわりが気になる  
 (保護者票問7×子ども票問19⑦)

<大阪府内全体>



<守口市>

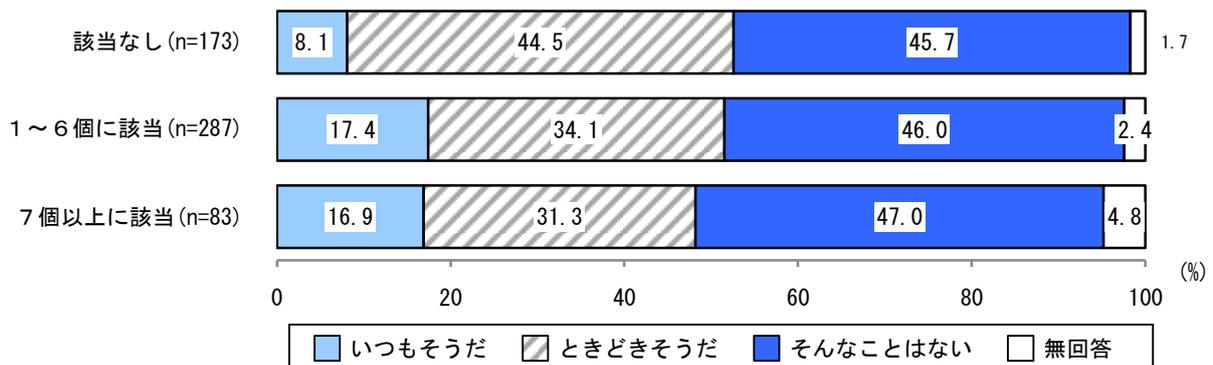
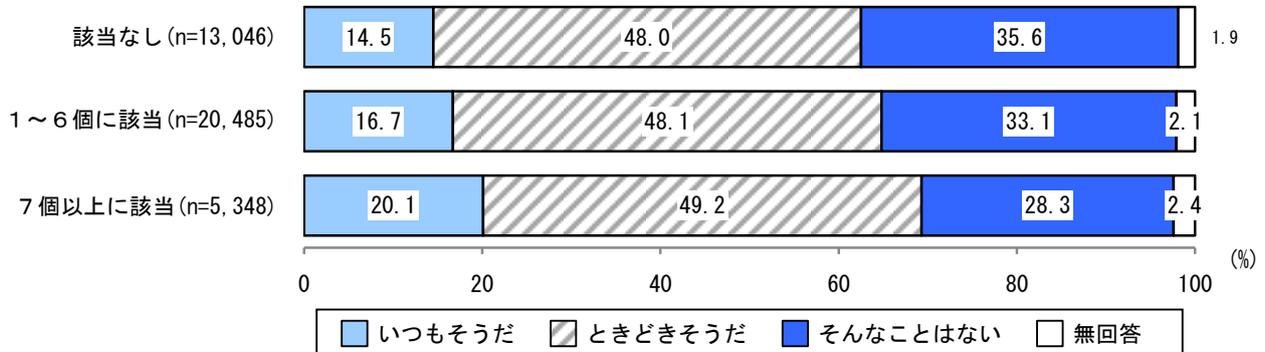


図 80. 経済的な理由による経験の該当数別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑦まわりが気になる

経済的な理由による経験の該当数別にこの一週間の気持ちの状況でまわりが気になるを見ると、「いつもそうだ」と回答した人は「1～6個に該当」(17.4%)で最も高くなっている。

経済的な理由による経験の該当数別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑧やる気が起きない  
 (保護者票問7×子ども票問19⑧)

<大阪府内全体>



<守口市>

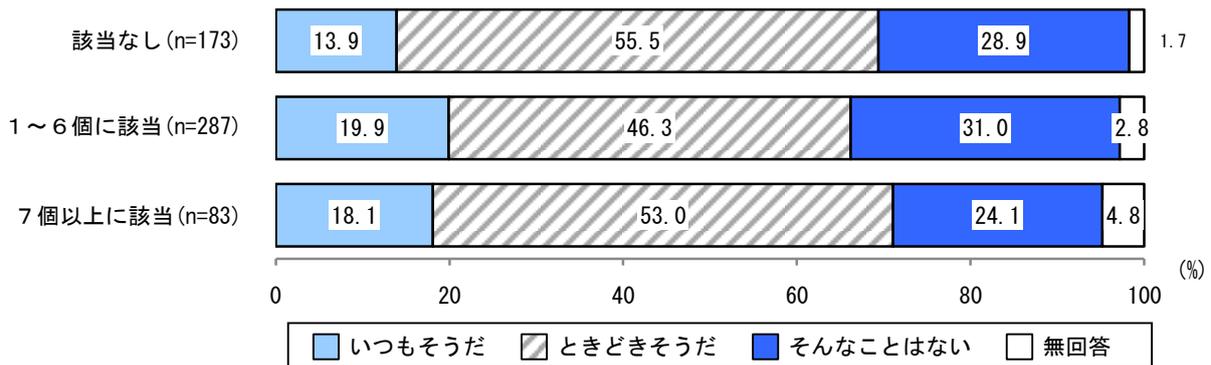
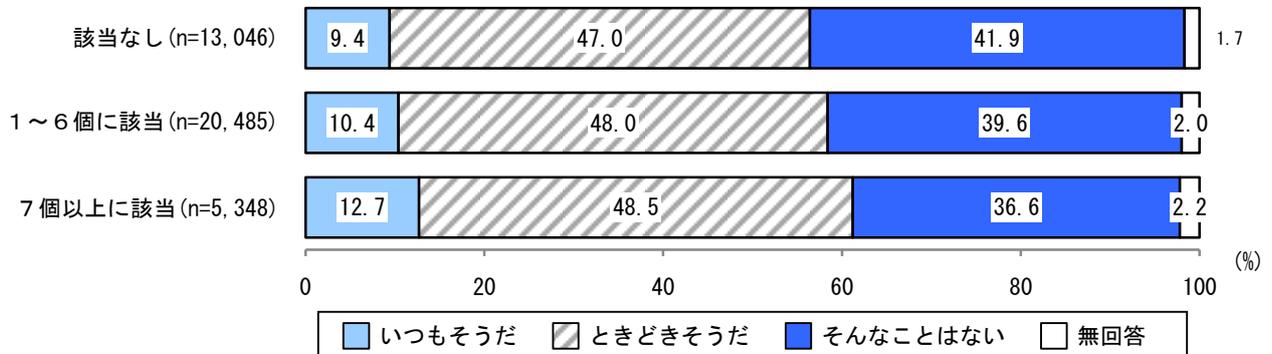


図 81. 経済的な理由による経験の該当数別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑧やる気が起きない

経済的な理由による経験の該当数別にこの一週間の気持ちの状況でやる気が起きないを見ると、「いつもそうだ」と回答した人は「1～6個に該当」(19.9%)で最も高くなっている。

経済的な理由による経験の該当数別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑨いらいらする  
 (保護者票問7×子ども票問19⑨)

<大阪府内全体>



<守口市>

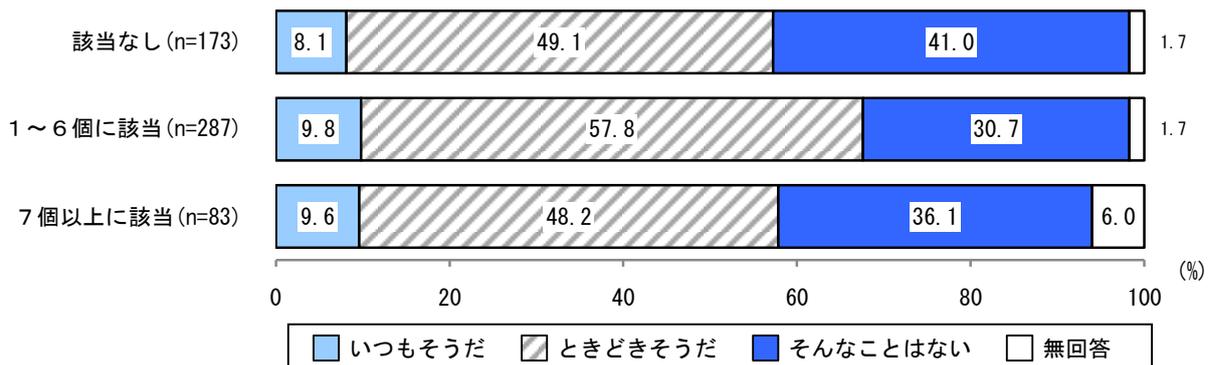
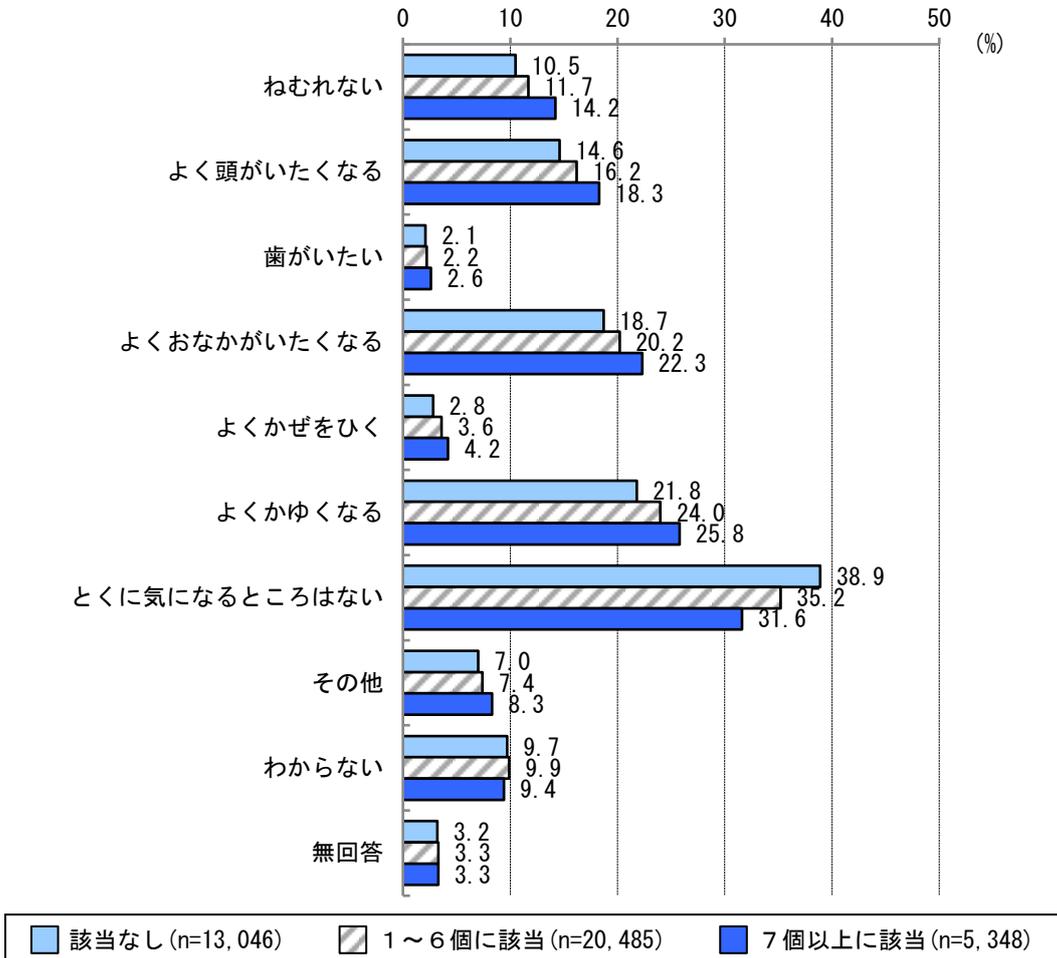


図 82. 経済的な理由による経験の該当数別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑨いらいらする

経済的な理由による経験の該当数別にこの一週間の気持ちの状況でいらいらするを見ると、「いつもそうだ」と回答した人は「1～6個に該当」(9.8%)で最も高くなっている。

経済的な理由による経験の該当数別に見た、自分の体の状態で気になること  
 (保護者票問7×子ども票問20)

<大阪府内全体>



<守口市>

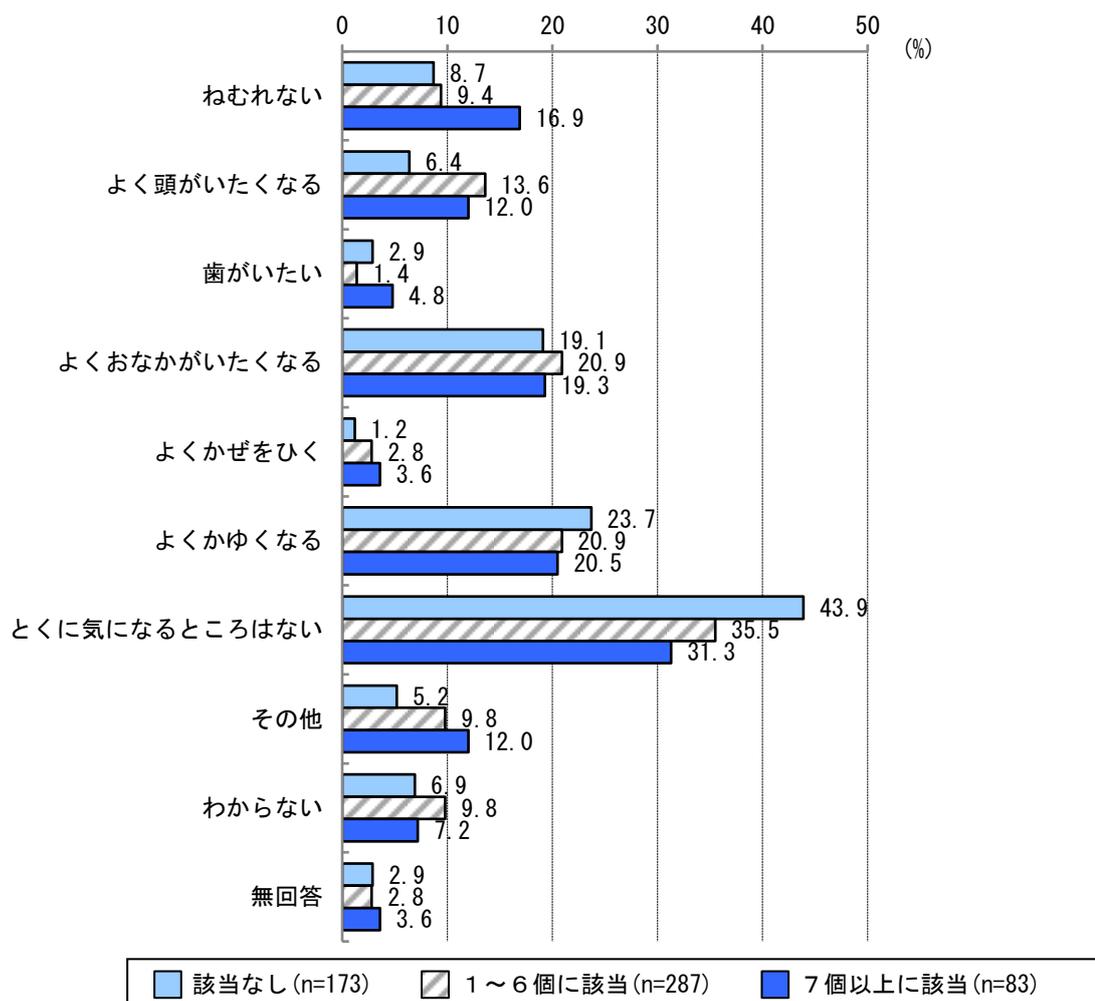
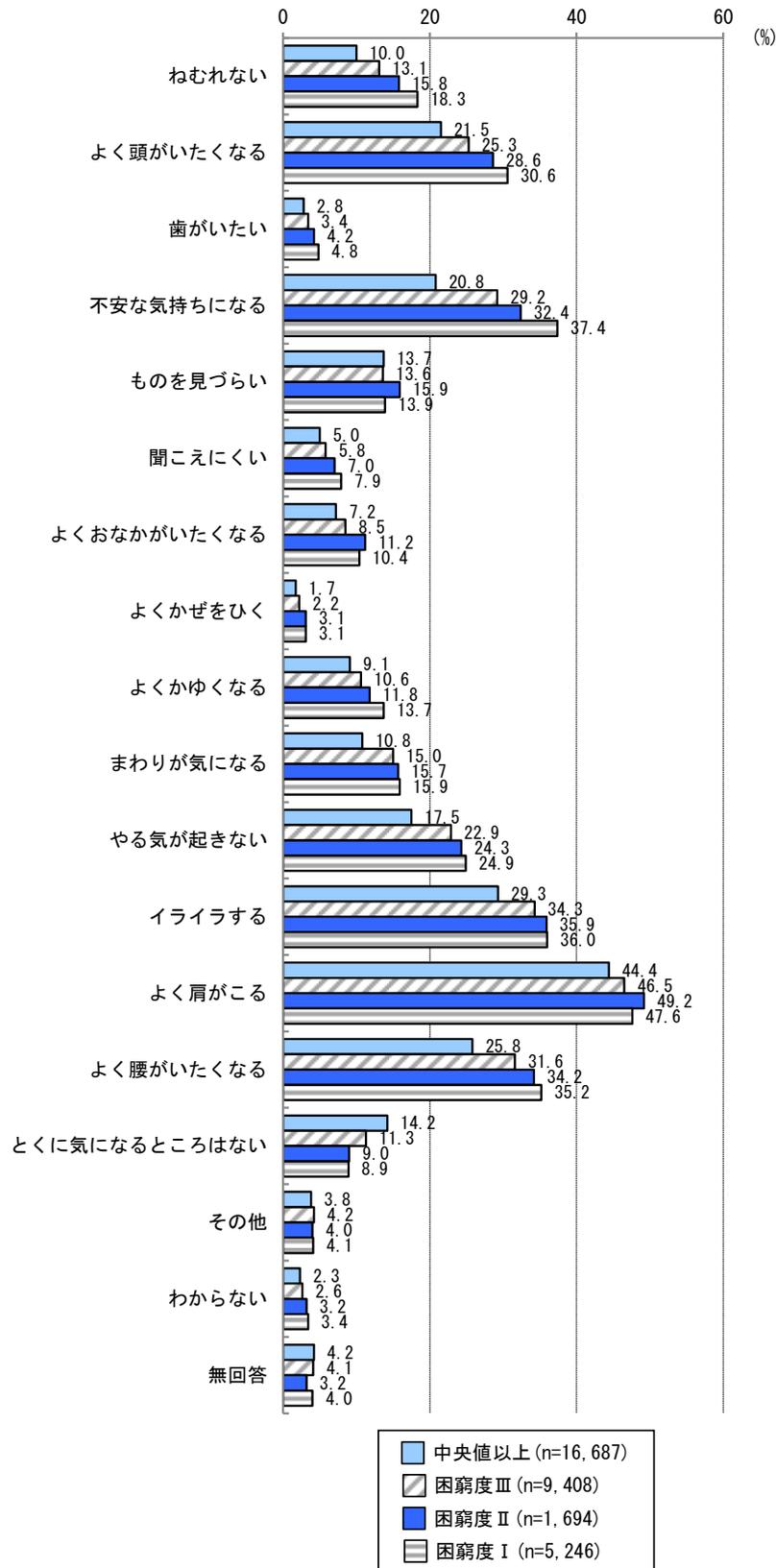


図 83. 経済的な理由による経験の該当数別に見た、自分の体の状態で気になること

経済的な理由による経験の該当数別に自分の体の状態で気になることを見ると、「7個以上に該当」群と「該当なし」群間で差が大きい項目に着目しながら、「7個以上に該当」群の数値を挙げると、「よくかぜをひく」3.6%（「該当なし」群に対して3.0倍）、「ねむれない」16.9%（同じく1.9倍）となっている。

困窮度別に見た、自分の体や気持ちで気になること（保護者票問 22）

<大阪府内全体>



<守口市>

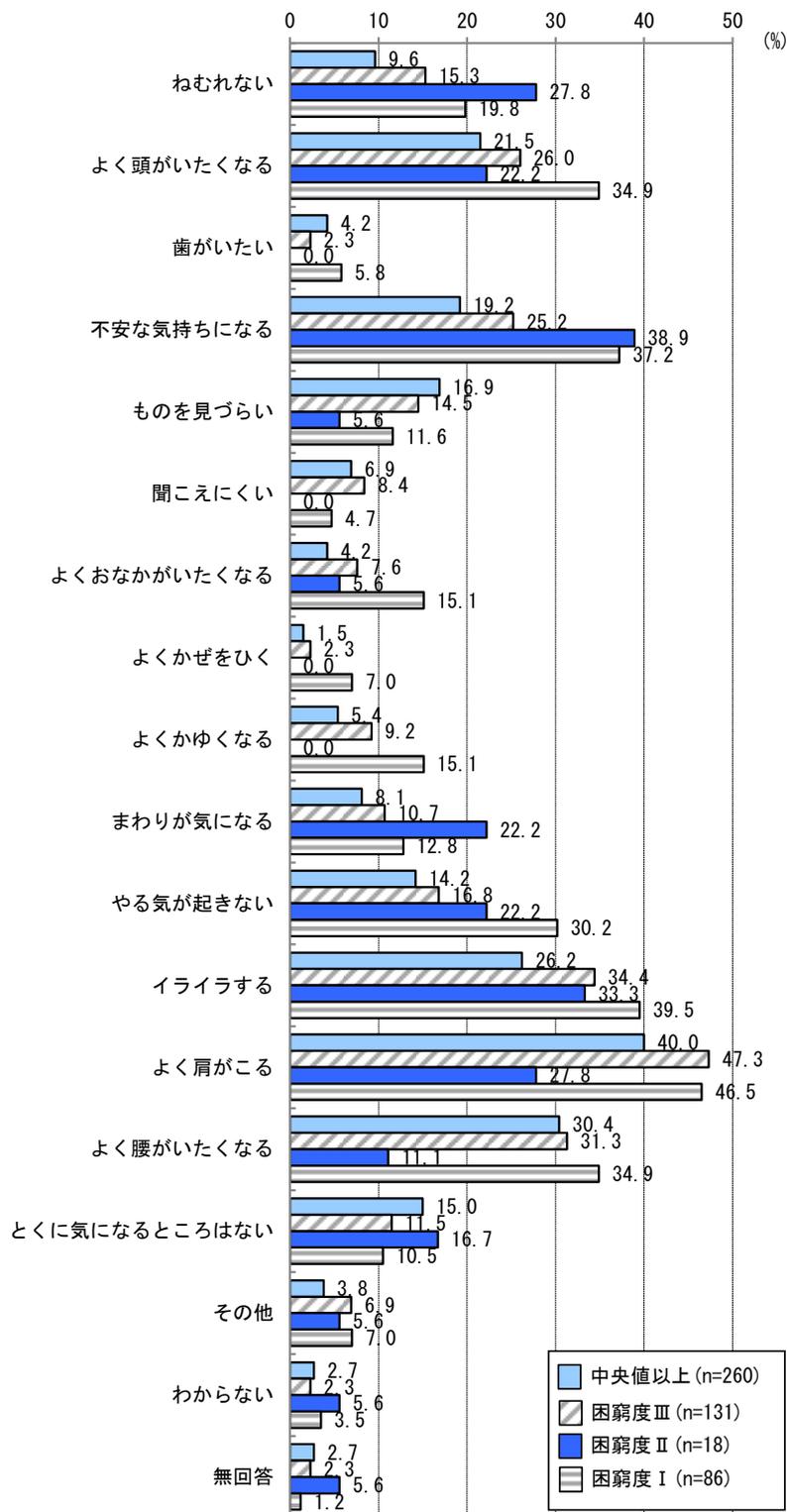
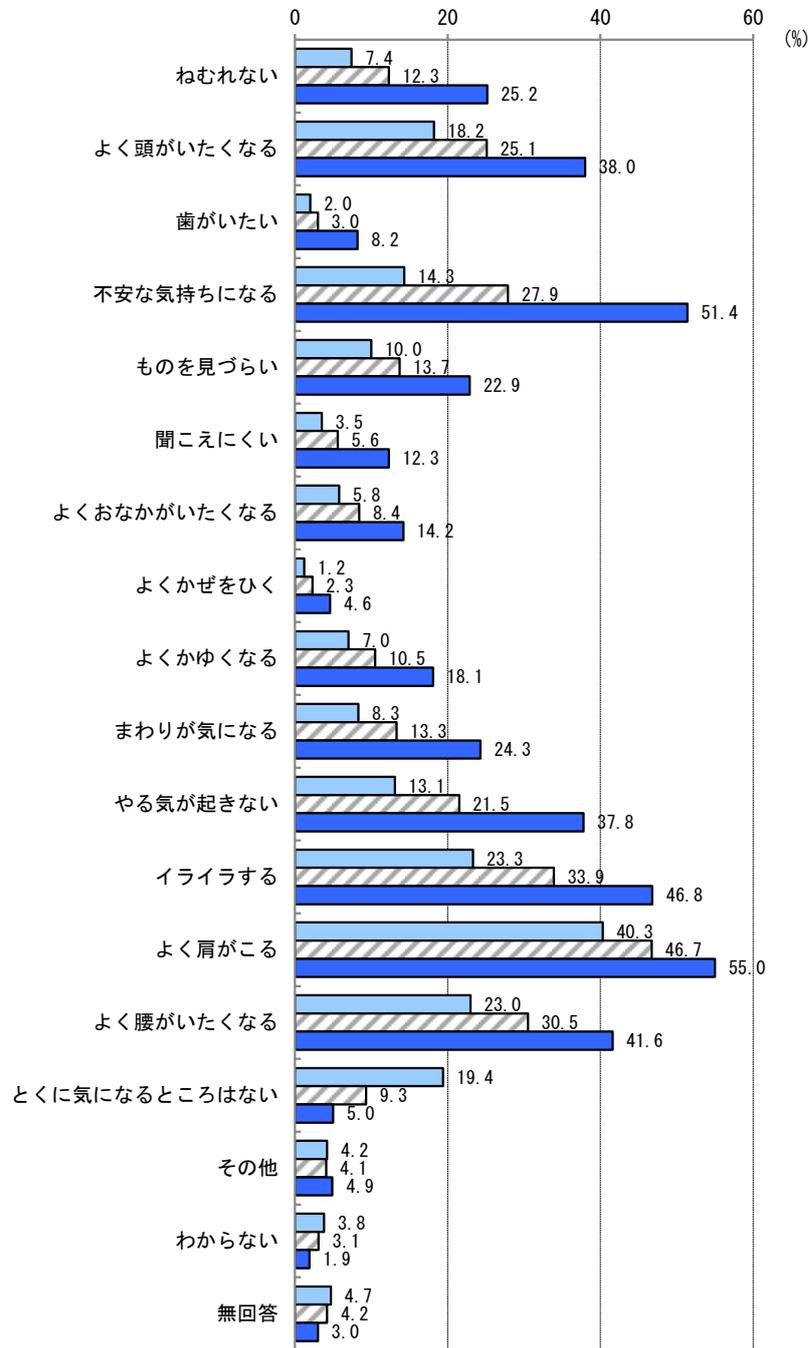


図 84. 困窮度別に見た、自分の体や気持ちで気になること

困窮度別に自分の体や気持ちで気になること（保護者）を見ると、「やる気が起きない」において、困窮度が高まるにつれ、割合が高くなっている。特に、困窮度Ⅰ群に着目して、中央値以上群との差が大きい順に挙げると、「よくかぜをひく」7.0%（中央値以上群に対し、4.7倍）、「よくおなかがいたくなる」15.1%（同じく3.6倍）となっている。

経済的な理由による経験の該当数別に見た、自分の体や気持ちで気になること  
 (保護者票問7×保護者票問22)

<大阪府内全体>



■ 該当なし (n=13,812)   ■ 1～6個に該当 (n=21,747)   ■ 7個以上に該当 (n=5,688)

<守口市>

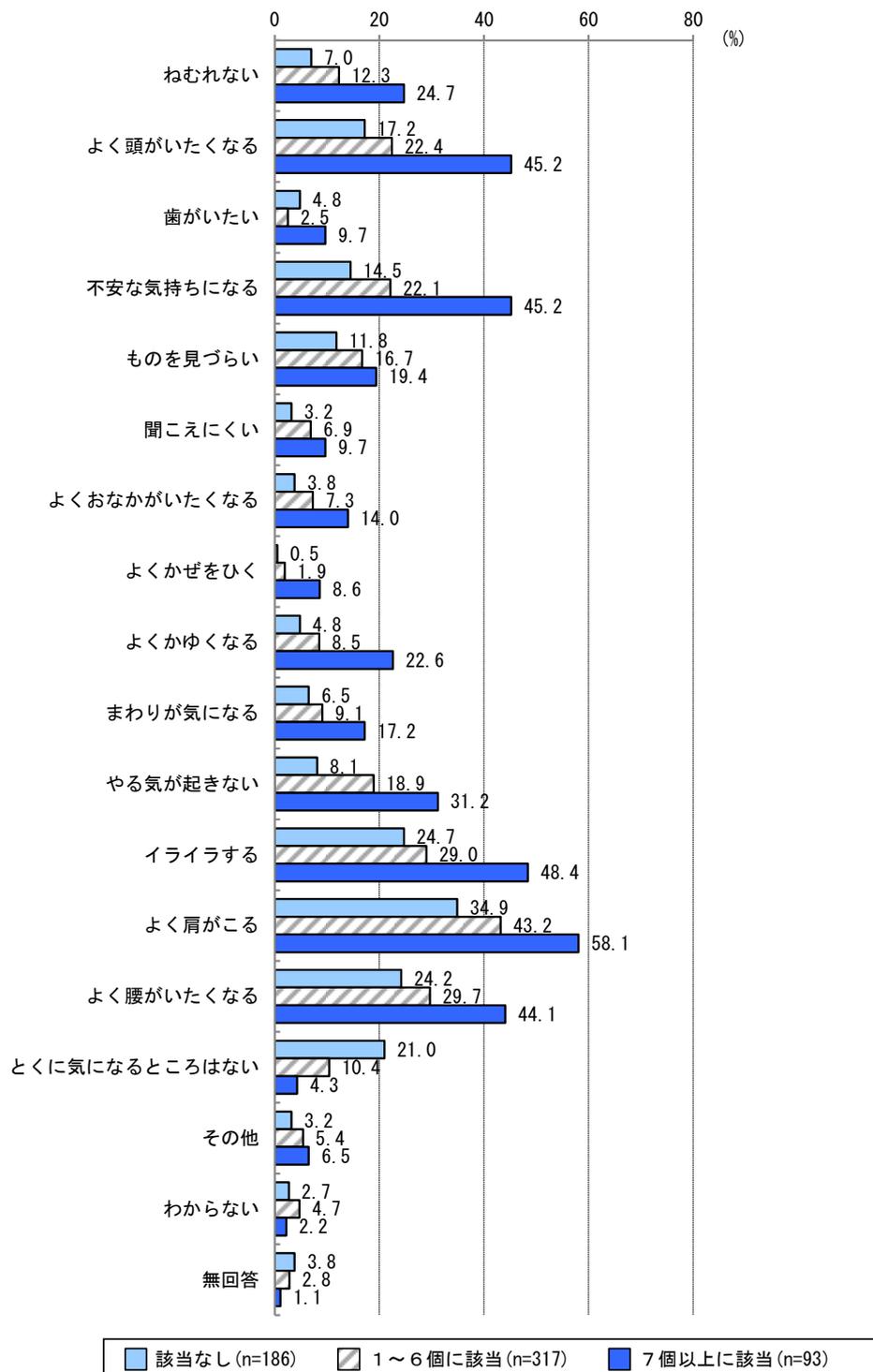
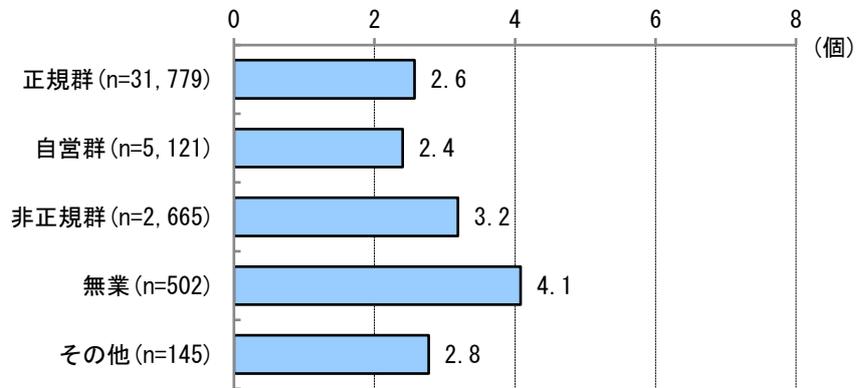


図 85. 経済的な理由による経験の該当数別に見た、自分の体や気持ちで気になること

経済的な理由による経験の該当数別に自分の体や気持ちで気になること(保護者)を見ると、「歯がいたい」を除く項目において、経済的な理由による経験の該当数が多くなるにつれて、自分の体や気持ちで気になることのそれぞれの項目が高くなっている。特に、「7個以上に該当」した人と「該当なし」と回答した人との差が大きく開いている。「7個以上に該当」について、「該当なし」との差が大きい順に挙げると、「よくかぜをひく」8.6%（「該当なし」に対して17.2倍）、「よくかゆくなる」22.6%（同じく4.7倍）となっている。

就労状況別に見た、自分の体や気持ちで気になることの該当個数（保護者票問 22）

<大阪府内全体>



<守口市>

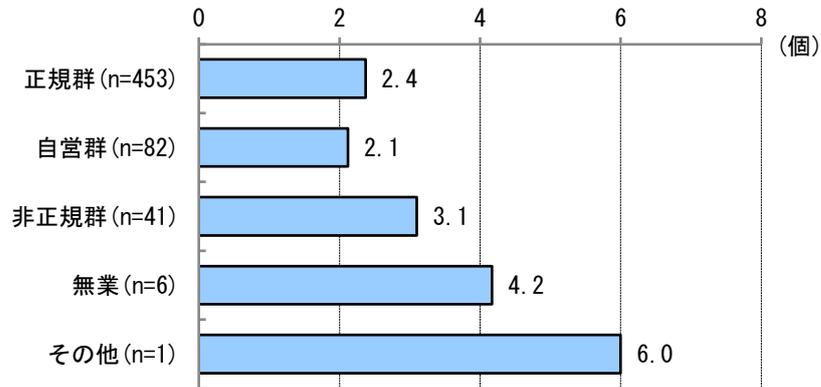


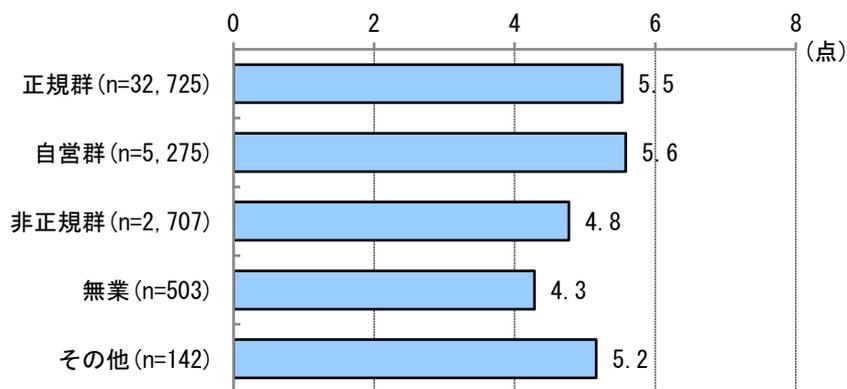
図 86. 就労状況別に見た、自分の体や気持ちで気になることの該当個数

就労状況別に自分の体や気持ちで気になることの該当数を見ると、「正規群」、「自営群」に対して、「非正規群」、「無業」において、自分の体や気持ちで気になることの該当個数が増える結果となった。

## 就労状況別に見た、支えてくれる人得点（保護者票問18）

※「あなたを支え、手伝ってくれる人はいますか」という質問について、「心配ごとや悩みごとを親身になって聞いてくれる人」「あなたの気持ちを察して思いやってくれる人」「趣味や興味のあることを一緒に話して、気分転換させてくれる人」「子どもとの関わりについて、適切な助言をしてくれる人」「子どもの学びや遊びを豊かにする情報を教えてくれる人(運動や文化活動)」「子どもの体調が悪いとき、医療機関に連れて行ってくれる人」「留守を頼める人」の7項目を提示した。それぞれの人物が「いる」か「いない」かで評定させたいうえで、「いない」を0点、「いる」を1点とし、7項目の合計得点を「支えてくれる人得点」とした。得点が高いほど、身近に支えてくれる人が多く存在することを表す。

### <大阪府内全体>



### <守口市>

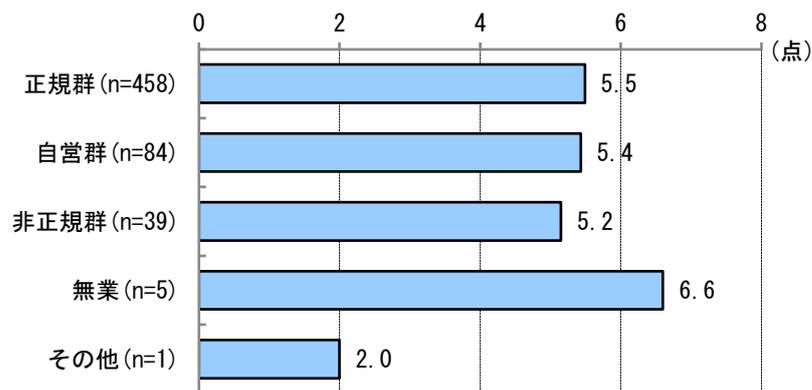
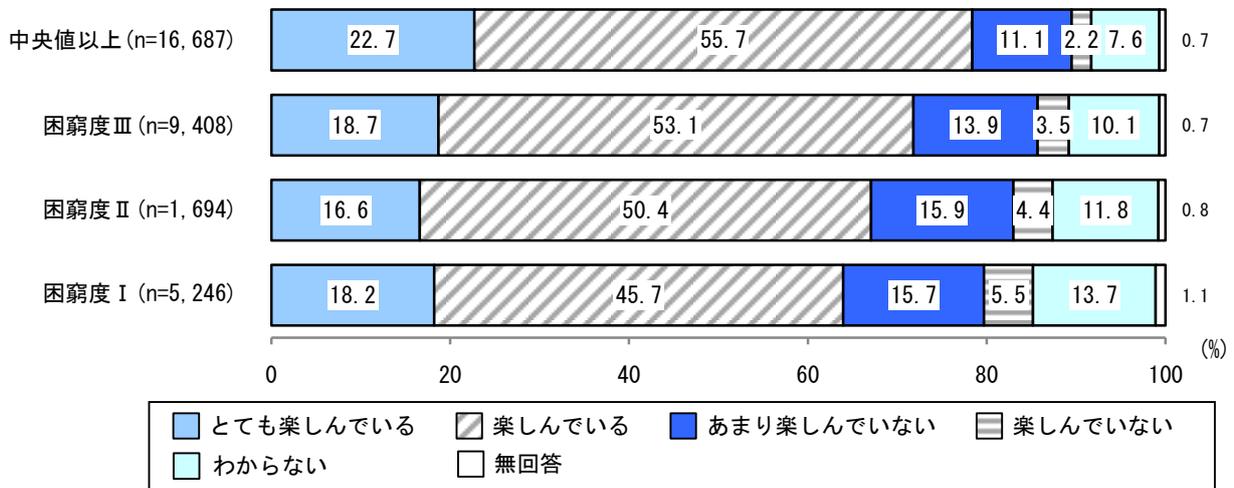


図 87. 就労状況別に見た、支えてくれる人得点

就労状況別に「支えてくれる人」の有無を得点化し、その平均値を見ると、平均値の高い方から順に「無業」(6.6点)、「正規群」(5.5点)、「自営群」(5.4点)、「非正規群」(5.2点)となっており、「非正規群」が最も低くなっている。

困窮度別に見た、心の状態（生活を楽しんでいるか）（保護者票問 21(1)）

<大阪府内全体>



<守口市>

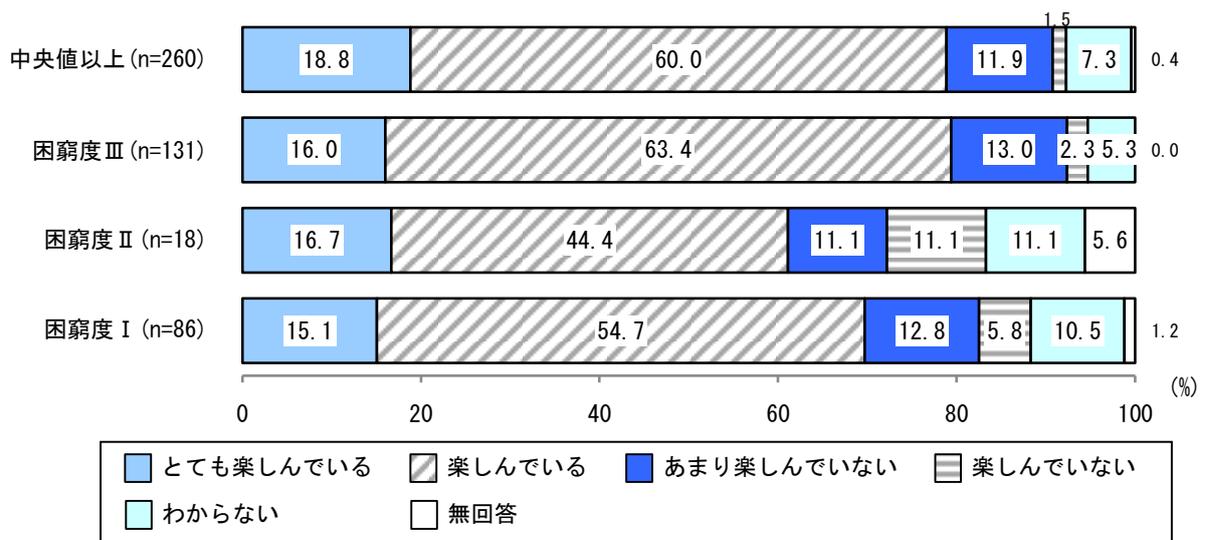
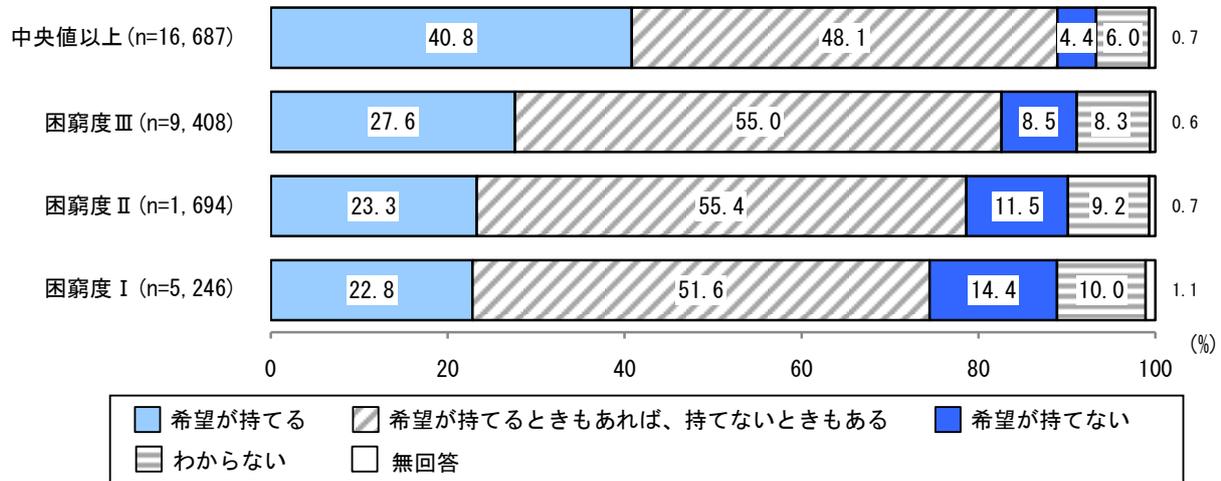


図 88. 困窮度別に見た、心の状態（生活を楽しんでいるか）

困窮度別に生活を楽しんでいるかを見ると、「とても楽しんでいる」「楽しんでいる」をあわせてなんらかの『楽しんでいる』割合では、困窮度Ⅲ群で79.4%と最も高く、次いで、中央値以上群で78.8%、困窮度Ⅰ群が69.8%、困窮度Ⅱ群は61.1%と最も低くなった。逆に、「楽しんでいない」と回答した割合は、困窮度Ⅱ群が11.1%と最も高く、次いで、困窮度Ⅰ群で5.8%、困窮度Ⅲ群で2.3%、中央値以上群で1.5%となった。

困窮度別に見た、心の状態（将来に対して希望を持っているか）（保護者票問 21(2)）

<大阪府内全体>



<守口市>

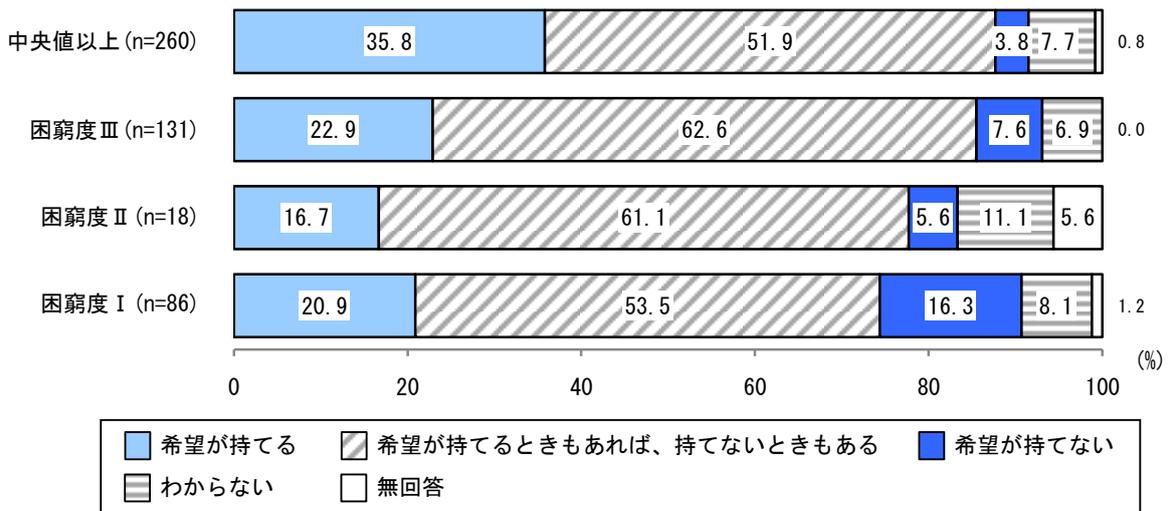
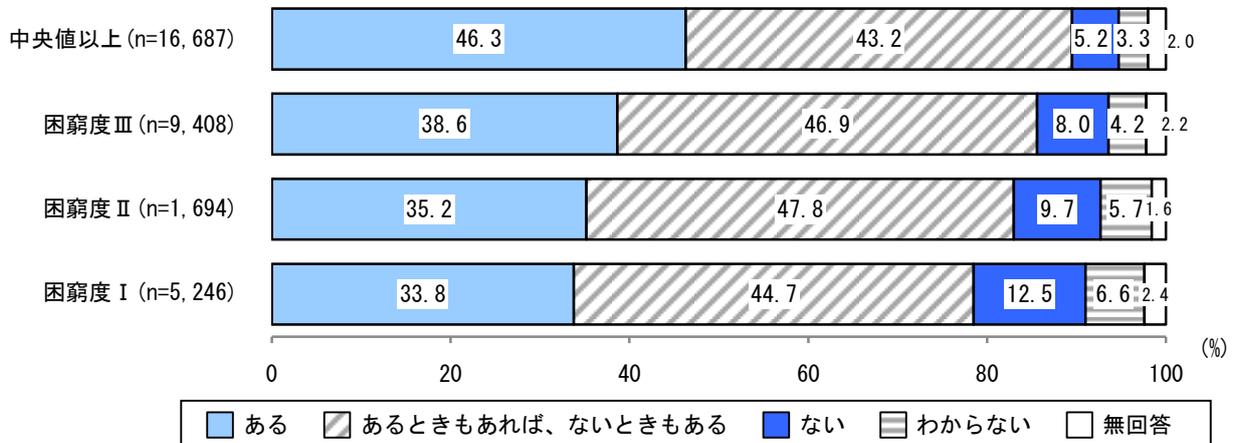


図 89. 困窮度別に見た、心の状態（将来に対して希望を持っているか）

困窮度別に将来への希望を見ると「希望が持てる」と回答した割合は、中央値以上群では35.8%であるのに対し、困窮度Ⅲ群では22.9%、困窮度Ⅰ群が20.9%、困窮度Ⅱ群において16.7%と最も低くなっている。

困窮度別に見た、心の状態（ストレスを発散できるものがあるか）（保護者票問 21(3)）

<大阪府内全体>



<守口市>

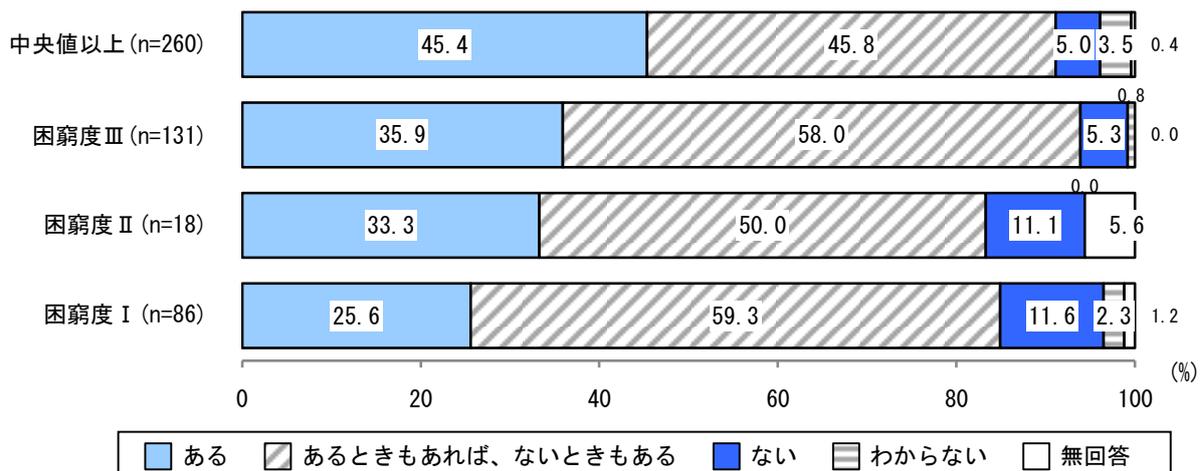
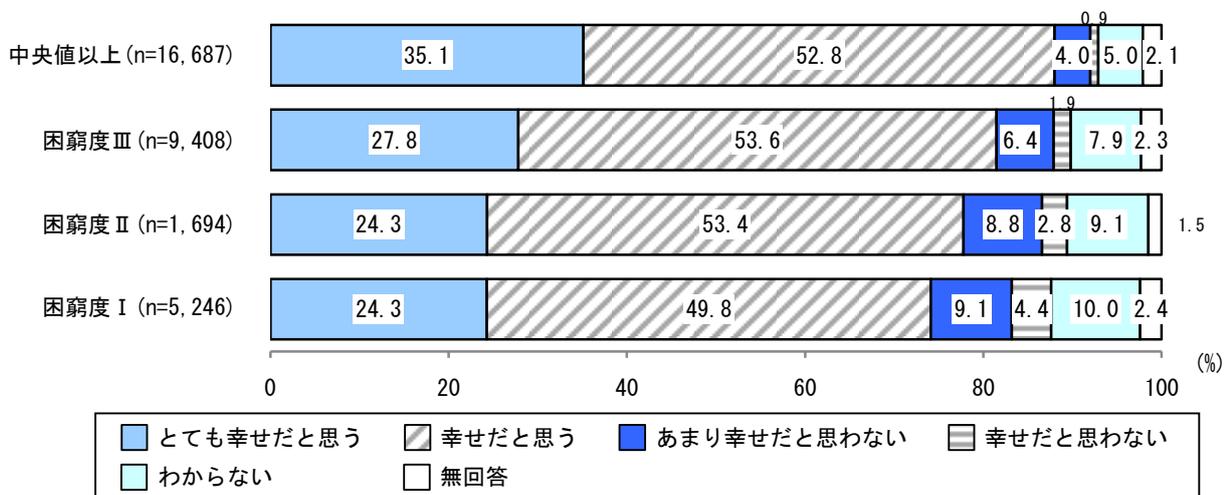


図 90. 困窮度別に見た、心の状態（ストレスを発散できるものがあるか）

困窮度別にストレスを発散できるものについて、困窮度が高まるにつれて、「ある」と回答する割合が低くなり、困窮度Ⅰ群では25.6%となっている。ストレスが発散できるものが「ない」という回答に着目すると、困窮度Ⅰ群が11.6%と、「ない」と回答する割合が最も高くなっている。

困窮度別に見た、心の状態（自分が幸せだと思うか）（保護者票問 21(4)）

<大阪府内全体>



<守口市>

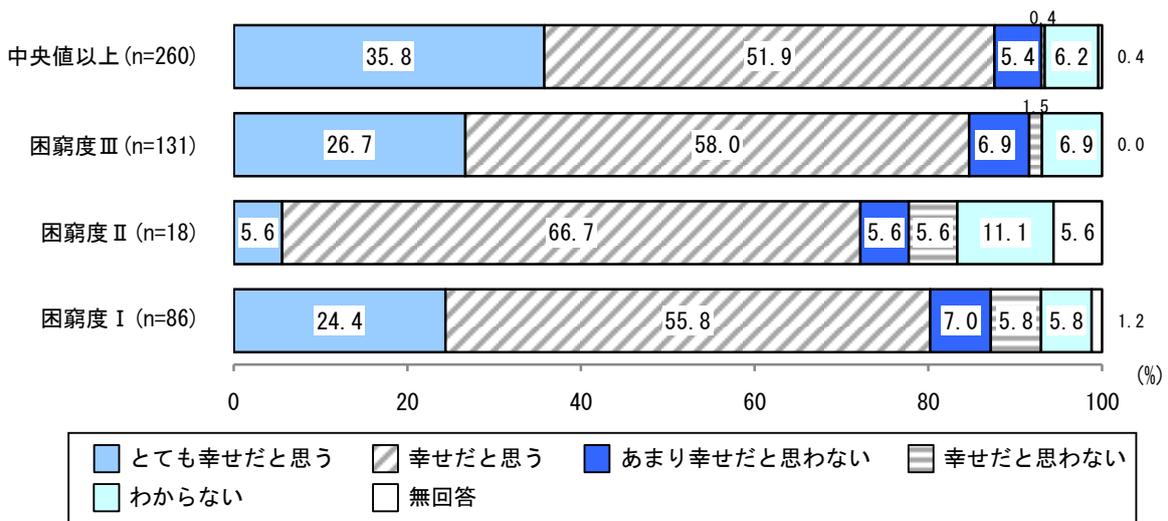


図 91. 困窮度別に見た、心の状態（自分が幸せだと思うか）

困窮度別に幸せだと思うかを見ると、「とても幸せだと思う」と「幸せだと思う」をあわせて、なんらかの『幸せだと思う』と回答した割合は、困窮度Ⅱ群（72.3%）で最も低くなっている。逆に、なんらかの『幸せではない』（「あまり幸せだと思わない」と「幸せだと思わない」をあわせた割合）と回答する割合は、困窮度が高まるにつれて高くなっており、困窮度Ⅰ群で12.8%となっている。

## <健康に関する考察>

まず、困窮度別に生活習慣と健康状態について、中央値以上群と困窮度Ⅰ群間で差が大きい項目に着目して述べる。朝食の頻度では、中央値以上群は困窮度Ⅰ群と比べ、「毎日またはほとんど毎日」(92.5%対74.3%)が15ポイント以上高くなっている。

子どもの自覚症状では、困窮度Ⅰ群は中央値以上群と比べ、「よく頭が痛くなる」(25.7%対8.3%)が10ポイント以上高く、「ねむれない」(18.9%対9.1%)、「歯が痛い」(6.8%対1.2%)が5ポイント以上高くなっている。保護者の自覚症状では、困窮度Ⅰ群は中央値以上群と比べ、「ねむれない」(19.8%対9.6%)、「よく頭がいたくなる」(34.9%対21.5%)、「不安な気持ちになる」(37.2%対19.2%)、「よくお腹が痛くなる」(15.1%対4.2%)、「やる気が起きない」(30.2%対14.2%)、「イライラする」(39.5%対26.2%)では10ポイント高くなっている。また「よくかぜをひく」(7.0%対1.5%)、「よくかゆくなる」(15.1%対5.4%)、「よく肩がこる」(46.5%対40.0%)がいずれも5ポイント以上高くなっている。

子どもの心の状態をみると、中央値以上群は困窮度Ⅰ群と比べ「楽しみにしていることがたくさんある」(45.6%対39.2%)「元気いっぱいだ」(51.5%対45.9%)がそれぞれ5ポイント以上高くなっている。一方で、困窮度Ⅰ群は中央値以上群と比べ「まわりが気になる」(20.3%対12.9%)、「やる気が起きない」(24.3%対16.6%)がそれぞれ5ポイント以上高くなっている。保護者の心の状態を見ると、中央値以上群は困窮度Ⅰ群と比べ、生活を「楽しんでる」(60.0%対54.7%)が5ポイント以上、将来に対して「希望が持てる」(35.8%対20.9%)が10ポイント以上高くなっている。さらに中央値以上群は困窮度Ⅰ群と比べ、ストレスを発散できるものが「ある」(45.4%対25.6%)が約20ポイント高く、自分が「とても幸せだと思う」(35.8%対24.4%)が10ポイント以上高くなっている。

次に、経済的な理由による経験の該当数を見ると、個数が増えるにしたがって、子どもは「元気いっぱいだ」で「いつもそうだ」の割合が低くなる傾向にある。自覚症状では、個数が増えるにしたがって子どもは「歯がいたい」「ねむれない」の割合が高くなる傾向にあり、保護者では「ねむれない」「よく頭がいたくなる」「不安な気持ちになる」「よくかゆくなる」「まわりが気になる」「やる気が起きない」「イライラする」「よく肩がこる」「よく腰がいたくなる」の割合が高くなる傾向にある。これらの結果から、経済的に困難な世帯では、保護者では不安やイライラなどのメンタルヘルスに影響が出ている可能性があり、同時に肩こりや腰痛が多く、肉体労働に従事している可能性や、心身の休養が不十分である可能性がうかがえる。経済状態は子どものメンタルヘルスにも影響しており、まわりが気になる子どもややる気が起きない子どもの割合が高くなっている。また、経済的に困難な世帯では、子どもには歯の痛み、保護者にはかゆみが出ており、衛生状態が懸念される。一方で経済的に困難のない世帯の保護者はストレス発散ができ、幸福感を感じおり、子どもは楽しみなことがたくさんある、元気いっぱいだと回答するなど、望ましい状態で過ごすことができている。

続いて、保護者の就業状況別の生活習慣や健康状態を見てみる。親の就業状況別の朝食の頻度では、就業している群(正規群、自営群、非正規群)は無業群に比べると「毎日またはほとんど毎日」朝食を摂っている(87.6%、85.9%、81.6%対50.0%)割合が30ポイント以上高くなっている。この結果から、母親が就業している世帯では、朝食を摂る生活習慣が家庭内で確立しやすい傾向がうかがえる。

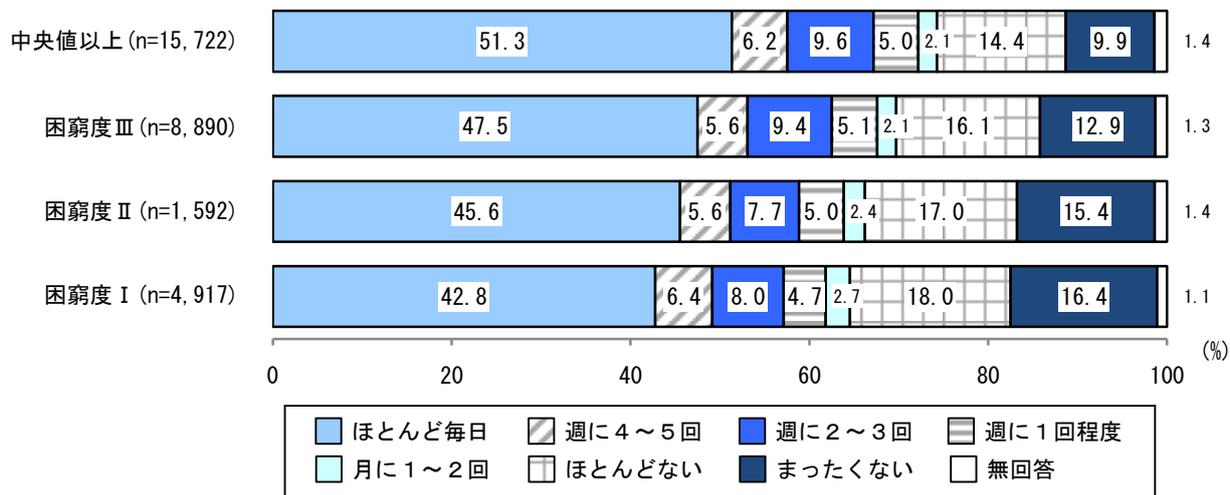
最後に、食事習慣別の親子関係や健康状態に着目する。朝食の頻度別に見ると、朝食を「毎日またはほとんど毎日」食べている群では、「食べない」群と比べ、子どもを「とても信頼している」(52.6%対30.0%)が20ポイント以上、子どもと会話を「よくする」(65.6%対50.0%)が15ポイ

ント以上、子どもの将来に「とても期待している」(21.1%対15.0%)が5ポイント以上高くなっている。また、「食べない」群では「毎日またはほとんど毎日」食べている群に比べ、休日に子どもと関わる時間が「2時間未満」(30.0%対17.2%)が10ポイント以上高くなっている。子どもの自己効力感では、朝食を「毎日またはほとんど毎日」食べている群では、「食べない」群と比べ、1点以上高くなっており、学校が休みの日の昼食を「必ず食べる」群では他の群に比べ高い傾向がある。これらの結果から、ほぼ毎日規則正しく朝食・昼食を摂ることは、保護者と子どもの関係をよりよくするとともに、子どもの自己効力感を高める可能性が示唆された。

### 3-4. 家庭生活、学習

#### 困窮度別に見た、おうちの大人の人と一緒に朝食を食べているか（子ども票問8①）

##### <大阪府内全体>



##### <守口市>

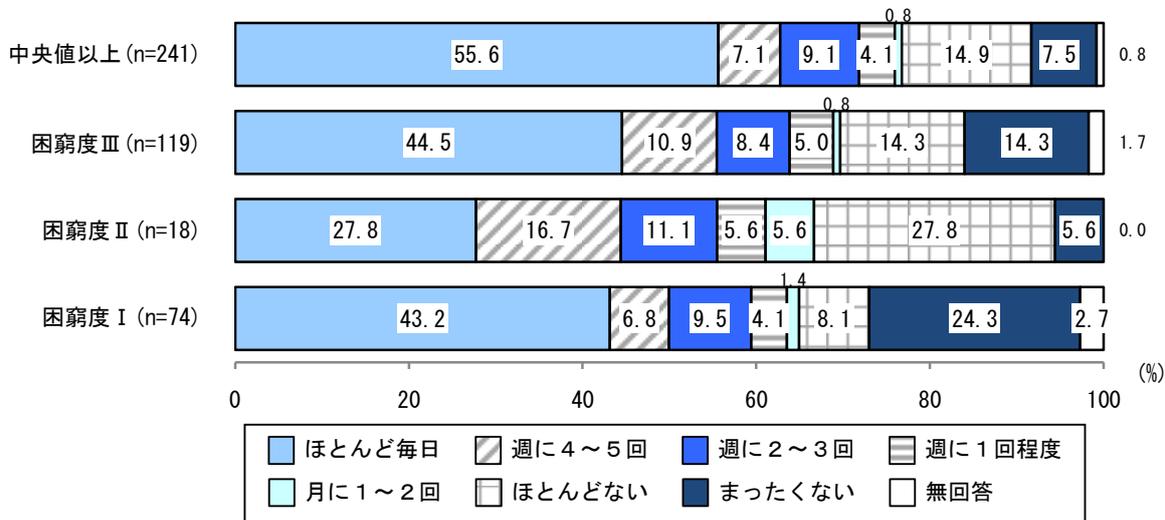
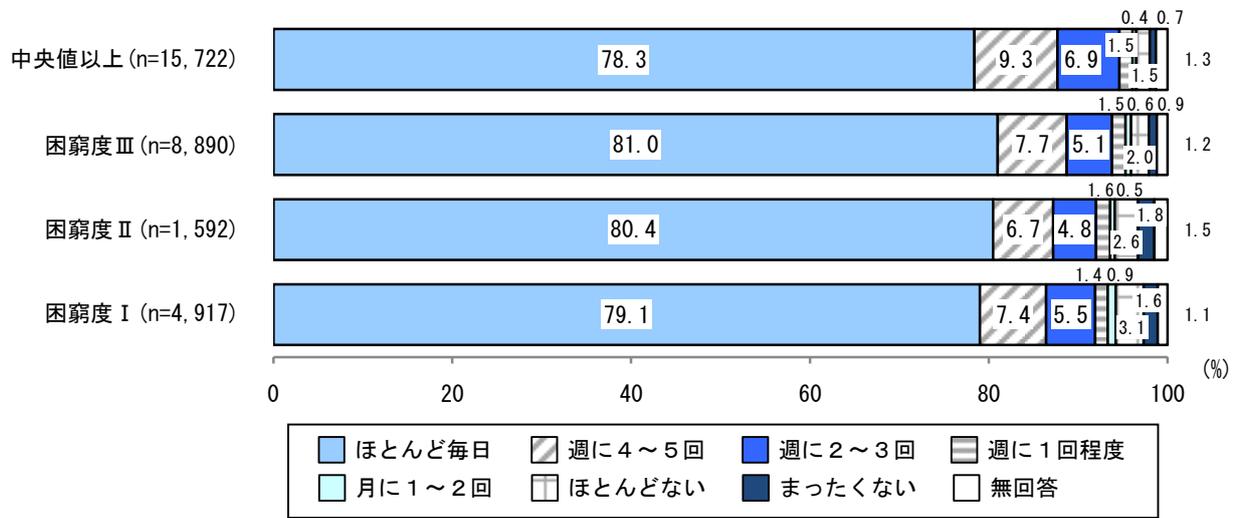


図 92. 困窮度別に見た、おうちの大人の人と一緒に朝食を食べているか

困窮度別におうちの大人の人と一緒に朝食を食べているかを見ると、「ほとんど毎日」の割合は中央値以上群が55.6%で最も高く、次いで困窮度Ⅲ群が44.5%となっている。一方、「まったくない」の割合は困窮度Ⅰ群が24.3%で最も高くなっている。

困窮度別に見た、おうちの大人の人と一緒に夕食を食べているか（子ども票問8②）

<大阪府内全体>



<守口市>

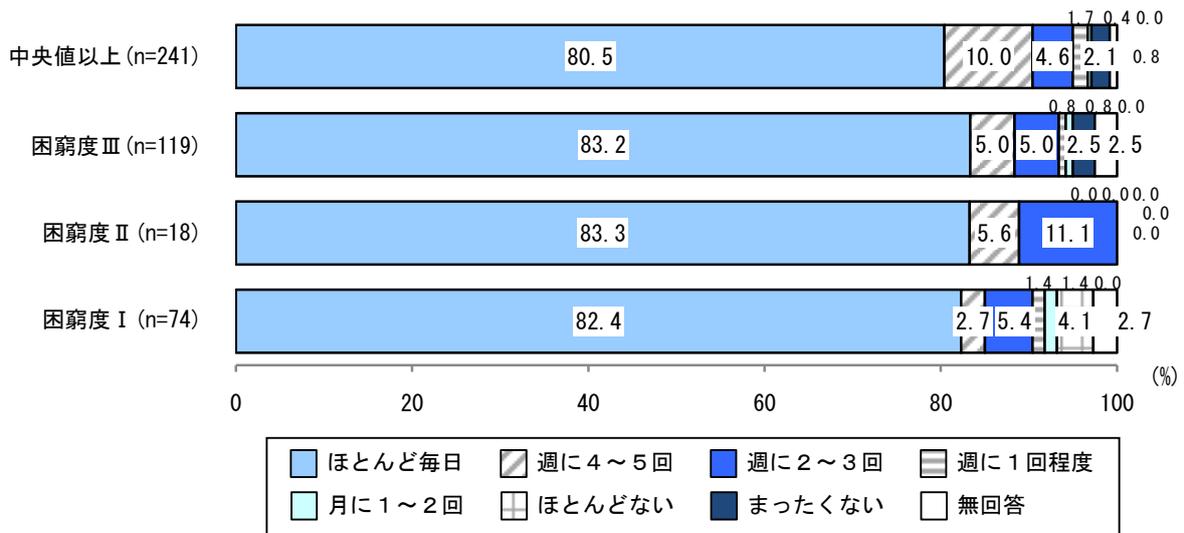
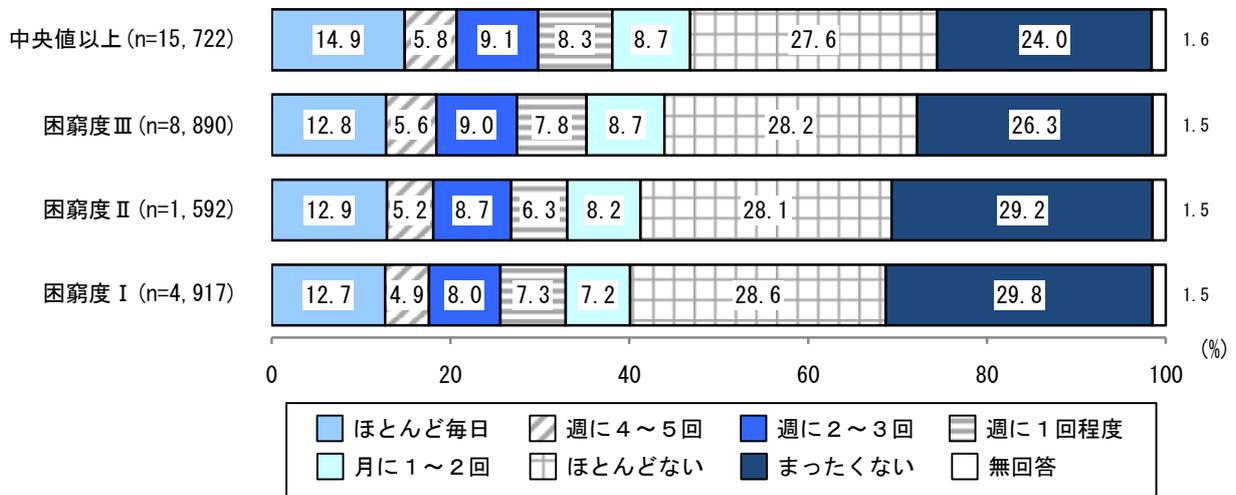


図 93. 困窮度別に見た、おうちの大人の人と一緒に夕食を食べているか

困窮度別におうちの大人の人と一緒に夕食を食べているかを見ると、中央値以上群において、「ほとんど毎日」の割合が80.5%と最も低くなっている。

困窮度別に見た、おうちの大人の人に宿題（勉強）をみてもらうか（子ども票問8⑤）

<大阪府内全体>



<守口市>

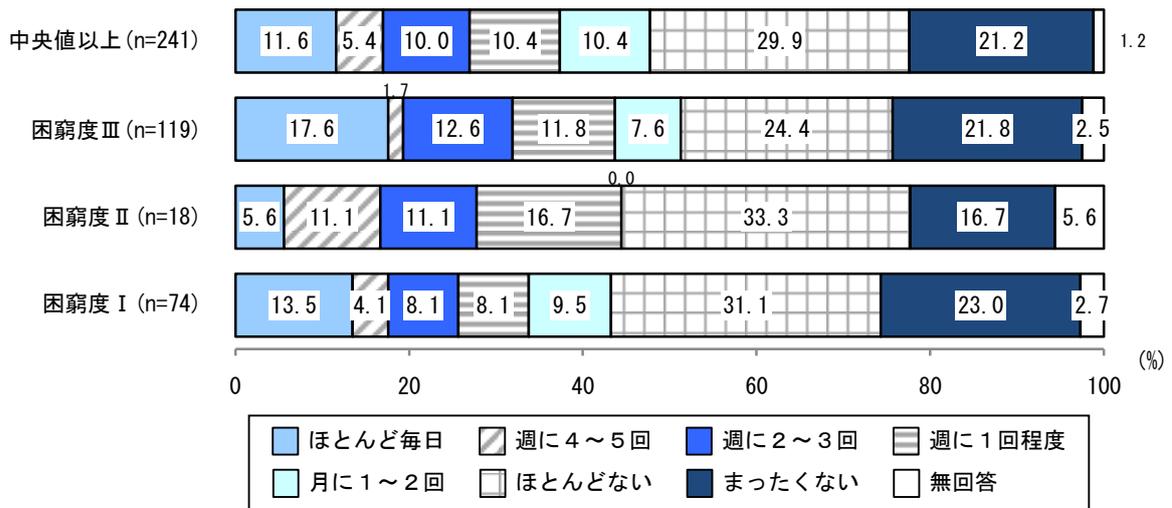
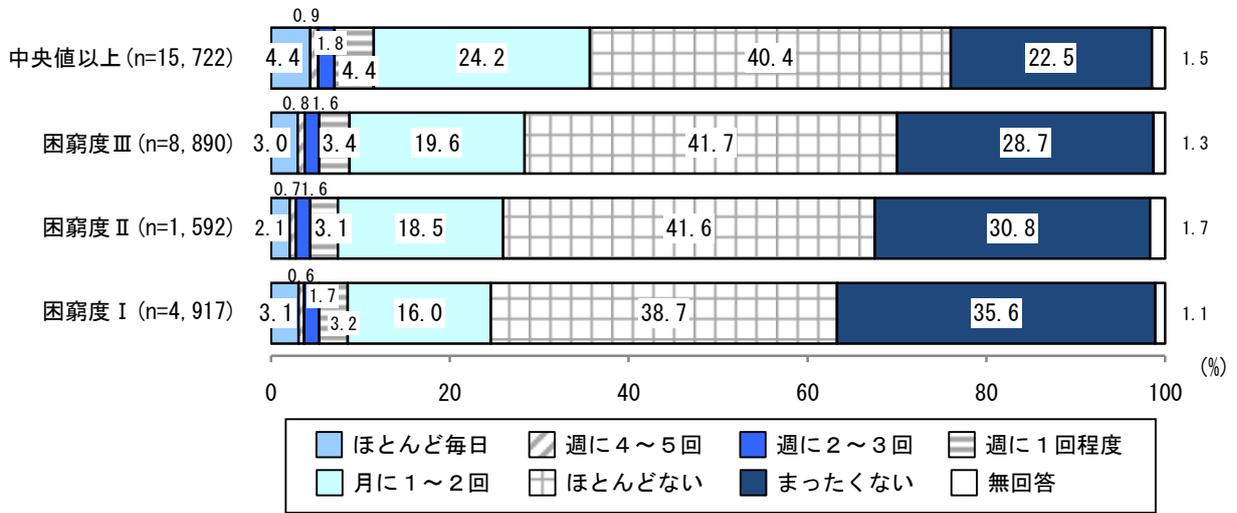


図 94. 困窮度別に見た、おうちの大人の人に宿題（勉強）をみてもらうか

困窮度別に保護者と子どもの関わり（おうちの大人に宿題をみてもらうか）を見ると、困窮度Ⅰ群では、「まったくない」と回答した人は23.0%で最も高くなっている。一方、「ほとんど毎日」は困窮度Ⅲ群が17.6%で最も高くなっている。

困窮度別に見た、おうちの大人の人と文化活動をするか（子ども票問8⑨）

<大阪府内全体>



<守口市>

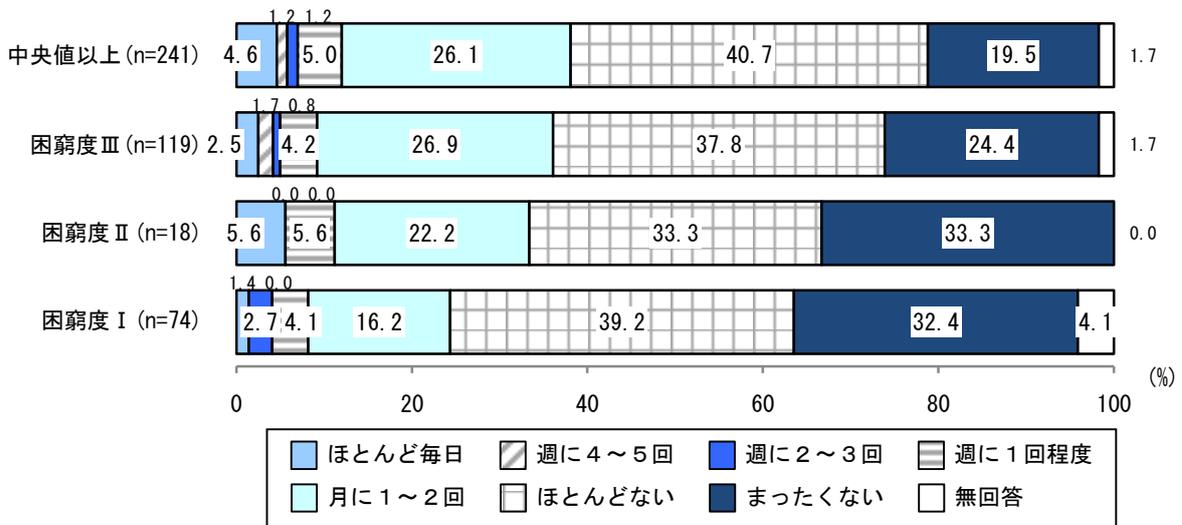
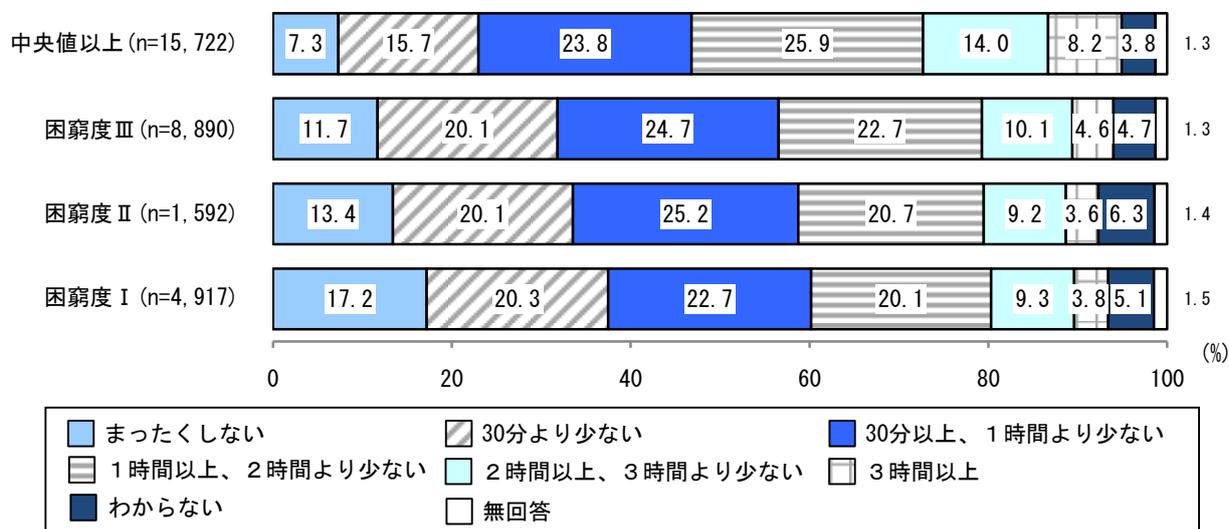


図 95. 困窮度別に見た、おうちの大人の人と文化活動をするか

困窮度別におうちの大人の人と文化活動をするかを見ると、「まったくない」と回答した人は困窮度Ⅱ群が33.3%で最も高くなっている。

困窮度別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間 ①学校がある日（月～金曜日）  
（子ども票問13①）

<大阪府内全体>



<守口市>

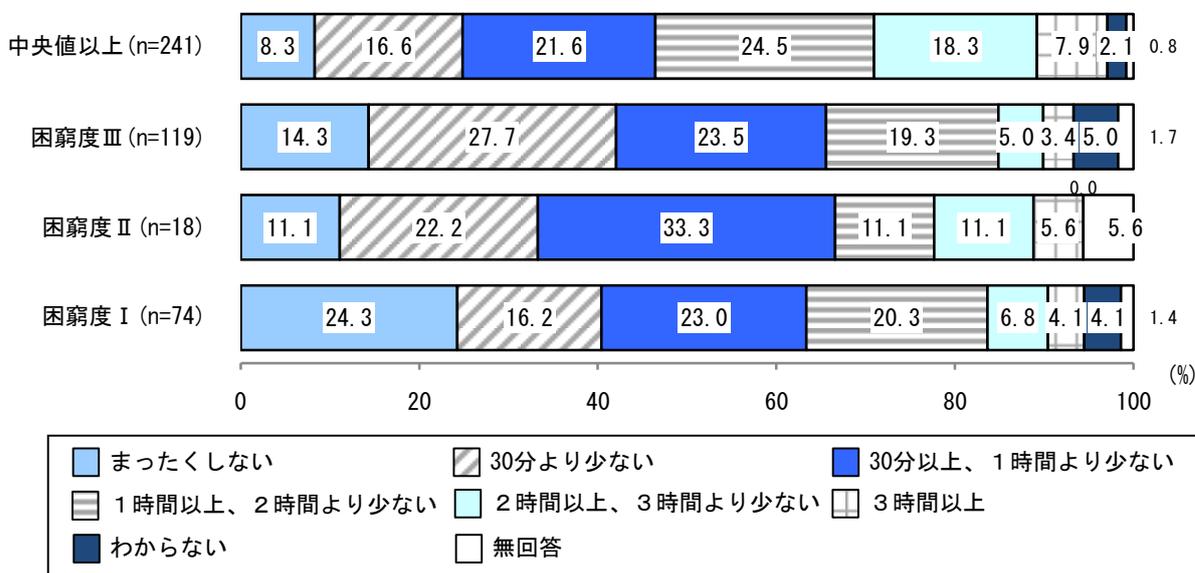
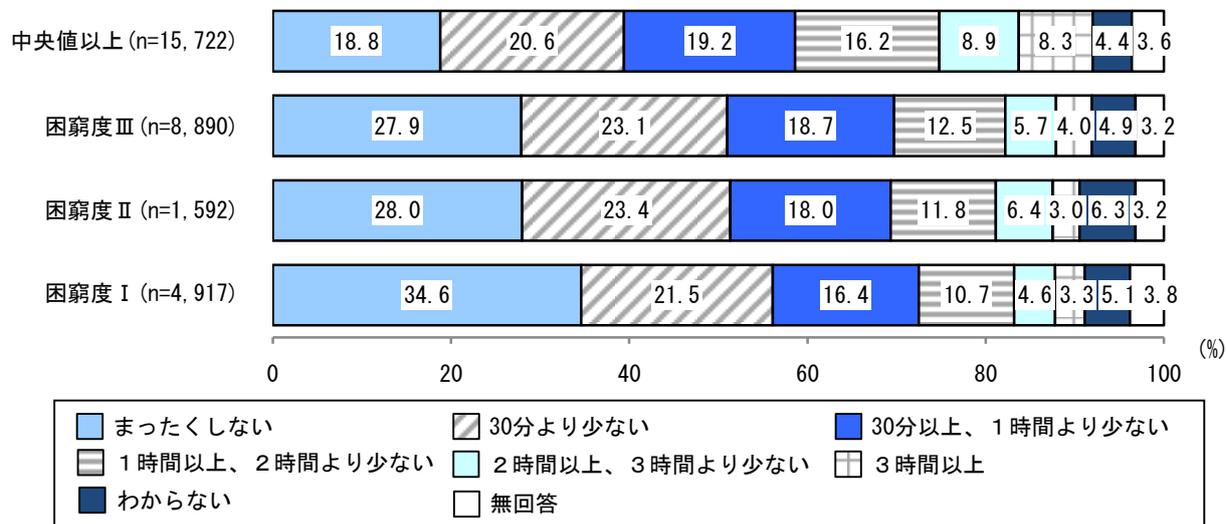


図 96. 困窮度別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間（学校がある日）

困窮度別に授業以外の勉強時間を見ると、学校のある日では、「まったくしない」と回答した人の割合は困窮度Ⅰ群が24.3%で最も高くなっている。「30分より少ない」と回答した人は困窮度Ⅲ群が27.7%で最も高くなっている。

困窮度別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間 ②学校がない日（土・日曜日・祝日）  
（子ども票問 13②）

<大阪府内全体>



<守口市>

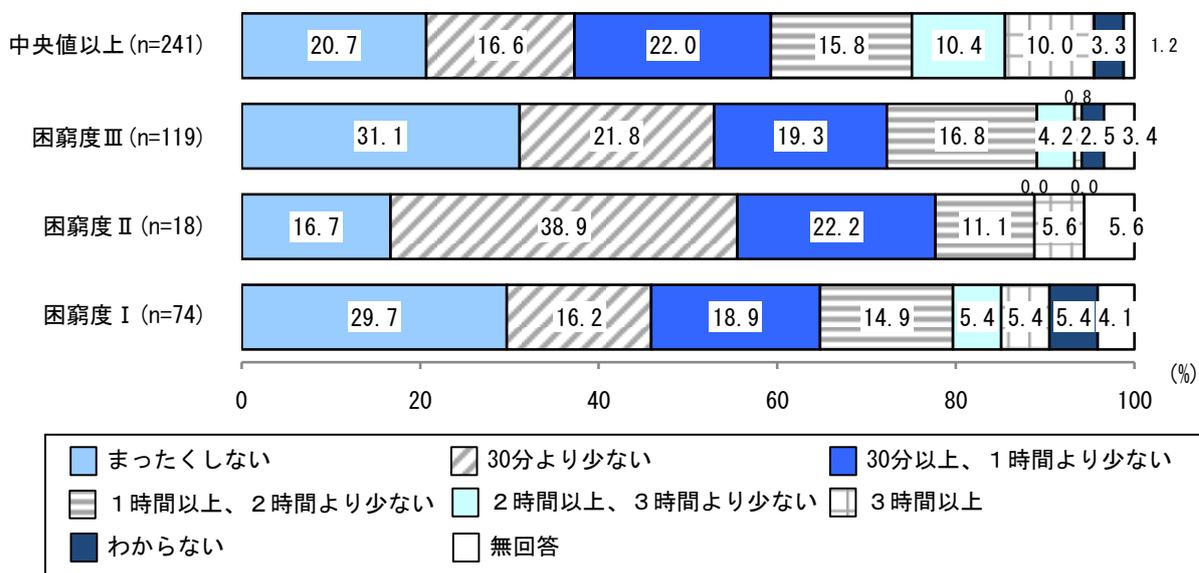
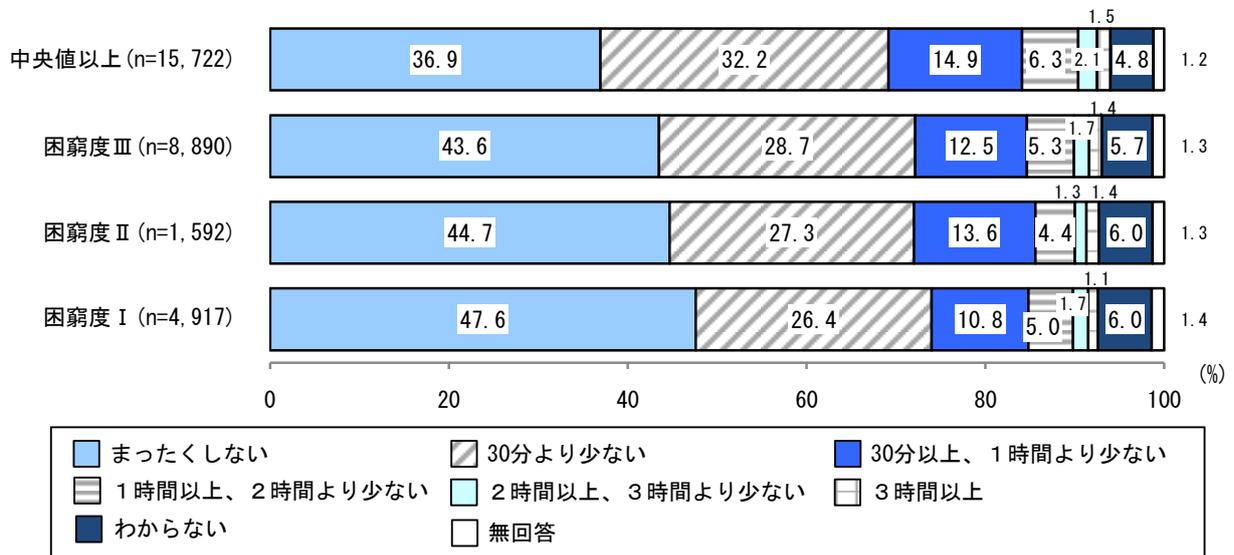


図 97. 困窮度別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間（学校がない日）

困窮度別に授業以外の勉強時間を見ると、学校がない日では、困窮度Ⅲ群では、「まったくしない」と回答した人は31.1%と最も高く、次いで困窮度Ⅰ群が29.7%となっている。

困窮度別に見た、授業以外の読書時間（子ども票問 15）

<大阪府内全体>



<守口市>

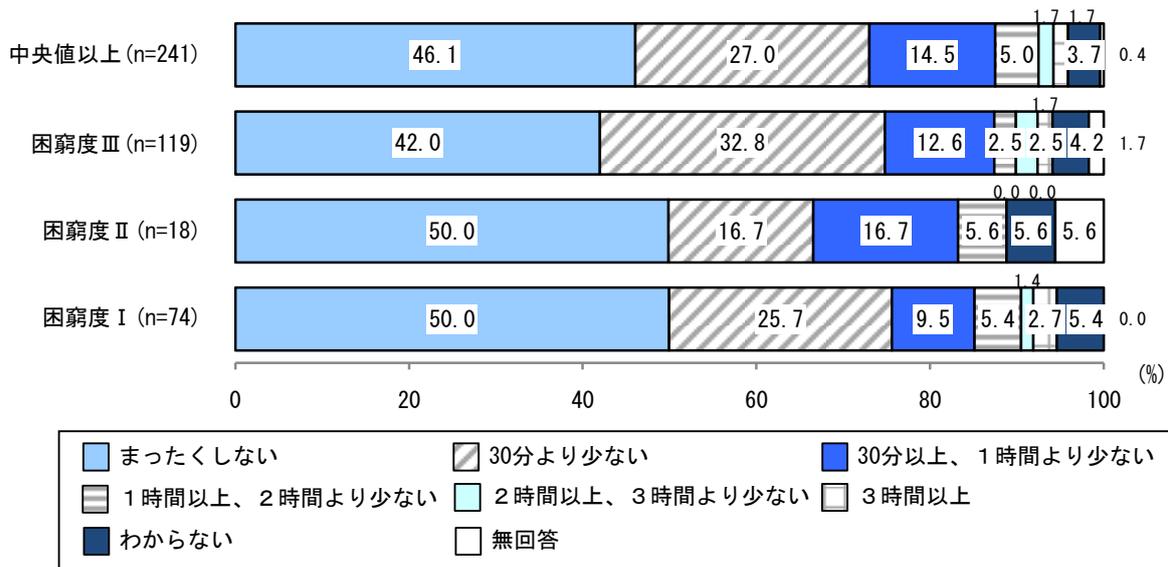
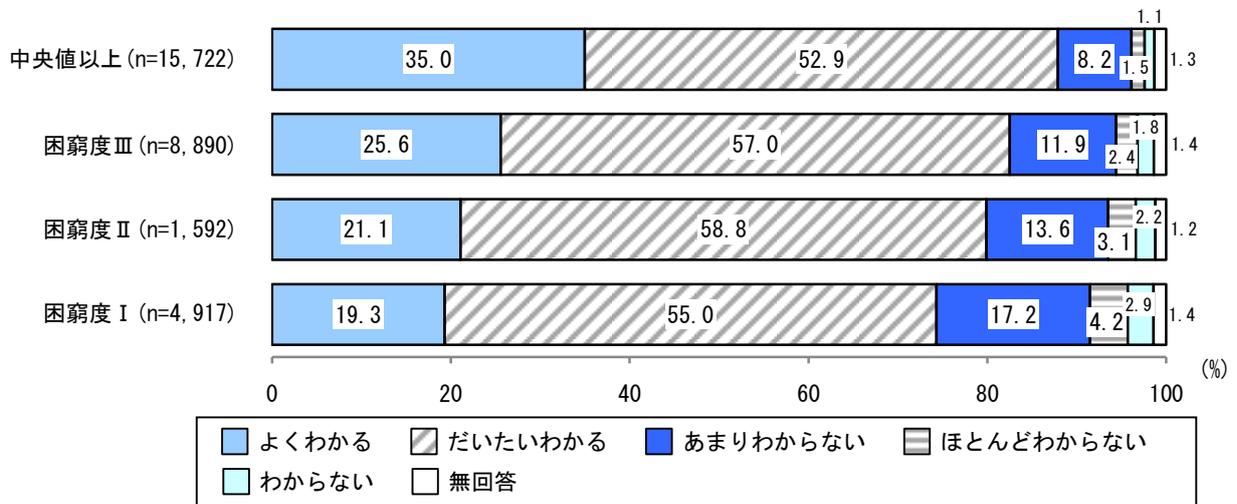


図 98. 困窮度別に見た、授業以外の読書時間

困窮度別に授業以外の読書時間を見ると、困窮度Ⅱ群、困窮度Ⅰ群では、「まったくしない」と回答した人がともに50.0%と最も高くなっている。また、「30分より少ない」と回答した人は困窮度Ⅲ群で32.8%と最も高くなっている。

困窮度別に見た、学校の勉強で気持ちに近いもの（子ども票問 14(1)）

<大阪府内全体>



<守口市>

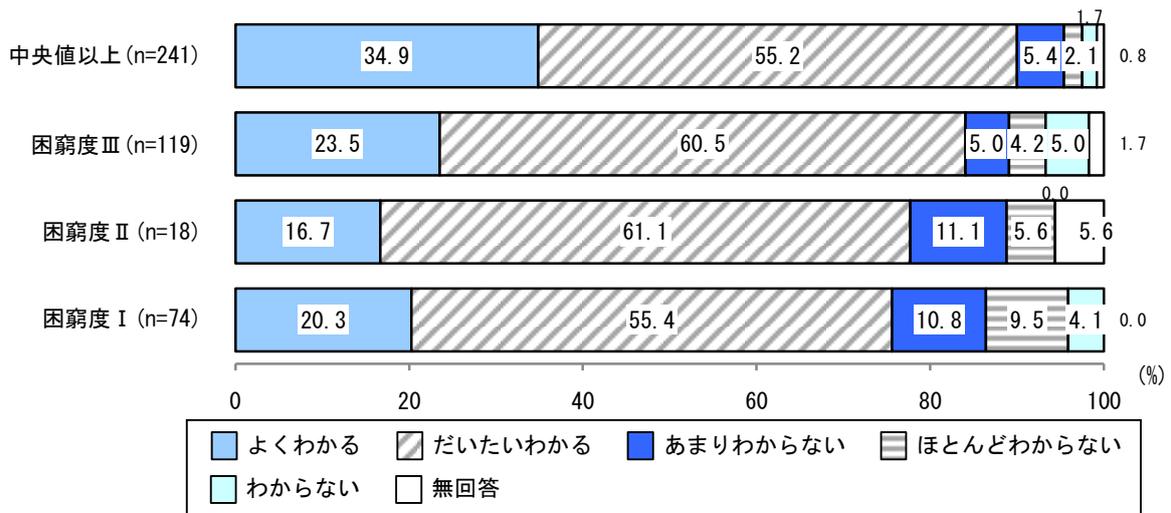


図 99. 困窮度別に見た、学校の勉強で気持ちに近いもの

困窮度別に学校の勉強で気持ちに近いものを見ると、「よくわかる」と「だいたいわかる」をあわせて、なんらか『わかる』と回答した人の割合は、困窮度が高まるにつれて低くなっている。

子ども部屋の有無別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間の平均値 ①学校がある日  
(月～金曜日) (子ども票問 21×子ども票問 13①)

※勉強時間について、「1. まったくしない」「2. 30分より少ない」「3. 30分以上、1時間より少ない」「4. 1時間以上、2時間より少ない」「5. 2時間以上、3時間より少ない」「6. 3時間以上」の6つの時間枠からひとつを選択させた(「7. わからない」は除く)。項目番号を勉強時間の得点とみなし、得点が高いほど、勉強時間が長いことを表す。

<大阪府内全体>



<守口市>

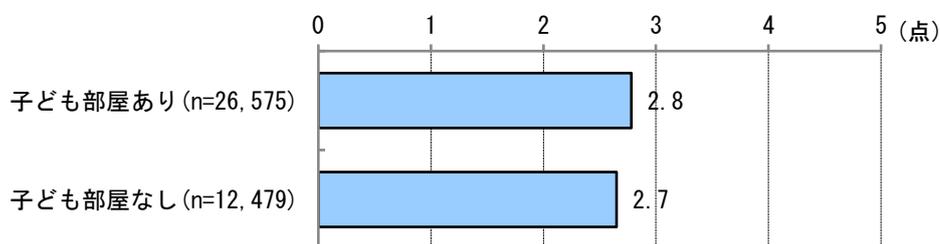


図 100. 子ども部屋の有無別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間の平均値 (学校がある日)

子ども部屋の有無別に学校がある日の授業時間以外の1日あたりの勉強時間を見ても、大きな差はみられない。

子ども部屋の有無別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間の平均値 ②学校がない日  
(土・日曜日・祝日) (子ども票問 21×子ども票問 13②)

<大阪府内全体>



<守口市>

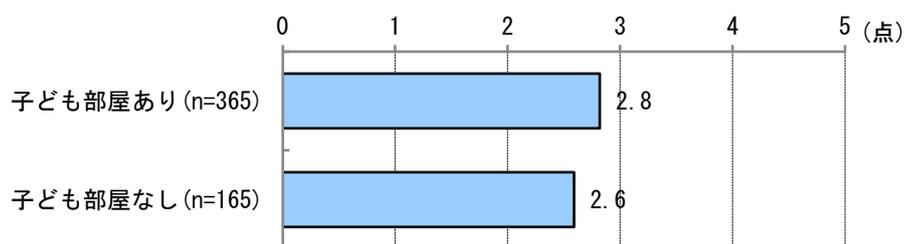
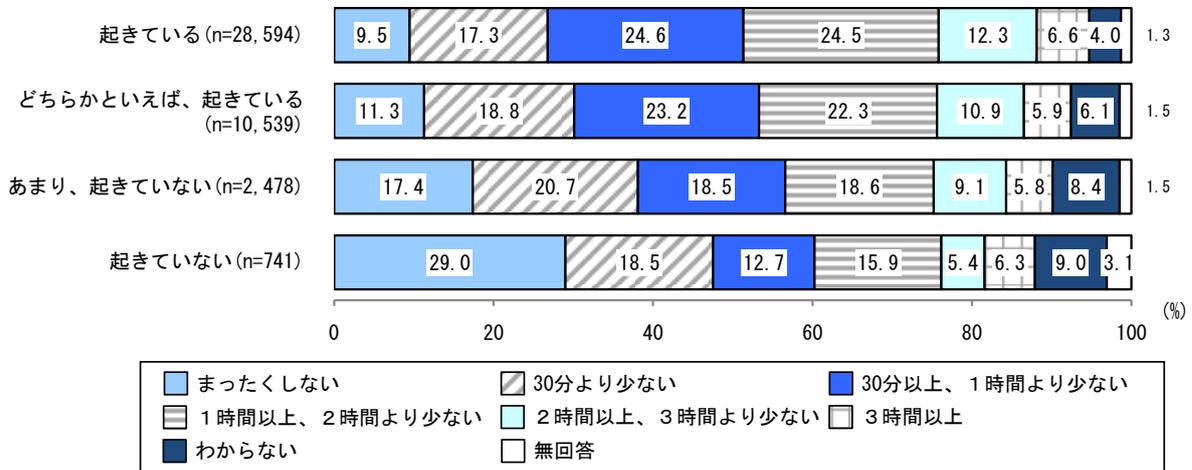


図 101. 子ども部屋の有無別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間の平均値 (学校がない日)

子ども部屋の有無別に学校がない日の授業時間以外の1日あたりの勉強時間を見ると、子ども部屋がある子どもの方が、勉強時間が長い。

起床時間の規則性別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間 ①学校がある日（月～金曜日）（子ども票問2×子ども票問13①）

<大阪府内全体>



<守口市>

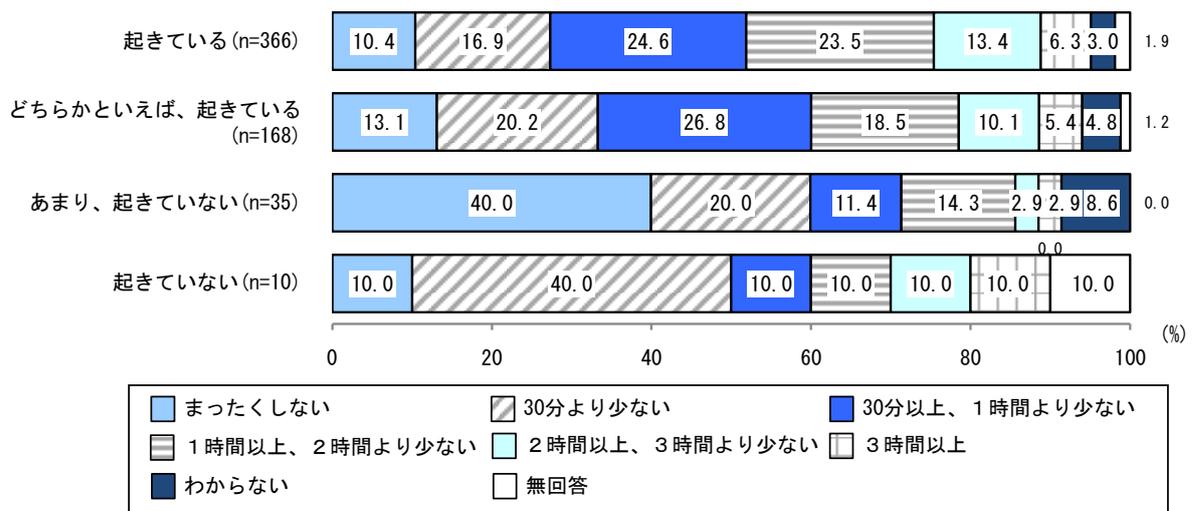
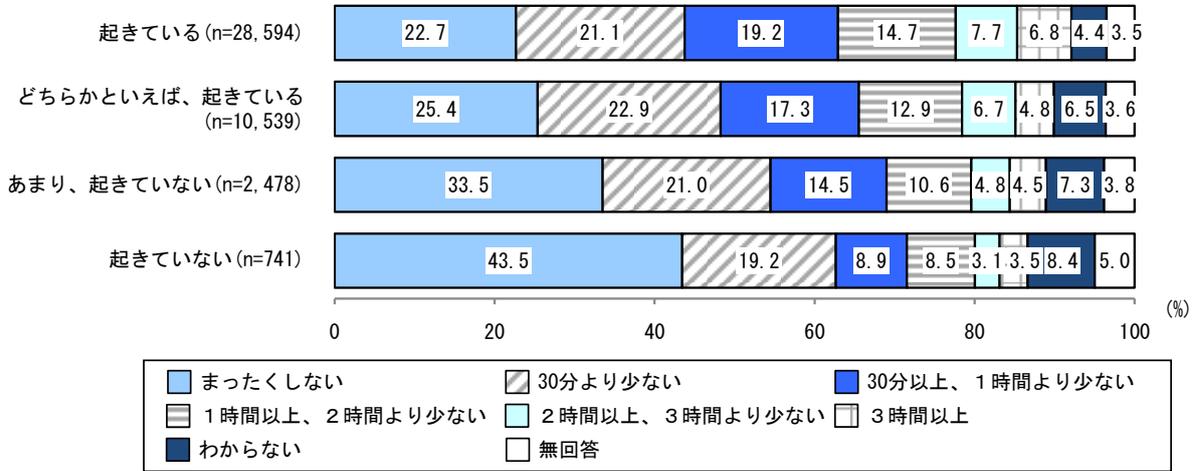


図 102. 起床時間の規則性別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間（学校がある日）

起床時間の規則性別に学校がある日の授業時間以外の1日あたりの勉強時間を見ると、ふだん同じ時刻に「あまり、起きていない」人で「まったくしない」の回答の割合が40.0%と最も高くなっている。「30分より少ない」の割合は、「起きていない」人が40.0%と最も高くなっている。

起床時間の規則性別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間 ②学校がない日（土・日曜日・祝日）（子ども票問2×子ども票問13②）

<大阪府内全体>



<守口市>

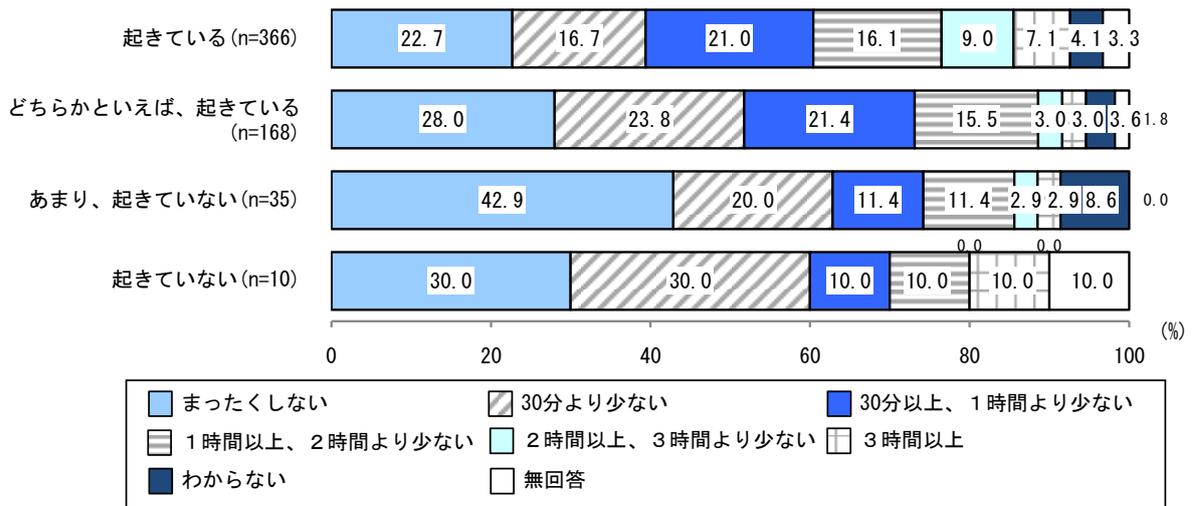
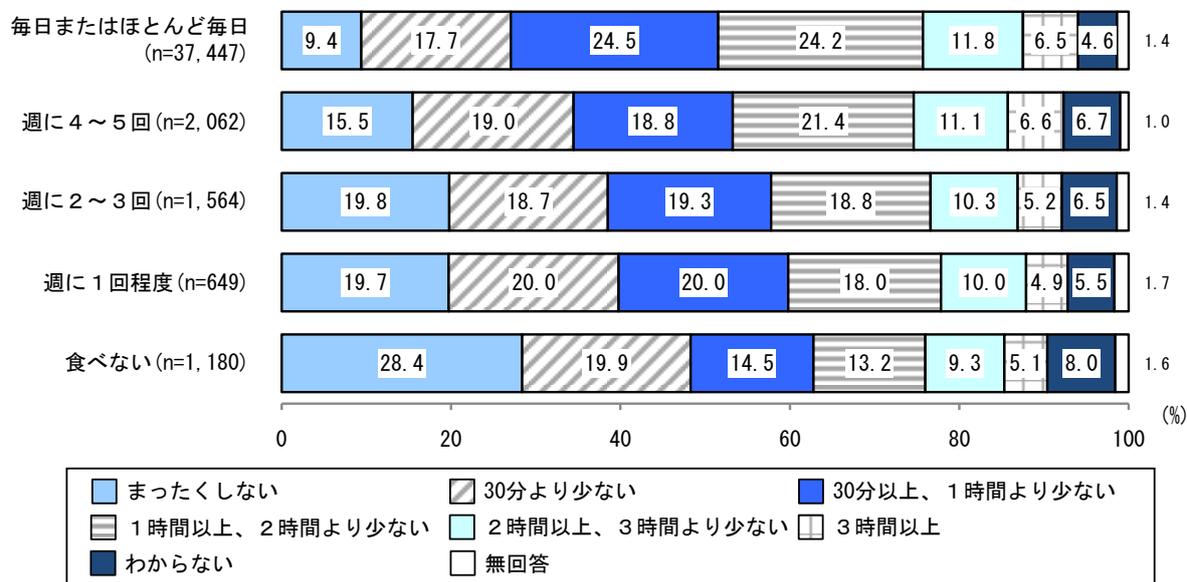


図 103. 起床時間の規則性別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間（学校がない日）

起床時間の規則性別に学校がない日の授業時間以外の1日あたりの勉強時間を見ると、ふだん同じ時刻に「あまり、起きていない」人で「まったくしない」の回答の割合が42.9%と最も高くなっている。

朝食の頻度別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間 ①学校がある日（月～金曜日）  
（子ども票問4(1)×子ども票問13①）

<大阪府内全体>



<守口市>

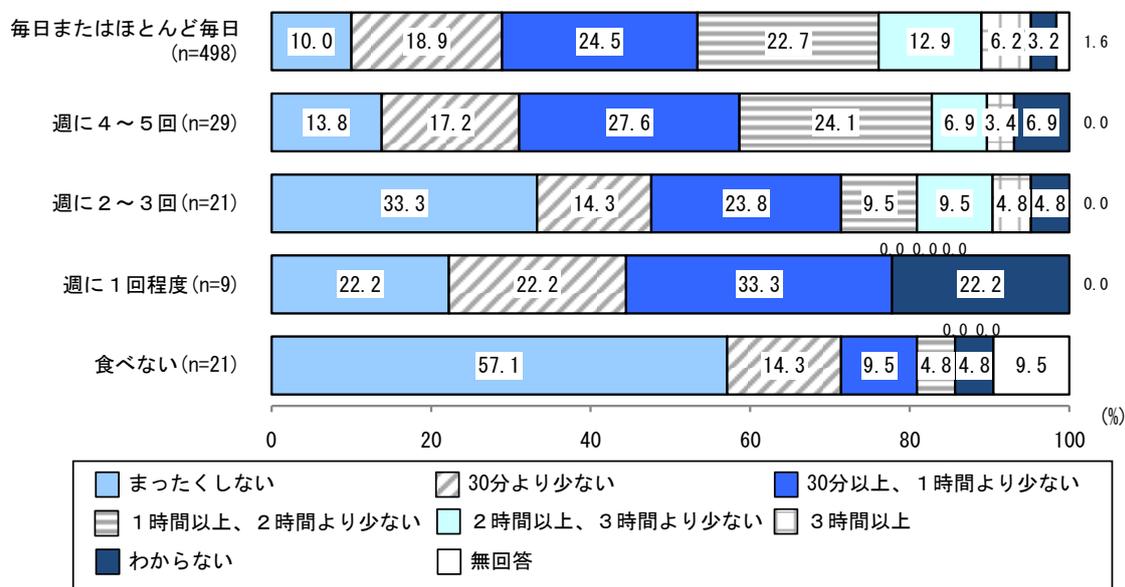
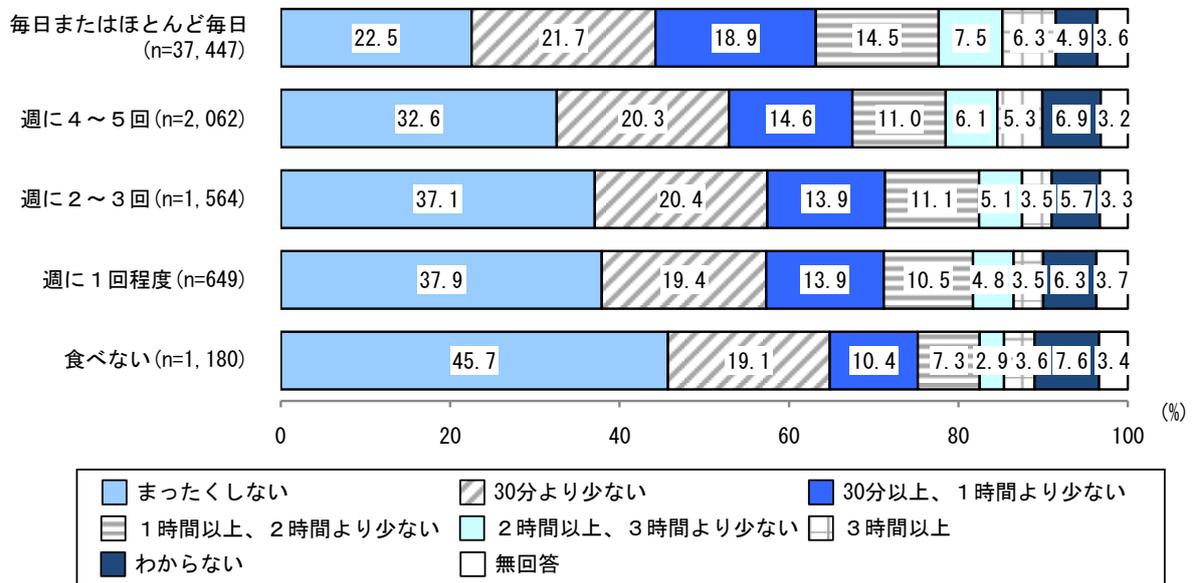


図 104. 朝食の頻度別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間（学校がある日）

朝食の頻度別に学校がある日の授業時間以外の1日あたりの勉強時間を見ると、朝食を「食べない」人は、「まったくしない」と回答した割合が57.1%で最も高くなっている。

朝食の頻度別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間 ②学校がない日（土・日曜日・祝日）（子ども票問4(1)×子ども票問13②）

<大阪府内全体>



<守口市>

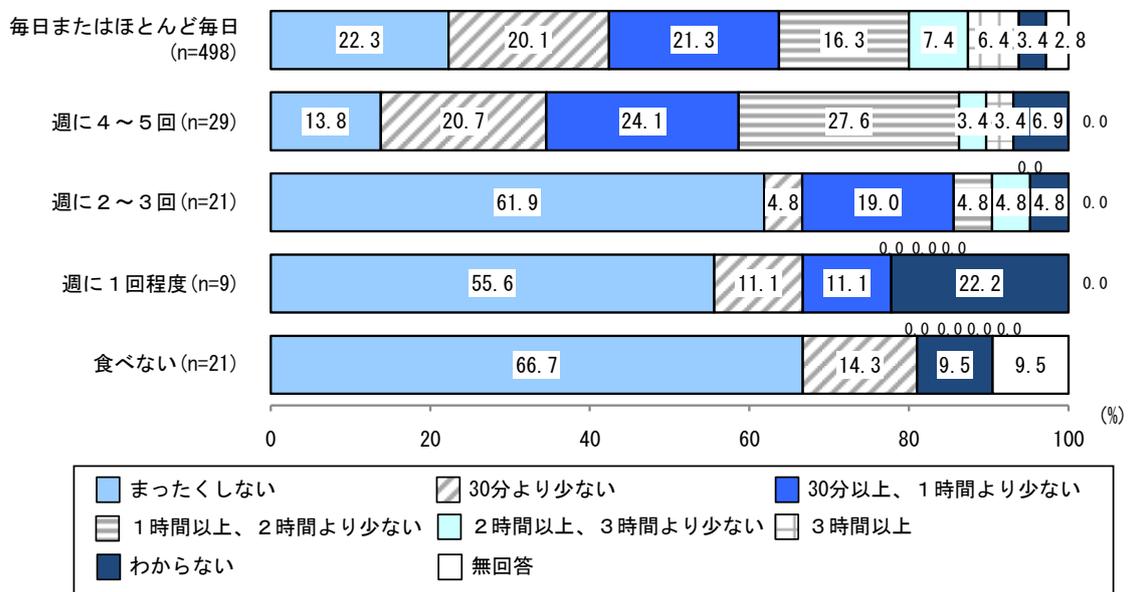
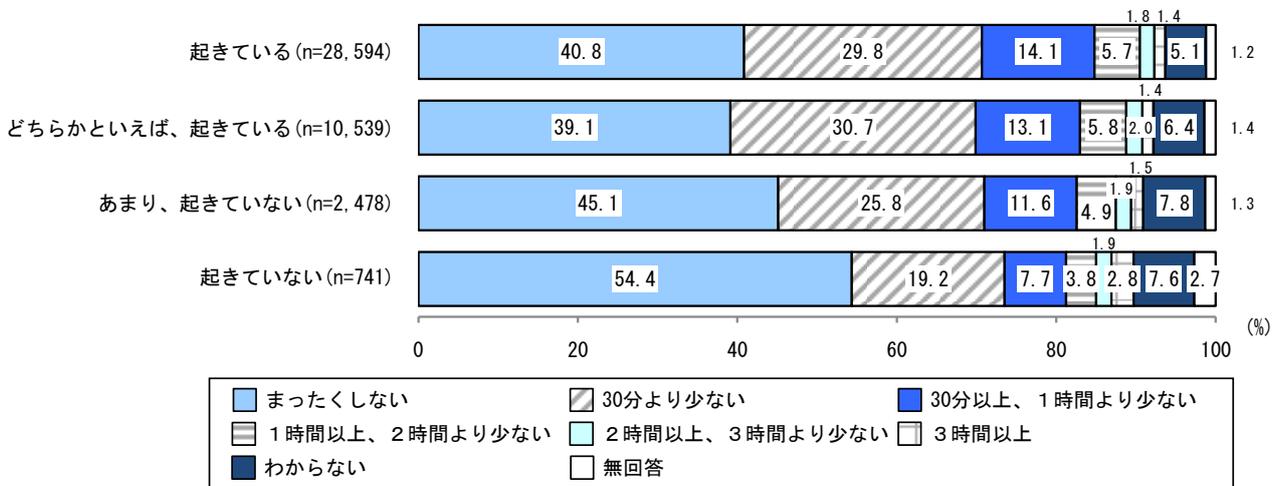


図 105. 朝食の頻度別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間（学校がない日）

朝食の頻度別に学校がない日の授業時間以外の1日あたりの勉強時間を見ると、朝食を「食べない」人は、「まったくしない」と回答した割合が66.7%で最も高くなっている。

起床時間の規則性別に見た、授業以外の読書時間（子ども票問2×子ども票問15）

<大阪府内全体>



<守口市>

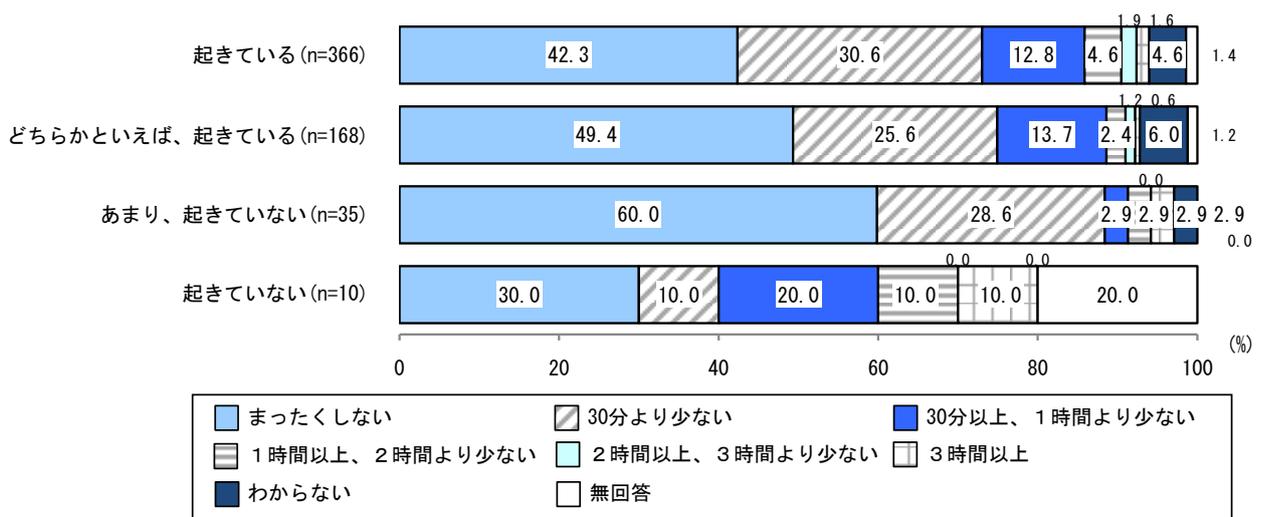
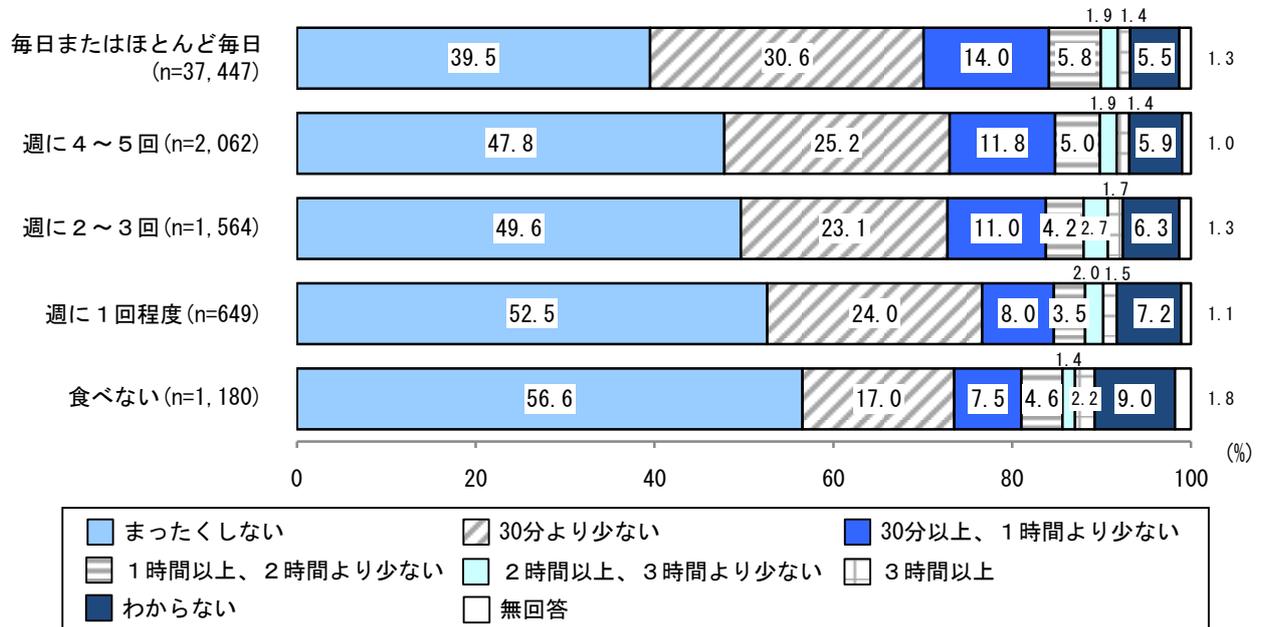


図 106. 起床時間の規則性別に見た、授業以外の読書時間

起床時間の規則性別に授業以外の読書時間を見ると、「あまり、起きていない」人では、「まったくしない」と回答した人は60.0%と最も高くなっている。

朝食の頻度別に見た、授業以外の読書時間（子ども票問4(1)×子ども票問15)

<大阪府内全体>



<守口市>

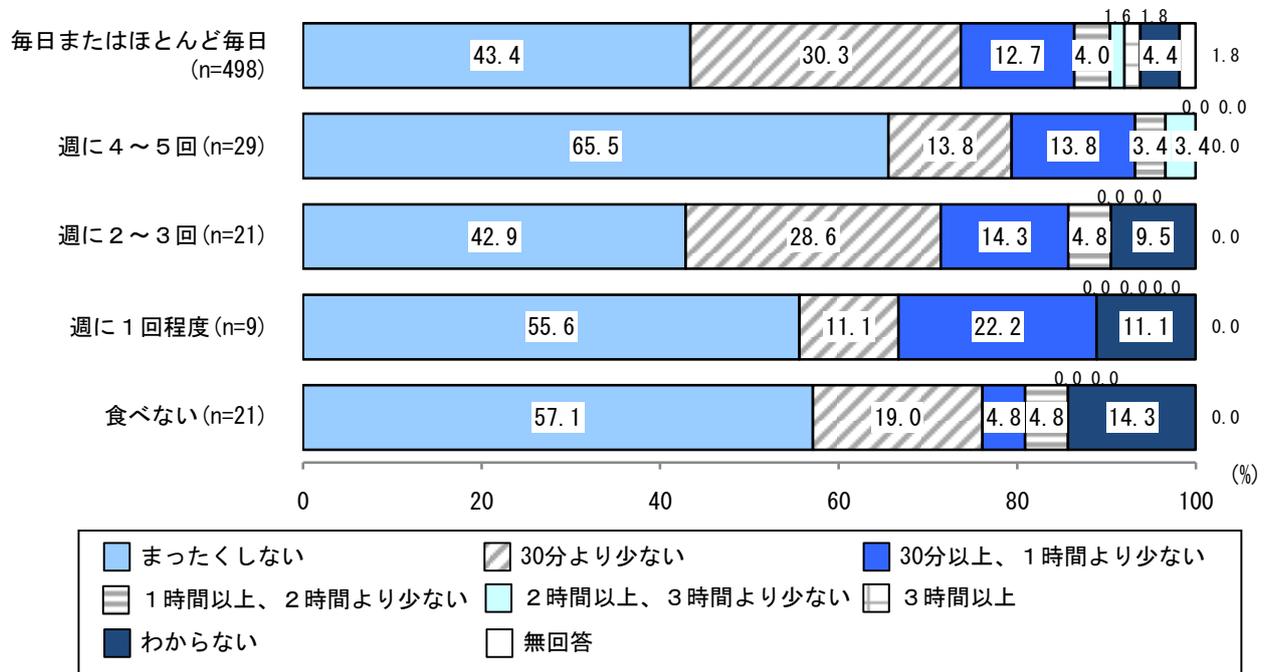
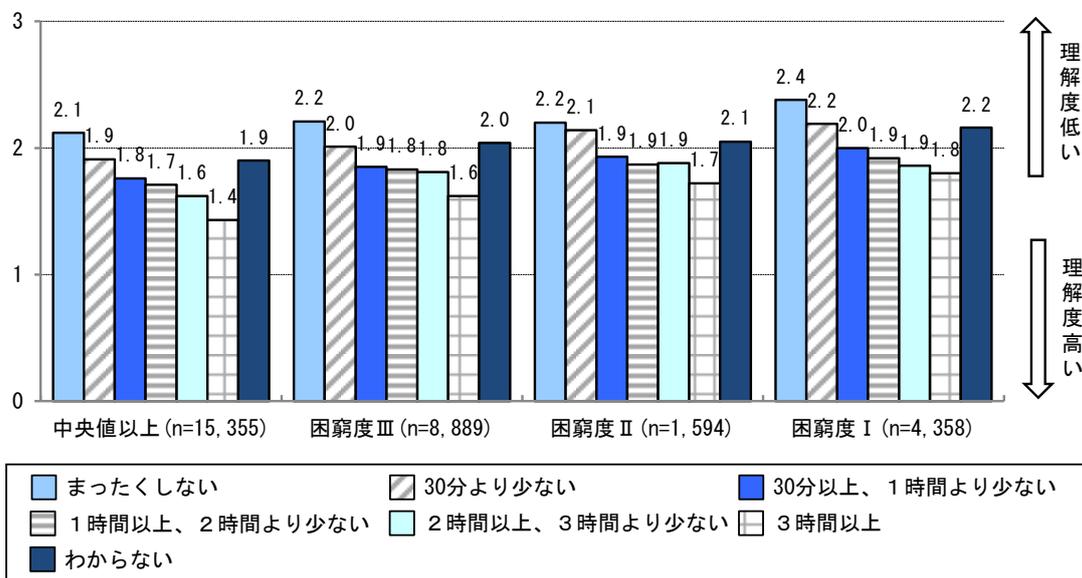


図 107. 朝食の頻度別に見た、授業以外の読書時間

朝食の頻度別に授業以外の読書時間を見ると、「週に4～5回」食べる人は「まったくしない」と回答した割合が65.5%で最も高くなっている。

困窮度別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間（学校がある日）と学習理解度の関連  
（子ども票問14(1)×子ども票問13①）

<大阪府内全体>



<守口市>

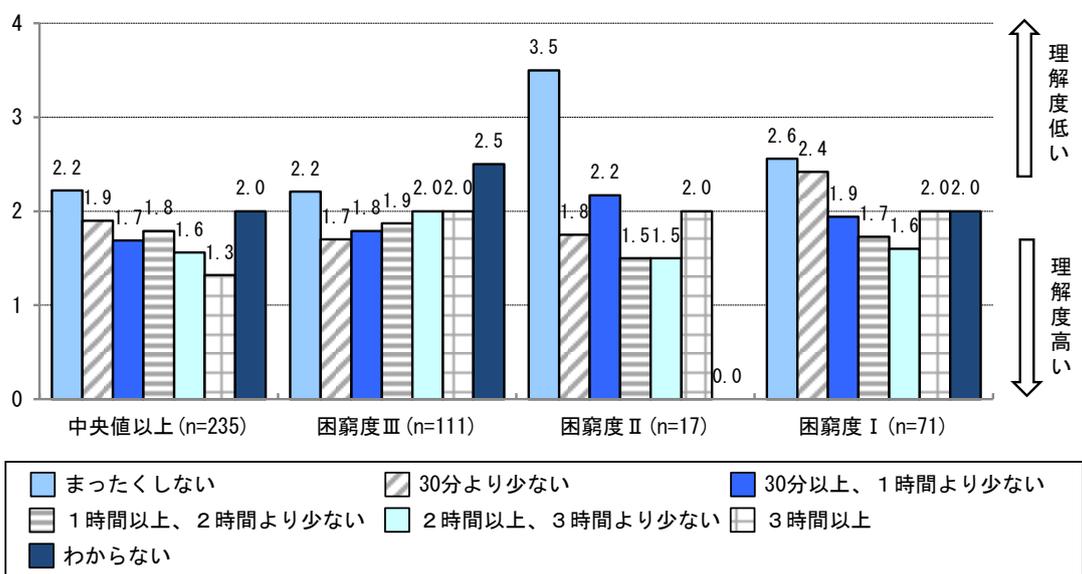
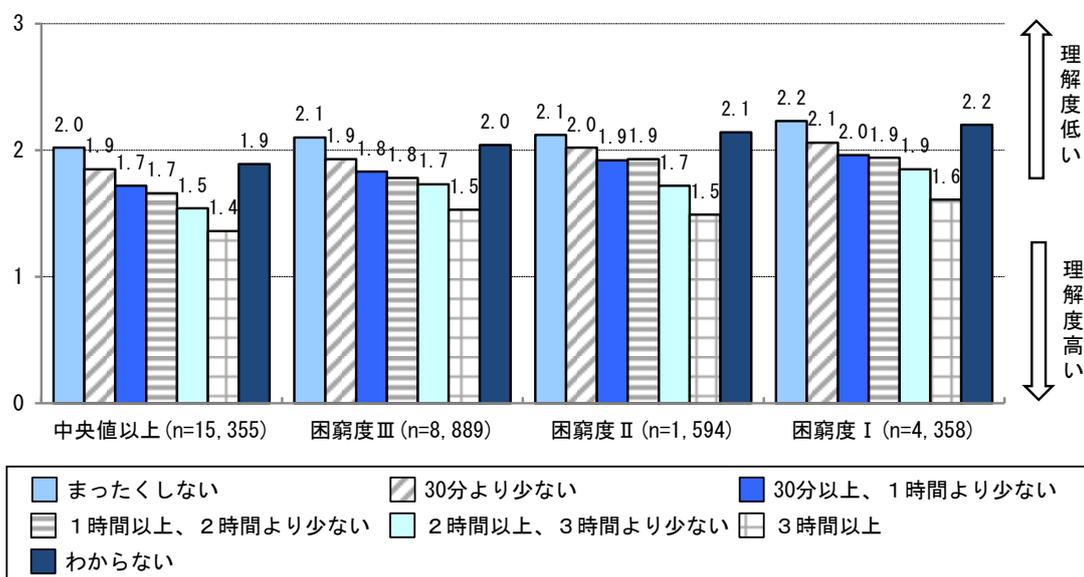


図 108. 困窮度別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間（学校がある日）と学習理解度の関連

困窮度別に学校がある日の授業時間以外の1日あたりの勉強時間と学習理解度の関連を見ると、中央値以上群の子どもは、概ね、勉強時間が長くなるほど、学習理解度が高まるが、それ以外の群の子どもは、学習時間と学習理解度が関連しない。

困窮度別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間（学校がない日）と学習理解度の関連  
（子ども票問14(1)×子ども票問13②）

<大阪府内全体>



<守口市>

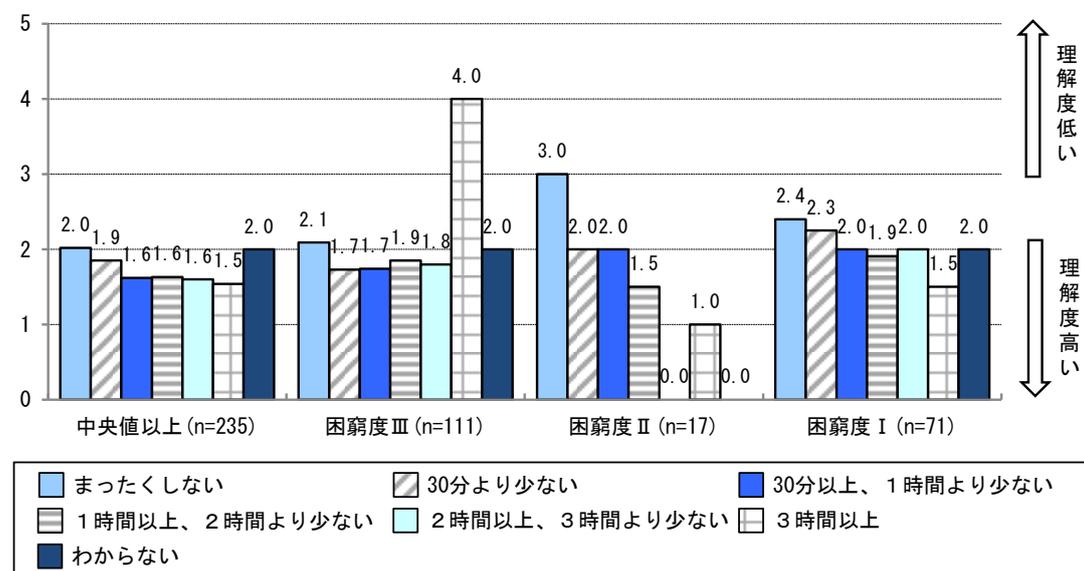
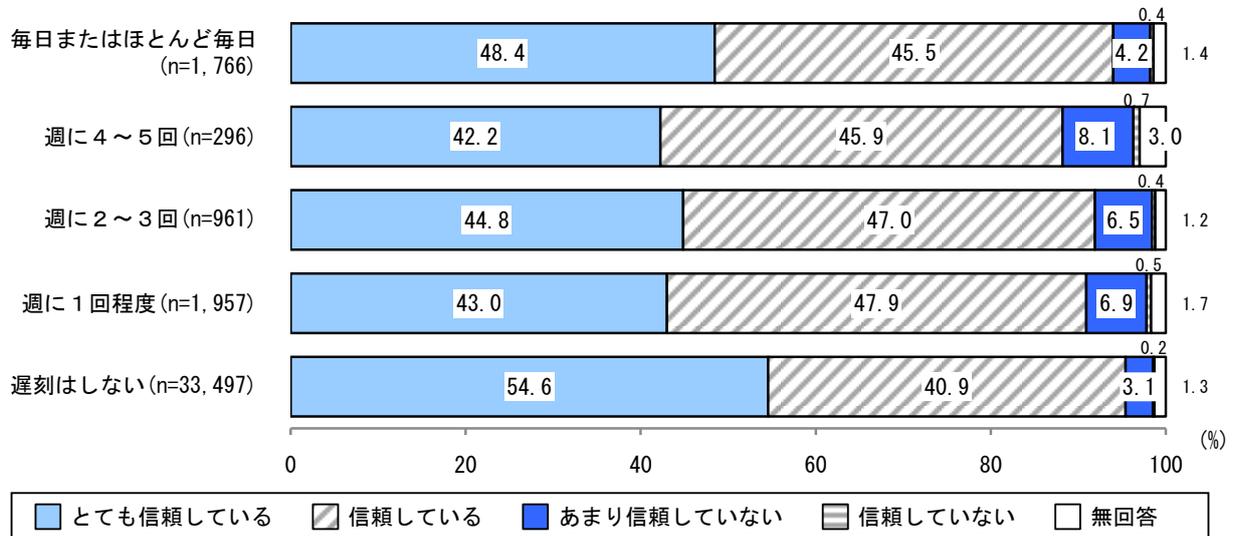


図 109. 困窮度別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間（学校がない日）と学習理解度の関連

困窮度別に学校がない日の授業時間以外の1日あたりの勉強時間と学習理解度の関連を見ると、中央値以上群の子どもは、概ね勉強時間が長くなるほど、学習理解度が高まるが、それ以外の群の子どもは学習時間と学習理解度が関連しない。

学校への遅刻別に見た、子どもへの信頼度（子ども票問7×保護者票問13(1)）

<大阪府内全体>



<守口市>

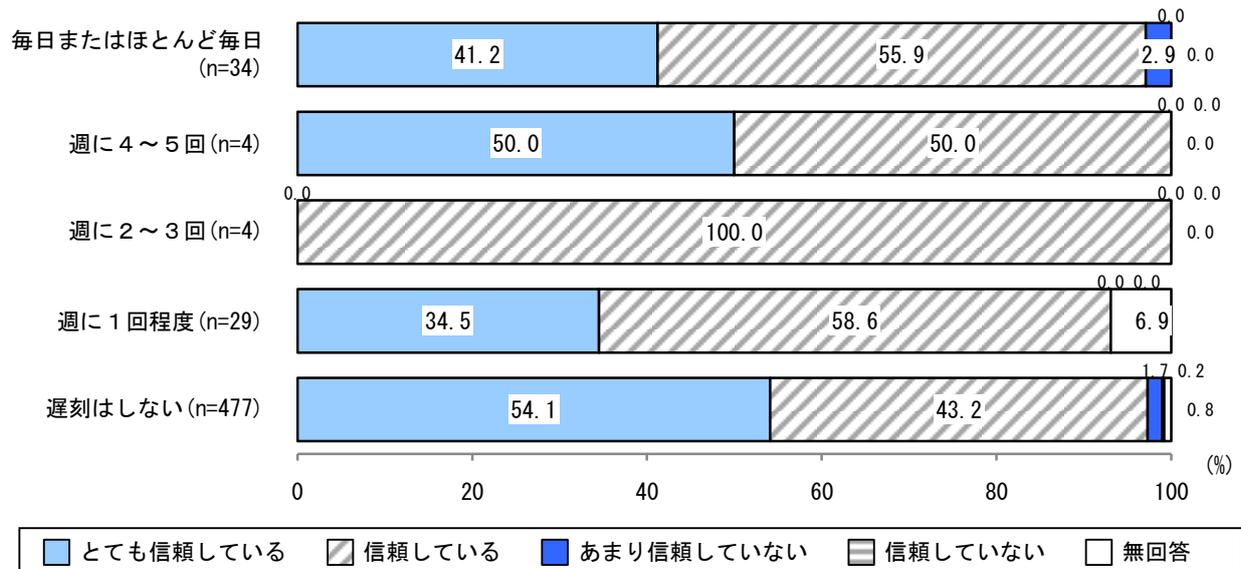
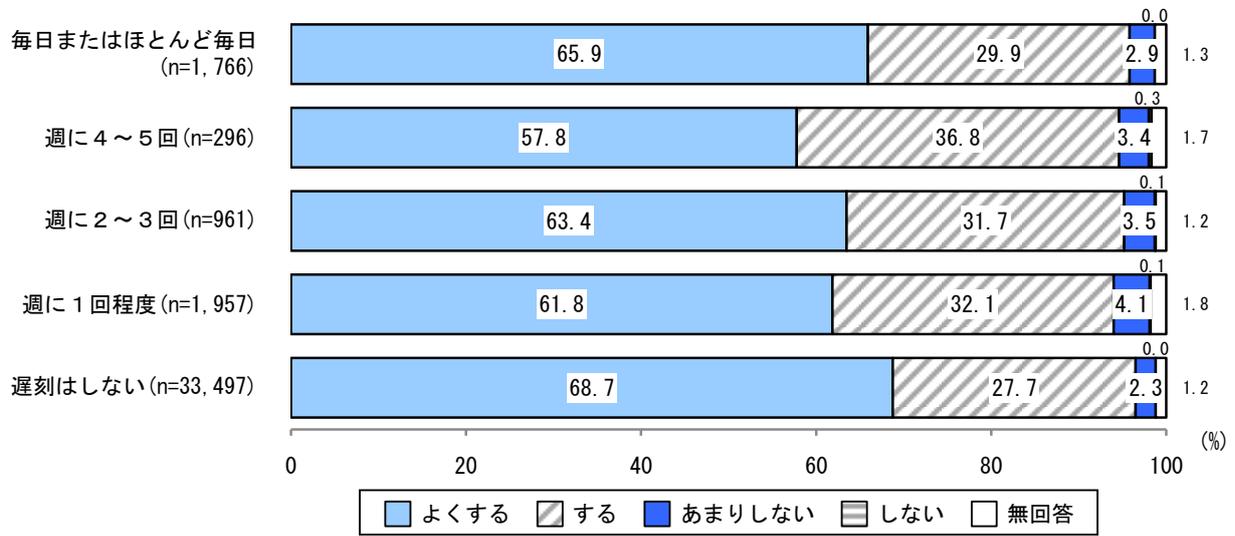


図 110. 学校への遅刻別に見た、子どもへの信頼度

学校への遅刻別に子どもへの信頼度を見ると、「遅刻はしない」子どもにおいては、保護者は「とても信頼している」割合が54.1%と最も高くなっている。

学校への遅刻別に見た、子どもとの会話頻度（子ども票問7×保護者票問13(2)）

<大阪府内全体>



<守口市>

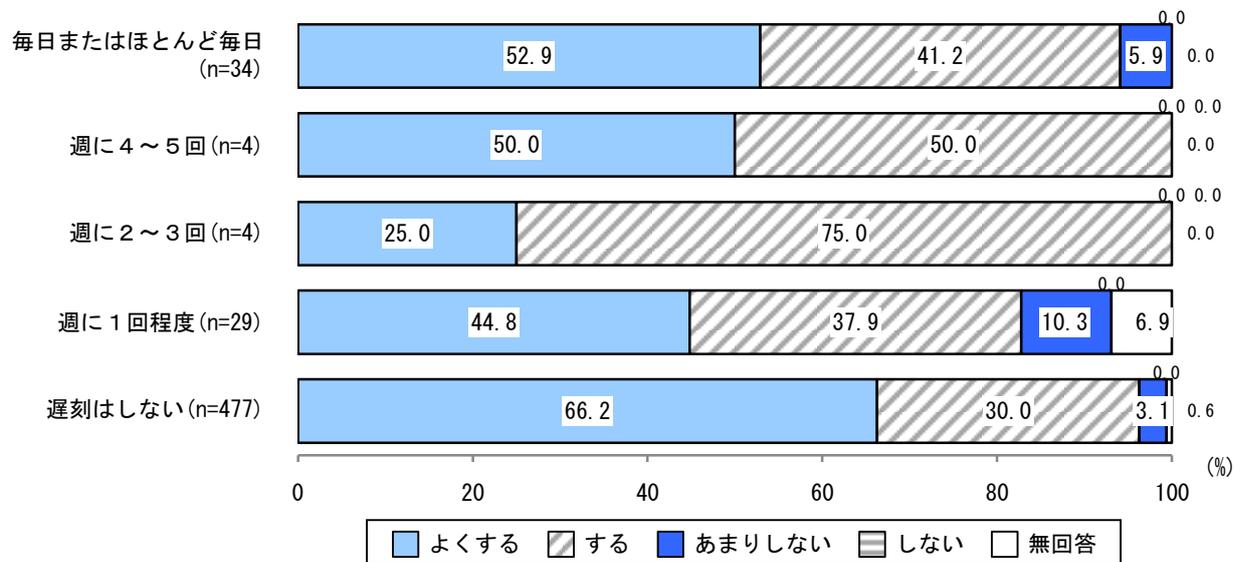
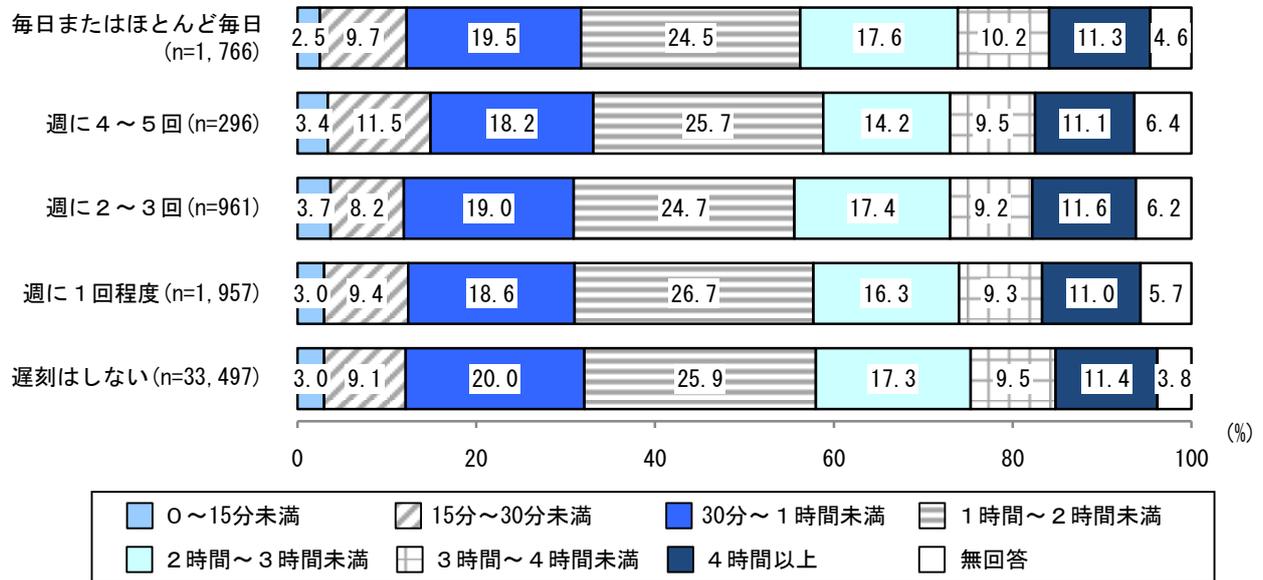


図 111. 学校への遅刻別に見た、子どもとの会話頻度

学校への遅刻別に子どもとの会話頻度を見ると、「遅刻はしない」子どもにおいては、会話を「よくする」割合が66.2%と最も高くなっている。

学校への遅刻別に見た、平日での子どもとの関わり時間（子ども票問7×保護者票問13(3)）

<大阪府内全体>



<守口市>

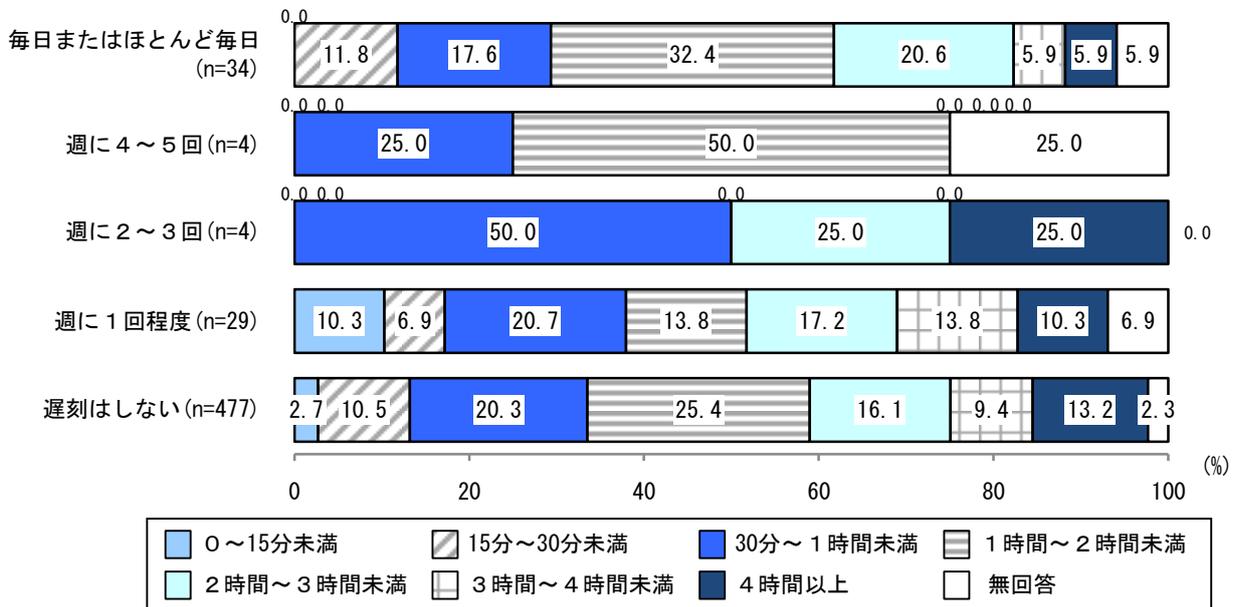
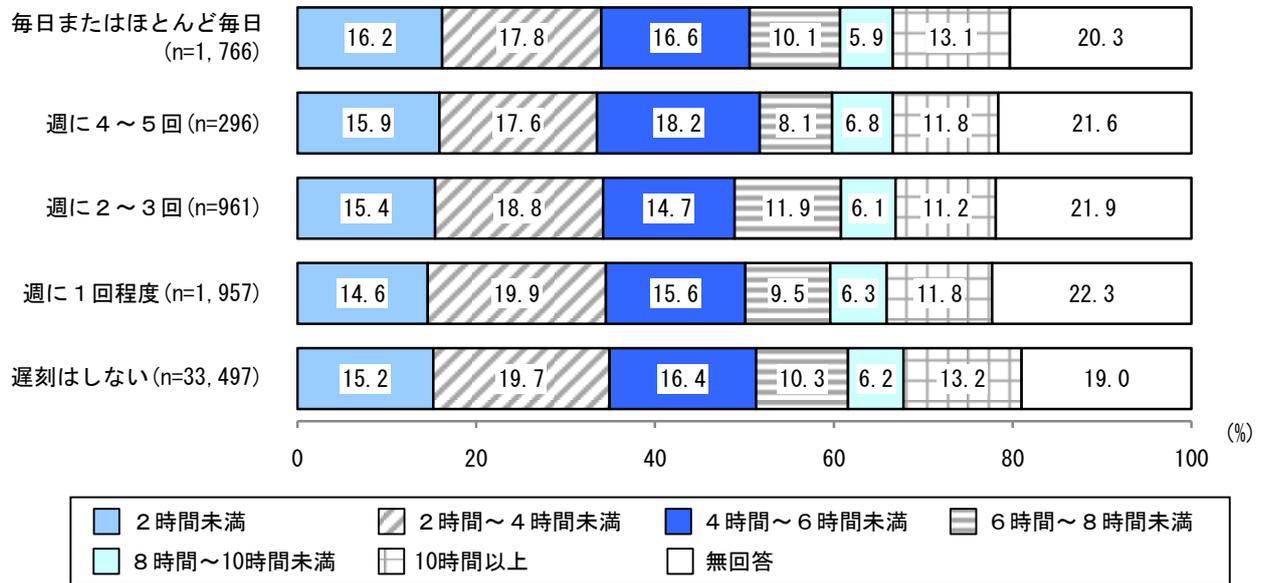


図 112. 学校への遅刻別に見た、平日での子どもとの関わり時間

学校への遅刻別に平日での子どもとの関わり時間を見ると、「週に1回程度」の子どもにおいては、「0分~15分未満」と回答した人の割合が10.3%で最も高くなっている。

学校への遅刻別に見た、休日での子どもとの関わり時間（子ども票問7×保護者票問13(3)）

<大阪府内全体>



<守口市>

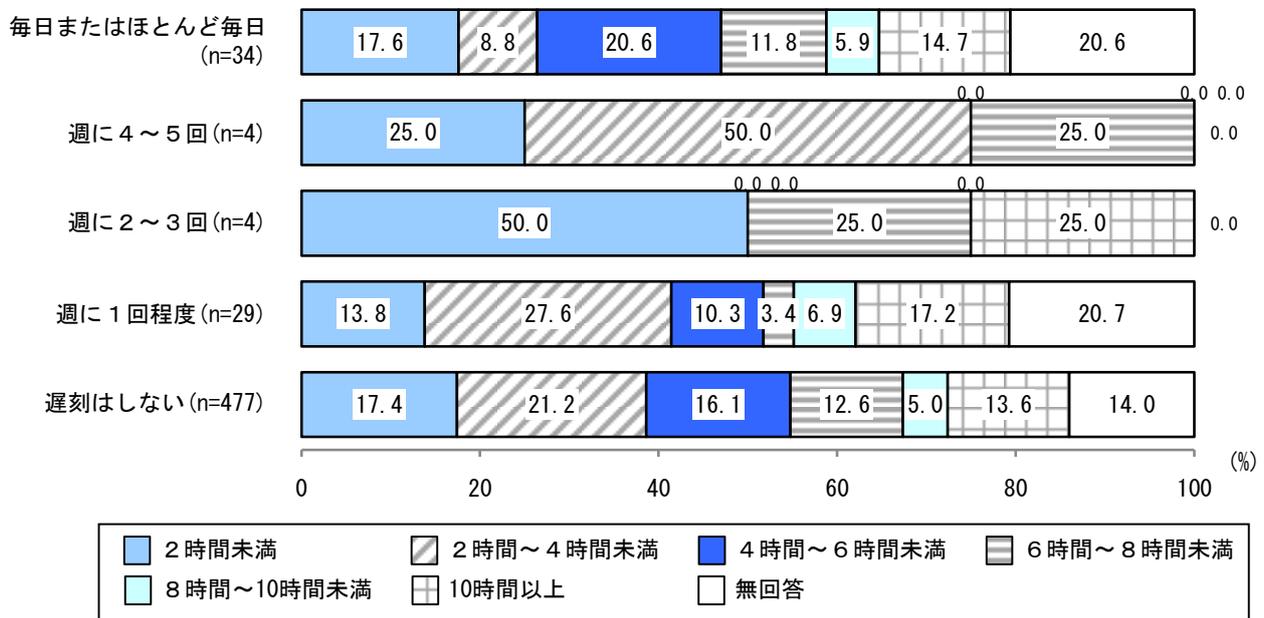
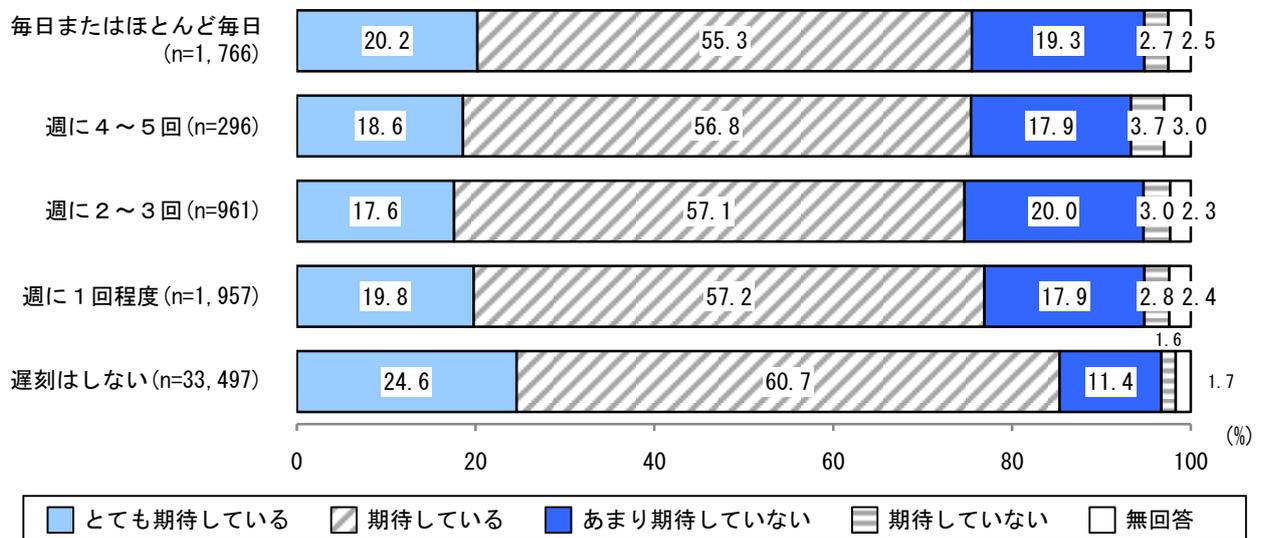


図 113. 学校への遅刻別に見た、休日での子どもとの関わり時間

学校への遅刻別に休日での子どもとの関わり時間を見ると、「週2~3回」の子どもにおいては、「2時間未満」が50.0%で最も高くなっている。

学校への遅刻別に見た、子どもの将来への期待度（子ども票問7×保護者票問13(4)）

<大阪府内全体>



<守口市>

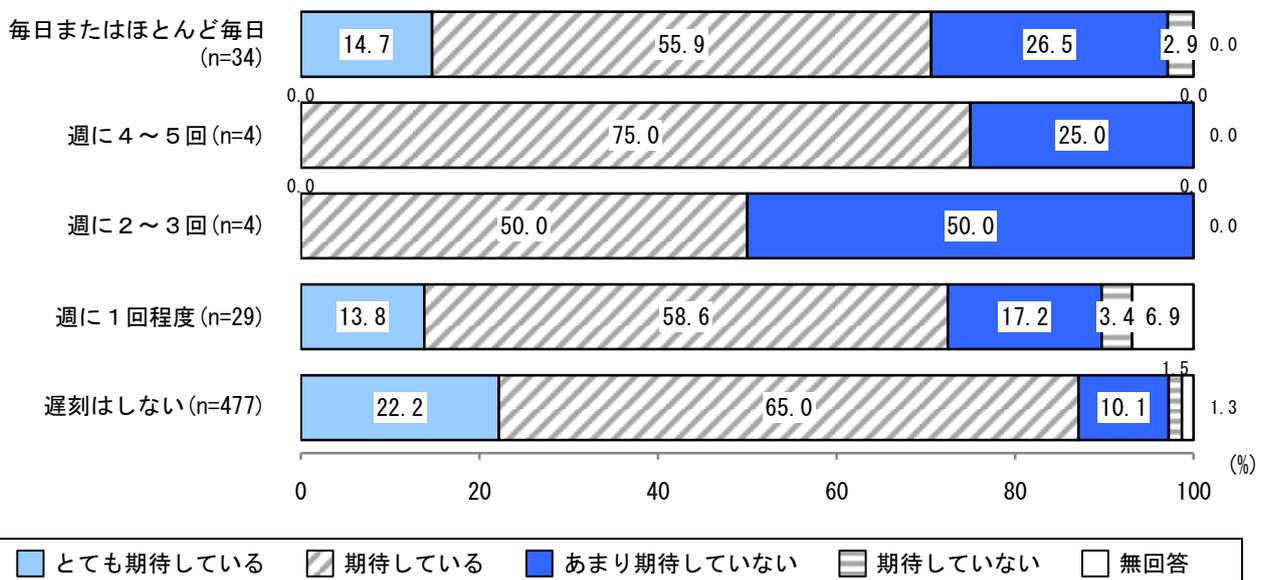
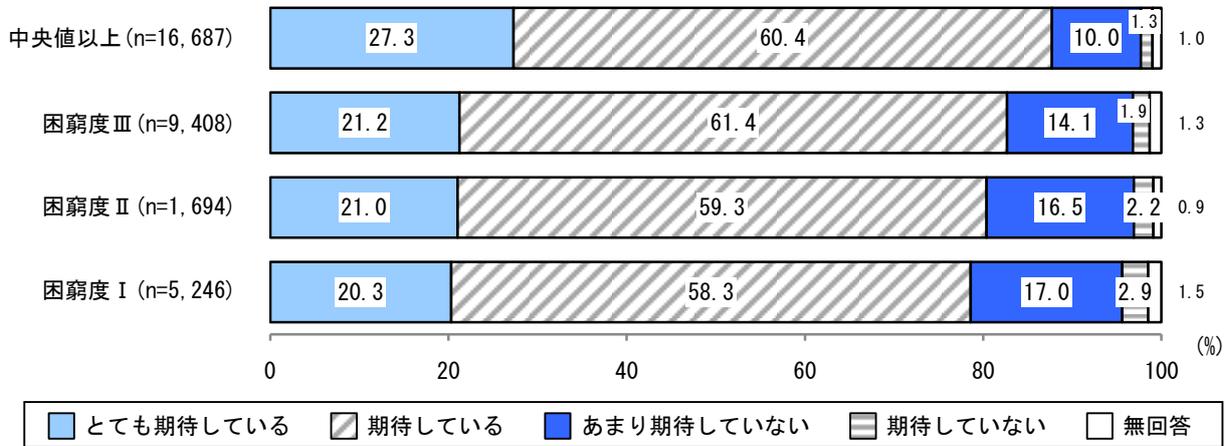


図 114. 学校への遅刻別に見た、子どもの将来への期待度

学校への遅刻別に子どもの将来への期待度を見ると、「とても期待している」の割合は、「遅刻はしない」子どもにおいて22.2%と最も高くなっている。

困窮度別に見た、子どもの将来への期待度（保護者票問 13(4)）

<大阪府内全体>



<守口市>

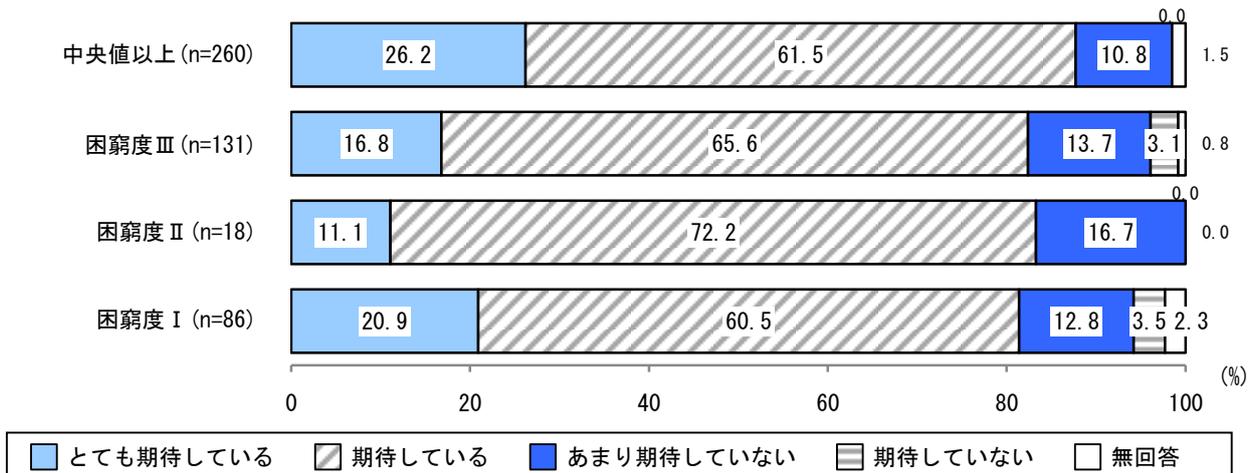
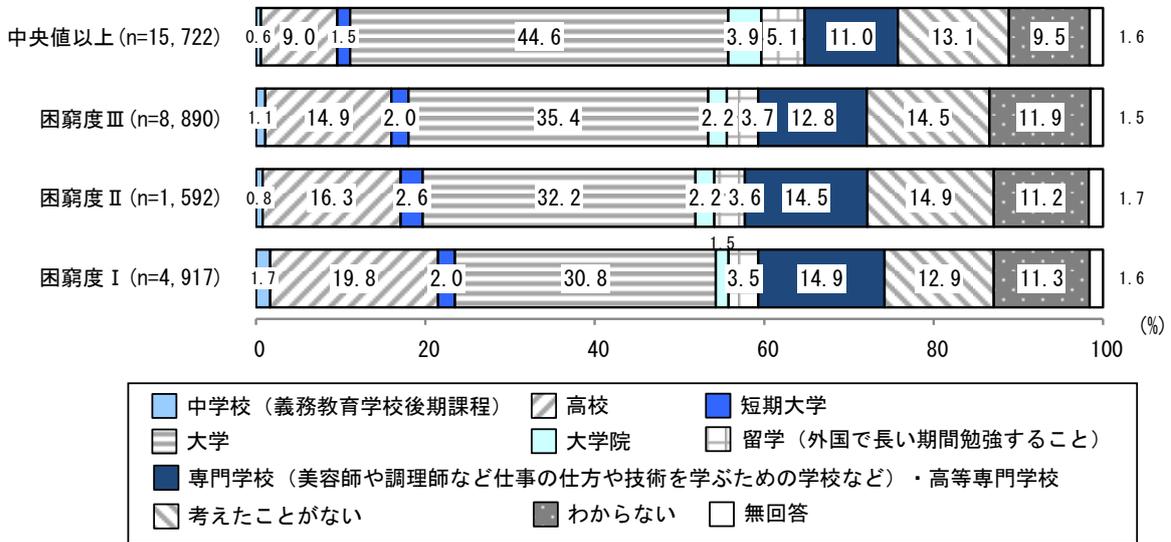


図 115. 困窮度別に見た、子どもの将来への期待度

困窮度別に子どもの将来への期待度を見ると、「とても期待している」の割合が困窮度Ⅱ群で11.1%と最も低くなっている。

困窮度別に見た、希望する進学先（子ども票問 24）

<大阪府内全体>



<守口市>

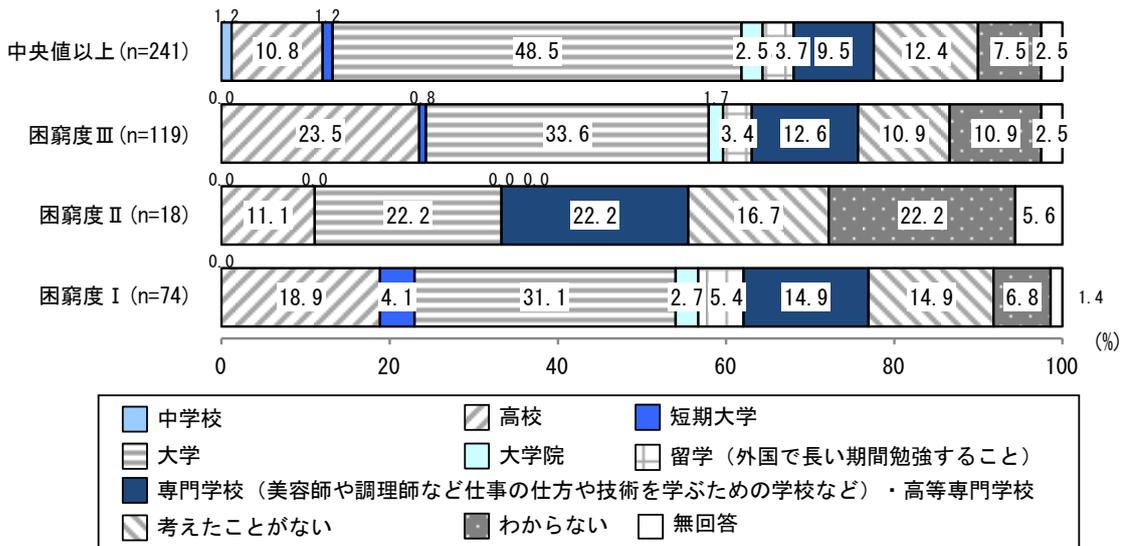
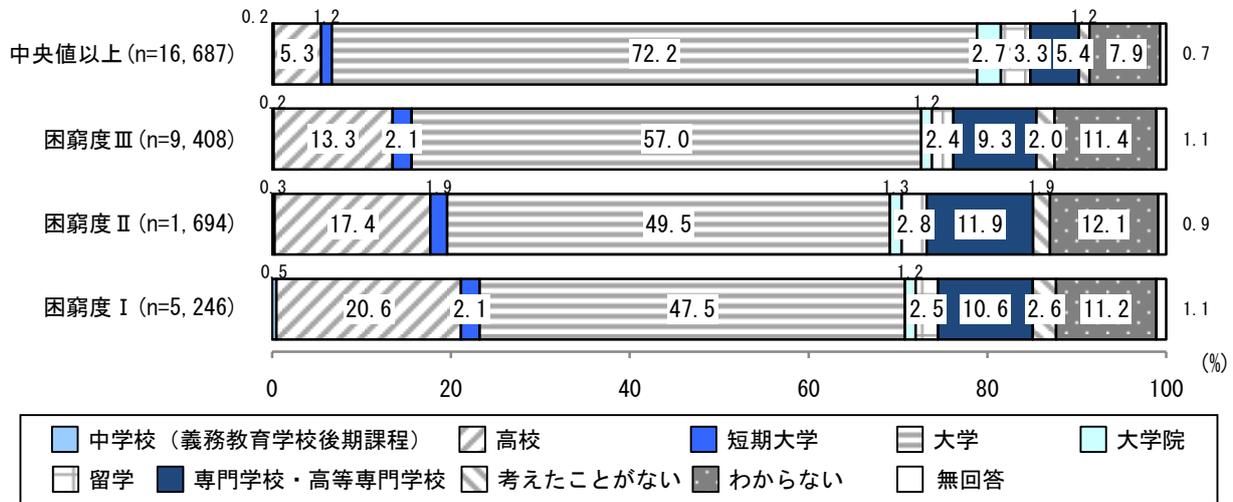


図 116. 困窮度別に見た、希望する進学先

困窮度別に子どもの希望する進学先を見ると、困窮度Ⅲ群で「高校」の割合が他の群よりも高くなっている。困窮度Ⅰ群では、「大学」と回答した子どもは31.1%である。中央値以上群において「大学」と回答した割合は高く48.5%である。

困窮度別に見た、子どもに希望する進学（保護者票問 14）

<大阪府内全体>



<守口市>

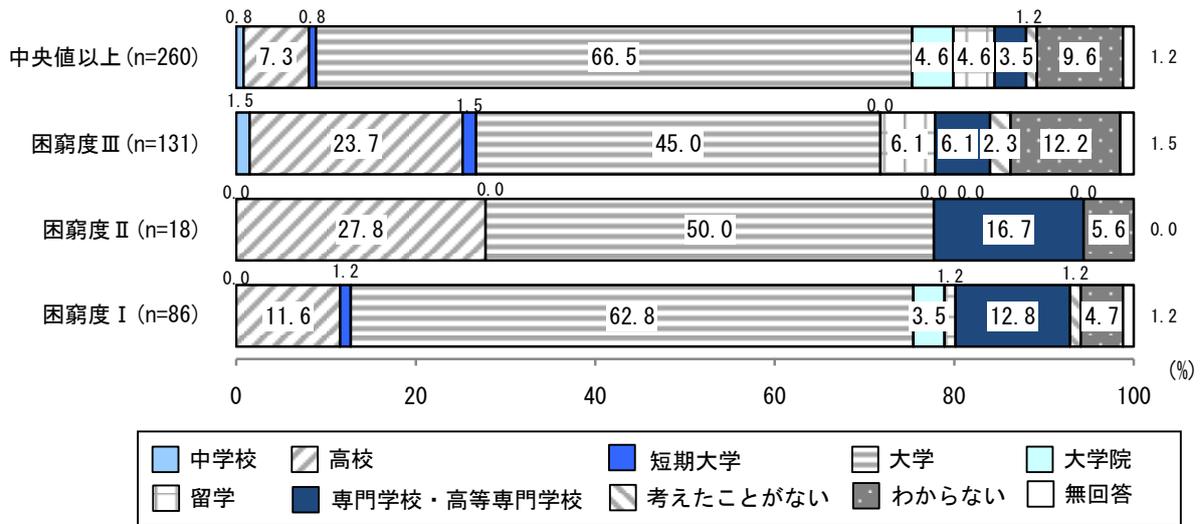
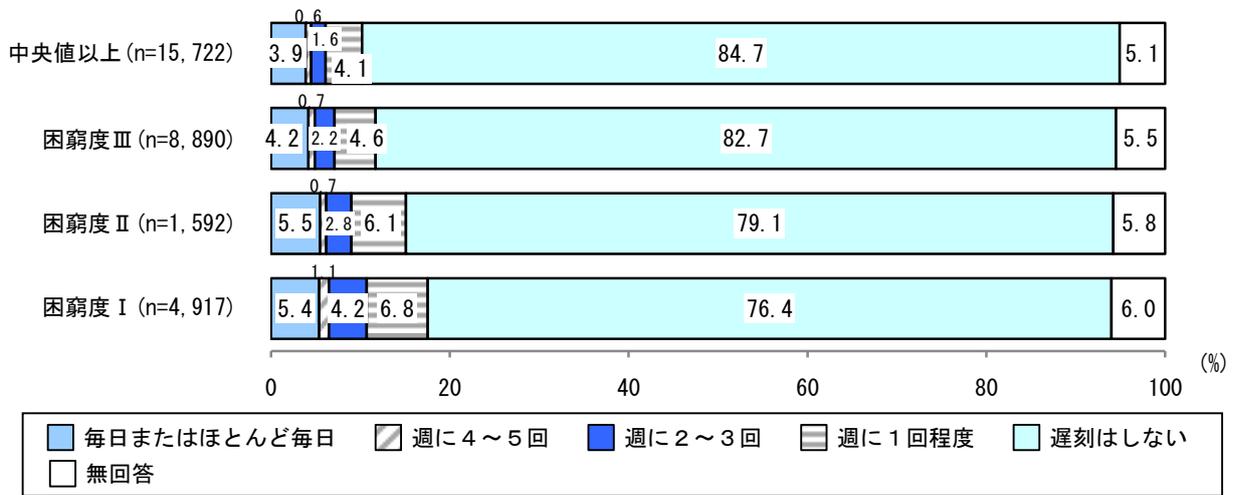


図 117. 困窮度別に見た、子どもに希望する進学

困窮度別に子どもに希望する進学先を見ると、すべての群において「大学」の割合が最も高くなっているが、困窮度Ⅲ群と困窮度Ⅱ群においては、「高校」の割合が中央値以上群の3倍以上高くなっている。

困窮度別に見た、学校への遅刻（子ども票問7）

<大阪府内全体>



<守口市>

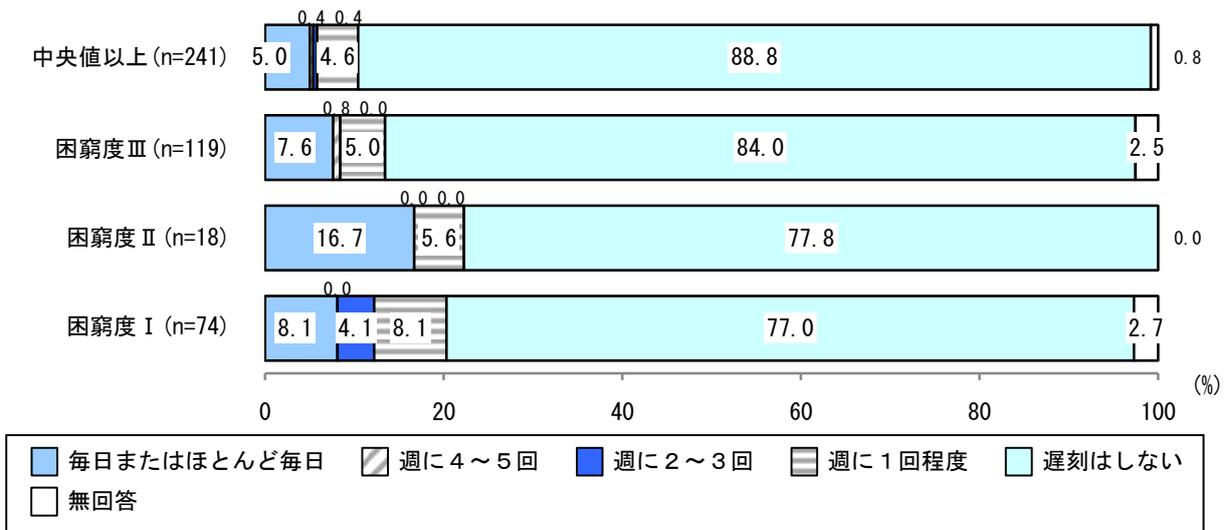
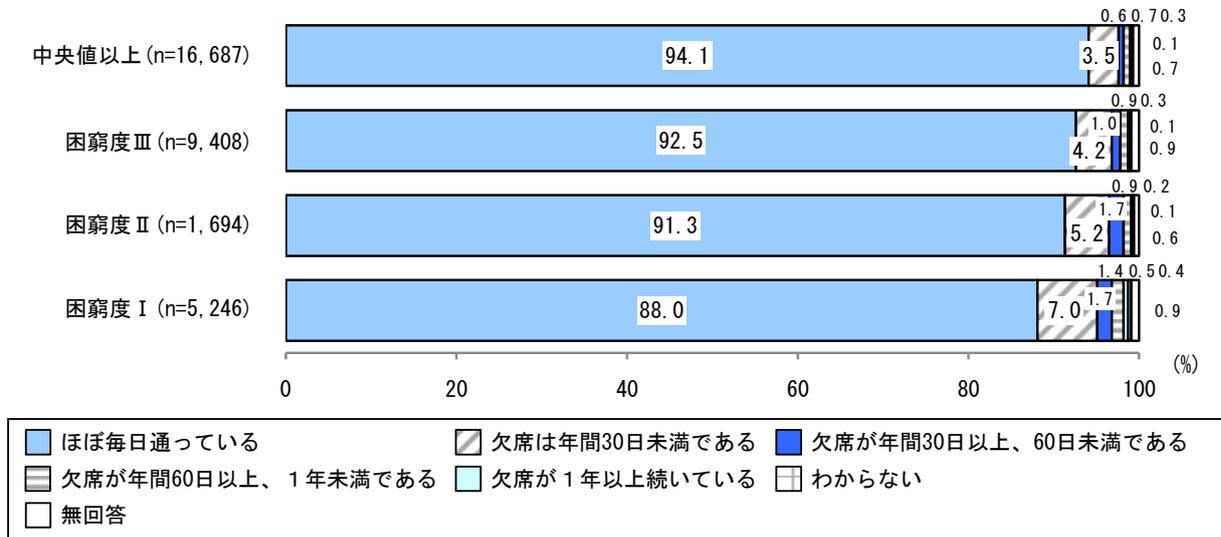


図 118. 困窮度別に見た、学校への遅刻

困窮度別に学校への遅刻を見ると、「毎日またはほとんど毎日」は困窮度Ⅱ群が16.7%と最も高くなっている。「遅刻はしない」は中央値以上群が88.8%で最も高くなっている。

困窮度別に見た、子どもの通学状況（保護者票問 15）

<大阪府内全体>



<守口市>

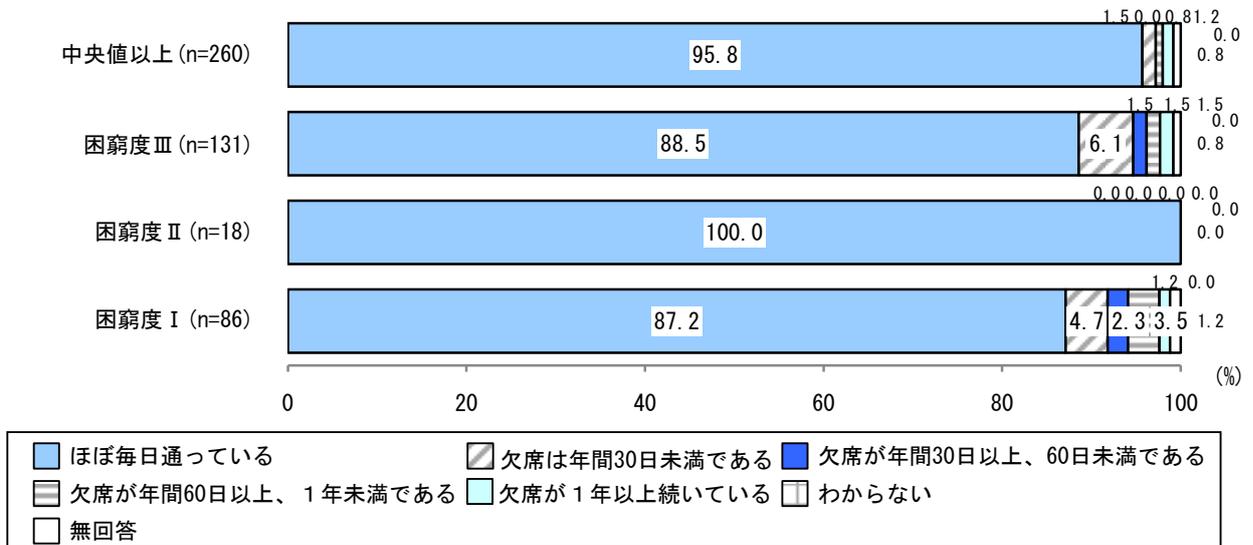
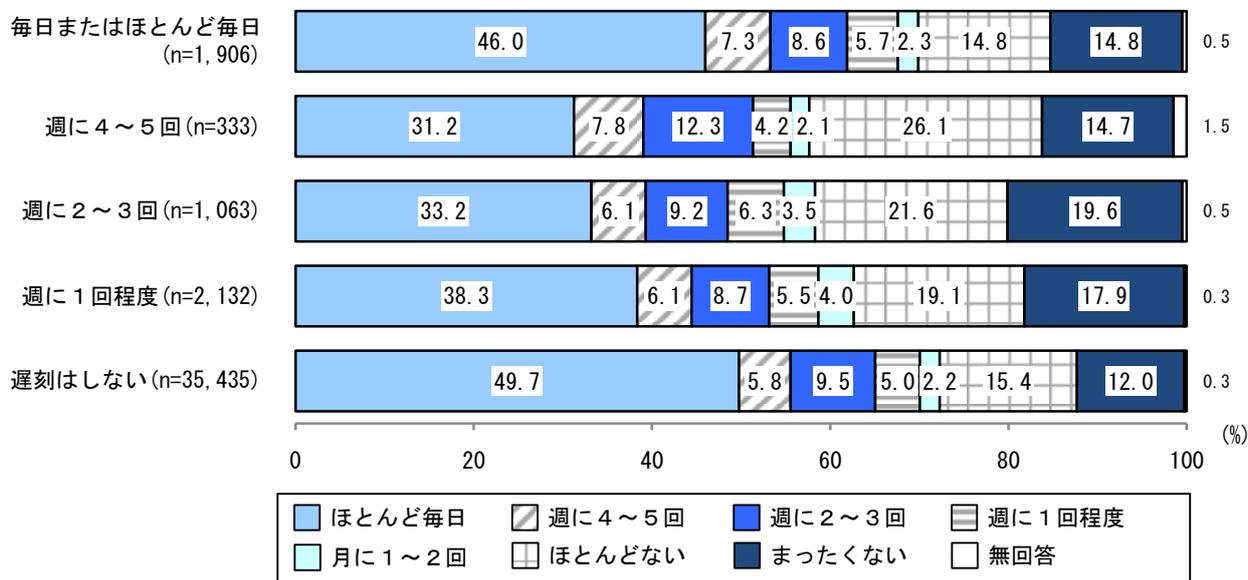


図 119. 困窮度別に見た、子どもの通学状況

困窮度別に子どもの通学状況を見ると、「ほぼ毎日通っている」と回答した人の割合は、困窮度Ⅰ群が87.2%と最も低くなっている。

学校への遅刻別に見た、おうちの大人の人と一緒に朝食を食べているか  
 (子ども票問7×保護者票問8①)

<大阪府内全体>



<守口市>

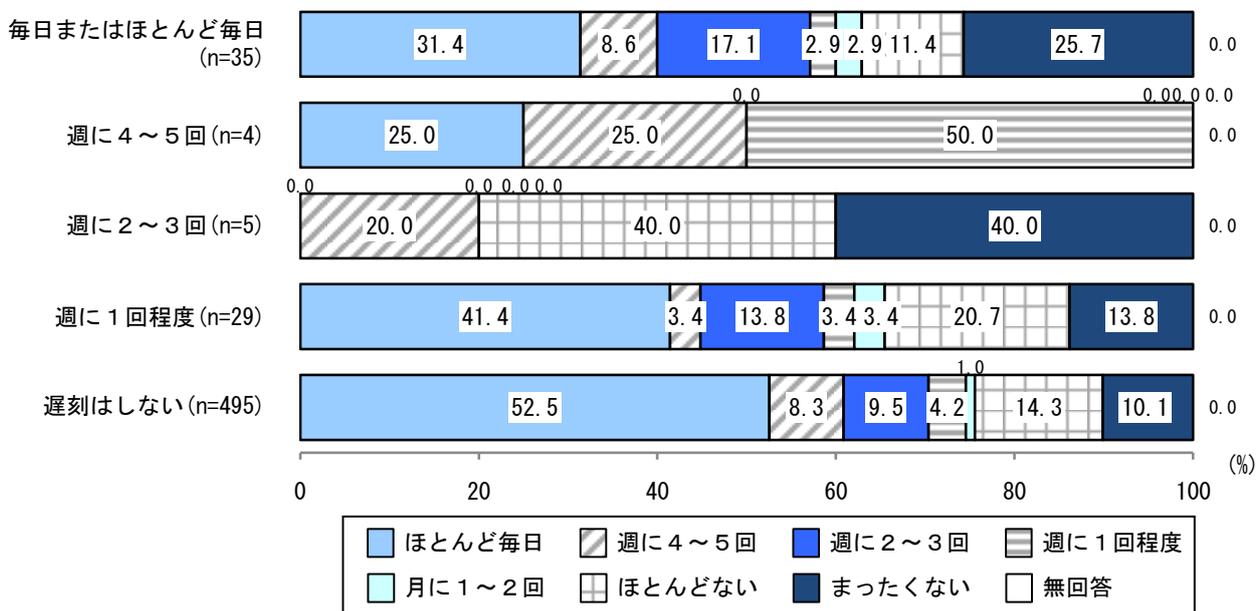
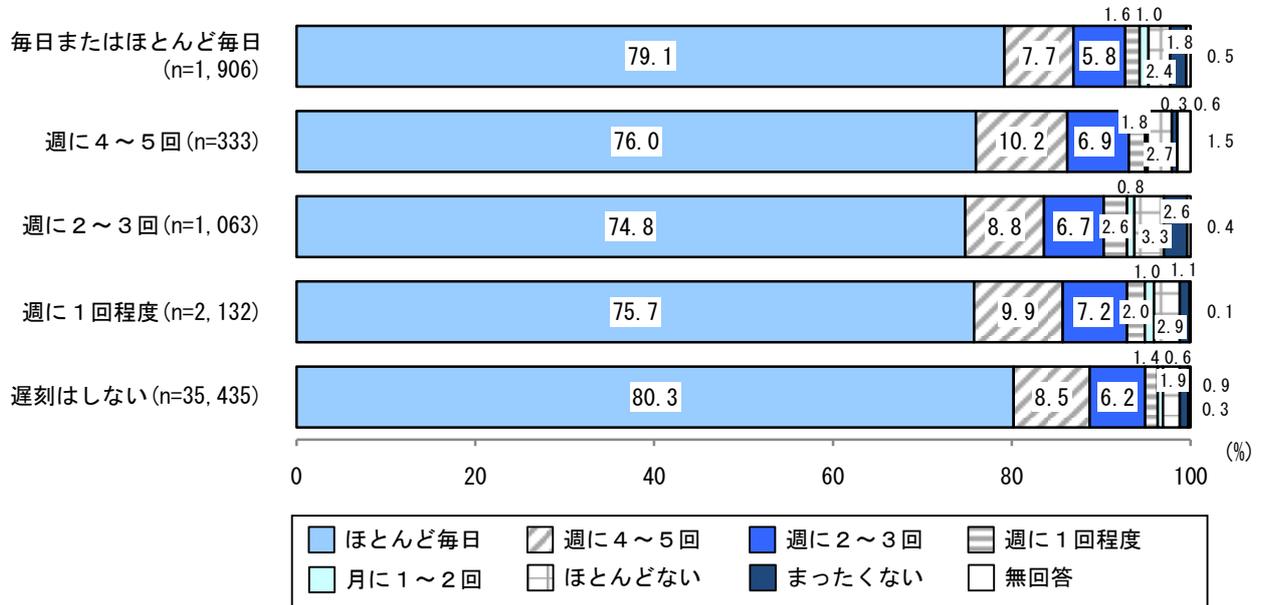


図 120. 学校への遅刻別に見た、おうちの大人の人と一緒に朝食を食べているか

学校への遅刻別におうちの大人の人と一緒に朝食を食べているかを見ると、項目によっては母数が少ないため一概には言えないが、「ほとんど毎日」の割合は「遅刻はしない」子どもが52.5%で割合が最も高く、一方で、「まったくない」は「週に2~3回」遅刻をしている子どもの割合が40.0%で最も高くなっている。

学校への遅刻別に見た、おうちの大人の人と一緒に夕食を食べているか  
 (子ども票問7×保護者票問8②)

<大阪府内全体>



<守口市>

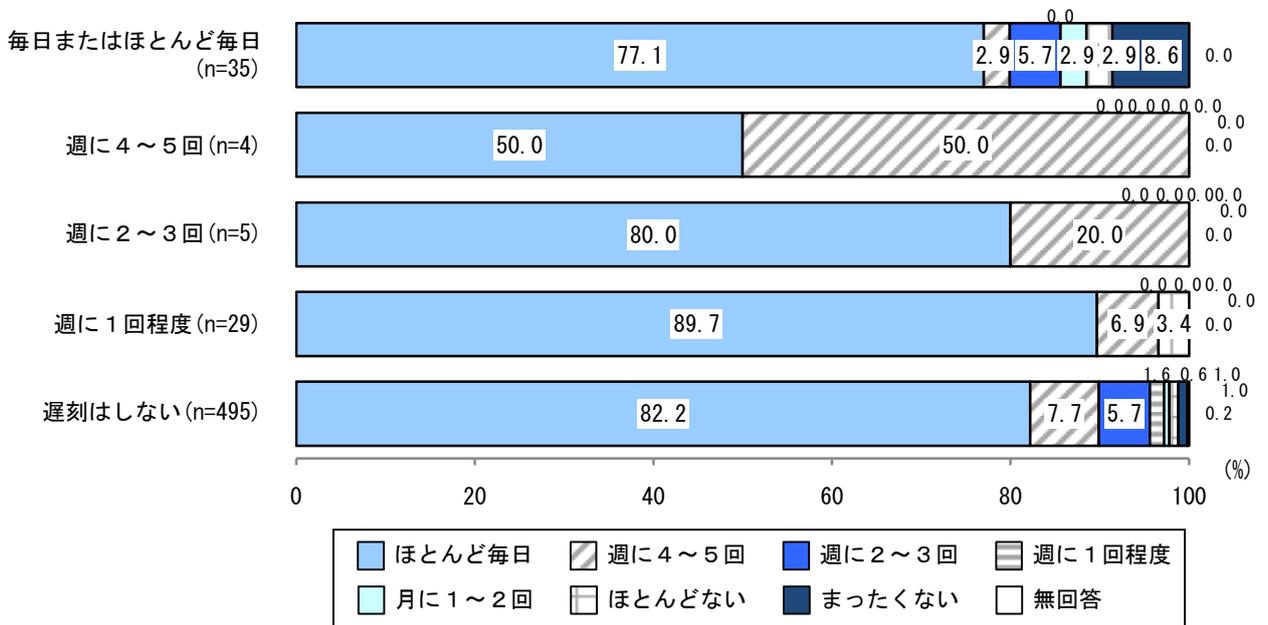
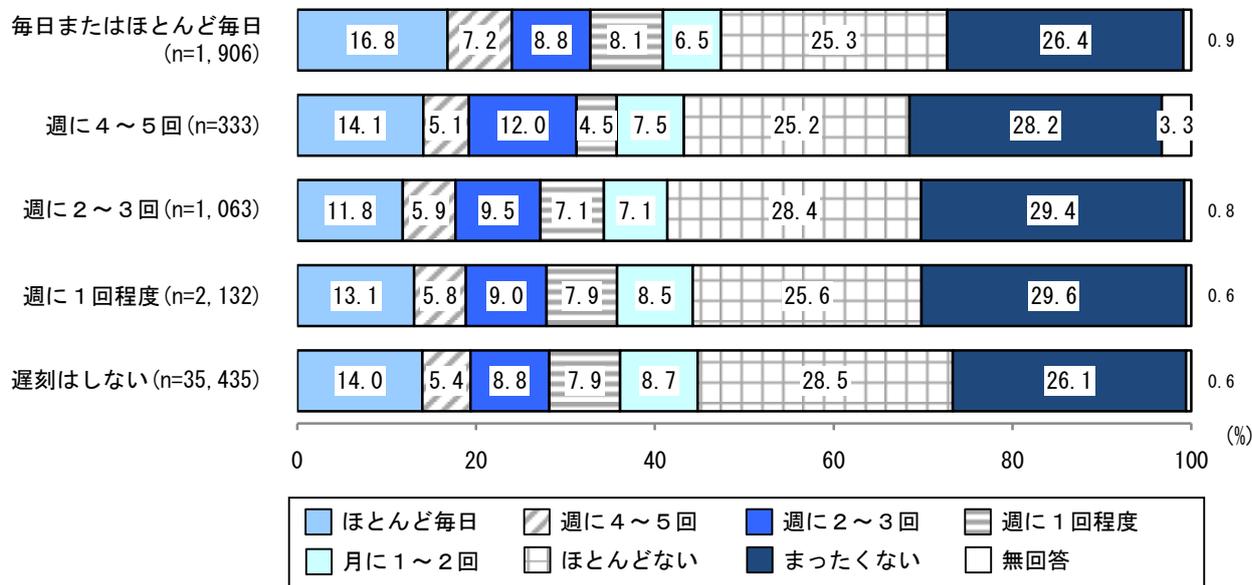


図 121. 学校への遅刻別に見た、おうちの大人の人と一緒に夕食を食べているか

学校への遅刻別におうちの大人の人と一緒に夕食を食べているかを見ると、「ほとんど毎日」の割合は「週に1回程度」遅刻をしている子どもが89.7%で割合が最も高くなっている。

学校への遅刻別に見た、おうちの大人の人に宿題（勉強）をみてもらうか  
 (子ども票問7×保護者票問8⑤)

<大阪府内全体>



<守口市>

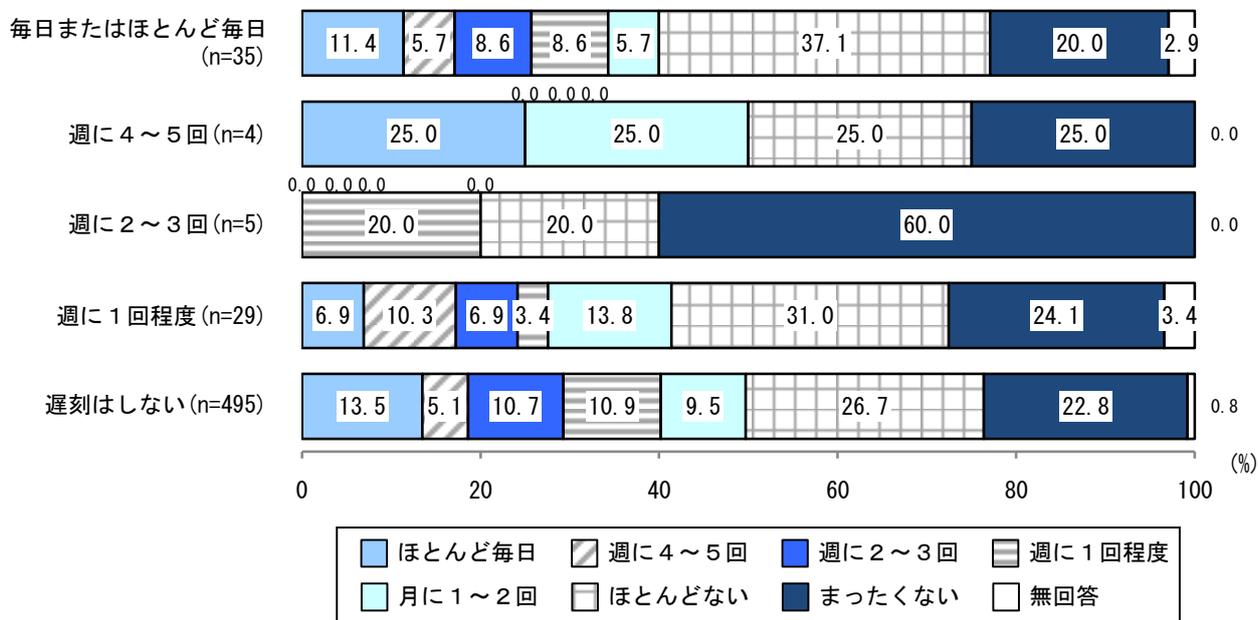
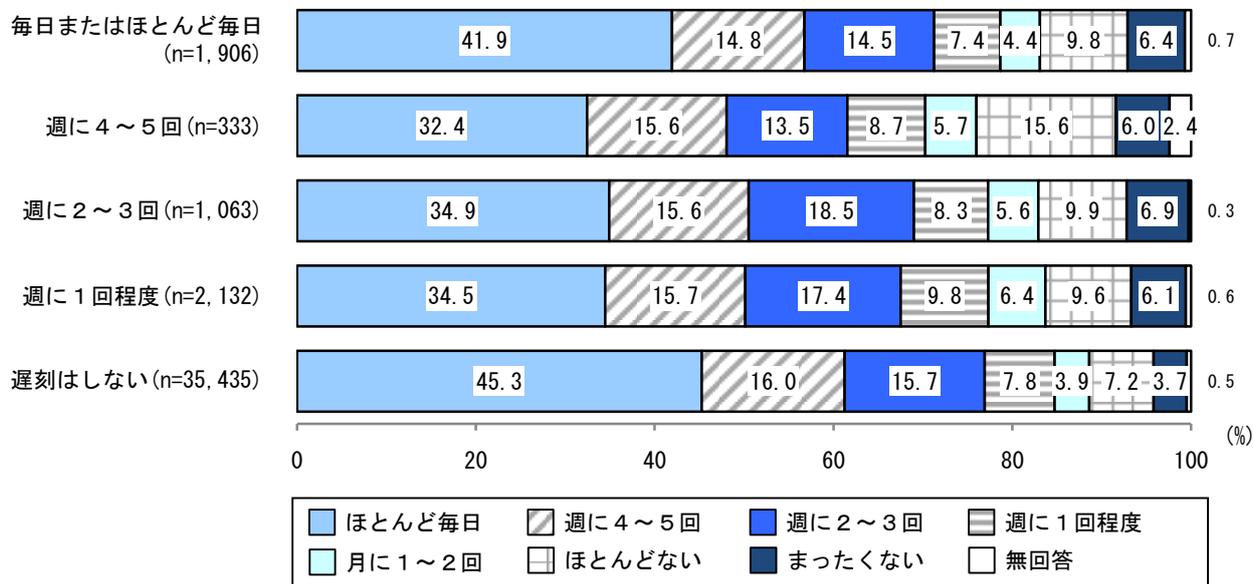


図 122. 学校への遅刻別に見た、おうちの大人の人に宿題（勉強）をみてもらうか

学校への遅刻別におうちの大人の人に宿題（勉強）をみてもらうかを見ると、項目によっては母数が少ないため一概には言えないが、「ほとんど毎日」の割合は「週に4~5回」遅刻をしている子どもが25.0%で割合が最も高く、一方で、「まったくない」は「週に2~3回」遅刻をしている子どもの割合が60.0%で最も高くなっている。

学校への遅刻別に見た、おうちの大人の人と学校でのできごとについて話すか  
 (子ども票問7×保護者票問8⑥)

<大阪府内全体>



<守口市>

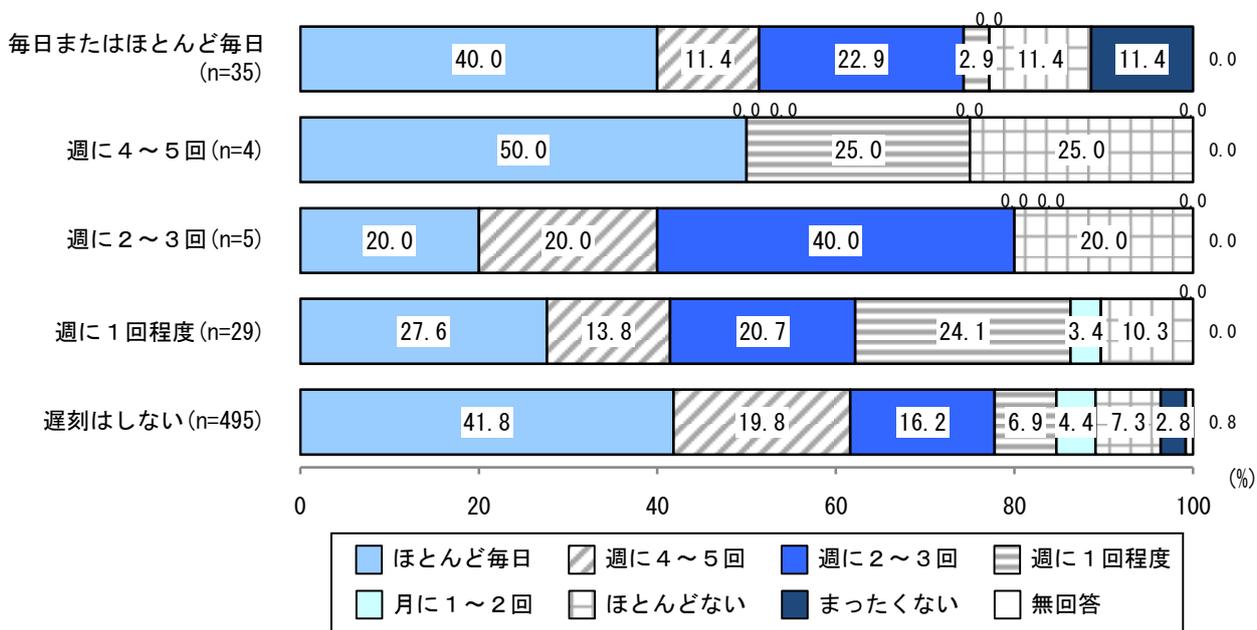
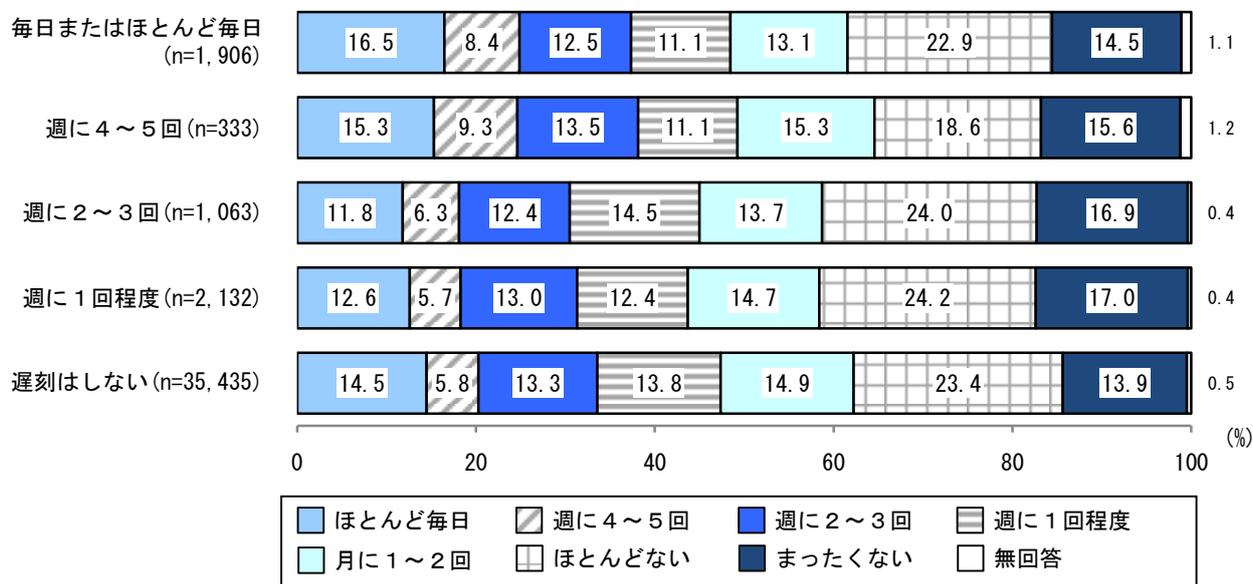


図 123. 学校への遅刻別に見た、おうちの大人の人と学校でのできごとについて話すか

学校への遅刻別におうちの大人の人と学校でのできごとについて話すかを見ると、項目によっては母数が少ないため一概には言えないが、「ほとんど毎日」の割合は「週に4～5回」遅刻をしている子どもが50.0%で割合が最も高く、一方で、「まったくない」は「毎日またはほとんど毎日」遅刻をしている子どもの割合が11.4%で最も高くなっている。

学校への遅刻別に見た、おうちの大人の人と遊んだり、体を動かしたりするか  
 (子ども票問7×保護者票問8⑦)

<大阪府内全体>



<守口市>

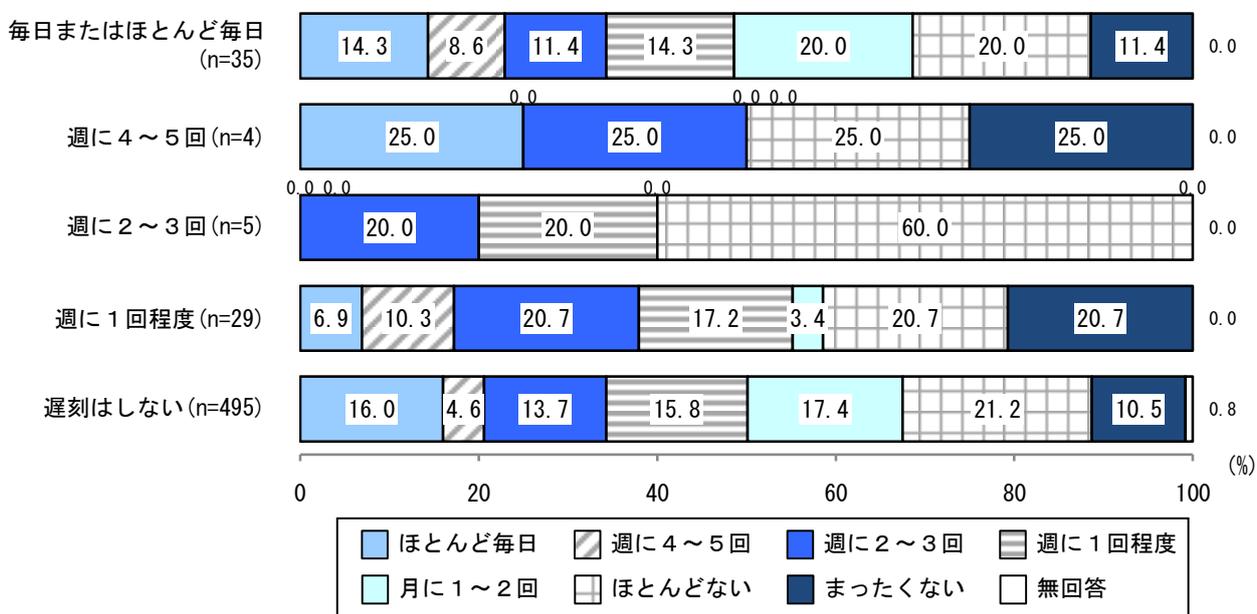
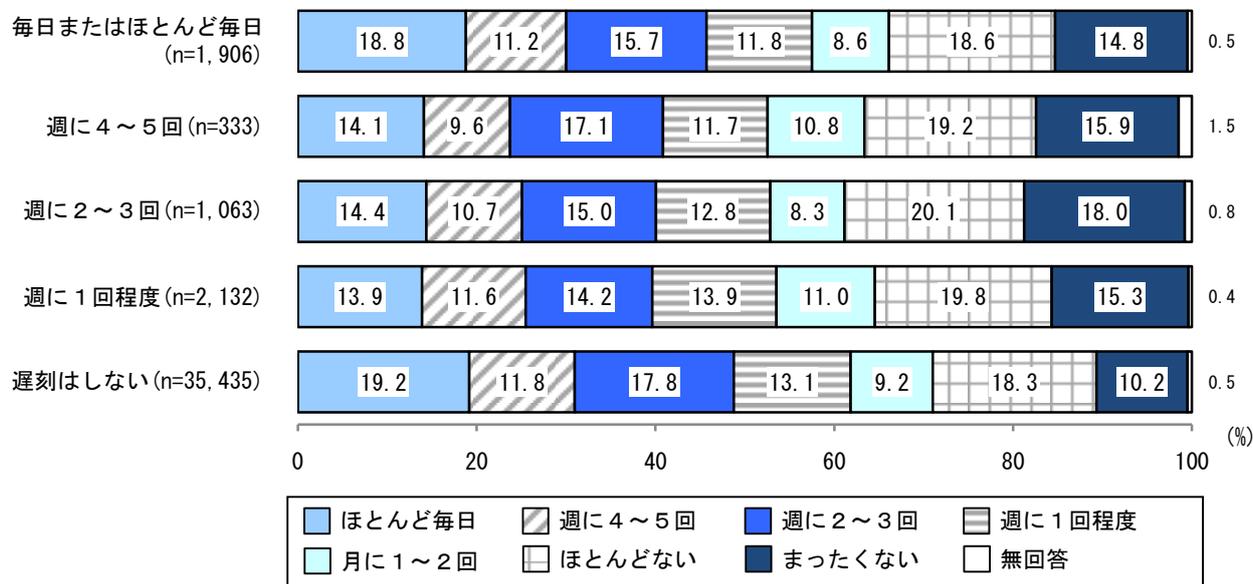


図 124. 学校への遅刻別に見た、おうちの大人の人と遊んだり、体を動かしたりするか

学校への遅刻別におうちの大人の人と遊んだり、体を動かしたりするかを見ると、項目によっては母数が少ないため一概には言えないが、「ほとんど毎日」の割合は「週に4~5回」遅刻をしている子どもが25.0%で割合が最も高く、一方で、「まったくない」も「週に4~5回」遅刻をしている子どもの割合が25.0%で最も高くなっている。

学校への遅刻別に見た、おうちの大人の人とニュースなど社会のできごとについて話すか  
(子ども票問7×保護者票問8⑧)

<大阪府内全体>



<守口市>

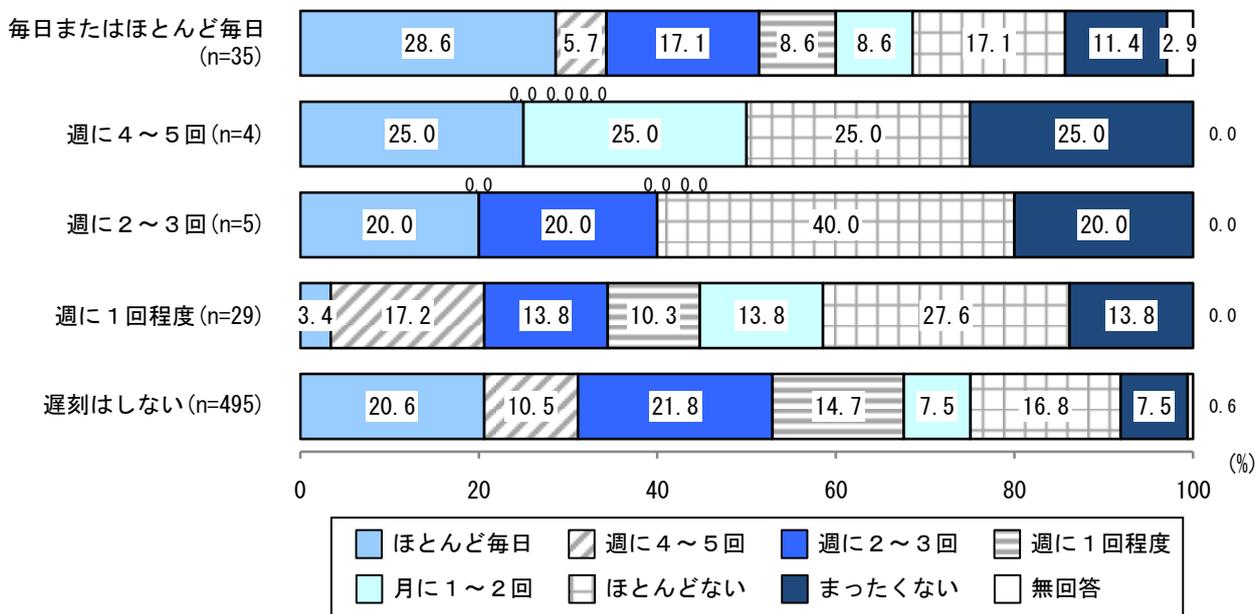
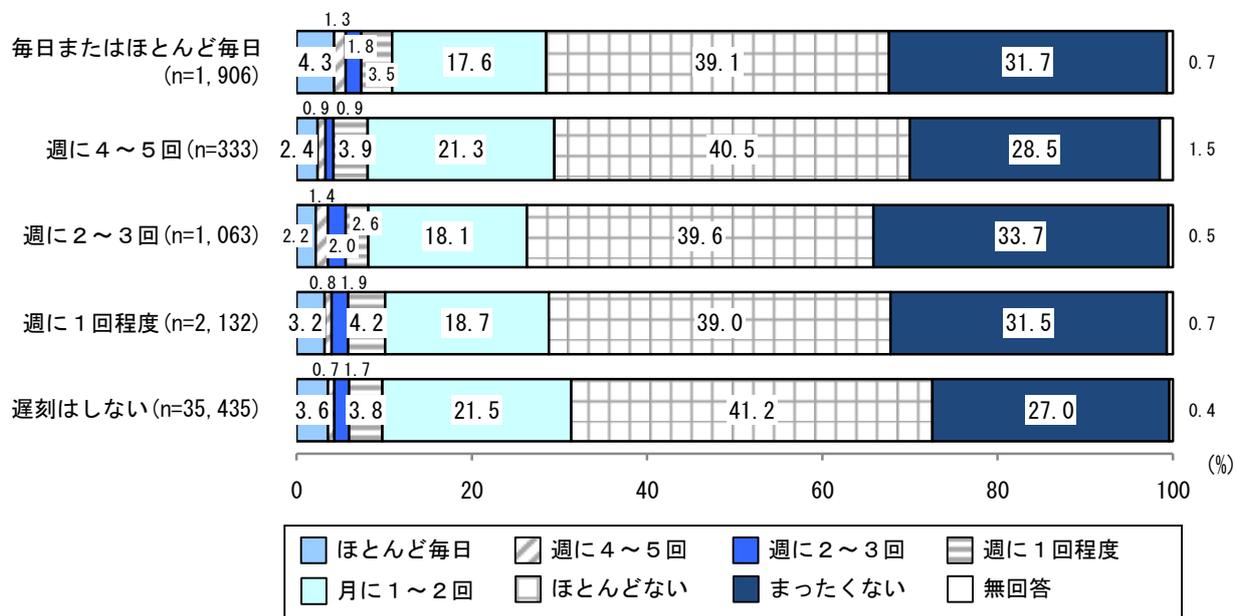


図 125. 学校への遅刻別に見た、おうちの大人の人とニュースなど社会のできごとについて話すか

学校への遅刻別におうちの大人の人とニュースなど社会のできごとについて話すかを見ると、項目によっては母数が少ないため一概には言えないが、「ほとんど毎日」の割合は「毎日またはほとんど毎日」遅刻をしている子どもが28.6%で割合が最も高く、一方で、「まったくない」は「週に4~5回」遅刻をしている子どもの割合が25.0%で最も高くなっている。

学校への遅刻別に見た、おうちの大人の人と文化活動をするか  
 (子ども票問7×保護者票問8⑨)

<大阪府内全体>



<守口市>

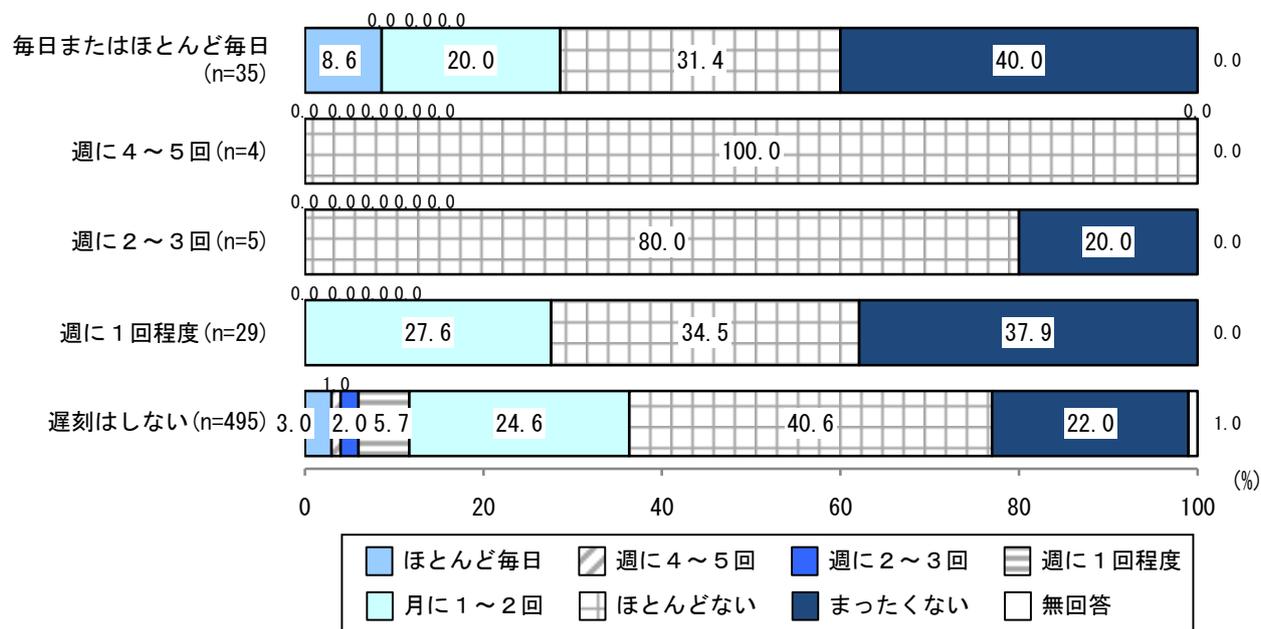
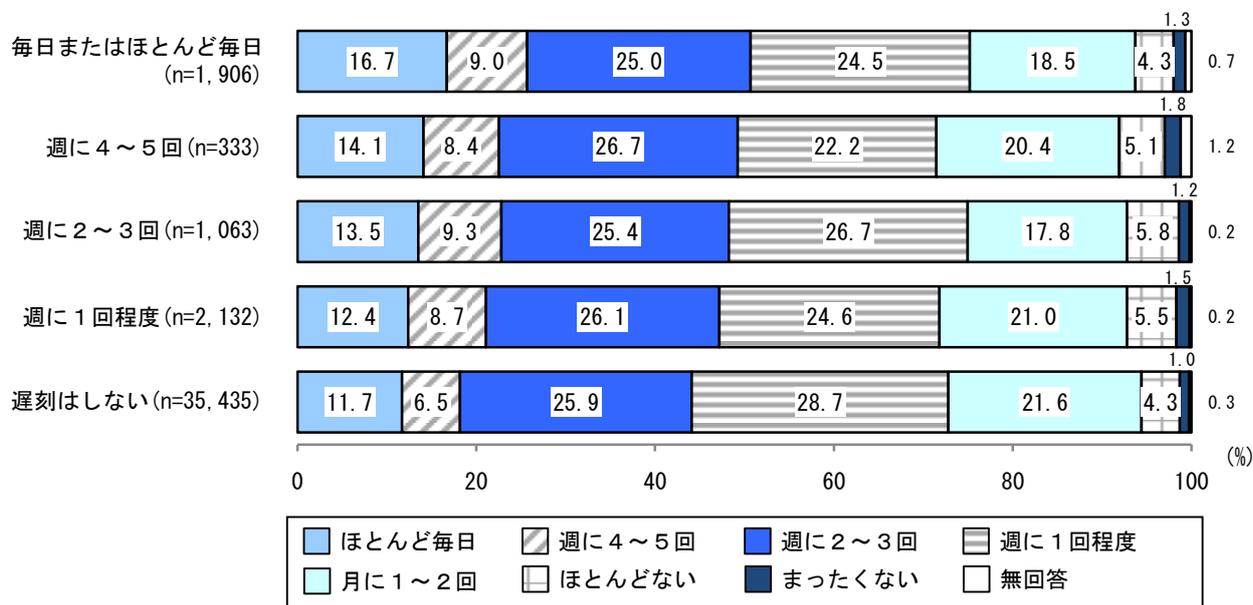


図 126. 学校への遅刻別に見た、おうちの大人の人と文化活動をするか

学校への遅刻別におうちの大人の人と文化活動をするかを見ると、項目によっては母数が少ないため一概には言えないが、「まったくない」は「毎日またはほとんど毎日」遅刻をしている子どもの割合が40.0%で最も高く、「ほとんどない」は「週に4~5回」遅刻をしている子どもの割合が100.0%で最も高くなっている。

学校への遅刻別に見た、おうちの大人の人と一緒に外出するか  
 (子ども票問7×保護者票問8⑩)

<大阪府内全体>



<守口市>

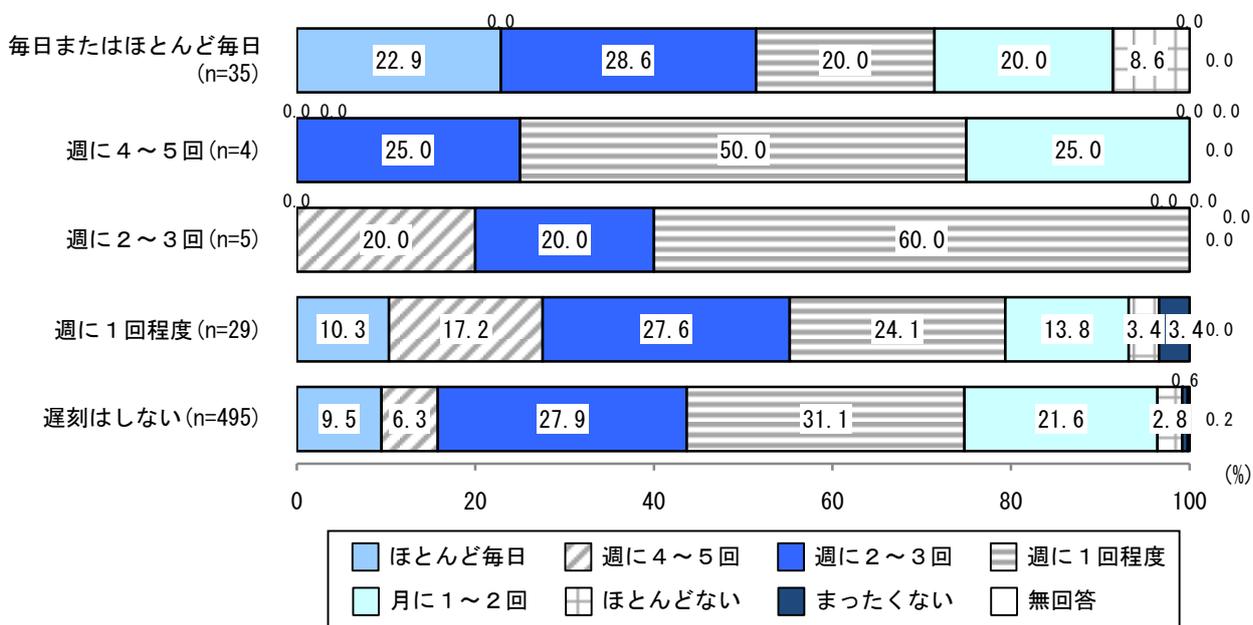
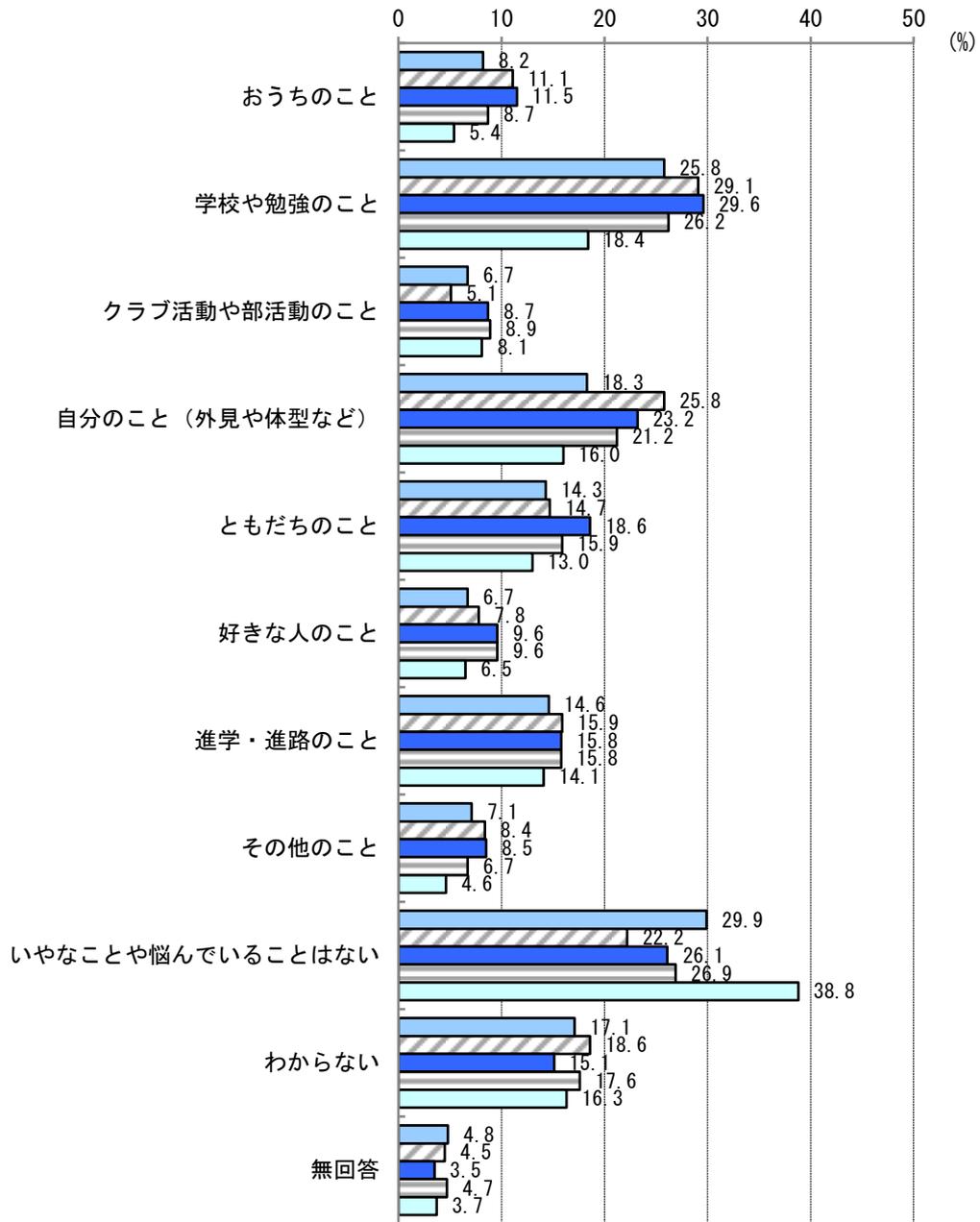


図 127. 学校への遅刻別に見た、おうちの大人の人と一緒に外出するか

学校への遅刻別におうちの大人の人と一緒に外出するかを見ると、「ほとんど毎日」の割合は「毎日またはほとんど毎日」遅刻をしている子どもが22.9%で割合が最も高く、一方で、「ほとんどない」も「毎日またはほとんど毎日」遅刻をしている子どもの割合が8.6%で最も高くなっている。

学校への遅刻別に見た、嫌なことや悩んでいること（子ども票問7×子ども票問17）

<大阪府内全体>



毎日またはほとんど毎日 (n=1,906)
  週に4~5回 (n=333)
  週に2~3回 (n=1,063)
  週に1回程度 (n=2,132)
  遅刻はしない (n=35,435)

<守口市>

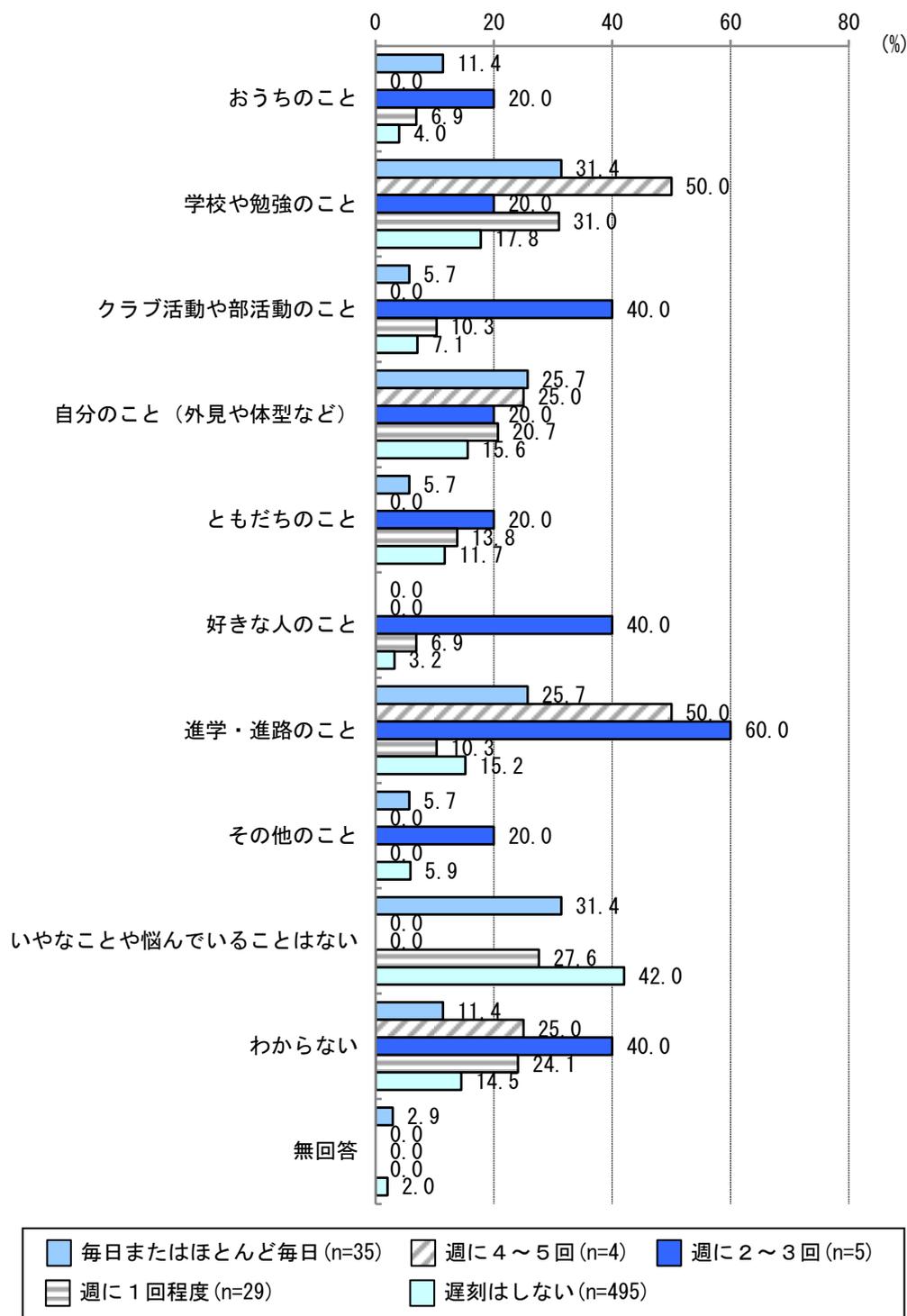
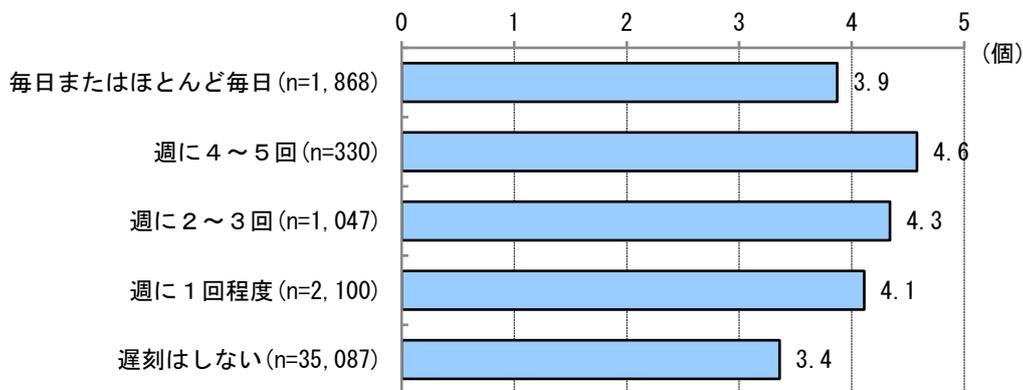


図 128. 学校への遅刻別に見た、嫌なことや悩んでいること

学校への遅刻別に嫌なことや悩んでいることを見ると、項目によっては母数が少ないため一概には言えないが、「学校や勉強のこと」の割合は「週に4~5回」遅刻をしている子どもが50.0%で割合が最も高く、一方で、「いやなことや悩んでいることはない」は「遅刻はしない」子どもの割合が42.0%で最も高くなっている。

学校への遅刻別に見た、自分の体や気持ちで気になることの該当個数  
 (子ども票問7×子ども票問19・20)

<大阪府内全体>



<守口市>

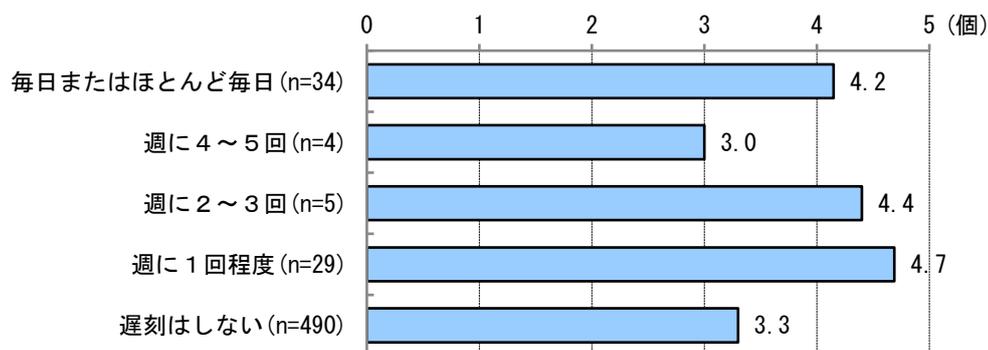
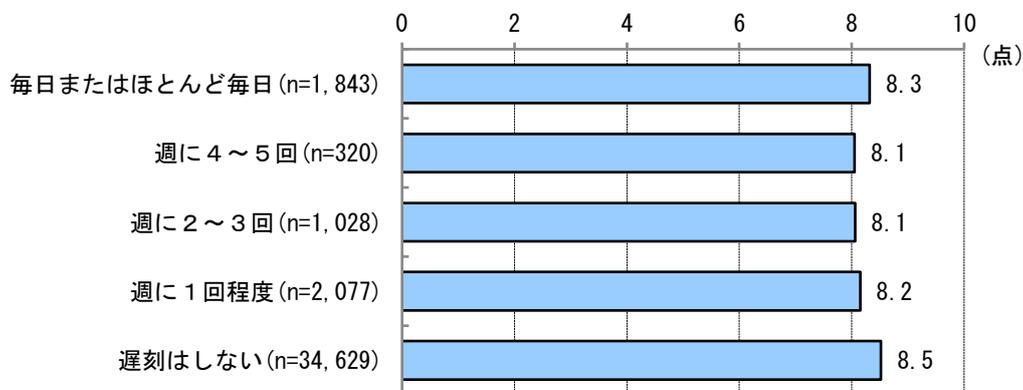


図 129. 学校への遅刻別に見た、自分の体や気持ちで気になることの該当個数

学校への遅刻別に自分の体や気持ちで気になることの該当個数を見ると、「週に1回程度」遅刻をしている子どもが4.7個で最も多く、次いで「週に2～3回」遅刻をしている子どもが4.4個となっている。

学校への遅刻別に見た、子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）  
 （子ども票問7×子ども票問23）

<大阪府内全体>



<守口市>

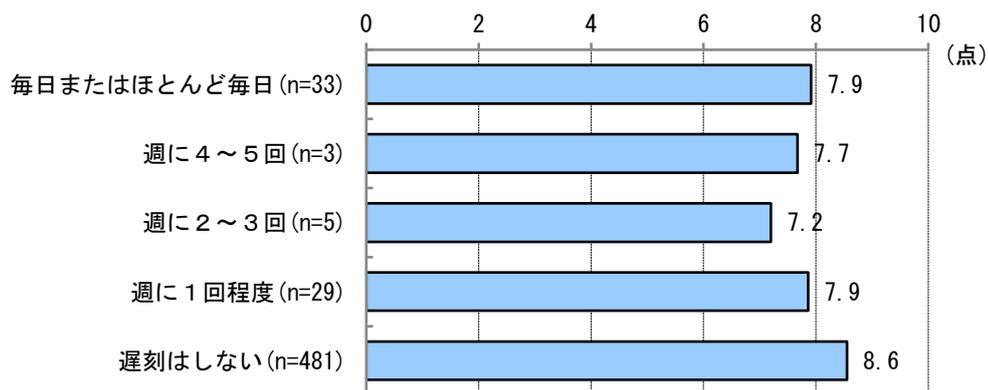
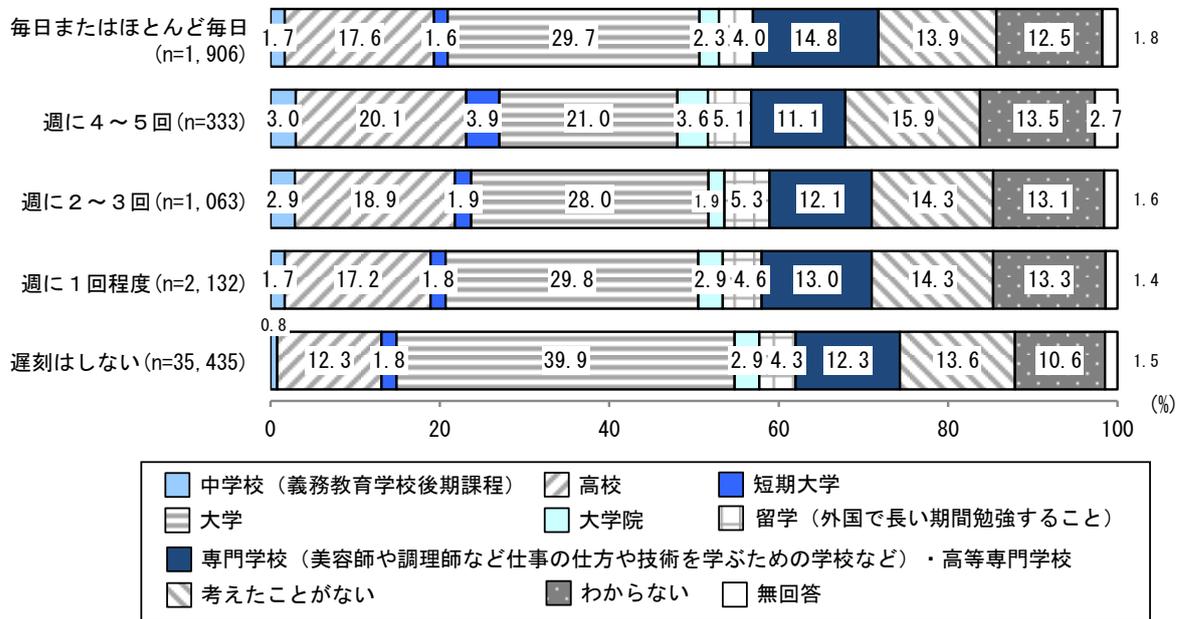


図 130. 学校への遅刻別に見た、子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）

学校への遅刻別に子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）の得点を見ると、「毎日またはほとんど毎日」遅刻している子どもは「遅刻はしない」子どもよりも自己効力感（セルフ・エフィカシー）がやや低い。

学校への遅刻別に見た、希望する進学先（子ども票問7×子ども票問24）

<大阪府内全体>



<守口市>

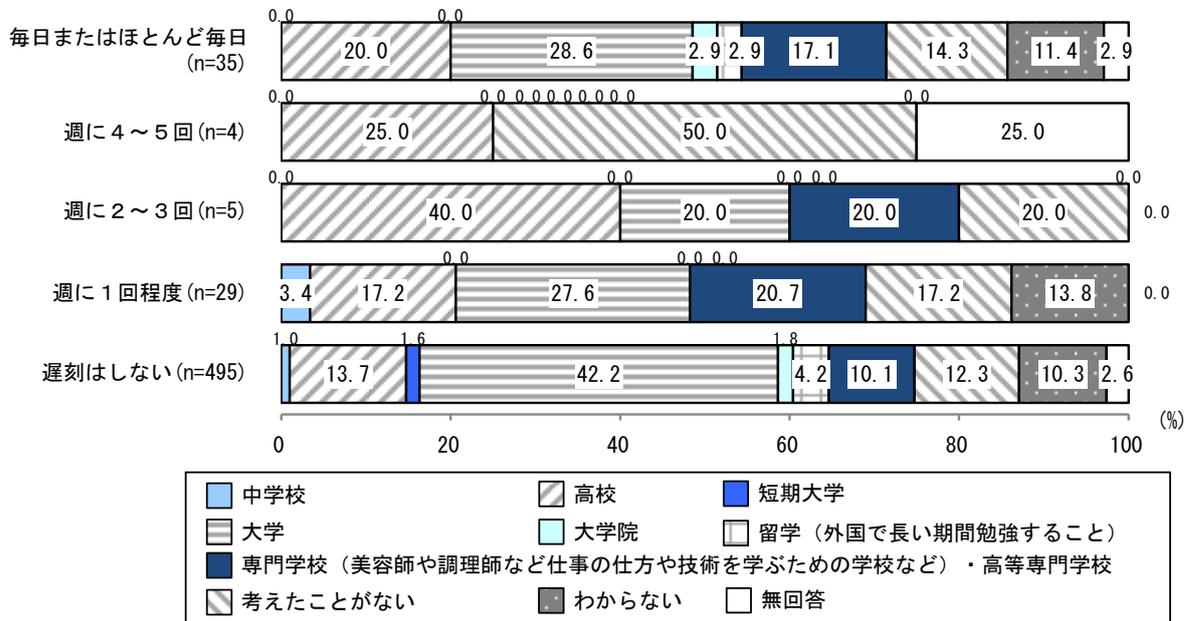
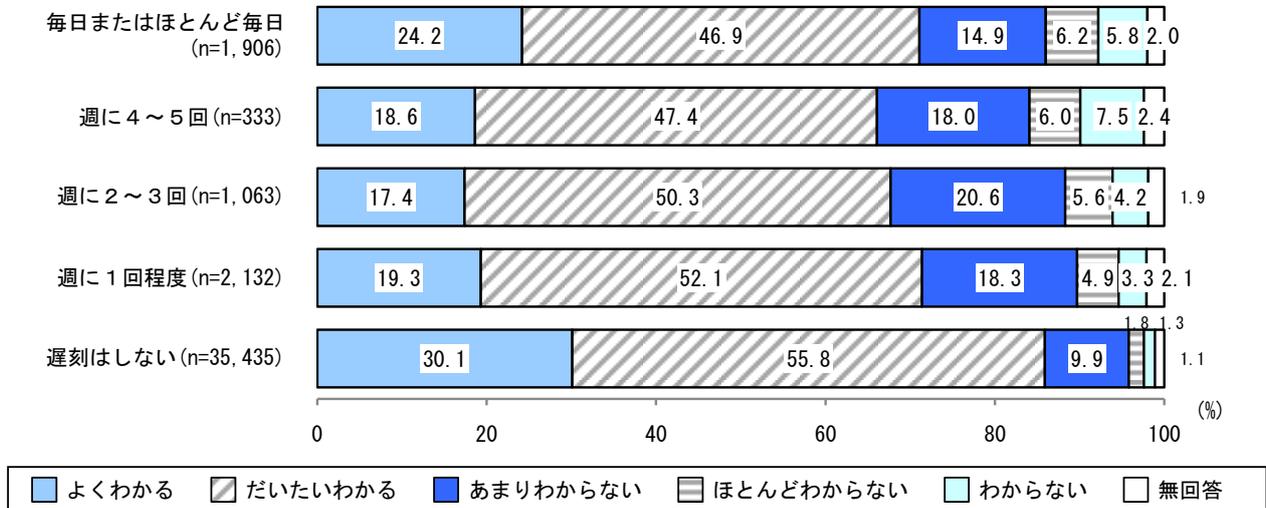


図 131. 学校への遅刻別に見た、希望する進学先

学校への遅刻別に希望する進学先を見ると、「大学」は「遅刻はしない」子どもの割合が42.2%で最も高く、次いで「毎日またはほとんど毎日」遅刻をしている子どもの割合が28.6%となっている。

学校への遅刻別に見た、学校の勉強で気持ちに近いもの（子ども票問7×子ども票問14(1)）

<大阪府内全体>



<守口市>

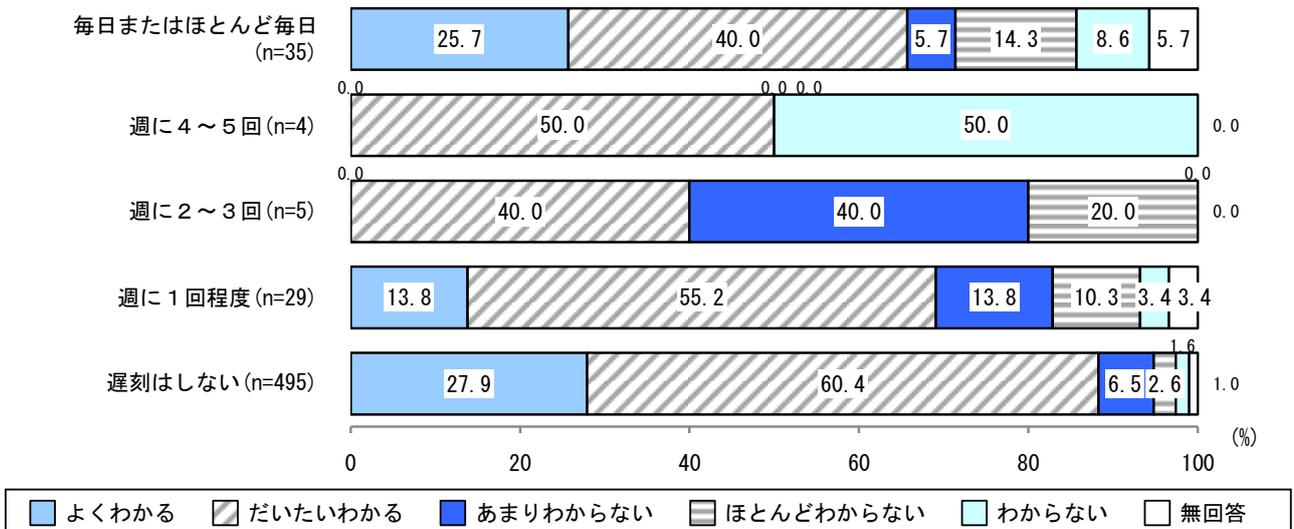
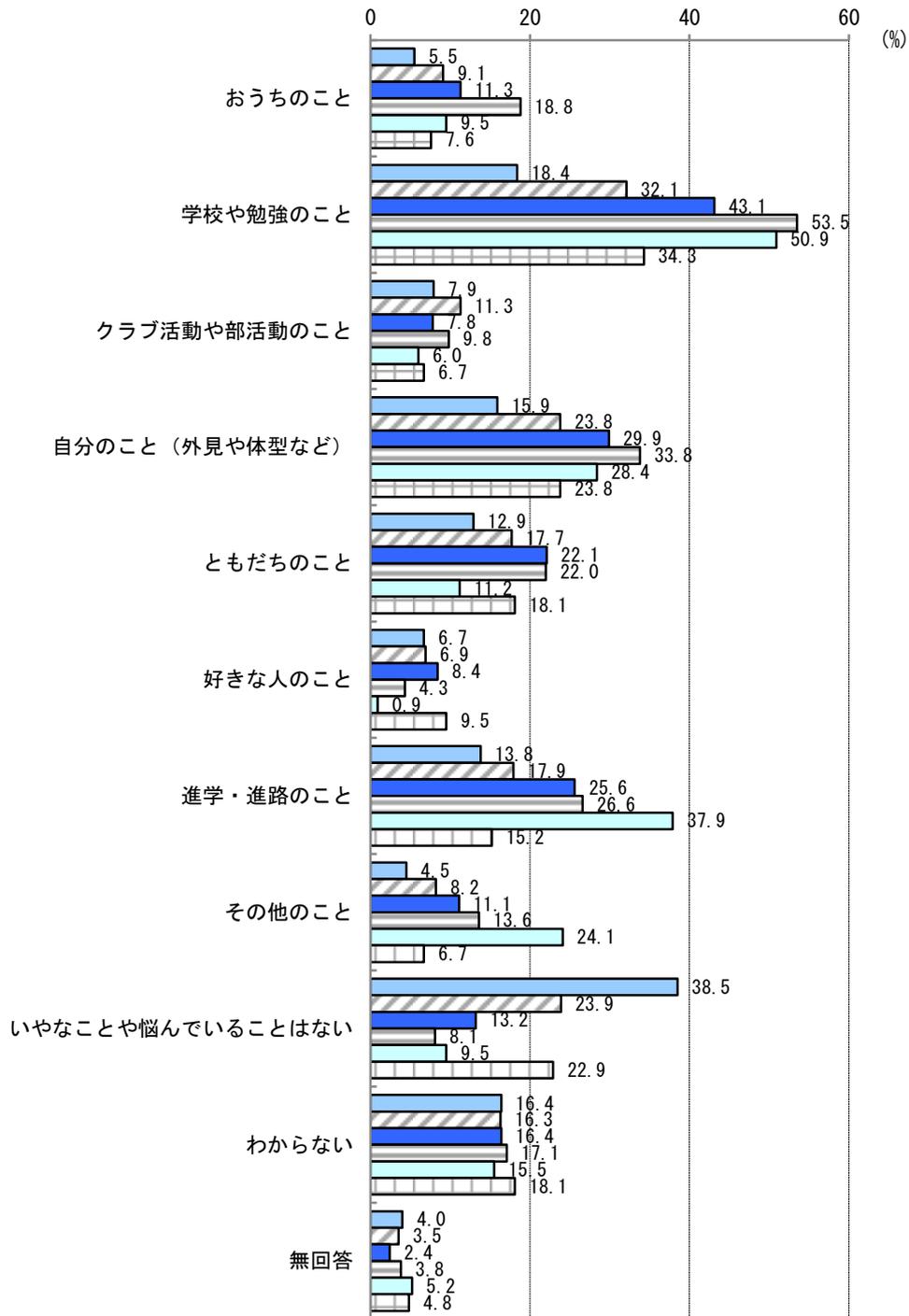


図 132. 学校への遅刻別に見た、学校の勉強で気持ちに近いもの

学校への遅刻別に学校の勉強で気持ちに近いものを見ると、「よくわかる」は「遅刻はしない」子どもの割合が27.9%で最も高くなっている。

子どもの通学状況別に見た、嫌なことや悩んでいること（保護者票問15×子ども票問17）

<大阪府内全体>



■ ほぼ毎日通っている (n=37,661)      ■ 欠席は年間30日未満である (n=1,775)  
■ 欠席が年間30日以上、60日未満である (n=371)      ■ 欠席が年間60日以上、1年未満である (n=346)  
■ 欠席が1年以上続いている (n=116)      ■ わからない (n=105)

<守口市>

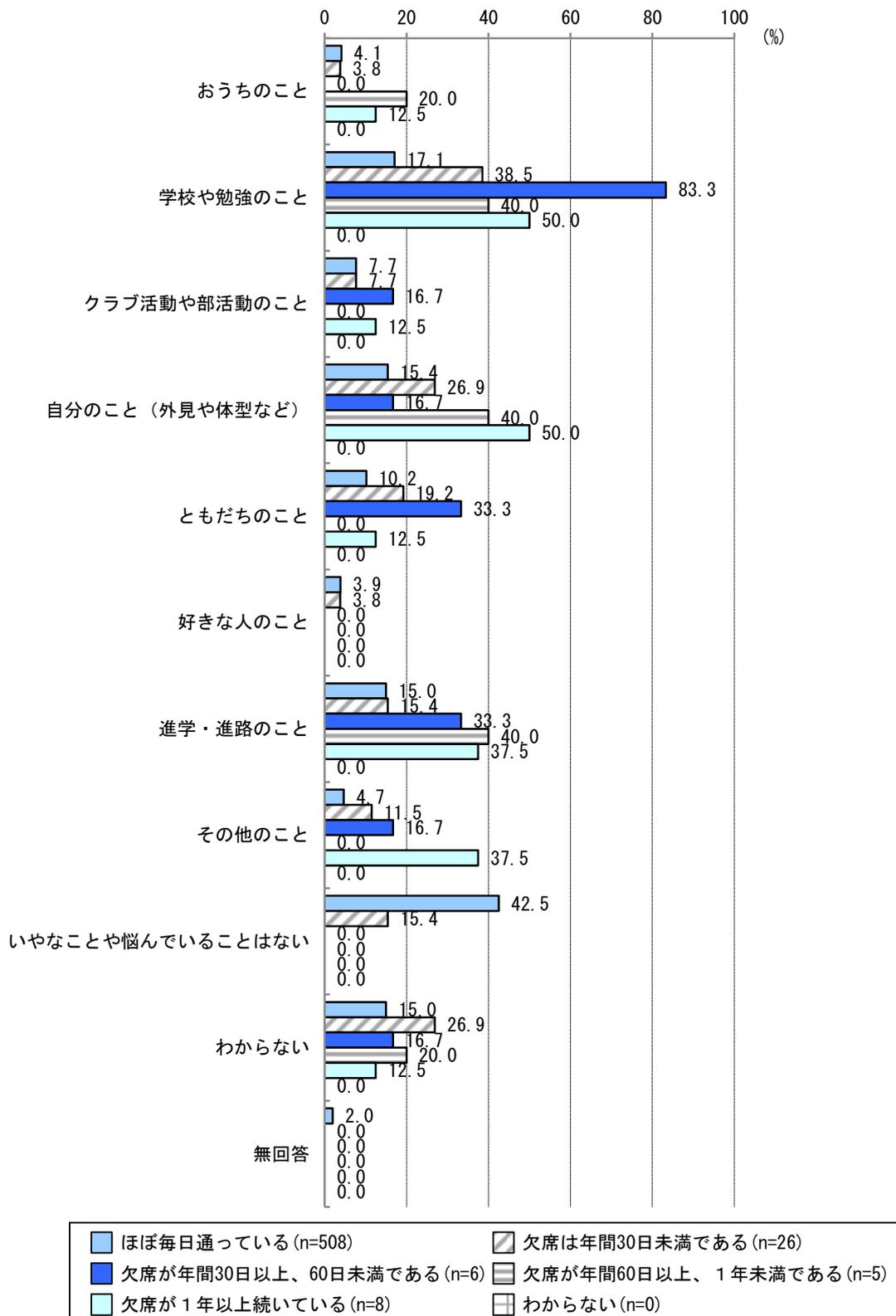
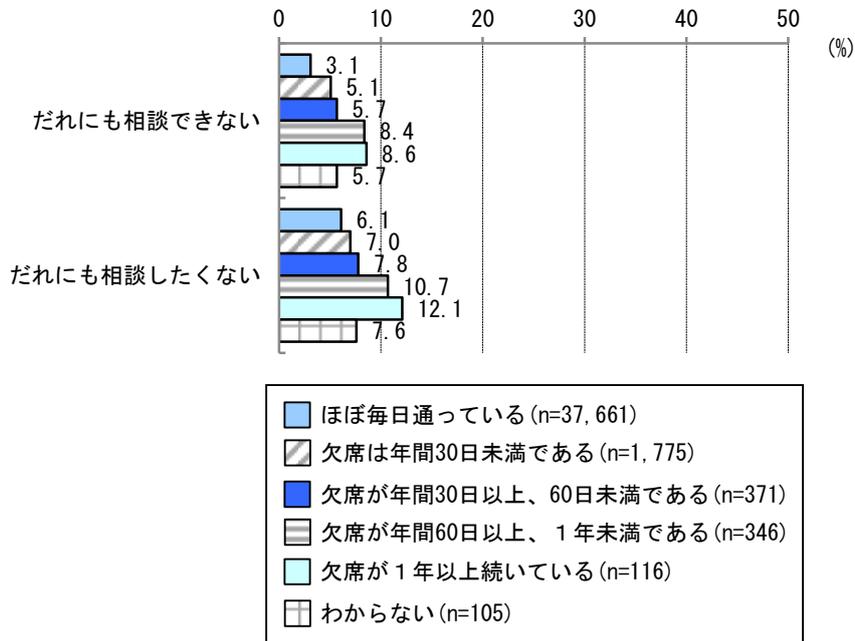


図 133. 子どもの通学状況別に見た、嫌なことや悩んでいること

子どもの通学状況別に嫌なことや悩んでいることを見ると、「自分のこと(外見や体型など)」や「進学・進路のこと」は概ね子どもが欠席が多くなるほど割合が高くなっている。

子どもの通学状況別に見た、悩んだ時の対処を教えてくれる人のいない割合  
 (保護者票問 15×子ども票問 18)

<大阪府内全体>



<守口市>

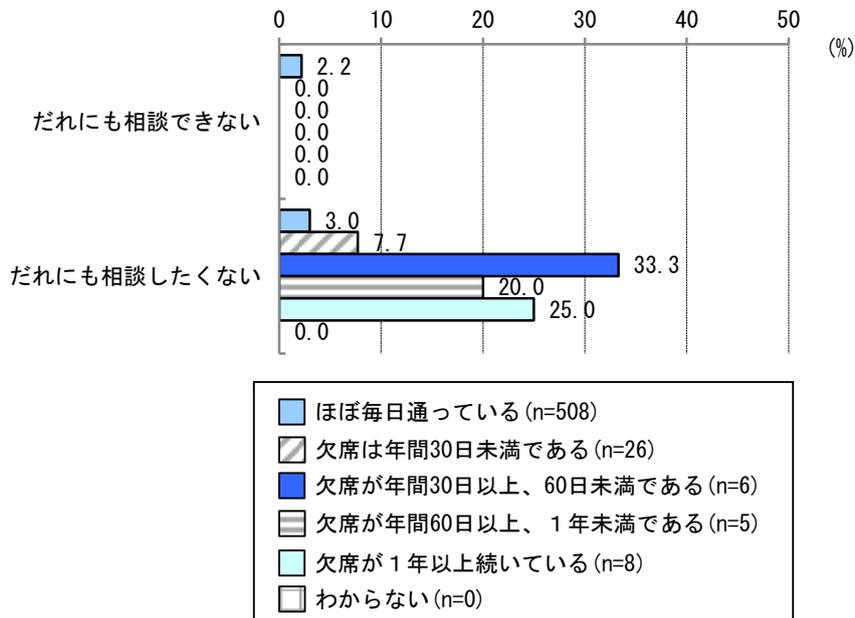
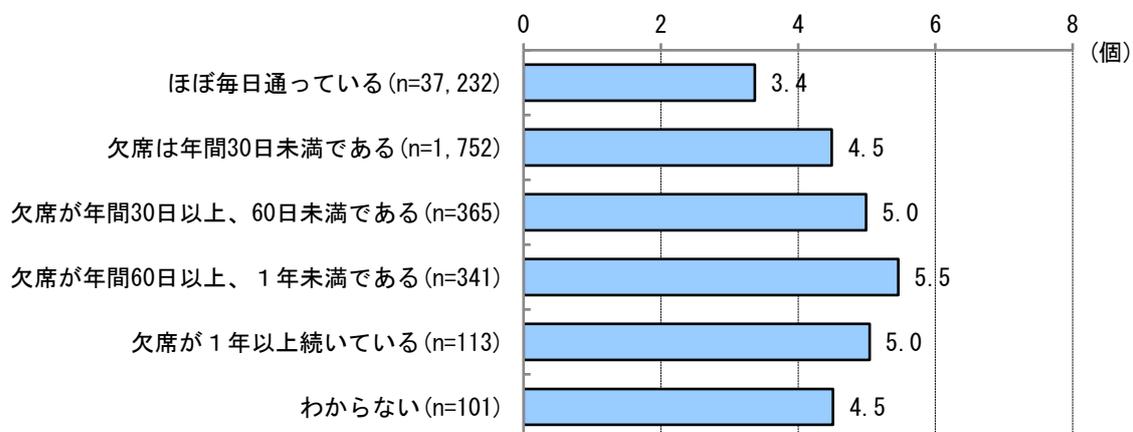


図 134. 子どもの通学状況別に見た、悩んだ時の対処を教えてくれる人のいない割合

子どもの通学状況別に悩んだ時の対処を教えてくれる人のいない割合を見ると、「だれにも相談したくない」と回答した人の割合は「欠席が年間30日以上、60日未満である」人の割合が最も高くなっている。

子どもの通学状況別に見た、自分の体や気持ちで気になることの該当個数  
 (保護者票問 15×子ども票問 19・20)

<大阪府内全体>



<守口市>

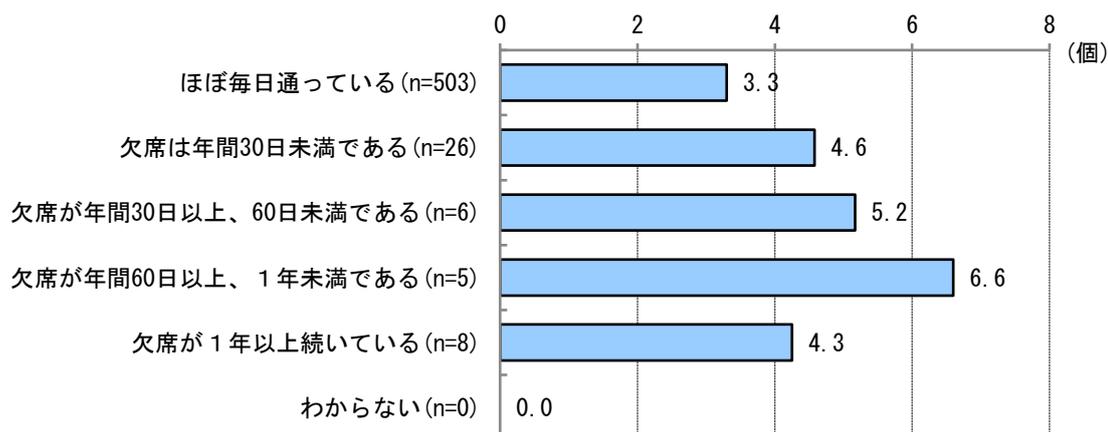
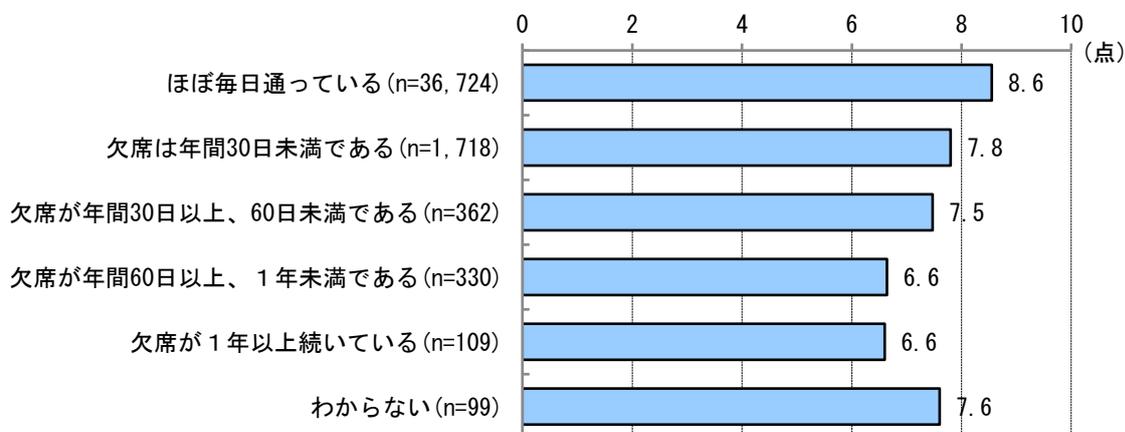


図 135. 子どもの通学状況別に見た、自分の体や気持ちで気になることの該当個数

子どもの通学状況別に自分の体や気持ちで気になることの該当個数を見ると、「欠席が年間60日以上、1年未満である」と回答した人が6.6個で最も多く、次いで「欠席が年間30日以上、60日未満である」と回答した人が5.2個となっている。

子どもの通学状況別に見た、子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）  
（保護者票問 15×子ども票問 23）

<大阪府内全体>



<守口市>

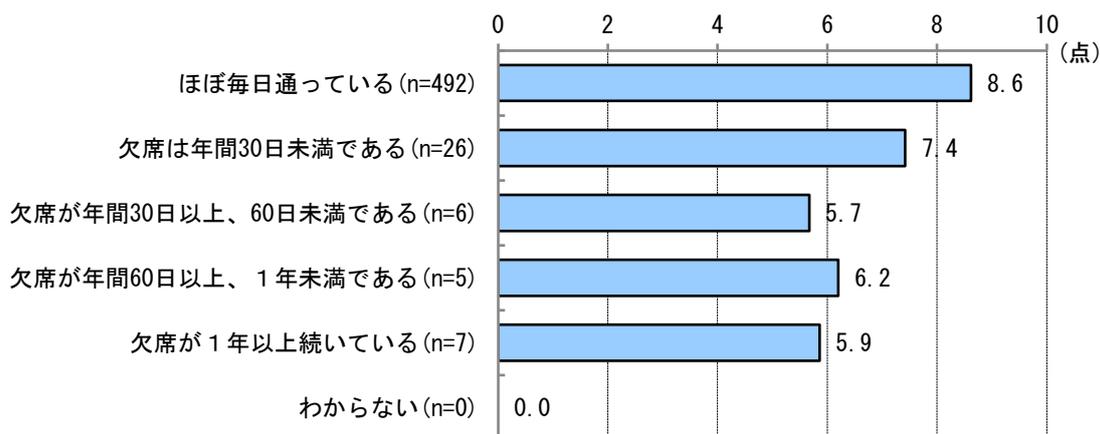
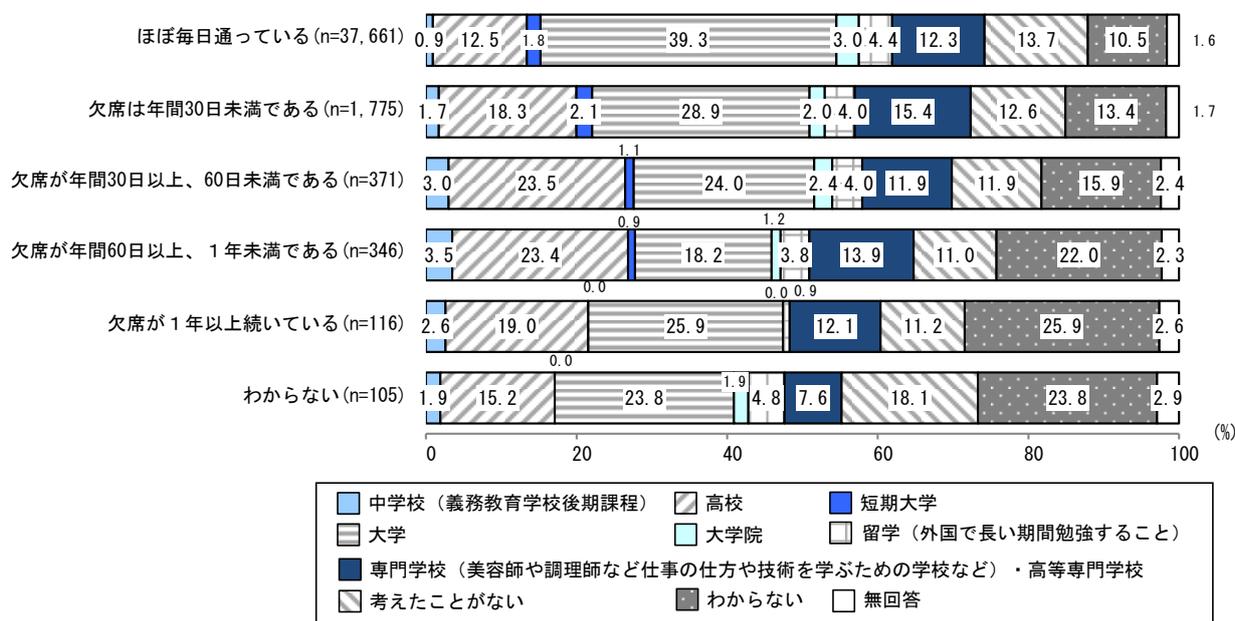


図 136. 子どもの通学状況別に見た、子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）

子どもの通学状況別に子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）を見ると、「ほぼ毎日通っている」と回答した人の得点が8.6点で、次いで「欠席は年間30日未満である」と回答した人は7.4点、「欠席が年間60日以上、1年未満である」と回答した人は6.2点と、概ね通学日数が少ない子どものほうが、自己効力感（セルフ・エフィカシー）が低い結果となった。

子どもの通学状況別に見た、希望する進学先（保護者票問 15×子ども票問 24）

<大阪府内全体>



<守口市>

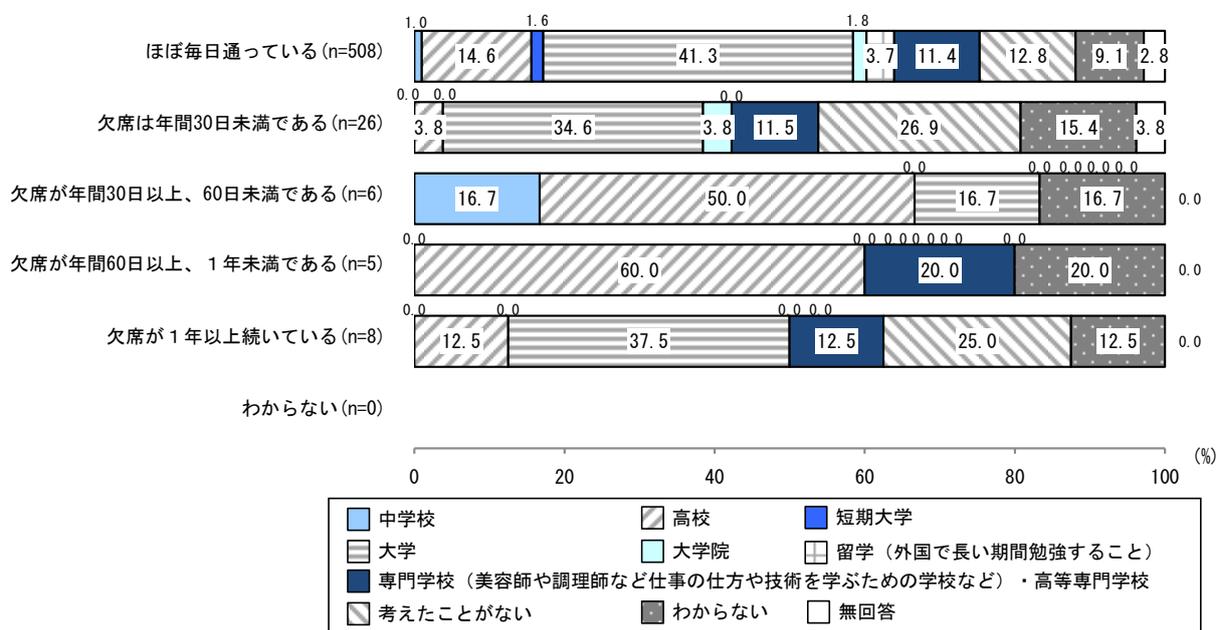
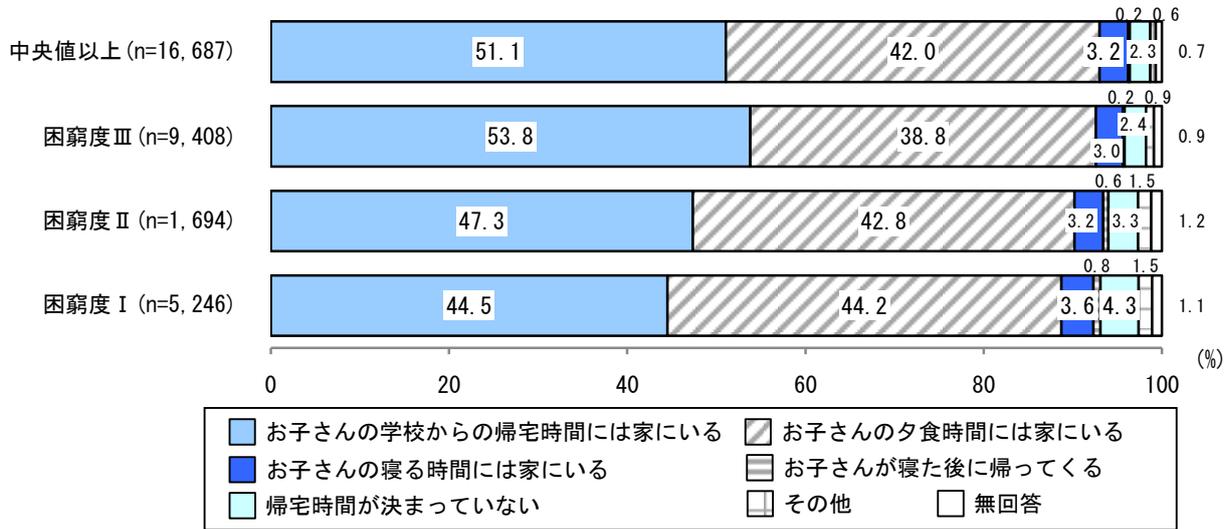


図 137. 子どもの通学状況別に見た、希望する進学先

子どもの通学状況別に希望する進学先を見ると、項目によっては母数が少ないため一概には言えないが、「大学」は「ほぼ毎日通っている」と回答した人の割合が41.3%で最も高く、「高校」は「欠席が年間60日以上、1年未満である」と回答した人の割合が60.0%で最も高くなっている。

困窮度別に見た、保護者が家にいる時間帯（保護者票問 10）

<大阪府内全体>



<守口市>

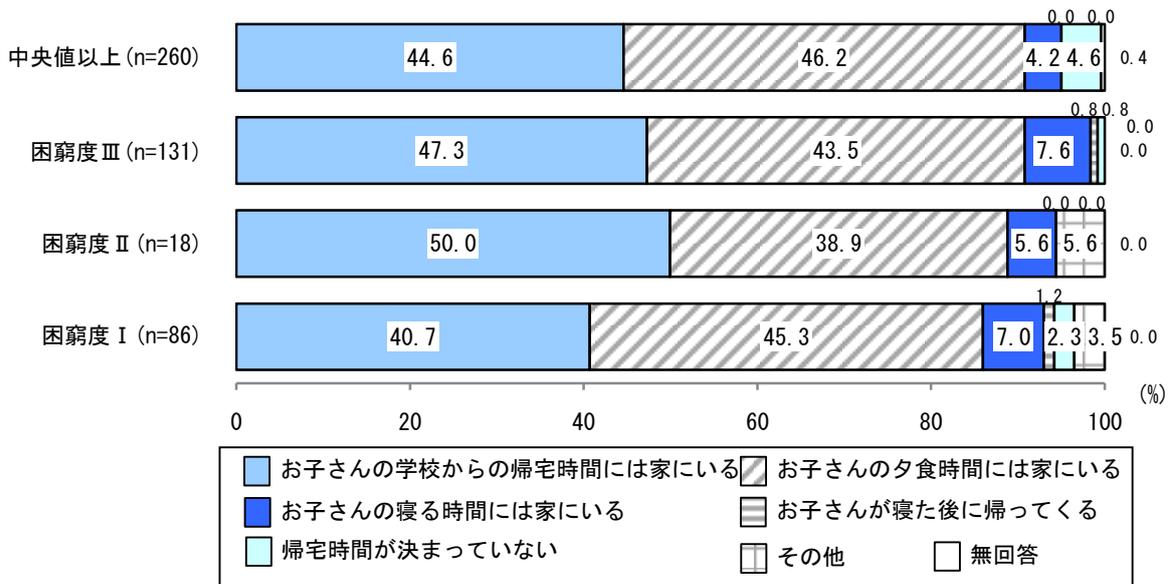
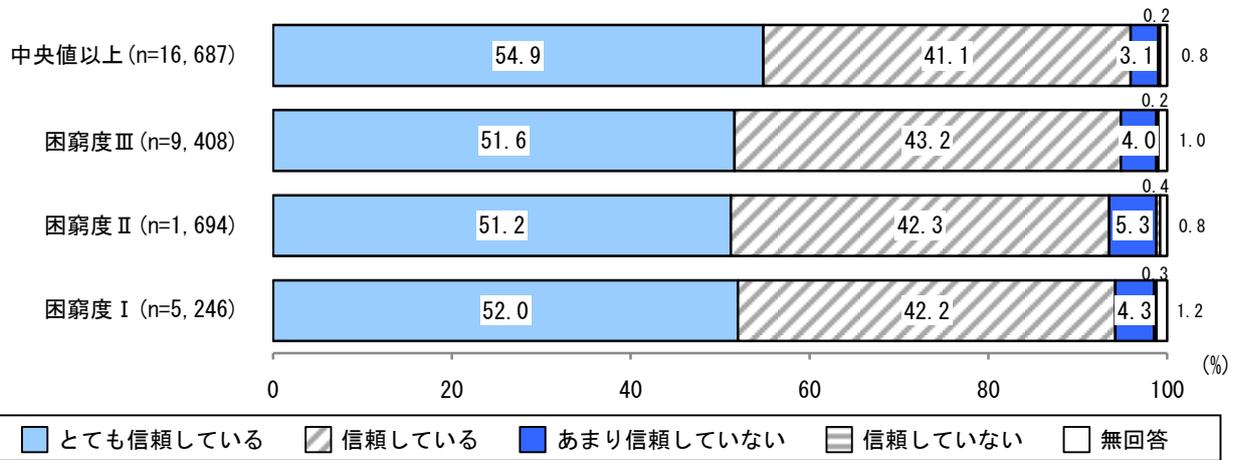


図 138. 困窮度別に見た、保護者が家にいる時間帯

困窮度別に保護者が家にいる時間帯を見ると、困窮度Ⅱ群で「お子さんの学校からの帰宅時には家にいる」と回答した割合が50.0%と最も高くなっている。

困窮度別に見た、子どもへの信頼度（保護者票問 13(1)）

<大阪府内全体>



<守口市>

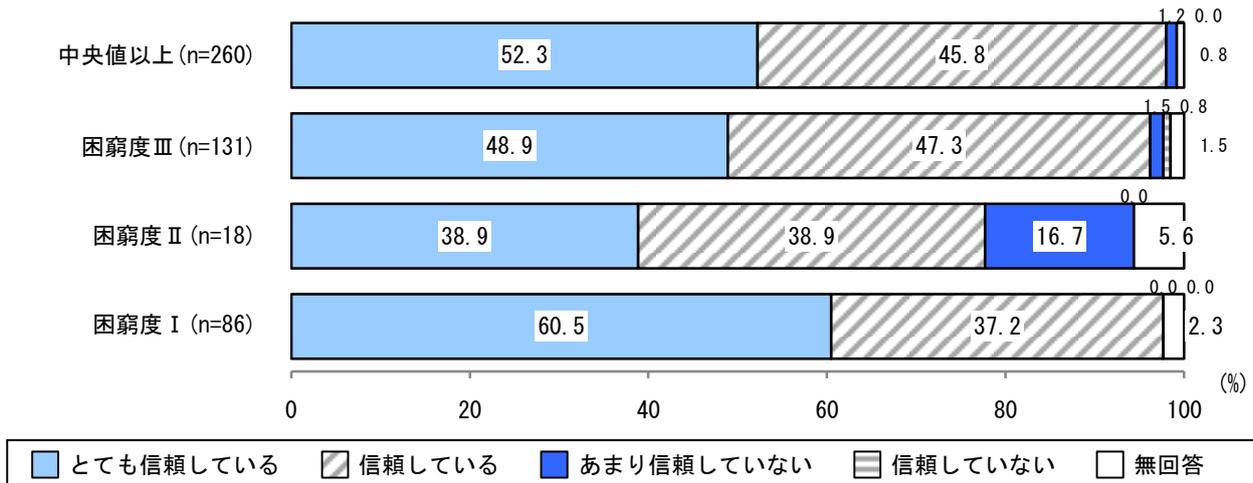
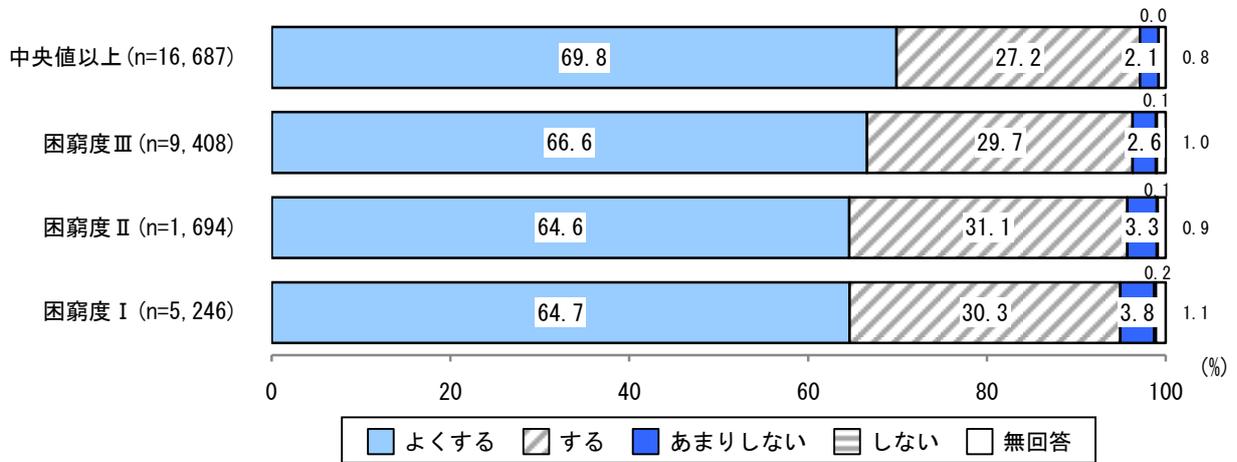


図 139. 困窮度別に見た、子どもへの信頼度

困窮度別に子どもへの信頼度を見ると、「とても信頼している」と回答した割合は、困窮度Ⅱ群が38.9.%で最も低く、困窮度Ⅰ群が60.5%で最も高くなっている。

困窮度別に見た、子どもとの会話頻度（保護者票問 13(2)）

<大阪府内全体>



<守口市>

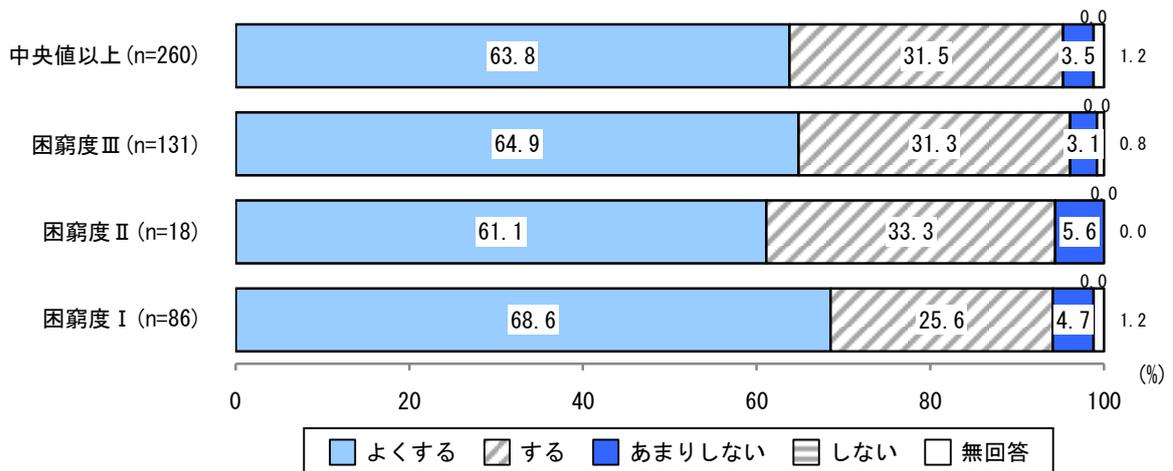
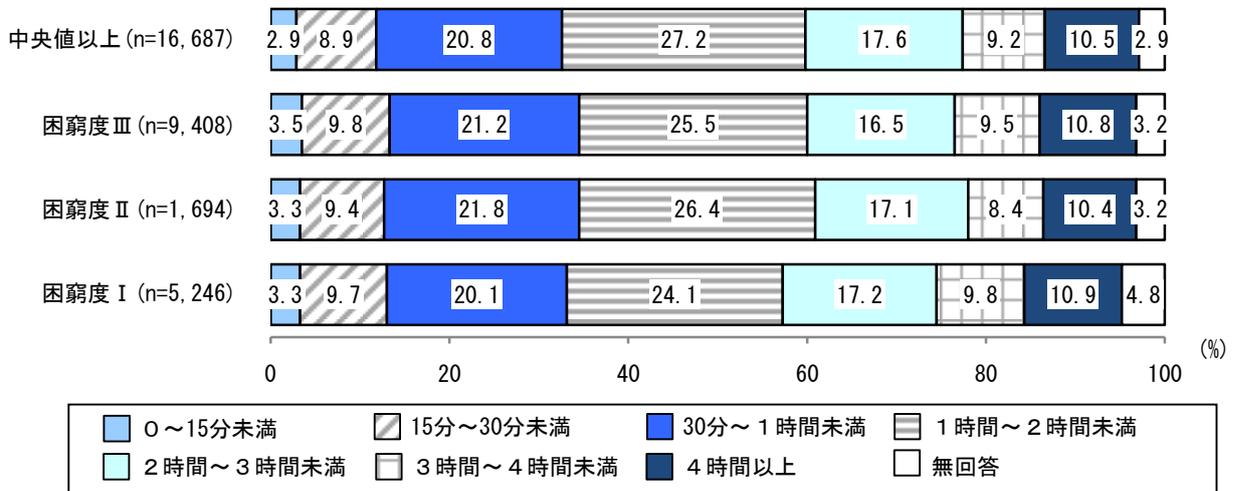


図 140. 困窮度別に見た、子どもとの会話頻度

困窮度別に子どもとの会話頻度を見ると、困窮度Ⅱ群では「よくする」と回答した割合が最も低く、61.1%となっている。

困窮度別に見た、平日での子どもとの関わり時間（保護者票問 13(3)）

<大阪府内全体>



<守口市>

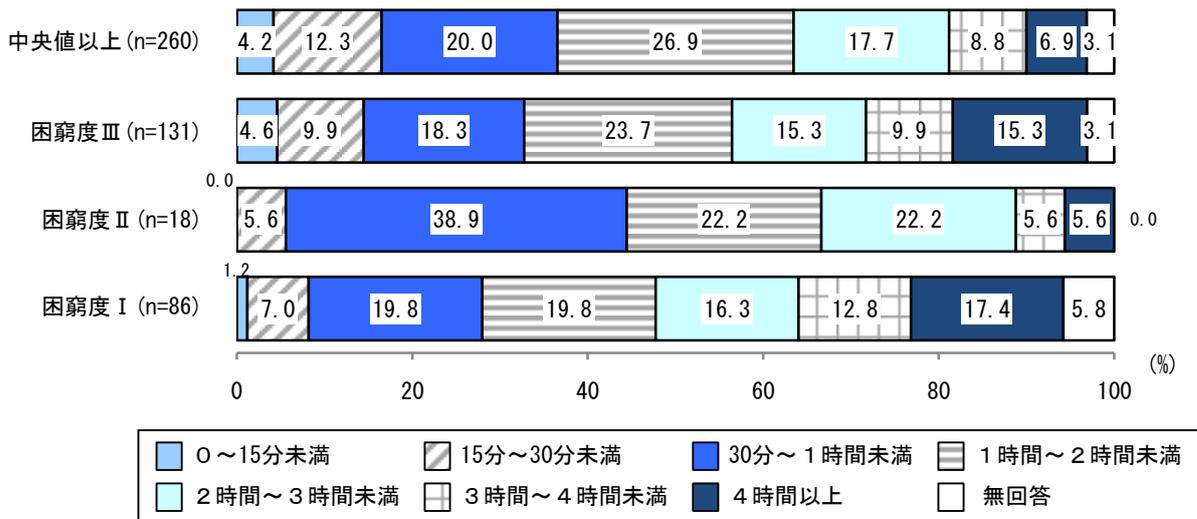
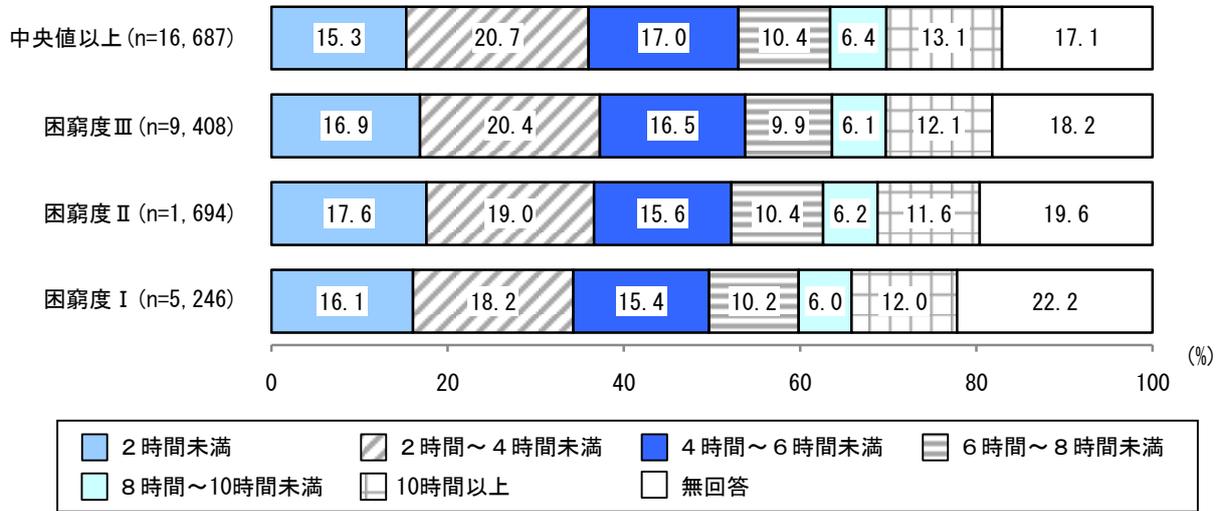


図 141. 困窮度別に見た、平日での子どもとの関わり時間

困窮度別に平日での子どもとの関わり時間を見ると、「4時間以上」と回答した割合が困窮度Ⅰ群で最も高く、17.4%である。

困窮度別に見た、休日での子どもとの関わり時間（保護者票問 13(3)）

<大阪府内全体>



<守口市>

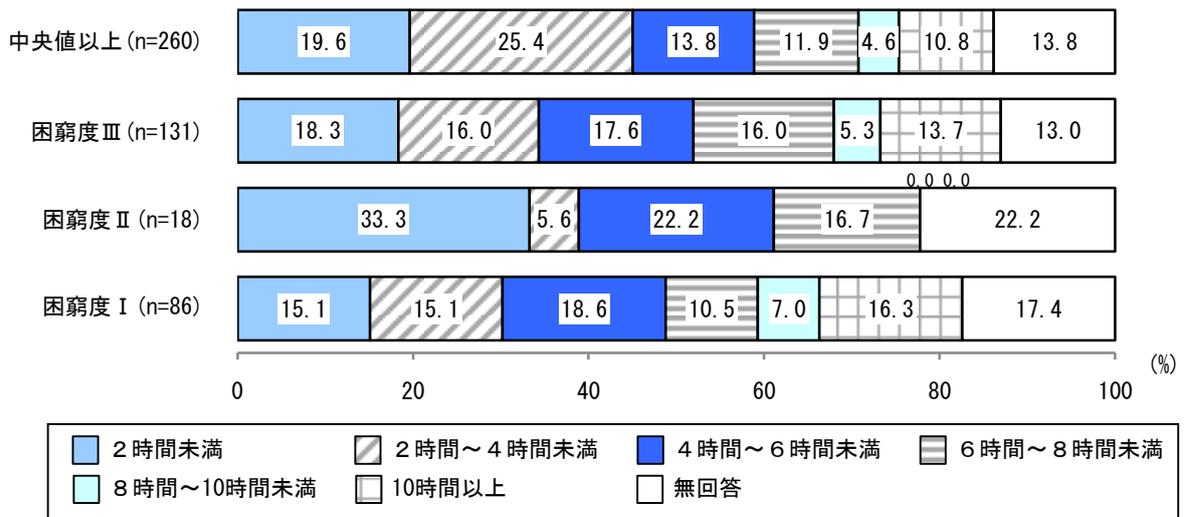
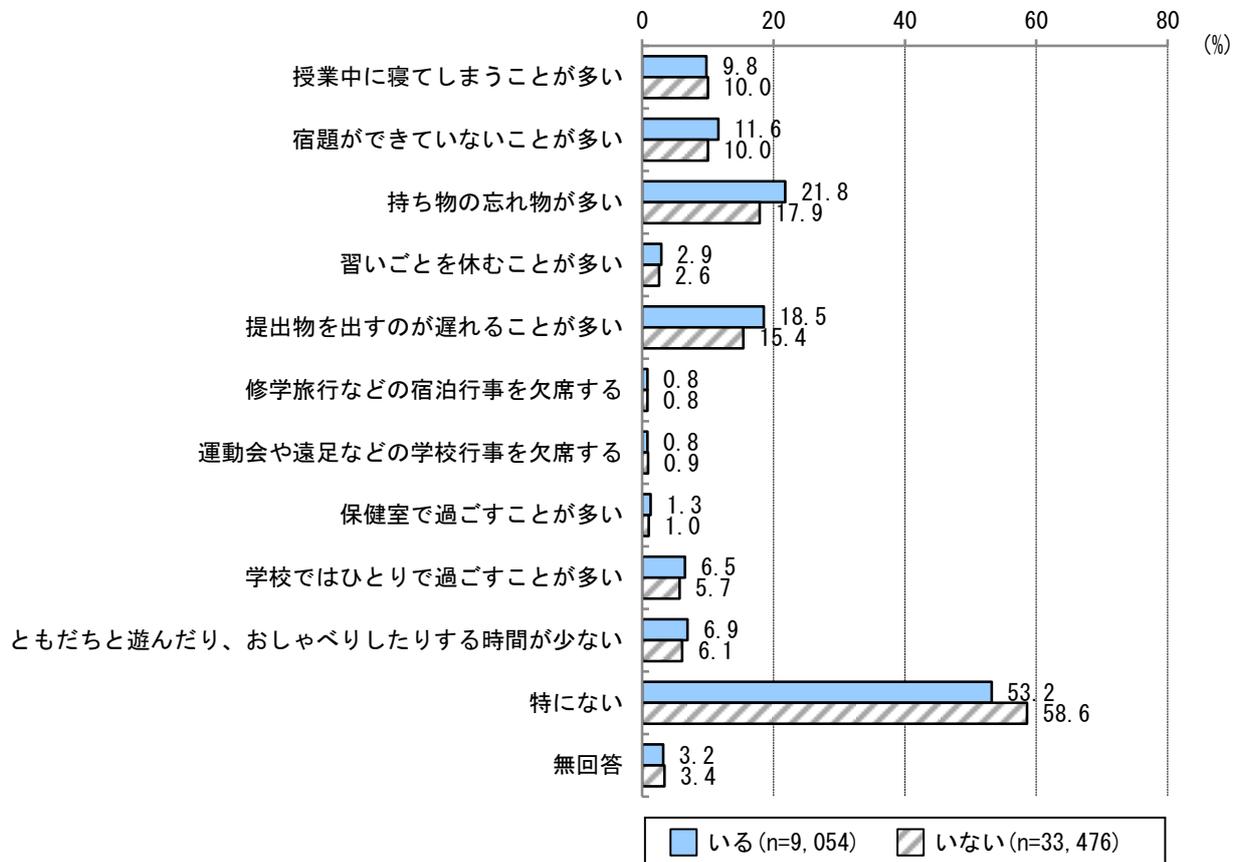


図 142. 困窮度別に見た、休日での子どもとの関わり時間

困窮度別に休日での子どもとの関わり時間を見ると、「2時間未満」と回答した割合が困窮度Ⅱ群で最も高く、33.3%である。また、「2～4時間未満」と回答した割合は中央値以上群で最も高く、25.4%となっている。

自分が世話をしている人の有無別に見た、学校や学校の行事等の状況  
 (子ども票問 26(1) × 子ども票問 16)

<大阪府内全体>



<守口市>

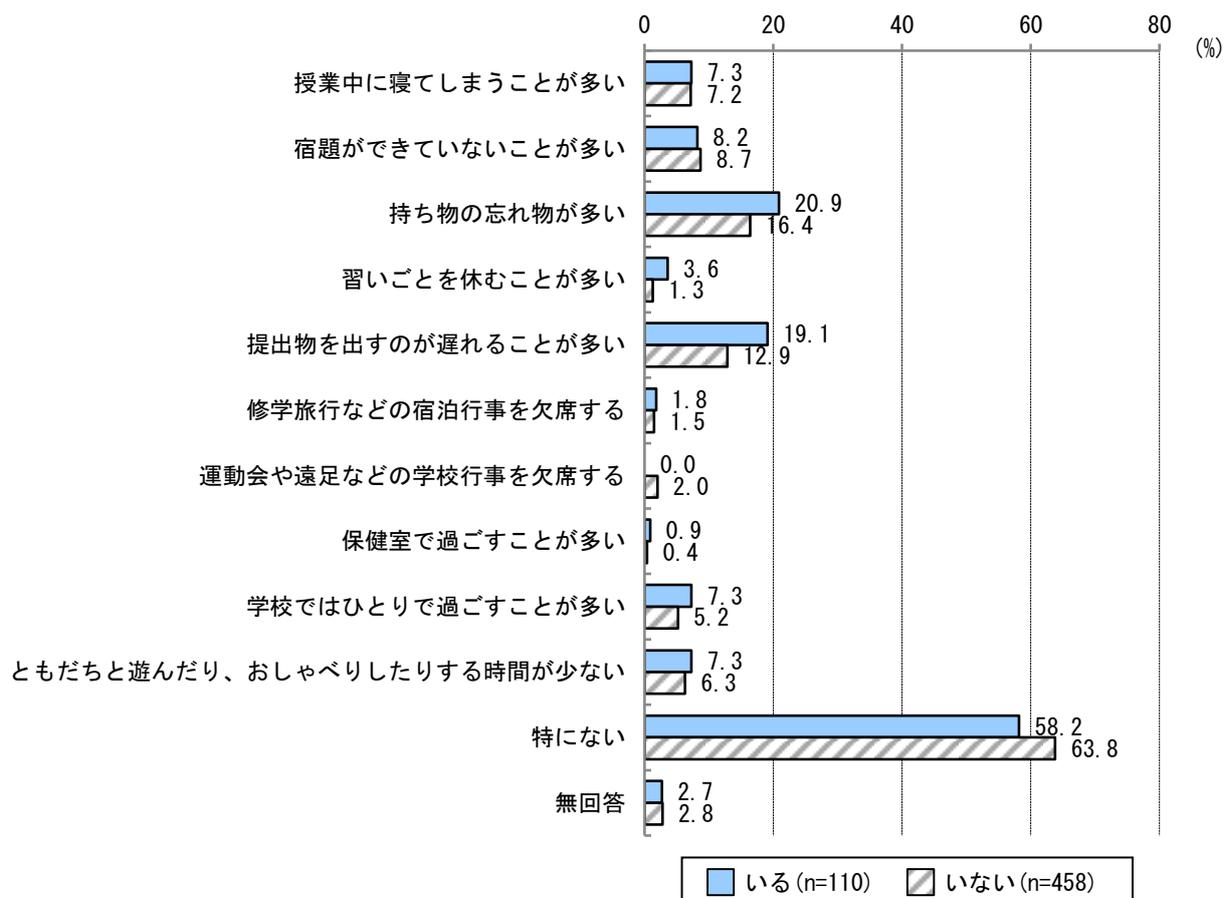
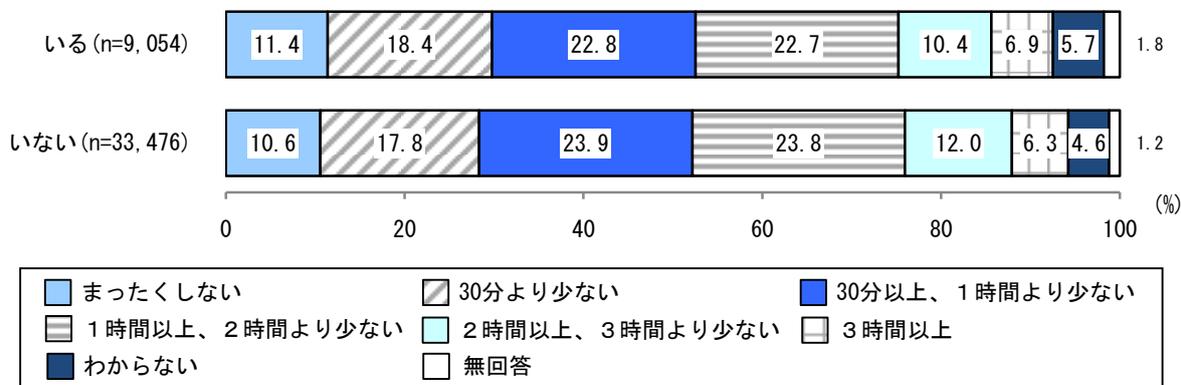


図 143. 自分が世話をしている人の有無別に見た、学校や学校の行事等の状況

自分が世話をしている人の有無別に学校や学校の行事等の状況を見ると、「持ち物の忘れ物が多い」、「提出物を出すのが遅れることが多い」と回答した人は、世話をしている人が「いない」割合より「いる」割合のほうが高く、差が大きくなっている。

自分が世話をしている人の有無別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間 ①学校がある日（月～金曜日）（子ども票問26(1)×子ども票問13①）

<大阪府内全体>



<守口市>

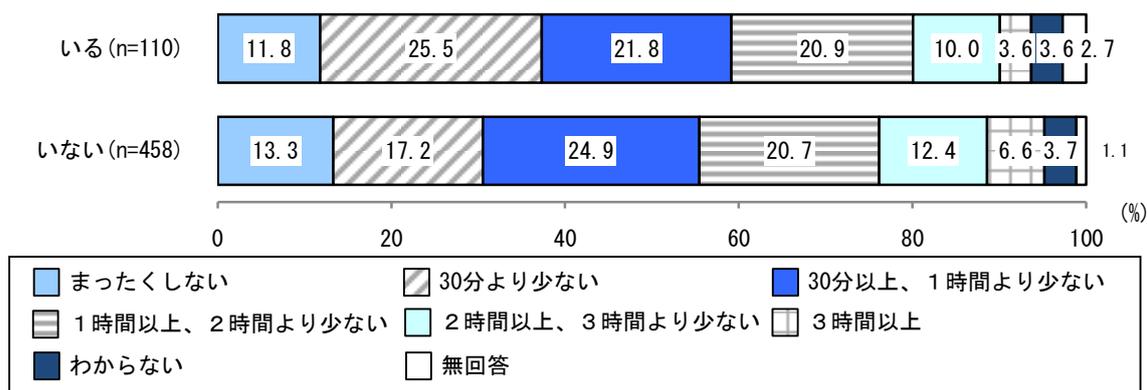
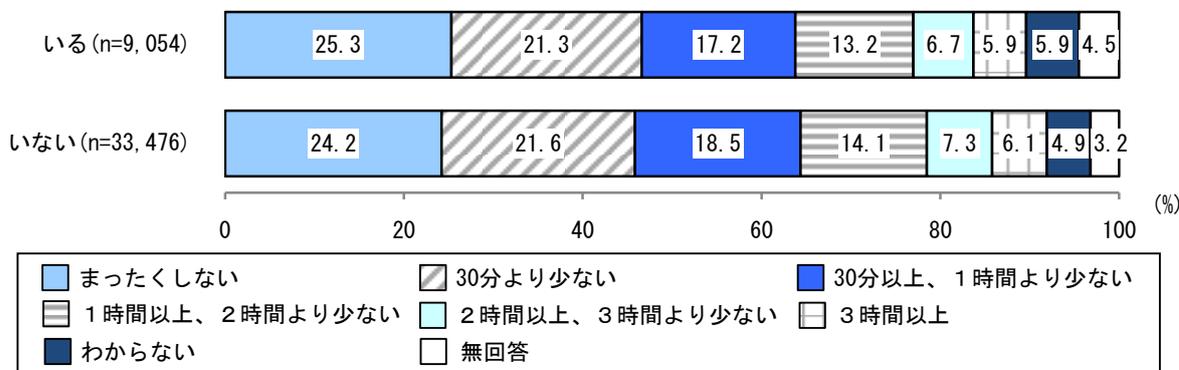


図 144. 自分が世話をしている人の有無別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間（学校がある日）

自分が世話をしている人の有無別に学校がある日の授業時間以外の1日あたりの勉強時間を見ると、「30分より少ない」は、世話をしている人が「いない」割合より「いる」割合のほうが高くなっている。

自分が世話をしている人の有無別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間 ②学校がない日（土・日曜日・祝日）（子ども票問26(1)×子ども票問13(2)）

<大阪府内全体>



<守口市>

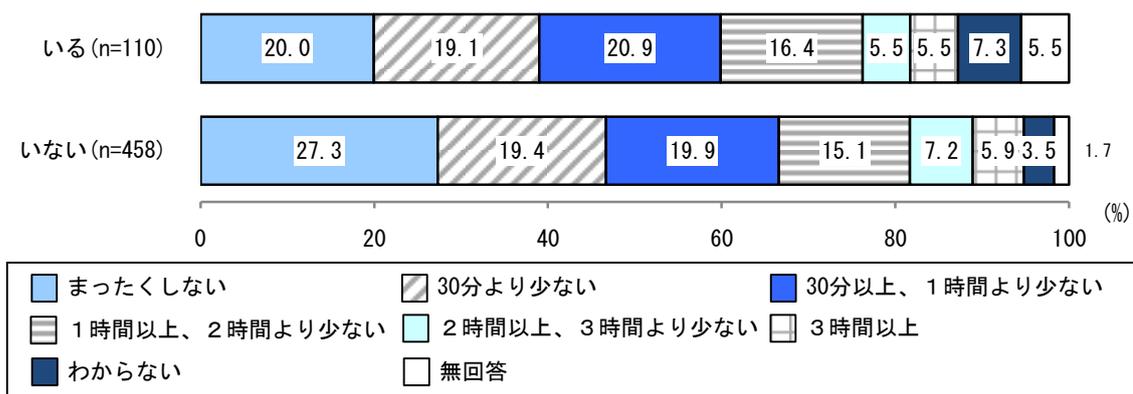


図 145. 自分が世話をしている人の有無別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間（学校がない日）

自分が世話をしている人の有無別に学校がない日の授業時間以外の1日あたりの勉強時間を見ると、「まったくしない」と回答した人の割合は、世話をしている人が「いる」人より「いない」人のほうが割合が高くなっている。

## <家庭生活・学習に関する考察>

まず、経済状況と家庭生活における子どもと保護者のかかわりの関連について、困窮度が中央値以上群と困窮度Ⅰ群の間の差に着目しながら確認する。おうちの大人の人と一緒に朝食を食べる頻度を見ると、困窮度Ⅰ群は中央値以上群と比べ、「まったくない」(24.3%対7.5%)が16.8ポイント高くなっている。学校への遅刻頻度では、中央値以上群は困窮度Ⅰ群と比べ、「遅刻はしない」(88.8%対77.0%)が11.8ポイント高くなっている。保護者が抱く子どもの将来への期待度では、困窮度Ⅰ群は中央値以上群と比べ、「あまり期待していない」と「期待していない」の合計(16.3%対10.8%)は5.5ポイント高くなっている。これらの結果から、経済的に困難な世帯の子どもは朝食を保護者と一緒に食べる習慣がなく、遅刻しやすくなっている可能性が示された。また、経済的に困難な世帯の保護者は子どもの将来に対して期待を抱きにくく、経済的事情が子どもの生活状況や保護者とのかかわり方と関連している可能性がある。

次に、学校への遅刻状況と家庭生活における子どもと保護者のかかわりの関連について確認する。まず、「遅刻はしない」群は「毎日またはほとんど毎日」遅刻する群と比べ、「おうちの大人の人と一緒に朝食を食べる」ことでは「ほとんど毎日」(52.5%対31.4%)が21.1ポイント、「おうちの大人の人と一緒に夕食を食べる」ことでは「ほとんど毎日」(82.2%対77.1%)が5.1ポイント、保護者と子どもの会話頻度では「よくする」(66.2%対52.9%)が13.3ポイント高くなっている。一方、「毎日またはほとんど毎日」遅刻する群は「遅刻はしない」群と比べ、「おうちの大人の人と学校のでできごとについて話す」ことでは「ほとんどない」と「まったくない」の合計(22.8%対10.1%)が12.7ポイント以上高くなっている。これらの結果から、遅刻と保護者との日常的なかかわりの間には関連が見られ、遅刻頻度の高さは保護者と子どものコミュニケーション不足を暗示しうる。

経済状況と子どもの学習にかかわる習慣や進学希望の関連について、困窮度が中央値以上群と困窮度Ⅰ群の間の差に着目して述べる。通学状況を見ると、中央値以上群は困窮度Ⅰ群と比べ、「ほぼ毎日通っている」(95.8%対87.2%)が8.6ポイント高くなっている。学校がある日の勉強時間では、困窮度Ⅰ群は中央値以上群と比べ、「まったくしない」と「30分より少ない」の合計(40.5%対24.9%)が15.6ポイント、学校がない日の勉強時間では、「まったくしない」と「30分より少ない」の合計(45.9%対37.3%)が8.6ポイント高くなっている。学習理解度を見ると、困窮度Ⅰ群は中央値以上群と比べ、「ほとんどわからない」と「わからない」の合計(13.6%対3.8%)が9.8ポイント高くなっている。文化活動を見ると、困窮度Ⅰ群は中央値以上群と比べ、おうちの大人の人との文化活動頻度では「まったくない」(32.4%対19.5%)が12.9ポイント高くなっている。希望進学先を見ると、中央値以上群は困窮度Ⅰ群と比べ、子ども自身の希望する進学先では「大学」(48.5%対31.1%)が17.4ポイント高く、大きな開きがある。これらの結果から、経済的に困難な世帯の子どもは、通学が困難な状況に陥っており、学習習慣や家庭内での文化活動の習慣がないため、学習理解が不十分になっている可能性が示唆された。また、子ども自身、大学以上への進学を望まなくなっており、このことは経済的事情や学習理解の低さが影響している可能性も考えられる。

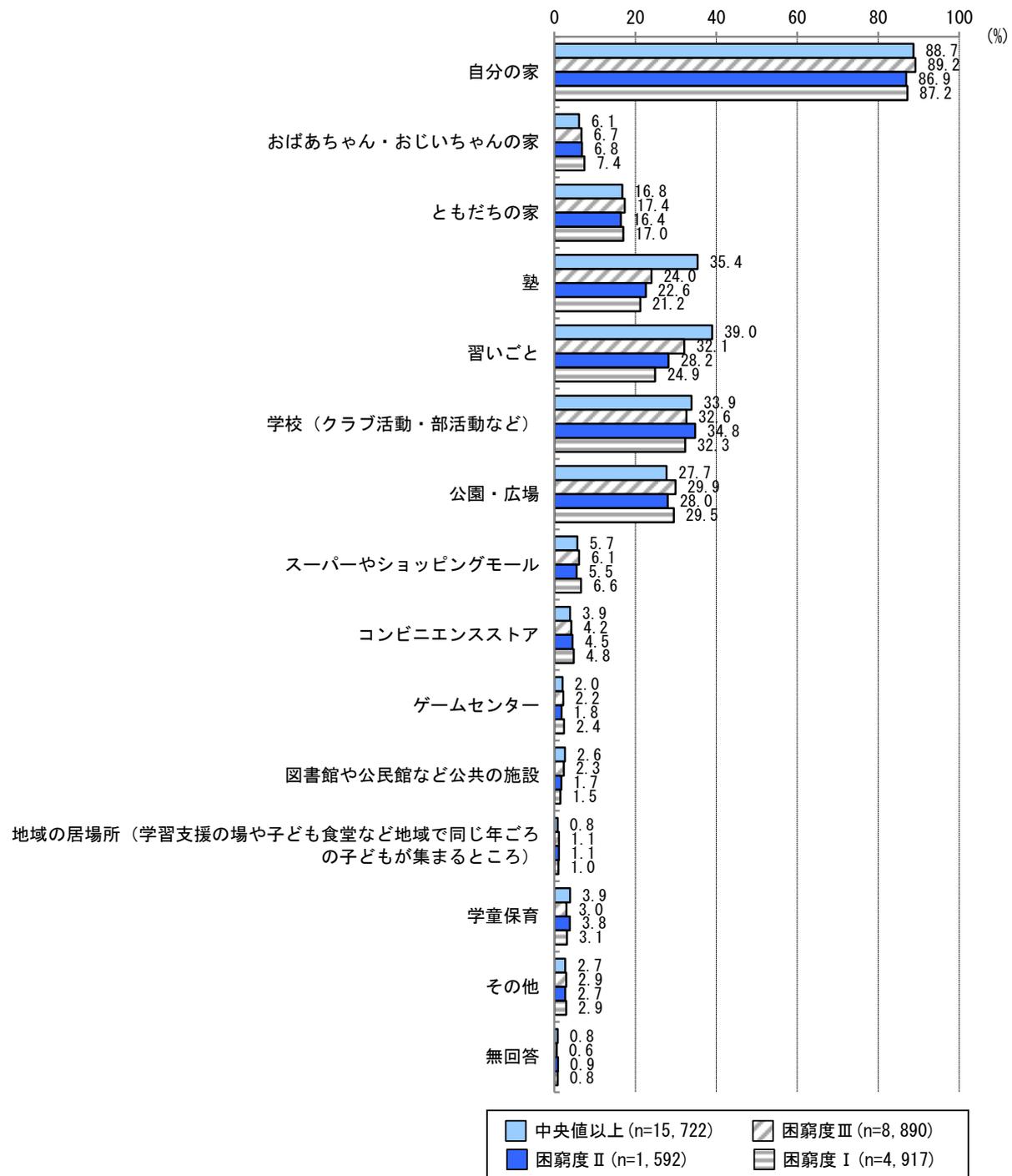
最後に、朝の習慣や学校への遅刻状況と子どもの学習にかかわる習慣の関連について確認する。起床時間の規則性別の学習時間を見ると、ほぼ同じ時刻に「起きていない」群は「起きている」群と比べ、学校がある日の勉強時間では「まったくしない」と「30分より少ない」の合計(50.0%対27.3%)が22.7ポイント、学校がない日の勉強時間では「まったくしない」と「30分より少ない」の合計(60.0%対39.4%)が20.6ポイント高くなっている。朝食の頻度別の学習時間を見ると、「食べない」群は「毎日またはほとんど毎日」食べる群に比べ、学校がある日の勉強時間では

「まったくしない」と「30分より少ない」の合計（71.4%対28.9%）が42.5ポイント、学校がない日の勉強時間では「まったくしない」と「30分より少ない」の合計（81.0%対42.4%）が38.6ポイント高くなっている。学校への遅刻頻度別の学習習慣を見ると、「毎日またはほとんど毎日」遅刻する群は「遅刻はしない」群に比べ、学習理解度では「ほとんどわからない」と「わからない」の合計（22.9%対4.2%）が18.7ポイント高くなっている。これらの結果から、朝の習慣が身についていないことは、日々の学習習慣の形成と関連している可能性が考えられる。さらに、朝の習慣が身についていないと、学校の遅刻に繋がり、授業を受けることができなくなるため、学習理解に影響が出ている可能性も示唆された。

### 3-5. 対人関係

#### 困窮度別に見た、放課後を過ごす場所（子ども票問11）

<大阪府内全体>



<守口市>

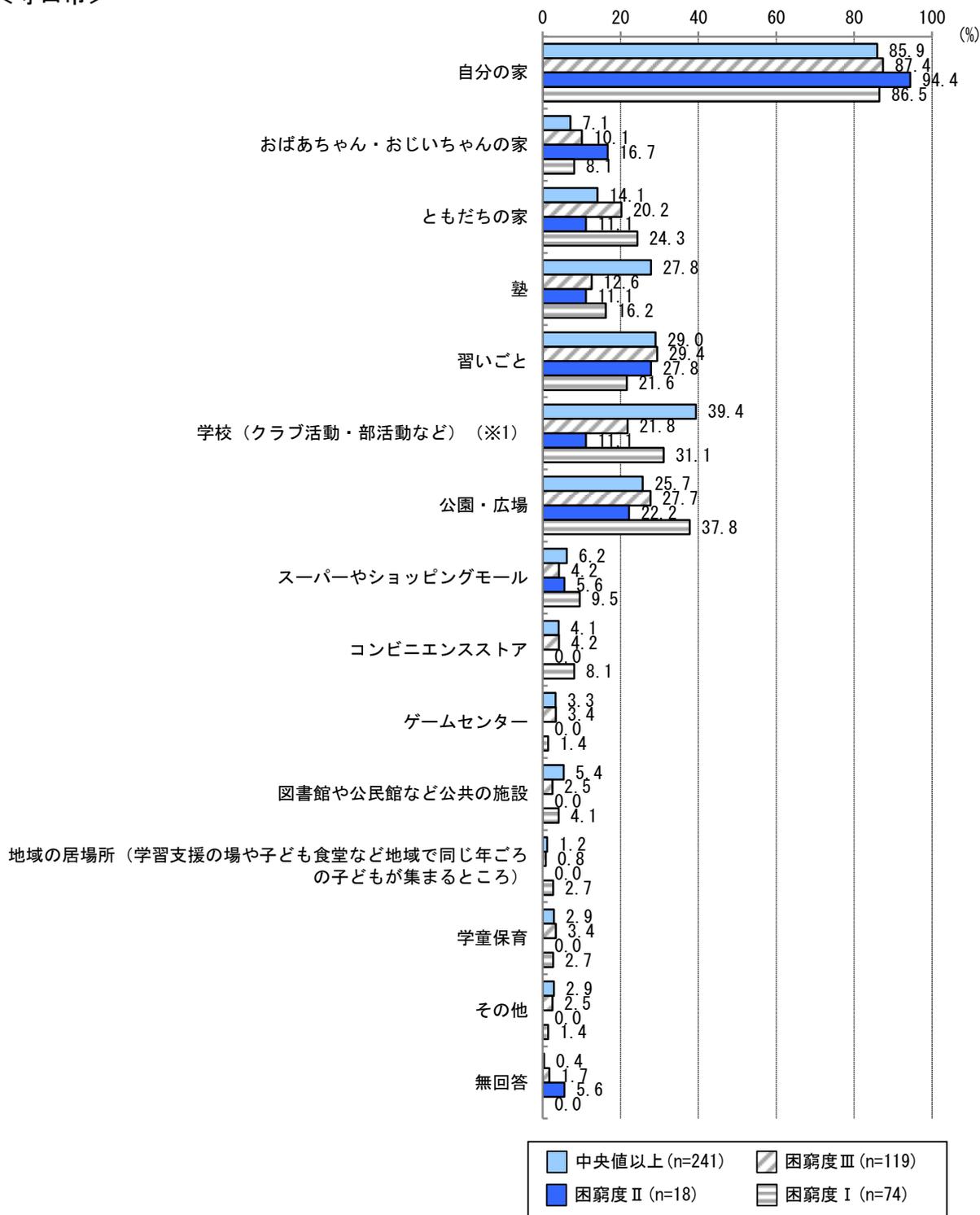
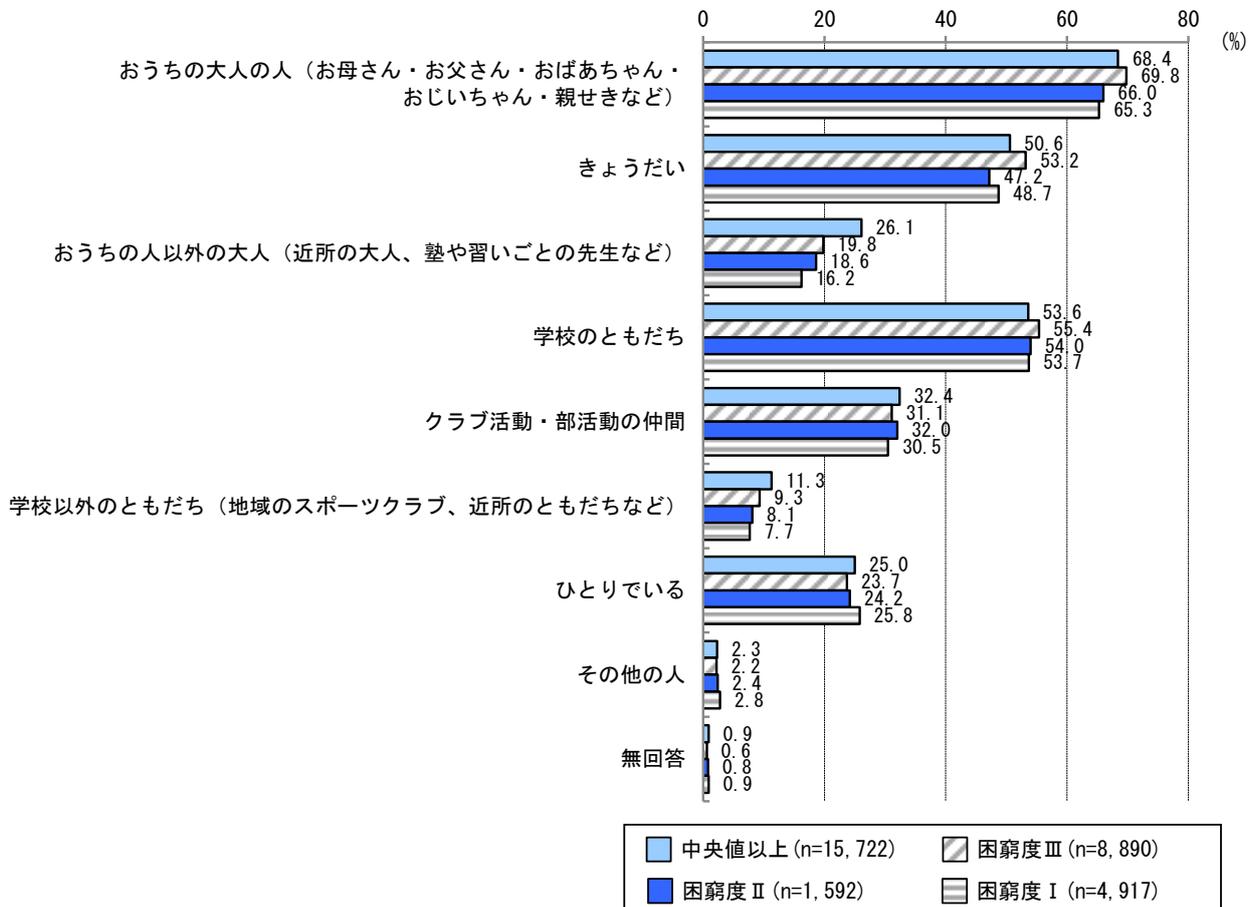


図 146. 困窮度別に見た、放課後を過ごす場所

困窮度別に子どもが放課後に過ごす場所を見ると、中央値以上群と困窮度Ⅰ群間で差が大きい項目に着目しながら、困窮度Ⅰ群の数値を挙げると、「地域の居場所 (学習支援の場や子ども食堂など地域で同じ年ごろの子どもが集まる場所)」2.7% (中央値以上群に対して2.3倍)、「コンビニエンスストア」8.1% (同様に2.0倍)、「ともだちの家」24.3% (同様に1.7倍) となっている。一方、中央値以上群では、「ゲームセンター」3.3% (困窮度Ⅰ群に対して2.4倍)、「塾」27.8% (同様に1.7倍) などが高くなっている。

困窮度別に見た、放課後を一緒に過ごす人（子ども票問10）

<大阪府内全体>



<守口市>

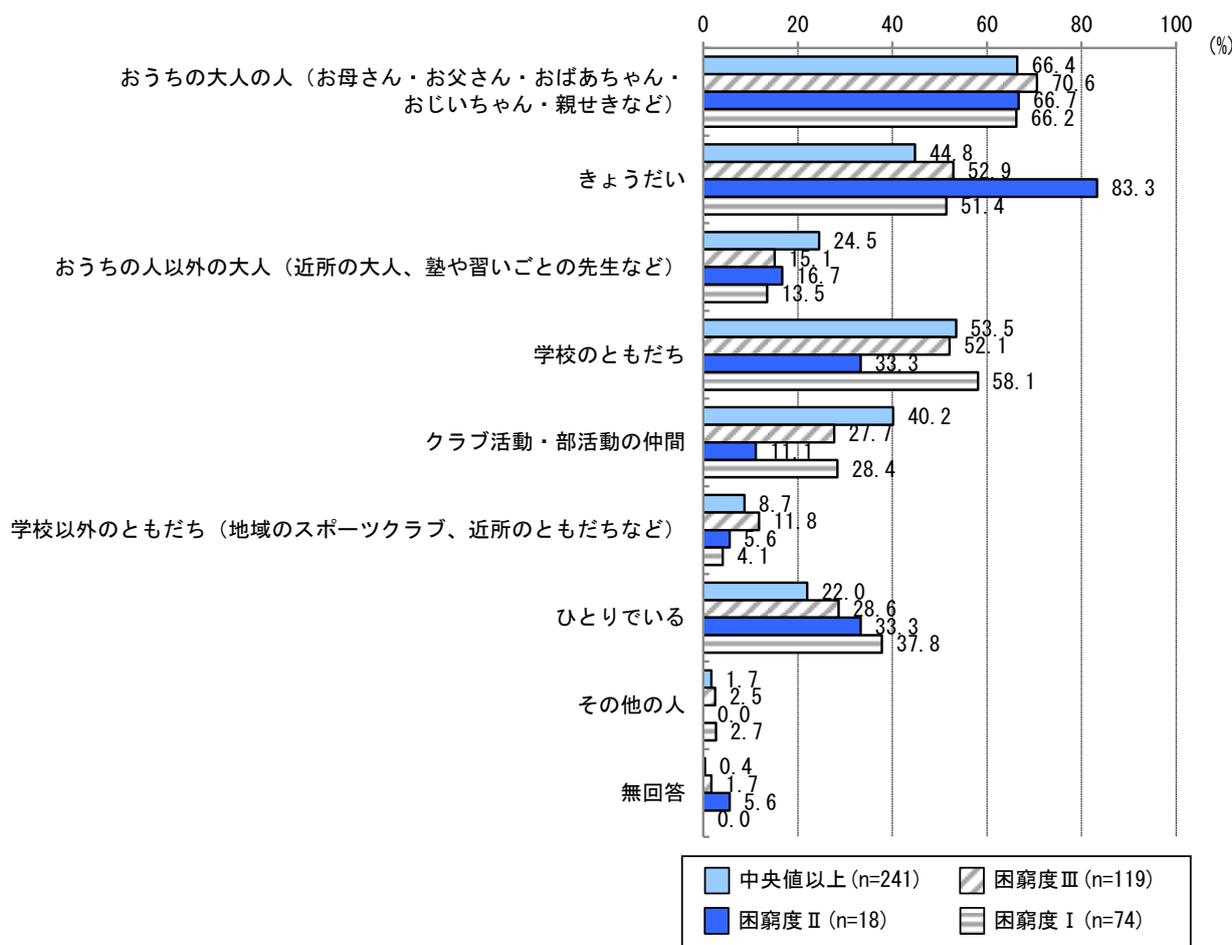
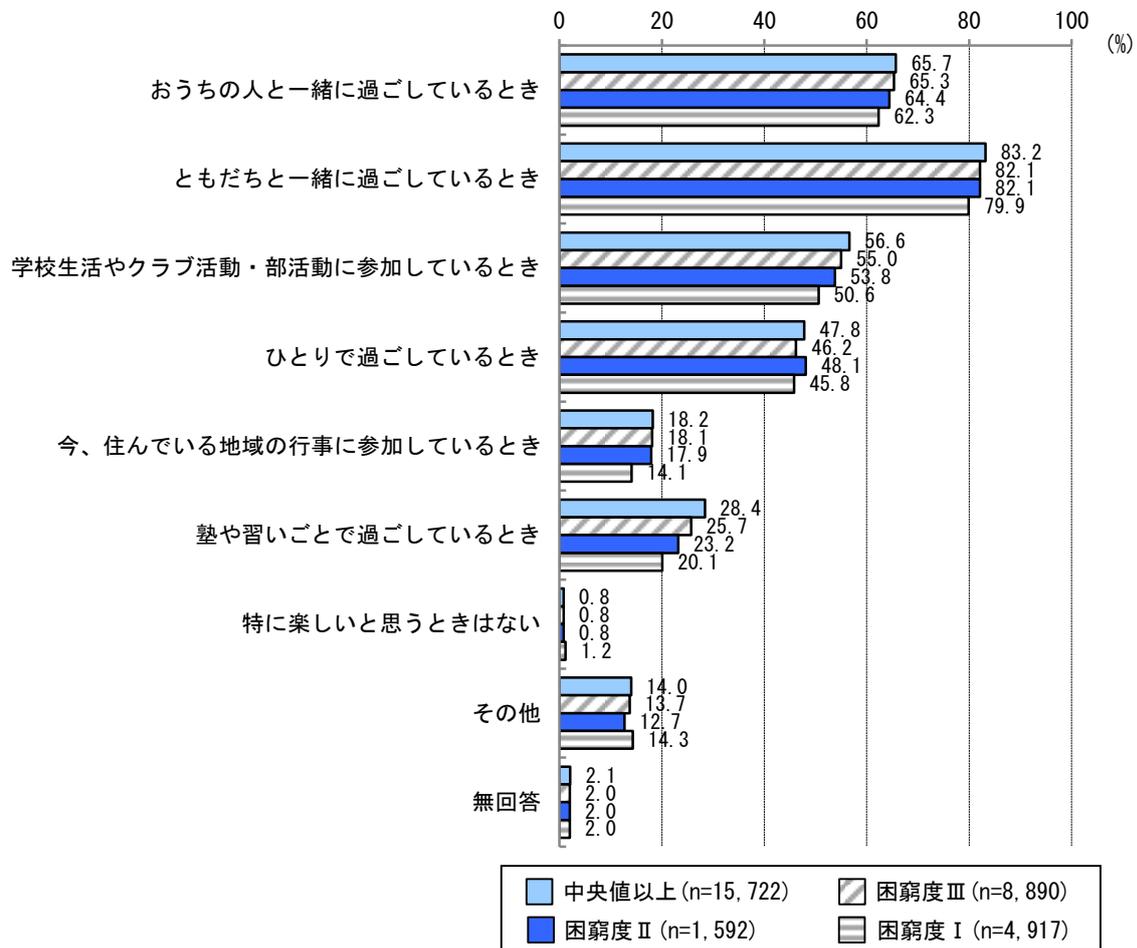


図 147. 困窮度別に見た、放課後を一緒に過ごす人

困窮度別に子どもが放課後一緒に過ごす人を見ると、中央値以上群と困窮度Ⅰ群間で差が大きい項目に着目すると、中央値以上群では「学校以外のともだち (地域のスポーツクラブ、近所のともだちなど)」8.7% (困窮度Ⅰ群に対して2.1倍)、「おうちの人以外の大人 (近所の大人、塾や習いごとの先生など)」24.5% (同じく1.8倍)、「クラブ活動・部活動の仲間」40.2% (同じく1.4倍) が高くなっている。

困窮度別に見た、毎日の生活で楽しいこと（子ども票問9）

<大阪府内全体>



<守口市>

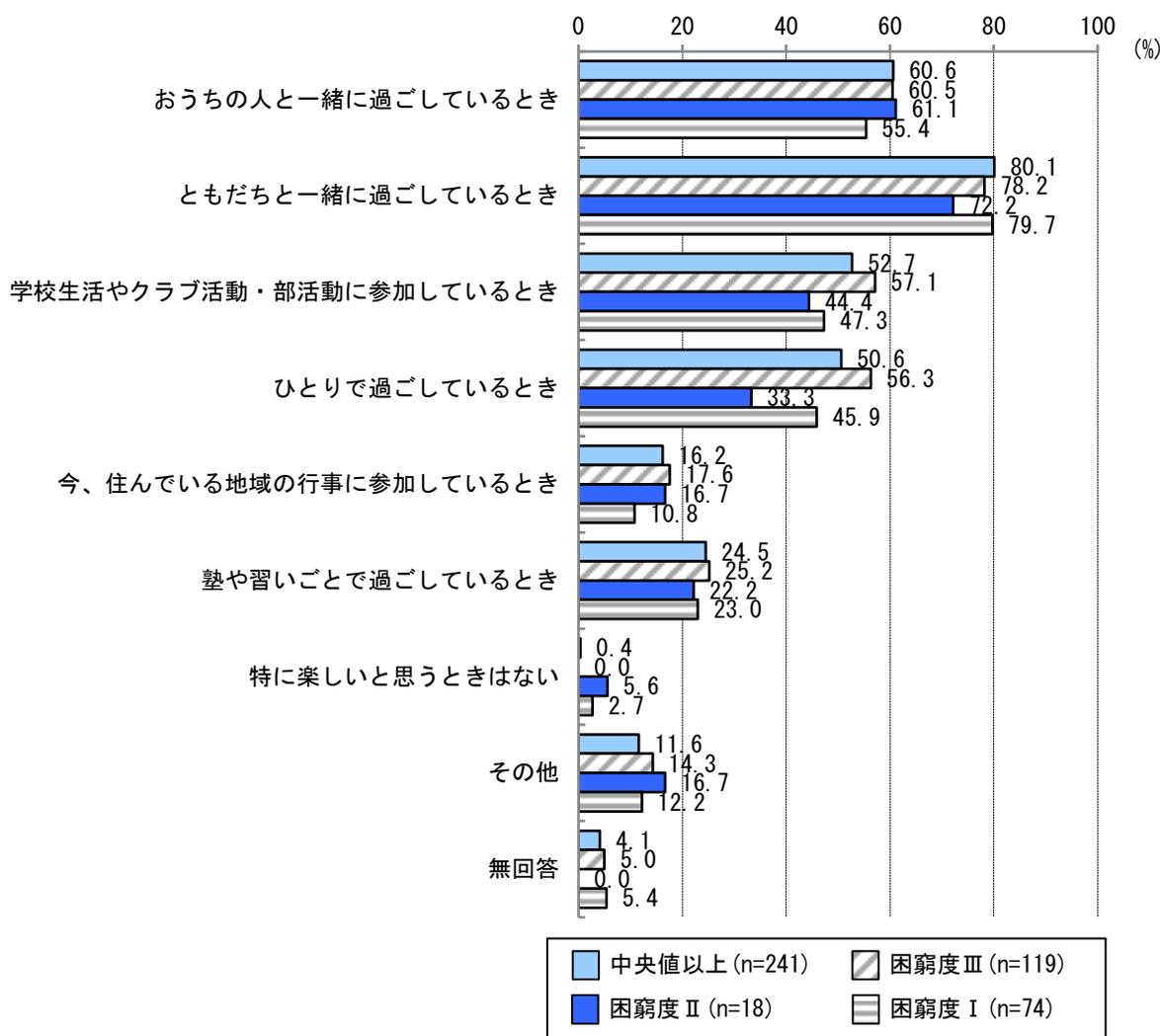
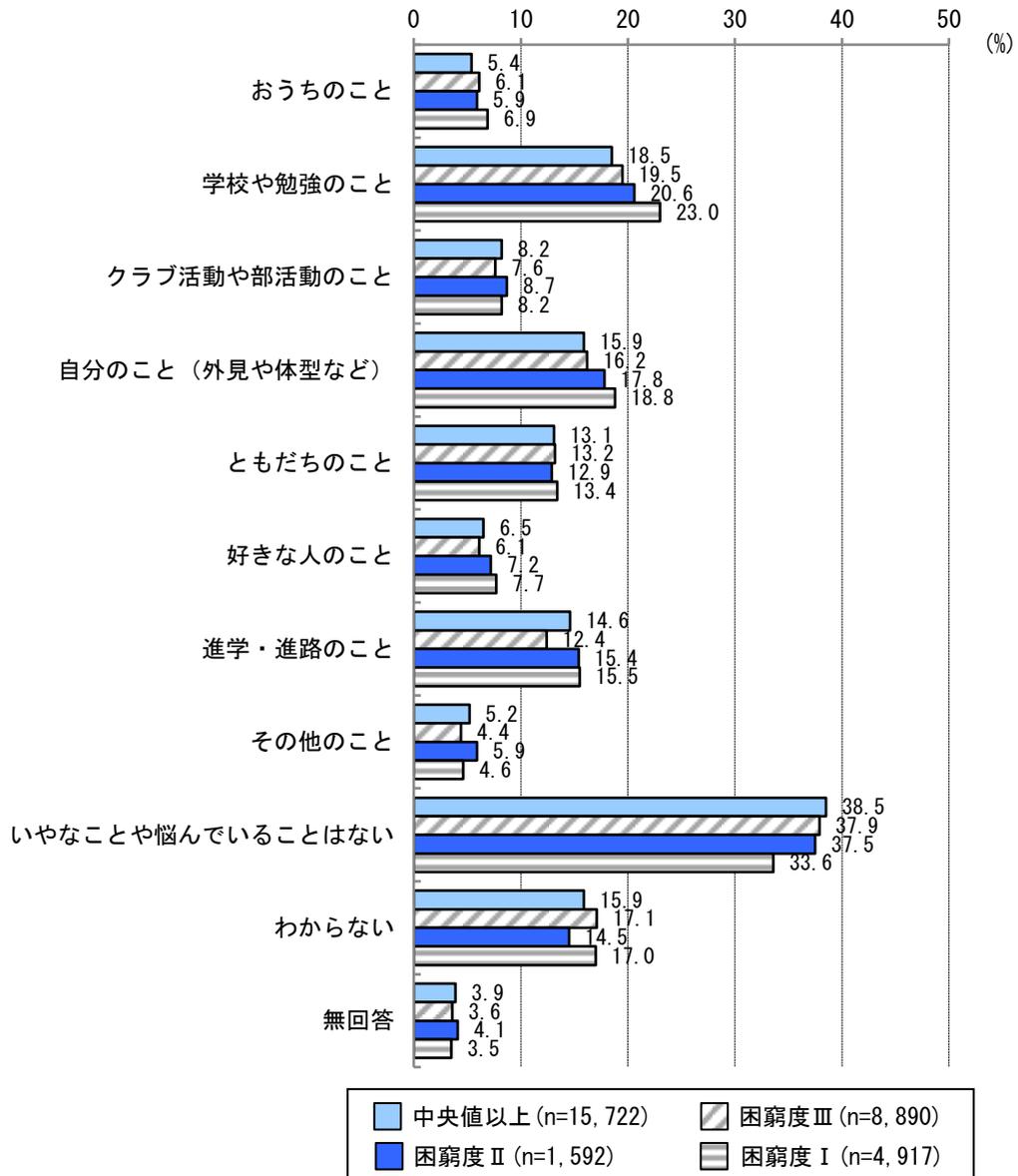


図 148. 困窮度別に見た、毎日の生活で楽しいこと

困窮度別に子どもが毎日の生活で楽しいことを見ると、中央値以上群と困窮度 I 群間で差が大きい項目に着目しながら、中央値以上群の数値を挙げると、「今、住んでいる地域の行事に参加しているとき」16.2%（困窮度 I 群に対して1.5倍）、「学校生活やクラブ活動・部活動に参加しているとき」52.7%（同じく1.1倍）、「ひとりで過ごしているとき」50.6%（同じく1.1倍）が高くなっている。

困窮度別に見た、嫌なことや悩んでいること（子ども票問17）

<大阪府内全体>



<守口市>

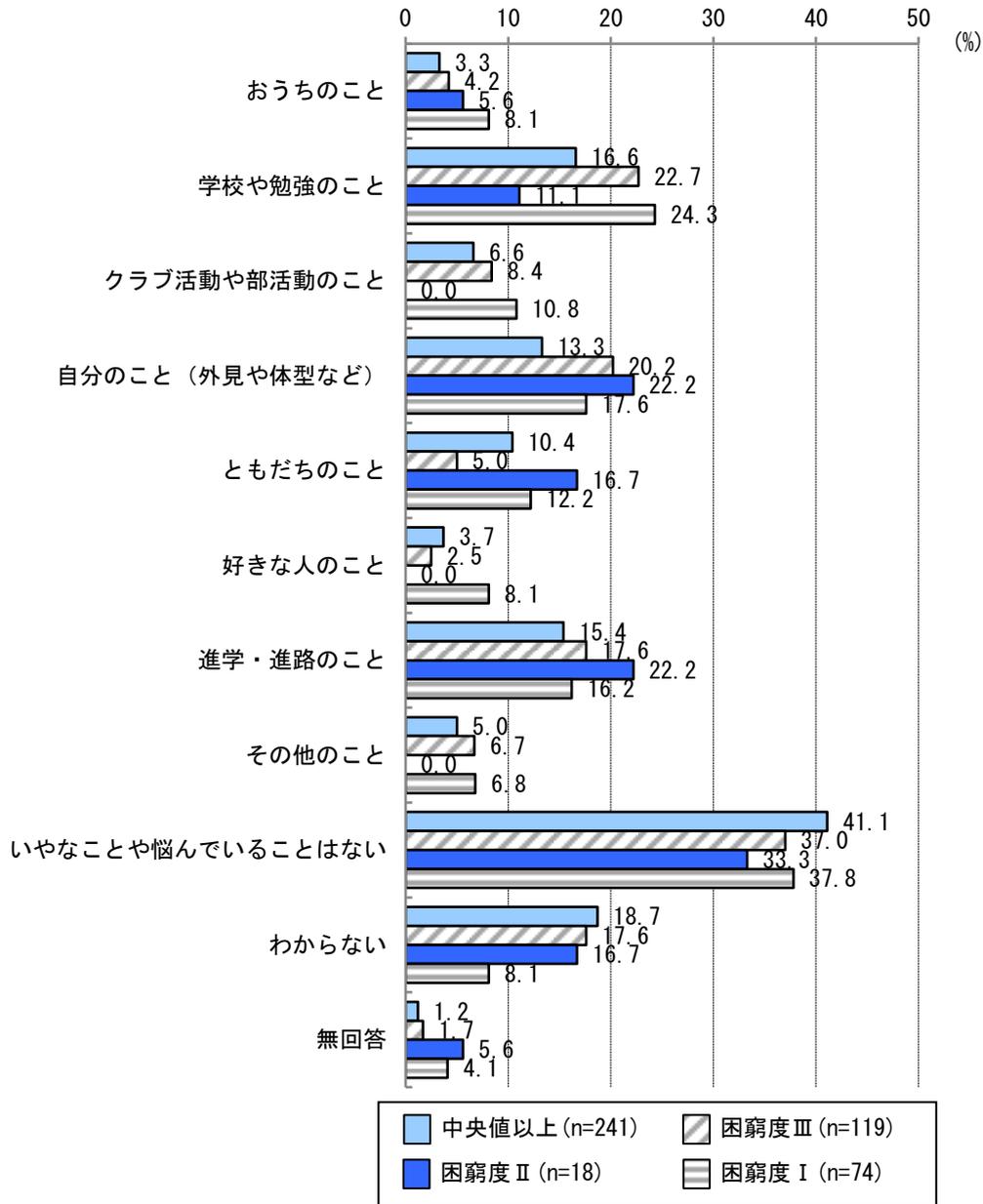
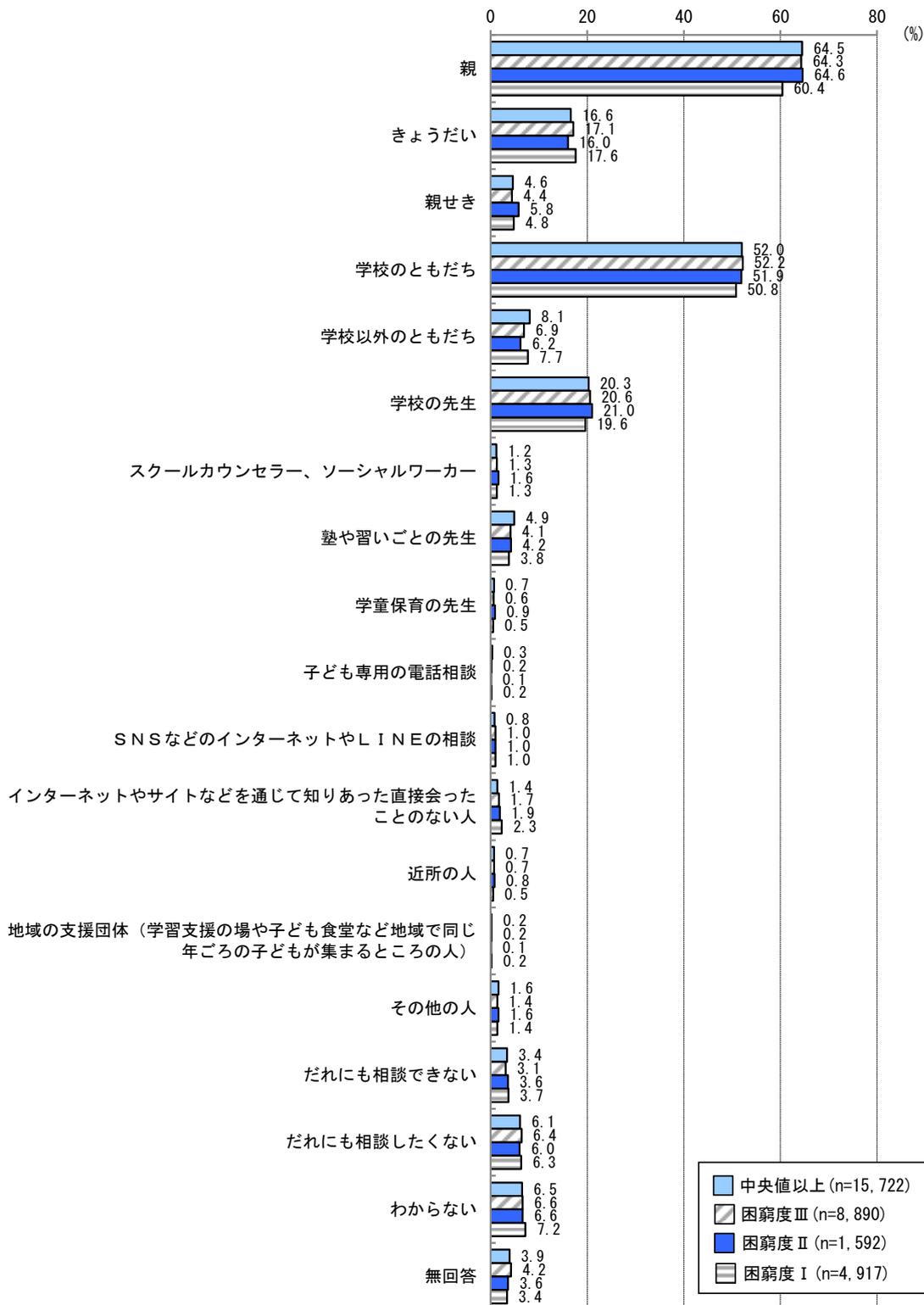


図 149. 困窮度別に見た、嫌なことや悩んでいること

困窮度別に子どもが悩んでいることを見ると、中央値以上群と困窮度Ⅰ群間で差が大きい項目に着目すると、困窮度Ⅰ群では、「おうちのこと」8.1%（中央値以上群に対して2.5倍）、「好きな人のこと」8.1%（同じく2.2倍）が高くなっている。

困窮度別に見た、嫌なことや悩んでいるときの相談相手（子ども票問 18）

<大阪府内全体>



<守口市>

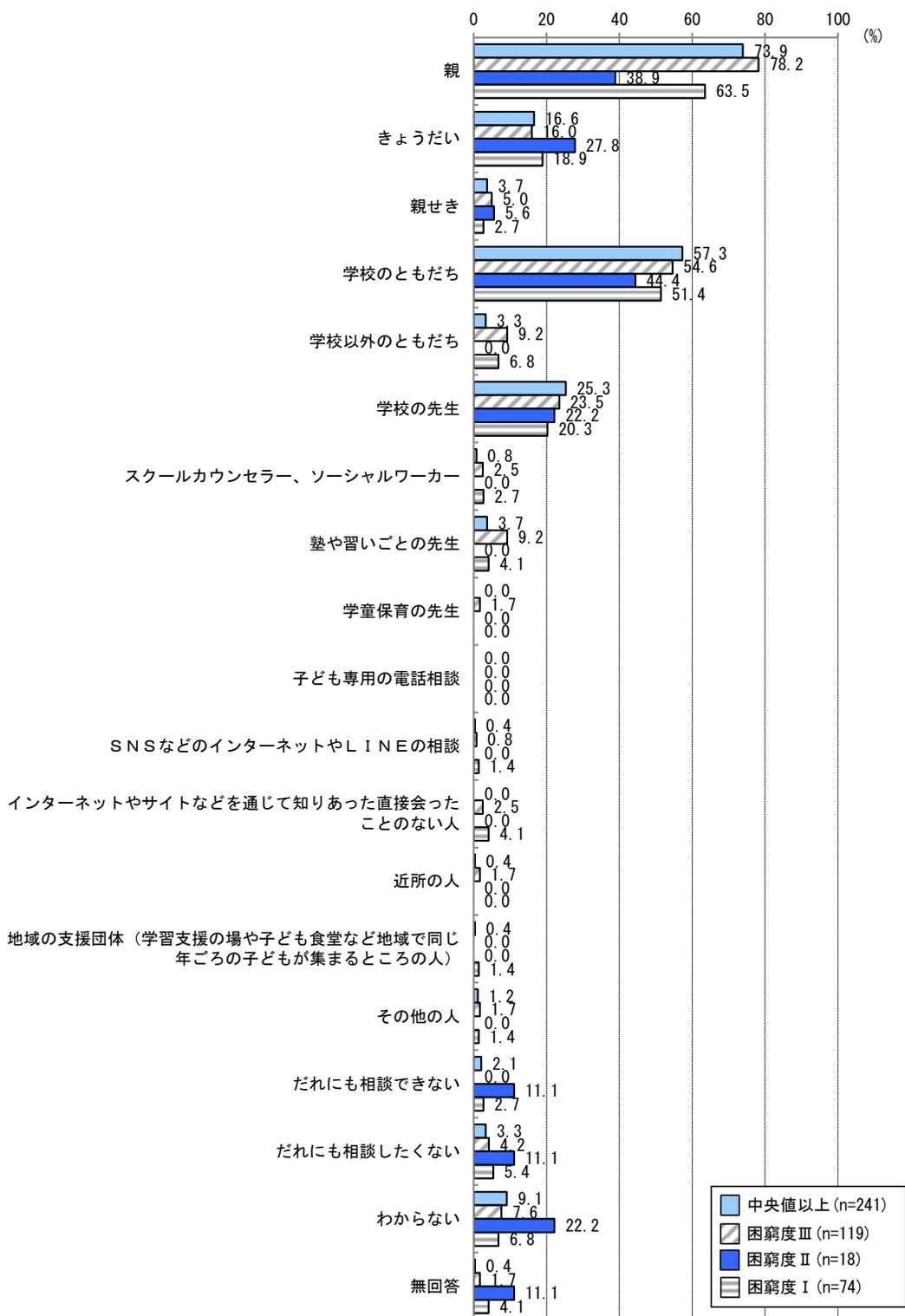
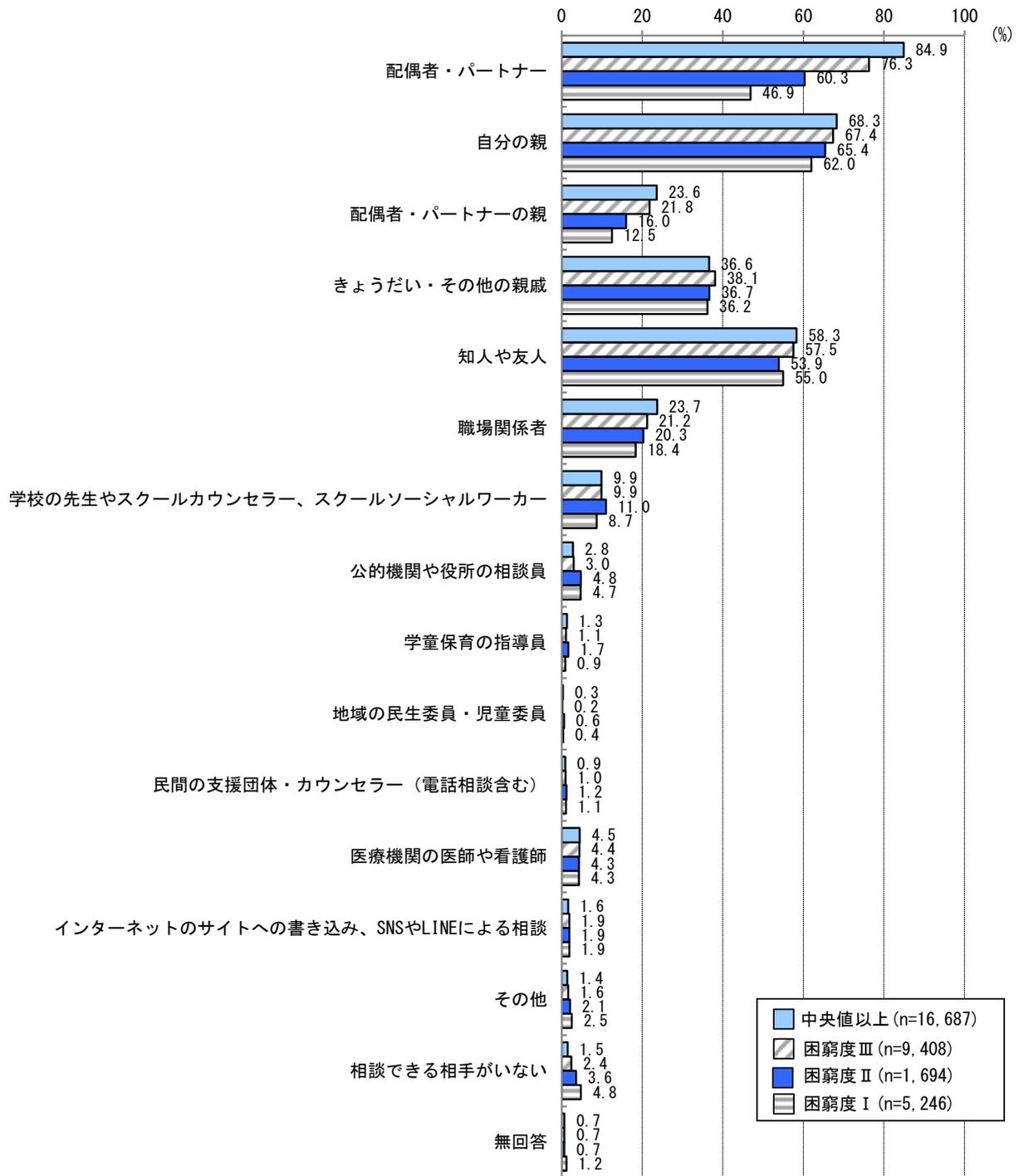


図 150. 困窮度別に見た、嫌なことや悩んでいるときの相談相手

困窮度別に子どもの嫌なことや悩んでいるときの相談相手を見ると、中央値以上群と困窮度Ⅰ群間で差が大きい項目に着目しながら、困窮度Ⅰ群の数値を挙げると、「SNSなどのインターネットやLINEの相談」と「地域の支援団体（学習支援の場や子ども食堂など地域で同じ年ごろの子どもが集まるところの人）」がともに1.4%（中央値以上群に対して3.5倍）となっている。

困窮度別に見た、本当に困ったときや悩みがあるときの相談相手・相談先（保護者票問 19）

<大阪府内全体>



<守口市>

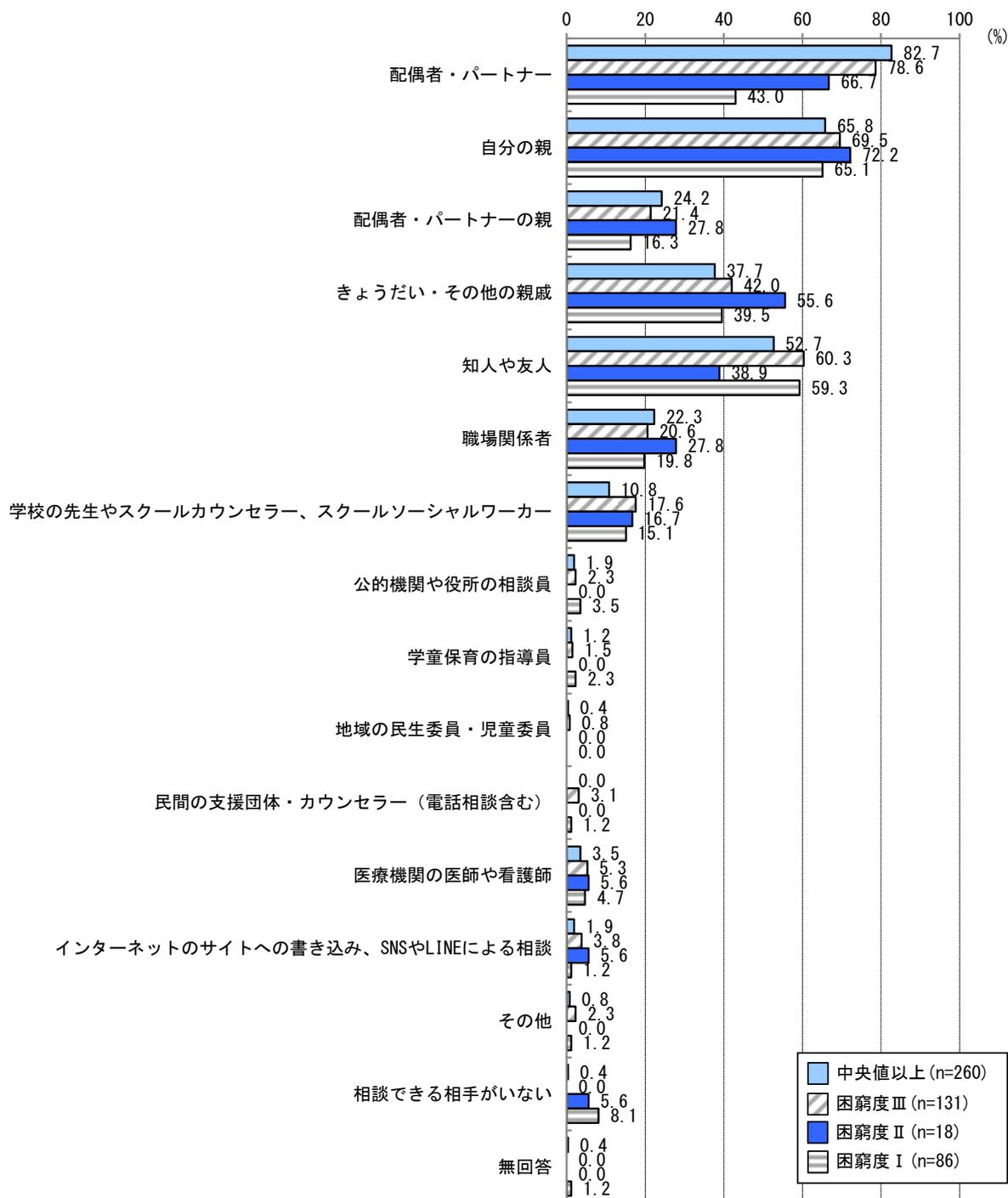
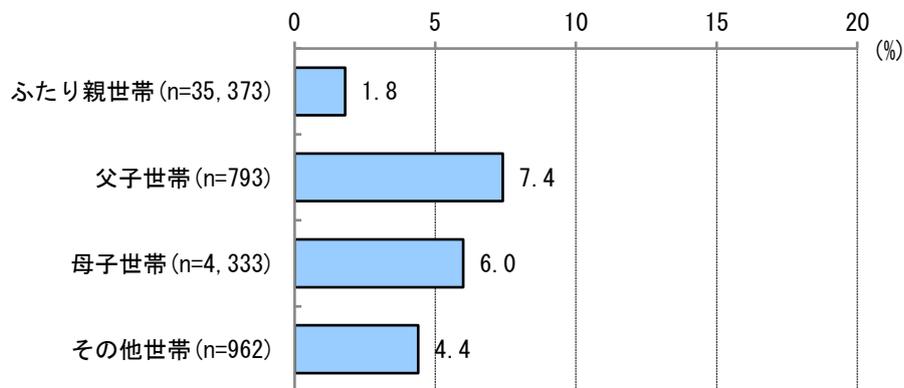


図 151. 困窮度別に見た、本当に困ったときや悩みがあるときの相談相手・相談先

困窮度別に本当に困ったときや悩みがあるときの相談相手・相談先を見ると、中央値以上群と困窮度Ⅰ群間で差が大きい項目に着目しながら、困窮度Ⅰ群の数値を挙げると、「学童保育の指導員」2.3%（中央値以上群に対して1.9倍）、「公的機関や役所の相談員」3.5%（同じく1.8倍）、「学校の先生やスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー」15.1%（同じく1.4倍）となっている。中央値以上群の数値を挙げると、「配偶者・パートナー」82.7%（困窮度Ⅰ群に対して1.9倍）、「インターネットのサイトへの書き込み、SNSやLINEによる相談」1.9%（同じく1.6倍）となっている。

世帯構成別に見た、本当に困ったときや悩みがあるときの相談相手・相談先がない割合  
 (保護者票問2×保護者票問19)

<大阪府内全体>



<守口市>

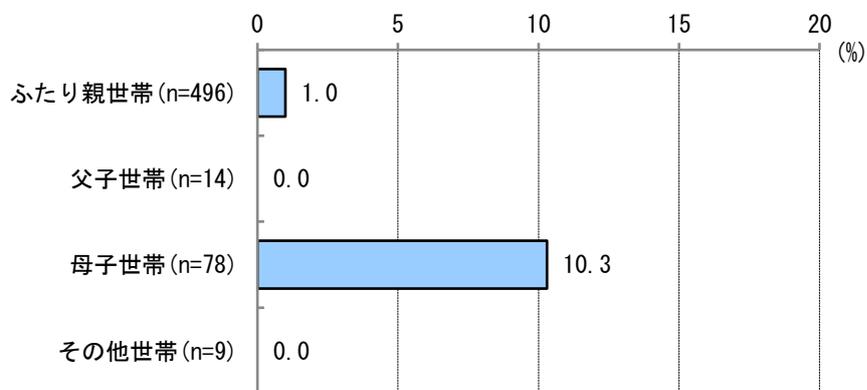
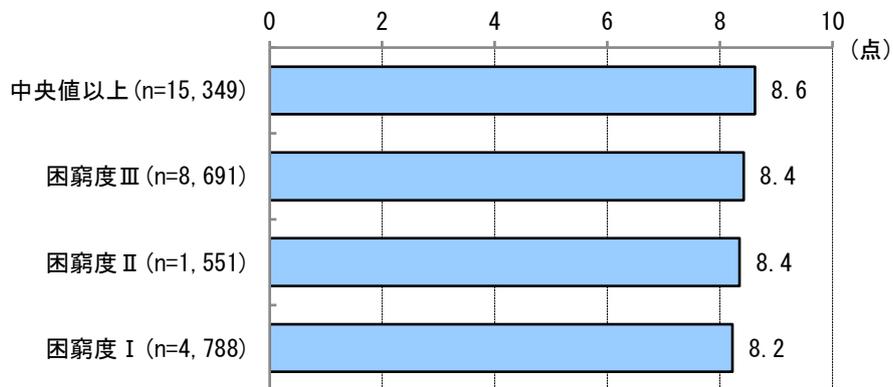


図 152. 世帯構成別に見た、本当に困ったときや悩みがあるときの相談相手・相談先がない割合

世帯構成別に本当に困ったときや悩みがあるときの相談相手・相談先がない割合を見ると、「相談できる相手がない」と回答した人は、母子世帯で10.3%いる。

困窮度別に見た、子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）（子ども票問 23）

<大阪府内全体>



<守口市>

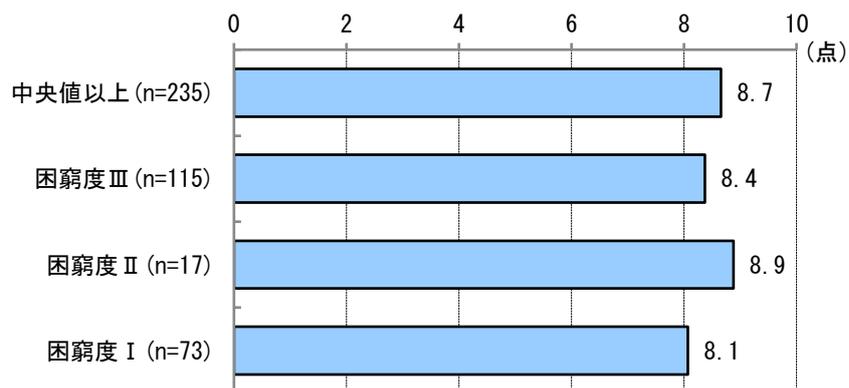
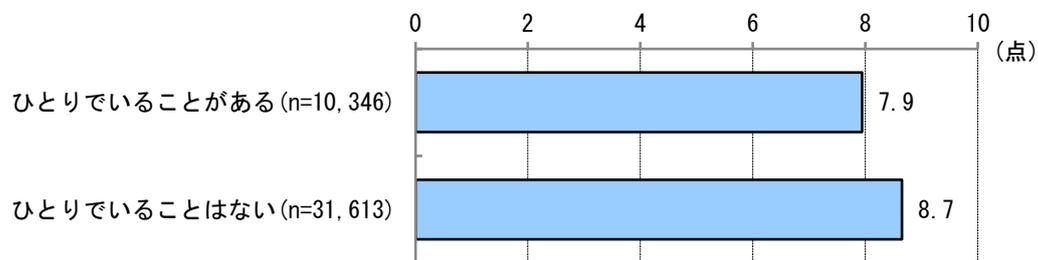


図 153. 困窮度別に見た、子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）

困窮度別に子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）を見ると、困窮度Ⅰ群で8.1点と、自己肯定感（セルフ・エフィカシー）が最も低くなっている。

子どもが放課後ひとりで過ごすかどうかと、子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）  
（子ども票問 10×子ども票問 23）

<大阪府内全体>



<守口市>

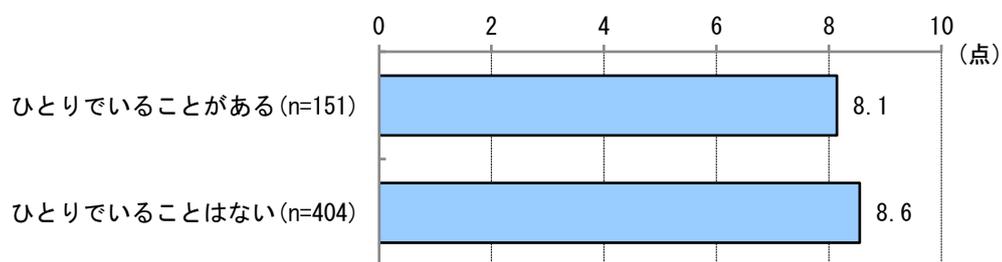


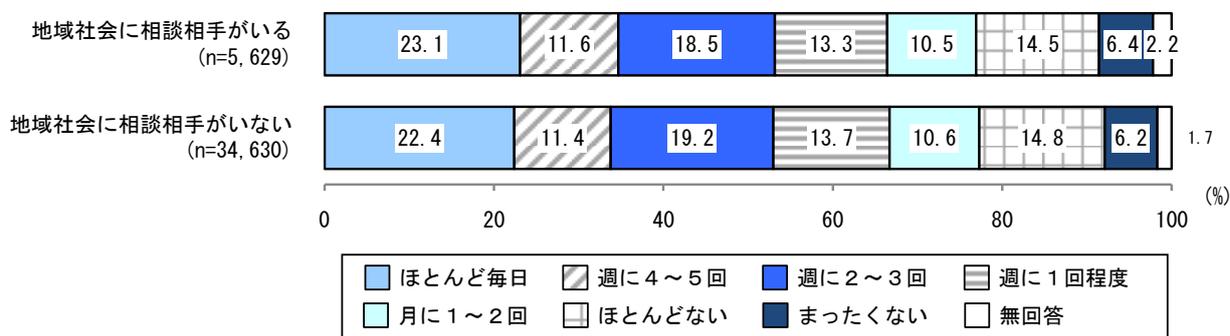
図 154. 子どもが放課後ひとりで過ごすかどうかと、子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）

子どもが放課後ひとりで過ごすかどうかと、子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）を見ると、放課後ひとりで過ごす子どもの方がそれでない子どもよりも自己効力感（セルフ・エフィカシー）が低くなっている。

地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの手伝いをしているか  
 (保護者票問 19×子ども票問 8④)

※「あなたが本当に困ったときや悩みがあるとき、相談相手や相談先はどこですか」という問いに対し、「学校の先生やスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー」「公的機関や役所の相談員」「学童保育の指導員」「地域の民生委員・児童委員」「民間の支援団体・カウンセラー(電話相談含む)」「医療機関の医師や看護師」のうち少なくとも1つを選択した人を、「地域社会に相談相手がいる」とした。

<大阪府内全体>



<守口市>

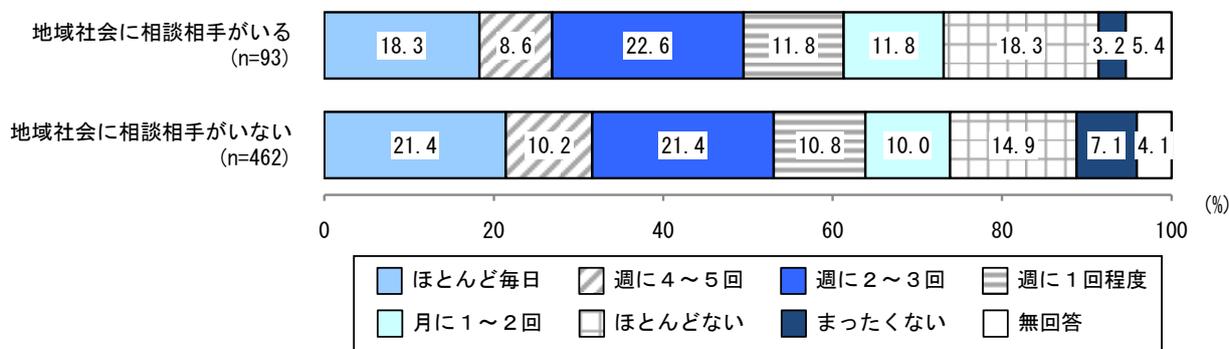
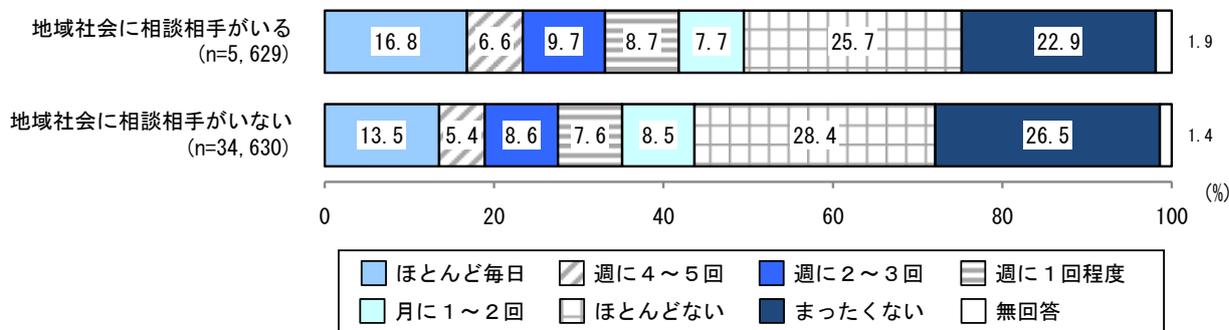


図 155. 地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの手伝いをしているか

地域社会に相談相手がいるかどうかと、家の手伝いをしているかを見ると、「地域社会に相談相手がいる」人の方が、「地域社会に相談相手がない」人よりも、子どもがおうちの手伝いをしているかに「ほとんどない」と回答する割合がやや高くなっている。

地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの大人の人に宿題（勉強）をみてもらうか  
（保護者票問 19×子ども票問 8⑤）

<大阪府内全体>



<守口市>

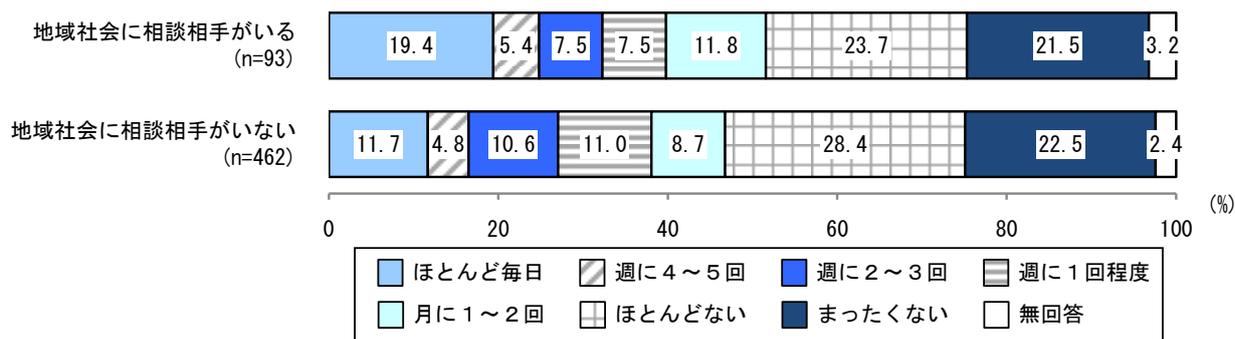
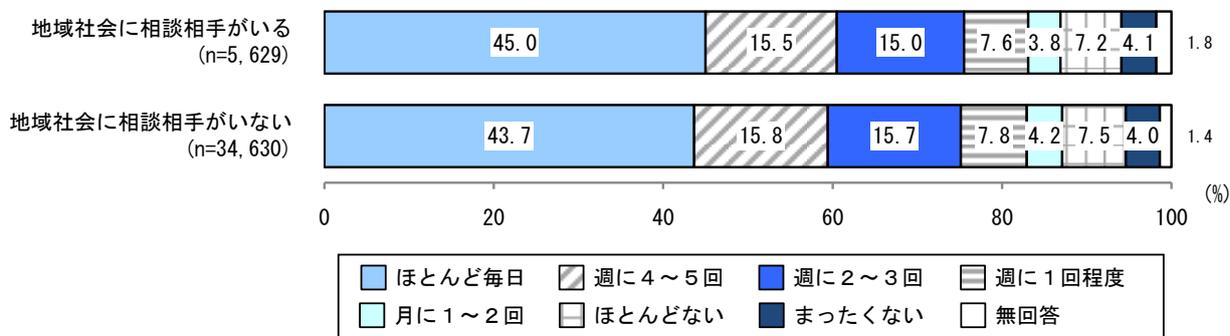


図 156. 地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの大人の人に宿題（勉強）をみてもらうか

地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの大人の人に宿題（勉強）をみてもらうかを見ると、「地域社会に相談相手がいる」人の方が、「地域社会に相談相手がない」人よりも、おうちの大人の人に宿題（勉強）を見てもらっているかに「ほとんど毎日」と回答する割合が高くなっている。

地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの大人の人と学校でのできごとについて話すか  
 (保護者票問 19×子ども票問 8⑥)

<大阪府内全体>



<守口市>

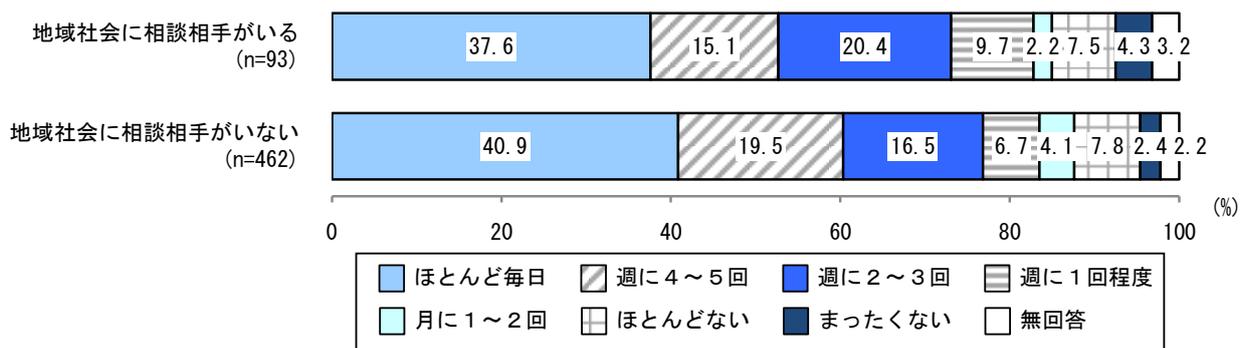
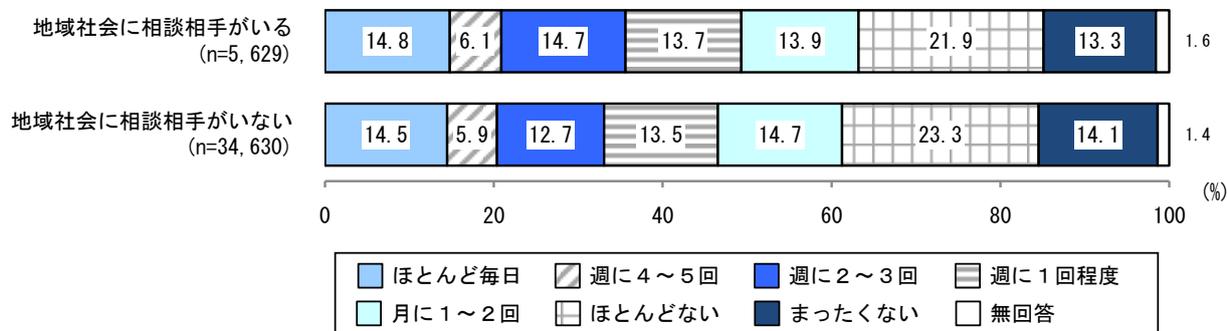


図 157. 地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの大人の人と学校でのできごとについて話すか

地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの大人の人と学校でのできごとについて話すかを見ると、「地域社会に相談相手がない」人の方が、「地域社会に相談相手がいる」人よりも、おうちの大人の人と学校でのできごとについて話すかに週に4回以上と回答する割合が高くなっている。

地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの大人の人と遊んだり、体を動かしたりするか  
 (保護者票問 19×子ども票問 8 ⑦)

<大阪府内全体>



<守口市>

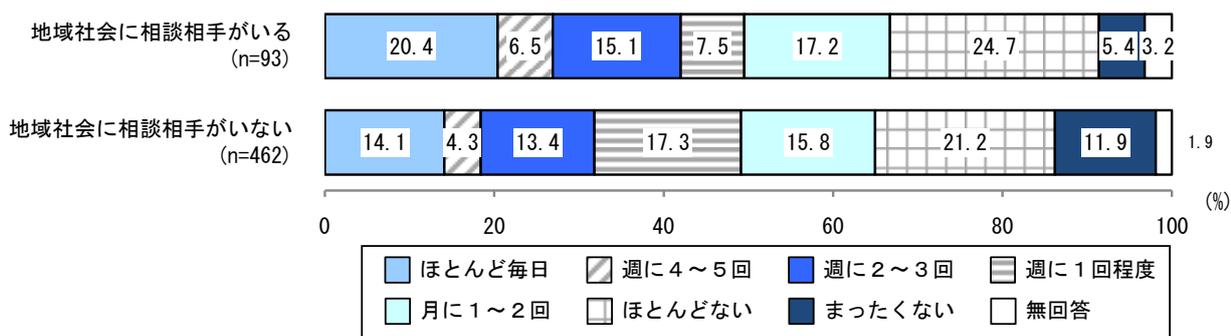
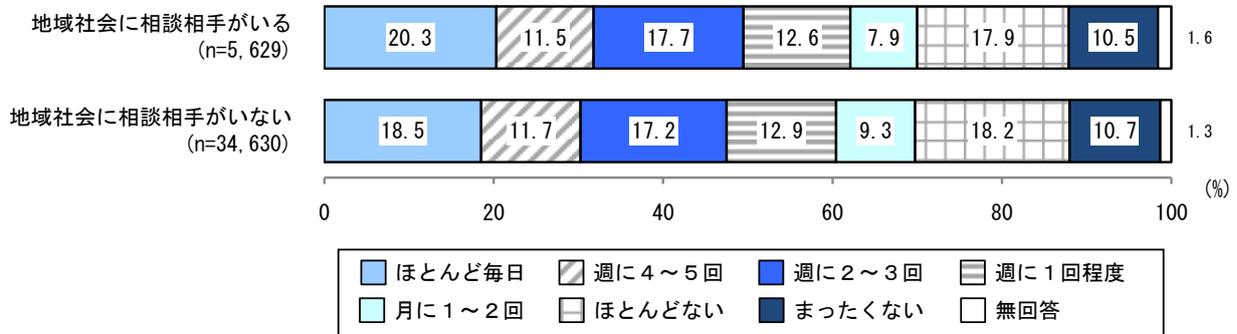


図 158. 地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの大人の人と遊んだり、体を動かしたりするか

地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの大人の人と遊んだり、体を動かしたりするかを見ると、「地域社会に相談相手がいる」人の方が、「地域社会に相談相手がない」人よりも、おうちの大人の人と遊んだり、体を動かしたりするかに「ほとんど毎日」と回答する割合が高くなっている。

地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの大人の人とニュースなど社会のできごとについて話すか（保護者票問 19×子ども票問 8 ⑧）

<大阪府内全体>



<守口市>

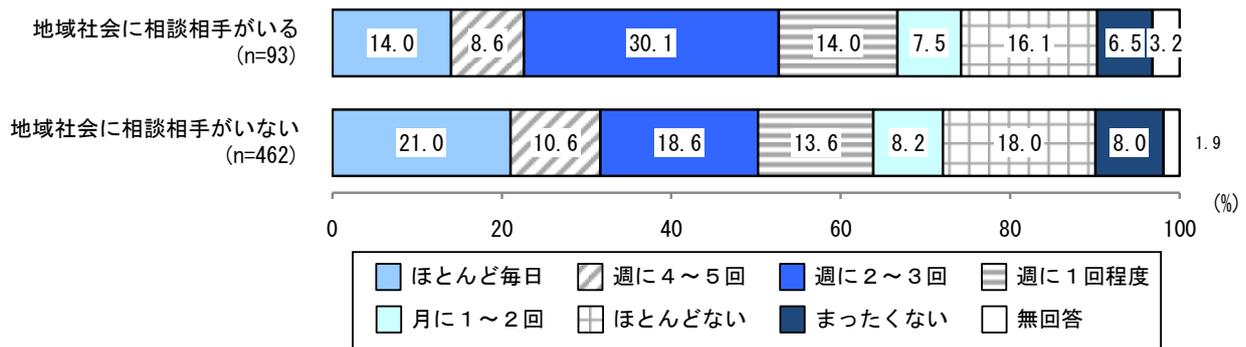
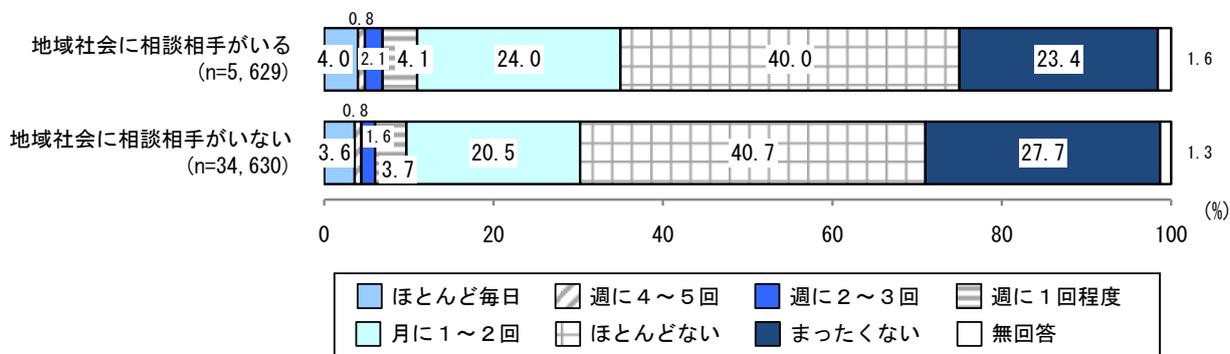


図 159. 地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの大人の人とニュースなど社会のできごとについて話すか

地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの大人の人とニュースなど社会のできごとについて話すかを見ると、「地域社会に相談相手がない」人の方が、「地域社会に相談相手がいる」人よりも、おうちの大人の人とニュースなど社会のできごとについて話すかに「ほとんど毎日」と回答する割合が高くなっている。

地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの大人の人と文化活動をするか  
 (保護者票問 19×子ども票問 8 ㉑)

<大阪府内全体>



<守口市>

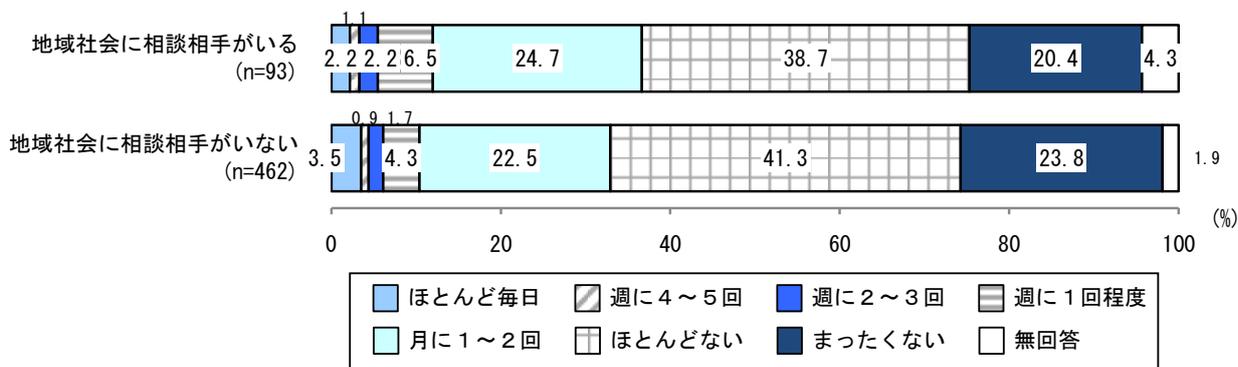
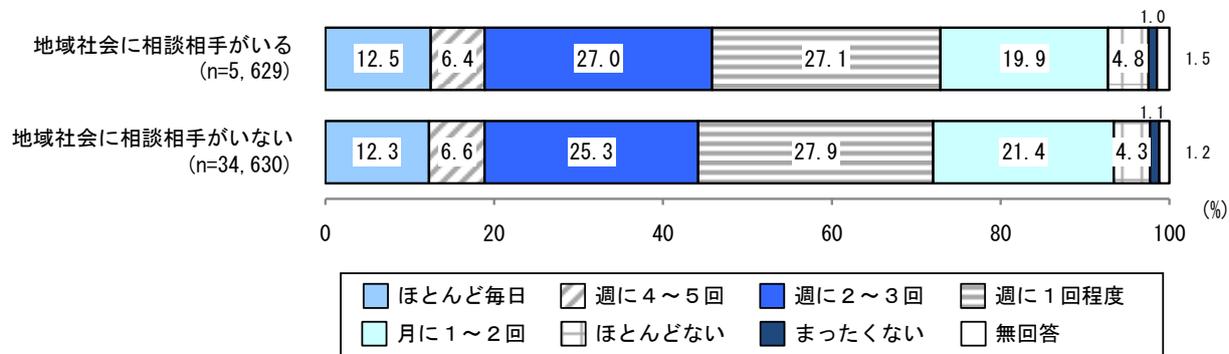


図 160. 地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの大人の人と文化活動をするか

地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの大人の人と文化活動をするかを見ると、「地域社会に相談相手がない」人の方が、「地域社会に相談相手がいる」人よりもおうちの大人の人と文化活動をするかに「まったくない」と回答する割合がやや高くなっている。

地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの大人の人と一緒に外出するか  
 (保護者票問 19×子ども票問 8 ⑩)

<大阪府内全体>



<守口市>

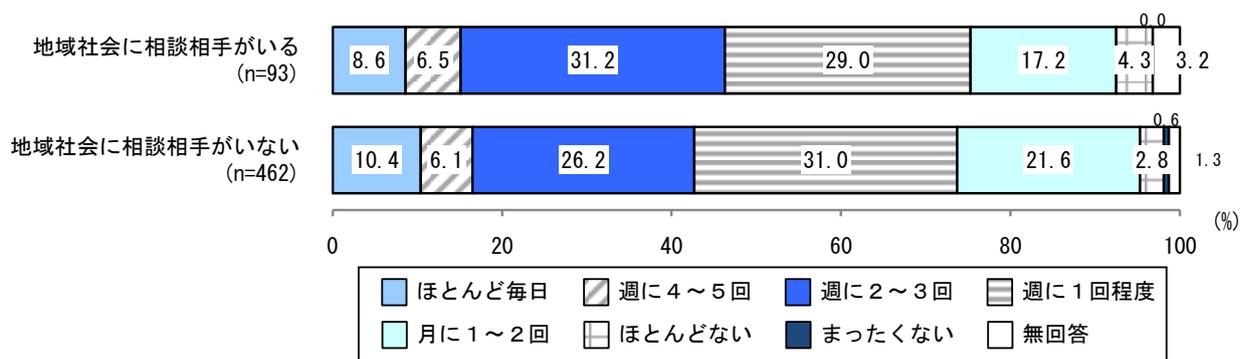
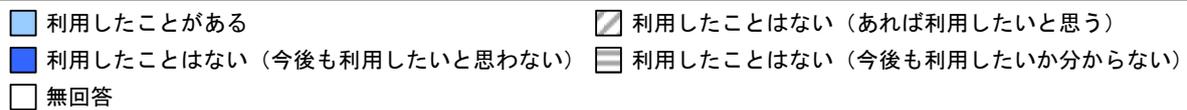
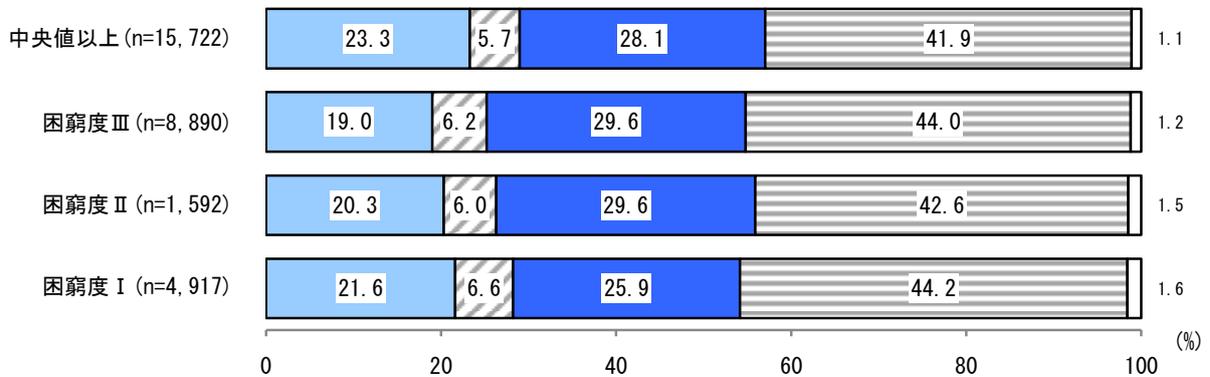


図 161. 地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの大人の人と一緒に外出するか

地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの大人の人と一緒に外出するかを見ると、「地域社会に相談相手がいる」人の方が、「地域社会に相談相手がない」人よりも、おうちの大人の人と一緒に外出するかに「週に2～3回」と回答する割合が高くなっている。

困窮度別に見た、平日の夜や休日を過ごすことができる場所（子ども票問 25(1)①）

<大阪府内全体>



<守口市>

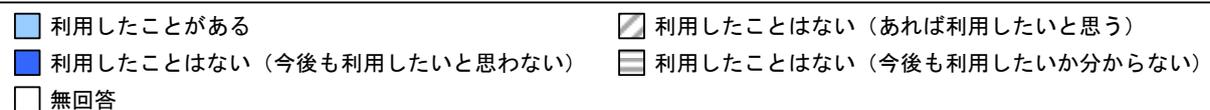
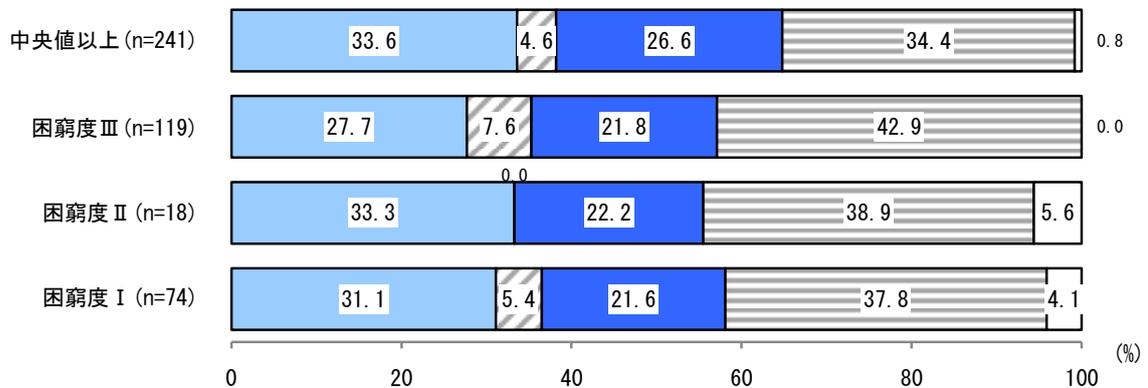
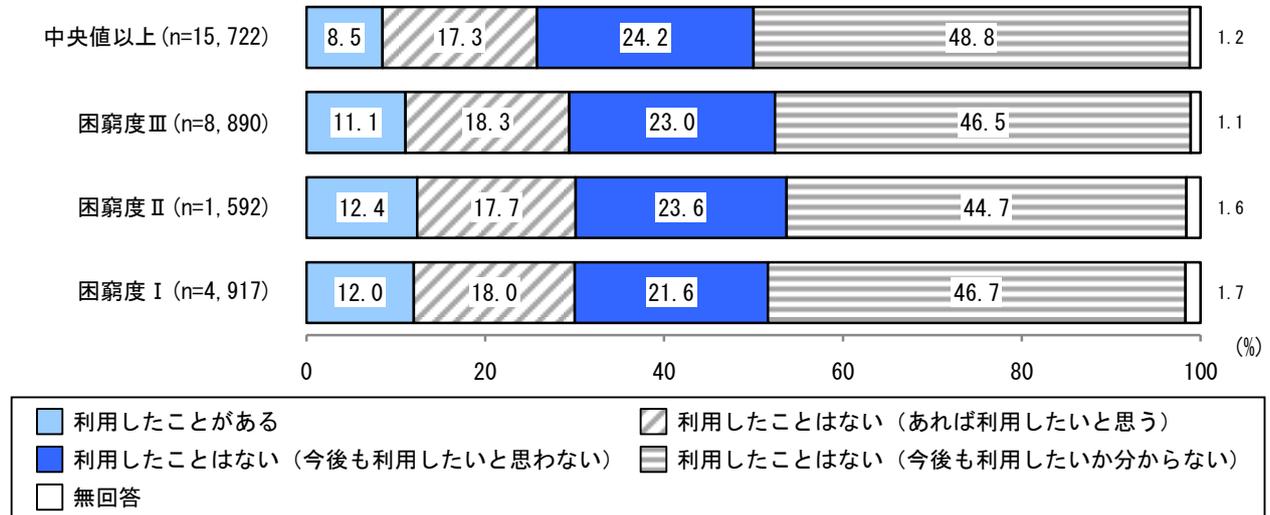


図 162. 困窮度別に見た、平日の夜や休日を過ごすことができる場所

困窮度別に平日の夜や休日を過ごすことができる場所を見ると、「利用したことがある」と回答する割合が中央値以上群で33.6%と最も高くなっている。

困窮度別に見た、昼食や夕食、お弁当を無料か安い料金で食べることができる場所  
(子ども票問 25(1)②)

<大阪府内全体>



<守口市>

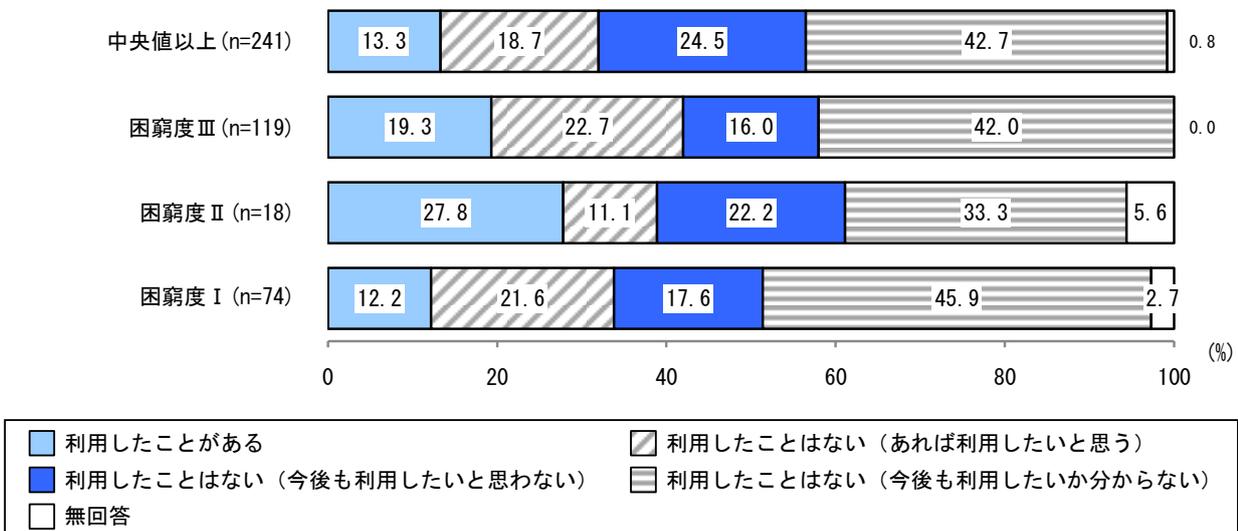
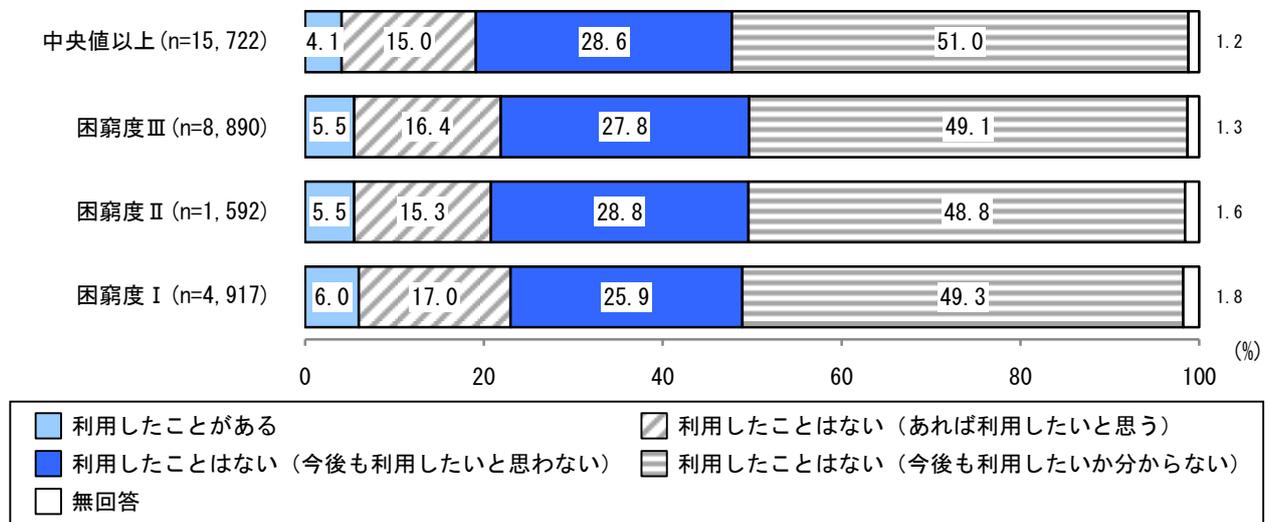


図 163. 困窮度別に見た、昼食や夕食、お弁当を無料か安い料金で食べることができる場所

困窮度別に昼食や夕食、お弁当を無料か安い料金で食べることができる場所を見ると、「利用したことがある」と回答する割合が困窮度Ⅱ群で27.8%と最も高くなっている。

困窮度別に見た、勉強を無料か安い料金でみてくれる場所（子ども票問 25(1)③）

<大阪府内全体>



<守口市>

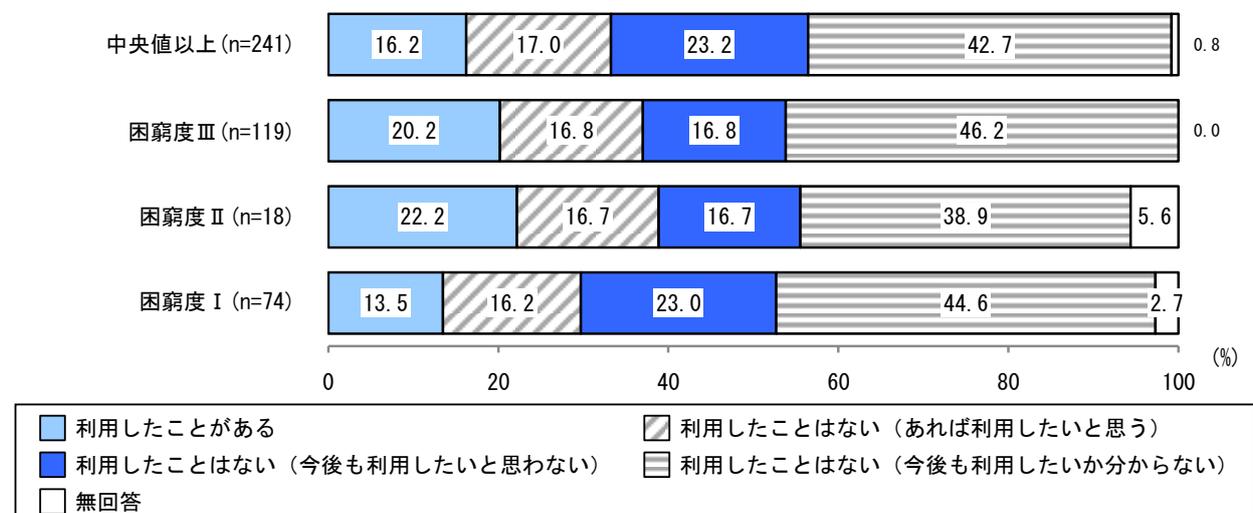
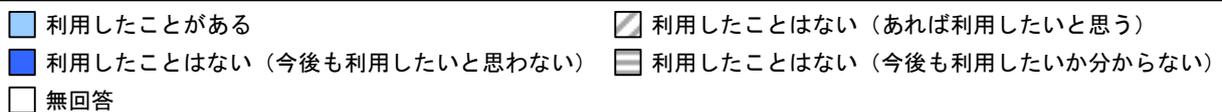
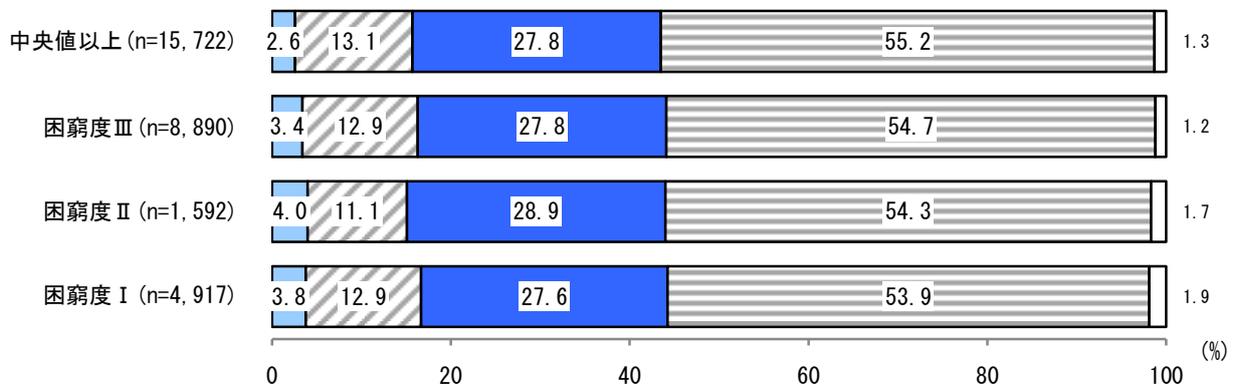


図 164. 困窮度別に見た、勉強を無料か安い料金でみてくれる場所

困窮度別に勉強を無料か安い料金でみてくれる場所を見ると、「利用したことがある」と回答する割合が困窮度Ⅱ群で22.2%と最も高くなっている。

困窮度別に見た、何でも相談できる場所（子ども票問 25(1)④）

<大阪府内全体>



<守口市>

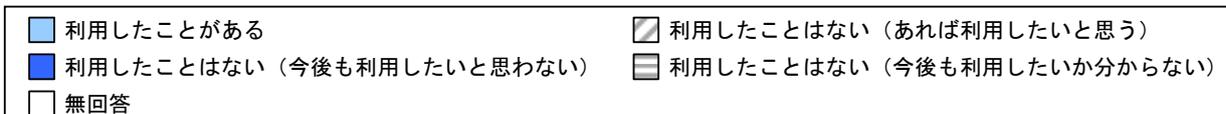
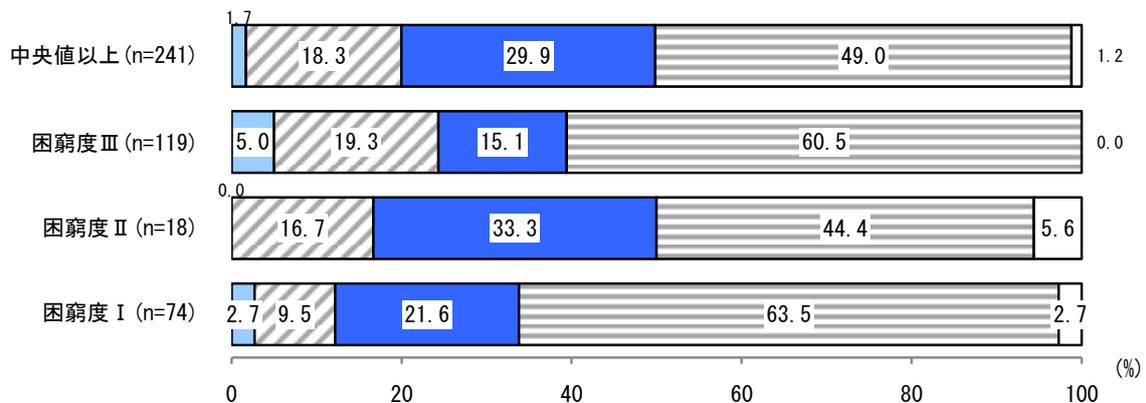
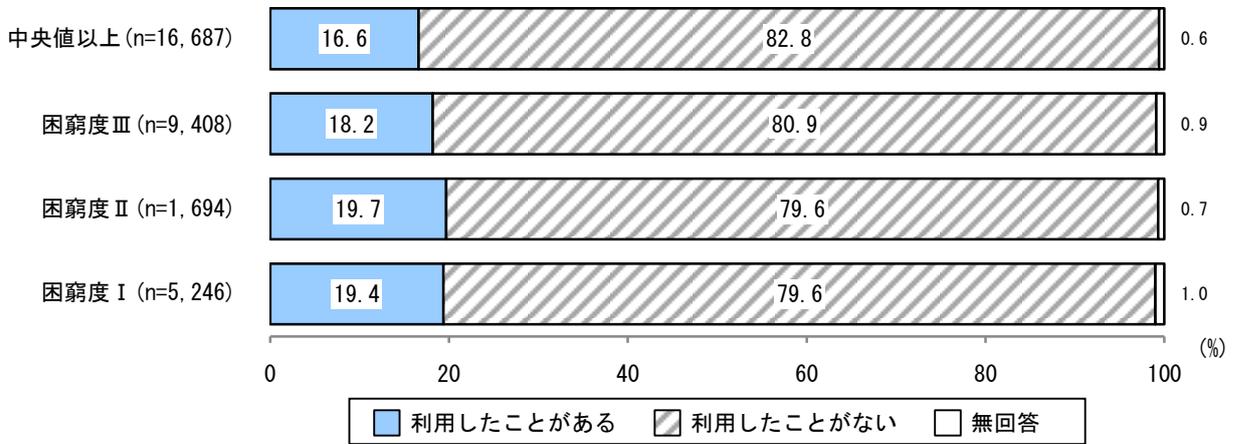


図 165. 困窮度別に見た、何でも相談できる場所

困窮度別に何でも相談できる場所を見ると、「利用したことがある」と回答した割合は、困窮度Ⅲ群で5.0%と最も高くなっている。また、「利用したことはない（今後も利用したいと思わない）」は困窮度Ⅱ群で33.3%と最も高くなっている。

困窮度別に見た、子どもの居場所の利用経験（保護者票問 16(1)）

<大阪府内全体>



<守口市>

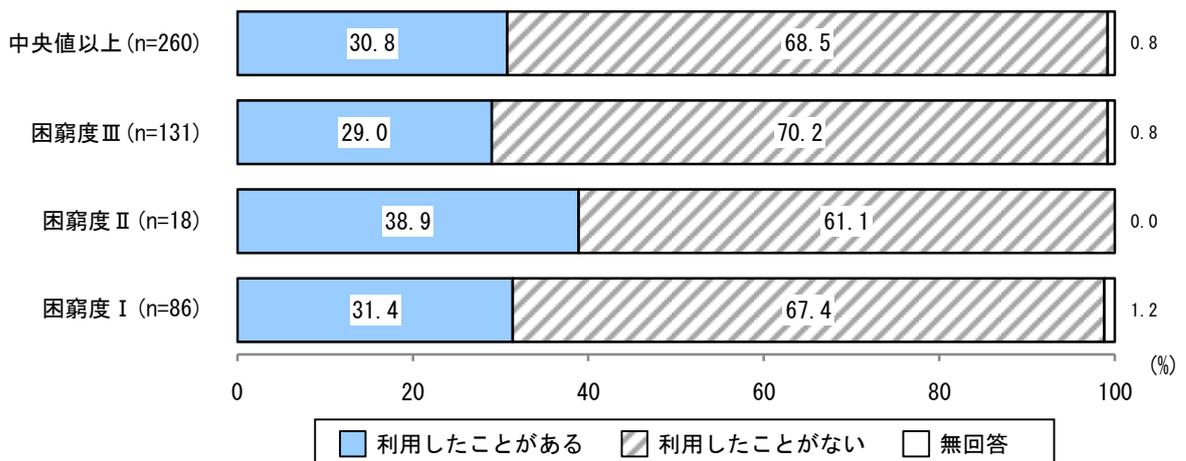
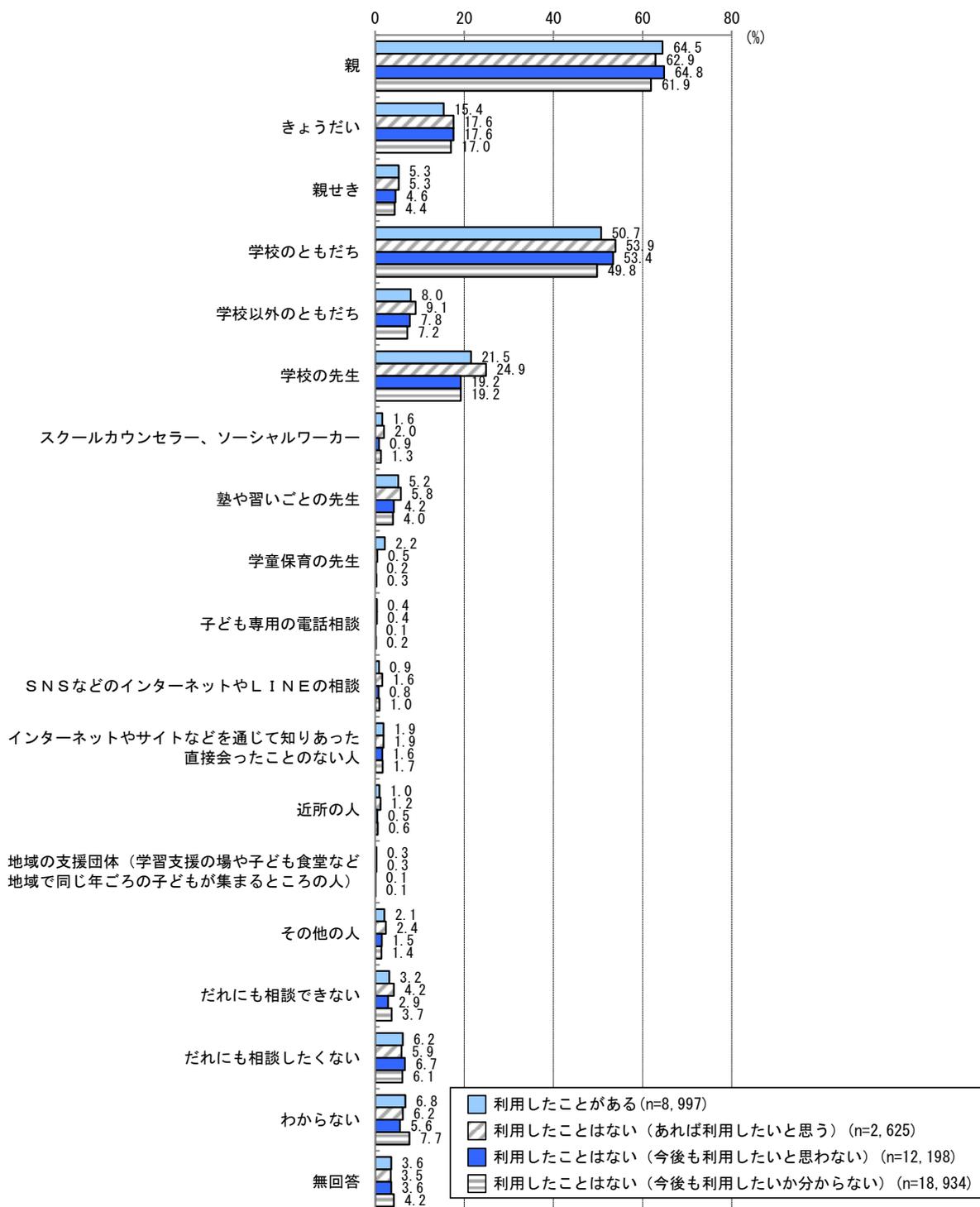


図 166. 困窮度別に見た、子どもの居場所の利用経験

困窮度別に子どもの居場所の利用経験を見ると、「利用したことがある」と回答する割合は困窮度Ⅱ群が38.9%で最も高く、困窮度Ⅲ群が29.0%で最も低くなっている。

平日の夜や休日を過ごすことができる場所別に見た、嫌なことや悩んでいるときの相談相手  
(子ども票問 25(1)①×子ども票問 18)

<大阪府内全体>



<守口市>

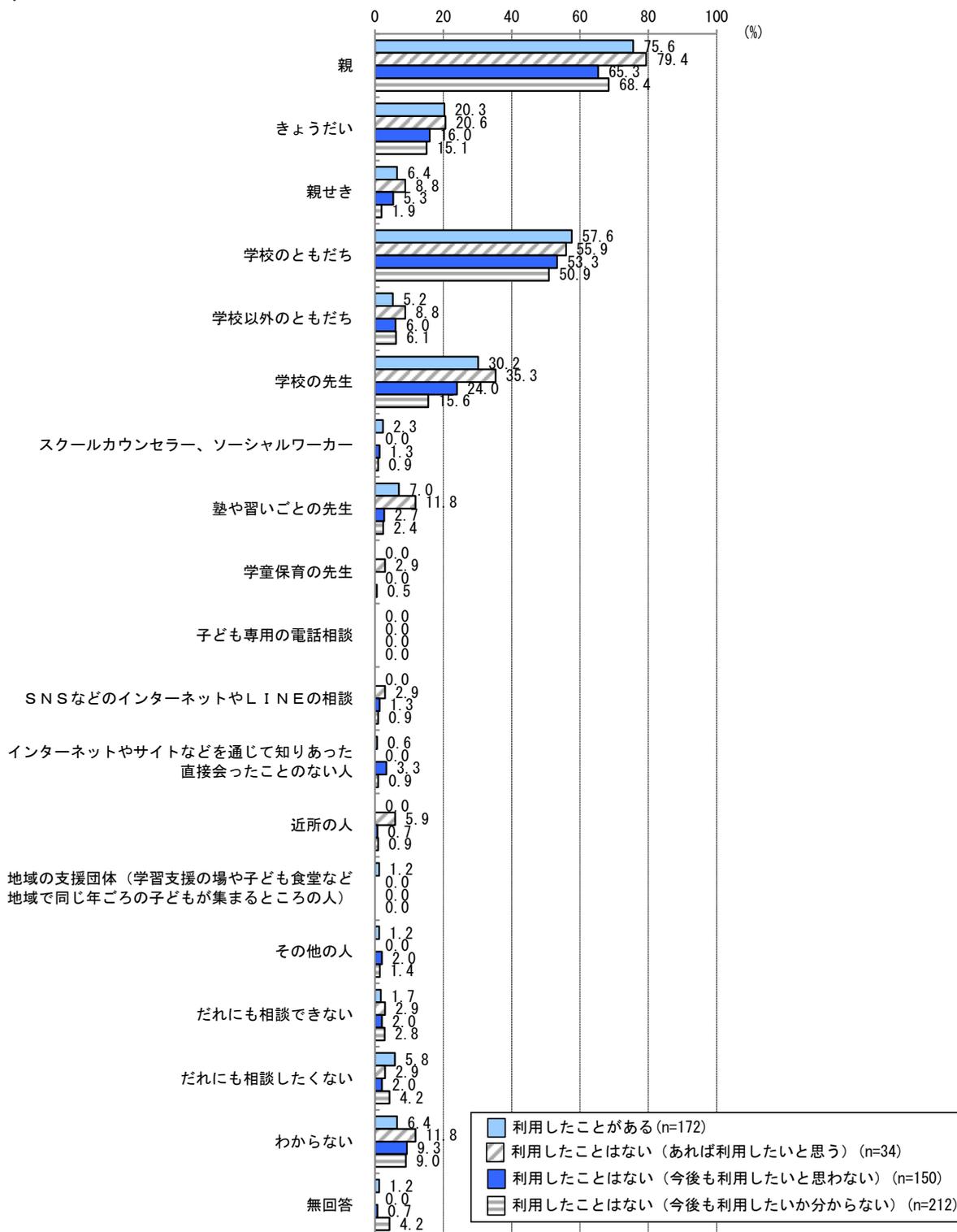
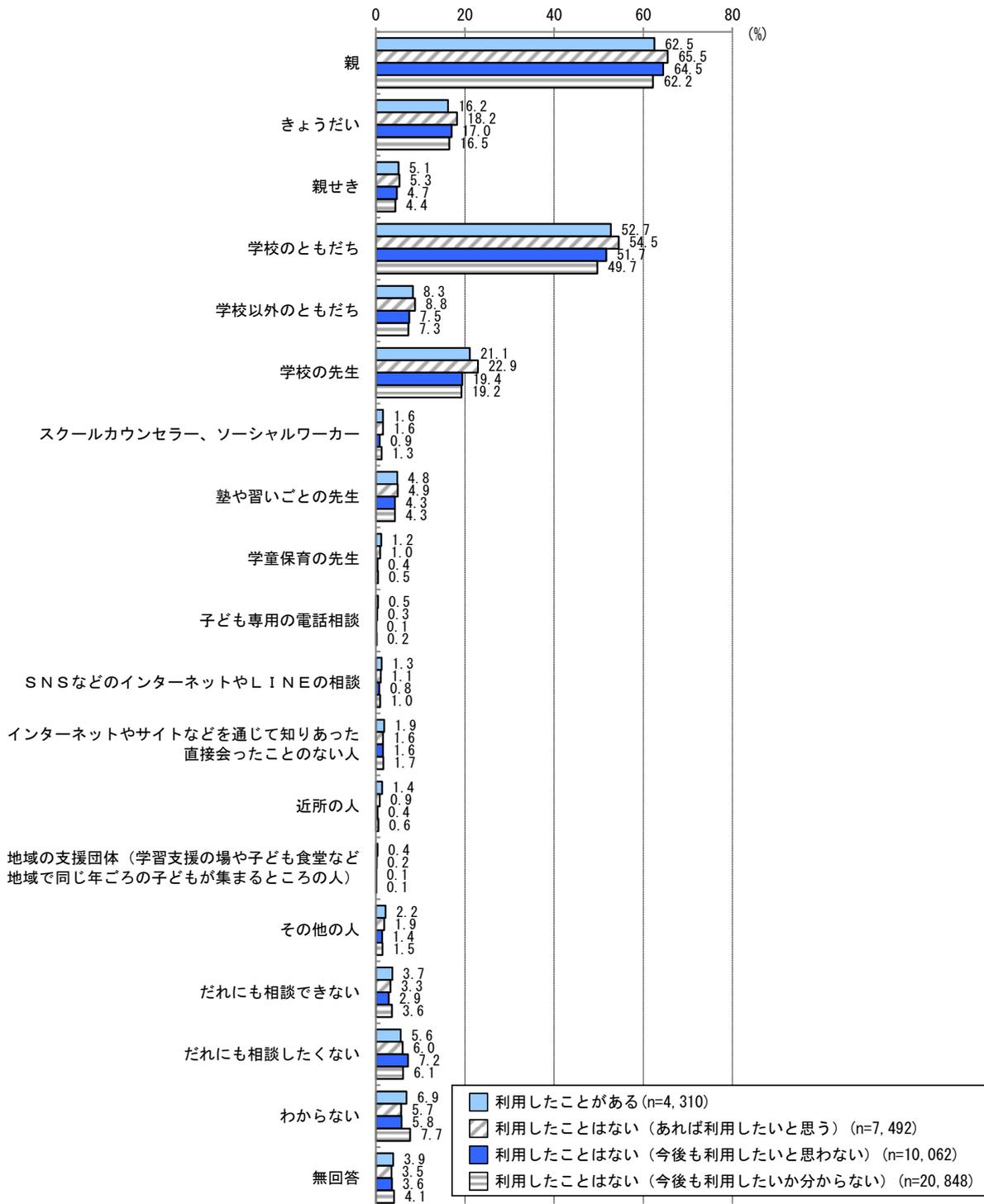


図 167. 平日の夜や休日を過ごすことができる場所別に見た、嫌なことや悩んでいるときの相談相手

平日の夜や休日を過ごすことができる場所別に嫌なことや悩んでいるときの相談相手を見ると、相談相手が「親」と回答した割合は、「利用したことはない (あれば利用したいと思う)」と回答した人が79.4%と最も高くなっている。また、「学校のともだち」は「利用したことがある」と回答した人が57.6%と最も高くなっている。

昼食や夕食、お弁当を無料か安い料金で食べることができる場所別に見た、嫌なことや悩んでいるときの相談相手（子ども票問 25 (1)②×子ども票問 18)

<大阪府内全体>



<守口市>

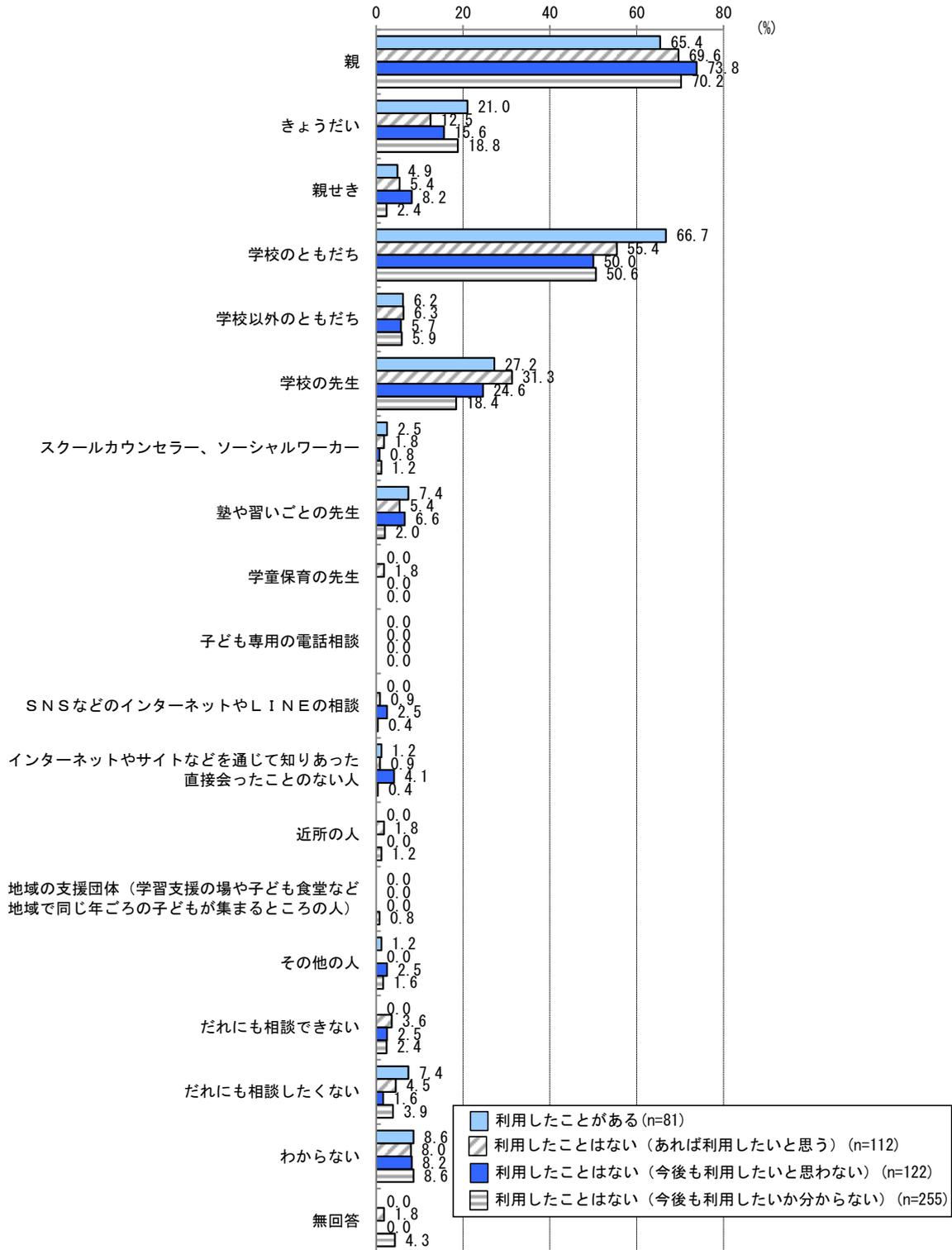
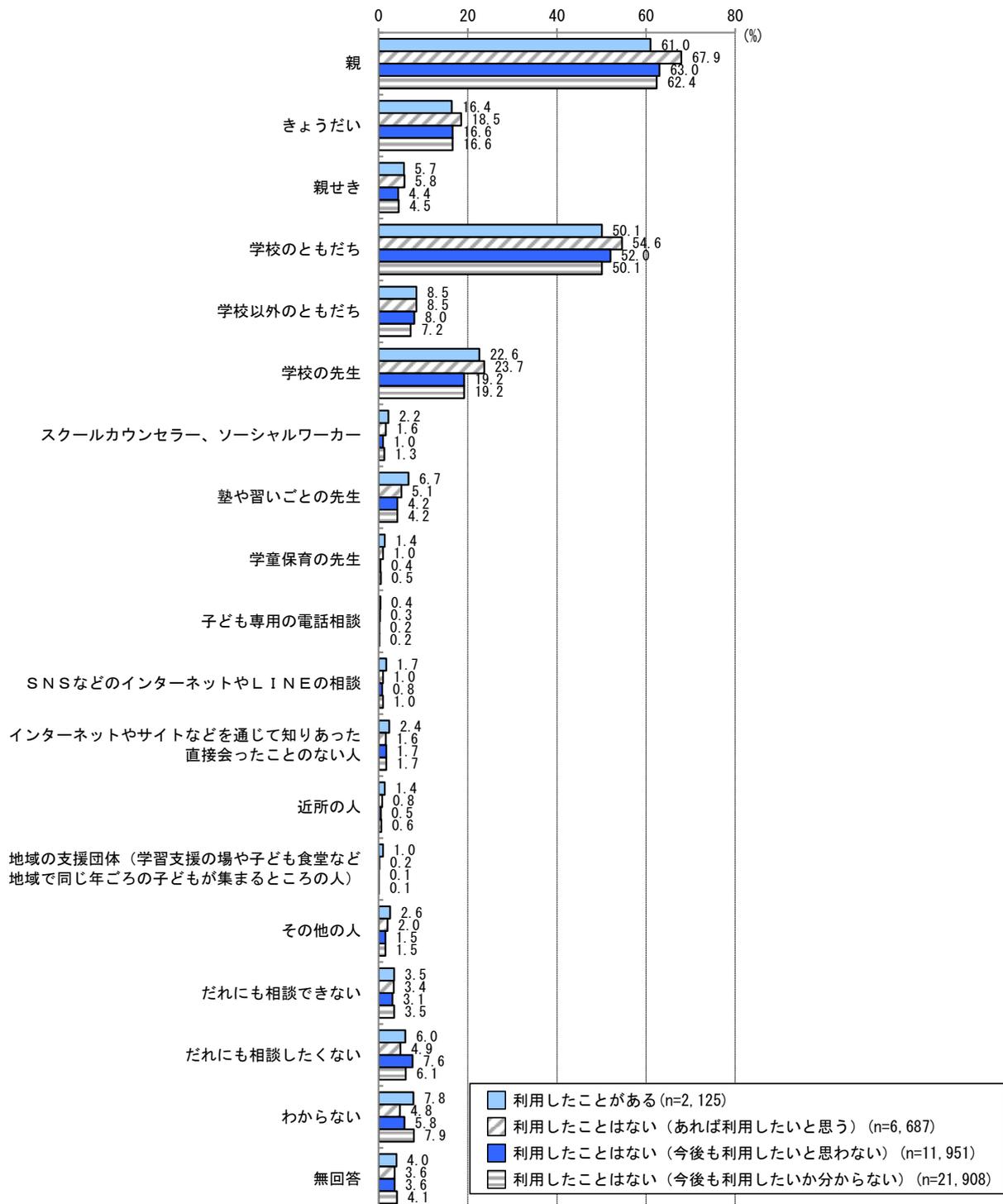


図 168. 昼食や夕食、お弁当を無料か安い料金で食べることができる場所別に見た、嫌なことや悩んでいるときの相談相手

昼食や夕食、お弁当を無料か安い料金で食べることができる場所別に嫌なことや悩んでいるときの相談相手を見ると、相談相手が「親」と回答した割合は、「利用したことはない」と回答した人より「利用したことがある」と回答した人のほうが割合が低くなっている。

勉強を無料か安い料金でみてくれる場所別に見た、嫌なことや悩んでいるときの相談相手  
(子ども票問 25(1)③×子ども票問 18)

<大阪府内全体>



<守口市>

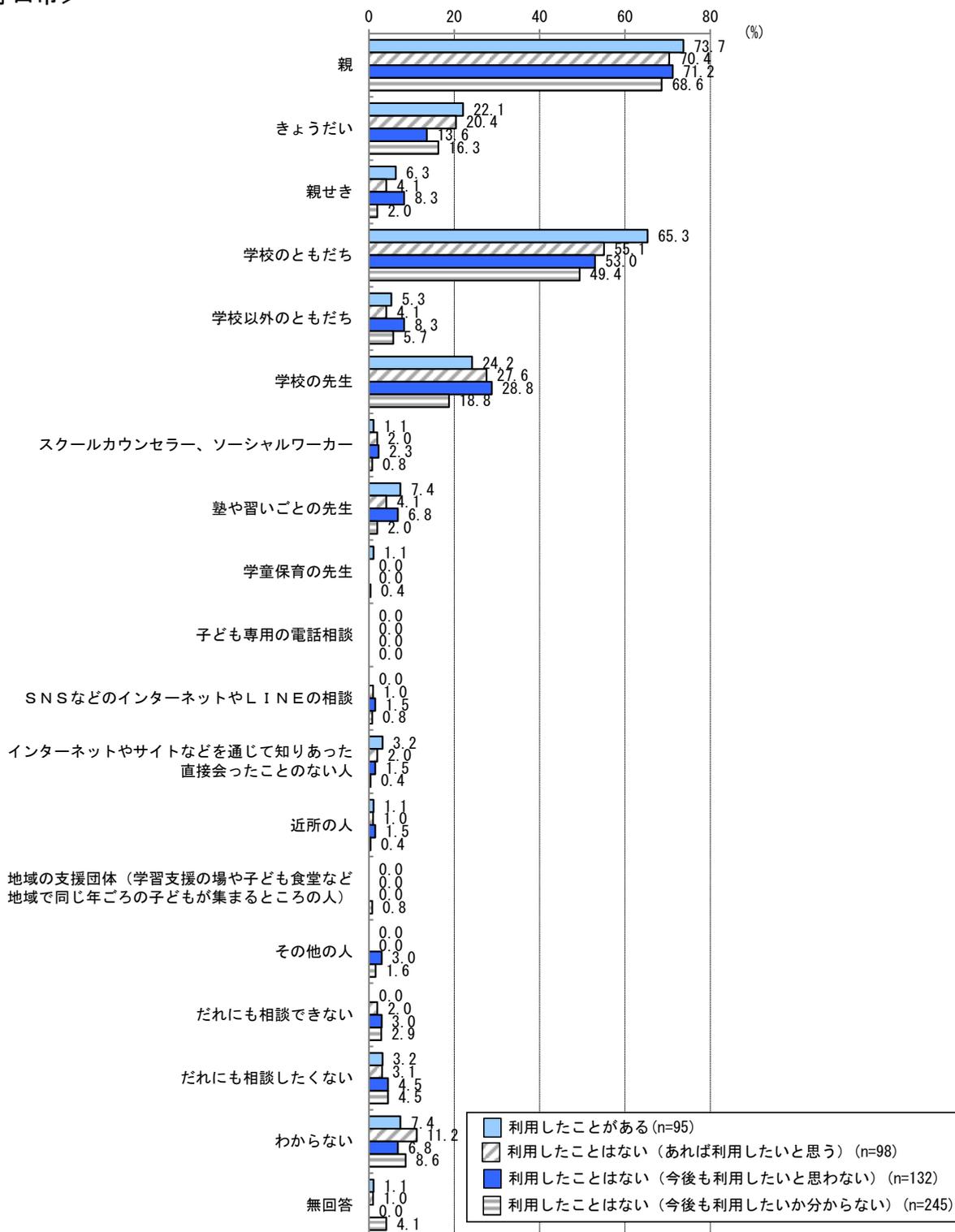
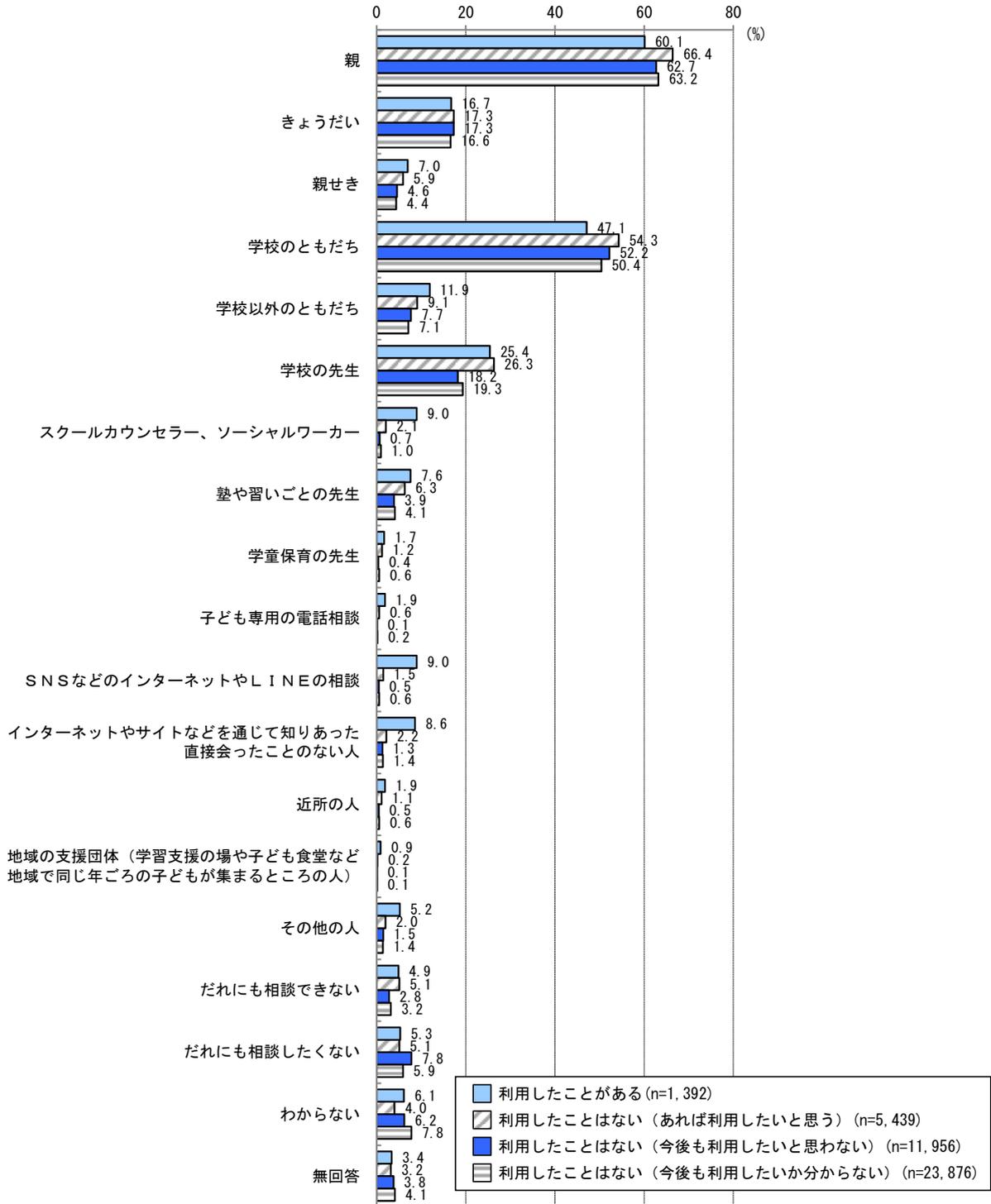


図 169. 勉強を無料か安い料金でみてくれる場所別に見た、嫌なことや悩んでいるときの相談相手

勉強を無料か安い料金でみてくれる場所別に嫌なことや悩んでいるときの相談相手を見ると、相談相手が「親」、「きょうだい」、「学校のともだち」、「塾や習いごとの先生」、「インターネットやサイトなどを通じて知りあった直接会ったことのない人」と回答した割合は、「利用したことはない」と回答した人より「利用したことがある」と回答した人のほうが割合が高くなっている。

何でも相談できる場所別に見た、嫌なことや悩んでいるときの相談相手  
 (子ども票問 25(1)④×子ども票問 18)

<大阪府内全体>



<守口市>

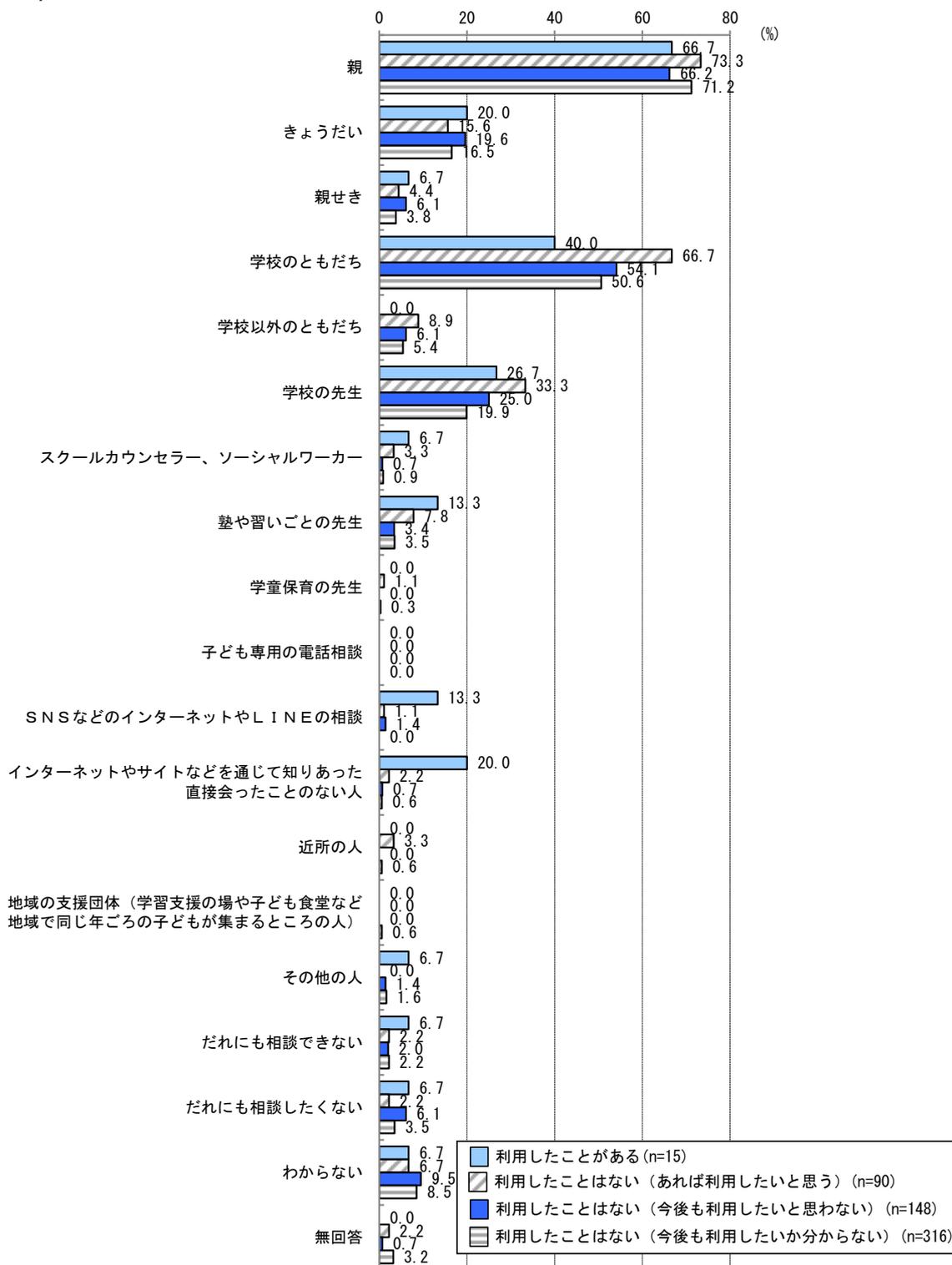
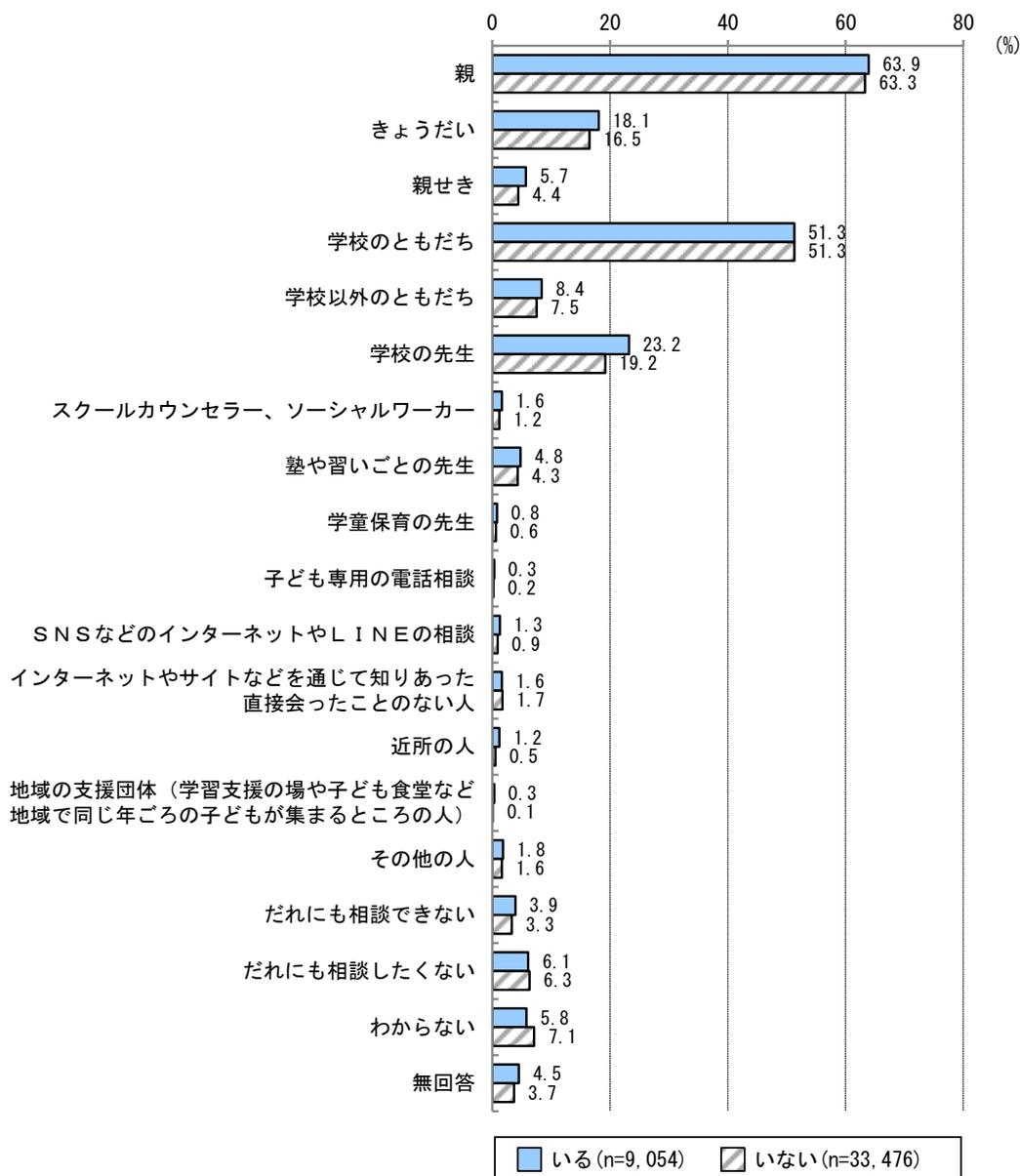


図 170. 何でも相談できる場所別に見た、嫌なことや悩んでいるときの相談相手

何でも相談できる場所別に嫌なことや悩んでいるときの相談相手を見ると、相談相手が「きょうだい」、「親せき」、「スクールカウンセラー、ソーシャルワーカー」、「塾や習いごとの先生」、「SNSなどのインターネットやLINEの相談」、「インターネットやサイトなどを通じて知りあった直接会ったことのない人」と回答した割合は、「利用したことはない」と回答した人より「利用したことがある」と回答した人のほうが割合が高くなっている。

自分が世話をしている人の有無別に見た、嫌なことや悩んでいるときの相談相手  
 (子ども票問 26(1) × 子ども票問 18)

<大阪府内全体>



<守口市>

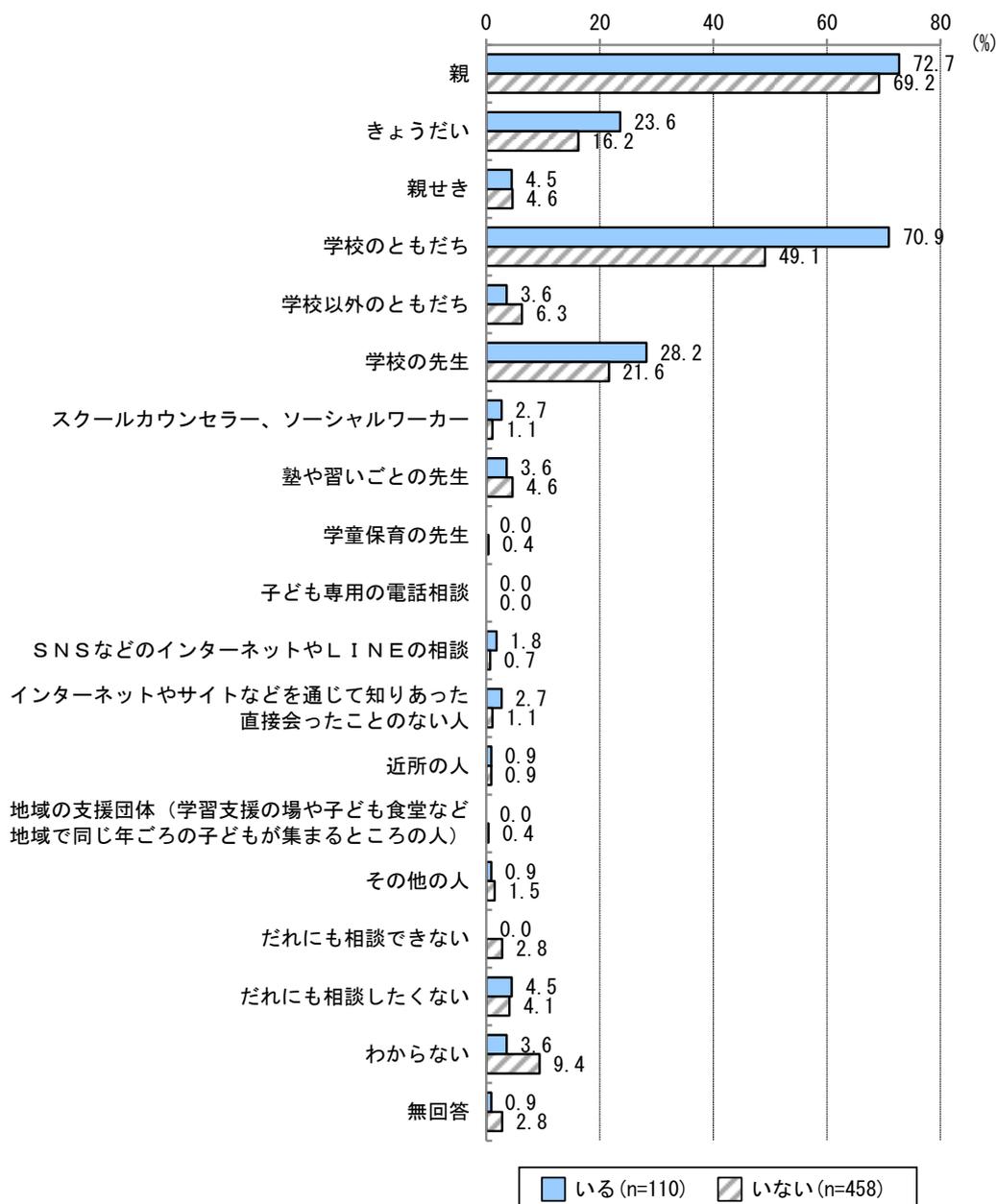
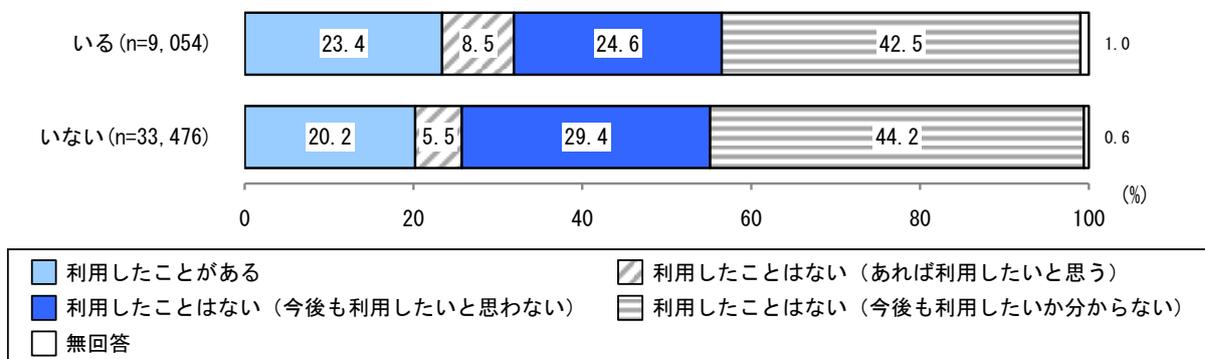


図 171. 自分が世話をしている人の有無別に見た、嫌なことや悩んでいるときの相談相手

自分が世話をしている人の有無別に嫌なことや悩んでいるときの相談相手をみると、相談相手が「親」、「きょうだい」、「学校のともだち」、「学校の先生」、「スクールカウンセラー、ソーシャルワーカー」、「SNSなどのインターネットやLINEの相談」、「インターネットやサイトなどを通じて知りあった直接会ったことのない人」と回答した人の割合は、世話をしている人が「いない」人より「いる」人のほうが割合が高くなっている。

自分が世話をしている人の有無別に見た、平日の夜や休日を過ごすことができる場所  
 (子ども票問 26(1) × 子ども票問 25(1)①)

<大阪府内全体>



<守口市>

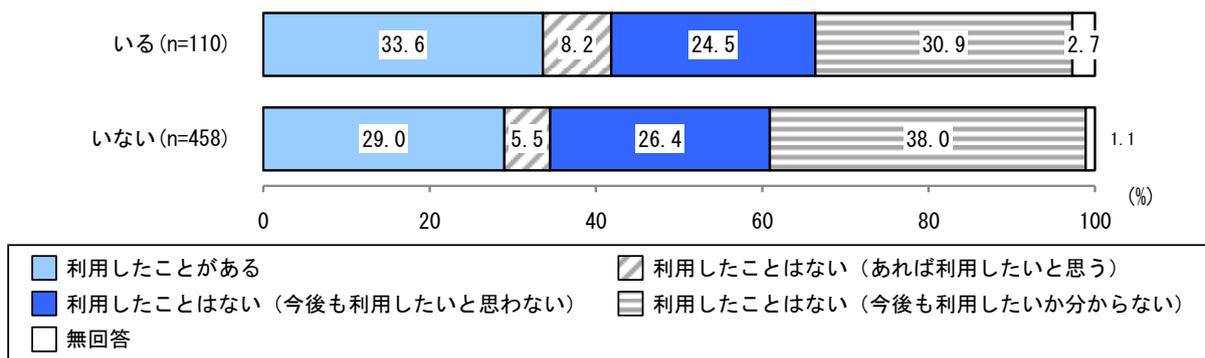
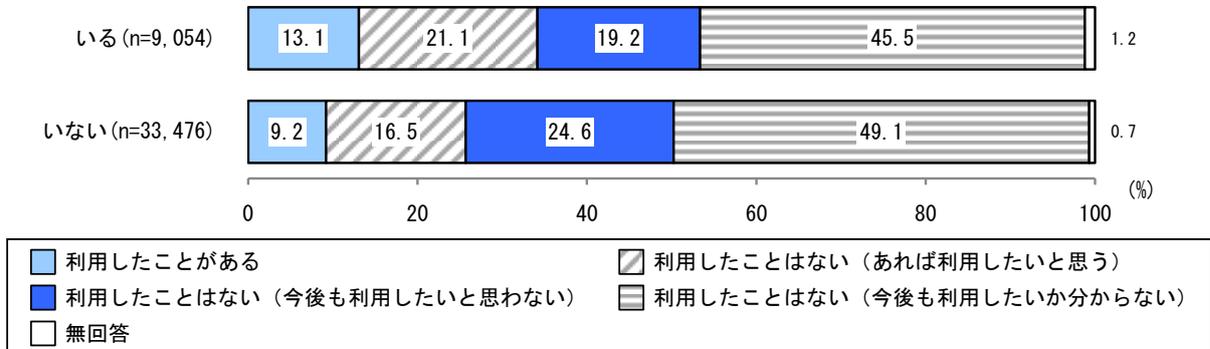


図 172. 自分が世話をしている人の有無別に見た、平日の夜や休日を過ごすことができる場所

自分が世話をしている人の有無別に平日の夜や休日を過ごすことができる場所を見ると、平日の夜や休日を過ごすことができる場所を「利用したことがある」と回答した人の割合は、世話をしている人が「いない」人より「いる」人のほうが割合が高くなっている。

自分が世話をしている人の有無別に見た、昼食や夕食、お弁当を無料か安い料金で食べることができる場所（子ども票問 26(1) × 子ども票問 25(1)②）

<大阪府内全体>



<守口市>

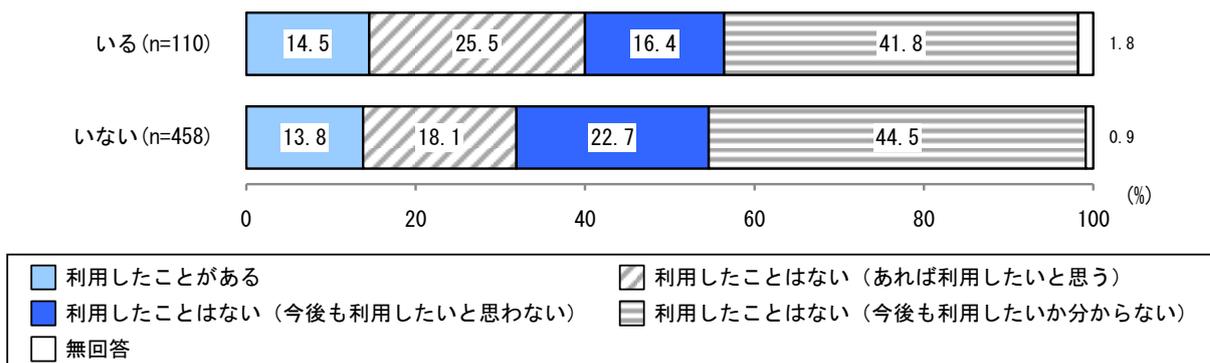
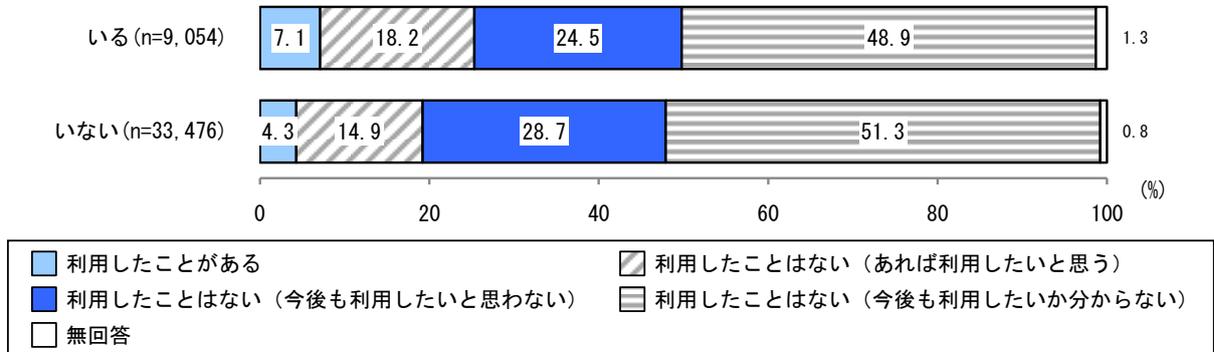


図 173. 自分が世話をしている人の有無別に見た、昼食や夕食、お弁当を無料か安い料金で食べることができる場所

自分が世話をしている人の有無別に昼食や夕食、お弁当を無料か安い料金で食べることができる場所を見ると、昼食や夕食、お弁当を無料か安い料金で食べることができる場所を「利用したことはない (あれば利用したいと思う)」と回答した人の割合は、世話をしている人が「いない」人より「いる」人のほうが高くなっている。

自分が世話をしている人の有無別に見た、勉強を無料か安い料金でみてくれる場所  
 (子ども票問 26(1) × 子ども票問 25(1)③)

<大阪府内全体>



<守口市>

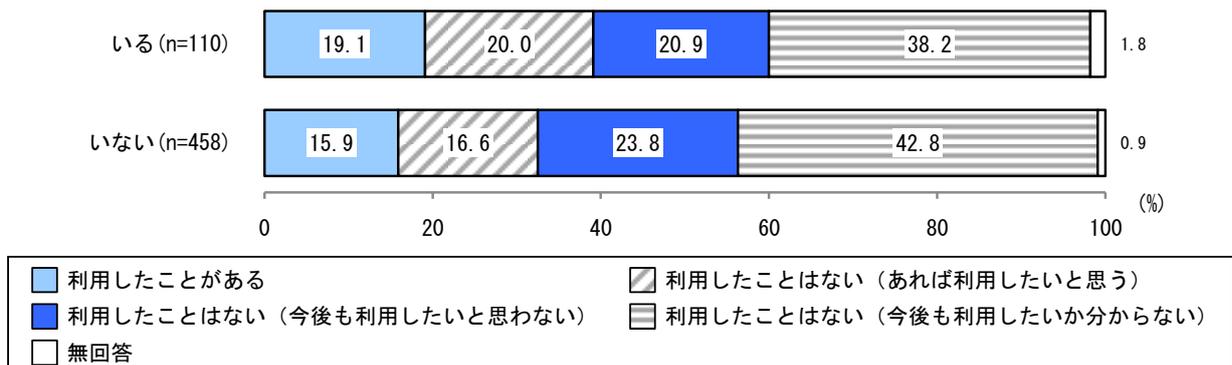
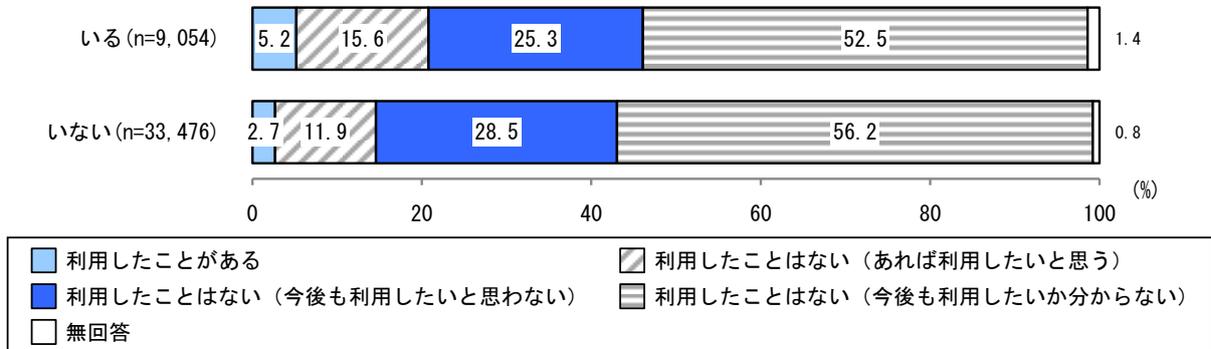


図 174. 自分が世話をしている人の有無別に見た、勉強を無料か安い料金でみてくれる場所

自分が世話をしている人の有無別に勉強を無料か安い料金でみてくれる場所を見ると、勉強を無料か安い料金でみてくれる場所を「利用したことがある」と回答した人の割合は、世話をしている人が「いない」人より「いる」人のほうが割合がやや高くなっている。

自分が世話をしている人の有無別に見た、何でも相談できる場所  
 (子ども票問 26(1) × 子ども票問 25(1)④)

<大阪府内全体>



<守口市>

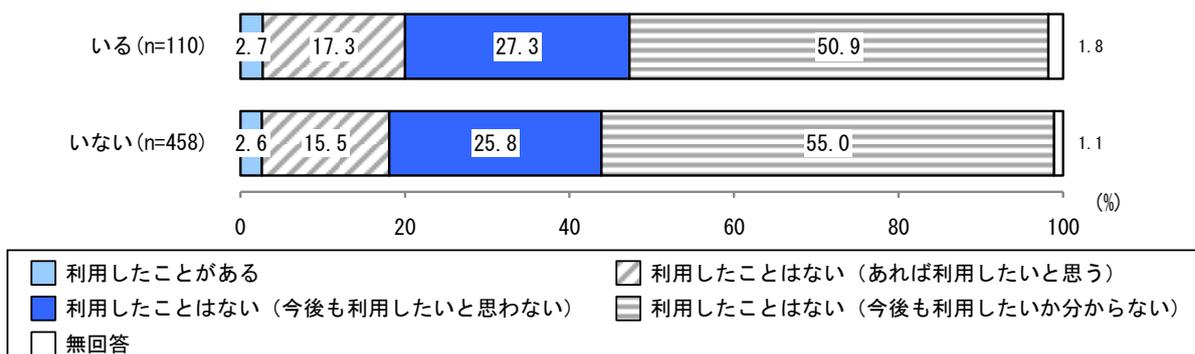
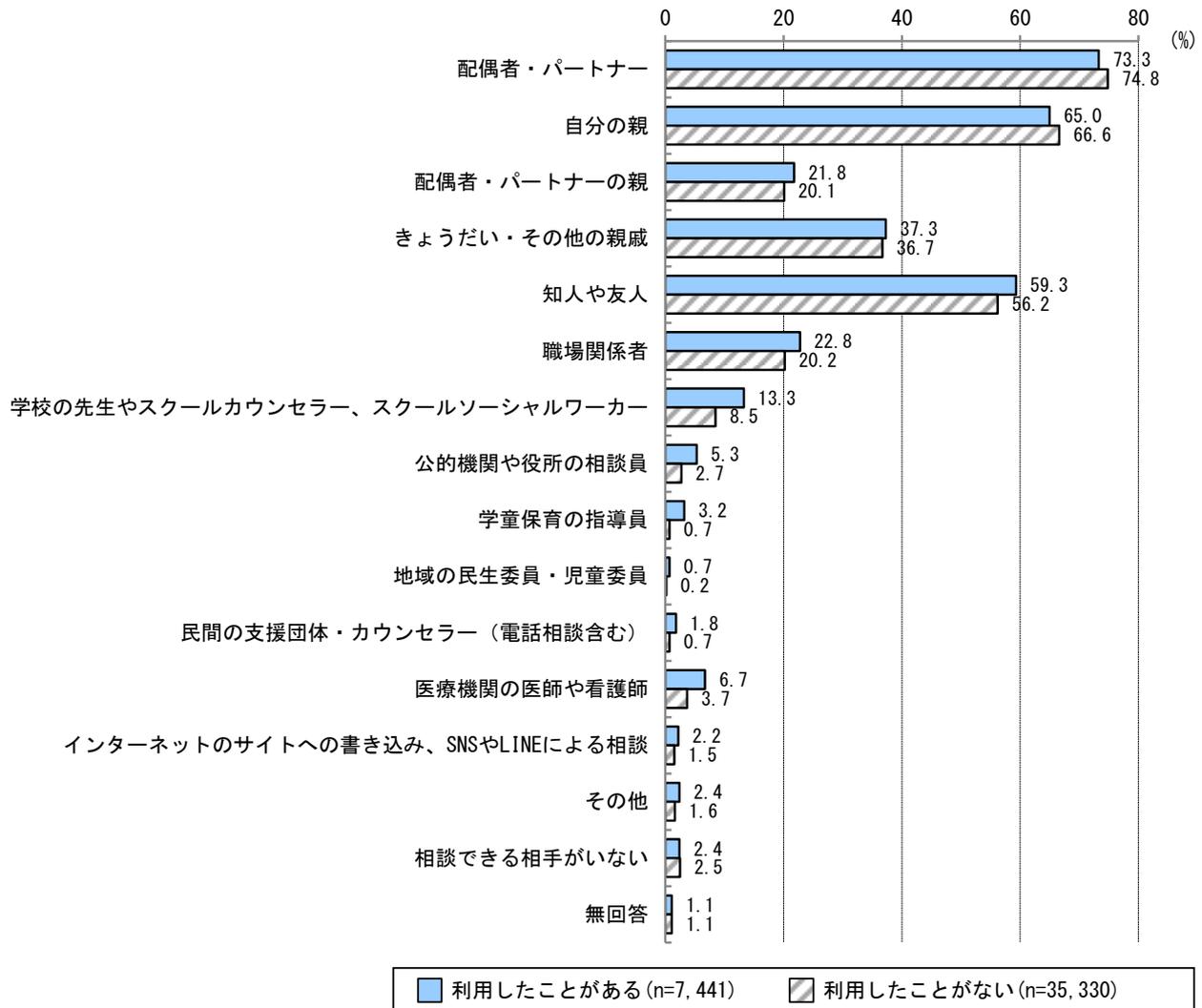


図 175. 自分が世話をしている人の有無別に見た、何でも相談できる場所

自分が世話をしている人の有無別に何でも相談できる場所を見ると、何でも相談できる場所を「利用したことがある」、「利用したことはない(あれば利用したいと思う)」と回答した人の割合は、世話をしている人が「いない」人より「いる」人のほうが割合がやや高くなっている。

子どもの居場所の利用経験別に見た、本当に困ったときや悩みがあるときの相談相手・相談先  
 (保護者票問 16(1) × 保護者票問 19)

<大阪府内全体>



<守口市>

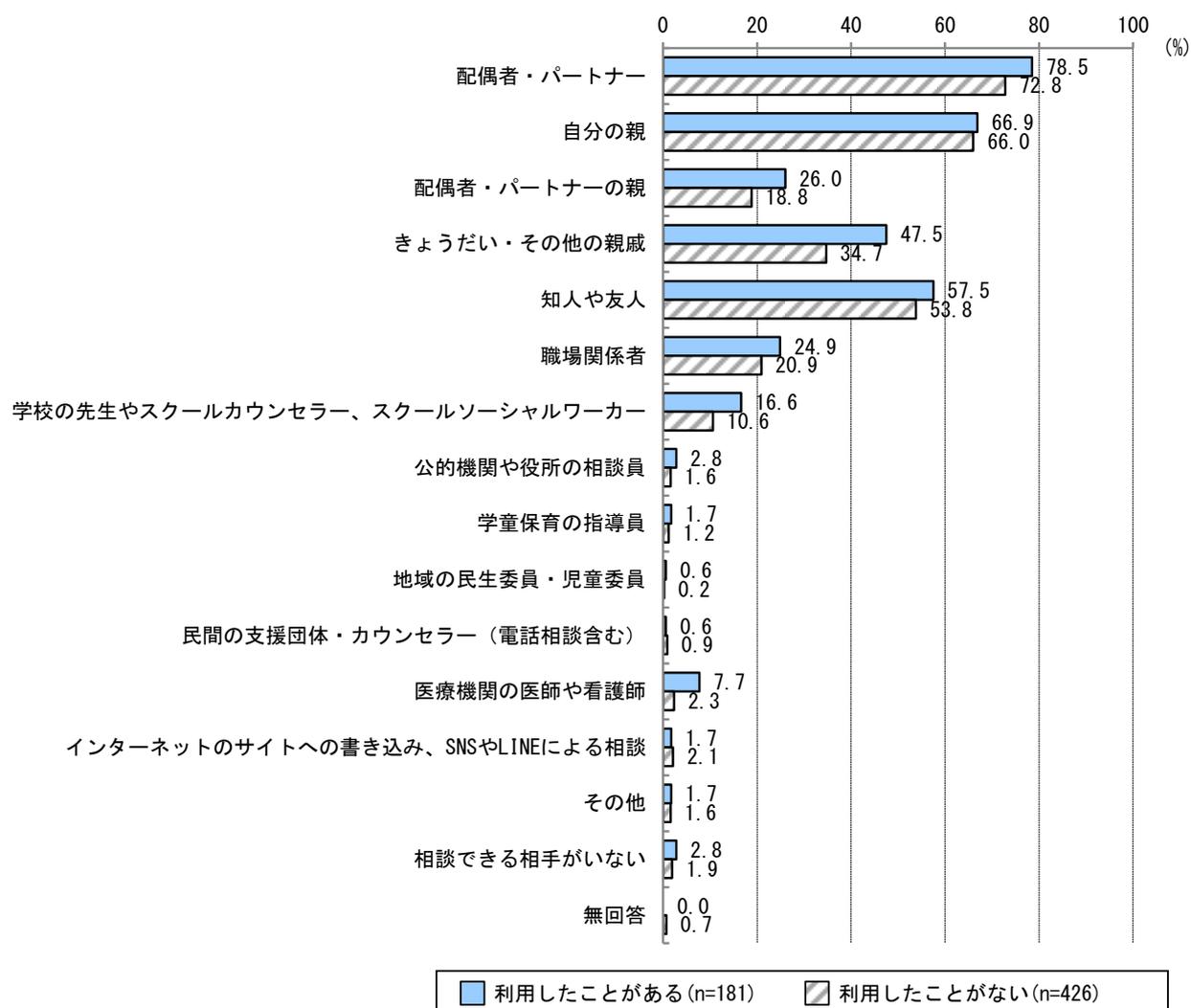
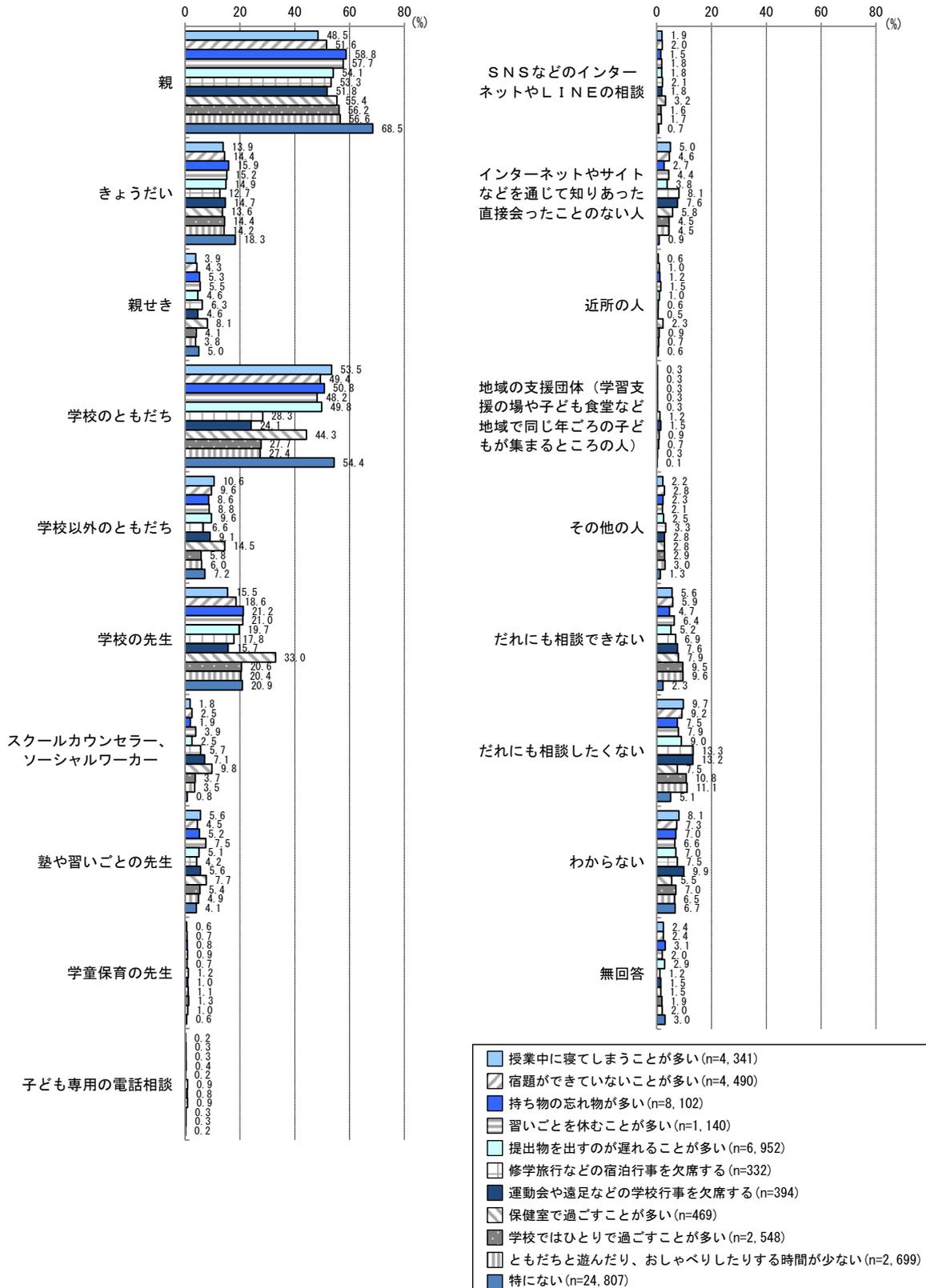


図 176. 子どもの居場所の利用経験別に見た、本当に困ったときや悩みがあるときの相談相手・相談先

子どもの居場所の利用経験別に本当に困ったときや悩みがあるときの相談相手・相談先を見ると、「配偶者・パートナーの親」と回答した人の割合は、子どもの居場所を「利用したことがない」人より「利用したことがある」人のほうが高くなっている。

学校や学校の行事等の状況別に見た、嫌なことや悩んでいるときの相談相手  
 (子ども票問 16×子ども票問 18)

<大阪府内全体>



<守口市>

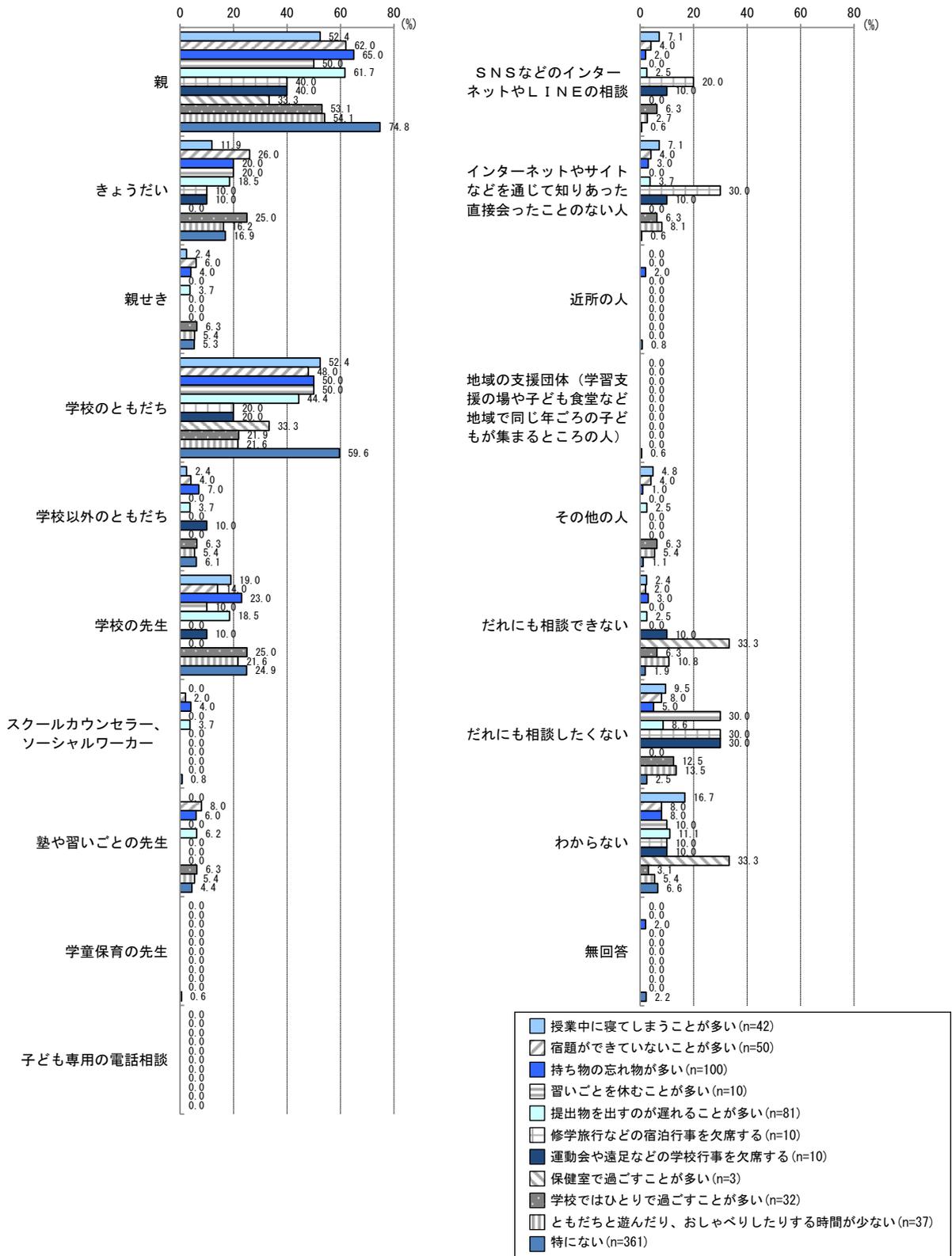
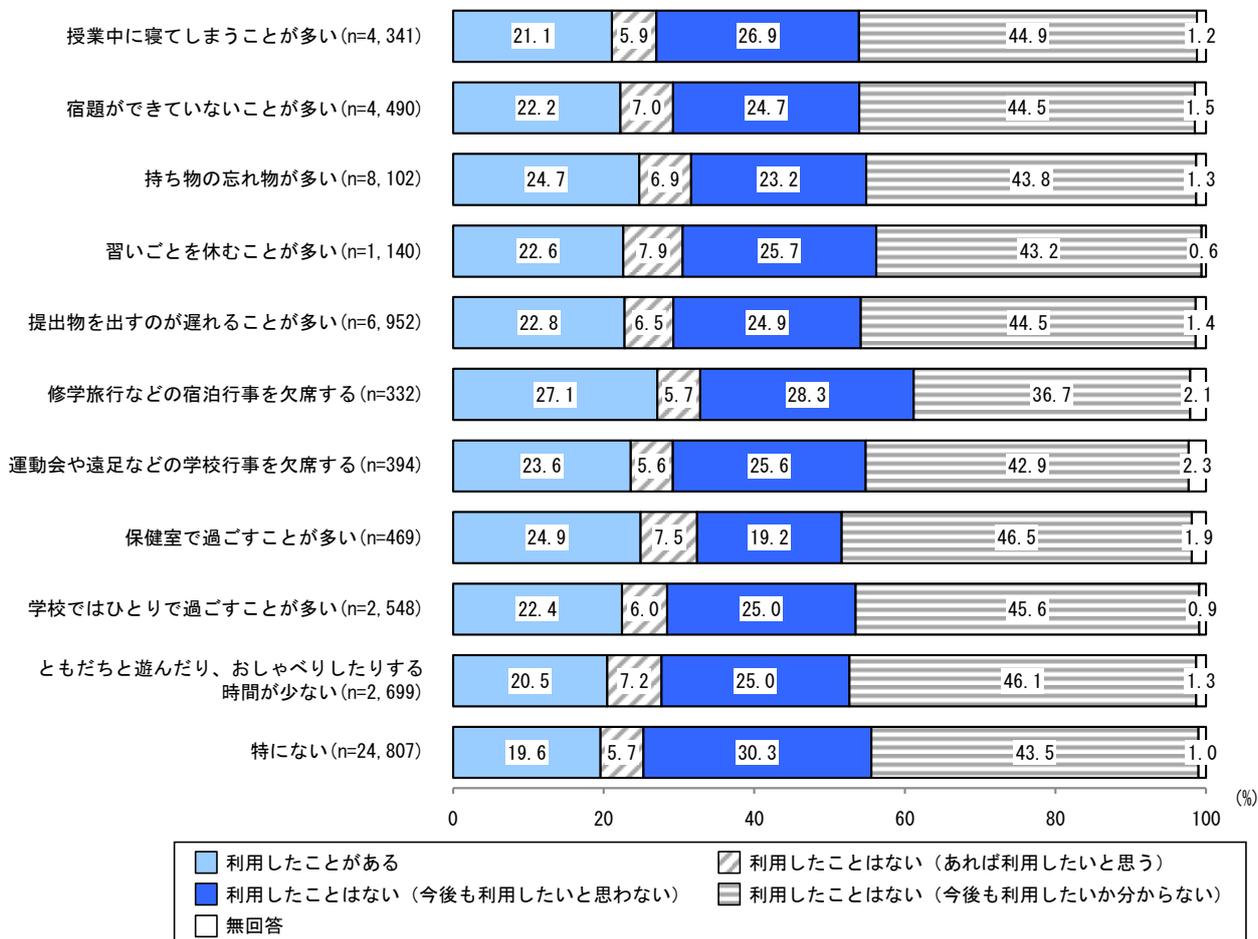


図 177. 学校や学校の行事等の状況別に見た、嫌なことや悩んでいるときの相談相手

学校や学校の行事等の状況別に嫌なことや悩んでいるときの相談相手を見ると、「だれにも相談したくない」と回答した人の割合は「習いごとを休むことが多い」「修学旅行などの宿泊行事を欠席する」「運動会や遠足などの学校行事を欠席する」と回答した人の割合が30.0%で最も高くなっている。

学校や学校の行事等の状況別に見た、平日の夜や休日を過ごすことができる場所  
 (子ども票問 16×子ども票問 25(1)①)

<大阪府内全体>



<守口市>

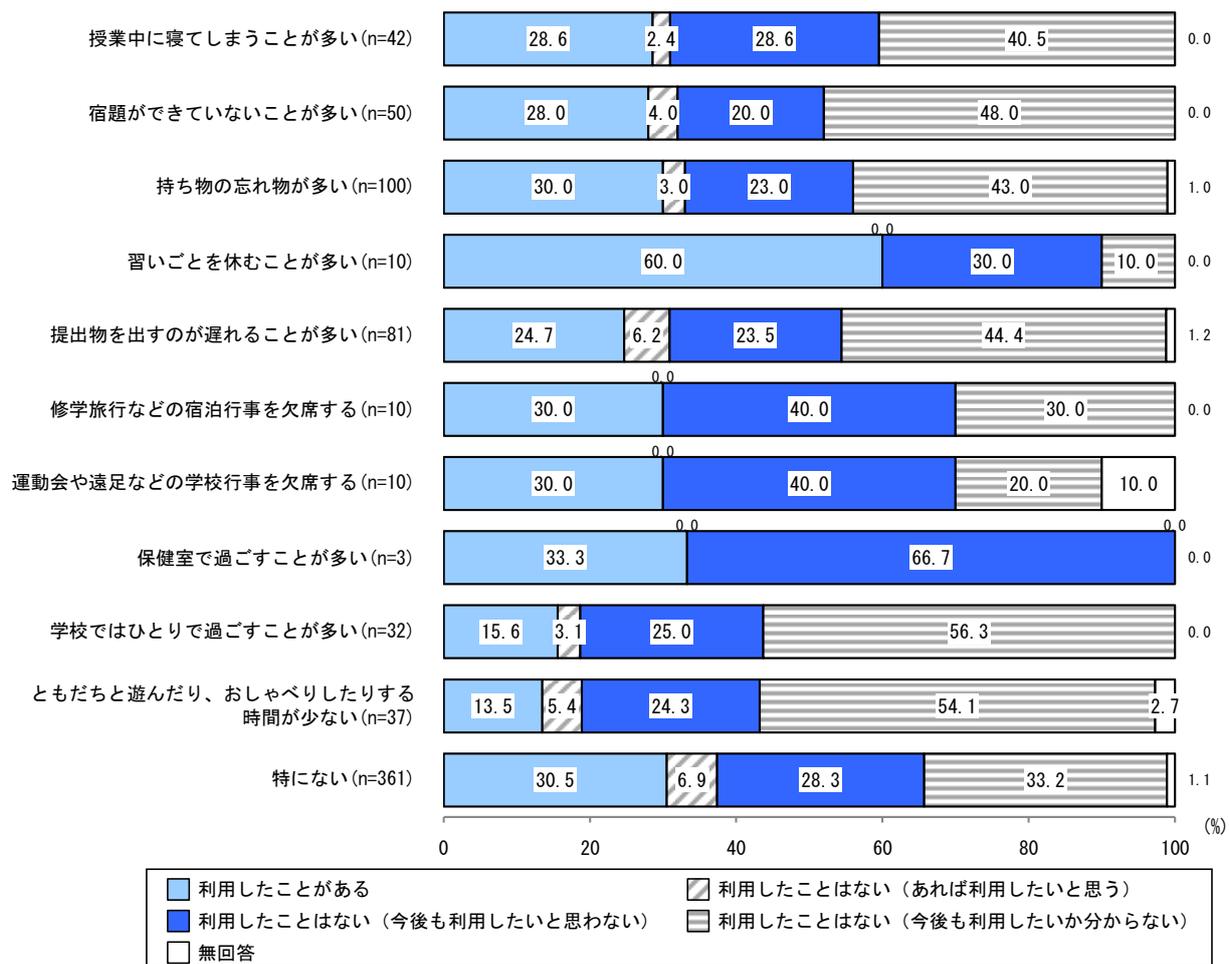
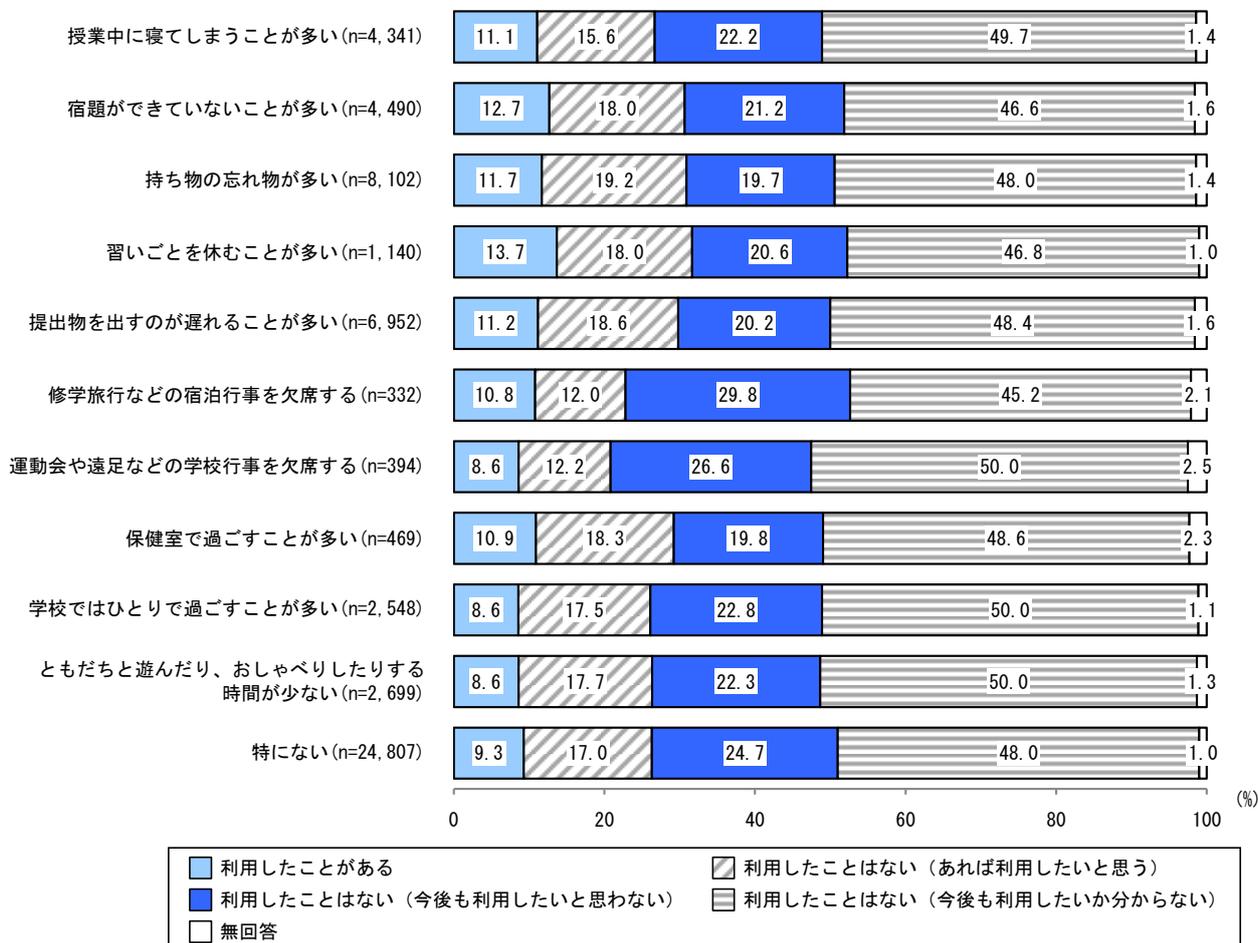


図 178. 学校や学校の行事等の状況別に見た、平日の夜や休日を過ごすことができる場所

学校や学校の行事等の状況別に平日の夜や休日を過ごすことができる場所を見ると、「利用したことがある」と回答した人の割合は「ともだちと遊んだり、おしゃべりしたりする時間が少ない」が13.5%で最も低くなっている。

学校や学校の行事等の状況別に見た、昼食や夕食、お弁当を無料か安い料金で食べることができる場所（子ども票問 16×子ども票問 25(1)②）

<大阪府内全体>



<守口市>

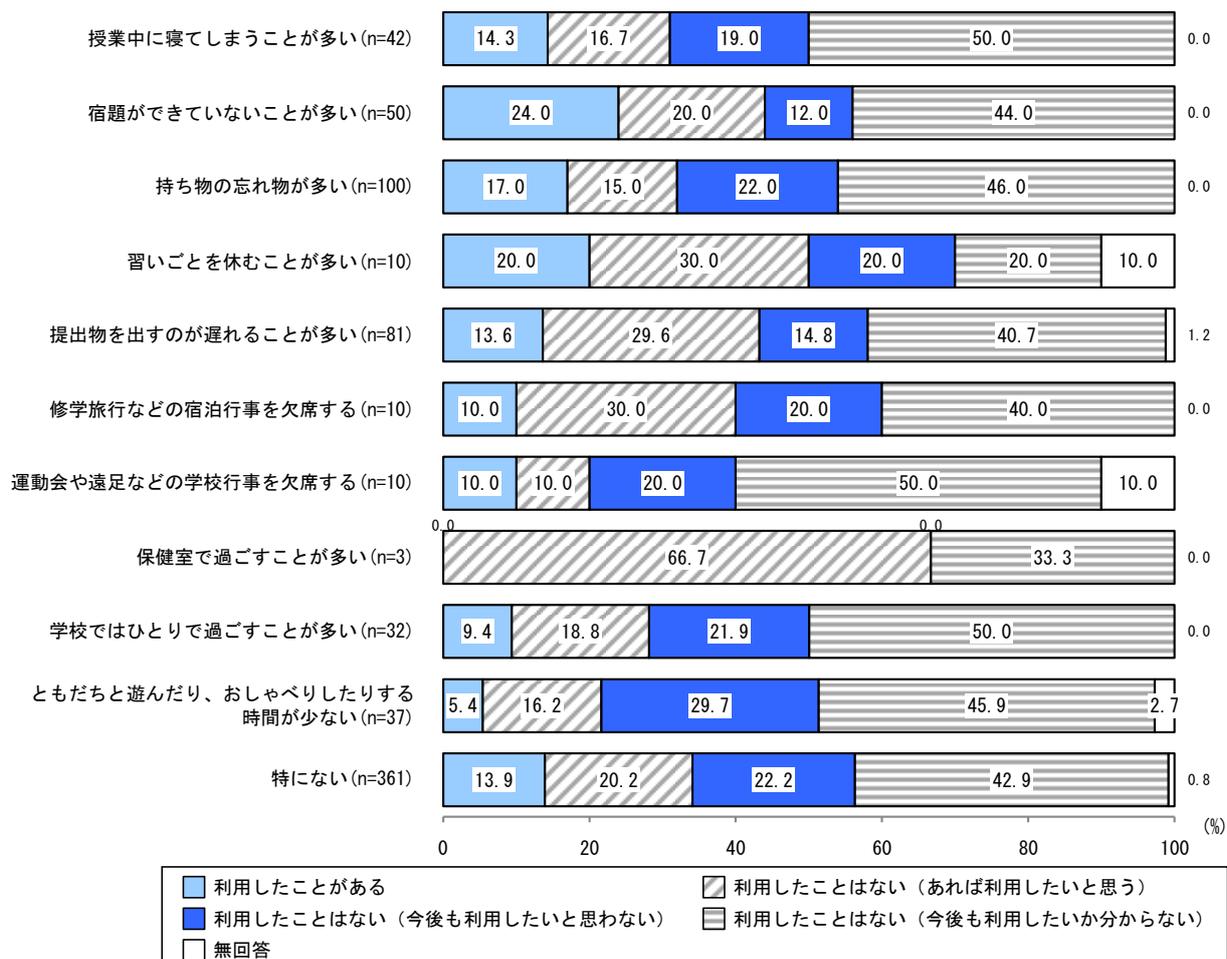
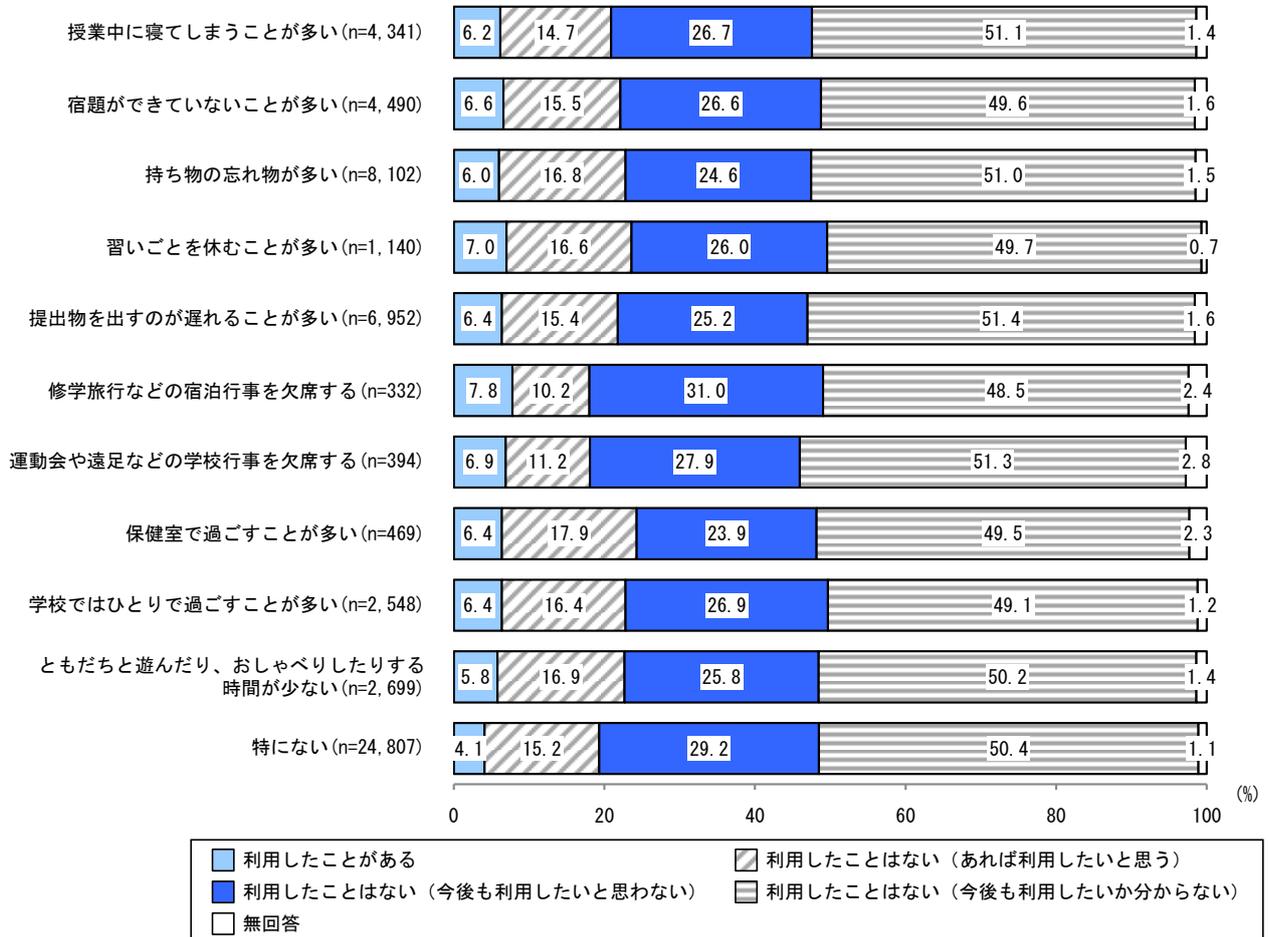


図 179. 学校や学校の行事等の状況別に見た、昼食や夕食、お弁当を無料か安い料金で食べることができる場所

学校や学校の行事等の状況別に昼食や夕食、お弁当を無料か安い料金で食べることができる場所を見ると、「利用したことがある」と回答した人の割合は「宿題ができていないことが多い」が24.0%で最も高くなっている。

学校や学校の行事等の状況別に見た、勉強を無料か安い料金でみてくれる場所  
 (子ども票問 16×子ども票問 25(1)③)

<大阪府内全体>



<守口市>

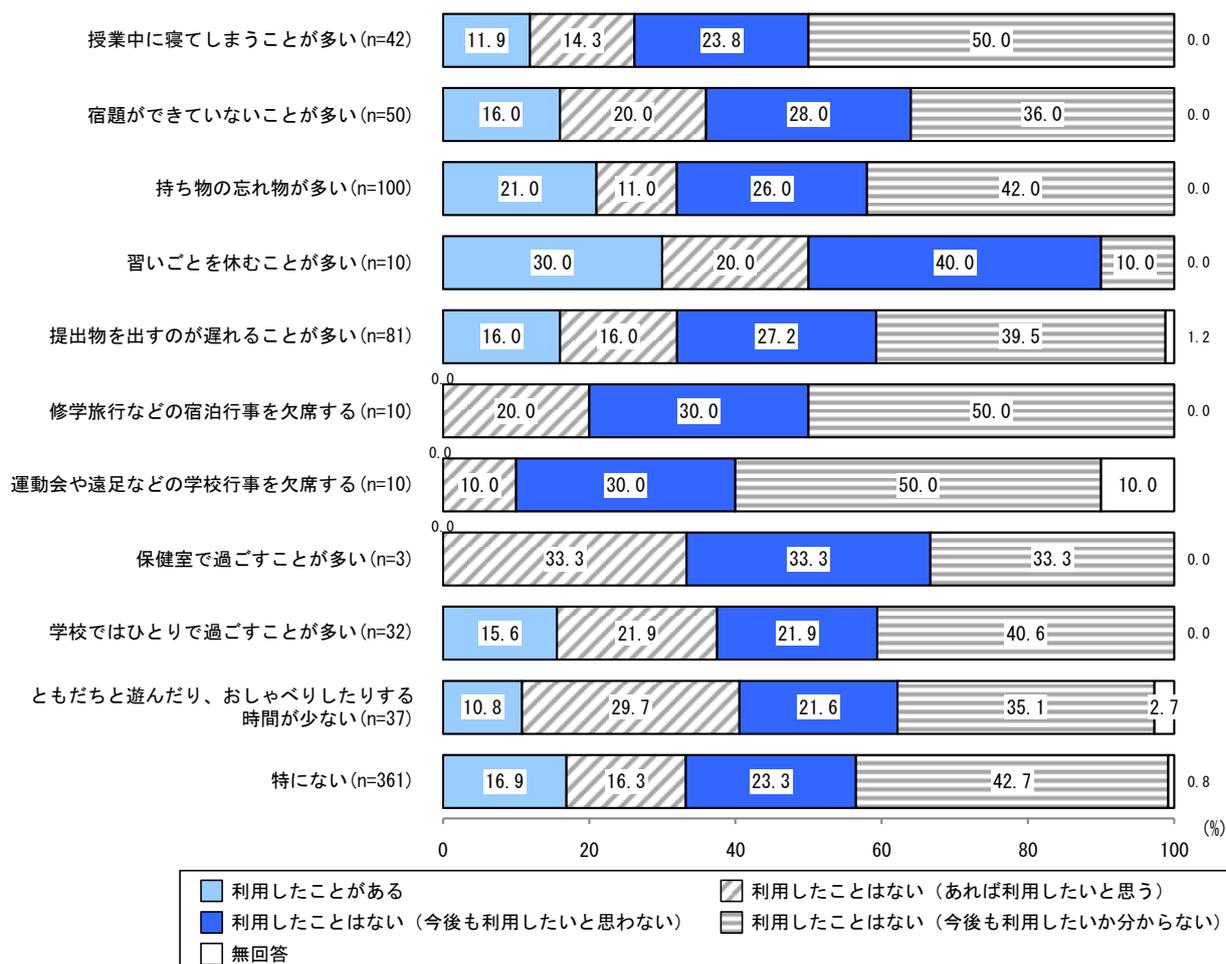
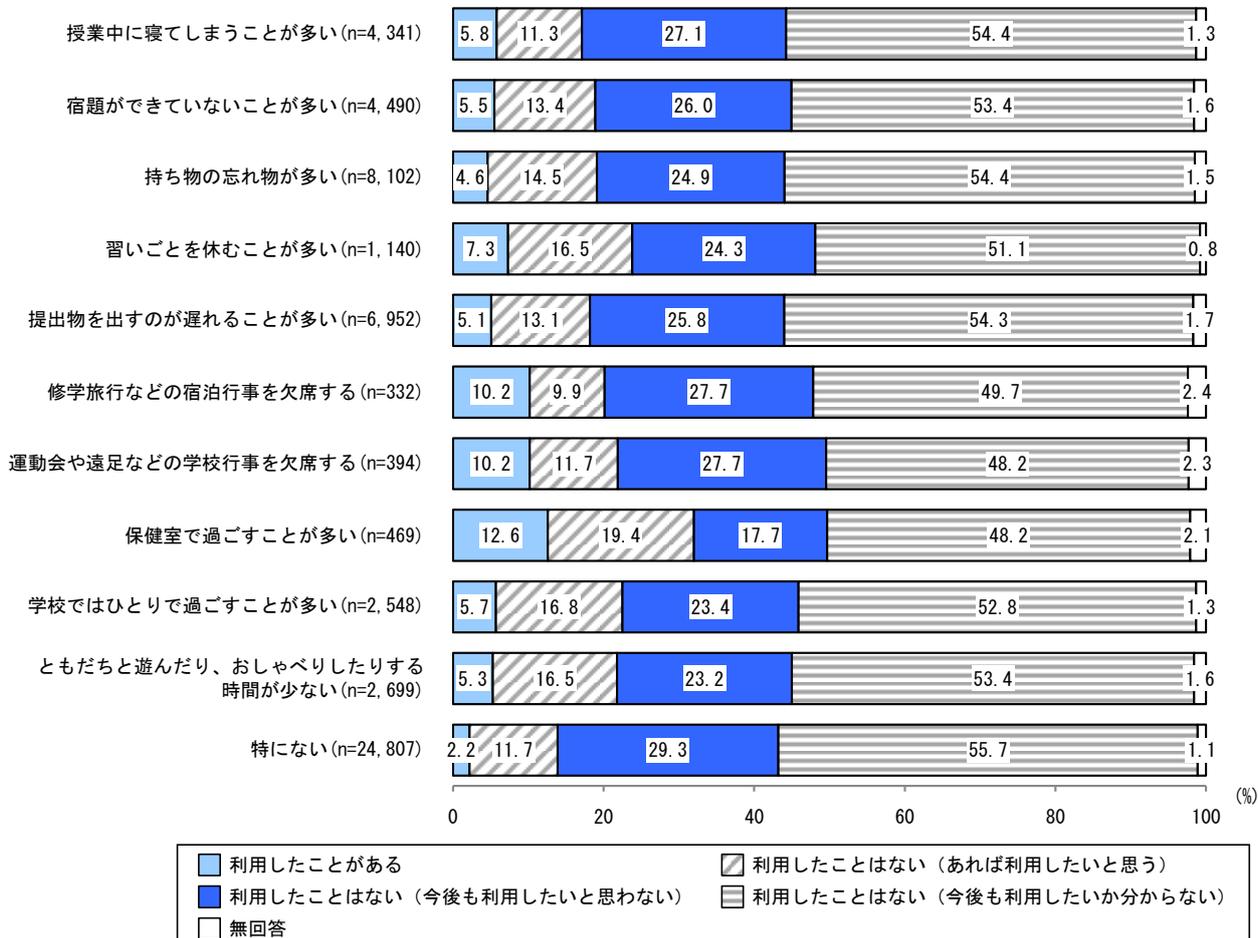


図 180. 学校や学校の行事等の状況別に見た、勉強を無料か安い料金でみてくれる場所

学校や学校の行事等の状況別に勉強を無料か安い料金でみてくれる場所を見ると、「利用したことがある」と回答した人の割合は「習いごとを休むことが多い」が30.0%で最も高くなっている。

学校や学校の行事等の状況別に見た、何でも相談できる場所  
 (子ども票問 16×子ども票問 25(1)④)

<大阪府内全体>



<守口市>

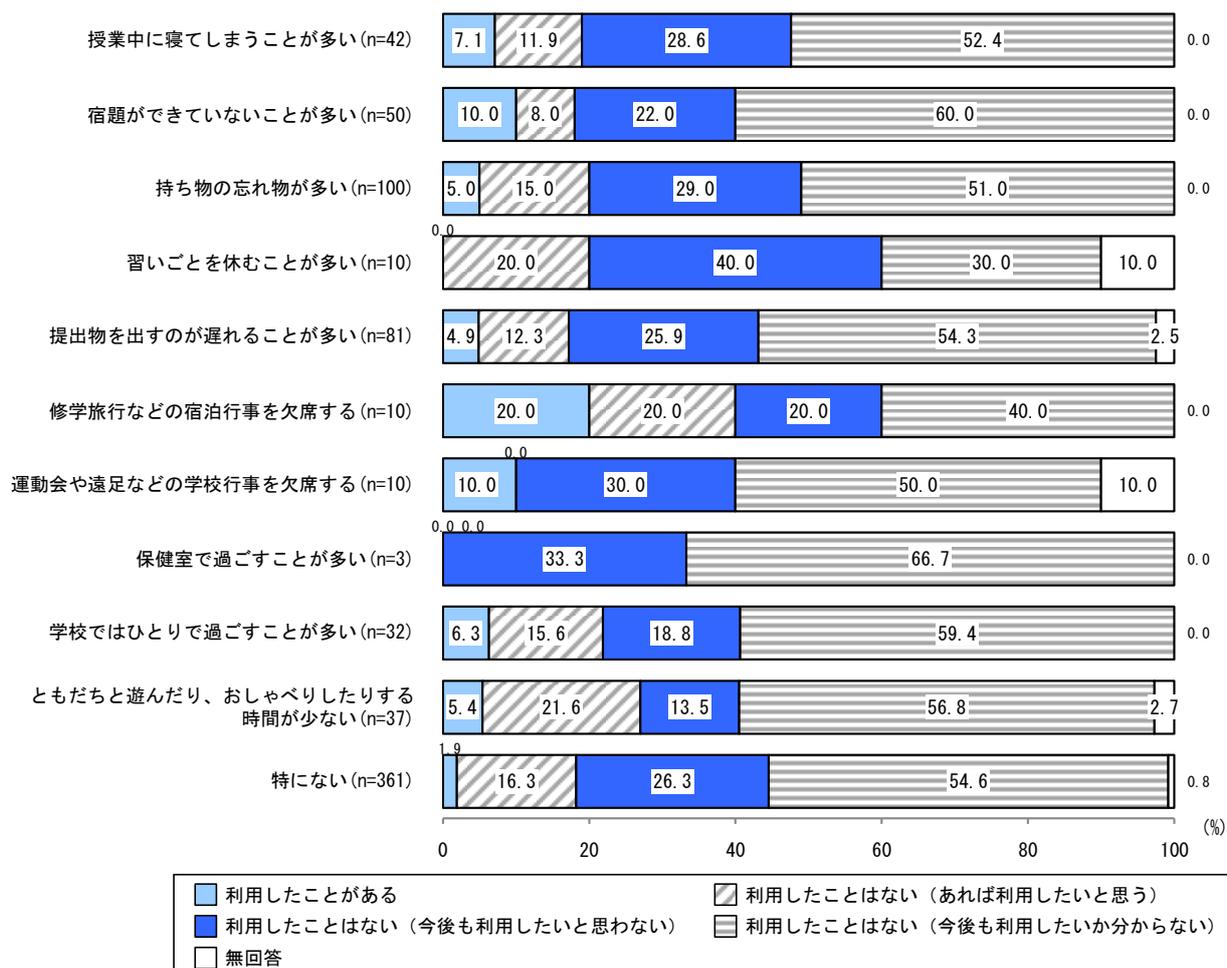
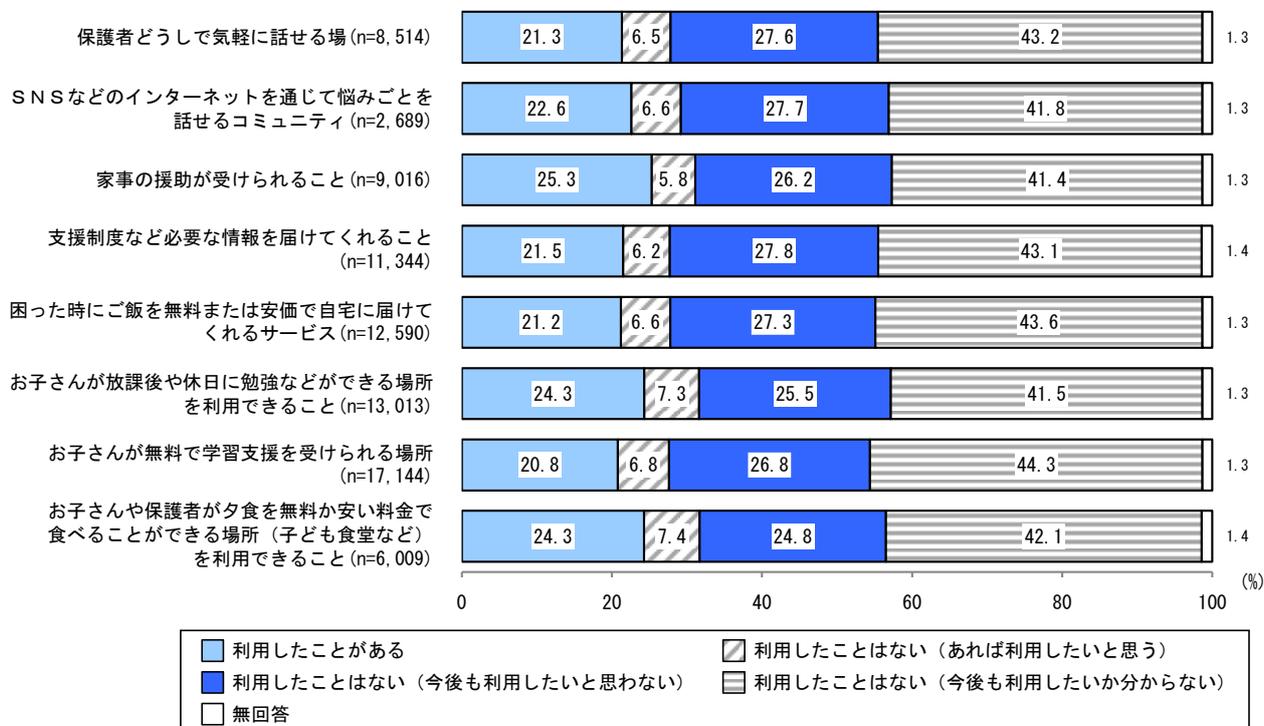


図 181. 学校や学校の行事等の状況別に見た、何でも相談できる場所

学校や学校の行事等の状況別に何でも相談できる場所を見ると、「利用したことがある」と回答した人の割合は「修学旅行などの宿泊行事を欠席する」が20.0%で最も高く、次いで「宿題ができていないことが多い」、「運動会や遠足などの学校行事を欠席する」が10.0%となっている。

身近にあるといいと思うこと別に見た、平日の夜や休日を過ごすことができる場所  
 (保護者票問 20×子ども票問 25(1)①)

<大阪府内全体>



<守口市>

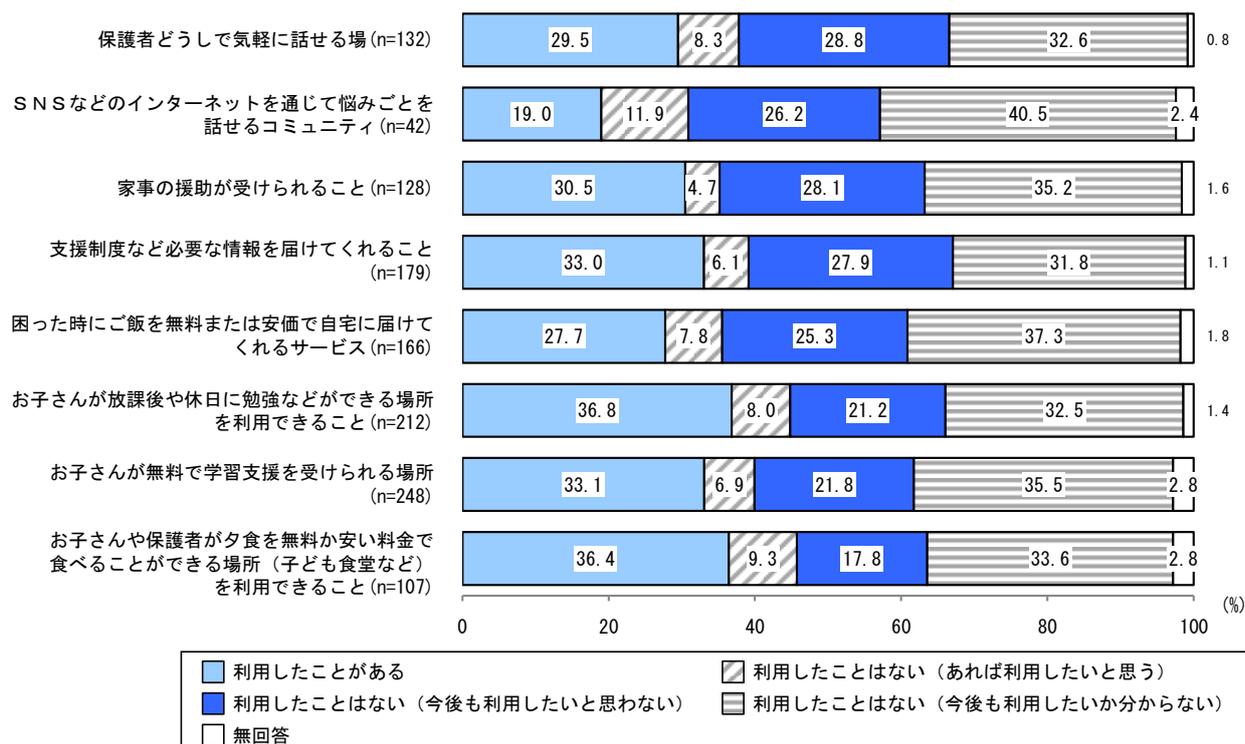
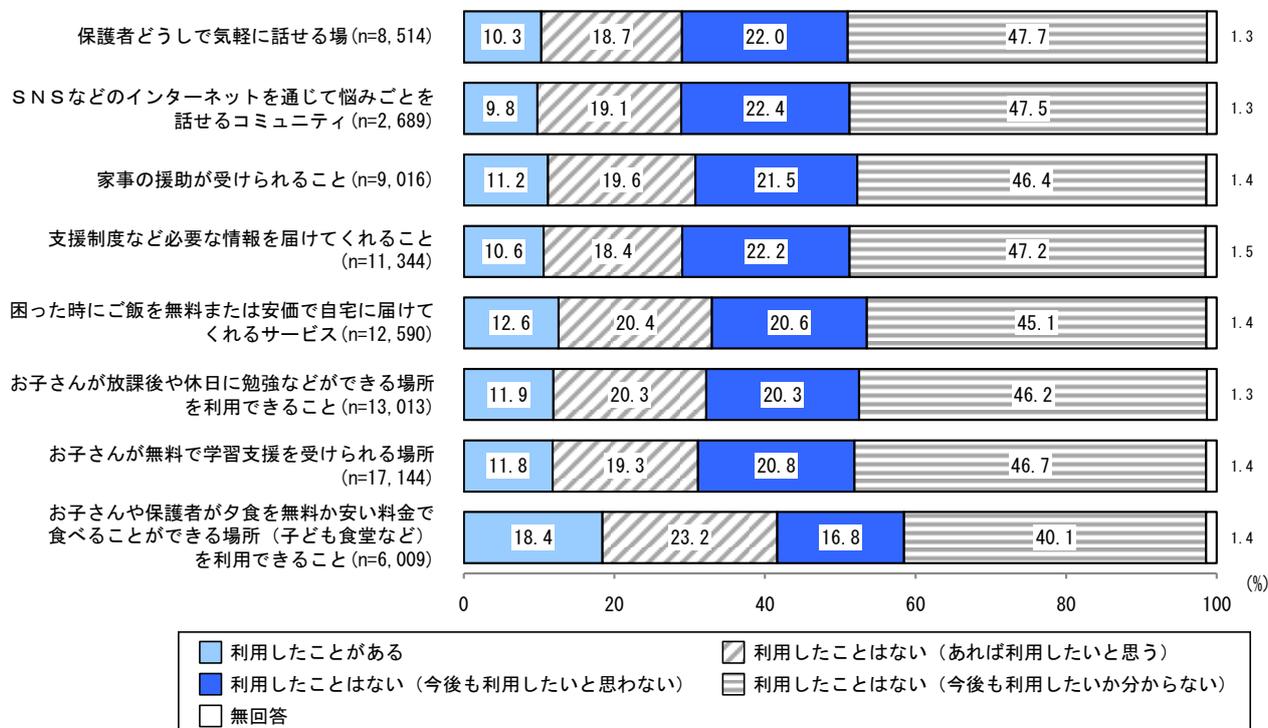


図 182. 身近にあるといいと思うこと別に見た、平日の夜や休日を過ごすことができる場所

身近にあるといいと思うこと別に平日の夜や休日を過ごすことができる場所を見ると、「利用したことがある」と回答した人の割合は「お子さんが放課後や休日に勉強などができる場所を利用できること」が36.8%で最も高く、次いで「お子さんや保護者が夕食を無料か安い料金で食べることができる場所（子ども食堂など）を利用できること」が36.4%となっている。

身近にあるといいと思うこと別に見た、昼食や夕食、お弁当を無料か安い料金で食べることができる場所（保護者票問 20×子ども票問 25(1)②）

<大阪府内全体>



<守口市>

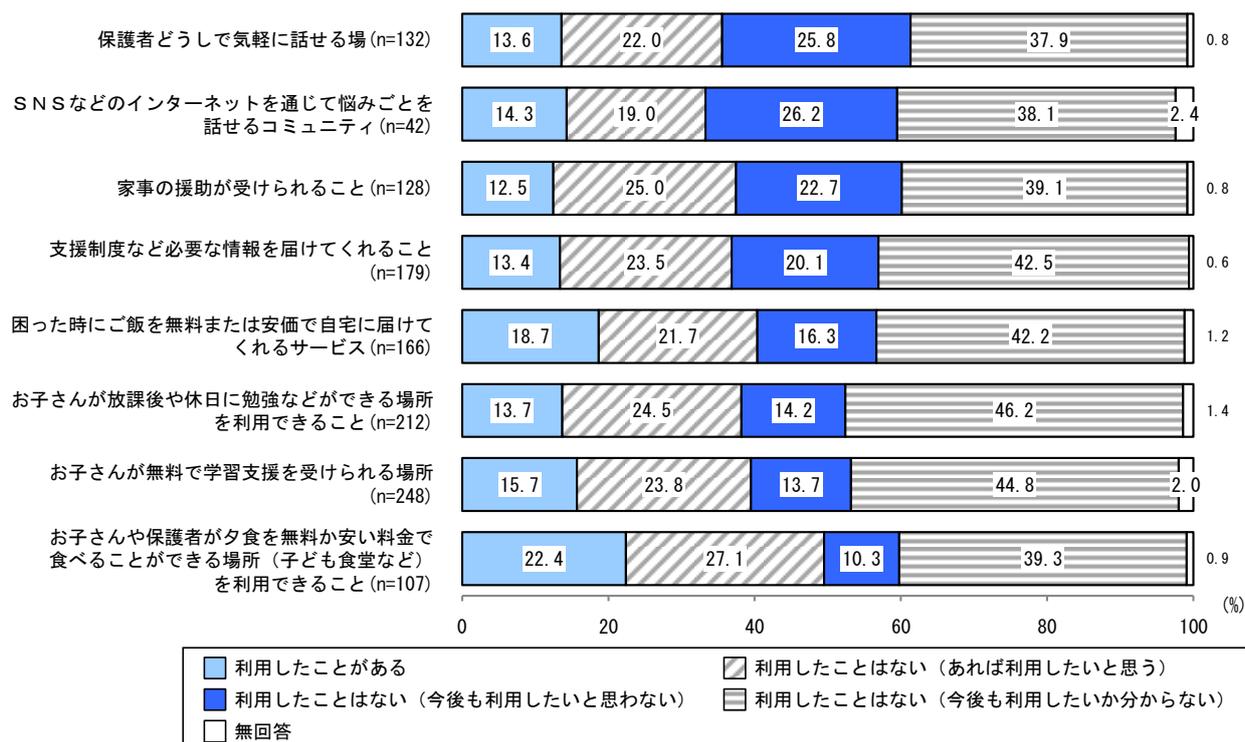
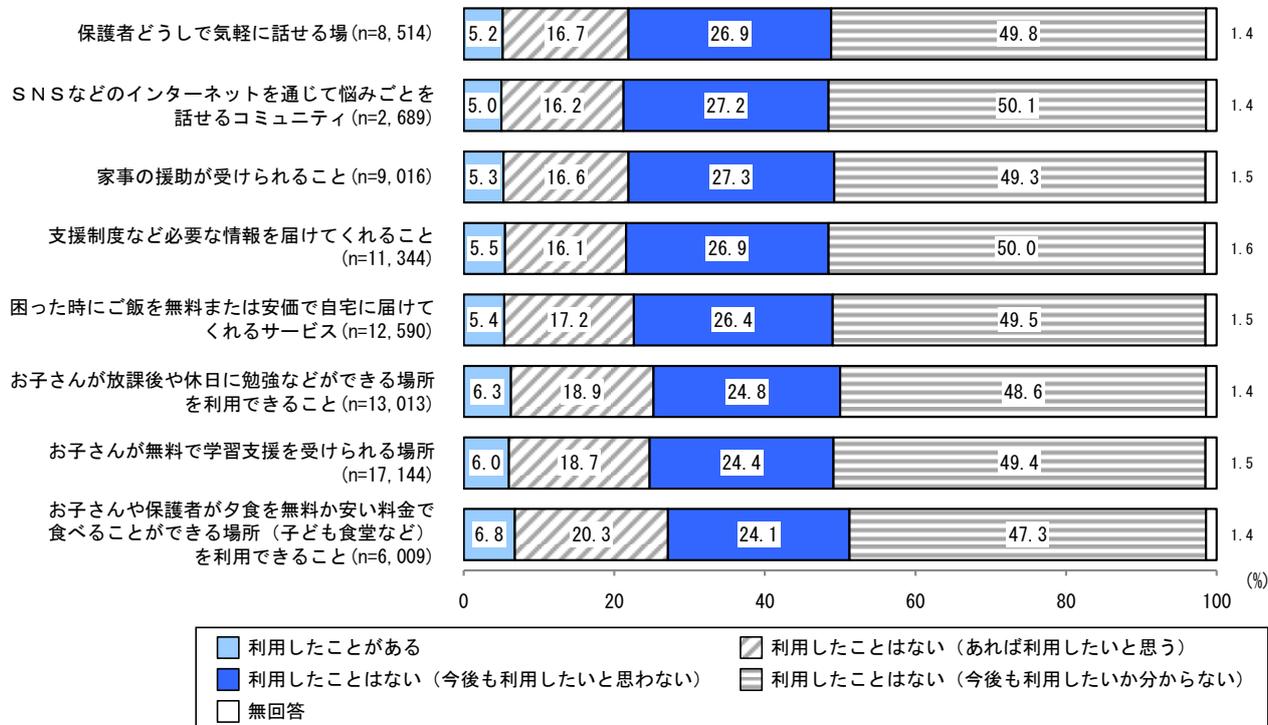


図 183. 身近にあるといいと思うこと別に見た、昼食や夕食、お弁当を無料か安い料金で食べることができる場所

身近にあるといいと思うこと別に昼食や夕食、お弁当を無料か安い料金で食べることができる場所を見ると、「利用したことがある」と回答した人の割合は「お子さんや保護者が夕食を無料か安い料金で食べることができる場所（子ども食堂など）を利用できること」が22.4%で最も高くなっている。

身近にあるといいと思うこと別に見た、勉強を無料か安い料金でみてくれる場所  
 (保護者票問 20×子ども票問 25(1)③)

<大阪府内全体>



<守口市>

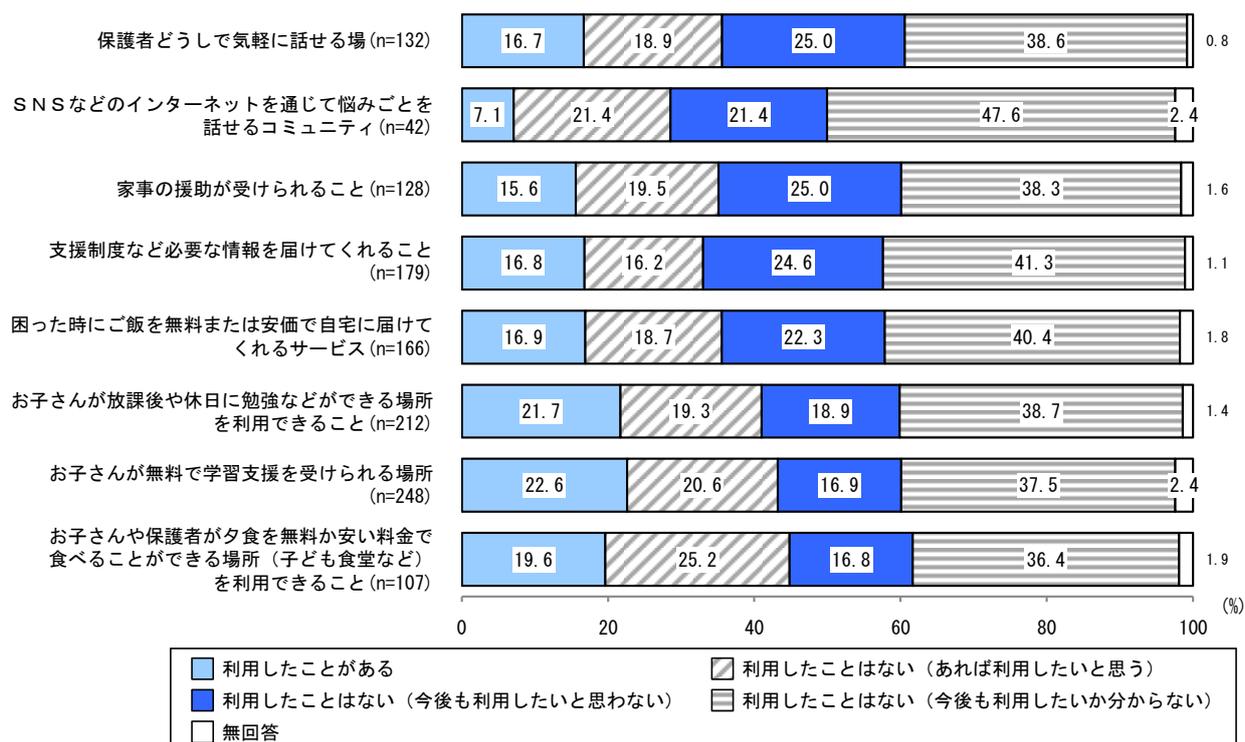
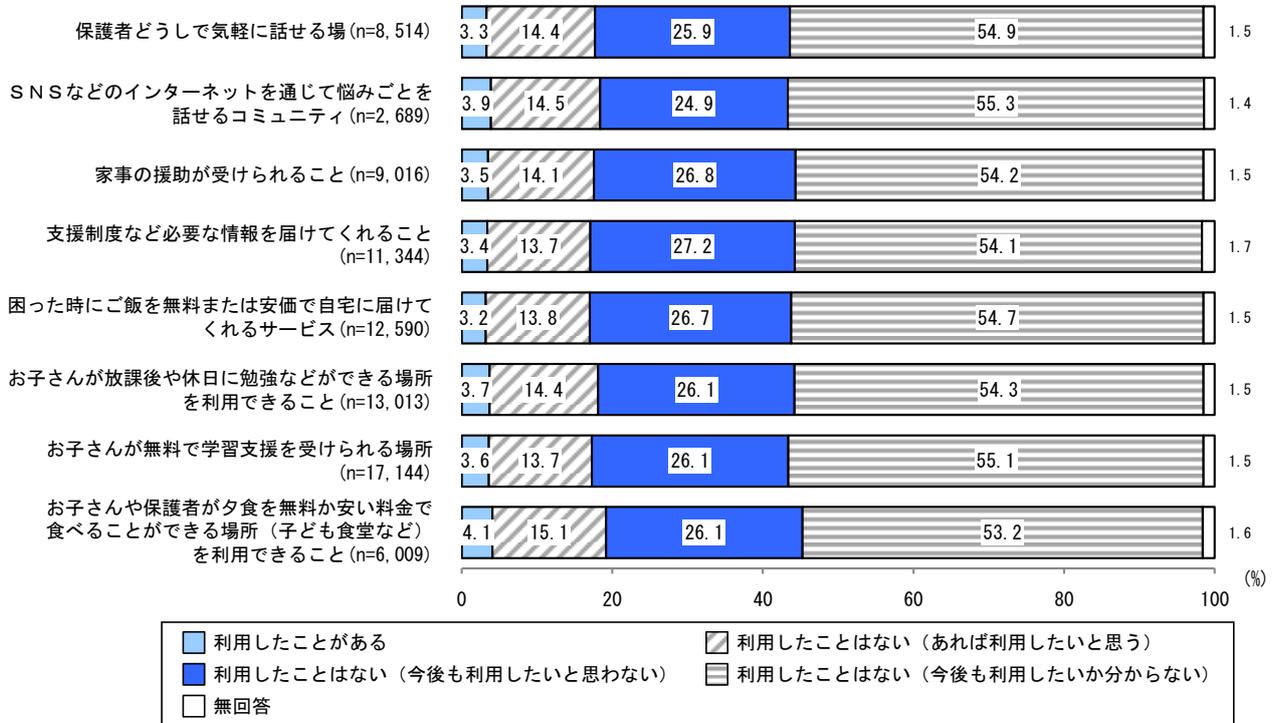


図 184. 身近にあるといいと思うこと別に見た、勉強を無料か安い料金でみてくれる場所

身近にあるといいと思うこと別に勉強を無料か安い料金でみてくれる場所を見ると、「利用したことがある」と回答した人の割合は、「お子さんが無料で学習支援を受けられる場所」が22.6%で最も高くなっている。

身近にあるといいと思うこと別に見た、何でも相談できる場所  
 (保護者票問 20×子ども票問 25(1)④)

<大阪府内全体>



<守口市>

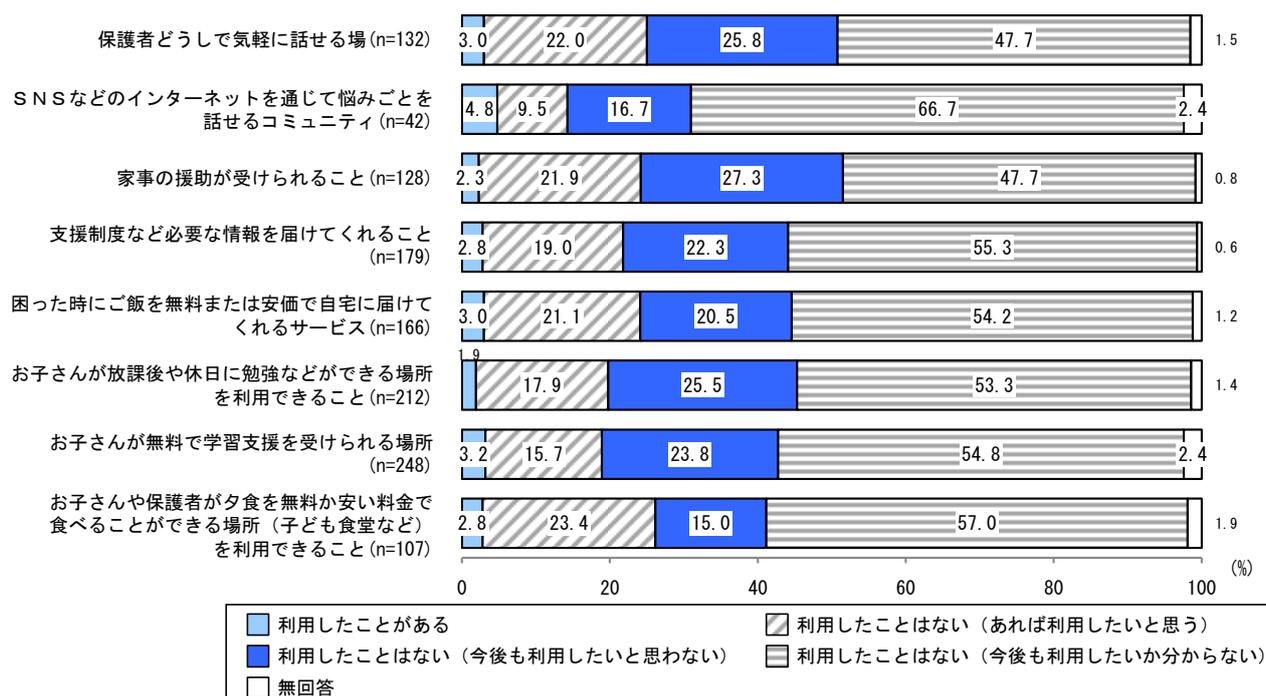
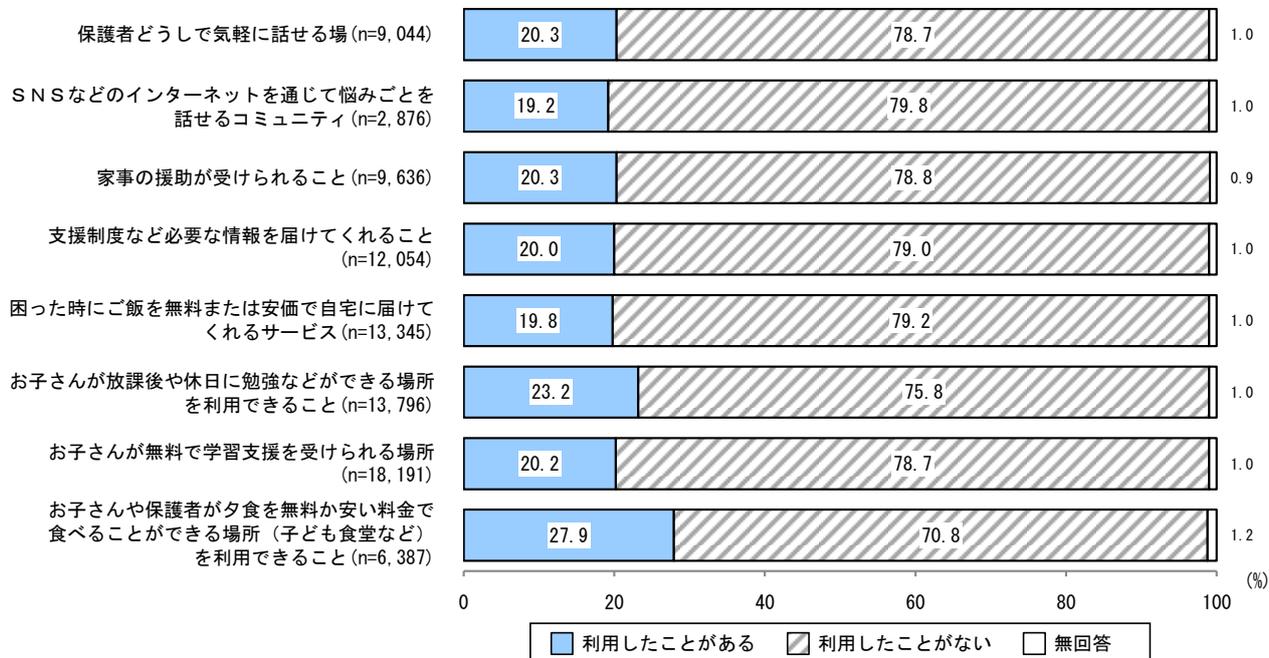


図 185. 身近にあるといいと思うこと別に見た、何でも相談できる場所

身近にあるといいと思うこと別に何でも相談できる場所を見ると、「利用したことがある」と回答した人の割合は、「SNSなどのインターネットを通じて悩みごとを話せるコミュニティ」が4.8%で最も高くなっている。

身近にあるといいと思うこと別に見た、子どもの居場所の利用有無  
 (保護者票問 20×保護者票問 16(1))

<大阪府内全体>



<守口市>

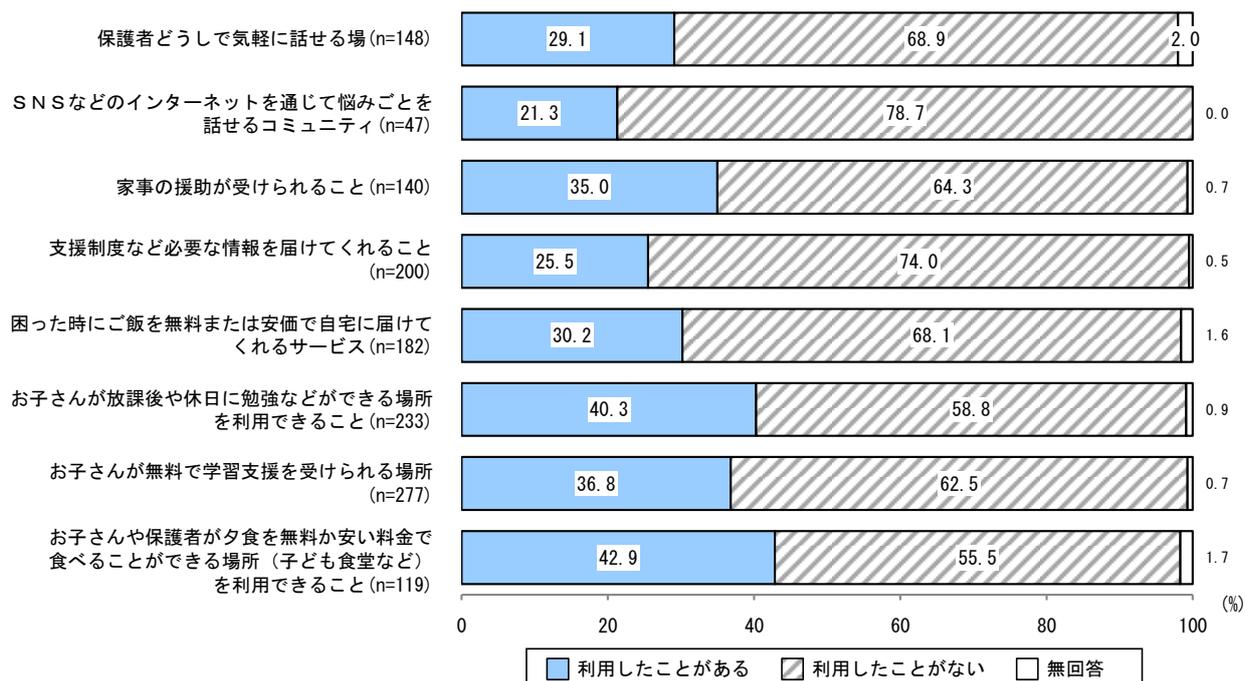
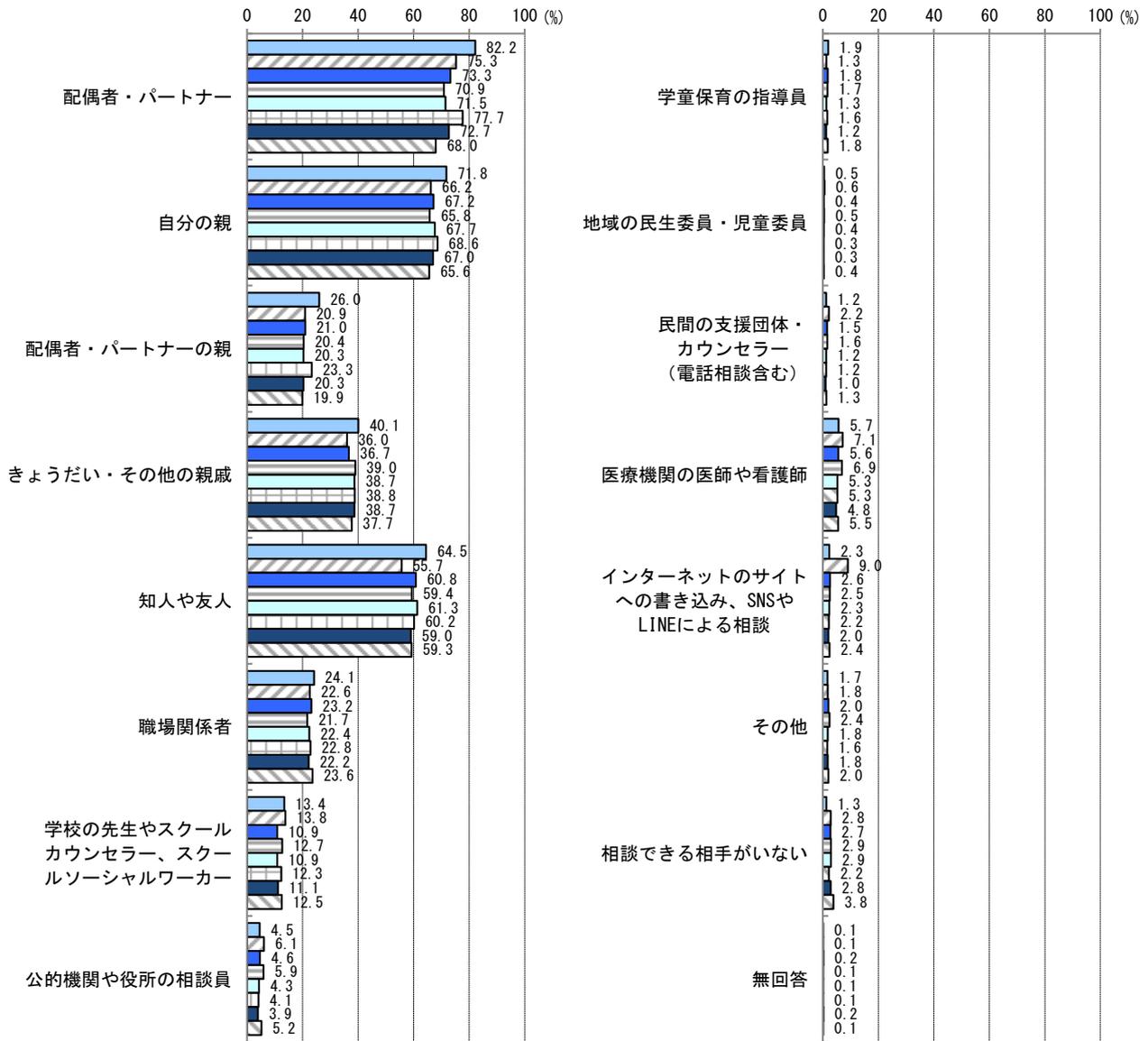


図 186. 身近にあるといいと思うこと別に見た、子どもの居場所の利用有無

身近にあるといいと思うこと別に子どもの居場所の利用有無を見ると、「利用したことがある」と回答した人の割合は、「お子さんや保護者が夕食を無料か安い料金で食べることができる場所（子ども食堂など）を利用できること」が42.9%で最も高く、次いで「お子さんが放課後や休日に勉強などができる場所を利用できること」が40.3%となっている。

身近にあるといいと思うこと別に見た、本当に困ったときや悩みがあるときの相談相手・相談先（保護者票問 20×保護者票問 19）

<大阪府内全体>



- 保護者どうして気軽に話せる場 (n=9,044)
- SNSなどのインターネットを通じて悩みごとを話せるコミュニティ (n=2,876)
- 家事の援助が受けられること (n=9,636)
- 支援制度など必要な情報を届けてくれること (n=12,054)
- 困った時にご飯を無料または安価で自宅に届けてくれるサービス (n=13,345)
- お子さんが放課後や休日に勉強などができる場所を利用できること (n=13,796)
- お子さんが無料で学習支援を受けられる場所 (n=18,191)
- お子さんや保護者が夕食を無料か安い料金で食べることができる場所 (子ども食堂など) を利用できること (n=6,387)

<守口市>

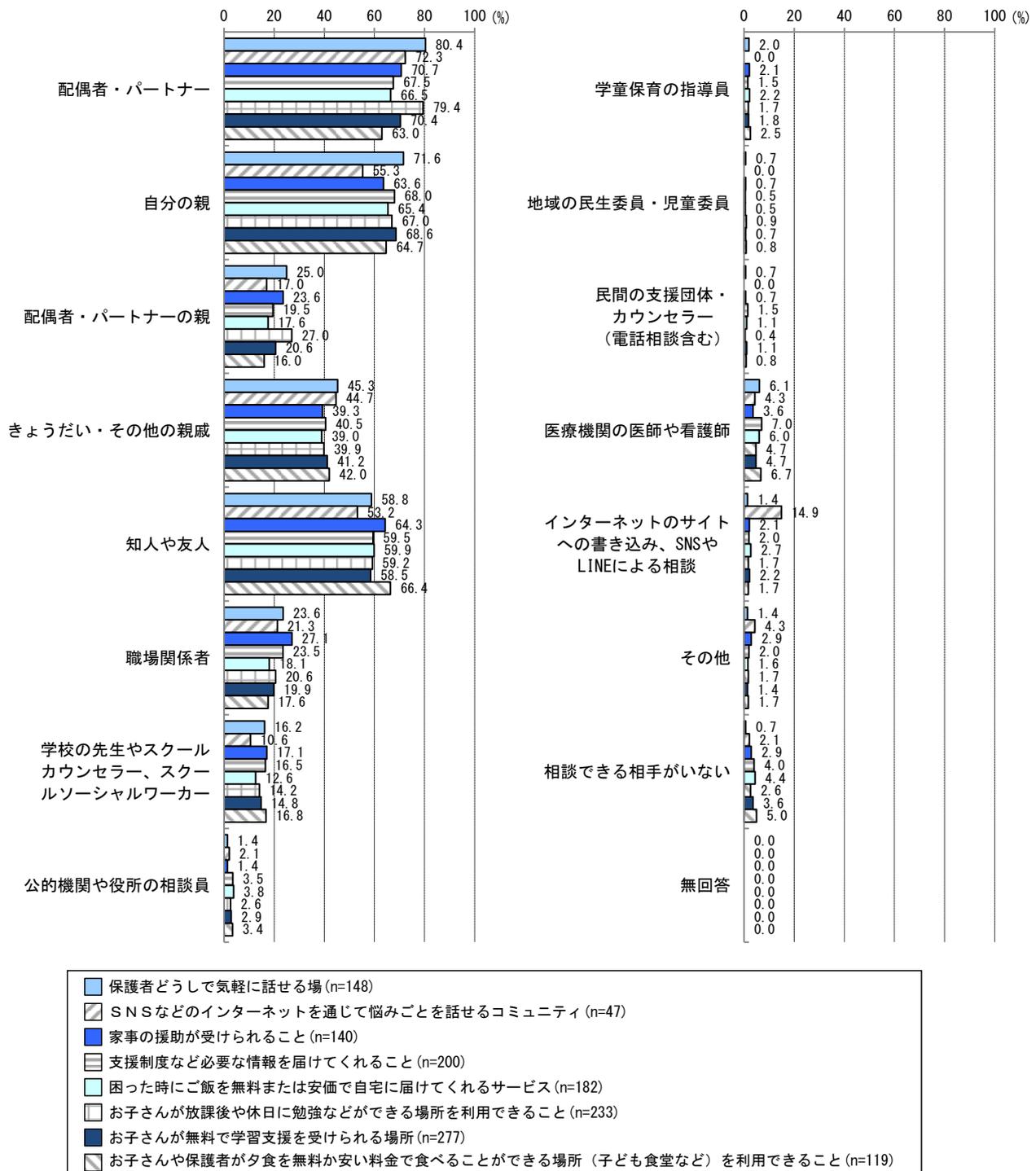


図 187. 身近にあるといいと思うこと別に見た、本当に困ったときや悩みがあるときの相談相手・相談先

身近にあるといいと思うこと別に本当に困ったときや悩みがあるときの相談相手・相談先を見ると、「配偶者・パートナー」と回答した人の割合は、「保護者どうして気軽に話せる場」が80.4%で最も高く、次いで「お子さんが放課後や休日に勉強などができる場所を利用できること」が79.4%となっている。

## <対人関係に関する考察>

中央値以上群と困窮度Ⅰ群間で差が大きい項目に着目した分析結果を以下にまとめる。子どもが「放課後に過ごす場所」では、経済状態に関係なく、「自分の家」(85.9%対86.5%)が最も多いが、経済状態で特徴があるところは、「塾」(27.8%対16.2%)が、中央値以上群が困窮度Ⅰ群と比べ、10ポイント以上、「習いごと」(29.0%対21.6%)および「学校(クラブ活動・部活動など)」(39.4%対31.1%)で、中央値以上群が困窮度Ⅰ群と比べ、5ポイント以上高くなっている。一方、「ともだちの家」(14.1%対24.3%)と「公園・広場」(25.7%対37.8%)では、中央値以上群よりも困窮度Ⅰ群の方が10ポイント以上高くなっている。また、「スーパーやショッピングモール」(6.2%対9.5%)、「コンビニエンスストア」(4.1%対8.1%)でも中央値以上群よりも困窮度Ⅰ群の方が高くなっている。これは利用費用発生の有無と関係している可能性がある。事実、「ゲームセンター」(3.3%対1.4%)では中央値以上群が困窮度Ⅰ群より高いが、「地域の居場所」(1.2%対2.7%)では困窮度Ⅰ群の方が高くなっている。子どもが「放課後に一緒に過ごしている人物」では、中央値以上、困窮度Ⅰ群共に「おうちの大人の人」(66.4%対66.2%)が最も高くなっているが、中央値以上群が困窮度Ⅰ群より高いのは、「おうちの人以外の大人」(24.5%対13.5%)、「クラブ活動・部活動の仲間」(40.2%対28.4%)で10ポイント以上高くなっているほか、「学校以外のともだち」(8.7%対4.1%)が高くなっている。更に、「生活での楽しいこと」については、中央値以上群は困窮度Ⅰ群と比べ、「特に楽しいと思うときはない」以外ですべて高く、特に「学校生活やクラブ活動・部活動に参加しているとき」(52.7%対47.3%)、「今、住んでいる地域の行事に参加しているとき」(16.2%対10.8%)で5ポイント以上高くなっている。一方、「悩んでいること」については、「いやなことやなやんでいることはない」(41.1%対37.8%)以外すべてにおいて中央値以上群より困窮度Ⅰ群が高くなっており、特に「学校や勉強のこと」(16.6%対24.3%)では5ポイント以上高くなっている。これらの結果から、経済状況が子どもの教育的活動へのアクセス、家族以外の社会的交流や人間関係を形成する機会が制限されるだけでなく、子どもの自己効力感にも影響を及ぼす可能性があることが示唆される。

経済状況と「いやなことや悩んでいるときの相談相手」の関係では、中央値以上群と困窮度Ⅰ群で共通して、「親」「きょうだい」「学校のともだち」「学校の先生」に回答が多くなっているが、「親」(73.9%対63.5%)、「学校のともだち」(57.3%対51.4%)、「学校の先生」(25.3%対20.3%)ではいずれも中央値以上群が困窮度Ⅰ群よりも5ポイント以上高くなっている。中央値以上群よりも困窮度Ⅰ群が高いのは、「きょうだい」(16.6%対18.9%)だけであった。また、「平日の夜や休日を過ごすことができる場所」の「利用経験がある」(33.6%対31.1%)、「昼食や夕食、お弁当を無料か安い料金で食べることができる場所」の「利用経験がある」(13.3%対12.2%)、「勉強を無料か安い料金でみてくれる場所」の「利用経験がある」(16.2%対13.5%)はいずれも中央値以上群が困窮度Ⅰ群より高く、反対に、「利用経験なし」では、「平日の夜や休日を過ごすことができる場所」(34.4%対37.8%)、「昼食や夕食、お弁当を無料か安い料金で食べることができる場所」(42.7%対45.9%)、「勉強を無料か安い料金でみてくれる場所」(42.7%対44.6%)といずれにおいても中央値以上群よりも困窮度Ⅰ群の方が高くなっている。これらの結果から、経済的困難な家庭では、子どもに必要な支援が十分には提供されておらず、社会的支援を必要としている可能性が示唆される。

一方、困窮度別に保護者の相談相手を見ると、中央値以上群は困窮度Ⅰ群と比べ、「配偶者・パートナー」(82.7%対43.0%)に相談する割合が30ポイント以上も高くなっている。また、世帯構成別に保護者の相談相手を見ると、母子世帯はふたり親世帯と比べ、「相談できる相手がいない」(10.3%対1.0%)が5ポイント以上高くなっている。これからの結果は、経済状況や世帯構成に

よって保護者の相談相手が異なり、特に困難な経済状況にある世帯や特定の世帯構成の保護者が支えや相談相手の不足を経験している可能性が示唆される。

また、子どもの居場所の利用有無別に保護者の相談相手・相談先をみると、子どもが居場所を利用している家庭は、そうでない家庭と比べて、「きょうだい・その他の親戚」(47.5%対34.7%)で10ポイント以上高く、「学校の先生やスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー」(16.6%対10.6%)、「医療機関の医師や看護師」(7.7%対2.3%)、「配偶者・パートナー」(78.5%対72.8%)で5ポイント以上相談する割合が高くなっている。この結果から、子ども居場所の利用に際して周囲の関係者から様々な専門家や機関との連携がなされ、総合的なサポート体制が機能していることが示唆される。

### Ⅲ 総合考察

本報告書における「子どもの貧困」概念の捉え方であるが、基本的に、大阪府が2016年に実施した子どもの生活に関する実態調査で扱った貧困概念に基づいている。簡単に述べると、子どもの貧困を相対的貧困で捉えた上で、①所得や資産などの経済的資本、②健康や教育などのヒューマン・キャピタル、③つながりやネットワークなどのソーシャル・キャピタルの3つのキャピタルの欠如を枠組みとしている。この数年で、「子どもの貧困」「相対的貧困」概念も十分に知られるようになったことから、詳細な説明はここでは割愛するが、山野則子編著（2019）を参照されたい。

次に、総合考察においては、守口市が実施した数値で検討を行う。各ページにはグラフコメントやクロス分析を考察したセクションコメント（経済状況、雇用、健康、家庭状況制度、家庭生活と学習、対人関係）を記載している。総合考察において、同じことを書くのではなく、総合考察として、これらセクションコメントを踏まえ、まさに考察すべきものを中心に記載している（一部、要望により同傾向でも記載あり）。単純集計はセクションコメントに出てこないため、可能な限り数字を入れて説明する。そして、全体はこれらの結果から政策の評価を行うものである。

#### 1) 大阪府共同調査の意義

本調査では、守口市の調査のみならず大阪府内43自治体で共同実施して把握したことは、その回答者数の多さにおいても都道府県レベルで域内すべての自治体の対象者が入っている点においても、意義がある。その上で、大阪府内全自治体の結果は、傾向として守口市の調査結果を裏付けるものであった。これは無作為抽出であっても全体と比較してみることで、傾向の把握が可能であり、信頼性があることを示すものとなった。

本報告では、すべての項目に大阪府内全自治体のグラフを入れることで、結果をわかりやすくしている。本調査は、子どもの貧困対策の評価につながる基礎調査である。

#### 2) 単純集計

##### <経済面・家庭状況制度面>

可処分所得の分布について、実態が明らかになった。

守口市の保護者全体では、「450～500万円未満」が7.8%で最も高く、「550～600万円未満」が7.7%、「500～550万円未満」が6.5%、「600～650万円未満」が4.9%の順に高くなっている。小学5年生の保護者では、「450～500万円未満」が9.3%で最も高く、「550～600万円未満」が7.3%、「400～450万円未満」が5.9%の順に高くなっている。中学2年生の保護者では、「550～600万円未満」が8.5%で最も高く、「500～550万円未満」が7.3%、「450～500万円未満」が5.8%の順に高くなっている。以上のことから、小学5年生の保護者では「450～500万円未満」が最も高く、中学2年生の保護者では「550～600万円未満」が最も高くなっている。

また、守口市の等可処分所得の中央値は263万円、国の定める基準で算出した相対的貧困率は17.4%であった。なお、前回調査（2016年）における大阪府内全自治体における相対的貧困率は14.9%であった。

守口市では、2023年度の調査（以後、今回調査とする）で、24.8%の世帯が赤字となっている。また赤字世帯の割合は、中学2年生の世帯が小学5年生の世帯よりもわずかながら大きい。これはクラブ活動や通塾にかかる費用が小学生よりも中学生で大きく、家計をより圧迫してい

ることに十分対応できていないためと考えられる。さらに、子どものための貯蓄をしたいができていない状態が35.5%となっている。

経済的な理由で経験できなかったこと（はく奪項目）について、生活における食費の切りつめやレジャーを控えるなどの項目は、どれにもあてはまらないという回答は今回30.3%であった。

ただし、経済的理由による子どもに関する経験（子どものはく奪）に関しては、「子どもを医療機関に受診させることができなかった」が今回0.7%となっている（「子どものための本や絵本が買えなかった」が今回4.7%、「子どもの学校行事（遠足や修学旅行など）に参加させられなかった」が0.2%、「子どもを学校のクラブ活動に参加させられなかった」が1.0%、「子どもの誕生日を祝えなかった」が1.3%、「子どもを習い事に通わすことができなかった」が14.2%、「家族旅行（テーマパークなど日帰りのおでかけを含む）」が19.4%など）。この「子どもを医療機関に受診させることができなかった」割合が0.7%であることは、子どものいる世帯における医療面での施策が守口市においても確実に実施され、その成果が出たものと思われる。

また、子どもが持っているものや使えるものを見ると、本は67.4%、子ども部屋が67.0%、自転車は88.8%である。また、スマートフォンやタブレットが80.5%であり、これは特にタブレットが学校から配布されている成果であろう。

以上から、家計の状況は少し改善がみられ、医療補助を受けられない究極の場合は少なくなるなど効果的であったが、基本的には家計の改善を子どもに回す余裕には至っていない。経済的理由による子どもにできなかった経験（上記に挙げたようなこと）がどの家庭でも実現できるような方策が非常に重要である。

養育費の取り決めについては、今回養育費の取り決めをして受け取っているのは2割強であった。反面、養育費を取り決めていないが受け取っていないのは約3割となっている。2016年度全国ひとり親世帯等調査（厚生労働省2017）では、ひとり親家庭のうち養育費についての取り決めをしている割合が母子世帯で62.9%、父子世帯で20.8%、ひとり親家庭で養育費を受け取っていない子どもの割合が、母子世帯69.8%、父子世帯90.2%という値であった。したがって今回の結果は、今後の養育費関連の施策の基礎点となると考えられる。

## <雇用・健康>

持ち家などの居住形態についての実態が明らかになった。学歴については、母親の学歴を取り上げると、高校卒業が27.7%、大学卒業が22.5%となっている。雇用状況では、何らかの仕事をしている母親は、84.5%となっている。そのなかで、正規職員が24.9%となっている。これらは、世の中の人手不足と相まって働く人が増加したことにより、可処分所得も増加したことと関連するであろう。社会の認識の変化や政策による変化があったのではないかと考えられる。子どもの貧困の世論が広まり、各所に出された政策の効果を反映したものと考えられよう。

支援制度の利用状況は、就学援助は15.8%、児童扶養手当が前回15.0%、生活保護が0.8%であった。就学援助制度について、「利用したことがない」との回答が71.0%であり、その理由は、「制度の対象外だと思うから」が利用経験のない者の88.1%で大多数がそう思っていることがわかった。この数値は可処分所得の結果から考えてももっと受けることができる世帯があると思われるが、受けていない。「あなたには受ける権利がある」メッセージを必要な人にどう届けるのかが大きな課題であり、各制度を正しく知らせ、他人ごとにせず、そこでのスティグマを無くし受けやすくする工夫がさらに必要である。

## <健康・家庭生活・学習・対人関係>

まず食事から確認する。「朝食を食べない」（週に1回も食べていない）が3.6%であった。食べない理由に「用意されていないから」が1.3%、「食べる習慣がない」が7.5%であった。小学生の37名、中学生の43名が毎日は食べていない。このことは改善すべき喫緊の課題である。また、家族の人と食事をしていない子どもは、「ほとんどない」、「まったくない」を合計して、朝食では、小学5年生の子どもが56名いること、夕食では小学5年生で7名の子どもがおうちの人と夕食を食べていない。これらは警鐘をならすべきこととしてとらえるべきである。

おうちの人と関わる設問について、放課後過ごす場所は、「友だちの家」が18.0%、「学校（クラブ活動など）」が31.4%となっており、この割合はコロナの影響による社会的交流が減ったことの影響を受けている可能性が考えられる。友人との関係性が薄れることは、孤立や孤独へ向かう懸念も生じる。

勉強に関しては、今回調査から「授業がわからなくなった時期」をたずねており、小学生なら3、4年生および小学5年生（どちらも35.3%）、中学生なら1年生（47.5%）でつまづいていることがわかった。相談相手では、誰にも相談できない、相談したくないと感じている子どもは、6.3%となっている。身体の状態で気になることは、「とくに気になるところはない」が37.1%（体調）、「やる気が起きない」において「そんなことはない」が29.4%であった。悩みについては、最も多いのが、「学校や勉強のこと」について「自分のこと（外見や体型のこと）」、「進学・進路のこと」であった。

制度やサービスでいうと、子どもの居場所において、「平日の夜や休日過ごす居場所」の利用では小5で32.8%、中2で25.6%の子どもが利用したことがあり、「食事提供の居場所」は小5で15.7%、中2で12.2%、「学習支援の居場所」は小5で18.1%、中2で14.1%、「何でも相談できる場所」は、小5で2.3%、中2で3.0%の子どもが利用したことがあった。これらと併せて、居場所の効果として「友だちの増加」が小学生で34.1%、中学生で34.9%、「生活の中に楽しみなことが増えた」は小5が20.3%、中2が11.0%、「気軽に話せる大人が増えた」は小5で18.8%、中2で11.9%という結果であった。このことは今後の展開に大きな意味をなすであろう。ただし、中学2年生は、友達が増えたと回答する反面、同じくらい「特に変化なし」（31.2%）と回答している。そのため、早期に居場所に繋ぎ、居場所が誰にとっても当たり前の選択肢にする必要がある。「平日の夜や休日過ごせる居場所」以外は、利用頻度は「食事提供の居場所」約15%、「学習支援の居場所」約15%、「何でも相談できる場所」は2.6%と少なくなり、将来の利用に関する積極的な利用希望も「食事提供の居場所」が小中合わせて19.3%、「学習支援の居場所」が小中合わせて16.9%になる。子どもたちの希望があるととらえられ、「放課後過ごす場所」において、「友だちの家」や「学校（クラブ活動など）」が低調であることと併せて、子どもたちに多くの選択肢を提供できる方がよいと考えられること、自分には関係ないと考える傾向があるかもしれないこと、などから居場所の充実とより自然な提供が望まれる。

最後に、ヤングケアラーの項目である「家族に世話をしている人」がいるかどうかについては、厚生労働省の研究事業として実施された調査結果と比べると、小学生6.5%（日本総研2022）、中学生5.7%（MURC2021）という値よりはるかに高い、小5が21.7%、中2が15.6%であり、内容もきょうだいの世話が最も多く、小5は76.9%（小学6年生28.5%：日本総研2022）、中2が76.2%（中学生79.8%：MURC2021）である。小学生の世話が国に比べてきょうだいの世話の割合が高い。「家事」は、本調査では複数の質問にまたがっていることや複数回答可にしていることから単純に比較できないが、先述した厚生労働省の研究事業では、小6の世話の内容を家事と答えたのが、35.2%（日本総研2022）できょうだいの世話より高いが、本調査では逆であった。時間をみると1時間未満が最も多く、定義のあいまいさが子どもに答えにくくさせている可能性も

あるであろう。今後、イギリスのように定義を明確にしていくことも検討を行う必要がある。

今回の調査で保護者が身近にあるといいと思うことは、上位3つが「無料で学習支援が受けられる場所」45.1%、「放課後や休日に勉強などができる場所を利用できること」37.9%、「困ったときにご飯を無料または安価で自宅に届けてくれるサービス」29.6%であった。学習に関して最も気にしていることがわかり、これらのサービスを利用している率の低さから、身近に届けられるような工夫が必要である。

### 3) クロス集計

政策における（経済状況、支援制度、雇用、健康、家庭生活と学習、対人関係）について、できなかった経験、つまりはく奪指標との関連が明らかになり、課題が明らかになった。

経済状況に関しては、以下の課題が明らかになった。

#### 1. 生活上の困難と経済状況

経済的に困難な家庭では、「通常であれば可能な生活」を送ることが難しい。中央値以上群の40.0%が「どれもあてはまらない」と回答したのに対し、困窮度Ⅰ群では14.0%のみである。また、困窮度Ⅰ群では、中央値以上群と比較して、生活面での困難が顕著である。例えば、電気・ガス・水道の停止が7.0%、家賃や住宅ローンの滞納が9.3%、通信料の滞納が9.3%である。さらに、困窮度Ⅰ群では、国民年金の支払い滞納が23.3%であり、中央値以上群では1.5%である。

#### 2. 子どもの教育への影響

経済的に困難な家庭の子どもは、進路変更、習い事や塾への参加が制限されおり、困窮度Ⅰ群で「進路変更あり」が7.0%、「習い事ができない」が36.0%、「塾に通えない」が38.4%となっている。

#### 3. 子どもの多様な体験への影響

困窮度Ⅰ群では、「家族旅行ができなかった」割合が45.3%、中央値以上群では11.5%となっており、大きな差が見られる。しかし、その他はそれほど大きな差は見られず、全体としてはどの層であっても子どもに多様な体験を提供している家庭が多い。

#### 4. 貯蓄状況の格差

困窮度Ⅰ群では、「貯蓄をしている」割合が38.4%であり、中央値以上群では77.7%である。また、困窮度Ⅰ群では、「貯蓄をしたいができていない」割合が35.5%である。したがって、経済的困難な家庭では、子どもに関する急な出費や子どもの将来への投資が困難になると考えられる。

#### 5. ヤングケアラーの状況

「世話をしている人がいる」と回答した割合は19.2%であり、困窮度Ⅰ群（24.3%）で中央値以上群（16.6%）よりも高くなっている。したがって、守口市では特に経済的困難な家庭においてヤングケアラーの割合が多く、早急に対応すべき課題であると考えられる。

以上より、困窮度の高い家庭の生活上の困難と家計の厳しさが示された。また、コロナ禍となったこともあり、経済的リスクのしわ寄せが子どもにも向かった可能性がある。経済状況により、生活格差、教育格差、体験格差が生じている。また将来に対する子どもへの教育投資やリスク対策にも影響が出ている。しかし、これは絶対に避けなければならないことであり、警鐘を鳴らす必要性とともに対策を講ずべきである。

支援制度に関しては、以下の課題が明らかになった。

家庭における「自分を大切にすること」「将来を見せるような予防的な教育支援」が重要である。加えて「出産などによって学業を中断せざるを得なかった10代への教育支援」や「就業支援特に困窮度の高い家庭やひとり親世帯での支援」が不可欠であることが示された。また、若い母親の教育継続や再開に対する支援の必要性も明らかになった。

#### 1. 就学援助の利用状況

困窮度が高い家庭ほど就学援助の利用率が高い。実際、全体での就学援助の利用率は15.8%であるが、困窮度別に見ると、困窮度Ⅰ群では57.0%、困窮度Ⅱ群では44.4%と利用率が高い。したがって、社会保障制度の捕捉率向上のため、給付の要件緩和や手続きの簡素化が必要である。

#### 2. 児童扶養手当の利用状況

ひとり親世帯、特に困窮度の高い家庭で児童扶養手当の利用率が高い。ひとり親世帯を対象とした児童扶養手当の利用率は全体で58.7%であり、困窮度Ⅰ群では78.9%、困窮度Ⅱ群では80.0%と高くなっている。

特に困窮度が高いひとり親世帯ほど、児童扶養手当の利用を必要としている状況が浮き彫りになった一方で、生活保護制度の利用率は全体的に低く、一定の貧困層が漏れ落ちている可能性がある。

#### 3. 生活保護制度の利用状況

生活保護制度の利用率は全体で0.8%と低い。困窮度Ⅰ群では3.5%、困窮度Ⅱ群の世帯では利用者がいない。したがって本調査からは、生活保護制度の利用が必要な一部の貧困層が把握されていない可能性がある。

#### 4. 養育費の取り決めと受け取り状況

養育費の取り決めや受け取りを行っている世帯の割合は低い。ひとり親世帯で養育費の取り決めや受け取りをしている世帯は全体の23.8%にとどまり、特に困窮度Ⅰ群では11.1%であり、この状況が顕著である。

ひとり親が養育費の取り決めを行うことの困難さが浮き彫りになり、離別後の養育費取り決めには相談機関等の支援が必要である。

#### 5. 母親の初産年齢と最終学歴

若い母親は学業を中断する傾向がある。初めて親になった年齢が10代で、中学校卒業や高等学校中途退学が多い。

まず、「就学援助制度」は困窮度が高い世帯であっても利用が多いとは言えず、「生活保護制度」では利用が少ない。つまり、経済的に厳しい家庭であっても、これらの制度利用は進んでいるとは言えず、状況が悪化している可能性も考えられる。

子育て世帯生活支援特別給付金の利用状況は、本調査において全体で7.4%、新型コロナウイルス感染症に伴う生活福祉資金は1.3%である。全国レベルのデータを見ると、2020年コロナ発生後の10月の調査（厚生労働科学特別研究）において、収入200万未満の世帯で35.6%（山野研究室2021）である。これらの数値を直接比較することはできないが、いずれにおいても割合の低さから、2016年以降子どもの貧困が周知されるようになり、コロナ禍となって、さらに支援制度の広がりや周知が今まで以上になされたが、大阪においてもその活用が広がり切れなかったと言わざるを得ない。これら最も厳しい世帯における利用が減少した要因を探る必要がある。

10代で親になった世帯の厳しさは、たとえば母親の最終学歴について初めて親となった年齢別では、中卒（「中学校卒業」および「高等学校中途退学」）が他の年齢群に比べて高い割合を示している。また、就労状況において正規社員の割合が、他の年齢群と比べて低くなっている。

そのため、出産などによって学業を中断せざるを得なかった10代への教育支援や就業支援もさることながら、そもそもの予防的支援として、自分を大切にすることや将来を見ずえるような教育的支援が必要である。例えば、小学生から高校生まで、性教育を含む生きる教育（西澤・西岡ほか2022）の積極的な導入を進めるべきである。またスウェーデンで行われる、実際の社会問題と向き合い、制度を知り選択できる力を養う社会科授業の実施など、思い切った根本的な教育改革が必要である。

雇用に関しては、以下の課題が明らかになった。

経済状況は保護者の就労状況、特に正規雇用か非正規雇用かに大きく影響を受けており、学歴も就労形態に関連している。また、世帯構成によっても就労状況に違いがあり、これが家計の状況、特に貯蓄の有無に影響を及ぼしている。

### 1. 保護者の就労状況と学歴

困窮度が高い家庭では、保護者が非正規雇用として就労している割合が高くなっている。また、高学歴の保護者は、低学歴の保護者に比べて正規雇用で就労している割合が高い。これらの結果は、父母別に見ても同様の傾向が見られる。

### 2. 世帯構成と保護者の就労状況

母子家庭では、ふたり親世帯に比べて正規雇用で就労している割合が半分程度であり、多くが非正規雇用を占めており、就労状況が不安定であることが示唆される。

### 3. 就労状況と家計の状況

保護者が非正規雇用として就労している場合、正規雇用と比べ貯蓄できる割合がかなり低く、家計が赤字になる割合も高くなっている。

非正規雇用で困窮度が増すことや、最終学歴が低いほど困窮度Ⅰ群に占める割合が高くなる傾向がある。世帯構成と就労状況の関係を見ると、ふたり親世帯と比べて、母子世帯では非正規雇用の割合が高くなっており、母子世帯へのさらなる重点支援を検討すべきである。

健康に関して、以下の課題が明らかになった。

経済状況は家庭の生活習慣、特に朝食の摂取や子どもの健康状態に影響を与えており、親子関係や子どもの自己効力感にも関連している。また、経済的な困難さが保護者の健康やメンタルヘルスにも影響を及ぼしていることが示唆される。

#### 1. 生活習慣

困窮度が高い家庭の子どもは、自覚症状として「よく頭が痛くなる」や「ねむれない」「やる気が起きない」といった身体面や精神面での不調を感じる割合が高く、保護者も同様の結果が見られる。一方、中央値以上群の家庭の子どもは、朝食をほぼ毎日食べる割合が高く、保護者も生活を楽しみ、ストレスを発散できている割合が高い。

#### 2. 経済的な理由による経験

経済的な理由による経験の該当数が増えるにしたがって、子どもと保護者の両方でメンタルヘルスの不調を感じる割合が高くなっており、経済的な困窮がメンタルヘルスに影響を及ぼしている可能性がある。

#### 3. 保護者の就業状況と生活習慣

どのような形態であっても保護者が就労している場合には、朝食をほぼ毎日摂っている割合は高く、朝食を摂る生活習慣が家庭内で確立している傾向がうかがえるが、無業の場合は朝食を毎日摂れていないのが現状であり、対策が必要であると考えられる。

#### 4. 食事習慣と親子関係、子どもの健康状態

朝食を毎日摂る家庭では、子どもに対する信頼や会話の頻度が高く、子どもの自己効力感も高いことから、毎日規則正しく朝食を摂ることは、保護者と子どもの関係をよりよくし、子どもの自己効力感も高める可能性がある。

困窮度が増すほど身体面、精神面不調が高くなる。セクションコメントで述べてきたように、毎日の規則正しい朝食・昼食習慣が、保護者と子どもがよりよい関係となって、子どもの自己効力感を高める可能性があり、自己肯定感や将来の夢や目標があるほど、日常生活の中で元気に過ごしているという傾向があることから、基本的な生活習慣を維持できるような取り組み、将来の夢や目標が持てるような取り組みの工夫が必要である。

家庭生活や学習に関して、以下の課題が明らかになった。

経済状況は子どもの朝食習慣、保護者との関係性、学習習慣に影響を与えており、特に困窮度が高い家庭ではこれらの面での困難が顕著であることが示された。また、保護者の学歴や子どもの他者への世話の有無が、子どもの学習状況や進学希望に影響を及ぼしていることが明らかになった。

#### 1. 朝食および学校への遅刻と家庭生活

経済的に困難な家庭では、子どもが保護者と一緒に朝食を食べる割合が低く、そのため学校に遅刻しやすくなっている可能性がある。また、遅刻する子どもは、保護者との関わりが少なく、保護者の期待度も低い。

## 2. 経済状況と学習習慣

経済的に困難な世帯の子どもは、勉強時間が少なく、学習理解度も低い。また、大学進学を希望する子どもの割合についても困窮度が高いほど低い。

## 3. 朝の習慣と学習習慣

起床時間の規則性や朝食の摂取習慣は学習習慣に大きな影響を及ぼしている。また、遅刻する子どもは学習理解度も低い。

経済状況が保護者と子ども間のコミュニケーションや子どもの生活リズムに影響を及ぼしうると考えられる。遅刻頻度の高さは保護者と子ども間のコミュニケーション不足を暗示しうる。経済的に困難な世帯の子どもは、通学が難しくなっているほか、学習習慣や家庭内の文化活動の習慣がなく、結果的に学習理解が不十分となっている可能性が示された。また、子ども自身も大学以上の高いレベルの教育を望まなくなっており、これは経済的事情と学習理解の低さのいずれもが要因となっている可能性がある。子どもの将来に関して、経済的に困難な世帯の子どもは、将来への希望が持てていない。

また、経済状況が生活習慣や学習習慣の形成に影響が出ている可能性が示唆された。また、生活習慣が身につけていないと遅刻につながり、学習理解に影響が出ている可能性がある。

こうした学習習慣と家庭状況は大きく関係するため、横断的に判断できて支援に繋ぐような、例えば家庭学習を補完するためにも、学習支援や学校での少し先輩である就学前児童なら小学生、小学生なら中学生、中学生なら高校生、など年齢の近い年上の子ども・若者を各所で導入する仕組みを作ったり、校内でサポートを展開するメンターの導入などが望ましい。(イギリスやアメリカで活用されるメンター制度など)

対人関係に関して、以下の課題が明らかになった。

経済状況は子どもの放課後の過ごし方、社交関係、楽しみや悩み、自己効力感に影響を及ぼしていることが示された。また、経済状況や世帯構成によって保護者の相談相手が異なり、特に困窮度が高い家庭や母子世帯では相談相手の不足が課題であることが示唆された。さらに、子どもの居場所の利用が保護者の相談機会の創出につながっていることが分かった。

### 1. 子どもの放課後の過ごし方

中央値以上群の家庭の子どもは、困窮度の高い家庭の子どもに比べて習いごとや塾、友人の家で過ごす割合が高い。一方で、困窮度の高い家庭の子どもは、地域の居場所やスーパーやショッピングモール、コンビニエンスストアといった利用費が発生しない場所で過ごす割合が高い。

### 2. 子どもの楽しみと悩み

中央値以上群の家庭の子どもは、学校生活やクラブ活動、地域の行事への参加を楽しむ割合が高い。一方で、困窮度の高い家庭の子どもは、特に学校や勉強のことで悩んでいる割合が高い。

### 3. 保護者の相談相手

中央値以上群の家庭の保護者は、配偶者やパートナーを相談相手とする割合が高い。一方、母子世帯では、相談できる相手がいないと感じている割合が高い。

### 4. 子どもの居場所利用と保護者の相談先

子どもが居場所を利用している家庭では、保護者が親族や学校関係者、医療関係者に相談する割合が高い。

コロナ禍後の行動抑制・行動制限が続いていることも留意する必要がある、人間関係への影響も懸念される。特に、困難な経済状況にある世帯や特定の世帯構成の保護者が支えや相談相手の不足を経験していることが示された。一方で、子どもの居場所が重要な役割を果たしており、様々な専門家や機関との連携を可能にし、総合的なサポート体制として機能していると考えられる。

経済状況によって、子どもの教育的な活動へのアクセス、家族以外の社会的交流や人間関係を築く機会が制限されるだけでなく、子どもの自己効力感にも影響を及ぼす可能性があることが示唆された。また、経済的困難な家庭では、子どもが家族の世話を担っているケースが多く、家族の世話をしている子どもにとって、周りの支えが重要であり、社会的支援を必要としていることが示唆された。経済状況や世帯構成によって保護者の相談相手が異なり、特に困難な経済状況にある世帯や特定の世帯構成の保護者が支えや相談相手の不足を経験していることが示された。

そこで、対応策として以下の3点が示唆される

#### 1. 子どもが保護者以外と話せる機会を創出する

家庭と学校しかソーシャル・キャピタルを持たない子どもたちにとって、今回の調査において、「おうちの人に関する悩み」は「おうちの人」と「学校の友だち」に話しにくいという結果であった。これは、ますます経済的に厳しい子どもたちを孤立させ、ソーシャル・キャピタルを欠如させてしまう。

#### 2. 自然と話せるような場や人材を確保する

おうちの人や学校の友だちに相談すること自体難しいと考えられるが、おうちの人や友だちに話せないという状況を改善する人的資源や場の確保が必要である。

#### 3. 仕組みづくり

すべての子どもが自然に通う、学校から自然に構えずに参加できる、流れるような仕組みを創設または充実させる必要がある。

## まとめ

今回の調査結果から、子どもの貧困に関する実態や対策の基礎情報が明らかになった。

守口市は子育て支援に力を入れており、平成29年度から幼児教育・保育を無償化とするなど、子どもを持つ親にとって子育てしやすい環境が整備されていっている。

しかし、親の就労や学歴、所得状況、物価高の影響等々による子どもの格差が見られた。その要因と影響の範囲は、経済状況、支援制度、雇用、健康、家庭生活と学習、対人関係と広範囲に及んでいる。このことは子どもの貧困を考える立場にとっては厳しい結果である。この解決には、

国が縦割りを解消しようと子ども家庭庁を設立し、データ連携等々新たな動きをしているなか、同様に教育や福祉という既存の枠組みを越えて、子どもをまんやかに実行できる体制や制度設計を早急に考えるべきである。以下のような覚悟ある対策をとる必要がある。

- ① 経済面：母子世帯への支援や収入のアップを企業側が実行できるような施策が必要である。
- ② 学習面：学校だけでなく、しかしすべての子どもが通う学校と連携した学びの保障を検討する。方策として、コミュニティスクールや学習支援、無料塾の創設などの活用である。保護者のニーズのある無料塾は、例えば沖縄で導入している。貧困調査の結果から支援員を大々的に投入し、訪問による給付や支援の申請書書きのサポートなどの人的支援方策を実施した。そういう方法を検討する必要がある。あるいはそれをクラウドデータで行えるようなデータ連携と社会資源を選択できるよう可視化と自治体内でどこの部署でも所持するような共有化が必要である。
- ③ 無償化の対象にならない部活の費用などの補助を行う。塾代助成のような方策を検討し、かつ申請をしなくても必要な人には利用できるよう、塾側に措置費のような形で配分する枠組みの提示や方策の提案を行う。
- ④ 価値の創造：教育の力はすべての子どもに影響することが出来る。年齢に応じて子どもの人権や生きる価値など人間尊重の理念から獲得できるような学びとその方法を導入する。小学1年生から体験的に教育を受ける生きる教育（西澤・西岡 2022）やブレインストーミングのように子どもたちとの対話で進めるフィンランドの教育（北川 2005）、実際的な生活課題から制度やサービス、権利に関して体験的に学ぶスウェーデンの社会科（リンドクウィスト・ウエステル 1997）のように、その年齢に合わせて体験型であり、自身の意見を出し、周りの意見を聞きながら進めるレクチャー型ではない教育の進め方を根本から検討すべきである。そのことによって、10代の妊娠やいじめ、ヤングケアラーなど家庭状況を抱えるようになっても早期にSOSが出せたり、自身で支援を選択できる力を養うことができる。
- ⑤ 地域資源：支援の場所を周知することである。自治体のパンフなど見やすい形で周知する必要がある。子ども食堂に限らず、様々な機能（駄菓子屋や公園などほっと寄れるような場を使ったたまり場など）を持つ居場所や体験交流できる場かつ子どもが自力で行ける小学校区に必要である。学校が場所を開放するのがベストである。その場所が子どもにとっても親にとってもわかりやすく、行きやすい場所にあり、選択肢が増え、可視化し利用しやすくする必要がある。相談機関を増やしても子どもや親からの相談の数値は決して上がらず、居場所などの場の方が有効である。
- ⑥ 連携の考え方：連携とは個人情報共有をしなければできないわけではない。個人情報は把握しないまま連携することが重要である。これが社会資源を知らない教師と個人情報を持ってない地域の居場所の新しい連携の方法であり、これらを周知徹底させることである。
- ⑦ すべての子どもを視野に入れ、そこから自然につながる仕組みなど、今までの縦割りとは次元の違う支援の仕組みが必要である。
- ⑧ 社会福祉協議会など居場所の中間支援を行う機関の役割を明確化し、機能的に促進させる。社会教育分野が持つ公民館や図書館や博物館なども場であり、さらなる協働を明確にする。（子ども食堂等居場所の活動団体が無料で入れる、利用できるなど）
- ⑨ 全数からの仕組み：必要な子どもが確実に発見され自然につながるためには、スクリーニングから繋ぐ機能まで持った、例えば文部科学省推奨（2020）のYOSSスクリーニング（山野研究室 2021）の仕組みが必要である。今回の調査で2016年からの比較によってアウトリーチでは乗り越えられなかった壁が明らかになった。相談ではなく、自然に伴走する支援を厳しい家庭の保護者や子どもたちは求めていることがわかる。必要な子どもを早期に発見し、伴走し

ながら、必要な制度や仕組みを紹介し、利用を増やすことで生活の改善をはかることと、伴走することで子どもや保護者本人の力をアップさせ、資源を活用できるようにする機能が必要である。

- ⑩ システム化：洩れなく持続可能に巡回させるためには、人に頼るだけでなく、福祉と学校のデータ連携を推奨し、地域資源の可視化のためにクラウド化することも考慮すべき点である。クラウドによっていち早く支援場所や居場所が学校にもすぐにわかり、地域活動と支援の必要な子どもを結び、支援提供を展開する必要がある。
- ⑪ 人材：これら学校においてすべての子どもの検討、発見から支援に繋ぐ校内の体制作りができる人材養成に力を入れる必要がある。スキルを取得する訓練講座の予算化や新たな認定制度になるこども家庭ソーシャルワーカー養成制度の活用などである。
- ⑫ その専門職の1つがスクールソーシャルワーカーである。各校に1名配置できるよう、正規職化への働きかけ、あるいは各自治体での正職化計画を立てる必要がある。
- ⑬ 法制化：これらは連携ではなく仕組み作りであり、制度化である。要項や規定を作成し、自治体や機関として動きやすいように作成すべきである。
- ⑭ 制度設計：デジタル化のために補助金や助成金を検討することも必要である。なぜなら、どこに必要な子どもが存在するのかがわからない。データ連携することでどこに必要な子どもが存在し、様々な制度を活用してどうだったかを検証できるように作りこむことである。これらのシステム費用がベンダーロックにより莫大な金額がかかる課題がある。企業を巻き込むと同時に、自治体や政府からクラウド化に向けた助成制度を創設する必要がある。

#### 引用・参考文献

- アーネ・リンドクウィスト&ヤン・ウェステル、川上 邦夫（翻訳）（1997）『あなた自身の社会：スウェーデンの中学教科書』新評論。
- 大阪府（2023）「大阪府子ども（子育て世帯）に対する食費支援事業（第2弾）」  
(<https://www.pref.osaka.lg.jp/attach/20980/00457638/2-9.pdf>)
- 大阪府立大学（2017）「大阪府子どもの生活実態調査」
- 北川達夫（2005）「図解フィンランド・メソッド入門」経済界。
- 厚生労働省（2004）「ワークシェアリング導入促進に関する秘訣集及びリーフレットについて」  
(<https://www.mhlw.go.jp/houdou/2004/06/h0630-2.html>)
- 厚生労働省（2017）「平成28年度 全国ひとり親世帯等調査結果報告」  
(<https://www.mhlw.go.jp/file/04-Houdouhappyou-11923000-Kodomokateikyoku-Kateifukishika/0000190325.pdf>)
- 厚生労働省（2022）「2022（令和4）年国民生活基礎調査の概況」  
(<https://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/k-tyosa/k-tyosa22/index.html>)
- 柴田悠（2016）『子育て支援が日本を救う—政策効果の統計分析』勁草書房。
- 内閣府（2010）「平成21年度インターネットによる子育て費用に関する調査」  
([https://warp.da.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/13024511/www8.cao.go.jp/shoushi/shoushika/research/cyousa21/net\\_hiyo/mokuji\\_pdf.html](https://warp.da.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/13024511/www8.cao.go.jp/shoushi/shoushika/research/cyousa21/net_hiyo/mokuji_pdf.html))
- 西澤哲・西岡加名恵ほか（2022）『『生きる』教育：自己肯定感を育み、自分と相手を大切にする方法を学ぶ』日本標準。

- 日本総研 (2022) 「令和 3 年度子ども・子育て支援推進調査研究事業：ヤングケアラーの実態に関する調査研究」厚生労働省.
- 三菱 UFJ リサーチコンサルティング (株) (2021) 「令和 2 年度子ども・子育て支援推進調査研究事業：ヤングケアラーの実態に関する調査研究」厚生労働省.
- 文部科学省 (2023) 「令和 5 年度就学援助の実施状況」  
([https://www.mext.go.jp/content/20210324-mxt\\_shuugaku-000013450\\_27.pdf](https://www.mext.go.jp/content/20210324-mxt_shuugaku-000013450_27.pdf))
- 文部科学省・山野研究室 (2020) 「スクリーニング活用ガイド」  
([https://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/seitoshidou/\\_icsFiles/afieldfile/2020/03/27/20200327\\_mxt\\_kouhou02\\_2.pdf](https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/seitoshidou/_icsFiles/afieldfile/2020/03/27/20200327_mxt_kouhou02_2.pdf))
- 山野則子編著 (2019) 『子どもの貧困調査—子どもの生活に関する実態調査から見えてきたもの』明石書店.
- 山野則子 (2018) 『学校プラットフォーム』有斐閣.
- 山野則子研究室 (2021) 「コロナ禍における子どもへの影響と支援方策のための横断的研究 保護者調査・子ども調査報告書」厚生労働省.
- 山野則子研究室 (2021) 「スクールカウンセラー及びスクールソーシャルワーカーの常勤化に向けた調査研究」文部科学省.
- 柳澤靖明・福島尚子 (2019) 『隠れ教育費：公立小中学校でかかるお金を徹底検証』太郎次郎社エディタス.
- UNESCO(2020) ‘International technical guidance on sexuality education: an evidence-informed approach (jpn)’ (<https://unesdoc.unesco.org/ark:/48223/pf0000374167>)

## 図表目次

図 1. 困窮度別に見た、経済的な理由による経験	164
図 2. 困窮度別に見た、子どもへの経済的な理由による経験	166
図 3. 困窮度別に見た、持っているもの、使うことができるもの	168
図 4. 困窮度別に見た、経済的な理由による経験の該当数の平均	169
図 5. 困窮度別に見た、子どもへの経済的な理由による経験の該当数の平均	170
図 6. 困窮度別に見た、持っているもの、使うことができるものの該当数の平均	171
図 7. 困窮度別に見た、世帯員の構成	172
図 8. 世帯構成別に見た、家計の状況	173
図 9. 困窮度別に見た、子どもの人数	174
図 10. 困窮度別に見た、住居形態	175
図 11. 困窮度別に見た、家計の状況	176
図 12. 困窮度別に見た、子どもの将来のための貯蓄状況	177
図 13. 困窮度別に見た、自分が世話をしている人の有無	178
図 14. 困窮度別に見た、就学援助の利用状況	181
図 15. 困窮度別に見た、児童扶養手当の利用状況（ひとり親世帯のみ）	182
図 16. 困窮度別に見た、生活保護の利用状況	183
図 17. 困窮度別に見た、離婚相手との養育費の取り決めや受け取り（ひとり親世帯のみ）	184
図 18. 困窮度別に見た、初めて親となった年齢	185
図 19. 困窮度別に見た、初めて親となった年齢（母親の回答者のみ）	186
図 20. 初めて親となった年齢別に見た、お母さんの最終学歴（母親の回答者のみ）	187
図 21. 初めて親となった年齢別に見た、お父さんの最終学歴（母親の回答者のみ）	188
図 22. 初めて親となった年齢別に見た、就労状況（母親の回答者のみ）	189
図 23. 初めて親となった年齢別に見た、自分の体や気持ちで気になること（母親の回答者のみ）	191
図 24. 初めて親となった年齢別に見た、自分の体や気持ちで気になることの該当個数（母親の回答者のみ）	193
図 25. 住居形態別に見た、家計の状況	194
図 26. 住居形態別に見た、子どもの将来のための貯蓄状況	195
図 27. 子どもの居場所の利用経験別に見た、就学援助の利用状況	196
図 28. 子どもの居場所の利用経験別に見た、生活保護の利用状況	197
図 29. 子どもの居場所の利用経験別に見た、生活困窮者の自立支援相談窓口の利用状況	198
図 30. 子どもの居場所の利用経験別に見た、児童扶養手当の利用状況（ひとり親世帯のみ）	199
図 31. 子どもの居場所の利用経験別に見た、母子家庭等就業・自立支援センターの利用状況	200
図 32. 子どもの居場所の利用経験別に見た、低所得の子育て世帯に対する子育て世帯生活支援特別給付金の利用状況	201
図 33. 子どもの居場所の利用経験別に見た、新型コロナウイルス感染症に伴う生活福祉資金（貸付金）の利用状況	202
図 34. 学校や学校の行事等の状況別に見た、就学援助の利用状況	204
図 35. 学校や学校の行事等の状況別に見た、生活保護の利用状況	206
図 36. 学校や学校の行事等の状況別に見た、生活困窮者の自立支援相談窓口の利用状況	208
図 37. 学校や学校の行事等の状況別に見た、児童扶養手当の利用状況（ひとり親世帯のみ）	210
図 38. 学校や学校の行事等の状況別に見た、母子家庭等就業・自立支援センターの利用状況	212
図 39. 学校や学校の行事等の状況別に見た、低所得の子育て世帯に対する子育て世帯生活支援特別給付金の利用状況	214
図 40. 学校や学校の行事等の状況別に見た、新型コロナウイルス感染症に伴う生活福祉資金（貸付金）の利用状況	216
図 41. 身近にあるといいと思うこと別に見た、就学援助の利用状況	217
図 42. 身近にあるといいと思うこと別に見た、生活保護の利用状況	218
図 43. 身近にあるといいと思うこと別に見た、生活困窮者の自立支援相談窓口の利用状況	219
図 44. 身近にあるといいと思うこと別に見た、児童扶養手当の利用状況（ひとり親世帯のみ）	220

図 45. 身近にあるといいと思うこと別に見た、母子家庭等就業・自立支援センターの利用状況	221
図 46. 身近にあるといいと思うこと別に見た、低所得の子育て世帯に対する子育て世帯生活支援特別給付金の利用状況	222
図 47. 身近にあるといいと思うこと別に見た、新型コロナウイルス感染症に伴う生活福祉資金（貸付金）の利用状況	223
図 48. 困窮度別に見た、就労状況	225
図 49. 困窮度別に見た、お母さんの最終学歴	226
図 50. 困窮度別に見た、お父さんの最終学歴	227
図 51. お母さんの最終学歴別に見た、就労状況	228
図 52. お父さんの最終学歴別に見た、就労状況	229
図 53. 世帯構成別に見た、就労状況	230
図 54. 就労状況別に見た、家計の状況	231
図 55. 困窮度別に見た、朝食の頻度	233
図 56. 就労状況別に見た、朝食の頻度	234
図 57. 朝食の頻度別に見た、子どもへの信頼度	235
図 58. 朝食の頻度別に見た、子どもとの会話頻度	236
図 59. 朝食の頻度別に見た、平日での子どもとの関わり時間	237
図 60. 朝食の頻度別に見た、休日での子どもとの関わり時間	238
図 61. 朝食の頻度別に見た、子どもの将来への期待度	239
図 62. 朝食の頻度別に見た、子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）	240
図 63. 休日の昼食の頻度別に見た、子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）	241
図 64. 困窮度別に見た、この一週間の気持ちの状況 ①楽しみにしていることがたくさんある	242
図 65. 困窮度別に見た、この一週間の気持ちの状況 ②遊びにでかけるのが好きだ	243
図 66. 困窮度別に見た、この一週間の気持ちの状況 ③元気いっぱいだ	244
図 67. 困窮度別に見た、この一週間の気持ちの状況 ④やろうと思ったことがうまくできる	245
図 68. 困窮度別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑤一人ぼっちのような気がする	246
図 69. 困窮度別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑥不安な気持ちになる	247
図 70. 困窮度別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑦まわりが気になる	248
図 71. 困窮度別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑧やる気が起きない	249
図 72. 困窮度別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑨いらいらする	250
図 73. 困窮度別に見た、自分の体の状態で気になること	252
図 74. 経済的な理由による経験の該当数別に見た、この一週間の気持ちの状況 ①楽しみにしていることがたくさんある	253
図 75. 経済的な理由による経験の該当数別に見た、この一週間の気持ちの状況 ②遊びにでかけるのが好きだ	254
図 76. 経済的な理由による経験の該当数別に見た、この一週間の気持ちの状況 ③元気いっぱいだ	255
図 77. 経済的な理由による経験の該当数別に見た、この一週間の気持ちの状況 ④やろうと思ったことがうまくできる	256
図 78. 経済的な理由による経験の該当数別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑤一人ぼっちのような気がする	257
図 79. 経済的な理由による経験の該当数別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑥不安な気持ちになる	258
図 80. 経済的な理由による経験の該当数別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑦まわりが気になる	259
図 81. 経済的な理由による経験の該当数別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑧やる気が起きない	260
図 82. 経済的な理由による経験の該当数別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑨いらいらする	261
図 83. 経済的な理由による経験の該当数別に見た、自分の体の状態で気になること	263
図 84. 困窮度別に見た、自分の体や気持ちで気になること	265
図 85. 経済的な理由による経験の該当数別に見た、自分の体や気持ちで気になること	267
図 86. 就労状況別に見た、自分の体や気持ちで気になることの該当個数	268
図 87. 就労状況別に見た、支えてくれる人得点	269
図 88. 困窮度別に見た、心の状態（生活を楽しんでいるか）	270
図 89. 困窮度別に見た、心の状態（将来に対して希望を持っているか）	271

図 90. 困窮度別に見た、心の状態（ストレスを発散できるものがあるか）	272
図 91. 困窮度別に見た、心の状態（自分が幸せだと思うか）	273
図 92. 困窮度別に見た、おうちの大人の人と一緒に朝食を食べているか	276
図 93. 困窮度別に見た、おうちの大人の人と一緒に夕食を食べているか	277
図 94. 困窮度別に見た、おうちの大人の人に宿題（勉強）をみてもらうか	278
図 95. 困窮度別に見た、おうちの大人の人と文化活動をするか	279
図 96. 困窮度別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間（学校がある日）	280
図 97. 困窮度別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間（学校がない日）	281
図 98. 困窮度別に見た、授業以外の読書時間	282
図 99. 困窮度別に見た、学校の勉強で気持ちに近いもの	283
図 100. 子ども部屋の有無別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間の平均値（学校がある日）	284
図 101. 子ども部屋の有無別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間の平均値（学校がない日）	285
図 102. 起床時間の規則性別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間（学校がある日）	286
図 103. 起床時間の規則性別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間（学校がない日）	287
図 104. 朝食の頻度別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間（学校がある日）	288
図 105. 朝食の頻度別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間（学校がない日）	289
図 106. 起床時間の規則性別に見た、授業以外の読書時間	290
図 107. 朝食の頻度別に見た、授業以外の読書時間	291
図 108. 困窮度別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間（学校がある日）と学習理解度の関連	292
図 109. 困窮度別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間（学校がない日）と学習理解度の関連	293
図 110. 学校への遅刻別に見た、子どもへの信頼度	294
図 111. 学校への遅刻別に見た、子どもとの会話頻度	295
図 112. 学校への遅刻別に見た、平日での子どもとの関わり時間	296
図 113. 学校への遅刻別に見た、休日での子どもとの関わり時間	297
図 114. 学校への遅刻別に見た、子どもの将来への期待度	298
図 115. 困窮度別に見た、子どもの将来への期待度	299
図 116. 困窮度別に見た、希望する進学先	300
図 117. 困窮度別に見た、子どもに希望する進学	301
図 118. 困窮度別に見た、学校への遅刻	302
図 119. 困窮度別に見た、子どもの通学状況	303
図 120. 学校への遅刻別に見た、おうちの大人の人と一緒に朝食を食べているか	304
図 121. 学校への遅刻別に見た、おうちの大人の人と一緒に夕食を食べているか	305
図 122. 学校への遅刻別に見た、おうちの大人の人に宿題（勉強）をみてもらうか	306
図 123. 学校への遅刻別に見た、おうちの大人の人と学校のできごとについて話すか	307
図 124. 学校への遅刻別に見た、おうちの大人の人と遊んだり、体を動かしたりするか	308
図 125. 学校への遅刻別に見た、おうちの大人の人とニュースなど社会のできごとについて話すか	309
図 126. 学校への遅刻別に見た、おうちの大人の人と文化活動をするか	310
図 127. 学校への遅刻別に見た、おうちの大人の人と一緒に外出するか	311
図 128. 学校への遅刻別に見た、嫌なことや悩んでいること	313
図 129. 学校への遅刻別に見た、自分の体や気持ちで気になることの該当個数	314
図 130. 学校への遅刻別に見た、子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）	315
図 131. 学校への遅刻別に見た、希望する進学先	316
図 132. 学校への遅刻別に見た、学校の勉強で気持ちに近いもの	317
図 133. 子どもの通学状況別に見た、嫌なことや悩んでいること	319
図 134. 子どもの通学状況別に見た、悩んだ時の対処を教えてくれる人のいない割合	320

図 135.	子どもの通学状況別に見た、自分の体や気持ちで気になることの該当個数.....	321
図 136.	子どもの通学状況別に見た、子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）.....	322
図 137.	子どもの通学状況別に見た、希望する進学先.....	323
図 138.	困窮度別に見た、保護者が家にいる時間帯.....	324
図 139.	困窮度別に見た、子どもへの信頼度.....	325
図 140.	困窮度別に見た、子どもとの会話頻度.....	326
図 141.	困窮度別に見た、平日での子どもとの関わり時間.....	327
図 142.	困窮度別に見た、休日での子どもとの関わり時間.....	328
図 143.	自分が世話をしている人の有無別に見た、学校や学校の行事等の状況.....	330
図 144.	自分が世話をしている人の有無別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間（学校がある日）..	331
図 145.	自分が世話をしている人の有無別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間（学校がない日）..	332
図 146.	困窮度別に見た、放課後を過ごす場所.....	336
図 147.	困窮度別に見た、放課後を一緒に過ごす人.....	338
図 148.	困窮度別に見た、毎日の生活で楽しいこと.....	340
図 149.	困窮度別に見た、嫌なことや悩んでいること.....	342
図 150.	困窮度別に見た、嫌なことや悩んでいるときの相談相手.....	344
図 151.	困窮度別に見た、本当に困ったときや悩みがあるときの相談相手・相談先.....	346
図 152.	世帯構成別に見た、本当に困ったときや悩みがあるときの相談相手・相談先がない割合.....	347
図 153.	困窮度別に見た、子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）.....	348
図 154.	子どもが放課後ひとりで過ごすかどうかと、子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）.....	349
図 155.	地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの手伝いをしているか.....	350
図 156.	地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの大人のみに宿題（勉強）をみてもらうか.....	351
図 157.	地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの大人のひとりで学校でのできごとについて話すか.....	352
図 158.	地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの大人のひとりで遊んだり、体を動かしたりするか.....	353
図 159.	地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの大人のひとりでニュースなど社会のできごとについて話すか.....	354
図 160.	地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの大人のひとりで文化活動をするか.....	355
図 161.	地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの大人のひとりで一緒に外出するか.....	356
図 162.	困窮度別に見た、平日の夜や休日を過ごすことができる場所.....	357
図 163.	困窮度別に見た、昼食や夕食、お弁当を無料か安い料金で食べることができる場所.....	358
図 164.	困窮度別に見た、勉強を無料か安い料金でみてくれる場所.....	359
図 165.	困窮度別に見た、何でも相談できる場所.....	360
図 166.	困窮度別に見た、子どもの居場所の利用経験.....	361
図 167.	平日の夜や休日を過ごすことができる場所別に見た、嫌なことや悩んでいるときの相談相手.....	363
図 168.	昼食や夕食、お弁当を無料か安い料金で食べることができる場所別に見た、嫌なことや悩んでいるときの相談相手....	365
図 169.	勉強を無料か安い料金でみてくれる場所別に見た、嫌なことや悩んでいるときの相談相手.....	367
図 170.	何でも相談できる場所別に見た、嫌なことや悩んでいるときの相談相手.....	369
図 171.	自分が世話をしている人の有無別に見た、嫌なことや悩んでいるときの相談相手.....	371
図 172.	自分が世話をしている人の有無別に見た、平日の夜や休日を過ごすことができる場所.....	372
図 173.	自分が世話をしている人の有無別に見た、昼食や夕食、お弁当を無料か安い料金で食べることができる場所....	373
図 174.	自分が世話をしている人の有無別に見た、勉強を無料か安い料金でみてくれる場所.....	374
図 175.	自分が世話をしている人の有無別に見た、何でも相談できる場所.....	375
図 176.	子どもの居場所の利用経験別に見た、本当に困ったときや悩みがあるときの相談相手・相談先.....	377
図 177.	学校や学校の行事等の状況別に見た、嫌なことや悩んでいるときの相談相手.....	379
図 178.	学校や学校の行事等の状況別に見た、平日の夜や休日を過ごすことができる場所.....	381
図 179.	学校や学校の行事等の状況別に見た、昼食や夕食、お弁当を無料か安い料金で食べることができる場所.....	383

図 180.	学校や学校の行事等の状況別に見た、勉強を無料か安い料金でみてくれる場所.....	385
図 181.	学校や学校の行事等の状況別に見た、何でも相談できる場所.....	387
図 182.	身近にあるといいと思うこと別に見た、平日の夜や休日を過ごすことができる場所.....	389
図 183.	身近にあるといいと思うこと別に見た、昼食や夕食、お弁当を無料か安い料金で食べることができる場所.....	391
図 184.	身近にあるといいと思うこと別に見た、勉強を無料か安い料金でみてくれる場所.....	393
図 185.	身近にあるといいと思うこと別に見た、何でも相談できる場所.....	395
図 186.	身近にあるといいと思うこと別に見た、子どもの居場所の利用有無.....	397
図 187.	身近にあるといいと思うこと別に見た、本当に困ったときや悩みがあるときの相談相手・相談先....	399

## IV 資料編



# おおさかふ こ せいかつ かん じつたいちようさ 大阪府子どもの生活に関する実態調査

## しょうがくせい ちゅうがく せい む ちようさ ちようさひよう もりぐちし 小学生・中学生向け調査 調査票【守口市】

### < ちようさ きょうりょく ねが > < 調査への協力のお願い >

- ◆この調査は、守口市に住んでいる小学生・中学生のみなさんの学校や家での生活の様子、将来についての考えや希望などについてたずねるもので、守口市が大阪府と共同で実施しています。
- ◆この調査は、小学生または中学生のあなたが自分で答えてください。
- ◆名前を書く必要はありません。テストではありませんので、思ったとおりに答えてください。
- ◆答えたくない質問は答える必要はありません。
- ◆答えに迷う場合には、あなたの気持ちや考えにできるだけ近いものを選ぶようにしてください。
- ◆あなたが答えた内容は、おうちの人や先生に見せる必要はありません。
- ◆大阪府と守口市はこの調査結果を参考に、子どもたちが安心してより良い生活を送ることができるよう役立てていきますので、ご協力をお願いします。
- ◆Webまたは紙の調査票のどちらかで令和5年9月20日までに回答してください。

### （1）Webによるご回答

- > この調査は、Webから回答することができます。
- > 回答方法は、16ページをざらんでください。
- ※ Webでの回答は1回限りです。回答を送信すると、そのあとの修正はできません。

### （2）紙の調査票によるご回答

- ・調査票に記入後、「小学生・中学生用」と書かれた封筒に入れ、シールをはがしてフタを閉じて、おうちの人に渡してください。

◆ 期限： 令和5年9月20日（水曜日） ◆

### 【調査に関するお問合せ先】

守口市 子育て支援政策課

電話 06-6992-1665 (直通) ※9:00~17:30 土・日曜日・祝日を除く



質問の回答方法について

◆それぞれの質問について次のように教えてください。

(例) あなたの好きな色は何色ですか。

1. 赤色	3. 緑色
2. 黄色	4. その他の色

※答えは、あてはまる番号に○をつけてください。

※○のつけかたは、質問文の終わりに「あてはまる番号 1 つに○をつけてください」や「あてはまる番号すべてに○をつけてください」などを書いてありますので、それにしがってください。

あなたについておたずねします。

問1 あなたは小学生ですか、それとも中学生ですか。(あてはまる番号 1 つに○をつけてください)

1. 小学生	2. 中学生
--------	--------

あなたのふだんの生活のことについておたずねします。

問2 あなたは、ふだん(月曜日～金曜日)、ほぼ同じ時刻に起きていますか。

(あてはまる番号 1 つに○をつけてください)

1. 起きている	3. あまり、起きていない
2. どちらかといえば、起きている	4. 起きていない

問3 あなたは、ふだん(月曜日～金曜日)、何時に寝ていますか。

(あてはまる番号 1 つに○をつけてください)

1. 午後9時より前	4. 午後11時台	7. きまっていない
2. 午後9時台	5. 午前0時台	
3. 午後10時台	6. 午前1時より後	

問4 朝食についておたずねします。

(1) あなたは、週にどのくらい、朝食を食べていますか。(あてはまる番号 1 つに○をつけてください)

1. 毎日またはほとんど毎日	3. 週に2～3回	5. 食べない
2. 週に4～5回	4. 週に1回程度	

(2) 前の質問で「1. 毎日またはほとんど毎日」に○をつけた方以外におたずねします。あなたが朝食を食べない理由はなんですか。(あてはまる番号1つに○をつけてください)

1. 時間がない	3. 用意されていない	5. わからない
2. おなかがすいていない	4. 食べる習慣がない	

**問5** 夕食についておたずねします。

(1) あなたは、週にどのくらい、夕食を食べていますか。(あてはまる番号1つに○をつけてください)

1. 毎日またはほとんど毎日	3. 週に2～3回	5. 食べない
2. 週に4～5回	4. 週に1回程度	

(2) 前の質問で「1. 毎日またはほとんど毎日」に○をつけた方以外におたずねします。あなたが夕食を食べない理由はなんですか。(あてはまる番号1つに○をつけてください)

1. 時間がない	3. 用意されていない	5. わからない
2. おなかがすいていない	4. 食べる習慣がない	

**問6** お休みの日の昼食についておたずねします。

(1) あなたは、学校がお休みの日に昼食を食べますか。(夏休みなどの長期のお休みの日もふくみます。)(あてはまる番号1つに○をつけてください)

1. 必ず食べる	3. 食べないことが多い	5. わからない
2. 食べる人が多い	4. 食べない	

(2) 前の質問で「1. 必ず食べる」に○をつけた方以外におたずねします。あなたが、学校がお休みの日に昼食を食べない理由はなんですか。(あてはまる番号1つに○をつけてください)

1. 時間がない	3. 用意されていない	5. わからない
2. おなかがすいていない	4. 食べる習慣がない	

**問7** あなたは、学校に遅刻することがありますか。(あてはまる番号1つに○をつけてください)

1. 毎日またはほとんど毎日	3. 週に2～3回	5. 遅刻はしない
2. 週に4～5回	4. 週に1回程度	

守口市シンボルキャラクター

もり吉



とい 問8 あなたは、次のようなことをどのくらいしていますか。(①～⑩それぞれについて、あてはまる番号  
ばんごう  
ひと まる  
1つに○をつけてください)

	ほとんど毎日 まいにち	週に4～5回 しゅう かい	週に2～3回 しゅう かい	週に1回程度 しゅう かい	月に1～2回 つき かい	ほとんどない	まったくない
① おうちの大人の人と一緒に朝食を食べていますか。 おとな ひと いっしょ ちょうしょく た	1	2	3	4	5	6	7
② おうちの大人の人と一緒に夕食を食べていますか。 おとな ひと いっしょ ゆうしょく た	1	2	3	4	5	6	7
③ おうちの大人の人に朝、起こしてもらいますか。 おとな ひと あさ お	1	2	3	4	5	6	7
④ おうちの手伝いをしていますか。 てつだ	1	2	3	4	5	6	7
⑤ おうちの大人の人に宿題(勉強)をみてもらいますか。 おとな ひと しゅくだい べんきょう	1	2	3	4	5	6	7
⑥ おうちの大人の人と学校のできごとについて話しますか。 おとな ひと がっこう はな	1	2	3	4	5	6	7
⑦ おうちの大人の人と遊んだり、体を動かしたりしますか。 おとな ひと あそ からだ うご	1	2	3	4	5	6	7
⑧ おうちの大人の人とニュースなど社会のできごとについて話しますか。 おとな ひと にゅーす しゃかい はな	1	2	3	4	5	6	7
⑨ おうちの大人の人と文化活動(図書館や美術館、博物館、音楽鑑賞に行くなど)をしますか。 おとな ひと ぶんかかつどう としょかん びじゅつかん かくぶつかん おんがくかんしょう い	1	2	3	4	5	6	7
⑩ おうちの大人の人と一緒に外出しますか。(散歩する・買い物に出かける・外食をするなど) おとな ひと いっしょ がいしゅつ さんぽ か もの で がいしょく	1	2	3	4	5	6	7

とい 問9 あなたは、毎日の生活でどのようなときに楽しいと思いますか。  
まいにち せいかつ たの おも  
(あてはまる番号すべてに○をつけてください)  
ばんごう まる

1. おうちの人と一緒に過ごしているとき ひと いっしょ す	5. 今、住んでいる地域の行事に参加しているとき いま す ちいき ぎょうじ さんか
2. ともだちと一緒に過ごしているとき いっしょ す	6. 塾や習いごとで過ごしているとき じゅく なら す
3. 学校生活やクラブ活動・部活動に参加しているとき がっこうせいかつ くらぶ かつどう ぶ かつどう さんか	7. 特に楽しいと思うときはない とく たの おも
4. ひとりで過ごしているとき す	8. その他 た

とい  
**問10** あなたは、ふだん（月曜日～金曜日）の放課後、だれと過ごしますか。  
 （あてはまる番号すべてに○をつけてください）

- |  |
|--|
| 1. おうちの大人の人（お母さん・お父さん・おばあちゃん・おじいちゃん・親せきなど） |
| 2. きょうだい                                   |
| 3. おうちの人以外の大人（近所の大人、塾や習いごとの先生など）           |
| 4. 学校のともだち                                 |
| 5. クラブ活動・部活動の仲間                            |
| 6. 学校以外のともだち（地域のスポーツクラブ、近所のともだちなど）         |
| 7. ひとりである                                  |
| 8. その他の人                                   |

とい  
**問11** あなたは、ふだん（月曜日～金曜日）の放課後、どこで過ごしますか。  
 （あてはまる番号すべてに○をつけてください）

- |                    |  |
|--------------------|--|
| 1. 自分の家            | 9. コンビニエンスストア                                |
| 2. おばあちゃん・おじいちゃんの家 | 10. ゲームセンター                                  |
| 3. ともだちの家          | 11. 図書館や公民館など公共の施設                           |
| 4. 塾               | 12. 地域の居場所（学習支援の場や子ども食堂など地域で同じ年ごろの子どもが集まる場所） |
| 5. 習いごと            | 13. 学童保育（※）                                  |
| 6. 学校（クラブ活動・部活動など） | 14. その他                                      |
| 7. 公園・広場           |  |
| 8. スーパーやショッピングモール  |  |

※「学童保育」とは、「放課後児童クラブ」、「いきいき放課後児童クラブ」、「留守家庭児童会（室）」、「学童クラブ」、「仲良しクラブ」もふくみます。

とい  
**問12** あなたは、ふだん学校の授業以外で、どのように勉強をしていますか。  
 ※勉強には学校の宿題もふくみます。（あてはまるものすべてに○をつけてください）

- |                         |                   |
|-------------------------|-------------------|
| 1. 自分で勉強する              | 6. おうちの人に教えてもらう   |
| 2. 塾で勉強する               | 7. ともだちと勉強する      |
| 3. 学校の補習を受ける            | 8. その他            |
| 4. 家庭教師に教えてもらう          | 9. 学校の授業以外で勉強はしない |
| 5. 地域の人などが行う無料の勉強会に参加する |                   |

とい 問13 あなたは、授業時間以外に1日あたりどれくらいの時間、勉強をしますか。  
 (塾などの時間もふくみます。) (①、②それぞれについて、あてはまる番号1つに○をつけてください)

	まったくしない	30分より少ない	30分以上、1時間より少ない	1時間以上、2時間より少ない	2時間以上、3時間より少ない	3時間以上	わからない
① 学校がある日 (月～金曜日)	1	2	3	4	5	6	7
② 学校がない日 (土・日曜日・祝日)	1	2	3	4	5	6	7

あと半分だよ。  
がんばってね!

とい 問14 学校の勉強についておたずねします。  
 (1) 学校の勉強について、一番あなたの気持ちに近いものはどれですか。  
 (あてはまる番号1つに○をつけてください)

1. よくわかる	3. あまりわからない	5. わからない
2. だいたいわかる	4. ほとんどわからない	

(2) 前の質問で「3. あまりわからない」「4. ほとんどわからない」「5. わからない」に○をつけた方に  
 おたずねします。いつごろから、授業がわからないことがあるようになりましたか。  
 (あてはまるもの1つに○をつけてください)

1. 小学1・2年生のころ	3. 小学5年生になってから	5. 中学1年生のころ
2. 小学3・4年生のころ	4. 小学6年生のころ	6. 中学2年生になってから

とい 問15 あなたは、学校の授業時間以外に、1日あたりどれくらいの時間、読書をしますか。  
 (教科書や参考書、マンガや雑誌をのぞきます。) (あてはまる番号1つに○をつけてください)

1. まったくしない	5. 2時間以上、3時間より少ない
2. 30分より少ない	6. 3時間以上
3. 30分以上、1時間より少ない	7. わからない
4. 1時間以上、2時間より少ない	

問16 あなたは、学校や学校の行事等で次のようなことがありますか。

(あてはまる番号すべてに○をつけてください)

1. 授業中に寝てしまうことが多い	7. 運動会や遠足などの学校行事を欠席する
2. 宿題ができていないことが多い	8. 保健室で過ごすことが多い
3. 持ち物の忘れ物が多い	9. 学校ではひとりで過ごすことが多い
4. 習いごとを休むことが多い	10. ともだちと遊んだり、おしゃべりしたりする時間が少ない
5. 提出物を出すのが遅れることが多い	11. 特にない
6. 修学旅行などの宿泊行事を欠席する	

問17 今、あなたは、いやなことや悩んでいることはありますか。

(あてはまる番号すべてに○をつけてください)

1. おうちのこと	6. 好きな人のこと
2. 学校や勉強のこと	7. 進学・進路のこと
3. クラブ活動や部活動のこと	8. その他のこと
4. 自分のこと (外見や体型など)	9. いやなことや悩んでいることはない
5. ともだちのこと	10. わからない

問18 あなたは、いやなことや悩んでいることがあるとき、だれかに相談しますか。(だれに話しますか。)

(あてはまる番号すべてに○をつけてください)

1. 親	12. インターネットやサイトなどを通じて知りあった直接会ったことのない人
2. きょうだい	13. 近所の人
3. 親せき	14. 地域の支援団体 (学習支援の場や子ども食堂など地域で同じ年ごろの子どもが集まるところの人)
4. 学校のともだち	15. その他の人
5. 学校以外のともだち	16. だれにも相談できない
6. 学校の先生	17. だれにも相談したくない
7. スクールカウンセラー、ソーシャルワーカー	18. わからない
8. 塾や習いごとの先生	
9. 学童保育の先生 (※)	
10. 子ども専用の電話相談	
11. SNSなどのインターネットやLINEの相談	

※「学童保育」とは、「放課後児童クラブ」、「いきいき放課後児童クラブ」、「留守家庭児童会 (室)」、「学童クラブ」、「仲良しクラブ」もふくみます。

とい 問19 わたしたちは、<sup>たの</sup>楽しい日ばかりではなく、<sup>ひ</sup>ちょっとさみしい日も、<sup>たの</sup>楽しくない日もあります。あなたが、この一週間、<sup>いっしゅうかん</sup>どんな気持ちや状況だったのか、<sup>おし</sup>教えてください。<sup>よい</sup>良い答え、<sup>わる</sup>悪い答えはありません。<sup>おも</sup>思ったとおりに<sup>こた</sup>教えてください。

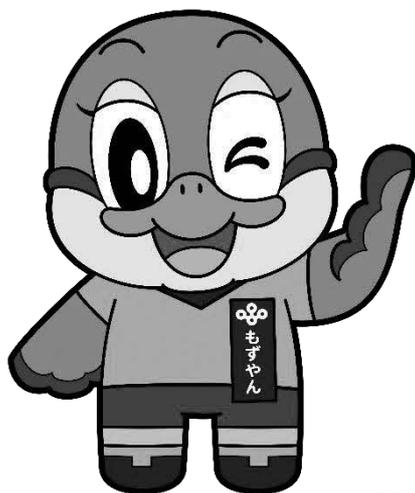
(①～⑨それぞれについて、<sup>ばんごう</sup>あてはまる番号1つに○をつけてください)

	そいつ うだも	ときどき そうだ	そんな ないこと
① <sup>たの</sup> 楽しみにしていることがたくさんある	1	2	3
② <sup>あそ</sup> 遊びにでかけるのが好きだ	1	2	3
③ <sup>げんき</sup> 元気いっぱいだ	1	2	3
④ やろうと思ったことがうまくできる	1	2	3
⑤ <sup>ひとり</sup> 一人ぼっちのような気がする	1	2	3
⑥ <sup>ふあん</sup> 不安な気持ちになる	1	2	3
⑦ まわりが気になる	1	2	3
⑧ やる気が起きない	1	2	3
⑨ いらいらする	1	2	3

とい 問20 あなたは、<sup>じぶん</sup>自分の<sup>からだ</sup>体の<sup>じょうたい</sup>状態で<sup>き</sup>気になることはありますか。

(<sup>ばんごう</sup>あてはまる番号すべてに○をつけてください)

1. ねむれない	6. よくかゆくなる
2. よく <sup>あたま</sup> 頭がいたくなる	7. とくに <sup>き</sup> 気になるところはない
3. <sup>は</sup> 歯がいたい	8. その他
4. よくおなか <sup>は</sup> がいたくなる	9. わからない
5. よくかぜをひく	



<sup>こた</sup>答えたくない質問は<sup>こた</sup>答える必要はないよ。

<sup>こた</sup>答えに迷うときは、あなたの<sup>きもち</sup>気持ちや<sup>かんが</sup>考えに

できるだけ<sup>ちか</sup>近いものを選んでね。

とい 問21 あなたが、持っているものや、あなたが使うことができるものを選んでください。

(あてはまる番号すべてに○をつけてください)

<p>1. 本 (学校の教科書やマンガ・雑誌はのぞく)</p> <p>2. マンガ・雑誌</p> <p>3. 子ども部屋 (ひとり部屋やきょうだいと 一緒に使っている部屋など)</p> <p>4. インターネットにつながるパソコン (学校のパソコンはのぞく)</p> <p>5. 運動用具 (ボール・ラケットなど)</p> <p>6. ゲーム機</p> <p>7. 自転車</p>	<p>8. テレビ</p> <p>9. けいたい電話</p> <p>10. スマートフォン・タブレット機器</p> <p>11. 化粧品・アクセサリ</p> <p>12. 習いごとなどの道具 (ピアノなど)</p> <p>13. 自分で選んだ服</p> <p>14. キャラクターグッズ</p> <p>15. その他</p> <p>16. あてはまるものはない</p>
--	--

あなたが、ふだん考えていることについておたずねします。

とい 問22 あなたは、つらいことがあってもすぐ立ち直ることができますか。

(あてはまる番号1つに○をつけてください)

<p>1. そう思う</p> <p>2. どちらかというそう思う</p>	<p>3. どちらかというと思わない</p> <p>4. そう思わない</p>
--------------------------------------	---

とい 問23 あなたがふだん考えていることについて、次の(1)～(3)について教えてください。

(あてはまる番号1つに○をつけてください)

(1) 自分に自信がある

<p>1. ある</p> <p>2. どちらかというとある</p>	<p>3. どちらかというもない</p> <p>4. ない</p>
-----------------------------------	-----------------------------------

(2) 自分の考えをはっきり相手に伝えることができる

1. できる	3. どちらかというとできない
2. どちらかというとできる	4. できない

(3) 自分の将来の夢や目標を持っている

1. 持っている	3. どちらかというと持っていない
2. どちらかというと持っている	4. 持っていない

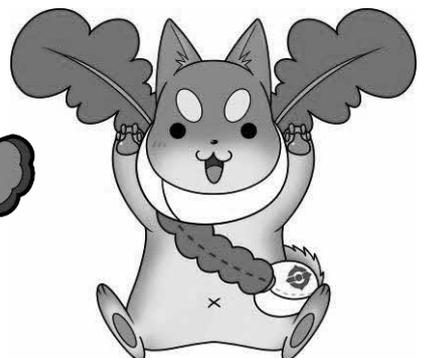
問24 あなたは、将来どの学校まで行きたいと思いますか。

(あてはまる番号 1 つに○をつけてください)

1. 中学校	6. 留学 (外国で長い期間勉強すること)
2. 高校	7. 専門学校 (美容師や調理師など仕事の仕方や技術を学ぶための学校など) ・高等
3. 短期大学	専門学校
4. 大学	8. 考えたことがない
5. 大学院	9. わからない

あともう少しだよ！

がんばってね！



©2014 大阪府

もずやん

守口市シンボルキャラクター

もり吉

あなたのことについて、おたずねします。

問25 自分やともだちの家以外の場所についておたずねします。

(1) あなたは、次の①～④のような場所を利用したことがありますか。また、利用したことがない場合、今後利用したいと思いますか。

(①～④それぞれについて、あてはまる番号1つに○をつけてください。)

	利用したことがある	利用したことはない （あれば利用したい と思う）	利用したことはない （今後も利用したい と思わない）	利用したことはない （今後も利用したい が分からない）
① 平日の夜や休日過ごすことができる場所（学童保育など）	1	2	3	4
② 昼食や夕食、お弁当を無料か安い料金で食べることができる場所（子ども食堂など）	1	2	3	4
③ 勉強を無料か安い料金でみてくれる場所（一般的な学習塾とはちがう学習支援など）	1	2	3	4
④ 何でも相談できる場所（電話やネットの相談をふくむ。）	1	2	3	4

(2) 前の質問で、1つでも「利用したことがある」と答えた方におたずねします。そこを利用したことで、次のような変化がありましたか。（あてはまる番号1つに○をつけてください）

1. ともだちが増えた	6. 勉強がわかるようになった
2. 気軽に話せる大人が増えた	7. 勉強する時間が増えた
3. 生活の中で楽しみなことが増えた	8. その他
4. ほっとできる時間が増えた	9. 特に変化はない
5. 栄養のある食事をとれることが増えた	

(3) 問25(1)の質問で、「利用したことがある」に○をつけた方以外におたずねします。利用したことがないのはなぜですか。(あてはまる番号1つに○をつけてください)

1. どこにあるか知らないから	7. Wi-fi (インターネット通信環境) がないから
2. 家の近く(ひとりで行ける場所)にないから	8. 行きたいと思わないから
3. 家で過ごしたいと思うから	9. 何をしているかわからないから
4. 楽しくなさそうだから	10. 利用していることを近所の人やともだちに知られたくないから
5. 「行ってはいけない」と親などの大人に言われるから	11. その他
6. 行きたい日・時間に開いていないから	

問26 あなたがおうちでしているお世話の様子についておたずねします。

(1) おうちの人のなかあなたがお世話をしている人はいますか。

(あてはまる番号1つに○をつけてください)

1. いる	2. いない
-------	--------

(2) 前の質問で「1. いる」に回答した方におたずねします。誰のお世話をしていますか。

(あてはまる番号すべてに○をつけてください)

1. お母さん	4. おじいちゃん
2. お父さん	5. きょうだい
3. おばあちゃん	6. その他

(3) 問26(1)の質問で「1. いる」に回答した方におたずねします。あなたがやっているお世話の内容を教えてください。(あてはまる番号すべてに○をつけてください)

1. 料理や買い物、食器洗いなど	5. 病院へ一緒に行くことやお風呂・トイレのお世話、見守りをする、話し相手になる、通訳をする、お金の管理、薬の管理など
2. 洗濯など	6. その他
3. そうじやゴミ捨てなど	
4. きょうだいのめんどうを見ることや保育所のおむかえなど	

(4) 前の質問で「6. その他」に○をつけた方は、具体的な内容を書いてください。

--

(5) 問26(1)の質問で「1. いる」に回答した方におたずねします。お世話をするのはどれくらいありますか。(あてはまる番号1つに○をつけてください)

1. ほぼ毎日	3. 週に1日または2日
2. 週に3日～5日	4. 1か月に数日

(6) 問26(1)の質問で「1. いる」に回答した方におたずねします。学校がある日に、お世話を1日のうちどれくらいしていますか。(あてはまる番号1つに○をつけてください)

1. 1時間より少ない	4. 3時間以上、5時間より少ない
2. 1時間以上、2時間より少ない	5. 5時間以上、7時間より少ない
3. 2時間以上、3時間より少ない	6. 7時間より多い

(7) 問26(1)の質問で「1. いる」に回答した方におたずねします。お世話をしていることによつて次のようなことがありますか。(あてはまる番号すべてに○をつけてください)

1. おうちの人と話したり遊んだりすることが増える	8. とても疲れることがある
2. 時間の使い方を工夫できる	9. いろいろしやすい
3. 家の中で気持ちよく過ごすことができる	10. 気持ちが落ち込む
4. おうちの人健康に過ごすことができる	11. 学校を欠席や遅刻、早退することがある
5. 「お世話」にやりがいを感じる	12. その他
6. おうちの人以外と話す時間が減る	13. 特にない
7. 自分のことをする時間がない	

問27 あなたの性別をえらんでください。(あてはまる番号1つに○をつけてください)

1. 男子	3. その他
2. 女子	4. 答えたくない

質問はこれで終わりです。調査にご協力いただきありがとうございました。

「小学生・中学生用」と書いてある封筒に入れ、シールをはがしてフタを閉じて、保護者の方に渡してください。

## 相談窓口のご案内

○親子やきょうだいのことなど家庭での悩みについては

### ＜家庭児童相談＞（守口市子育て世代包括支援センター）

TEL：06-6992-1655

月曜日～金曜日：9時～17時30分（※祝日・年末年始を除く）

### ＜子どもの悩み相談フリーダイヤル＞（大阪府）

TEL：0120-7285-25

24時間 365日

LINE <https://www.pref.osaka.lg.jp/kateishien/sodanliner3/index.html>

### ＜親子のための相談LINE＞（厚生労働省）

[https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage\\_29751.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_29751.html)

○友人関係など学校での悩みについては

### ＜守口市教育相談＞（守口市教育センター）

TEL：06-6992-6346

Eメール：[soudan@moriguchi-osk.ed.jp](mailto:soudan@moriguchi-osk.ed.jp)

LINE ID：@kef2467j（右の二次元コードからも友達追加ができます。）

月曜日～金曜日：9時～17時30分（※祝日・年末年始を除く）



### ＜すこやかホットライン＞

TEL：06-6607-7361

月曜日～金曜日：9時～17時30分（※祝日・年末年始を除く）

Eメール：[sukoyaka@edu.osaka-c.ed.jp](mailto:sukoyaka@edu.osaka-c.ed.jp)

【ひとりで悩まないで、相談してね。】

パソコン・スマートフォン・タブレット端末でも回答できます！

■ WEBで回答された場合は、同封の調査票の返送は不要です。

■ 携帯電話（ガラケー）では回答できませんのでご注意ください。

- ◆ スマートフォン・タブレット端末の場合は、カメラで次の二次元バーコードを読み取ってください。

[二次元バーコード]



- ◆ パソコンの場合は、次のURL（「https…」から始まるアドレス）を検索画面に手入力し、エンターキーを押してください。

[URL] <https://src.webcas.net/form/pub/src2/2700082>

- ◆ 最初の画面がでてきたら、次のIDを入力し、「次へ」ボタンを押し、ログインしてください。

◇ ID

※ IDは、個人を特定するものではありません。

- ◆ ログイン後は、質問の番号順に沿って回答してください。

おおさかふ こ せいかつ かん じつたいちようさ  
大阪府子どもの生活に関する実態調査  
ほごしやむ ちようさ ちようさひよう もりぐちし  
保護者向け調査 調査票【守口市】

ちようさ きようりよく ねが  
< 調査への協力のお願い >

- ◆この調査は、保護者の方に家庭状況などをお聞きし、守口市の子どものための支援策に役立てるために  
もりぐちし おおさかふ きようどう じっし みなさま かいとう こんご しえんさく じゅうじつ かいぜん  
守口市が大阪府と共同で実施しています。皆様からの回答を今後の支援策の充実や改善につなげていき  
たいと考えていますので、お忙しい中お手数ですが、調査へのご協力をお願いします。
- ◆調査の対象は、小学5年生と中学2年生です。
- ◆お名前や住所を書く必要はありません。調査の集計は統計的に処理し、個人や学校を特定することは  
ありません。また、目的以外に使うことはありません。
- ◆この調査で「お子さん」とは、調査票を受け取ったお子さんのことです。「お子さん」と書かれた質問には  
ちようさひよう う と こ ちようさひよう う と こ ちようさひよう う と こ  
調査票を受け取ったお子さんについてのみお答えください。
- ◆ごきょうだいなどで、この調査用紙が複数届いた場合も、お手数ですが、それぞれのお子さんについて、  
それぞれの調査用紙（またはWebフォーム）に回答してください。
- ◆回答するときには、お子さんと別々に、お互いの回答を見ないように記入してください。
- ◆Webまたは紙の調査票のどちらかで令和5年9月20日までに回答してください。

う え ぶ かいとう  
(1) Webによるご回答

- ▶この調査は、Webから回答することができます。
- ▶回答方法は、16ページをごらんください。
- ※Webでの回答は1回限りです。回答を送信すると、そのあとの修正はできません。

かみ ちよう さひよう かいとう  
(2) 紙の調査票によるご回答

- ◆調査票に記入後、「保護者用」と書かれた封筒に入れ、シールをはがして封をしてください。お子さんの回答  
のに入った「小学生・中学生用封筒」と「保護者用封筒」を返信用封筒にまとめて入れ、期限までに返信し  
てください。切手は不要です。

きげん れいわ ねん がつ にち すいようび  
◆期限： 令和5年9月20日（水曜日）◆

ちようさ かん といあわ さき  
【調査に関するお問合せ先】

もりぐちし こども部 子育て支援政策課  
守口市 こども部 子育て支援政策課

でんわ ちやくつう ど にちようび しゅくじつ のぞ  
電話 06-6992-1665（直通） ※9:00～17:30 土・日曜日・祝日を除く

## 質問の回答方法について

◆それぞれの質問について次のように教えてください。

(例) あなたの好きな色は何色ですか。

1. 赤色	3. 緑色
2. 黄色	4. その他の色

※答えは、あてはまる番号に○をつけてください。

※○のつけかたは、質問文の終わりに「あてはまる番号 1 つに○をつけてください」や「あてはまる番号すべてに○をつけてください」などを書いてありますので、それにしたがってください。

## 最初に、あなたとお子さんの関係についておたずねします。

問1 この調査に回答いただいている方におたずねします。お子さんとあなたの続柄について教えてください。(あてはまる番号 1 つに○をつけてください)

1. お母さん	4. おじ、おばなど親戚
2. お父さん	5. 施設職員・ファミリーホーム・里親
3. おじいさん・おばあさん	6. その他の人

## 世帯の状況についておたずねします。

※あなたの世帯について、令和5年4月1日現在の状況を教えてください。

※世帯とは、普段、住居と生計を共にしている方々(世帯員)の集まりをいいます。血縁関係のない人でも同居していれば世帯に含んでください。また、単身赴任の方も含まれます。

※世帯員には、旅行や出張などで一時的に自宅を離れている人や船員など就業場所を移動する人を含みます。

※また、病院・診療所に入院している人を含みますが、住民登録を病院・診療所に移している人は除きます。さらに、学業で世帯を離れている人、老人福祉施設などの社会福祉施設に入所している人を除きます。

問2 あなたの世帯の構成と人数をお答えください。(①～⑧それぞれについて、あてはまる番号1つに○をつけてください) (⑧は、あなたや対象のお子さんを含んだ人数をお答えください。)

①おばあさん	②おじいさん	③お母さん	④お父さん	⑧合計 (あなたや対象のお子さんを含む)
0. いない 1. 1人 2. 2人	0. いない 1. 1人 2. 2人	0. いない 1. 1人	0. いない 1. 1人	1. 2人 2. 3人 3. 4人 4. 5人 5. 6人 6. 7人 7. 8人 8. 9人 9. 10人以上
⑤姉・兄	対象のお子さん (本人) (※)	⑥妹・弟	⑦その他	
0. いない 1. 1人 2. 2人 3. 3人 4. 4人以上	1人	0. いない 1. 1人 2. 2人 3. 3人 4. 4人以上	0. いない 1. 1人 2. 2人 3. 3人 4. 4人以上	

※「対象のお子さん」とは、調査票を受け取ったお子さんのことです。

問3 お子さんと同居し、生計を共にしている親の婚姻状況を教えてください。  
(あてはまる番号1つに○をつけてください)

1. 結婚している (再婚や事実婚を含む。)	4. 未婚
2. 離婚	5. わからない
3. 死別	6. いない

問4 前の質問で「2. 離婚」に○をつけた方におたずねします。

離婚相手とお子さんの養育費の取り決めをしていますか。

また養育費を現在受け取っていますか。(あてはまる番号1つに○をつけてください)

1. 取り決めをしており、受け取っている
2. 特に取り決めはしていないが、受け取っている
3. 取り決めをしているが、受け取っていない
4. 取り決めをしておらず、受け取っていない

問5 あなたの住居は、次のどれにあてはまりますか。(あてはまる番号1つに○をつけてください)

1. 持ち家（親・きょうだいの名義を含む）	4. 民間の賃貸住宅
2. 府営・市営の住宅	5. 官舎・社宅
3. UR賃貸住宅・公社賃貸住宅	6. その他

問6 あなたの家計の収支状況についておたずねします。

(1) 前年（2022年）の1年間のあなたの家計の状況について、あてはまる番号1つに○をつけてください。

1. 貯蓄ができています	3. 赤字でもなく黒字でもない
2. 赤字である	4. わからない

(2) お子さんの将来のために貯蓄をしていますか。(あてはまる番号1つに○をつけてください)

1. 貯蓄をしている	3. 貯蓄をするつもりはない
2. 貯蓄をしたいが、できていない	

問7 あなたの世帯では、経済的な理由で、次のような経験をされたことがありますか。おおむね半年の間でお考えください。(あてはまる番号すべてに○をつけてください)

1. 食費を切りつめた	13. 鉄道やバスの利用を控え、自転車を使ったり歩くようにした
2. 電気・ガス・水道などが止められた	14. 電話（固定・携帯）などの通信料の支払いが滞ったことがある
3. 医療機関を受診できなかった	15. 家賃や住宅ローンの支払いが滞ったことがある
4. 国民健康保険料の支払いが滞ったことがある	16. 趣味やレジャーの出費を減らした
5. 国民年金の支払いが滞ったことがある	17. 冷暖房の使用を控えた
6. 金融機関などに借金をしたことがある	18. 友人・知人との外食を控えた
7. クレジットカードの利用が停止になったことがある	19. 敷金・保証金などを用意できないので、住み替え・転居を断念した
8. 新しい衣服・靴を買うのを控えた	20. 理髪店・美容院に行く回数を減らした
9. 新聞や雑誌を買うのを控えた	21. 子ども部屋が欲しかったがつくれなかった
10. スマートフォンへの切替・利用を断念した	22. 1～21の項目には、どれもあてはまらない
11. 冠婚葬祭のつきあいを控えた	
12. 生活の見通しがたたなくて不安になったことがある	

問8 お子さんのお母さんとお父さんの最後に通った学校を教えてください。(あてはまる番号1つに○をつけてください) (現在、ひとりでお子さんを育てている場合(ひとり親の場合)はあてはまる方だけに○をつけてください。)

お母さん	お父さん
1. 中学校卒業	1. 中学校卒業
2. 高等学校中途退学	2. 高等学校中途退学
3. 高等学校卒業	3. 高等学校卒業
4. 高専、短大、専門学校等卒業	4. 高専、短大、専門学校等卒業
5. 大学卒業	5. 大学卒業
6. 大学院修了	6. 大学院修了
7. その他の教育機関卒業	7. その他の教育機関卒業
8. 答えたくない	8. 答えたくない

問9 お子さんの保護者の方の現在の就業状況についておたずねします。(複数か所にお勤めされている方はあてはまる番号をすべて選んでください)

※お母さん、お父さん以外の方が主として家計を支えている場合、「お母さん、お父さん以外の方」にもご記入をお願いします。

※現在、育児休業などで休業中の方は、復職するときの仕事の番号を選んでください。

お母さん	1. いる	2. いない
------	-------	--------



「1. いる」に回答された方は、次のあてはまる番号すべてに○をつけてください。

「7. 仕事を探していない」に○をつけた方は、仕事を探していない主な理由について①～⑦のあてはまる番号すべてに○をつけてください。

1. 勤め(常勤・正規職員) 2. 勤め(パートまたはアルバイト、非正規職員で1か所に勤務) 3. 勤め(パートまたはアルバイト、非正規職員で2か所以上に勤務) 4. 自営業・家業 5. その他の就業形態 6. 仕事を探している	7. 仕事を探していない ①家事や育児に専念したため ②学生のため ③おうちの人の介護や介助のため ④病気療養のため ⑤年金収入があるため ⑥家賃収入、株式運用などの収入があるため ⑦その他
---	--

とう お父さん	1. いる	2. いない
------------	-------	--------



「1. いる」に回答された方は、次のあてはまる番号すべてに○をつけてください。

「7. 仕事を探していない」に○をつけた方は、仕事を探していない主な理由について①～⑦のあてはまる番号すべてに○をつけてください。

<p>1. 勤め（常勤・正規職員）</p> <p>2. 勤め（パートまたはアルバイト、非正規職員で1か所に勤務）</p> <p>3. 勤め（パートまたはアルバイト、非正規職員で2か所以上に勤務）</p> <p>4. 自営業・家業</p> <p>5. その他の就業形態</p> <p>6. 仕事を探している</p>	<p>7. 仕事を探していない</p> <p>① 家事や育児に専念したため</p> <p>② 学生のため</p> <p>③ おうちの人の介護や介助のため</p> <p>④ 病気療養のため</p> <p>⑤ 年金収入があるため</p> <p>⑥ 家賃収入、株式運用などの収入があるため</p> <p>⑦ その他</p>
--	--

かあ とう いがい しゅ かけい さき かた お母さん、お父さん以外に主として家計を支えている方（おばあさん、おじいさん、おじ、おば、親戚など）	
1. いる	2. いない



「1. いる」に回答された方は、次のあてはまる番号すべてに○をつけてください。

「7. 仕事を探していない」に○をつけた方は、仕事を探していない主な理由について①～⑦のあてはまる番号すべてに○をつけてください。

<p>1. 勤め（常勤・正規職員）</p> <p>2. 勤め（パートまたはアルバイト、非正規職員で1か所に勤務）</p> <p>3. 勤め（パートまたはアルバイト、非正規職員で2か所以上に勤務）</p> <p>4. 自営業・家業</p> <p>5. その他の就業形態</p> <p>6. 仕事を探している</p>	<p>7. 仕事を探していない</p> <p>① 家事や育児に専念したため</p> <p>② 学生のため</p> <p>③ おうちの人の介護や介助のため</p> <p>④ 病気療養のため</p> <p>⑤ 年金収入があるため</p> <p>⑥ 家賃収入、株式運用などの収入があるため</p> <p>⑦ その他</p>
--	--

問10 お子さんの保護者の方が家にいる時間帯で、多い時間帯を選んでください。（あてはまる番号1つに○をつけてください）

※保護者の方には、おばあさん、おじいさん、おじ、おばなど親戚を含みます。

※自宅が仕事場の場合は、お仕事が終わる時間帯を選んでください。

1. お子さんの学校からの帰宅時間には家にいる	4. お子さんが寝た後に帰ってくる
2. お子さんの夕食時間には家にいる	5. 帰宅時間が決まっていない
3. お子さんの寝る時間には家にいる	6. その他

問11 ご家庭ではどれくらい、日本語以外の言語を使用していますか。（あてはまる番号1つに○をつけてください）

1. 日本語のみを使用している
2. 日本語以外の言語も使用しているが、日本語の方が多い
3. 日本語以外の言語を使うことが多い

## お子さんに関することについておたずねします。

問12 あなたの世帯では、経済的な理由で、次のような経験をされたことがありますか。（おおむね1年の間でお考えください。）（あてはまる番号すべてに○をつけてください）

1. お子さんを医療機関に受診させることができなかった	9. お子さんを学習塾に通わせることができなかった
2. お子さんの進路を変更した	10. お子さんの誕生日を祝えなかった
3. お子さんのための本や絵本が買えなかった	11. お子さんにお年玉をあげることができなかった
4. お子さんにおこづかいを渡すことができなかった	12. お子さんの学校行事などに参加することができなかった
5. お子さんに新しい服や靴を買うことができなかった	13. 子ども会、地域の行事（祭りなど）の活動に参加することができなかった
6. お子さんを学校の遠足や修学旅行へ参加させることができなかった	14. 家族旅行（テーマパークなど日帰りのおでかけを含む）ができなかった
7. お子さんを習い事に通わすことができなかった	15. 1～14の項目には、どれにもあてはまらない
8. お子さんを学校のクラブ活動・部活動に参加させられなかった	

問13 あなたとお子さんとの関係について、次の項目でもっとも近いものを選んでください。

(1) あなたは、お子さんを信頼していますか。(あてはまる番号1つに○をつけてください)

1. とても信頼している	3. あまり信頼していない
2. 信頼している	4. 信頼していない

(2) あなたは、お子さんとよく会話をしますか。(あてはまる番号1つに○をつけてください)

1. よくする	3. あまりしない
2. する	4. しない

(3) あなたがお子さんと一緒に何かをしたり、相手をしたりしている時間は、1日あたり平均すると、だいたいどれくらいになりますか。(平日、休日それぞれについて、あてはまる番号1つに○をつけてください)

平日	休日
1. 0～15分未満	1. 2時間未満
2. 15分～30分未満	2. 2時間～4時間未満
3. 30分～1時間未満	3. 4時間～6時間未満
4. 1時間～2時間未満	4. 6時間～8時間未満
5. 2時間～3時間未満	5. 8時間～10時間未満
6. 3時間～4時間未満	6. 10時間以上
7. 4時間以上	

(4) あなたは、お子さんの将来に期待していますか。(あてはまる番号1つに○をつけてください)

1. とても期待している	3. あまり期待していない
2. 期待している	4. 期待していない

(5) お子さんの授業参観や運動会などの学校行事に参加していますか。(あてはまる番号1つに○をつけてください)

1. よく参加している	3. あまり参加していない
2. ときどき参加している	4. まったく参加していない

問14 あなたは、お子さんの進学について、どこまで希望されていますか。

(あてはまる番号1つに○をつけてください)

1. 中学校	4. 大学	7. 専門学校・高等専門学校
2. 高校	5. 大学院	8. 考えたことがない
3. 短期大学	6. 留学	9. わからない

問15 お子さんの通学状況について、もっとも近いもの1つに○をつけてください。

1. ほぼ毎日通っている
2. 欠席は年間30日未満である
3. 欠席が年間30日以上、60日未満である
4. 欠席が年間60日以上、1年未満である
5. 欠席が1年以上続いている
6. わからない

問16 子どもの居場所について、おたずねします。

(1) あなたのお子さんは、次のような「子どもの居場所」を利用したことがありますか。

(あてはまる番号1つに○をつけてください)

- ・自宅や学校以外の場所で、子どもたちが本を読んだり、みんなで遊んだりできるような場所
- ・子どもが無料又は低額で食事ができる場所（子ども食堂）
- ・自宅や学校、塾以外の場所で、無料でボランティアの方などが勉強を教える学習支援の場

1. 利用したことがある

2. 利用したことがない

(2) 前の質問で「1. 利用したことがある」と答えた方におたずねします。

お子さんが子どもの居場所を利用することで良いと思うことは何ですか。(あてはまる番号すべてに○をつけてください)

1. 地域の人とつながれるから

2. お子さんが一人でご飯を食べなくてすむから

3. 栄養バランスがとれた食事がとれるから

4. 運営者が相談に乗ってくれるから

5. 低額（または無料）でご飯が食べられるから

6. 宿題など勉強を見てくれるから

7. お子さんが楽しんでいるから

8. 特になし

9. その他

(3) 問16(1)の質問で「2. 利用したことがない」と答えた方におたずねします。

子どもの居場所を利用しないのはなぜですか。(あてはまる番号すべてに○をつけてください)

1. どこにあるか知らないから

2. 家の近く（小学校区内）にないから

3. 家で過ごしてほしいと思うから

4. 居場所のイメージがよくないから

5. お子さんが「行きたくない」と言っているから

6. 行きたい日・時間に開いていないから

7. 利用したいと思わないから

8. 何をしているかわからないから

9. その他

## あなたのことについておたずねします。

問17 初めて親となった年齢はいくつですか。(実子以外も含みます)

(あてはまる番号1つに○をつけてください)

1. 10代	3. 24～26歳	5. 31～34歳	7. 40歳以上
2. 20～23歳	4. 27～30歳	6. 35～39歳	

問18 次の①～⑦について、おうちの方を含め(お子さんは除く)、あなたを支えてくれて、手伝ってくれる人はいますか。(あてはまる番号1つに○をつけてください)

	いる	いない	わからない
① 心配ごとや悩みごとを親身になって聞いてくれる人	1	2	3
② あなたの気持ちを察して思いやってくれる人	1	2	3
③ 趣味や興味のあることを一緒に話して、気分転換させてくれる人	1	2	3
④ お子さんとの関わりについて、適切な助言をしてくれる人	1	2	3
⑤ お子さんの学びや遊びをゆたかにする情報を教えてくれる人 (運動や文化活動)	1	2	3
⑥ お子さんの体調が悪いとき、医療機関に連れて行ってくれる人	1	2	3
⑦ 留守を頼める人	1	2	3

問19 あなたが本当に困ったときや悩みがあるとき、相談相手や相談先はどこですか。

(あてはまる番号すべてに○をつけてください)

1. 配偶者・パートナー	9. 学童保育の指導員(※)
2. 自分の親	10. 地域の民生委員・児童委員
3. 配偶者・パートナーの親	11. 民間の支援団体・カウンセラー(電話相談含む)
4. きょうだい・その他の親戚	12. 医療機関の医師や看護師
5. 知人や友人	13. インターネットのサイトへの書き込み、SNSやLINEによる相談
6. 職場関係者	14. その他
7. 学校の先生やスクールカウンセラー、 スクールソーシャルワーカー	15. 相談できる相手がない
8. 公的機関や役所の相談員	

※「学童保育」とは、「放課後児童クラブ」、「いきいき放課後児童クラブ」、「留守家庭児童会(室)」、「学童クラブ」、「仲良しクラブ」も含みます。

問20 次のうち、身近にあるといいと思うことは何ですか。(あてはまる番号すべてに○をつけてください)

<p>1. 保護者どうして気軽に話せる場</p> <p>2. SNSなどのインターネットを通じて悩みごとを話せるコミュニティ</p> <p>3. 家事の援助が受けられること</p> <p>4. 支援制度など必要な情報を届けてくれること</p> <p>5. 困った時にご飯を無料または安価で自宅に届けてくれるサービス</p>	<p>6. お子さんが放課後や休日に勉強などができる場所を利用できること</p> <p>7. お子さんが無料で学習支援を受けられる場所</p> <p>8. お子さんや保護者が夕食を無料か安い料金で食べることができるところ(子ども食堂など)を利用できること</p>
---	---

問21 あなたの心の状態についておたずねします。

(1) 生活を楽していますか。(仕事や家事、育児など)

(あてはまる番号1つに○をつけてください)

1. とても楽しんでいる	3. あまり楽しんでいる	5. わからない
2. 楽しんでいる	4. 楽しんでいる	

(2) 将来に対して希望を持っていますか。(あてはまる番号1つに○をつけてください)

1. 希望が持てる	3. 希望が持てない
2. 希望が持てる時もあれば、持てないときもある	4. わからない

(3) ストレスを発散できるものがありますか。(あてはまる番号1つに○をつけてください)

1. ある	3. ない
2. ある時もあれば、ないときもある	4. わからない

(4) あなたは、ご自分が幸せだと思いますか。(あてはまる番号1つに○をつけてください)

1. とても幸せだと思う	4. 幸せだと思わない
2. 幸せだと思う	5. わからない
3. あまり幸せだと思わない	

とい  
問22 あなたは、自分の<sup>じぶん</sup>体<sup>からだ</sup>や<sup>きもち</sup>気持ちで<sup>き</sup>気になることはありますか。

(あてはまる<sup>ばんごう</sup>番号<sup>まる</sup>すべてに○をつけてください)

1. ねむれない	10. まわりが <sup>き</sup> 気になる
2. よく <sup>あたま</sup> 頭がいたくなる	11. やる <sup>き</sup> 気が <sup>お</sup> 起きない
3. <sup>は</sup> 歯がいたい	12. <sup>いらいら</sup> イライラする
4. <sup>ふあん</sup> 不安な <sup>きもち</sup> 気持ちになる	13. よく <sup>かた</sup> 肩がこる
5. ものを見 <sup>み</sup> づらい	14. よく <sup>こし</sup> 腰がいたくなる
6. <sup>き</sup> 聞こえにくい	15. とくに <sup>き</sup> 気になるところはない
7. よくおなかがいたくなる	16. その他 <sup>た</sup>
8. よくかぜをひく	17. わからない
9. よくかゆくなる	

<sup>こた</sup>答えたくない<sup>しつもん</sup>質問に<sup>こた</sup>答える<sup>ひつよう</sup>必要はありません。

<sup>こた</sup>答えに迷う<sup>まよ</sup>場合には、あなたの<sup>きもち</sup>気持ちや<sup>かんが</sup>考えにできるだけ<sup>ちか</sup>近いもの<sup>えら</sup>を選ぶようにしてください。

問23 あなたの世帯では、以下の支援制度をこれまでに利用したことがありますか。

(a～gそれぞれについて、1～3のあてはまる番号1つに○をつけてください)

また、「3 利用したことがない」場合、その理由は何ですか。(①～⑤のあてはまる番号1つに○をつけてください)

	a 就学援助 ※1	b 生活保護 ※2	c 生活困窮者の 自立支援相談窓口 ※3	d 児童扶養手当 ※4	e 母子家庭等就業・ 自立支援センター ※5	f 低所得の子育て世帯に対する子育て 世帯生活支援特別給付金 ※6	g 新型コロナウイルス感染症に伴う 生活福祉資金(貸付金) ※7
現在利用している	1	1	1	1	1	1	1
現在利用していないが、 以前利用したことがある	2	2	2	2	2	2	2
利用したことがない	3	3	3	3	3	3	3
制度の対象外 (収入などの条件を 満たさない) だと思 うから	①	①	①	①	①	①	①
利用はできるが、特に 利用したいと思わな かったから	②	②	②	②	②	②	②
利用したいが、今まで この支援制度を知ら なかったから	③	③	③	③	③	③	③
利用したいが、手続が わからなかったり、 利用しにくいから	④	④	④	④	④	④	④
それ以外の理由	⑤	⑤	⑤	⑤	⑤	⑤	⑤

①～⑤のあてはまるもの1つに○をつけてください  
3 ①～⑤のあてはまるもの1つに○をつけてください

(参考)

※1 就学援助：経済的理由により子どもの就学が困難な場合に、学用品費などを補助する制度。

- ※ 2 生活保護：病気や失業などにより生活費等に困り、他に方法がないときに一定の援助が受けられる制度。
- ※ 3 生活困窮者の自立支援相談窓口：お金、仕事、住宅など、様々な課題を抱えた生活に困窮する方のための相談窓口。専門の支援員が具体的な支援プランを作成し、課題の解決に向けた支援を行う。
- ※ 4 児童扶養手当：所得が一定水準以下のひとり親世帯の生活支援のための手当。（児童手当とは異なります。）
- ※ 5 母子家庭等就業・自立支援センター：ひとり親の方が、仕事探しに関する相談や講習を受けられる支援センター。養育費の取り決めなどに関する相談も受けることができる。
- ※ 6 低所得の子育て世帯に対する子育て世帯生活支援特別給付金：新型コロナウイルス感染症による影響が長期化する中で、低所得の子育て世帯（児童扶養手当受給者など）に対し子育て世帯生活支援特別給付金を支給する制度。
- ※ 7 新型コロナウイルス感染症に伴う生活福祉資金（貸付金）：新型コロナウイルス感染症の発生による休業や失業などにより、一時的又は継続的に収入減少した世帯を対象に、生活福祉資金貸付制度における生活支援費などを支給する制度。

## 世帯の経済状況についておたずねします。

問24 前年（2022年）のあなたの世帯の手取り収入の合計額は、およそいくらでしたか。

（あてはまる番号1つに○をつけてください）

※収入には、働いて得た給料だけでなく、株式配当や副収入を含めて合計してください。

税金や社会保険料を払ったあとの額でお答えください。

※また、公的な援助手当や養育費・仕送りを含んだ額でお答えください。

1. 50万円未満	12. 550～600万円未満	23. 1,200～1,300万円未満
2. 50～100万円未満	13. 600～650万円未満	24. 1,300～1,400万円未満
3. 100～150万円未満	14. 650～700万円未満	25. 1,400～1,500万円未満
4. 150～200万円未満	15. 700～750万円未満	26. 1,500～1,750万円未満
5. 200～250万円未満	16. 750～800万円未満	27. 1,750～2,000万円未満
6. 250～300万円未満	17. 800～850万円未満	28. 2,000～2,250万円未満
7. 300～350万円未満	18. 850～900万円未満	29. 2,250～2,500万円未満
8. 350～400万円未満	19. 900～950万円未満	30. 2,500～2,750万円未満
9. 400～450万円未満	20. 950～1,000万円未満	31. 2,750～3,000万円未満
10. 450～500万円未満	21. 1,000～1,100万円未満	32. 3,000万円以上
11. 500～550万円未満	22. 1,100～1,200万円未満	33. わからない

新型コロナウイルスの感染状況についておたずねします。

問25 この1年間でお子さんを含め、同居家族が新型コロナウイルスに感染したのべ回数を教えてください。(例：母 1回、長男 1回 ⇒ 2回とお答えください。)

回

問26 あなたの住居環境についておたずねします。

(1) あなたがお住まいの住居の間取りは、次のどれにあてはまりますか。(あてはまる番号1つに○をつけてください)

- |                        |                           |
|------------------------|---------------------------|
| 1. ワンルーム               | 3. 居室2部屋 (2K、2DK、2LDK)    |
| 2. 居室1部屋 (1K、1DK、1LDK) | 4. 居室3部屋 (3K、3DK、3LDK) 以上 |

(2) その住居には、何人でお住まいですか。(□に数字をお書きください。)

人

質問は以上です。調査にご協力いただきありがとうございました。

相談窓口のご案内

○生活困窮者自立支援相談窓口(大阪府)

[https://www.pref.osaka.lg.jp/shakaiengo/seikon\\_gaiyou/index.html#jiritu](https://www.pref.osaka.lg.jp/shakaiengo/seikon_gaiyou/index.html#jiritu)

○大阪府立母子・父子福祉センター(大阪府)

<https://osakafu-boshiren.jp/>

○子育てや親子関係の悩みについては

<家庭児童相談> (守口市)

TEL: 06-6992-1655

月曜日～金曜日: 9時～17時30分 (※祝日・年末年始を除く)

<親子のための相談LINE> (厚生労働省)

[https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage\\_29751.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_29751.html)

パソコン・スマートフォン・タブレット端末でも回答できます！

- WEBで回答された場合は、同封の調査票の返送は不要です。
- 携帯電話（ガラケー）では回答できませんのでご注意ください。

- ◆ スマートフォン・タブレット端末の場合は、カメラで次の二次元バーコードを読み取ってください。

[二次元バーコード]



- ◆ パソコンの場合は、次のURL（「https…」から始まるアドレス）を検索画面に手入力し、エンターキーを押してください。

[URL] <https://src.webcas.net/form/pub/src2/2700081>

- ◆ 最初の画面が表示されたら、次のIDを入力し、「次へ」ボタンを押し、ログインしてください。

◇ ID

※ IDは、個人を特定するものではありません。

- ◆ ログイン後は、質問の番号順に沿って回答してください。

子ども・保護者のみなさまに本調査にご協力いただきました。ご多忙の中快くお引き受けくださりご協力くださいましたことを、ここに厚くお礼申し上げます。

守口市子どもの生活に関する実態調査

令和6年3月

守口市

調査研究業務 受注者

公立大学法人大阪 大阪公立大学